



KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

Vol. 56, 2017

Kobe City Hospital Organization

神戸市立病院紀要

平成29年 第56巻

神戸市立医療センター中央市民病院
神戸市立医療センター西市民病院
神戸市立西神戸医療センター
先端医療振興財団

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

An Annual Review of
Medical Science and Practice

Kobe City Hospital Organization

EDITORIAL BOARD

Yasushi Naito, M.D., Chairman

Mutsushi Kawakita, M.D.

Takayuki Ishikawa, M.D.

Yutaka Furukawa, M.D.

Ichiro Nakamura, M.D.

Hiromi Tomioka, M.D.

Kousaku Matsubara, M.D.

Mitsugu Omasa, M.D.

Hisako Hashimoto, M.D.

巻頭の辞

神戸市立病院紀要第 56 巻が刊行の運びとなりました。昭和 36 年から半世紀以上に渡り続いてきた紀要は、神戸市民病院群の諸先輩達による大変な努力と業績の積み重ねや、人材育成なくしてはありえなかったことであり、あらためて敬意を表したいと思います。

平成 29 年度に神戸市民病院機構は独法化後 9 年目となり、大きな節目を迎えました。4 月はこれまで神戸市地域医療振興財団が運営していた西神戸医療センターが当機構に移管、11 月には先端医療センター病院が中央市民病院に統合され、12 月は神戸アイセンター病院が開院しました。市民のための医療をより豊かなものにし、また医療の偏在の無い誇れる地域医療体制を整えることができたものと考えています。

今後、臨床研究をより力強く推進していきますが、臨床研究推進は我々自身がより良い医療をつくり、実践していくための一つのアクションであり、志ある優秀な人材育成のカギでもあります。高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データを下に、盛んに臨床研究を行うことにより、医療水準を高く保ち、市民から信頼される市民病院となります。これらの医学医療の進歩への貢献、医療の質向上と、優秀な医療人の育成は当機構の重要な使命であると認識しています。

神戸市立病院紀要が今後も益々充実し、多くの情報や示唆を与え、職員間での情報共有の役割を担い、臨床研究と実践に寄与することを願っています。

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

理事長 橋本信夫

目 次

I. 総 説

- I. 1 気管挿管をめぐる最近の動向
……………神戸市立西神戸医療センター 院長 田 中 修…………… 1

II. 医療研究報告

- II. 1 ダナン産婦人科小児科病院における「体系的な新人教育プログラムの構築」
プロジェクト終了以降の変化
……………神戸市立医療センター西市民病院 看護部 新 田 和 子 他…………… 15

III. CPC 報告

- III. 1 CPC報告（2016年4月～2017年3月）（中央市民病院）…………… 21
III. 2 CPC報告（2016年4月～2017年3月）（西市民病院）…………… 45
III. 3 CPC報告（2016年4月～2017年3月）（西神戸医療センター）…………… 49

IV. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

- IV. 1 術前化学療法または化学放射線療法を施行された肺癌患者におけるPD-L1免疫染色強度、
腫瘍浸潤CD8陽性T細胞の治療前後変化と予後との関係
……………中央市民病院 呼吸器内科 藤 本 大 智…………… 61
- IV. 2 びまん性大細胞Bリンパ腫における診断時骨髄浸潤の評価方法としてのPCR法、
フローサイトメトリー法とPET/CTの比較：後ろ向きコホート研究
……………中央市民病院 血液内科 小 野 祐 一 郎…………… 61
- IV. 3 同種造血幹細胞移植後B細胞免疫再構築に関する前向き観察研究
……………中央市民病院 血液内科 下 村 良 充…………… 62
- IV. 4 同種造血幹細胞移植後骨髄好酸球増加が急性GVHDに与える影響についての検討
……………中央市民病院 血液内科 下 村 良 充…………… 62
- IV. 5 同種移植後SSc low CD45 dim細胞集団の予後に与える影響についての検討
……………中央市民病院 血液内科 下 村 良 充…………… 63
- IV. 6 同種移植の代替ドナーソースが予後に与える影響の検討
……………中央市民病院 血液内科 藤 本 亜 弓…………… 64
- IV. 7 転移乳癌患者におけるComputer-based Health Evaluation System (CHES) を用いた
HRQoL評価の有用性を検討するパイロット研究
……………中央市民病院 乳腺外科 木 川 雄 一 郎 他…………… 65

IV. 8	Feasibility of Early Postoperative Pleurodesis in The Treatment of Air Leak After Lobectomy	中央市民病院 呼吸器外科 坂之上 一 朗 他	66
IV. 9	Efficacy and safety of thoracoscopic pericardial window in patients with pericardial effusions: a single-center case series	中央市民病院 呼吸器外科 坂之上 一 朗	67
IV. 10	当院における過去10年間の子宮体癌再発症例についての検討	中央市民病院 産婦人科 林 信 孝	67
IV. 11	当院における中下咽頭表在癌の臨床的特徴・治療・合併症と治療成績・問題点について	中央市民病院 頭頸部外科 篠 原 尚 吾	69
IV. 12	ASA-PSによる全身状態のスコアが甲状腺全摘後の総生存率に及ぼす影響について	中央市民病院 頭頸部外科 篠 原 尚 吾	70
IV. 13	声門癌再発に併発し、喉頭亜全摘術で制御可能であった喉頭デスモイドの1例	中央市民病院 頭頸部外科 篠 原 尚 吾	70
IV. 14	肺腫瘍血栓性微小血管症 (PTTM) による呼吸不全のため急激に死の転機をたどった舌下腺腺様嚢胞癌症例	中央市民病院 頭頸部外科 林 一 樹 他	71
IV. 15	ひとたび寛解したものの9年後に肺転移巣で死の転帰をたどった甲状腺未分化癌の症例	中央市民病院 頭頸部外科 林 一 樹 他	72
IV. 16	Clinicopathological features of intravascular large cell lymphoma: immunohistochemical analysis of adhesion molecule	中央市民病院 病理診断科 藤 倉 航 平	72
IV. 17	Long-term outcomes of salvage radiation therapy for prostate specific antigen relapse after radical prostatectomy	中央市民病院 放射線治療科 小 坂 恭 弘 他	73
IV. 18	頭頸部原発悪性腫瘍に対する放射線治療の予測困難な中断原因	中央市民病院 放射線治療科 小 坂 恭 弘 他	74
IV. 19	肝臓癌に対する定位放射線治療でのDose-Volumeパラメータと晩期肝機能障害との関係	中央市民病院 放射線治療科 植 木 一 仁	74
IV. 20	日本人進行再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態の個体間変動	中央市民病院 薬剤部 平 島 正 樹	76
(2) 松本アレルギー疾患研究事業			
IV. 21	小児における安全で効果的な環境アレルゲン皮下免疫療法の普及	中央市民病院 小児科 田 中 裕 也	78

IV. 22	アニサキスによる遅発性アナフィラキシーの1例中央市民病院 救急科 小 森 大 輝.....	78
IV. 23	シリコンバック破損により発症したヒトアジュバント病の検討中央市民病院 総合内科 水 野 泰 志.....	79
IV. 24	難治性強膜炎合併再発性多発軟骨炎におけるトシリズマブの使用経験中央市民病院 総合内科 志 水 隼 人.....	79
IV. 25	アレルギー疾患に対し安定した医療を提供するためのクリニカルパスの使用中央市民病院 看護部3西病棟 櫻 井 明 弓 他.....	80
(3) 医学振興事業		
IV. 26	中枢神経悪性リンパ腫におけるJAK-STAT阻害薬による新たな治療法の開発西神戸医療センター 脳神経外科 西 原 賢 在.....	82
V.	病院別診療科別論文発表及び学会報告数	83
VI. 論文発表		
VI. 1	中央市民病院	85
VI. 2	西市民病院	106
VI. 3	西神戸医療センター	110
VI. 4	先端医療センター	116
VII. 学会報告		
VII. 1	中央市民病院	121
VII. 2	西市民病院	199
VII. 3	西神戸医療センター	209
VII. 4	先端医療センター	224

I. 総

説

I. 総説

I. 1 気管挿管をめぐる最近の動向

田中 修

神戸市立西神戸医療センター 院長

要旨

長期に渡る対策が功を奏し、手術室での気道トラブルは減少した。しかし、手術室外においては未だ課題が多い。そこで、気管挿管をめぐる最近の文献を調査し、現状と動向を概説する。集中治療室での気管挿管には、MACOCHA スコアや気管挿管バンドルの使用が勧められている。呼吸不全患者の挿管前の酸素化（前酸素化）には非侵襲的陽圧換気が有効で、挿管操作中は無呼吸酸素化が推奨される。ビデオ喉頭鏡は声門部の視認性に優れ、小型化、低価格化により普及しているが、各医療現場では適正使用に向けた教育が重要である。上気道エコーによる気管チューブの位置確認は感度、特異度共に高く、習得も容易なため普及が望まれる。困難気道管理ガイドラインの登場により、アルゴリズムに沿った気道管理が実施されている。医療従事者は、“cannot intubate and cannot oxygenate” (CICO) シナリオを念頭に置き、的確に対処できなければならない。

キーワード：気管挿管、ビデオ喉頭鏡、上気道エコー、無呼吸酸素化、困難気道

(神戸市立病院紀要 56 : 1 - 13, 2017)

Recent trends in tracheal intubation

Osamu Tanaka

Director, Kobe City Nishi-Kobe Medical Center, Kobe, Japan

Abstract

Continuous efforts have decreased the incidence of serious airway complications in the operating room, but it remains high for tracheal intubation out-of-operation room. To reduce prevent life-threatening complications following tracheal intubation, pre-oxygenation techniques and intubation algorithms have been developed. The MACOCHA score (Mallampati III or IV, obstructive apnea syndrome, cervical spine limitation, mouth opening less than 3 cm, coma, hypoxemia, non-anesthesiologist) can identify patients at risk of difficult intubation and prepare for a difficult airway scenario in the intensive care unit. Non-invasive positive pressure ventilation (NIPPV) is effective for pre-oxygenation in patients with respiratory failure. Adding apneic oxygenation to NIPPV is recommended during tracheal intubation, to prevent severe oxygen desaturation. Video laryngoscopy offers a superior view compared to conventional direct laryngoscopy. The improvement in portability and price reduction have spread the use of video laryngoscopy to assist tracheal intubation, training programs for its proper use may be needed. Ultrasonographic scanning of the neck at the level of suprasternal notch can assess tracheal tube position and detect esophageal intubation with very high specificity and sensitivity. Widespread availability of ultrasonography in emergency medical field may facilitate upper airway ultrasound scan to become the first-line non-invasive airway assessment method. Tracheal intubation should be properly performed following the emergency algorithm proposed by recently formulated guidelines for difficult airway management, with recognition of “cannot intubate and cannot oxygenate (CICO)” .

Key words: tracheal intubation, video laryngoscopy , upper airway ultrasound, apneic oxygenation, difficult airway

(Kobe City Hosp Bull 56 : 1 - 13, 2017)

はじめに

1990年、米国の麻酔関連訴訟の調査で、死亡や脳死に至った原因は気道トラブルが大半であったと報告され、それを契機に安全な気道管理に向けた取り組みが加速した。米国麻酔科学会が1993年に「困難気道管理に関する診療ガイドライン」を発表し、麻酔科医はアルゴリズムに沿って気道管理ができるようになった¹⁾。また、シミュレータでのトレーニング、困難気道の術前チェックリスト、パルスオキシメータとカプノグラムの完備、声門上器具やビデオ喉頭鏡の開発など、多くの安全対策が施されてきた。以上の対策が効を奏し、手術室では気道確保に起因する致死の有害事象は減少した。しかし、手術室外の気管挿管では、施行者の習熟度、患者の状態、医療環境などに問題があり、安全な気道確保に向けて多くの研究がなされている²⁾。本稿では、気管挿管をめぐる最近の文献を調査し、現状と動向を概説する。

I. 集中治療室における気管挿管の危険性

集中治療室では患者の容態が不安定なため、気管挿管時に重篤な合併症が発生しやすく、死亡率も高い。気管挿管に伴う陽圧換気が心血管虚脱を誘発するため、陽圧の強さと挿管操作の回数が危険因子となる。そのため、挿管困難であれば死亡のリスクが高くなる³⁾。Jaberらの報告によると、28%の症例で重篤な合併症が発生しており、急性呼吸不全とショックが危険因子であった⁴⁾。Mortの報告では、気管挿管中に2%の患者が心停止をきたしている。そのうちの83%で酸素飽和度 (SpO₂) が70%以下に低下し、63%で食道挿管、67%で胃液の逆流を認めている⁵⁾。最近の多施設観察研究では、重篤な心血管虚脱が29.8%に発生し、危険因子として高齢、急性呼吸不全があげられている⁶⁾。挿管操作の回数と合併症との関係を調査した研究では、約10%の症例が3回以上の挿管操作を受けており、手術室よりも挿管困難が多いことを示している⁷⁾。そして、これらの症例では低酸素血症、食道挿管、胃液の逆流、誤嚥、徐脈、心停止など、重篤な合併症が多く発生している⁷⁾。特に肥満患者については、手術室での挿管と比較して挿管困難の頻度が約2倍、重篤な合併症の発生率は約20倍と報告されている⁸⁾。Mosierらは気管挿管のリスクを高める状態として、低酸素血症、低血圧、重度の代謝性アシドーシス、右心不全を指摘し、これらを生理学的困難気道と命名して注意を促している⁹⁾。集中治療室での安全な気管挿管のために、挿管難易度を予測する

MACOCHAスコア (表1) の使用や気管挿管バンドル (表2) に沿った気道管理が勧められている^{10,11)}。

表1 MACOCHA score calculation worksheet¹⁰⁾

Points	
Factors related to patient	
Mallampati score III or IV	5
Obstructive sleep apnea syndrome	2
Reduced mobility of cervical spine	1
Limited mouth opening < 3 cm	1
Factors related to pathology	
Coma	1
Severe hypoxemia (< 80 %)	1
Factor related to operator	
Non-anesthesiologist	1
Total	12

Coded from 0 to 12, 0 = easy, 12 = very difficult

表2 Intubation care bundle management¹¹⁾

PRE-INTUBATION	
1. Presence of two operators	
2. Fluid loading (isotonic saline 500 ml or starch 250 ml) in absence of cardiogenic edema	
3. Preparation of long-term sedation	
4. Pre-oxygenate for 3 min with NIPPV in case of acute respiratory failure (FiO ₂ 100 %, pressure support ventilation level between 5 and 15 cmH ₂ O to obtain an expiratory tidal volume between 6 and 8 ml/kg and PEEP of 5 cmH ₂ O)	
PER-INTUBATION	
5. Rapid sequence induction: etomidate 0.2–0.3 mg/kg or ketamine 1.5–3 mg/kg combined with succinylcholine 1–1.5 mg/kg in absence of allergy, hyperkalemia, severe acidosis, acute or chronic neuromuscular disease, burn patient for more than 48 h and medullar trauma	
6. Sellick maneuver	
POST-INTUBATION	
7. Immediate confirmation of tube placement by capnography	
8. Norepinephrine if diastolic blood pressure remains < 35 mmHg	
9. Initiate long-term sedation	
10. Initial 'protective ventilation': tidal volume 6–8 ml/kg, PEEP < 5 cmH ₂ O and respiratory rate between 10 and 20 cycles/min, FiO ₂ 100 % for a plateau pressure < 30 cmH ₂ O	

NIPPV non-invasive positive pressure ventilation, PEEP positive end expiratory pressure, FiO₂ inspired fraction of oxygen

II. 気管挿管時の酸素化

集中治療室での気管挿管の合併症は、挿管操作中の低酸素血症に起因するものが多い。動脈血酸素飽和度の70%以下への低下は、容態の悪化や死亡の原因となる⁵⁾。挿管操作中の低酸素血症を予防するには、前酸素化と無呼吸酸素化が有効である^{9,12)}。

1. 前酸素化

前酸素化の目的は、機能的残気量に存在する窒素を酸素に置き換え、体内の酸素貯蔵量を増加することにある。健康成人が100%酸素を3分間吸入すると、呼吸終末酸素濃度が90%に達し、無呼吸で約8分間90%以上の動脈血酸素飽和度を維持できる (無呼吸耐容時間)¹³⁾。しかし、貧血、代謝亢進、呼吸・循環不全、機能的残気量の減少のような状態では、無呼吸耐容時間が短縮する。例えば肥満患者では約2.7分間であ

る¹⁴⁾。有効な前酸素化には、 FiO_2 の上昇と機能的残気量の増加が必要である。一般の非再呼吸式リザーバマスクでは、酸素流量15L/分を投与しても FiO_2 は60~70%以上に達しない。30~60L/分では FiO_2 が90%付近に上昇するため、30L/分以上の高流量を投与するのが望ましい¹²⁾。3~4分間の酸素吸入によっても SpO_2 が93%以上に達しなければ、挿管操作中に低酸素血症をきたす可能性が高い¹⁵⁾。この場合、生理学的シャントの増加が原因であるため、機能的残気量を増加させる必要がある。具体的には、逆トレンデレンブルグ体位(約20°)で、5~10cmH₂Oの持続的気道陽圧(Continuous Positive Airway Pressure:CPAP)あるいは呼気終末陽圧(Positive End Expiratory Pressure:PEEP)併用のNIPPVを実施する^{16,17)}。また、60L/分のHigh flow nasal cannulae (HFNC)による前酸素化が有効であるとの報告があり¹⁸⁾、今後の検証が期待される。

2. 無呼吸酸素化

無呼吸酸素化は新しい概念でないが、近年になって興味深い臨床研究が報告されている。無呼吸の成人では、1分間に約250mlの酸素が肺胞から肺毛細血管に取り込まれ、8~10mlの二酸化炭素が肺胞に排出される。肺胞を出入りする気体容量の差により肺胞内に最大20 cmH₂Oの陰圧が発生し、咽頭から肺胞への気体の流れを生じさせる^{19,20)}。この現象は無呼吸酸素化

と呼ばれ、臨床的には脳死判定や気管支鏡の処置などで利用されている。無呼吸酸素化には、咽頭部の高濃度酸素と酸素が気管内に流入するための気道確保が必須である。

筋弛緩薬投与下での気管挿管では、挿管に手間取ると低酸素血症のリスクが増大する。そのため無呼吸耐容時間の短い患者では、挿管操作中の無呼吸酸素化が推奨されている。Weingartらは、15L/分の酸素を鼻カニューラから投与する方法を勧めている¹²⁾。この方法により挿管操作中の低酸素血症の発生率が対照群よりも6.1%減少したという報告もあるが²¹⁾、その後のランダム化比較試験では鼻カニューラ15L/分の有効性は証明されていない²²⁾。Heardらは、肥満患者において3.5mm Ring-Adair-Elwyn (RAE) チューブで口腔内に10L/分の酸素を投与し、 SpO_2 が95%以下になるまでの時間を検討した。対照群の296秒に対して、無呼吸酸素化群の多くが750秒を超え、経口的酸素投与による無呼吸酸素化の有用性が示された²³⁾。HFNCによる無呼吸酸素化についても検討されている。Miguel-Montanesらは、軽度~中等度の低酸素血症患者において60L/分のHFNCが挿管操作中の SpO_2 の低下を軽減したと報告しているが²⁴⁾、Vourc'hらによる同様の研究では有意差を認めていない²⁵⁾。困難気道が予測される症例に対して、Transnasal Humidified Rapid-Insufflation Ventilatory Exchange (THRIVE) (図1)で70L/分の酸素を持続投

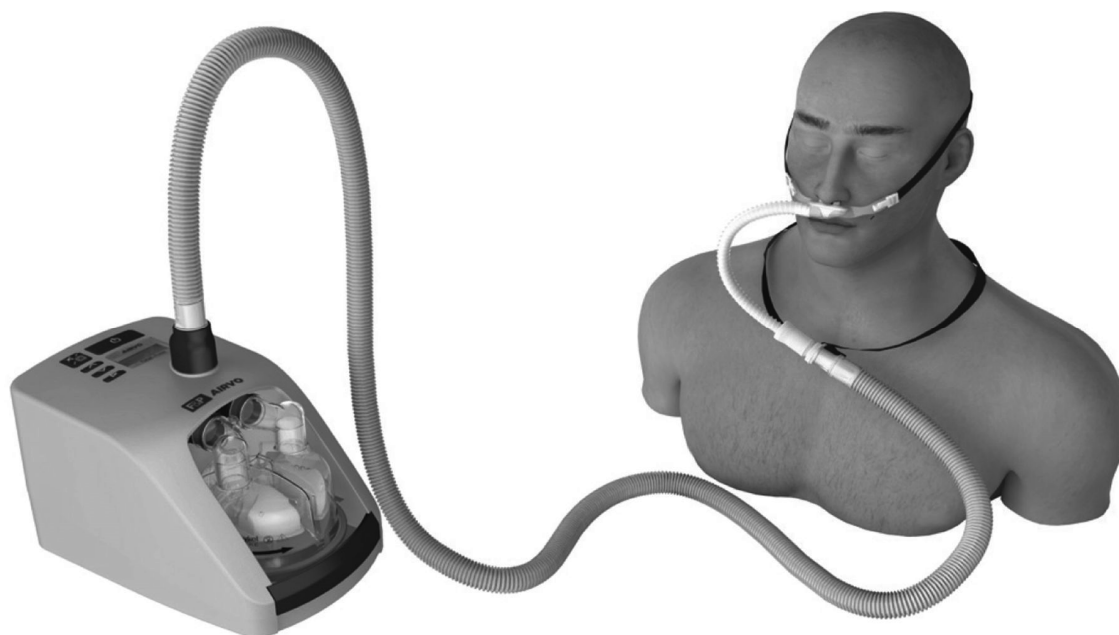


図1 Transnasal Humidified Rapid-Insufflation Ventilatory Exchange (THRIVE)

与した研究では、無呼吸時間の平均が約17分間に達したが、全症例で90%以上の酸素飽和度を維持し、高炭酸ガス血症による不整脈やその他の合併症を認めていない²⁶⁾。HFNCによる無呼吸酸素化には、CPAPによる酸素化の改善や死腔の減少による換気効果もあり、今後の臨床的検討が期待されている。手術室、集中治療室、救急外来、プレホスピタルの領域での無呼吸酸素化の利用を調べた記述レビューによると、無呼吸酸素化は鼻プロング、鼻咽頭カテーテル、気管内カテーテル、喉頭鏡の使用など様々な方法で実施されている。19件の研究のうち16件は無呼吸酸素化が無呼吸耐容時間を延長し、SpO₂の低下を抑制したと報告している。しかし、研究の大半は規模が小さく、有害事象を検出する証明能力のないものであった。また、長時間の無呼吸酸素化には高炭酸ガス血症をきたすリスクがあり、頭蓋内圧の上昇、代謝性アシドーシス、高カリウム血症、肺高血圧症などを合併している患者では避けるべきであると述べている²⁷⁾。

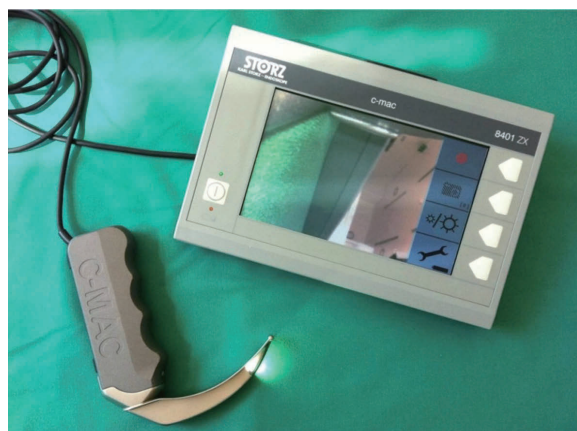
Ⅲ. ビデオ硬性挿管用喉頭鏡（ビデオ喉頭鏡）

30年前までの麻酔科医にとって、気道確保と酸素化の手段はバグマスクと直接喉頭鏡による気管挿管だけであった。しかし、現在ではいくつかの代替手段が出現している。LMA（laryngeal mask airway）を代表とする声門上器具、気管挿管用LMA、ゴムエラストックブジー、気管支ファイバースコープ、改良型

ブレード、ビデオ喉頭鏡などがあげられる。これらの器具のうち、1990年代後半に登場したビデオ喉頭鏡は、声門部の視認性に優れ、手技の習熟も容易であるため近年急速に普及している。マッキントッシュ型喉頭鏡では頭頸部をスニッフイングポジションに維持し、舌と軟部組織を牽引することで声門部が観察できる。視野の妨げになるのは視線よりも前方に位置する舌・下顎・喉頭蓋（前部障害物）と後方に位置する上顎の歯・上顎（後部障害物）である。後部障害物は頭部の後屈によって避けることができるが、前部障害物は時に視野の障害となる。以上の理由から頸部の可動域制限、開口障害、巨舌などが存在すればマッキントッシュ型喉頭鏡による喉頭展開は困難になる。喉頭鏡先端部にあるCCDカメラの映像をモニター画面で見ながら挿管するビデオ硬性挿管用喉頭鏡は、声門部の視認性が従来の直視型喉頭鏡に比べて格段に優れており、多くの医療現場でその有用性が評価されている。現在、次の3つのタイプが発売されている²⁸⁾。

マッキントッシュ型（図2）

マッキントッシュ型ブレードの先端部にカメラを搭載したタイプで、従来の直接喉頭鏡と同様の手技で挿管できる。C-MAC[®]（Karl Storz, Tuttlingen, Germany）と McGrath[®] MAC（Covidien, Mansfield, MA, USA）がある。



C-MAC



McGrath MAC

図2 Macintosh type video-laryngoscope

湾曲が強いブレード型（図3）

マッキントッシュ型ブレードの曲がりをもっと強くしたもので、不十分な頭頸位でも声門部が視認できる。口腔の正中方向に挿入するが、舌根部の圧排は行わない。ブレードの湾曲部が気管チューブを挿入する操作の妨げとなり、声門部が視認できていても気管チューブを気管

内に誘導できないことがある。このためスタイレットをブレードの湾曲に沿うような形に曲げておく必要がある。このタイプの喉頭鏡には、GlideScope®（Verathon Medical, Bothell, WA, USA）と C-MAC® D-BLADE（Karl Storz, Tuttlingen, Germany）およびMcGRATH® MAC X-BLADE（Covidien, Mansfield, MA, USA）がある。



Glidescope

McGRATH MAC X-Blade

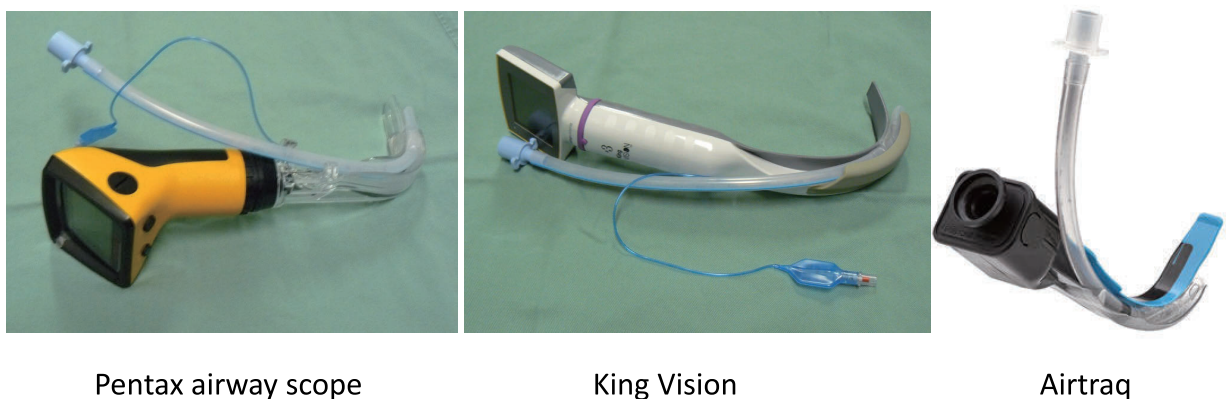
C-MAC D-Blade

図3 Angulated type video-laryngoscope

チューブチャンネル型（図4）

気管チューブを声門に誘導するガイドチャンネルを有したビデオ喉頭鏡である。あらかじめ気管チューブをガイドチャンネルに装着しておき、口腔の正中方向に挿入するが、舌根部の圧排は行わない。Airway Scope®（Hoya Corporation, Tokyo, Japan）とKing Vision®（King Systems; Noblesville, USA）そしてAirtraq®（Prodal, Meditec, Viczaya, Spain）が発売されている。King Vision®とAirtraq®は気管チューブが下方に進むた

め、ブレードの先端を喉頭蓋谷に置き、間接的に喉頭蓋を挙上する方法が推奨されている。一方Airway Scope®は気管チューブが上方に進むため、ブレードの先端で喉頭蓋を直接持ち上げて、モニター画面のターゲットマークに声門の中心を合わせる必要がある。チューブチャンネル型のビデオ喉頭鏡は、マッキントッシュ型喉頭鏡での経験の多寡に関係なく、短時間で習得できることが報告されている²⁹⁾。



Pentax airway scope

King Vision

Airtraq

図4 Tube channel type video-laryngoscope

1. 麻酔症例での検討

気管挿管の主な合併症として、挿管困難、食道挿管、誤嚥、気道損傷があげられる。特に“cannot ventilate and cannot intubate” (CVCI) あるいはCICOに陥ることが麻酔科医にとって最も深刻な状況である。その場合、同じ方法に固執すると重大な結果に繋がることを示されており、早急に他の方法へ変更することが推奨されている³⁰⁾。ビデオ喉頭鏡は喉頭展開が困難な麻酔症例においては、挿管の成功率、声門の視認性、挿管に要した時間、いずれも従来のマッキントッシュ型喉頭鏡よりも優れているとする報告が多い^{31,32)}。麻酔症例では施行者が気管挿管に熟練した麻酔科医であるため、ビデオ喉頭鏡の優位性は喉頭展開が難しい症例に限定されるようだ。

手術室外で緊急に気管挿管が必要な症例は、予定手術の患者よりも全身状態が悪く、挿管難易度の高い症例が多い(約10%)。ビデオ喉頭鏡の有用性については、手術室以外の医療現場においても検討されている。

2. プレホスピタルでの検討

プレホスピタルでは、スニッフィングポジションがとれない頸椎損傷の患者や口腔内に出血や胃内容物の逆流がある患者など、挿管困難が予測される場面が多い。また、施行者が麻酔科医のような挿管の熟練者でないという問題もある。ビデオ喉頭鏡は声門部の視認性に優れ、複数の者が気管チューブの声門通過をモニター画面で確認できるという利点がある。一方、分泌物や出血あるいは吐物でビデオ喉頭鏡のレンズが汚染されると却って気管挿管が困難になる。マッキントッシュ型のC-MAC[®]における研究では、気管挿管の成功率は100%で、99.1%が試行回数2回以内で成功している。また、声門の視認性は直視下よりもモニター画面が優れていたと報告されている³³⁾。McGRATH[®] MACを用いた麻酔科医による気管挿管では、初回成功率が80.8%、最終成功率が98.9%で直接喉頭鏡との差を認めなかったが、筋弛緩薬を使用したrapid sequence intubation (RSI)においては初回成功率が88.9%から94.4%と有意に改善した³⁴⁾。チューブチャンネル型のAirtraq[®]を用いた研究では、Airtraq[®]群の成功率が47%で、直接喉頭鏡の99%よりも低かった。失敗の原因は出血や吐物によるレンズ汚染、気管チューブの声門部への誘導困難などであった³⁵⁾。Wayneらは、GlideScope[®]と直接喉頭鏡を比較し、初回成功率、挿管に要した時間共にGlideScope[®]群が優れていたと報告している³⁶⁾。一方Trimmelらは、GlideScope[®]群の初

回成功率が61.7%で直接喉頭鏡群の96.2%より低かったことを示し、失敗の原因はAirtraq[®]と同様に、出血や吐物によるレンズ汚染、気管チューブの声門部への誘導困難などであったと報告している³⁷⁾。レンズ汚染が生じやすいプレホスピタルの気管挿管では、直視型喉頭鏡が有利な症例も多いことに留意する必要がある。

わが国で開発されたAirway Scope[®]の研究では、気管挿管の実施経験が全くない救急救命士でもAirway Scope[®]を用いることによって予定手術患者67例のうち65例で気管挿管に成功している(成功率97%)。これに基づいて平成23年8月1日付の『「救急救命士の気管内チューブによる気道確保の実施に係るメディカルコントロール体制の充実強化について」等の一部改正について』(消防救第217号・医政指発0801第3号)において、Airway Scope[®]の使用が承認されている³⁸⁾。

3. 救急外来での検討

救急外来での気管挿管は、施行者の習熟度や医療環境の面でプレホスピタルよりも安全性が高い。救急外来において、初回の挿管失敗に続く2回目の挿管では、C-MAC[®]群で成功率が82.3%、直接喉頭鏡群が61.7%とC-MAC[®]が優れていた³⁹⁾。喉頭展開困難のリスクを有する症例においても、ビデオ喉頭鏡の有用性が示されている⁴⁰⁾。しかし、シニアレジデントが施行したC-MAC[®]と直接喉頭鏡とのランダム化比較試験では、C-MAC[®]の優位性は証明されなかった⁴¹⁾。また、熟練の麻酔科医が施行したランダム化比較試験においても、C-MAC[®]と直接喉頭鏡とで初回成功率に差を認めなかった⁴²⁾。救急外来でのビデオ喉頭鏡の有用性については、施行者の習熟度が大きく影響する結果となっている。

4. 集中治療室での検討

既述のように、集中治療室での気管挿管は重篤な合併症をきたしやすい。また、非熟練医師が挿管することも多く、ビデオ喉頭鏡の効果が期待されている。観察研究ではあるが、ビデオ喉頭鏡と直接喉頭鏡との比較では、初回成功率で80.4%vs 65.4%、10%以上のSpO₂低下の発生率で18.3%vs 25.9%、食道挿管の発生率で2.1%vs 6.6%とビデオ喉頭鏡が成功率と合併症の発生率で優れていた⁴³⁾。GlideScope[®]と直接喉頭鏡を比較したランダム化試験では、初回成功率が74%vs 40%とGlideScope[®]群の方が有意に高かったが、合併症の発生率には差を認めなかった⁴⁴⁾。しかし、McGRATH[®] MACと直接喉頭鏡とのランダム化比較

試験では、初回成功率は67.7%vs 70.3%で有意差がなく、所要時間も両群共に3分（中央値）と差を認めなかったが、低酸素血症や心停止などの重篤な合併症の発生率は9.5%vs 2.8%とMcGRATH[®] MAC群で有意に高かった。合併症が多い理由は不明であるが、ビデオ喉頭鏡群では気管チューブの誘導に時間を要した症例が多いことや喉頭展開中の気道開通が不十分で早期に低酸素血症をきたした可能性が推測されている⁴⁵⁾。集中治療室において、ビデオ喉頭鏡による挿管失敗の原因は、血液の存在、気道の浮腫、肥満、頸部の非可動性などが指摘されている⁴⁶⁾。また、ビデオ喉頭鏡を使用した気管挿管において咽頭部の損傷が報告されており、気管チューブの口腔から咽頭部までの挿入は直视下で行うことが勧められている⁴⁷⁾。

5. 心肺蘇生での検討

GlideScope[®] と直接喉頭鏡を比較したランダム化試験では、初回成功率と挿管に要した時間に差を認めなかったが、心マッサージの中断時間はGlideScope[®] 群で有意に短く（0.0秒vs 4.0秒）、10秒以上中断した頻度も0.0%vs 26.1%とGlideScope[®] 群で有意に少なかった⁴⁸⁾。非熟練の施行者を対象とした研究では、GlideScope[®] と直接喉頭鏡を比較して、初回成功率は91.8%vs 55.9%、挿管に要した時間は37秒vs 62秒、心マッサージの中断時間は0秒vs 7秒とすべてにおいてGlideScope[®] 群が優れていた⁴⁹⁾。直接喉頭鏡での視野角は約15度であるが、ビデオ喉頭鏡は40~60度と格段に広いため、心マッサージ中でも声門の視認性が維持されやすいと推測される。

6. 個人防護具着用中での検討

レベルC個人防護服を着用した場合の研究を紹介する。すべてマネキン人形を使用した研究である。個人防護服を装着すると挿管に要する時間がAirway Scope[®] 群で14.2秒から18.2秒に増加し、直接喉頭鏡群では22.2秒から26.4秒に増加した。Airway Scope[®] 群では個人防護服の着用下でも、未着用の直接喉頭鏡群より容易に挿管できたと報告している⁵⁰⁾。非熟練の救急医療従事者を対象とし、GlideScope[®] とKing Vision[®] および直接喉頭鏡を比較した研究では、挿管に要した時間はGlideScope[®] 群で35.82秒、King Vision[®] 群で29.87秒、直接喉頭鏡群で25.69秒であり、有意差を認めなかった。使用満足度はチューブチャンネル型のKing Vision[®] 群が他の2群よりも高かった⁵¹⁾。レジデントが施行者となった研究では、挿管に要した時間はGlideScope[®] 群と

直接喉頭鏡群で差を認めなかったが、GlideScope[®] の容易性と直接喉頭鏡の実用性を指摘し、災害時には両方の手段が必要であるとしている⁵²⁾。

7. 意識下挿管での検討

Rosenstockらは、挿管困難が予想された症例において意識下経口挿管でMcGRATH[®] MACと気管支ファイバースコープを比較し、所要時間、初回成功率、施行者による難易度評価、患者の苦痛度が同等であったと報告している⁵³⁾。意識下経鼻挿管でのC-MAC[®] D-BLADEと気管支ファイバースコープの比較では、所要時間の中央値は38秒vs 94秒とC-MAC[®] D-BLADE群の方が短く、挿管の成功率、患者および施行者の満足度に差を認めなかった⁵⁴⁾。困難気道が予想される肥満患者での意識下経口挿管においても、GlideScope[®] 群と気管支ファイバースコープ群で所要時間、初回成功率、声門の視認性に差を認めていない⁵⁵⁾。意識下挿管におけるビデオ喉頭鏡の有用性は多くの研究で報告されており、気管支ファイバースコープの代替手段として期待されている。

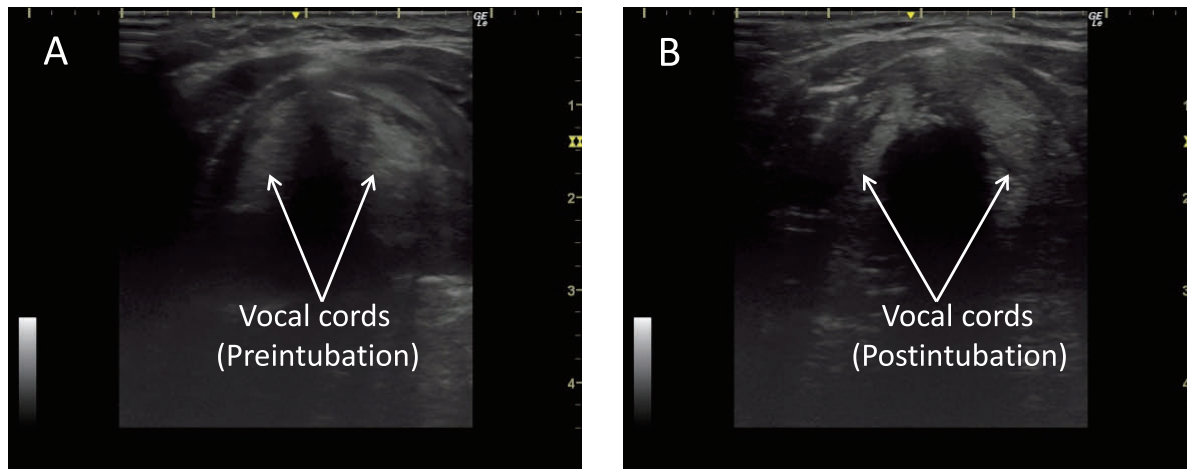
IV. 上気道エコー

近年、超音波機器の性能や携帯性が向上したこともあり、超音波検査が麻酔・集中治療領域に浸透している。気管挿管に關係する超音波検査では、挿管困難の予測や気管チューブの位置確認などが検討されている。Adhikariらは、甲状舌骨間膜部における皮膚-喉頭蓋間の距離が喉頭展開の難易度に關係するとし、カットオフ値が2.8cmであったと述べている⁵⁶⁾。Wojtczakは、肥満患者で舌骨-頤間の距離を頸部伸展位と頸部中間位で測定し、その比率が喉頭展開の困難な患者では有意に低かったと報告している⁵⁷⁾。超音波検査による挿管困難の予測については多くの研究がなされているが、ほとんどがパイロット研究であるため、系統的、大規模研究が望まれている。

気管挿管の確認はカプノグラフィーと聴診が標準である。しかし、心停止あるいは気管支収縮で呼吸中の炭酸ガスが明瞭に測定できない状況や、騒音あるいは心マッサージで聴診が困難な状況では超音波検査による位置確認が有用である。また胃充満でRSIを施行した際、食道に送気することなく確認できることも利点である。超音波検査では、気管チューブは深部に続く音響陰影を伴う高エコーラインとして確認できる。Abbasiらは、挿管時に輪状甲状膜部で声帯を描出してチューブの通過を確認する方法（図5に自験例での画

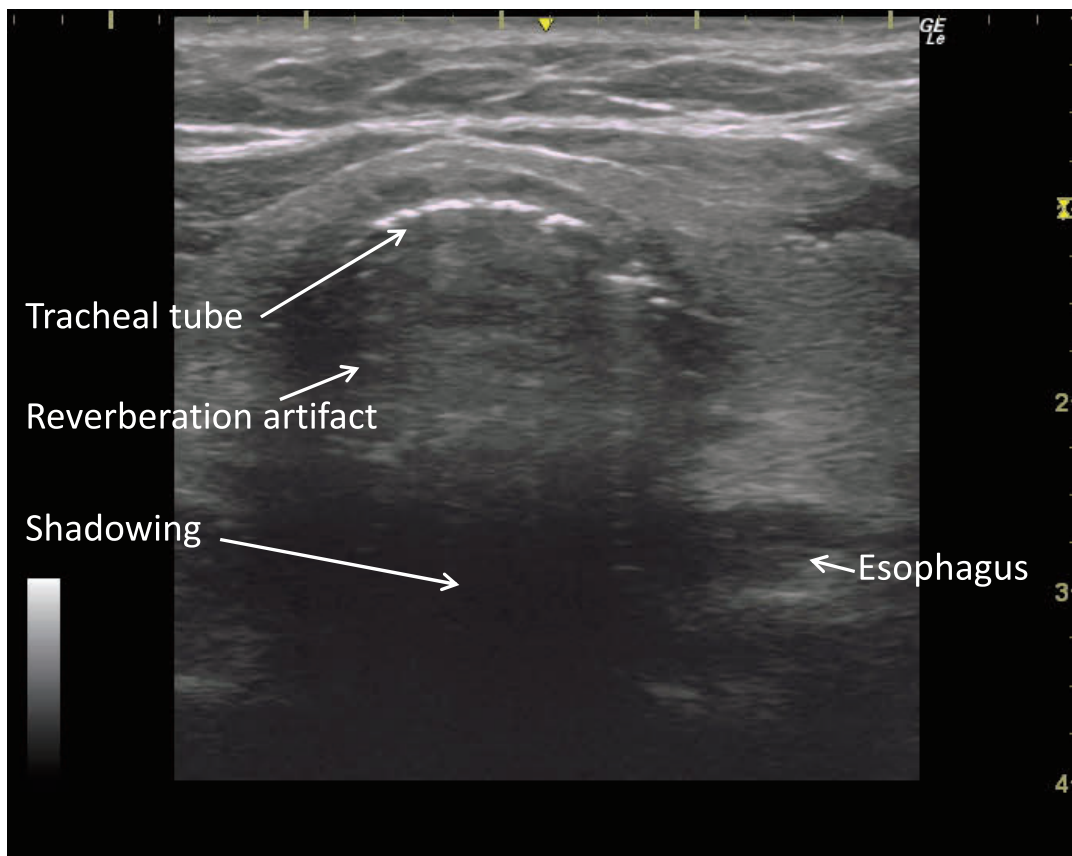
像を示す)と、胸骨切痕部で気管と食道を同時に描出して確認する方法(図6に自験例での画像を示す)の両方を用いた結果、気管挿管の検出感度が98.1%、特異度が100%、陽性的中率が100%、陰性的中率が

85.7%であったと報告している⁵⁸⁾。食道挿管は胸骨切痕部において“まるで2本の気管が存在するような所見(double tract sign)”で確認できる。



A : Transcricothyroid membrane ultrasound examination showing triangular appearance.
 B : Ultrasonography during endotracheal intubation as the endotracheal tube passes through the trachea, its triangular appearance changes to take on a round appearance.

図5 Triangular sign



Images are generated by placing a high-frequency linear transducer in the transverse position at the level of the suprasternal notch. Tracheal intubation is confirmed by visualizing a new hyperechoic structure with reverberation artifact and distal shadowing deep to the tracheal surface.

図6 An ultrasound image of tracheal intubation

また、肺が換気されると“臓側胸膜が呼吸運動で水平方向に動く所見（lung sliding）”（図7に自験例での画像を示す）が認められる。Parkらは救急外来での研究で、輪状甲状膜部でのチューブの通過と肺エコーでの“lung sliding”の両方を評価し、気管挿管の検出感度が96.3%、特異度が100%、陽性的中率が100%、陰性的中率が75%であったと報告している⁵⁹⁾。

超音波検査は迅速性、携帯性、非侵襲性、経済性、再現性において優れている。上気道エコーについては、現在多くの研究結果が集積されており、気道管理における標準的な診断手技になる日も近い。

V. 麻酔中の困難気道管理ガイドライン

米国麻酔科学会が1993年に「困難気道管理に関する診療ガイドライン」⁶⁰⁾を発表して以来、他の国々でも麻酔科学会が中心となって困難気道管理ガイドラインを作成している。気道確保中に換気不能・挿管不能（CVCI）あるいは挿管不能・酸素化不能（CICO）の状況に陥った際、患者を救済するためのシナリオが示されている。声門上器具による酸素化の試みと最終手段の外科的気道確保は共通しているが、途中のシナリオは各ガイドラインで異なっている。

1. 日本麻酔科学会：気道管理ガイドライン2014⁶¹⁾

カプノグラムの波形により換気状態を3区分に分けて評価することが特徴である。正常波形では換気正常な“グリーンゾーン”、第Ⅲ相が欠落している場合は換気が正常でない“イエローゾーン”、全く波形を認めない場合は換気が異常な“レッドゾーン”として対処する。グリーンゾーンではマスク換気を続けながら気道確保を試みる。イエローゾーンでは声門上器具を挿入して換気を試みる。レッドゾーンでは輪状甲状膜からの外科的気道確保が必要となる。酸素化については、逆トレンドレンプルグ体位やランプポジションの有効性が記載されている。また気管挿管や声門上器具については、同一施行者による操作あるいは同一器具を用いた操作を3回以上繰り返すことは上気道浮腫をきたす可能性があり、避けるべきであると述べている。

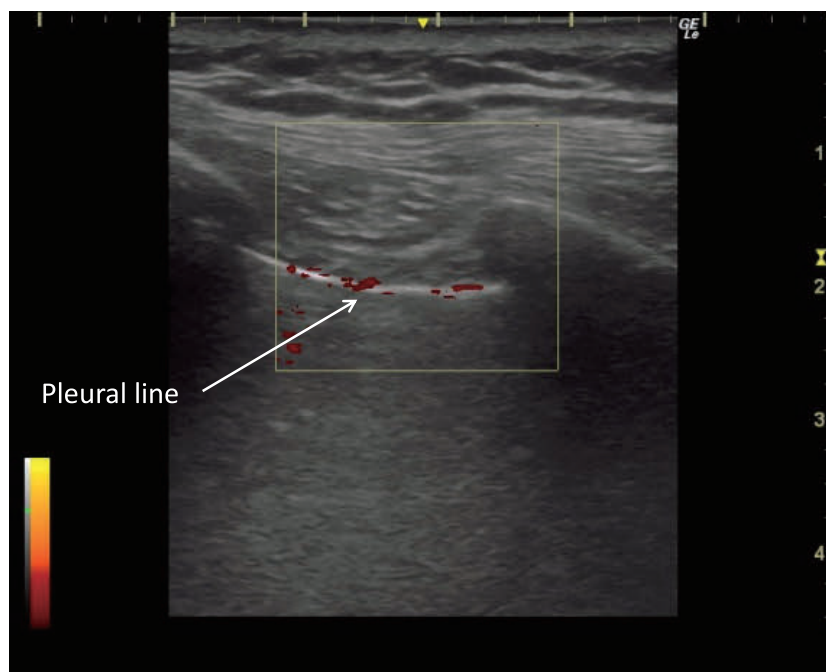
2. 米国麻酔科学会：困難気道管理に

関する診療ガイドライン2013⁶²⁾

見解に関してはエビデンスのレベルが詳細に記載されているが、酸素化や気道確保についての具体的な説明は少ない。今回の改定版では、ビデオ喉頭鏡の使用を初回から考慮することが示されている。

3. 英国Difficult Airway Society：予期せぬ挿管困難に対するガイドライン2015⁶³⁾

気道確保や酸素化について、最新の知見や詳細な説明が記載されている。プランAではマスク換気と気管挿管を試みる。挿管できなければプランBに移り、声門上器具による酸素化を試みる。プランBが成功しなければプランCに移り、2人がかりで再びマスク換気に挑戦する。プランCが成功しなければプランDに移り、輪状甲状膜切開を行う。気管挿管については、同一施行者の操作が最大3回と熟練者1回、声門上器具の挿入は最大3回に限られる。声門上器具は、i-gelTM（Intersurgical, Wokingham, UK）、ProsealTM LMA[®]（PLMA; Teleflex Medical Europe Ltd, Athlone, Ireland）、LMA SupremeTM（SLMA; Teleflex Medical Ltd, Athlone, Ireland）のいわゆる“第二世代声門上器具”の使用を勧告している。また、外科的気道確保では、セルジンガー穿刺型よりもメスによる切開を推奨しており、麻酔科医は輪状甲状膜切開の技能を習得しなければならないと述べている。



Ultrasound was performed with a transducer placed on the chest at the mid-axillary line, to identify lung sliding during ventilation. If there is lung sliding present, power Doppler will light up the sliding pleural line with color flow.

図7 Ultrasonographic imaging of the lung sliding

文 献

- 1) Peterson GN, Domino KB, Caplan RA, et al : Management of the difficult airway: a closed claims analysis. *Anesthesiology* 103 : 33-9, 2005
- 2) Mechlin MW, Hurford WE. Emergency tracheal intubation : techniques and outcomes. *Respir Care* 59 : 881-94, 2014
- 3) Jabre P, Avenel A, Combes X, et al: Morbidity related to emergency endotracheal intubation-a substudy of the KETamine SEDation trial. *Resuscitation* 82 : 517-522, 2011
- 4) Jaber S, Amraoui J, Lefrant JY, et al : Clinical practice and risk factors for immediate complications of endotracheal intubation in the Intensive Care Unit : A prospective, multiple-center study. *Crit Care Med* 34 : 2355-61, 2006
- 5) Mort TC : The incidence and risk factors for cardiac arrest during emergency tracheal intubation : a justification for incorporating the ASA Guidelines in the remote location. *J Clin Anesth* 16 : 508-16, 2004
- 6) Perbet S, De Jong A, Delmas J, et al : Incidence of and risk factors for severe cardiovascular collapse after endotracheal intubation in the ICU : A multicenter observational study. *Crit Care* 19 : 257, 2015
- 7) Mort TC Emergency tracheal intubation: Complications associated with repeated laryngoscopic attempts. *Anesth Analg* 99 : 607-13, 2004
- 8) De Jong A, Molinari N, Pouzeratte Y, et al : Difficult intubation in obese patients : incidence, risk factors, and complications in the operating theatre and in intensive care units. *Br J Anaesth* 114 : 297-306, 2015
- 9) Mosier JM, Joshi R, Hypes C, et al : The Physiologically Difficult Airway. *West J Emerg Med* 16 : 1109-17, 2015
- 10) De Jong A, Molinari N, Terzi N, et al : Early identification of patients at risk for difficult intubation in the Intensive Care Unit : Development and validation of the MACOCHA score in a multicenter cohort study. *Am J Respir Crit Care Med* 187 : 832-9, 2013
- 11) Jaber S, Jung B, Corne P, et al : An intervention to decrease complications related to endotracheal intubation in the Intensive Care Unit : A prospective, multiple-center study. *Intensive Care Med* 36 : 248-55, 2010
- 12) Weingart SD, Levitan RM : Preoxygenation and prevention of desaturation during emergency airway management. *Ann Emerg Med* 59 : 165-75, 2012
- 13) Nimmagadda U, Salem MR, Crystal GJ, et al : Preoxygenation : Physiologic Basis, Benefits, and Potential Risks. *Anesth Analg* 124 : 507-517, 2017
- 14) Benumof JL, Dagg R, Benumof R, et al : Critical hemoglobin desaturation will occur before return to an unparalyzed state following 1 mg/kg intravenous succinylcholine. *Anesthesiology* 87 : 979-982, 1997
- 15) Davis DP, Hwang JQ, Dunford J : Rate of decline in oxygen saturation at various pulse oximetry values with prehospital rapid sequence intubation. *Prehosp Emerg Care* 12 : 46-51, 2008
- 16) Cressey DM, Berthoud MC, Reilly CS : Effectiveness of continuous positive airway pressure to enhance preoxygenation in morbidly obese women. *Anaesthesia* 56 : 680-684, 2001
- 17) Baillard C, Fosse JP, Sebbane M, et al : Noninvasive ventilation improves preoxygenation before intubation of hypoxic patients. *Am J Respir Crit Care Med* 174 : 171-177, 2006
- 18) Miguel-Montanes R, Hajage D, Messika J, et al : Use of high-flow nasal cannula oxygen therapy to prevent desaturation during tracheal intubation of intensive care patients with mild-to-moderate hypoxemia. *Crit Care Med* 43 : 574-83, 2015
- 19) Frumin MJ, Epstein RM, Cohen G : Apneic oxygenation in man. *Anesthesiology* 20 : 789-98, 1959
- 20) Bartlett RG Jr, Brubach HF, Specht H : Demonstration of ventilatory mass flow during ventilation and apnea in man. *J Appl Physiol* 14 : 97-101, 1959
- 21) Wimalasena Y, Burns B, Reid C, et al : Apneic oxygenation was associated with decreased desaturation rates during rapid sequence intubation by an Australian helicopter emergency medicine service. *Ann Emerg Med* 65 : 371-376, 2015
- 22) Semler MW, Janz DR, Lentz RJ, et al : Randomized Trial of Apneic Oxygenation during Endotracheal Intubation of the Critically Ill. *Am J Respir Crit Care*

- Med 193 : 273-80, 2016
- 23) Heard A, Toner AJ, Evans JR, et al : Apneic Oxygenation During Prolonged Laryngoscopy in Obese Patients : A Randomized, Controlled Trial of Buccal RAE Tube Oxygen Administration. *Anesth Analg* 124 : 1162-1167, 2017
 - 24) Miguel-Montanes R, Hajage D, Messika J, et al : Use of high-flow nasal cannula oxygen therapy to prevent desaturation during tracheal intubation of intensive care patients with mild-to-moderate hypoxemia. *Crit Care Med* 43 : 574-83, 2015
 - 25) Vourc'h M, Asfar P, Volteau C, et al : High-flow nasal cannula oxygen during endotracheal intubation in hypoxemic patients : a randomized controlled clinical trial. *Intensive Care Med* 41 : 1538-48, 2015
 - 26) Patel A, Nouraei SA : Transnasal Humidified Rapid-Insufflation Ventilatory Exchange (THRIVE) : a physiological method of increasing apnoea time in patients with difficult airways. *Anaesthesia* 70 : 323-9, 2015
 - 27) Wong DT, Yee AJ, Leong SM, et al : The effectiveness of apneic oxygenation during tracheal intubation in various clinical settings : a narrative review. *Can J Anaesth* 64 : 416-427, 2017
 - 28) Paolini JB, Donati F, Drolet P : Review article : video-laryngoscopy : another tool for difficult intubation or a new paradigm in airway management? *Can J Anaesth* 60 : 184-91, 2013
 - 29) Baciarello M, Zasa M, Manferdini ME, et al : The learning curve for laryngoscopy : Airtraq versus Macintosh laryngoscopes. *J Anesth* 26 : 516-24, 2012
 - 30) Peterson GN, Domino KB, Caplan RA, et al : Management of the difficult airway : a closed claims analysis. *Anesthesiology* 103 : 33-9, 2005
 - 31) Malik MA, Subramaniam R, Maharaj CH, et al : Randomized controlled trial of the Pentax AWS, Glidescope, and Macintosh laryngoscopes in predicted difficult intubation. *Br J Anaesth* 103 : 761-8, 2009
 - 32) Jungbauer A, Schumann M, Brunkhorst V, et al : Expected difficult tracheal intubation : a prospective comparison of direct laryngoscopy and video laryngoscopy in 200 patients. *Br J Anaesth* 102 : 546-50, 2009
 - 33) Hossfeld B, Frey K, Doerges V, et al : Improvement in glottic visualisation by using the C-MAC PM video laryngoscope as a first-line device for out-of-hospital emergency tracheal intubation : An observational study. *Eur J Anaesthesiol* 32 : 425-31, 2015
 - 34) Rhode MG, Vandborg MP, Bladt V, et al : Video laryngoscopy in pre-hospital critical care - a quality improvement study. *Scand J Trauma Resusc Emerg Med* 24 : 84, 2016
 - 35) Trimmel H, Kreutziger J, Fertsak G, et al : Use of the Airtraq laryngoscope for emergency intubation in the prehospital setting : a randomized control trial. *Crit Care Med* 39 : 489-93, 2011
 - 36) Wayne MA, McDonnell M : Comparison of traditional versus video laryngoscopy in out-of-hospital tracheal intubation. *Prehosp Emerg Care* 14 : 278-82, 2010
 - 37) Trimmel H, Kreutziger J, Fitzka R, et al : Use of the GlideScope Ranger Video Laryngoscope for Emergency Intubation in the Prehospital Setting : A Randomized Control Trial. *Crit Care Med* 44 : e470-6, 2016
 - 38) 楠 真二, 谷川 攻一 : ビデオ喉頭鏡 - 病院前気管挿管の安全性と確実性の向上への期待 - . *救急救命*. 27 : 30-23, 2012
 - 39) Sakles JC, Mosier JM, Patanwala AE, et al : The C-MAC[®] video laryngoscope is superior to the direct laryngoscope for the rescue of failed first-attempt intubations in the emergency department. *J Emerg Med* 48 : 280-6, 2015
 - 40) Sakles JC, Patanwala AE, Mosier JM, et al : Comparison of video laryngoscopy to direct laryngoscopy for intubation of patients with difficult airway characteristics in the emergency department. *Intern Emerg Med* 9 : 93-8, 2014
 - 41) Driver BE, Prekker ME, Moore JC, et al : Direct Versus Video Laryngoscopy Using the C-MAC for Tracheal Intubation in the Emergency Department, a Randomized Controlled Trial. *Acad Emerg Med* 23 : 433-9, 2016
 - 42) Sulser S, Ubbmann D, Schlaepfer M, et al : C-MAC videolaryngoscope compared with direct laryngoscopy for rapid sequence intubation in an emergency department : A randomised clinical trial.

- Eur J Anaesthesiol 33 : 943-8, 2016
- 43) Hypes CD, Stolz U, Sakles JC, et al : Video Laryngoscopy Improves Odds of First-Attempt Success at Intubation in the Intensive Care Unit. A Propensity-matched Analysis. *Ann Am Thorac Soc* 13 : 382-90, 2016
 - 44) Silverberg MJ, Li N, Acquah SO, et al : Comparison of video laryngoscopy versus direct laryngoscopy during urgent endotracheal intubation : a randomized controlled trial. *Crit Care Med* 43 : 636-41, 2015
 - 45) Lascarrou JB, Boisrame-Helms J, Bailly A, et al : Video Laryngoscopy vs Direct Laryngoscopy on Successful First-Pass Orotracheal Intubation Among ICU Patients : A Randomized Clinical Trial. *JAMA* 317 : 483-493, 2017
 - 46) Joshi R, Hypes CD, Greenberg J, et al : Difficult Airway Characteristics Associated with First Attempt Failure at Intubation Using Video Laryngoscopy in the Intensive Care Unit. *Ann Am Thorac Soc* 14 : 368-375, 2016
 - 47) Nestler C, Reske AP, Reske AW, et al : Pharyngeal wall injury during videolaryngoscopy-assisted intubation. *Anesthesiology* 118 : 709, 2013
 - 48) Kim JW, Park SO, Lee KR, et al : Video laryngoscopy vs. direct laryngoscopy : Which should be chosen for endotracheal intubation during cardiopulmonary resuscitation? A prospective randomized controlled study of experienced intubators. *Resuscitation* 105 : 196-202, 2016
 - 49) Park SO, Kim JW, Na JH, et al : Video laryngoscopy improves the first-attempt success in endotracheal intubation during cardiopulmonary resuscitation among novice physicians. *Resuscitation* 89 : 188-94, 2015
 - 50) Shin DH, Choi PC, Na JU, et al : Utility of the Pentax-AWS in performing tracheal intubation while wearing chemical, biological, radiation and nuclear personal protective equipment : a randomised crossover trial using a manikin. *Emerg Med J* 30 : 527-31, 2013
 - 51) Yousif S, Machan JT, Alaska Y, et al : Airway Management in Disaster Response : A Manikin Study Comparing Direct and Video Laryngoscopy for Endotracheal Intubation by Prehospital Providers in Level C Personal Protective Equipment. *Prehosp Disaster Med* 32 : 352-356, 2017
 - 52) Aberle SJ, Sandefur BJ, Sunga KL, et al : Intubation Efficiency and Perceived Ease of Use of Video Laryngoscopy vs Direct Laryngoscopy While Wearing HazMat PPE : A Preliminary High-fidelity Mannequin Study. *Prehosp Disaster Med* 30 : 259-63, 2015
 - 53) Rosenstock CV, Thøgersen B, Afshari A, et al : Awake fiberoptic or awake video laryngoscopic tracheal intubation in patients with anticipated difficult airway management : a randomized clinical trial. *Anesthesiology* 116 : 1210-6, 2012
 - 54) Kramer A, Müller D, Pfortner R, et al : Fiberoptic vs videolaryngoscopic (C-MAC[®] D-BLADE) nasal awake intubation under local anaesthesia. *Anaesthesia* 70 : 400-6, 2015
 - 55) Abdellatif AA, Ali MA : GlideScope videolaryngoscope versus flexible fiberoptic bronchoscope for awake intubation of morbidly obese patient with predicted difficult intubation. *Middle East J Anaesthesiol* 22 : 385-92, 2014
 - 56) Adhikari S, Zeger W, Schmier C, et al : Pilot study to determine the utility of point-of-care ultrasound in the assessment of difficult laryngoscopy. *Acad Emerg Med* 18 : 754-8, 2011
 - 57) Wojtczak J A : Submandibular sonography : assessment of hyomental distances and ratio, tongue size, and floor of the mouth musculature using portable sonography. *Journal of Ultrasound in Medicine* 31 : 523-528, 2012
 - 58) Abbasi S, Farsi D, Zare MA, et al : Direct ultrasound methods : a confirmatory technique for proper endotracheal intubation in the emergency department. *European Journal of Emergency Medicine* 22 : 10-16, 2015
 - 59) Park SC, Ryu JH, Yeom SR, et al : Confirmation of endotracheal intubation by combined ultrasonographic methods in the emergency department. *Emergency Medicine Australasia* 21 : 293-297, 2009
 - 60) Practice guidelines for management of the difficult airway. A report by the American Society of Anesthesiologists Task Force on Management of the Difficult Airway. *Anesthesiology* 78 : 597-602, 1993
 - 61) JSA airway management guideline 2014 : to improve

- the safety of induction of anesthesia. *J Anesth* 28 : 482-93, 2014
- 62) Practice guidelines for management of the difficult airway : an updated report by the American Society of Anesthesiologists Task Force on Management of the Difficult Airway. *Anesthesiology* 118 : 251-70, 2013
- 63) Difficult Airway Society 2015 guidelines for management of unanticipated difficult intubation in adults. *Br J Anaesth* 115 : 827-48, 2015

II. 医 療 研 究 報 告

II. 医療研究報告

II. 1 ダナン産婦人科小児科病院における 「体系的な新人教育プログラムの構築」プロジェクト終了以降の変化

新田和子¹⁾ 山本和代²⁾ 竹橋美由紀³⁾ 濱本カナコ¹⁾

¹⁾ 神戸市立医療センター西市民病院看護部

²⁾ 法人本部経営企画室総務グループ

³⁾ 法人本部経営企画室

要 旨

神戸市立医療センター西市民病院は、神戸市看護大学と共に「病院内の体系的な看護師・助産師教育プログラム導入プロジェクト」に参画した。今回、我々は、プロジェクトで作成した研修プログラムの実施や研修の効果がどのような状況にあるかについて現地調査を行った。その結果、「プロジェクトを起点にして活動を広げている」、「組織の状況を鑑みながら変化させている」、「人を育てる苦勞を感じるようになってきている」、「モチベーションを維持する配慮をするようになった」、「変化が見えなくても踏みとどまっている」、「新しい知識に触れることで安心する」等の状況が見られた。また、彼らが「教える」姿勢から「育てる」姿勢に変化しつつあることが感じられ、更なる変化を遂げようとしていると考えられた。

キーワード：ベトナム、新人看護師教育、変化、価値観、行動

(神戸市立病院紀要 56：15－20, 2017)

The “building of” a systematic rookie training program which can be put in the Da Nang pediatric hospital of obstetrics and gynecology Change after a project end

Kazuko Nitta¹⁾, Kazuyo Yamamoto²⁾, Miyuki Takehashi³⁾, Kanako Hamamoto¹⁾

¹⁾ Department of Nursing, Kobe City Medical Center West Hospital

²⁾ Kobe City Hospital Organization General Affairs Section Manager

³⁾ Kobe City Hospital Organization Department Manager

Abstract

Kobe city medical center west hospital and Kobe City College of Nursing participated in "a project of introducing systematic educational program for nurses and midwives in the hospital". We conducted a field survey on the effect the training program had on nurses' awareness and behavior. As a result, we observed: expanded activities, starting of a new project, modification of the original project according to the situation of the organization, experiencing hardships during educating newcomers, difficulties in maintaining motivation for education, continued effort related to the project despite progress appeared minimal, relief through touching new knowledge. It appeared that their attitude was changing from training to educating and developing one.

Key words: Vietnam, Nurse rookie training, change, Sense of values, Behavior

(Kobe City Hosp Bull 56：15－20, 2017)

はじめに

神戸市立医療センター西市民病院（以下当院と略す）は、神戸市看護大学と共に「病院内の体系的な看護師・助産師教育プログラム導入プロジェクト」（以降プロジェクトと略す）に参画した。（詳しくは神戸市立病院紀要54巻を参照）ベトナム・ダナン市のダナン産婦人科小児科病院（以下ダナン病院と略す）における看護職の知識・技術の向上を主な目的としたプロジェクトで、「感染管理」「コミュニケーション」「フィジカルアセスメント」「がん看護」の知識や技術を普及するための新人教育研修プログラムが作成できた。また、看護師の実践や教育に対する意識の変化も見られた。

プログラム終了から2年が経過し、病院の置かれた状況は大きく変化していることが推測され、看護師もその変化の影響を受けていることが推察される。今回プロジェクトで作成した研修プログラム（以降プログラムと略す）の実施や研修の効果がどのような状況にあるかについて現地調査を行ったのでその結果を報告する。

I. 調査目的

現在、ダナン病院でプログラムの実施や研修の効果がどのような状況にあるかについて明らかにする。

II. 調査方法

方 法：ダナン病院施設視察及びプロジェクトに参加した病院管理者や看護師（以下研修生と略す）とのグループディスカッションとした。

期 間：2017年3月23日・24日の2日間

参加者：プロジェクトの参加メンバー38名（管理者2名・研修生36名）

- 手 順：①グループディスカッション内容を録音し逐語録を作成しデータとした。
②ダナン病院施設視察でプログラムの実施状況や研修の効果を参加者で出し合いながら、映像に収め、データとした。
③プログラムの実施状況や研修の効果に注目し、データの類似性を見ながらグループ化しテーマ化した。なお、分析のプロセスにおいては、内容の信頼性、妥当性の確保のため、メンバー同士で確認しながら進めた。

倫理的配慮:

- ①事前に、プロジェクトに参加した病院管理者か

ら病院長の許可を得、会議の冒頭、再度、参加者の承認を得、調査に臨んだ。

- ②ダナン病院やベトナムの文化に配慮し、データとして使うことを会の冒頭で、説明し了承を得た。
③グループディスカッションの最後で、再度、内容をデータとして扱いとめることの確認と了承を得た。
④答えが出てこない質問に関しては、翻訳による影響かを確認し、そうでなければ、無理に引き出そうとせず話題を変えるようにした。
⑤病院施設視察での写真撮影や患者への声かけは、ダナン病院の同行スタッフにその都度許可を得てから行った。
⑥病院施設視察の最後に、再度、見聞した内容をデータとして、報告書や業績にまとめることを許可いただいた。

なお、ベトナムでは契約書を交わす文化が十分浸透していないことから、組織の意向を確認し、口頭による説明と承認の形をとった。

III. 結果

5時間41分51秒のグループディスカッションと、半日の病院施設視察内容から、ダナン病院のプロジェクト後の変化として、【プロジェクトを起点にして活動を広げている】【組織の状況を鑑みながら変化させている】【「人を育てる」苦勞を感じるようになっていく】【モチベーションを維持する配慮をするようになった】【変化が見えなくても踏みとどまっている】【新しい知識に触れることで安心する】が見られた。以下に、各々の説明を、データを用いながら記す。

1. プロジェクトを起点にして活動を広げている

「感染管理」においてはプロジェクト途中から組織化が始まっていたが、終了後は、本格的に病院組織のチームとして横断的に活動を行っていた。プロジェクトに参加した研修生だけでなく、医師や他のメディカルスタッフもメンバーになり病院全体の感染対策についての管理を担っていた。看護師が、チームメンバーに研修を行い各職種への拡大を図っていた。手洗いの重要性や、行う意味、それによって感染症の発症率が低下することなどを繰り返し伝えながら、看護師に限らず、他職種に向けて、繰り返し発信し、根づかせている様子が伺えた。そのようなメディカルスタッフへの拡大の一方、患者や家

族に対する教育も着実に進んでいた。

手洗いのタイミングや洗い方のポスター（図1）が病棟内廊下の患者の目に着く所に張り出され、洗面の水受けに至っては、プロジェクト当初は、残飯が捨てられ不衛生な様子が見受けられたが、現在はそのような行為を禁止する張り紙が貼られ（図2）、



図1. 手洗いのタイミングベトナム語版

綺麗に使われるようになっていた。咳エチケットに関しても張られており（図3）、患者や家族への啓蒙・教育にまで活動を広げていた。

「コミュニケーション」は、患者との関係性構築の一役を担い、病院全体活動に拡大している。プロジェクト以降「お辞儀」の概念がないベトナムでコミュニケーションを意識づけるため、「笑顔」と「挨拶」を積極的に取り入れている様子が

語られた。病院施設視察においても変化が明確に表れていた。看護師や学生が病棟で、患者や家族と話をしている様子が見られ、ラウンドに同行する師長が、必ず患者や家族に声をかけていた。スタッフを見ると近づいてくる患者や家族が増え、その表情にも笑顔が増えていた。

また、当院におけるご意見箱を参考に、患者や家族の意見をノートでやり取りする仕組みも造られており活用されていた。さらにコミュニケーションから「患者満足」へ発展させ、椅子を並べ、診察の順番を待てる配慮も積極的になされており、プロジェクト以降、活動がさらなる活動に繋がっている様子



図2. 残飯を捨てないように啓蒙



図3. 咳エチケットベトナム語版

が伺えた。

一方、「フィジカルアセスメント」については、看護師が異常を発見する機会が増えるにつれ、看護師が「フィジカルアセスメント」できることの重要性の理解や、若手医師にも重要な知識であることの再認識につながった。医師と看護師が協働して教育を行う方向に変化してきている。医師と研修生だった看護師がペアを組み、各病棟に必要な医学的知識とその知識に基づいた看護の普及に努めている。疾患の知識は医師が、それに併せて看護に必要な事を看護師から教えるスタイルが強化されている。疾患に関係した子どもたちのケアの内容を考え、医師と看護師がセットで講義している。他にも、専門家グループを招いて最新知識の講義なども行われているということであった。

このように、病院の質が向上することで、上層部も「看護が医療の質の向上に寄与している」ことや「看護の役割が重要である」ことに対する理解を深め、さらに活動を推進し組織全体の変化に繋げていた。

2. 組織の状況を鑑みながら変化させている

プログラムは、プロジェクトで作成した内容のまままで3～4回行っており大きく変化していないが、業務の調整が難しく出席できない場合は、次の回で受けるようにして全員受講するなど、勤務状況に配慮している様子が伺えた。



図4. 交換時期を明確にするために色つきテープを使用する病棟の工夫

また、衛生的な環境を整える意味で、病棟では消毒薬が病室の入り口と各ベッドの足元に常時、設置されるようになった（図4）。洗剤などの空きボトルを使用している病棟も残っており、衛生面では十分とは言えないが、組織の許す範囲の中でできる努力をしていることが明らかになった。交換している確認が容易にできるようにボトルに色テープをはり

曜日ごとに色を決めている病棟もあり、感染管理の意味を考え、工夫していることが伺えた。分娩室においては、依然、複数の妊婦が同時に出産しているものの、助産師が産婦一人ずつに介助に着くように変化し、分娩室の清掃も、その都度なされるようになっていた。助産師が血液感染の媒体にならないことや血液汚染のリスクの低減化を意識し、最善ではなくても「できない」ではなく「今より善くなる」を旨として活動している様子が伺えた。

「コミュニケーション」においては、ベトナムと日本の文化の違いも影響していた。「お辞儀」の文化がないため、日本人が感謝や謝罪の際にお辞儀する様子を「誠意をみせるための行為」と捉えなおし、自国でできる行為に変換させ浸透を図っていた。特に相手に誠意を表すための工夫として『笑顔』と『挨拶』を取り入れ積極的に浸透を図っていることが語られた。日本で学んだことの根幹を理解し、その根幹を自組織で実現させるための努力を続けている様子が多く語られた。一方「患者満足」へ視点を変化させ取り組み、当院のご意見箱を参考に、患者の声を書くノートなどの仕組みも作っているように語られる一方、日本人のように「整然と並んで待つ」事が難しく苦闘している様子が語られた。待ち方を伝え診察の順番を待てる配慮として椅子を並べロープで順路を作るなどハード面は整えたが、根づいた行動を変容させるには至っていないことが語られた。

3. 「人を育てる」苦勞を感じるようになっていく

研修生は、それぞれの研修担当リーダーとして教育的役割を担い、リーダーを中心とする研修グループを作ることで、プログラムを伝承する仕組みと次なる指導者を育成することを継続的に行おうとしていた。そのプロセスにおいては、後輩が思うように育たないなど期待通りに育てることの難しさや教育に時間が思うように割けないなど思うようにできない事への葛藤も語られるようになり、「自分たちが行う」ことから「自分が行うように後輩が行える」へ価値が移行し、それを実現させる難しさを目の当たりにしていた。

感染管理においては、チームが病棟内をラウンドし手洗いのチェックなどを行っている。チームメンバーの目の前では手洗いをするが継続してくれているかについては不安であることを語り、評価をどのようにしていくかが難しいと語っていた。すでに、日本同様に抜き打ちチェックを行っており、やるべ

きことを続ける姿勢で続けている様子が伺えた。さらには、チェックリストの集計をメンバーで行う中では、他職種との調整にも苦勞する様子が語られた。

フィジカルアセスメントについては、ベトナムに根づいていない概念で、若手医師も習得に困難を要している状況があるとのことで、看護師がそれをできることを、当座の目標にしてトレーニングを続けている事が医師から語られた。

プロジェクト開始当初の研修生は、患者から選ばれることを価値と考え、個人の能力を他者に見せることに対し防衛していたが、現在では、組織全体が質の高い看護を提供できるためにどうするかという視点で奮闘している様子が伺えた。

4. モチベーションを維持する配慮をするようになった

プログラムの継続においては、学ぶ側や教える側の「モチベーション」が重要であることを理解し、それを維持するための方略を考え工夫している様子が伺えた。

学ぶ側のモチベーション維持として「報奨制度」を活用していた。プログラムを終えた新人看護師363名に対しテストを行い、上位55名を選抜し実技テストを行った。医師や研修担当者が評価し20名を選抜し報償を与え、その内上位10名は報償だけでなく、以降は研修担当者として参画できる特典が与えられていた。このような技術評価はベトナム全土でも行われているとのことで新人看護師のモチベーションの維持に貢献していた。

また、前述の患者からの声を集約するノートに寄せられる賞賛の言葉は、該当者に伝え、モチベーションのアップにつなげている。一方、厳しい評価に関しては、繰り返されるようであれば師長が面接し、行動変容を促すための指導がなされている状況であるとも語られた。

さらに、モチベーション維持のために、インターネットでの学習も取り入れ、知識を吸収しようとする姿勢が維持されている様子が伺えた。内容については、研修内容だけではなく新規開設事業（母乳教室など）の知識が主となっていた。さらに、外国から専門家を招きフォローを受けているとの報告が聴かれた。インターネットや他国の専門家を活用した学習を積極的に取り入れることで学ぶ意欲を維持する工夫をしている様子が伺え、積極的に質問されていた。実際に導入している中央市民病院での活用状況や業者などの情報、費用について伝え、自分達で

も作れることを伝え提案したが反応は薄く、労を少なく取り入れたい様子が伺えた。

5. 変化が見えなくても踏みとどまっている

変化が見える活動に重点が置かれ話が進んだが、プログラムについては、ほぼ同じ内容を3～4回行っているとのことで内容は変化しておらず、プログラム期間中に行われた「手洗いダンス」などの啓蒙活動については質問するまで触れられなかった。実際は、ビデオ撮影した映像は活用されているが、実際のダンスやデモンストレーションによるキャンペーンは年1回程度の開催に留まっているとのことであった。変化が見える活動に時間が割かれる一方、今まで行っていた活動は日常化し、周囲も「できて当たり前」「やって当たり前」の状況で、あまり意識に上らない様子であった。病院施設視察の様子からも、衛生的な環境や笑顔など変化したことが日常化し溶け込んでいる様子が伺えた。一方、日本の「順番待ち」を取り入れようと苦闘している様子は一生懸命語られていた。

がん看護の研修に関しては、施設の限界（病棟ができていない）があり十分できていない状況であると捉えられており、研修生には役に立ったが、まだ病院全体への還元には至っていないと評価されていた。しかしながら、病棟視察においての、がん患者に対するコミュニケーション場面をみると変化している様子が伺えた。プログラムができて終わりではなく、新しい効果が見られなくても継続する意味を頭の隅に留めながら、粛々と続ける様子が見られた。ただ「このまま続けていて良いのか?」「日本では研修内容や方法を変えているのではないか?」のような内容の質問も多く、「続ける」だけに対し不安がつきまとっている様子も伺えた。

6. 新しい知識に触れることで安心する

研修生は、「変化する」事にとっても敏感で、常に「自分の、今、やっていることが正しいのか否か」「今、やっていることは他と比較して遅れているのではないか」という疑問に揺さぶられている様子が語られた。前述の外国の支援者からフォローを受ける背景にも、そのような自信のなさが影響しており、新しい知識を得ることで自信を保っている様子が伺えた。

感染管理では、手洗いの重要性を体感しながらも、日本で使われている消毒スプレーに対するニー

ズや関心が高かった。基本の徹底を繰り返し伝え、納得はするものの、「スプレーをもつ」ことへのあこがれやこだわりが感じられる発言も聞かれた。また、フィジカルアセスメントにおいては、胃疾患に対する手術について質問を受けた。できるだけ傷を小さく患者の負担を減らす方法が検討され変化してきていることを伝えた。一方、看護としては、患者の安楽な療養と手術法の変化を鑑みて、看護ケアをどのように変化させるか考えて行動していることを伝えた。そのような話を聴くことで自分が手に入れた情報が正しく解釈できているか、間違っていないか確認する様子が見られた。

また、プログラム内容について、この2年で変化があるのか質問された。基本内容は変わっていない事と、新人の傾向によって教え方や強く伝えるポイントが変わっている事を伝えた。現在の日本の若者の特徴については想像を超える部分もある様子だったが、後輩の傾向が変化することに関しては首を振り納得されている様子が伺えた。このように、外国での看護の話を聴きながら、自分達の看護を振り返る様子が見られた。

病院施設視察においては、研修で扱った内容以外にも、自分達のやっているケアや管理方法、事業について説明を受ける場面が見られた。当院で見学した際、印象に残った「分類」を意識し、空き箱にテープで色分けし工夫している様子（図5）が語られ、承認することで安堵されている様子が伺えた。また、ダンナでの褥婦ケアの栄養指導について説明され、日本でのあり方を質問され、主治医、栄養士、看護師の連携について説明することで、同じであることに納得されていた。



図5. 安全を重視し薬品を色で分類、整理する病棟の工夫

さらには、日本にはない“MilkBank”（母乳の出ないお母さんのために他のお母さんの母乳をもらう

ボランティア活動の拠点（図6）が設立されたことを説明され、日本にはない事を伝えると驚かれる場面も見られた。



図6. 新たに立ち上げた“Milk Bank”の外観

研修生は、日本の看護と同じである事に安堵しつつ、日本では行われていない事で「自分たちしかやっていない」事に自信を深め、次に向かう推進力にしている様子が伺えた。

IV. 考察

プログラム終了から2年が経過し、当時と比較すると多少力の入れ方が変化している感は否めない。しかし、ベトナムの国自体が変革に向けて大きく動いており、ダナン病院においても、新規事業を多数立ち上げていかなければならない状況を考慮すると、プログラムを維持しながら自組織の文化に融合させようと努力しているだけでも大きな変化と考えるとよいのではないだろうか。

特に、プログラムの過程で『自分を優位に見せるための技術や知識』から『患者ケアの質の向上ができてこそ、後輩に伝承されてこそその技術や知識』に覆した価値観は、2年たった今、研修生たちの確固たる信念にまで根づいており、組織集団の発展に大きく寄与する根幹となっていると考えられた。レヴィン¹⁾は、教育には環境が大きく影響すると述べているが、このような価値観の変化は人的環境の変化に不可欠であり、人的環境が教育的に変化することは教育を促進させる大きな促進力になる変化であると言える。

一方で、研修を維持する事で病棟の看護の質を上げる事や、持っている知識を用いて病棟の改善など

に努める上で「後輩を育てる苦悩」や「思うように事を進めるための苦労」の語りが増えていた。自分が盛りたて相手を進ませる視点への転換の難しさを体験していることの表れとして注目すべきことであろう。「知識を伝承する」価値は理解できたが「人を育てる姿勢」と関連づけるには、更なる支援が必要と考えられる。現段階では、自分が教えることが精一杯であり「自分と同じ」にコピーすることに重点が置かれ、教育本来の「相手の良さを伸ばしてアレンジする」視点までは至っていない。そこには、個人の知識は財産というベトナムの思考も未だ大きく影響していると推察される。認知は行動を変化させるための重要な要素であり、変化させることが難しいと言われていることを考えると、行動変容に至らしめるためには、認知の変化に向けたサポートが必要であろう。「教える」から「育てる」姿勢に変化させるためには、先輩の自信は不可欠な要素であり、研修生たちは、他国からのサポートや承認によって自信を深めている事が推察された。学習を進める要素に「安心感」や「自信」は重要な要素であり、研修生自らが安心し自信を深めることで、相手の違いを受け止めることができるようになると考えられた。

V. 結論

今回の調査では、プログラム内容そのものに大きな変化は見られなかった。しかしながら「プロジェクトを起点にして活動を広げている」、「組織の状況を鑑みながら変化させている」、「人を育てる苦勞を感じるようになってきている」、「モチベーションを維持する配慮をするようになった」、「変化が見えなくても踏みとどまっている」、「新しい知識に触れることで安心する」等の変化を通して、自国の看護にあわせたプログラムにするべく、今までの変化を維持している様子が明らかになった。

また「教える」から「育てる」への視点の変化も芽吹いており、更なる変化への糸口が見られた。

文献

1) クルト・レヴィン著、猪俣佐登留訳：社会科学における場の理論 増補版、誠信書房、東京、1979

(受付 2017年10月3日、採択 2017年12月19日)

Ⅲ. C P C 報 告

Ⅲ. CPC報告

Ⅲ. 1 CPC報告 (2016年4月~2017年3月) (中央市民病院)

第1回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：透析中に原因不明のショックを来した一例

2. 診療科、主治医・受持医：総合内科 守山祐樹

3. CPC開催日：平成28年4月20日

4. 発表者：臨床側 (河野裕之、守山祐樹)
病理科 (藤倉航平、上原慶一郎)

5. 患者：77歳、男性

6. 臨床診断：ショック

7. 剖検診断：アミロイドーシス

8. 臨床情報：

1) 主訴：血圧低下、食欲低下、酸素化低下

現病歴：糸球体腎炎に対して30年来の透析歴あり。

1年前からITPに対してPSL 0.35mg/kg投与されており、漸減していた。

入院20日前に食欲低下 (普段の5割)。

12日前にITPに対するプレドニゾロンを中止した。4、5日前に普段の1割しか食べられなくなった。入院当日に透析後

に収縮期血圧が60-70程度になる血圧低下があり、酸素化低下 (SpO₂ 68%) を認め、当院へ救急搬送となった。

2) 既往歴

慢性糸球体腎炎、縦隔Seminoma手術、Paget病手術、左、右手根管症候群手術、特発性血小板減少性紫斑病、閉塞性動脈硬化症、甲状腺機能低下症、重症三尖弁閉鎖不全症

内服薬：ランソプラゾール15mg、エルトロンボパグ25mg、アスピリン100mg、レボチロキシシン75μg、アトルバスタチン10mg、シナカルセト25mg、ドンペリドン10mg、葉酸2錠、ピフィズス菌、サルポグレラート100mg、カサンスラノール配合錠、アメジニウム10mg

生活歴：Never smoker, 機会飲酒。妻と二人暮らしでADLは軽介助を要する。先行感染なく、sick contactなし

3) 診察所見

血圧 99/37mmHg (普段のsBPは100前後で除水後は80mmHg)、心拍数 101/分 (整) SpO₂ 88%

(RA), 呼吸数 20/分、体温 36.6°C, E4V5M6

左前腕にシヤントあり。CRT 4秒。心音：雑音無し。呼吸音：両下肺にcoarse crackle聴取。下腿浮腫あり

4) 検査所見

WBC : 7.2×10³/μL, Hb : 10.3 g/dL, MCV : 93 fL, PLT : 21.5×10⁴/μL, TP : 6.4 g/dL, ALB : 3.3 g/dL, T-Bil : 0.6 mg/dL, AST : 24 IU/L, ALT : 8 IU/L, LDH : 296 IU/L, CK : 44 IU/L, 尿素窒素 : 16.8mg/dL, クレアチニン : 3.24 mg/dL, Na : 139 mEq/L, K : 3.9 mEq/L, Glu : 74 mg/dL, CRP : 0.69 mg/dL, BNP : 250.8 pg/mL, トロポニンI : 0.029 ng/mL, PT-INR : 1.71, APPT-sec : 88.2 sec, D-dimer : 1.31 ug/L, CEA 10.3 ng/mL, CA19-9 18.5U/mL, CA125 163.9 U/mL, ACTH 25.8 pg/mL, コルチゾール 19.7 μg/dL, TSH 20.73 μU/mL, FT3 1.50 pg/mL, FT4 1.12 ng/dL

〈動脈血液ガス〉 pH 7.306, PaCO₂ 50.1 mmHg, PaO₂ 49.9 mmHg, HCO₃ 24.3 mmol/L, cLac 1.0 mmol/L

血液培養：陰性

心電図：心房細動、94bpm

5) 画像診断所見

胸部X線：両側肺野の透過性低下、両側CPA dull, 経胸壁心エコー：EF 62%, Dd 32mm, asynergy (-), MR : mild, AR : mild, TR : severe (PG=42mmHg), IVC 16mm, 心嚢水：生理的範囲内

胸部単純CT：両側胸水中等量あり。もともとの気腫肺の修飾はあるが小葉間隔壁の肥厚はあると思われる。以上溢水の所見で矛盾せず。右肺下葉に小さい結節があるが非特異的。炎症性や肺内リンパ節でも説明可能。中葉舌区には軽度の気管支拡張あり。関節周囲の石灰化 (+)。長期透析に伴う所見。脾臓が大きい。

胸腹部造影CT：PE, DVTなし

6) 経過・治療

来院時は血圧安定しており、透析後の一過性の低血圧と考えたが、Day2の朝食後から再度ショッ

クとなった。ショックの原因として敗血症性+相対的副腎不全を考え、MEPM0.5g+VCM1g q24h、補液、ヒドロコルチゾン200mg/day投与、ノルアドレナリンで血圧管理し、E-ICUへ入室した。Day 3に嚥下評価を実施した。嚥下機能の廃絶を認め、経腸栄養を開始した。徐々にNADは漸減できていたが、Day 4の午前6時に体温34.0℃であった。12:30に血糖44 mg/dL、cLac 6.0を認め、糖負荷施行。13:50に徐脈となり、13:54 CPA覚知。初期波形Asystole。CPR開始し14:00に気管挿管し、14:01にROSCを得た。12誘導心電図でⅡ、Ⅲ、aVfにST低下あり、Day 5 TTEでEF30%程度、ant-midにasynergyを認めたがCPAに伴う変化と考えた。家族に説明し、DNRの方針に。Day 7の7:03に死亡確認を行った。

7) 症例の問題点 (剖検で解明したかった事項)

- (1) Shockの原因として明らかなものはなかったが、感染症+相対的副腎不全を見込んで治療を行った。剖検では感染のfocusはあったのか? 他の原因は?
- (2) 腫瘍マーカーが上昇していたが、腫瘍はなかったか?
- (3) Day 4の心肺停止の原因となったものは何か?
- (4) 嚥下機能が廃絶していたが、神経疾患の可能性はあったか?

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

慢性腎不全 (臨床的)

(1) 長期透析

- a. 全身アミロイドーシス (肝、腎、心、消化管、肺、膀胱、腸腰筋、脊髄硬膜)
 - i) 洞房結節、房室結節石灰化・アミロイド沈着
 - ii) 消化管びらん、潰瘍
 - iii) 腸腰筋神経原性萎縮
- b. 副甲状腺過形成
 - i) 動脈壁内石灰化
 - ii) 右尿路結石
- c. 多嚢胞腎

【副病変】

- (1) 骨髄、脾臓血球貪食像
- (2) 特発性血小板減少性紫斑病
- (3) 脾腫 (395g)

- (4) 肝線維化炎
- (5) 腫瘍切除後、再発なし
 - a) 縦隔腫瘍 (semionoma)
 - b) 乳房外Paget病

2) 病理医からのコメント

やせ形の男性。開腹時、黄色透明腹水が350ml認められた。

組織学的には、アミロイド沈着が全身にみられた。

心臓では、両心室血管周囲にアミロイド沈着がみられた。洞房結節や房室結節近傍には石灰化がみられ、不整脈の原因になったものと考えられる。肺では、肉眼上、含気は保たれていたが、組織では、下葉を主体に広く肺胞壁にアミロイド沈着がみられ、拘束性換気障害を来していたものと考えられる。

腸腰筋では、組織学的に、神経原性の萎縮がみられた。全身臓器や血管周囲にアミロイド沈着が広くみられ、標本作製されていない部位でアミロイドニューロパチーがあるものと考えられる。開頭が行われておらず、中枢神経でのアミロイド沈着は評価できていないが、嚥下障害に関しても、アミロイドによる神経障害の可能性はある。

肉眼的に腸管壁は厚ぼったく、小腸内容は血性であった。消化管でもアミロイド沈着が目立ち、小腸ではびらんを伴っていた。びらん部では壁全層性に好中球を伴った炎症細胞浸潤がみられ、菌血症・敗血症を来していた可能性がある。骨髄・脾臓では、血球貪食像が認められた。

10. 考察

本症例は長年にわたる透析合併症の末に全身性アミロイドーシスをきたし敗血症、相対的副腎不全に対する治療効果も乏しく、心アミロイドーシスによる不整脈により心肺停止に至ったと考えられる。

感染のfocusは小腸におけるびらんから菌血症に至った可能性が考えられた。臨床的にはステロイドの減量過程でショックに至っており、相対的副腎不全により低体温をきたしたと考えられる。心臓には刺激伝導系近傍にアミロイド沈着や石灰化がみられ、刺激伝導障害から第4病日の心停止に至ったものと考えられる。肺はアミロイド沈着による拘束性換気障害をきたしていた。腸腰筋は神経原性の萎縮を認め、明らかな神経線維へのアミロイド沈着像はみられなかったが、神経原性の筋萎縮像や全身に広くアミロイド沈着がみられたことから、アミロイドニューロパチーによる全身筋力低下や嚥下機能低下

が推察される。腫瘍マーカーの上昇については明らかな腫瘍再発はなく、非特異的なものであったのだろう。

アミロイドーシスには蓄積する蛋白による分類があり、AL、AA、遺伝性、老人性、 $A\beta_2M$ 、局所性と分かれる。¹⁾このうち、透析関連は $A\beta_2M$ であり、筋骨格系に蓄積しやすい。手根管症候群や関節炎／関節痛が起きやすい。13年以上透析を行った症例は100%に関節へのアミロイド貯留を認めたという報告がある。その反面、心臓、肺、皮膚病変の合併は多くないとされる。²⁾危険因子として加齢や透析年数、low-flux膜の使用、生体適合性膜の使用、残腎機能欠如が挙げられる。³⁾診断のゴールドスタンダードは生検である。

30年来の透析歴があり、両側の手根管症候群の既往があり、透析アミロイドーシスの素地はあったと考えられ、頻度の多くない心、肺、神経合併症も起こったのだろう。

11. 参考文献

- 1) N Engl J Med 2007 ; 356 : 2361
- 2) Kidney Int 1997 ; 51 (6) : 1928
- 3) Blood Purif 2007 ; 25 (3) : 295

【症例2】

1. 症例テーマ：原因不明の意識障害の精査加療中にショックに至り死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医：神経内科 上田哲大
佐渡康介
3. CPC開催日：平成28年4月20日
4. 発表者：臨床側（佐渡康介、上田哲大）
病理側（前田紘奈）
5. 患者：70歳、男性
6. 臨床診断：Varicella zoster virus (VZV) 脳炎
7. 剖検診断：Varicella zoster virus (VZV) 脳幹脳炎、気管支肺炎（誤嚥疑い）
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴

20XX年9月より左顔面（三叉神経V2領域）に皮疹が出現し、帯状疱疹としてバラシクロビル250mg/day内服投与が近医で開始された。1週間後に皮疹が拡大し、激しい疼痛を認め、発熱も伴い当院へ救急搬送となった。皮膚科入院のうえアシクロビル125mg/day点滴投与による加療が開始された。入院3日後、幻視と下肢失調が出現したが同日透析後にすみやかに改善し、アシクロ

ビル脳症と考えられた。ピダラビン300mg透析後点滴投与に変更し、その後は症状の再発なし。入院10日後にトイレ前で転倒しているのを発見され、辻褄の合わない発言があり、神経内科へコンサルトとなった。

2) 既往歴・家族歴など

心原性脳塞栓症 慢性腎不全 人工透析 心房細動 高血圧 糖尿病 大動脈弁狭窄兼閉鎖不全症 僧帽弁狭窄症 下行大動脈解離（ステント治療） B型肝炎 器質化肺炎の疑い（ステロイド加療歴あり） 家族歴は特記事項無し

3) 診療所見

〈Vital sign〉 BT 36.6℃, BP 166/60 mmHg, HR 62 回/分 (regular), SpO₂ 98% on room air

〈一般身体所見〉 左V2領域に帯状疱疹あり。その他特記事項なし。

〈神経学的所見〉 E4V4M5-6 見当識障害あり（日付・場所を答えられず）、単純な指示のみ従命可能。脳神経・運動・感覚・協調運動に特記すべき異常所見なし

4) 主な検査データ

〔血算〕 WBC $4.5 \times 10^3 / \mu\text{L}$, RBC $376 \times 10^4 / \mu\text{L}$, Hb 10.8 g/dL, MCV 82fL, MCH 28.7 pg, Plt $12.5 \times 10^4 / \mu\text{L}$, [生化学] TP 5.7 g/dL, Alb 2.9 g/dL, T.Bil 0.7 mg/dL, AST 26 U/L, ALT 12 U/L, LD 200 U/L, ALP 190 U/L, CK 50 U/L, Amy 62 U/L, BUN 35.3 mg/dL, Cre 7.66 mg/dL, Na 133 mEq/L, K 4.1 mEq/L, Cl 102 mEq/L, Ca 8.2 mg/dL, CRP 2.08 mg/dL, ACTH 123.0pg/mL, コルチゾール 24.2 $\mu\text{g/dL}$, TSH 5.21 $\mu\text{U/mL}$, FT4 0.96 ng/dL, CA125 226.0 U/mL, B-Dグルカン <6.0 pg/mL, アンモニア 48 $\mu\text{g/dL}$, C-ANCA (-), P-ANCA (-), 抗核抗体 (-), 抗GAD抗体 (-), 傍腫瘍関連抗体 検出されず [凝固] PT-INR 1.94, APTT 54.8 sec, D-dimer 4.04 $\mu\text{g/mL}$, [VBG] pH 7.395, pCO₂ 36.1 Torr, HCO₃ 21.7 mmol/L, AG 8.7 mmol/L [髄液検査] 髄-蛋白 82 mg/dL, 細胞数 $10 / \mu\text{L}$, 単核球 $10 / \mu\text{L}$, CMV <100コピー/ml, EBV <100コピー/ml, HSV <100コピー/ml, VZV 15×10^2 コピー/ml, ADA 2.7 U/L, 髄液-CEA <0.2 ng/mL, 髄

液-CA125 < 0.8 U/mL

髄液細胞診

異常細胞なし

5) 画像診断所見

第32病日 胸腹部造影CT：両側胸水、受動性無気肺あり（以前より指摘あり）。はっきりとした肺炎像は指摘できず。仙骨周囲に軟部組織の濃度上昇あり。

第40病日 胸部単純CT：門脈内ガスの疑いあり。肺野には胸水あり。

腹部造影（3時間後）：肝門脈ガス像は3時間の経過で消退傾向。SMAは狭窄ながらも開通している。IMAは狭窄強いが、慢性変化の疑い。腸管の造影は保たれる。明かな感染巣なし。

6) 経過・治療

1. 原因不明の意識障害

神経内科コンサルト後、第3病日にJCS 3桁となった。頭部MRIで脳血管障害はなく、脳波検査でてんかん性放電を認めなかった。内分泌異常・電解質異常・ビタミン欠乏・高アンモニア血症を認めなかった。血管炎マーカー上昇なく。髄液sIL2R75と高値だが髄液のFlow cytometry、PCR提出ではリンパ腫を示唆する所見もなかった。抗GAD抗体陰性、血清CA125高値（髄液陰性）、全身造影CTで腫瘍性病変を認めなかった。傍腫瘍症候群関連抗体陰性。真菌性、結核性髄膜炎を示唆する所見を認めなかった。

髄液PCRでVZVが検出されていることから、帯状疱疹性脳炎の疑いでバラシクロビルによる加療を再開した。一時期、薬剤性脳症を疑いアシクロビル、ピダラビンを終了したが、レベルの改善なく、薬剤性脳症は否定的であった。VZVもアシクロビル耐性の疑いあり、第27病日よりアラセナへ変更とした。痛み刺激への反応がみられつつあったが、意識レベルは大きな改善はなかった。第36・40病日の髄液検査で2回VZV PCR陰性を確認し、第40病日に抗ウイルス薬での治療を終了した。

2. 敗血症の疑い

第3病日に38℃以上の熱発あり、CRP 26 mg/dlまで上昇し（WBCの上昇なし）、メロペネム、バンコマイシンを開始した。複数回の血液培養、喀痰培養陰性で造影CTでも明らかな感染巣を指摘できなかつた。CRP12 mg/dlまでさがり、

第15病日に一旦抗生剤offした。その後はCRP10台前半で推移し、殿部褥瘡が一部影響していると考えられた。CTでは仙骨周囲の軟部組織の濃度上昇を認めたが、経時変化はなかった。第40病日に38.3度台の発熱あり、第41病日にはWBC 21400/μl、CRP 17.21 mg/dlと炎症所見あり、sBP70mmHg台への低下を認めた。循環血漿量確保のためアルブミン投与を行った。また、胸腹部CTで肝実質の空気成分を認めるも、腸管虚血やその他の感染巣を認めなかった。血流感染症は否定しきれず、メロペネムとバンコマイシンの点滴投与を行ったが、第42病日の未明に急激に徐脈、血圧低下が進行し、医師が訪室した際には心肺停止であり、同日5：52に死亡確認を行った。

7) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- ・意識障害の原因は帯状疱疹性脳炎だったのか？
- ・死亡につながったショックの原因は何だったのか？

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) Varicella zoster virus (VZV) 脳幹脳炎
- (2) 気管支肺炎（誤嚥疑い）

【関連病変】

- (1) 慢性腎不全（右上肢前腕に内シャント形成術後状態＋長期透析）
 - a. アミロイド沈着（心筋内小動脈、小腸、大腸、膀胱などの小血管）
 - b. 脳小血管に石灰化沈着
- (2) 糖尿病（ラ氏島のアミロイド沈着）
- (3) 副腎萎縮
- (4) 高度粥状硬化症（大動脈他、多数の血管）
 - a. 大動脈解離性動脈瘤（腹部大動脈、右総腸骨～外腸骨動脈ステント留置後状態）
- (5) ショック肝
- (6) 諸臓器鬱血（肺、肝臓）

【その他病変】

- (1) 肝海綿状血管腫
 - (2) 直腸ヘモジデロシス
- ### 2) 担当病理医：前田紘奈
- ### 3) 病理医からのコメント

慢性腎不全（透析状態）、糖尿病と副腎萎縮が背景にあり、予備能が少なくなっている状態に、肺炎をきっかけとして循環動態が悪化したと考え

られる。VZV脳炎の病変が網様体のある領域に認められたことが、意識障害に主に関連していると考えられる。

10. 考 察

免疫染色でVZVの存在は証明されなかったが、その傍証となるリンパ球浸潤、壊死巣は脳幹に散見された。ACVによる治療後にウイルスが検出されないことが報告されており、脳幹部へのVZV感染症があった可能性はある。血管障害や広範な脱髄がなかったことはMRIでの所見と矛盾しない。MRI正常例のVZV脳炎の本態は不明確だが、ウイルス性障害による脳幹網様体の機能低下があった仮説はあってもよいと思われる。

11. 参 考 文 献

Lancet Neurol 2009 ; 8 : 731-740

Clinical Microbiology and Infection 2011 ; 18 : 808-819

第2回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症 例 テ ー マ：繰り返す憩室出血を契機とする急性心筋梗塞の一例
2. 診療科、主治医・受持医：循環器内科 石津賢一
消化器内科 畑森裕之
3. CPC開催日：平成28年6月15日
4. 発 表 者：臨床側（山田あゆ、石津賢一、畑森裕之）
病理側（西居正汰、藤倉航平、上原慶一郎）

5. 患 者：77歳、男性
6. 臨 床 診 断：大腸憩室出血、急性心筋梗塞
7. 剖 検 診 断：大腸憩室出血、急性／陳旧性心筋梗塞

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

X-8日 頻回の血便を認め当院救急受診。受診時はショックバイタルであり造影CTを撮影したところ横行～下行結腸移行部に造影剤の漏出像を認め下部消化管出血と判断。RCC 8Uの輸血を行い、緊急下部消化管内視鏡を施行したところ脾湾曲に血管断端を有する憩室を認め、同部位よりoozingを認めた。憩室出血と診断しクリッピング止血術を施行し当院消化器内科に入院となった。X-7日朝、数十分～一時間程度持続する前胸部痛の訴えがありECGでI、aVL、V3-6でST低下認

め循環器内科にコンサルトされた。冠動脈に有意狭窄が複数箇所あることが判明しており、消化管出血による血圧低下、貧血進行による相対的な心筋虚血が原因であると考えられた。しかし、現時点では血便のコントロールがつかず、PCIは不可能と判断され、まずは輸血を行い経過観察の方針となった。また血便が持続し貧血の進行も認めたことより同日下部消化管内視鏡検査を再施行し下行結腸、S状結腸の憩室よりoozingを認めクリッピングによる止血術を施行した。以降血便の出現を認めずX-6日にクロピドグレルが再開となった。胸部症状についてはかかりつけ医にてフォローして頂くこととし、X-2日前医に転院した。

その翌日X-1日、再び鮮血便を認め、前医より当院ERに救急搬送となった。

2) 既往歴・家族歴など

大腸憩室出血（2007年、2012年入院）、胸部大動脈解離（2009年、保存的加療）、心筋梗塞にてCABG後、DM性腎症

週3回透析中（2011/10～）であり、2015年シャント閉塞→近医にてPTA施行済。

冠動脈治療歴については以下の通り

1984/5 CABG SVG1 to LAD (#8), SVG2 to #4PD
2005 inf AMI emPCI SVG2 (to #4PD) : 100%→0%
2009 AoD (Stanford B) に対して保存的加療

2012/6 CAG/PCI #3 : 100%(CTO), #5 : 90%→0% (Xience V 3.0-12mm), #6 : 100% (CTO)、#11 : 75%→0% (Xience V), #13:25%, Ao-SVG1移行部: 90%→0% (Promus element 3.5-12mm)、SVG1-LAD (#8) : 99%、SVG2-#4PD : 100%

2012/11 AP PCI Ao-SVG1移行部 : 90% (ISR) →0%、SVG1-LAD : 90%→0%/POBA

2014/12 AP CAG #2 : 50%、#3 : 100%、#5 : ISR-, #6 : 100%、#11 : ISR-, SVG-LAD : 50%、SVG-#4PD : 100%

3) 診療所見

HR 110bpm (整), BP 84/62mmHg, RR 20/min, SpO₂98%, BT 36.8℃

GCS E4V4M6

末梢冷感・冷汗あり、眼瞼結膜蒼白、腹部肥満、軟、圧痛なく、tapping-/rebound-

4) 主な検査データ

[血算] WBC 7.1*10³/μL, RBC 211*10⁴/μL, Hb 6.6 g/dl

Ht 19.8 %, MCV 94 fL, MCH 31.3 pg,
PLT 12.0*10⁴ /mm³

[生化学] TP 4.4 g/dL, ALB 2.1 g/dL, T-Bil 0.3
mg/dL, AST 35 IU/L, ALT 19 IU/L,
LDH 159 IU/L
CK 859 IU/L, アミラーゼ 178 IU/L,
BUN 38.0 mg/dL, Cre 6.06 mg/dL
Na 139 mEq/L, K 3.6 mEq/L, Ca 6.2
mEq/L, Glu 199 mg/dL, CRP 4.49 mg/dL
[VBG] pH 7.257, pCO 50.0 Torr, pO₂ 25.2 Torr,
HCO 21.4 mmol/L, BE -4.8, AnionGap 3.3,
cLac 2.9 mmol/L

5) 画像診断所見

【腹部単純CT】 脾彎曲に前回CS施行時のクリップあり。上行結腸、下行結腸、S状結腸に多発憩室あり。

【下部内視鏡検査】 肝彎曲まで挿入。下行結腸、S状結腸に憩室散見される。観察範囲内には凝血塊を認めるものの活動性の出血や鮮血貯留を認めず止血後と判断した。

【心電図】 II/III/aVF/V3-5にてST上昇を認める。

【心エコー】 びまん性の壁運動低下を認める。EF15%程度。

6) 経過・治療

来院時ショックバイタルであり、挿管管理、大量輸血、カテコラミンサポート開始された。緊急下部消化管内視鏡施行したが活動性の出血認めず、止血状態と判断された。その後よりVT頻発し、ECGにて広範なST上昇を認め、STEMI（多枝虚血）と診断。頻回な出血と大動脈性解離の既往があり、PCI、PCPS、IABPなどの処置を行うことは不可能と判断され、内科的治療のみ行うこととした。徐々に血圧低下、徐脈認め、X日永眠された。

7) 症例の問題点（剖検で解明したかった事項）

- ・広範な心筋梗塞は主にグラフト閉塞によるものと想定されるが、それで良かったか。
- ・冠動脈病変は進行していたか。
- ・ショックの原因は憩室出血による出血→心筋虚血→心原性と想定されるが、血便の原因が憩室出血でよかったのか。またその他のショックの原因はあったか。

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) 大腸憩室出血
(1週前と前日に大量出血)
- (2) 急性、陳旧性心筋梗塞（左室後側壁）（CABG後）（心臓：421g）
 - a. 冠動脈・冠動脈バイパス狭窄
RCA 99%、LAD 95%、LCX 90%
右冠動脈バイパス 90%+血栓、左冠動脈バイパス60%+血栓
 - b. 陳旧性心外膜下血腫（7.5x2cm：臓側、左室側壁）

【副病変】

- (1) 糖尿病（臨床的）
 - a. 膝ラ氏島β細胞脱落・アミロイド沈着
 - b. 糖尿病性腎症（右腎：68g, 左腎：108g）
- (2) ショック肝（1192g）
- (3) 脾嚢胞（8mm大）（145g）
- (4) 両側腎嚢胞（最大径3.5cm）
- (5) 粥状硬化症、全身高度
 - a. 腹部大動脈解離
- (6) 諸臓器うっ血
両側肺（上葉優位）（右肺：427g, 左肺：285g）、肝、脾
- (7) 腔水症
 - a. 胸水（淡黄色透明 右肺：330ml, 左肺：260ml）
 - b. 腹水（淡黄色透明 550ml）

【病理所見】

栄養状態は良好な男性。肉眼像の段階では、心外膜下血腫、陳旧性心筋梗塞、大腸憩室出血、慢性腎不全（臨床的）の所見が得られた。

組織学的には、陳旧性脳梗塞に加えて新たに急性心筋梗塞を発症した像が観察された。

左室後側壁を中心に、浮腫、出血、好中球浸潤、また部分的に心筋細胞の収縮帯壊死、細胞質の好酸性変化が観察され、急性心筋梗塞と考えられた。同部位周辺を中心に、心筋の線維組織への置換が見られ、少なくとも数ヶ月以上経過した陳旧性心筋梗塞も認めた。

左冠動脈前下行枝に95%狭窄、回旋枝に90%狭窄、右冠動脈に99%狭窄が観察された。また右冠動脈バイパスに最大で90%程度、左冠動脈バイパスに最大で60%程度の狭窄を認めた。

左右冠動脈バイパスには、陳旧性の血栓に加えて、比較的新しい形成時期の異なる血栓が見られた。血液の再開通の所見も見られ、死の数週間前に閉塞があったと考えられる。

上行結腸を中心に多数の大腸憩室を認めた。憩室には、少量の血腫を混じた糞石を認め、周辺には上皮の脱落や炎症細胞浸潤、ヘモジデリン沈着、潰瘍形成が観察された。大腸脾門部のclip止血部位でも、上皮の脱落、炎症細胞浸潤、潰瘍を認めた。出血の原因として矛盾しない。

脾臓、骨髄においてヘモジデロシスが観察され、輸血の影響と考えられた。

2) 担当病理医：藤倉航平、上原慶一郎

3) 病理医からのコメント

陳旧性脳梗塞に加えて新たに急性心筋梗塞を発症したことが直接の死因と考えられる。

組織学的には、左室後側壁を中心に急性・陳旧性の心筋梗塞像が観察された。陳旧性の血栓とともに、比較的新しい血栓が左右冠動脈バイパスに認められ、この血栓が急性心筋梗塞につながった可能性が考えられる。浮腫、出血、好中球浸潤とともに、部分的に心筋細胞の収縮帯壊死、細胞質の好酸性変化が見られる。また心筋の線維への置換が進行している領域も観察され、これらの所見を総合すると、心筋梗塞の発症は、死亡前24時間以内と、数週間前の複数回あったと推定される。左側壁心外膜下血腫は、グラフト吻合部の近傍に認められた。臨床的に数十年前のCABG術後より存在が確認されており、直接の死因ではないと考えられる。

上行結腸を中心に、大腸憩室が多数観察され、腸管内出血の原因と考えられる。剖検時には、腸管内には多量の血性内容物は認められなかったが、臨床経過上、高度の貧血を認めており、持続的な腸管内出血があったと考える。低血圧は心筋虚血を助長したと考えられ、また抗血小板薬の内服中断が、血栓の形成につながった可能性がある。

10. 考 察

type2 MIの患者ではtype1 MIの患者よりも死亡率が有意に高いことが言われているが、type2 MIについてはエビデンスのある治療指針が無いこともあり、今後の症例の蓄積が待たれる。¹⁾消化管出血を起こして入院している患者のうち、65歳以上で冠動脈疾患のリスクファクターを2つ以上満たすような患者では心筋梗塞を起こすリスクが著明に上がり、その

確率はICUあるいは入院期間に相関して上がることが報告されている。²⁾

今回の症例に関しては、一度目の入院時に認めたST低下に対しては、憩室出血による相対的心筋虚血と判断し、冠動脈には特に介入無く転院となっている。ただし冠動脈疾患の濃厚な既往歴があることを考えると、入院中、全身状態が安定した時点でCAG施行していれば、stent留置を行うような病変が発見された可能性は考えられる。しかしその場合DAPT開始となるため、経過中に憩室出血を起こしより重篤な出血性ショックを来した可能性は残り、risk benefitの議論が難しい症例であった。

11. 参 考 文 献

- 1) Prognostic implications of type 2 myocardial infarctions (World Journal of Cardiovascular Diseases, 2012 (2) 237-241)
- 2) Myocardial Infarction Complicating Gastrointestinal Hemorrhage (MAYO CLINIC proceedings, 1999 (74) 235-241)

【症例1】

1. 症 例 テ ー マ：同種造血幹細胞移植後にカンジダ心内膜炎とカリニ肺炎を発症した1例
2. C P C開催日：平成28年6月15日
3. 患 者：66歳、女性
4. 臨 床 情 報：
 - 1) 背景
2010年3月 MDS (RA) の診断
2015年4月 末梢血中に芽球2%認め、RAEB-1の診断
2015年7月 骨髄中芽球20.4%、AMLへの進展。
Azacitidineによる治療開始。
2016年2月 rPBST
 - 2) 既往歴・家族歴など
【既往歴】糖尿病、高血圧、橋本病、アルコール性脂肪肝
【内服薬】ウルソデオキシコール酸300mg、アログリプチン12.5mg、レボチロキシンNa12.5μg、ポリコナゾール300mg
【生活歴】ADL full、兄弟なし、子3人
 - 3) 診療所見
意識清明、BT 37.1℃、HR 72/min、BP 129/84mmHg、SpO₂ 98% (RA)
頭頸部：眼瞼結膜貧血あり、眼球結膜黄染なし、

頸部リンパ節触知せず

呼吸音：清、ラ音聴取せず

心音：整、心雑音なし

腹部：平坦、軟、圧痛なし、肝脾触知せず

下腿：潰瘍あり

4) 主な検査データ

[CBC] WBC 400/ μ L, (Blast 23%, Neu 24%, Mono 9%, Ly 44%), RBC 200x10⁴/ μ L, Hb 5.9 g/dL, MCV 83 fL, Plt 1.6x10⁴/ μ L [生化学] TP 5.0 g/dL, Alb 2.2 g/dL, T.Bil 0.5 mg/dL, AST 11 U/L, ALT 12 U/L, LDH 310 U/L, ALP 397 U/L, BUN 9.9 mg/dL, Cre 0.70 mg/dL, UA 2.7 mg/dL, Na 141 mEq/L, K 3.8 mEq/L, Cl 114 mEq/L, CRP 6.84 mg/dL, TSH 1.29 μ U/mL, fT4 1.56 pg/mL, Ferritin 3532g/dL, β -D-glucan <6.0pg/mL, アスペルギルス抗原 (-) [凝固] PT 15.8 sec, APTT 47.7 sec, Fib 641 mg/dL, D-dimer 6.55 μ g/mL

5) 移植関連情報

ドナー：血縁末梢血、HLA allele 6/8適合、抗原5/6適合

移植前処置：Flu-BU4/TBI400

免疫抑制剤：Tac/MTX (Day 1, 3, 6, 11) /ATG

6) 経過・治療

Day -7 ~ MCFG

Day -7 ~ -2 Flu 30mg/sqm/day (44mg/body)

Day -6 ~ -3 Bu 0.8mgx4/kg/day (44mgx4/body)

Day -4 ~ -3 ATG 1.25mg/kg/day (75mg/body)

Day -2 ~ -1 TBI 2Gy/day

Day -1 FN CFPM 1 g, q8h

Day 0 rPBSCT

Day 11 CFPM→MEPM + VCM

Day 35 β -D-glucan上昇

Day 42 好中球の生着を確認

Day 44 血液培養でCandida guilliermondiiが陽性。MCFG→L-AMB

Day 50 VCM中止。呼吸苦が出現し、利尿剤を開始。

Day 51 L-AMB→L-AMB + CPFPG
抗真菌薬変更後もCandida血症が持続

Day 66 CTで肺野浸潤影は悪化傾向

Day 69 意識レベル低下、SpO₂低下あり。G-ICU入室、NPPV管理。
挿管してBAL施行→DAH。PCRでカリ

ニ+、CMV+。ST追加。

Day 70 TEEで僧帽弁に疣贅を認める→感染性心内膜炎の診断、腎不全の進行

Day 76 死亡確認

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) 病理学的にカンジダ心内膜炎はあったのか?

(2) 呼吸不全の原因は何か?

(3) 急性腎不全の原因は何か?

5. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) 造血幹細胞移植後感染症 (MDS-overt AML)
 - a. 感染性心内膜炎 (Candida guilliermondii 持続菌血症、僧帽弁に感染性疣贅 (2個、11mm大、8mm大)) (心臓: 434g)
 - b. 両側肺びまん性肺胞出血、びまん性肺胞障害 (増殖期) (Pneumocystis pneumonia治療後反応の疑い、CMV感染) (右肺: 525g、左肺: 562g)

【その他病変】

- (1) 薬剤性腎尿管障害 (右腎: 154g、左腎: 152g)
- (2) 肝硬変 (新犬山分類F4相当) (1554g)
- (3) 出血傾向 (両側びまん性肺胞出血、腸管・膀胱・子宮の粘膜下出血、腸腰筋血腫)
- (4) 副腎CMV感染 (右8.4g、左11.2g)
- (5) 微小脳出血 (内包の淡蒼球との境界部、脳梁幹膨大部、後頭葉の白質内2カ所の計4カ所) (1320g)
- (6) 皮膚色素沈着、表皮菲薄化
- (7) 粥状動脈硬化 (軽度)
- (8) 右卵巢囊腫
- (9) 脾腫 (534g)

2) 病理医からのコメント

【経過】

骨髓異形成症候群から急性骨髄性白血病へ移行し末梢血幹細胞移植施行された66歳女性。移植後に生着を認めたものの、持続的なカンジダ血症および呼吸状態の増悪をきたし、抗生剤加療されていた。経食道エコーにて僧帽弁に感染性疣贅を指摘され、感染性心内膜炎の診断となった。呼吸状態増悪に関しては気管支肺胞洗浄は血性で肺胞出血が疑われ、さらにPCRの結果からはニューモシスチス肺炎が疑われた。呼吸状態および腎障害増悪をきたし、2016年4月26日逝去された。

【病理学的所見】

心臓には僧帽弁に8mm大と11mm大の疣贅を認めた。組織学的には無数の球形～短紡錘形の菌体を認め、*Candida guilliermondii*による感染性疣贅として一致する所見であった。左室壁は23mmに軽度の求心性心肥大を認めたものの、明らかな弁破壊や心不全の所見は認めなかった。

気道の検索においては気管内に多量の血性痰を認め、肉眼的に両側にびまん性肺泡出血を認めた。組織学的には、肺胞腔内には大量の赤血球の貯留を認め、高度な肺泡出血の像であった。比較的新規の出血が大部分であったが、ヘモジデリン貪食マクロファージ等、やや時間の経過した出血所見も認めた。肺胞構造は保たれているものの、所々に肺胞壁の線維性肥厚など間質性変化や、肺胞上皮の腫大、過形成などびまん性肺泡障害の増殖期の所見であった。ニューモシスチス肺炎の際に認められる肺胞腔内への泡沫状滲出物や、Grocott染色にて黒色に染まる囊子の所見は認められなかったが、間質性変化やびまん性肺泡障害はニューモシスチス肺炎の治療後として矛盾せず、背景の血小板減少などの易出血性状態が関与して高度なびまん性肺泡出血を生じたと考える。肺胞壁に少数散在性のCMV陽性細胞を認め、肺胞出血部と比較的一致する分布を認めた。炎症細胞浸潤は単核球が主体であった。

肝臓は表面に凹凸、辺縁の鈍化を認め、肉眼的には肝右葉に線維化を認めた。組織学的には、小葉構造のひずみを伴う線維性架橋形成、肝実質の結節状化を認め、肝硬変の所見であった。剖検時には腹水少量(500ml)であったが、各種治療に伴う肝硬変の増悪があった可能性も考えられる。

腎臓は両側腎ともに尿管上皮の著明な水腫様変性を認め、高度な薬剤性尿管障害の所見であった。また、尿管上皮に核腫大、核形不整を認めたが、免疫染色にてsv40陰性でBKウイルス感染は否定的であった。

副腎には皮質内に多数の核腫大、核内塩基性封入体を認めるCMV感染細胞を認め、免疫染色にてそれらにCMV陽性を認めた。

右卵巣には6cm大の硬化した表皮嚢腫を認めた。

皮膚には肉眼的に色素沈着を認め、組織学的

には表皮の菲薄化や個細胞性壊死を認め、慢性GVHDを疑う組織像であった。

腸管・膀胱・子宮に粘膜下出血を認め、腸腰筋内には1.5cm大の血腫を認めた。

脾臓にて髓外造血を認めた。

骨髄は有核細胞密度70%程度の過形成骨髄で赤芽球の増加を認める一方、巨核球に乏しかった。幼若な芽球の増生は認めなかった。

脳には外表面に著変は認められなかった。塞栓物も認められなかった。剖面では肉眼的に、内包の淡蒼球との境界部、脳梁幹膨大部、後頭葉の白質内2カ所に合計4個の1mm大の褐色部位を認め、組織学的には赤血球の血管外漏出や、ヘモジデリン貪食マクロファージを認め、新旧の脳出血の所見であったが、微小膿瘍などの感染所見を伴っていなかった。

6. 総括

病理学的には僧帽弁に2個の感染性疣贅を認め、組織学的に*Candida guilliermondii*として矛盾しない無数の菌体を認めた。肺病変に関しては、肺胞腔内への泡沫状滲出物やGrocott染色で囊子は認められなかったものの、両側肺の線維性壁肥厚、肺胞上皮過形成などのびまん性肺泡障害(増殖期)の所見はニューモシスチス肺炎治療後の像として矛盾せず、背景の易出血性状態と相関してびまん性肺泡出血を来したと考えられる。両側腎に認められた尿管上皮の水腫様変性は、急性薬剤性尿管障害の所見と考えられ、死亡前に生じた腎障害の経過と一致する。

7. 参考文献

- ・ Navneet S. Majhail. et al. 2006, *Biology of Blood and Marrow Transplantation*
- ・ Philippe Ratajezak. et al. (2007) "Alveolar Hemorrhage and Acute Graft-versus-Host Disease", *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 13 : 1244-1245
- ・ Bekele Afessa. et al. (2002) "Diffuse Alveolar Hemorrhage in Hematopoietic Stem Cell Transplant Recipients", *Am J Respir Crit Care Med*, Vol 166. pp 641-645
- ・ M Uchiyama. et al. (2010) "Diffuse alveolar hemorrhage after unrelated cord blood transplantation", *Bone Marrow Transplantation*, 45, 789-790
- ・ Sachin Gupta. et al. (2006), *BMC Cancer*, 6:87
- ・ von Ranke FM. et al. (2013) "Infectious diseases causing diffuse alveolar hemorrhage in

immunocompetent patients”, Lung, Feb; 191 (1): 9-18

dL, CRP 12.09mg/dL, WBC 24500/ μ L, RBC 247万/ μ L, Hb 8.3g/dL, Ht 23.1%, PLT 13.4万/ μ L, PT-% 41.0%
静脈血ガス: pH 7.411, PCO₂ 35.2mmHg, HCO₃ 21.9mEq/L, Lactate 5.7mmol/L

第3回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ: C型肝硬変・肝癌を背景とした食道静脈瘤破裂後に肝不全・腎不全が進行した1例
2. 診療科、主治医・受持医: 消化器内科 北本博規
3. CPC開催日: 平成28年8月17日
4. 発表者: 臨床側 (大崎 恵、北本博規)
病理側 (山本 覚、市川千宙)
5. 患者: 77歳、男性
6. 臨床診断: 肝不全
7. 剖検診断: 肝不全
8. 臨床情報:

1) 現病歴

近医でC型慢性肝炎を定期フォローされていた。今回入院の10ヶ月前: multiple HCCに対して初回治療で入院。TAI、RFA施行。以後、新規病変・再発巣に対して、TACE/TAIを6回施行。TACE不応性となる。7ヶ月前: Sorafenib (400mg/日) 導入。9週間SD。5ヶ月前: PDの判断でSorafenib中止。4ヶ月前: HAIC導入。low dose FP開始するも、2コース目の途中で腎機能悪化および嘔気により中止。3ヶ月前: 退院後もPSは2-3程度で悪く、BSCの方針となった。その後、自宅療養を継続していたが、全身状態は徐々に悪化していた。

今回、昼食後に吐血を認め、当院ERへ搬送。緊急EGD施行して食道静脈瘤破裂と診断し、緊急EVLで止血。病状の経過観察目的に同日緊急入院。

2) 既往歴・家族歴など

敗血症・DIC (6年前)、薬剤性肝障害疑い (アムロジン)、COPD (詳細不明)、高血圧、前立腺肥大症

3) 診療所見

Vital sign: JCS 1桁, BP: 82/ mmHg, HR: 114bpm, RR: 19回/分, BT: 36.7°C, SpO₂: 98%

4) 主な検査データ

血液検査: TP 5.1g/dL, ALB 1.5g/dL, T-BIL 4.1mg/dL, AST 143IU/L, ALT 59IU/L, LD 195IU/L, 尿素窒素 41.5mg/dL, クレアチニン 1.47mg/dL, Na 129mEq/L, K 5.0mEq/L, Ca 8.4mg/dL, GLU 103mg/

5) 経過・治療

Day1: 食道静脈瘤破裂に対して緊急EVLで止血。
Day11: 12時20分頃からHR 40台に延長し、モニターで心停止を確認後、12時38分 死亡確認。最後に今まで苦しめていた悪いものだけでも取って欲しいとの家族の意向から、剖検を行う方針となった。

6) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- (1) 静脈瘤破裂という急性侵襲以外に肝不全の進行に寄与する病変はあったのか?
- (2) 腫瘍はどの程度まで広がっていたのか?
- (3) CRPおよびWBC上昇を認めたが、感染はあったのか?

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) 肝細胞癌 (低分化~高分化型) 化学療法、ラジオ波焼却焼灼術後状態
 - a. 多発 (2cm程度、他娘結節多数)
 - b. 門脈腫瘍栓
 - c. 肺微小転移リンパ管内腫瘍栓
- (2) 肝硬変
 - a. 腔水症 (腹水:2000ml)
 - b. 全身黄疸
 - c. 脾うっ血
 - d. 食道静脈瘤 (内視鏡的止血術後状態)

【副病変】

- (1) 求心性左室肥大 (重量320g)
- (2) 腎高血圧性変化
- (3) 肺うっ血 (右肺: 442g、左肺: 357g)
- (4) 肺気腫, 肺線維化 (両側肺下葉底部)
- (5) 大動脈中等度粥状硬化
- (6) 腹壁癒痕ヘルニア
- (7) 臓側胸膜肥厚、壁側胸膜にプラーク

2) 担当病理医: 市川千宙

3) 病理医からのコメント

肝臓両葉に、2cm程度の多発する結節と娘結節が散見され、門脈本幹から一部肝内分枝、脾静脈内に腫瘍塞栓を認めた。組織学的には、低分化から一部高分化型肝細胞癌の像で、多くはviable

な腫瘍であるが、一部凝固壊死したものを認め治療による影響を考える。背景肝は表面粗造で、一部再生結節が窺われる肝線維症から肝硬変で、門脈域同士、門脈-中心静脈領域の線維性架橋を認め、小葉のひずみが目立った。それに加え遠門脈域性の肝細胞のやせ、肝細胞の壊死を認め低循環による変化と考える。

肝臓以外の臓器では肺のリンパ管内に少数腫瘍栓を認めた。転移を疑った左肺下葉結節は好中球の集簇する膿瘍であるが、ギムザ染色やグラム染色、グロコット染色、抗酸菌染色で確認するも起原因菌は指摘しえなかった。肺底部に線維化と牽引性気管支拡張を認めた。

腎には、間質にリンパ球浸潤し硬化した糸球体が集簇して認められる小動脈硬化性の変化を背景に、腎髄質鬱血、近位尿管細細胞の萎縮と拡張を認め、ショック腎と考えられた。

心臓は左室肥大を伴っていた。

10. 考 察

肝線維症、肝硬変を背景として、門脈腫瘍栓による門脈血流が低下と、食道静脈瘤破裂による循環血液量低下も加わり肝不全が進行した可能性を考える。4ヶ月前には食道動脈瘤は指摘されておらず、脾腫や表在静脈の怒張が目立たなかったことから比較的短い経過で門脈圧亢進症が起こったと推測する。さらに予備能の少ない腎臓や心臓を背景として、低循環によるショック腎も加わったことで多臓器不全に至ったと推測する。

11. 参 考 文 献

Zhang ZM, et al : The strategies for treating primary hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombus. *Int J Surg* 20 : 8-16, 2015

【症例2】

1. 症 例 テ ー マ : 抗血小板薬2剤内服中の鼻出血による気道閉塞で死に至った1例
2. 診 療 科、主 治 医・受 持 医 : 総合診療科 志水隼人
3. C P C 開 催 日 : 平成28年8月17日
4. 発 表 者 : 臨床側 (田村亮太)
病理側 (山口 尊)
5. 患 者 : 78歳、男性
6. 臨 床 診 断 : 急性呼吸不全
7. 剖 検 診 断 : 凝血塊による声門上部閉塞

8. 臨 床 情 報 :

1) 現病歴

X-7日頃から全身倦怠感・鼻汁・咽頭痛があった。X-1日には普段通り透析に行き、ヘルパー訪問時も普段通りであった。X日朝から胸部不快感と背部痛があった。同日14時半ころヘルパーが訪問すると臥位で動けない状態であったため救急要請。会話は可能だが傾眠傾向であった。

2) 既往歴・内服薬など

【既往歴】

維持透析3回/週(X-4年、腎不全の原因不明)、冠動脈狭窄(X-1年より3回PCI施行)、胆嚢結石、総胆管結石(X-2か月に破碎術・EST・ERCP)、副腎不全の疑い(X-2か月、ACTH負荷試験にて)、小脳梗塞(X-7年)、脊椎カリエス(幼少期)、右上腕骨骨折(X-4年)

【内服薬】

アスピリン100mg分1、プラスグレル3.75mg分1、プレドニゾロン5mg分1、アゾセミド60mg分1、ボノプラザン20mg分1、フェブキソスタット20mg分1、カルシトリオール0.5 μ g分1、アメジニウム10mg透析日のみ、トリアゾラム0.5mg分1、クロキザゾラム2mg分1、メダゼパム10mg分1

3) 診療所見

血圧58/38mmHg, 脈拍75/min整, 呼吸数20/min, SpO₂ 100% (室内気), 体温35.1℃。意識レベルJCS 1桁, 呼吸音左右差なし, 心雑音なし, 腹部膨満軟/圧痛なし, 下腿浮腫なし, 便失禁あり。

4) 主な検査データ

〈血算〉WBC 8900/ μ L, Hb9.6g/dL, Ht 30.0%, PLT 5.4万/mm³, 〈生化学〉TP6.1g/dL, Alb2.7g/dL, T-bil2.8mg/dL, AST 376IU/L, ALT 229IU/L, ALP653U/L, γ -GTP118U/L, LDH653IU/L, CK131IU/L, BUN52.0mg/dL, Cre8.77mg/dL, Na139mEq/L, K4.7mEq/L, Ca 8.6mg/dL, CRP13.3mg/dL, BNP398pg/mL, CK-MB26.1U/L, トロポニンI 1.42ng/mL, ACTH33.9pg/mL, コルチゾール18.3 μ g/dL, TSH3.94 μ U/mL, FT4 1.10ng/dL, 〈凝固〉PT-INR1.81, APTT33.2秒, D-Dimer21.9 μ g/mL, 〈静脈血液ガス〉pH 7.29, PCO₂ 22Torr, PO₂ 56Torr, HCO₃ 10.4mmol/L, AG10, Glu65mg/dL, Lac 12mmol/L, 〈尿

所見) 色調:赤色, 蛋白(3+), 潜血(3+), 白血球(3+), ケトン体(-), ビリルビン(-), 亜硝酸塩(-), 【微生物学的検査】インフルエンザ迅速A(-), B(-), 血液培養:2セット陰性, 尿培養:ESBL産生E.coli

5) 画像診断所見

胸部Xp:臥位, 縦隔の右偏位あり, 気胸なし。胸腹部造影CT:右肺中葉浸潤影あり, 胆石あり, 両側腎萎縮あり, 膀胱内airあり。大動脈解離/肺塞栓/腹水なし, 胆管拡張なし, 胆嚢腫大なし。

6) 経過・治療

Shockの原因としては敗血症±副腎機能低下症の可能性が高いと考え、敗血症のfocusとしては胆管炎, 尿路感染症, 血流感染症(透析患者)を考えMEPM+VCM+hydrocortisoneで治療を開始した。当初はノルアドレナリンを要したが, 入院5日目にノルアドレナリン中止でき, 敗血症としての治療は奏功した。血培陰性のため血流感染の可能性は低いと考えて, VCMは入院4日目までで中止とし, hydrocortisoneも漸減した。抗生剤加療にて呼吸・循環動態の安定を得たため入院10日目にICUを退室したが, 入院11日目早朝に突然の呼吸状態悪化および意識障害を認めた。口腔内に血餅が多量に付着し, 声門上部が血餅で閉塞していたことによる上気道閉塞であった。出血源の精査のために耳鼻咽喉科に対診し, 鼻出血からのものと判断され, 止血処置とDAPT中止にて対応した。その後出血は収まり呼吸状態も室内気で安定した。それ以降も頻呼吸は続いていたが, 入院13日目朝より頻呼吸が増悪し O_2 1L/minが必要な酸素化低下が出現していたため精査をしたが, 気道閉塞や気胸・心筋梗塞・肺塞栓症・溢水は否定的であり, 誤嚥(±肺炎)に伴う頻呼吸と考えMEPM継続で経過を見る方針とした。同日17時半ころより呼吸状態悪化・意識障害を認めた。ABGで PCO_2 81.8 Torrと高度の CO_2 貯留と血圧200台の高値を呈していたため, 頭部CT施行するも頭蓋内病変指摘できず。対応策としては挿管による人工呼吸管理しか手はなかったが, 以前からの本人の挿管を希望しない意向を踏まえ経過をみることにした。その時は数時間で酸素化と意識レベルは改善傾向となった。その後, 入院14日目の朝5時過ぎより徐脈・徐呼吸となり, 同日6時11分に死亡の確認をした。解剖の同意を得られるような身

よりはおらず, しかし死亡の原因がはっきりしなかったため病理解剖は必要と考え, 医療者のみの判断で病理解剖を行うこととした。

7) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ①鼻出血による上気道閉塞解除後も続いた頻呼吸や酸素化低下の原因
- ②受診時のショックの原因

1. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

喉頭蓋・咽頭びらん・潰瘍, 鼻出血後状態, 声門上部閉塞

2) 担当病理医:上原慶一郎

3) 病理医からのコメント

解剖時, 声門に最大径3cm程度の凝血塊様物質がみられ, ほぼ気道を閉塞しかけていた。喉頭咽頭にはびらんや小潰瘍が散在性にみられた。凝血塊様物質は組織学的には, 扁平上皮が混在した像を呈し, カンジダや放線菌などが付着していた。死の4日前に大量の鼻出血があり, 嚥下訓練も始めていたことから, 血液や潰瘍・びらん部からの滲出物と嚥下物の混在したものが塊状となり, 気道閉塞を引き起こし, 死に至ったと考えられた。咽頭喉頭のびらん部分には真菌, 細菌はみられず, ウィルス性が疑われるが, 確定には至らなかった。下部消化管にはタール便が多量にみられたが, 粘膜出血は小腸に一部のみであり, 鼻出血によるタール便であると考えられる。両側腎は組織学的に, 慢性化した腎盂腎炎の像がみられ, 敗血症の原因であったものと考えられる。

10. 考察

冠動脈狭窄によるPCI治療後で, 抗血小板薬2剤内服中に鼻出血による気道閉塞で死に至った1例を経験した。PCI治療後の3250例(内98.5%が抗血小板薬内服, 86.3%が2剤併用)の出血合併症(平均8.8ヶ月フォロー)の報告¹⁾では鼻出血6.2%, 消化管出血1.6%, 肉眼的血尿1.2%, 直腸出血1.1%, 頭蓋内出血0.2%であり, 鼻出血は頻度の高い合併症である。単剤の内服では鼻出血はアスピリン4.6%, 4.7%であるが2剤併用では5.8%に上昇する。鼻出血の危険因子としては高血圧, CKD, 肝硬変(いずれもOR>2.0)があげられており, 本症例では透析患者で血圧も入院中150mmHgを超えることが多くリスクは高い患者であった。血圧管理を厳重にすれば鼻出血の予防や増悪防止につながる可能性があったと考えられる。また救急外来を受診した抗血

栓薬内服中に出血を合併した患者²⁾では、鼻出血が抗血小板薬2剤内服で39%、抗凝固薬では17%と、抗凝固薬より抗血小板薬2剤の方がリスクは高いため注意が必要である。

11. 参考文献

1) Jura-Szohys E et al. Kardiol Pol. 2011

2) Smith J et al. J Laryngol Oto. 2011

第4回中央市民病院C P C報告

【症例1】

1. 症例テーマ：膀胱癌の骨転移が判明して早期に死に至った一例
2. 診療科、主治医・受持医：泌尿器科 鈴木良輔
3. C P C開催日：平成28年10月19日
4. 発表者：臨床側（舩本慧子）
病理側（組谷彰太郎）
5. 患者：71歳、男性
6. 臨床診断：膀胱癌
7. 剖検診断：感染性心内膜炎
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
3週間前：食思不振と倦怠感が出現した。
1週間前：倦怠感、小刻み歩行と不安定性、幻視、幻聴が増強し、衰弱が進行した。
入院当日：朝、ベッド脇に倒れているところを家人に発見され右肩甲骨／右膝／左側胸部痛、寒気を訴え救急外来を受診した。骨転移と腫瘍熱を疑われ泌尿器科に入院した。
 - 2) 既往歴・家族歴など
63歳 前立腺癌：小線源療法後、68歳、Parkinson病、
71歳 膀胱癌：術前化学療法後、膀胱前立腺全摘＋回腸導管造設術（pT3bN0）
HBV、HCV既感染
 - 3) 診療所見
Vital signs：BT 38.2℃、BP 114/74mmHg、HR 88bpm、RR 18/min、SpO₂ 98% (RA)、
GCS：E4V4M6
General：HT 169.7cm、BW 50.7kg（2016/3には60.88kg）ぐったりしていてやや傾眠傾向
HEENT：異常所見なし、Chest：呼吸音-清、心音-整、雑音なし、Abd：圧痛なし、
Murphy兆候陰性、右CVA叩打痛あり、
Extremities：右肩甲骨/膝に圧痛あり

4) 主な検査データ

〈血液検査〉

WBC：4200 / μ L (Seg 58.0%, Meta 1.0%, Myelo 8.0%, Promyelo 0.0%, Blast 0.0%, Lymph 14.0%, Mono 3.0%, Eos 1.0%, Baso 0.0%),
RBC：361万/ μ L, Hb：9.7 g/dL, MCV：83 fL, MCH 26.9 pg, PLT:71000/ μ L
TP:5.9 g/dL, ALB:2.7 g/dL, T-Bil：0.5 mg/dL,
AST：107 IU/L, ALT：32 IU/L, LDH：3184 IU/L, ALP:4996 U/L, γ -GTP:18 U/L, ChE:175 U/L, CK：412 IU/L, AMY：56 IU/L, BUN：18.8 mg/dL, Cr：0.68 mg/dL, eGFR:87 mL/min/1.73m², Na：135 mEq/L, K：3.6 mEq/L, Ca: 7.9 mg/dL, Glu：112 mg/dL, CRP：16.82 mg/dL
(分画) LDH1：24.5%, LDH2：42.6%, LDH3：22.9%, LDH4: 6.2%, LDH5: 3.8%
ALP1: 6.5%, ALP2: 23.7%, ALP3: 68.8%, ALP5: 1.0%

〈尿培養〉 Enterococcus faecalis, Staphylococcus aureus, α -Streptococcus

〈血液培養〉 no growth

〈心電図〉 SRR 左軸偏位

5) 画像診断所見

〈胸部X線〉心拡大なし、浸潤影なし、胸水なし

〈胸腹部造影CT〉腹水、両側胸水軽度あり。胸腰椎、右腸骨翼に骨硬化病変あり、骨転移の疑い

6) 経過・治療

第1病日：頭部／胸腹部造影CTで熱源、外傷を認めず。血液培養、尿培養（ストマ）提出、腎盂腎炎を疑いPIPC/TAZ（13.5g/日）投与開始。幻視が継続し、昼夜逆転、傾眠傾向であった。

第4病日：汎血球減少、LDH/ALP高値あり、前立腺癌／膀胱癌の骨髄転移を疑い骨髄穿刺を施行し、膀胱癌骨転移の所見を認めた。

第5病日：脊椎MRI検査で骨髄信号のびまん性低下を認めた。

第8病日：37-38℃前半で経過し、来院日の血液培養が陰性であったことから発熱の原因は感染症よりも腫瘍であると判断し、抗生剤を一旦中止とした。

第11病日：抗生剤中止後37℃台で経過し、血液培

養再提出したが陰性であった。

第12病日：倦怠感に対しデキサメタゾン 2mgを開始した。

第18病日：意識レベルさらに低下し、ほとんど眠って過ごすようになった。

第23病日：39℃台の発熱 ご家族にICの上BSCの方針となった。

第25病日：背部痛が出現しオキシコドン投与開始。

第27病日：永眠された。

7) 手術所見 なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) 通常の経過と比較して急速な膀胱癌の転移再発、死亡に至った原因について

(2) 発熱、意識レベル低下の原因について

9. 剖 検 情 報

1) 剖検診断と病理所見感染性心内膜炎と疣贅の全身諸臓器への塞栓

2) 病理医からのコメント

肉眼像の段階では、肋骨、胸椎、腸骨に膀胱癌の転移を考える白色病変を認めた。肝及び腎には充血を伴う粟粒大の白色結節が散見され、副腎においても白色調の病変を認めた。腫瘍の転移である可能性も考えられた。脾臓が著明で、生前には発熱も持続していたことから、敗血症の可能性があった。膀胱癌全摘後の膀胱癌の転移巣の広がりや敗血症の有無が主な検索事項に挙げられた。

組織学的には、大動脈弁に感染性心内膜炎の所見が見られた。疣贅にはグラム陽性の球菌が確認された。疣贅は全身諸臓器 (肝, 脾, 腎, 副腎, 胃, 小腸, 大腸, 肺, 甲状腺, 副甲状腺, 腸腰筋, 心筋, 脊髄) の毛細血管に認められ、一部炎症も波及しており、大動脈弁から疣贅が血行性に播種した病態が考えられた。膀胱癌の転移は肉眼所見に一致して胸骨、肋骨、胸椎に観察された。いずれも広範に壊死物の貯留や線維化が認められ、正常の骨髄組織は観察されなかった。肝, 腎, 副腎には癌の転移を示唆する所見は認めなかった。脾臓において随外造血が観察された。

10. 考 察

病理所見からは感染性心内膜炎と疣贅の全身諸臓器への塞栓が直接の死因と考えられた。臨床的に血液培養では起因菌は同定されていないが、グラム陽性球菌の菌血症が示唆された。臨床的にも認識されていた回腸導管の炎症 (尿培養で陽性球菌+) からの波及の可能性を考えるが、腎盂への上行感染は見

られず、導管壁には他の臓器と同様の細血管内細菌血栓と周囲炎を見るのみであった。

膀胱癌の転移が胸骨、肋骨、胸椎に見られ、骨髄の造血能の低下を代償するために脾臓での髓外造血が生じたと考えられる。末期に、末梢血中に少量の芽球出現と軽度の白血球減少が持続していたが、癌のmassiveな骨髄転移に反応してかろうじてこの白血球数を保っており、いずれかの時点で合併した細菌感染に対して、更に白血球を増やすことができなかったものと想像される。

剖検時に標本を作製した3カ所の骨転移巣では腫瘍と骨組織が壊死して、組織球反応と反応性の仮骨形成を伴っており、術前化学療法によって壊死していたものと推測されるが、2週前の腸骨穿刺の標本で腫瘍組織が確認できていることと、上記を併せて考えると、術前化学療法後にも残存していた骨髄転移巣が多くあったと推察される。

11. 参 考 文 献

Bruno Hoen, Xavier Duval : Infective Endocarditis. N Engl J Med 368 : 1425-1433, 2013

【症例2】

1. 症 例 テ ー マ : 気道狭窄で発症、放射線治療中に呼吸不全で死亡した原発性肺癌の1例
2. 診療科、主治医・受持医 : 呼吸器内科 森 令法
佐藤悠城
大塚浩二郎
3. C P C 開催日 : 平成28年10月19日
4. 発 表 者 : 臨床側 (荒井宏之、森 令法、
佐藤悠城、大塚浩二郎)
病理側 (村上 孝、市川千宙)
5. 患 者 : 74歳、女性
6. 臨 床 診 断 : 急性呼吸窮迫症候群
7. 剖 検 診 断 : 右肺上葉原発中分化型肺扁平上皮癌、右主気管支内腫瘍栓、両側肺血管内多発血栓、左肺滲出期びまん性肺胞障害
8. 臨 床 情 報 :
 - 1) 現病歴
X年4月、咳嗽持続、血痰出現、喘鳴、呼吸困難感を主訴に当院呼吸器内科を紹介受診した。CTにて右主気管支の高度狭窄を認めたため緊急入院となった。
 - 2) 既往歴・家族歴など

特記すべき事項なし

3) 診療所見

来院時身体所見

体温36.6℃、脈拍92回/分、血圧144/72 mmHg、SpO₂92% (4L/min 酸素マスク)、呼吸数22回/分

眼球結膜黄染無し、眼瞼結膜貧血無し、頸部リンパ節触知せず

呼吸音：右肺野呼吸音低下

4) 主な検査データ

〈血液検査〉 WBC：6.6×10³/μL, RBC：406×10⁴/μL, Hb：12.6 g/dL, PLT：32.4×10⁴/μL, TP：6.8 g/dL, ALB：3.9 g/dL, T-Bil：0.5 mg/dL, AST (GOT)：22 IU/L, ALT (GPT)：14 IU/L, LDH：197 IU/L, ALP：191 U/L, γ-GTP：22 U/L, Ch-E：429 U/L, CK：82 IU/L, アミラーゼ：46 IU/L,

尿素窒素：10.3 mg/dL, クレアチニン：0.74 mg/dL, Na：141 mEq/L, K：4.6 mEq/L, Ca：9.2mg/dL, Glu：89mg/dL, CRP：0.83 mg/dL, eGFR：58 mL/min/1.73m², PT-INR：1.06, PT-sec：12.7 sec, APTT-sec 35.6sec, D-dimer 0.40 μg/mL, CEA 5.3ng/mL, CA19-9 6.7 U/mL, SCC 1.5 ng/mL, CYFRA 1.7ng/mL, NSE 14.0 ng/mL, ProGRP 58.9 pg/mL

〈動脈血液ガス〉 pH：7.355, PCO₂：42.4 torr, PO₂：71.7 torr, HCO₃⁻：23.1 mmol/L

5) 画像診断所見

〈胸部X線〉右無気肺あり

〈胸部CT〉気管～右主気管支にかけて腫瘍あり。右無気肺有り。

6) 経過・治療

入院後、右主気管支は完全に閉塞して右完全無気肺となった。入院5日目、気道確保のための気管支鏡ガイド下に左片肺挿管を試みる過程で腫瘍が左主気管支を閉塞し換気不全に陥ったため体外式膜型人工肺 (ECMO) 確立のうえ緊急気管切開をおこなった。気管支鏡下に採取した腫瘍組織より肺扁平上皮癌の診断となった。頭部MRI検査を行ったが脳転移は認めず、病期はcT4N2M0 StageIIIBと考えられた。根治的放射線治療が検討されたが早期の気管狭窄解除が必要であったこと、

無気肺による肺放射線量増大が懸念されたこと、およびN3を疑われる病変への放射線照射が困難であったことから根治的放射線治療は不可能と判断した。入院7日目より緩和的放射線治療を開始した。

放射線治療継続中の入院17日目、左中肺野に区域性のGround Glass Opacity (GGO)、浸潤影が出現した。この新規陰影については放射線肺臓炎、間質性肺炎、感染性肺炎、肺うっ血が鑑別にあげられた。同日呼吸状態は悪化しSpO₂90%を維持するのに必要なFiO₂は0.21から0.40まで上昇した。血圧低下をきたし全身状態の増悪のため放射線治療は継続困難と判断した。

入院18日目、呼吸状態はさらに悪化し、必要なFiO₂1.00での酸素投与が必要となった。呼吸不全に対してメチルプレドニンパルス療法を行ったが反応は見られず、入院23日目に呼吸不全のため死亡した。

7) 手術所見：

手術の施行なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- (1) StageⅢAとして根治可能と考え治療を開始したが、肺癌の病期を病理学的に確定すること。
- (2) 入院17病日に施行した胸部CT検査で認められたGGOの組織所見を確認すること。
- (3) 入院18日目に急激に呼吸状態が悪化したが、肺塞栓の有無を確認すること。

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

〈剖検診断〉

右肺上葉原発中分化型肺扁平上皮癌、右主気管支内腫瘍栓

両側肺血管内多発血栓

左肺滲出期びまん性肺胞障害

ショック肝、ショック腎

〈病理所見〉

右肺上葉の右気管支上幹と中間幹の分岐部に、剖面で2.3x1.5cm大の気管支内浸潤を示す中分化型扁平上皮癌を認めた。右肺の主気管支内に認められた長さ9cmの塞栓物は、腫瘍栓であった。右主気管支周囲リンパ節には扁平上皮癌の転移を認めた。解剖時の所見では肺癌の病期はpT3N1、pStageIIIAである。遠隔転移は認めなかった。

左肺は滲出期相当のびまん性肺胞障害を認め

た。両側肺には最大で4mm大のものを含む多発血栓を認めた。その他、腎、卵巣にも血栓を認めた。背景の担瘤状態や長期臥床といった血栓形成傾向があったところに、ECMO離脱後の抗凝固療法中止の後に、血栓形成が生じ、肺に多発血栓をきたした際にびまん性肺胞障害を生じたと考えられた。解剖時に両側大腿静脈、下大静脈に血栓を認めなかったが、肺血栓に関しては下肢などの静脈血栓からちぎれた血栓塞栓の可能性を考える。細菌性肺炎の像や、真菌は認めなかった。

ショック後の変化として、肝臓に右葉に強い小葉中心性（遠門脈域）の肝細胞壊死を認めた。腎には尿管上皮の壊死を認め、ショック腎の像であった。

2) 病理医からのコメント

右肺上葉原発、主気管支内腫瘍塞栓を形成した扁平上皮癌による気道閉塞、および原発巣に対する治療中に、多発血栓（血栓塞栓）を生じたと考える。左肺にはショックに起因すると考えられるびまん性肺胞障害を認めた。

10. 考 察

本症例は右主気管支から気管分岐部に及ぶ腫瘍栓により右完全無気肺を起こした肺扁平上皮癌の症例である。ECMO下に気管切開、気道確保を行ったのち、気道狭窄部位に対して緩和的放射線治療を開始した。一時は人工呼吸器から離脱できるまでに回復したが、入院17日目に胸部CT検査で肺野にすりガラス陰影を認めたのと同時に呼吸状態が悪化、その後入院18日目にはさらに急激に呼吸状態が悪化して呼吸不全のために死亡した。病理解剖を行うにあたっては入院17日目以降の呼吸不全が進行した原因の検索が最大の関心であった。

病理検索の結果、両側肺に感染や出血は認めずびまん性肺胞障害の像が認められた。また両側肺に多発血栓を認め、そのほかの明らかな原因が認められないことから肺多発血栓症によりびまん性肺胞障害、急性呼吸窮迫症候群（ARDS）が惹起されたと考えられた。

ARDSの原因として肺塞栓は稀であるとされるが1982年にWilliamsらは胸部X線写真で肺うっ血を呈した症例において右心カテーテル検査で左心不全を除外し血管造影で肺塞栓と診断した症例を報告している。¹⁾ 肺塞栓によりARDSを引き起こす機序としては血栓から放出される血管作動性物質による血管

透過性亢進が想定されている。²⁾

本症例では気管分岐部局所に対する放射線治療は行われていたものの抗腫瘍化学療法は施行されおらず癌による血栓傾向が亢進していたことも血栓症発症に寄与したものと思われる。肺塞栓を発症した肺癌患者の予後は不良であり、Leeらの報告によれば肺塞栓発症後の肺癌患者の生存期間の中央値は3.5ヶ月であった。³⁾ 血栓症に対する治療介入が行われたとしても長期生存は困難な症例であったと考えられる。

11. 参 考 文 献

- 1) Williams et al : Pulmonary embolism presenting as adult respiratory distress syndrome-support for a hypothesis. Postgraduate Medical Journal 1982 ; 58 : 290-292
- 2) Gurewich et al : Humoral factors in massive pulmonary embolism : An experimental study. American Heart Journal 1968 ; 76 : 784
- 3) Lee et al: Clinical Course of Pulmonary Embolism in Lung Cancer Patients. Respiration 2009 ; 78 : 42-48

第5回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：原因不明の激しい脳炎・けいれん重積発作により死亡した1例
2. 診療科、主治医・受持医：神経内科 大平純一郎
3. CPC開催日：平成28年12月21日
4. 発表者：臨床側（西居正汰、大平純一郎）
病理側（木下裕規、藤倉航平）
5. 患者：26歳、男性
6. 臨床診断：自己免疫性脳炎の疑い、難治性けいれん重積発作、横紋筋融解症、誤嚥性肺炎、上下肢深部静脈血栓症
7. 剖検診断：大脳白質・脳幹・脊髄の微小出血性梗塞、両側肺出血性梗塞、肝右葉出血、右腸腰筋血腫
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴

来院5日前より頭痛・発熱を認め、来院1日前に症状改善しないため、抗菌薬投与の上近医入院となった。来院当日、黒色吐血・頻呼吸・失禁をしているところを発見され、その後眼球上転を伴う強直性痙攣を2回認め、1分以内に自然鎮痙し

た。その後、強直性痙攣・呼吸停止を認めたため、ジアゼパム・ミダゾラム投与し挿管の上、プロポフォール持続投与され、髄膜脳炎疑いとして当院転送となった。

2) 既往歴・家族歴など

特記事項無し

3) 診療所見

BT 37.8度, HR 88/min (整), BP 121/65mmHg, SpO₂ 98%

E1VTM4 (プロポフォール 120mg/h投与中)

右共同偏視を伴う右上下肢・顔面間代性痙攣あり

4) 主な検査データ

〈血液検査〉 WBC 12600/ μ L, Hb 15.3g/dL, Ht 45.6%, MCV 90fL, PLT 11.6 \times 10⁴/ μ L, TP 6.2g/dL, ALB 3.3g/dL, T-Bil 0.4mg/dL, AST 140IU/L, ALT 46IU/L, LDH 647IU/L, CK 17643IU/L, Amy 171IU/L, BUN 14.8mg/dL, Cre 1.10mg/dL, Na 142mEq/L, K 4.0mEq/L, Ca 7.8mg/dL, Glu 153mg/dL, CRP 7.84mg/dL, PT-INR 1.14, APTT 37.1sec, D-dimer 5.61 μ g/mL,

〈静脈血液ガス〉 pH 7.356, PCO₂ 42.3torr, PO₂ 71.7 torr, HCO₃⁻ 23.1mmol/L, Lac 1.3mmol/L

〈髄液検査〉 色調 無色透明, 初圧 40cmH₂O, 終圧 17cmH₂O, 細胞数 23/ μ L, 単核球 22/ μ L, 蛋白 43mg/dL, Glu 94mg/dL, HSV <100copy/mL, VSV <100copy/mL, EBV <100copy/mL, CMV <100copy/mL, ADA 1.7U/L, sIL2R <50U/mL, 細胞診 陰性

〈培養検査〉 血液培養 陰性、髄液一般培養 陰性、髄液抗酸菌培養 陰性、尿培養 陰性

〈迅速検査〉 咽頭ぬぐい液中インフルエンザ (-)、髄液中肺炎球菌抗原 (-)、尿中肺炎球菌抗原 (-)

〈ウイルス検査〉 麻疹IgM (-), 麻疹PCR (-), 尿中麻疹PCR (-), 咽頭ぬぐい液中麻疹PCR (-), 風疹PCR (-), HSV-IgM (-), VZV-IgM (-), CMV-IgM (-), ムンプスIgM (-), パルボIgM (-), エンテロPCR (-), フラビPCR (-)

〈抗体検査〉 TRA抗体 <0.3IU/L, TPO抗体 10IU/L,

Tg抗体 <10IU/mL, GAD抗体 <0.5U/mL, MPO-ANCA <1.0U/mL, PR3-ANCA <1.0U/mL, 抗核抗体価 <40, リウマチ因子 6IU/mL, 髄液中NMDAR抗体 (-), (VGKC, Hu, Ma-2含む) 傍腫瘍関連抗体 全て陰性

5) 画像診断所見

〈頭部MRI〉 DWIにて左側頭葉内側に高信号あり

〈胸腹部造影CT〉 明らかな腫瘍性病変なし、両肺背側に浸潤影あり

〈脳波検査〉 基礎律動は消失、全般性の δ 帯域の徐波あり、左側頭葉を焦点とする evolution patternあり

6) 経過・治療

亜急性に進行する頭痛・呼吸停止・痙攣重積発作を認め、髄液検査・頭部MRI・脳波所見より自己免疫性脳炎もしくはウイルス性脳炎を疑った。

第1病日：細菌性／ウイルス性髄膜脳炎を考慮し、CTR_X・VCM・ACV、てんかん重積発作としてDZP・fPHT・propofol投与。

第2-5病日：抗てんかん薬投与後も1日に数回程度の間欠的な痙攣発作を認め、脳波検査にて非痙攣性てんかん重積発作として、PB・LEV投与を開始し、propofolからMDZ持続投与に変更。コントロール不良であり、高用量のPB投与を行った。

第6-8病日：各種培養陰性を確認し自己免疫性脳炎疑いとして抗菌薬終了し、IVIg・mPSLパルスを開始。

第11病日：明らかなたんかん発作なく、MDZ減量に伴い意識レベル改善。

第12病日：強直性痙攣を頻回に認めるようになり、MDZからThiopental、fPHT・LEVからVPA・peran panelに変更し、2回目のmPSLパルスを開始。

第13病日：痙攣様運動認めず、Thiopental減量。CRP高値であり、PIPC/TAZ+VCM投与。

第16-7病日：発熱・血圧低下・lac上昇あり、MEPM+VCM+MCFGにescalation。多尿ありdDAVP投与。

第18-9病日：43℃台の高体温・瞳孔散大あり、中枢性高体温としてアークティックサン開始。頭部CTにて脳浮腫あり、脳炎増悪による脳死・ショック・多臓器不全の状態と判断し、グリセオール・昇圧

剤・CHDF開始するも循環動態改善せず、死亡確認。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

脳炎の病理的所見は認めるか。あるとすれば特定の部位に局在しているか。

拡散強調像にて側頭葉に高信号を認めていたが、病理的な異常所見を認めるか。

脳死以外にショックに至った原因はあるか。

9. 剖 検 情 報

1) 剖検診断と病理所見

(1) 血栓形成傾向

1-1) 微小出血性梗塞

1-1-1)：大脳白質、脳幹、脊髄の血管周囲に微小点状出血・血栓

一部では細胞反応あり（局所的；中脳・橋）

1-1-2)：脳浮腫

1-2) 両側肺出血性梗塞（下葉優位）（右肺：480g, 左肺：449g）

1-2-1)：肺点状出血・血栓（最大径5mm）

(2) 肝右葉出血, 肝細胞脱落（軽度）（肝臓：2625g）

(3) 右腸腰筋血腫（4cm大）

(4) 消化管粘膜うっ血（食道, 胃）

(5) 横紋筋融解症（痙攣発作重積後）

5-1) 横紋筋変性（腸腰筋など）

5-2) 腎尿細管ミオグロビン沈着

(6) 両上下肢浮腫

(7) 右心室拡張（軽度）（心臓：450g）

(8) 腔水症

1) 胸水（左：淡血性300ml, 右：淡血性250ml）

2) 腹水（淡黄色400ml）

2) 担当病理医：藤倉航平、市川千宙

3) 病理医からのコメント

全脳の組織学的検索を行ったが、炎症所見に乏しく、脳炎を示唆する所見は得られなかった。中脳・橋・脊髄及び大脳白質には不規則に分布する点状出血が見られた。また5mm大までの肺血栓が認められたことから、何らかの血栓形成傾向があったものと考えられる。直接死因は明確には特定できなかったが、脳幹部の点状出血、肺出血や肺血栓が死への流れを助長したと考えられる。痙攣重責と血栓形成の関連は説明困難で、痙攣先行よりは血栓症が先行

した可能性もあるが、静脈洞血栓は剖検では確認できなかった。臨床経過からは、痙攣重責発作が先行したのと考えられており、この部分に蓋然性のある説明は見出せなかった。また自己免疫性関連の原因の一つである精巣や胸腺の奇形種を示唆する所見は確認されなかった。感染症を示唆する所見は得られず、その他に死因につながる明らかな異常所見は指摘できなかった。

10. 考 察

本症例ではてんかんの既往がない患者のてんかん発作で、1st-line Therapyのジアゼパム・2nd-line Therapyのホスフェニトイン使用後も改善しない痙攣重積発作であり、入室後の髄液・画像検査にて原因疾患が不明であったことからNew-onset refractory status epilepticus (NORSE) と診断した。NORSEの原因としては特発性52%、非腫瘍性自己免疫性19%、傍腫瘍性15%、感染性8%とされており、自己免疫性脳炎の頻度が高いと報告されている¹⁾。自己免疫性脳炎で最も多いNMDA受容体脳炎では、早期の免疫療法が予後を改善するとされている²⁾ことから、NORSEに対しても早期の免疫療法が推奨されている。本症例では、原因となりうるウイルス・自己抗体の検査・早期の免疫療法を施行したが、原因疾患は特定できず免疫抑制療法の治療効果も不良であった。

11. 参 考 文 献

- 1) Neurology. 2015; 85: 1604-1613
- 2) Lancet Neurol. 2013; 12: 157-165

【症例2】

1. 症例テーマ：Marfan症候群による大動脈解離の入院中に突然死した症例
2. 診療科、主治医・受持医：循環器内科 松本 譲、水野良祐
3. CPC開催日：平成28年12月21日
4. 発表者：臨床側（水野良祐）
病理側（三宅川和賀子）
5. 患者：33歳、男性
6. 臨床診断：大動脈解離
7. 剖検診断：胸部大動脈瘤破裂
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
Marfan症候群の家族歴があり、自身も2006年にValsalva拡大に対して自己弁温存基部置換術＋上行大動脈置換術を施行し、以後当院心臓血管外科

でフォローしていた。2010年にもB型急性大動脈解離で入院加療している。2012年2月の外来を最後に約4年間外来通院を自己中断していた。

2016/3/22の昼から徐々に増悪する臍の奥辺りの腹痛が出現し、当院に救急搬送された。造影CTで下行大動脈近位部から総腸骨動脈分岐部に及ぶ急性大動脈解離、また下行大動脈近位部に最大径55mm、腹部大動脈に最大径60mmの大動脈瘤を認めた。

B型大動脈解離に対する加療目的に同日入院となった。

2) 既往歴：HT+、DM-、HL-、HUA-、Smo+、Marfan症候群

自己弁温存基部置換術+上行大動脈置換術、B型大動脈解離、左腎萎縮

内服歴：なし 生活歴：喫煙 20本/日 飲酒なし
アレルギー：オムニパーク

家族歴：父、長兄がMarfan症候群で突然死、次兄も人工血管置換術後

3) 診療所見

身長184.2cm、体重80.4kg 心音整 呼吸音清
腹部硬 圧痛±

BP：141/89mmHg HR 82bpm BT 35.8℃ SpO₂ 98% (RA) RR 17回/日

血圧左右差なし

4) 主な検査データ

WBC 15800/ μ L Hb 14.9g/dL PLT 20.8万/ μ L
BUN 11.1mg/dL Cre 0.99mg/dL CRP 2.00mg/dL
dLD-dimer 38.23 μ g/mL Lac 1.6mmol/L

5) 画像診断所見

胸部Xp：左第1弓突出、心拡大なし、CPA鋭、
肺野異常陰影なし、側湾あり

心電図：HR 80bpm sinus ST-T変化なし

心エコー：Dd/Ds 36/20 EF 65% asynergyなし

弁膜症なし DesAo 53mm

胸腹部造影CT：下行大動脈近位部から総腸骨動脈分岐部に及ぶ急性大動脈解離
下行大動脈近位部に最大径55mm、腹部大動脈に最大径60mmの大動脈瘤、腸管虚血なし 左腎高度萎縮

6) 経過・治療

ニスタジール (day 1-3) とアムロジピン/アダラートで降圧、フェンタニル (day 1-2) とカロナール/ロキソニン/ペンタジンで鎮痛、day

1 床上安静、day 2 トイレ歩行可、day 3 からポータブルトイレに戻した。

day 3 のCT再検では進行なく偽腔血栓化を認めていたが、同日から軽度の腹痛と背部痛が出現し、鎮痛薬で経過を見ていた。

day 9 に呼吸停止で発見され、CPR行っても蘇生できず、緊急手術の適応もなく、死亡となった。

day 10 に病理解剖を行った。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

再解離の場所は前回と同様か。またそこが穿破部位か。

Marfan症候群の臓器合併症は他にあったか。

経過中に出現した腹痛+背部痛はAAAによるものか。もしくは他に原因があれば何か。

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

胸腹部大動脈解離・破裂

(1) 大量血胸 (3 L 以上)

【副病変】

(1) Marfan症候群疑い

a. 大動脈基部置換術後

b. 脊柱側弯

(2) 左腎萎縮

(3) 脾粥量増加

【病理所見】

栄養状態良好な男性。水晶体の脱臼は認めなかった。前胸部には約27cmの手術痕を認めた。

左胸腔内には、血性胸水が3L以上みられ、一部凝血していた。血胸により左肺は圧排されていた。

大動脈は、左鎖骨下動脈分岐部より約3cm末梢でエントリーがみられ、総腸骨動脈分岐部近傍まで偽腔を形成していた。内部には比較的新しい非器質化血栓が充満していた。左肺門部レベルで外膜の破綻がみられ、左胸腔内に大量出血をしていたものと考えられる。組織学的にも、肉芽組織の像を呈する外膜の破綻が確認された。腹部では、腹腔動脈分岐部レベルで、非器質化血栓の充満した偽腔より内膜側に、フィブリン血栓が充満していた。大動脈基部から上行大動脈の一部には人工血管がみられた。心臓では、弁や心筋に著変はみられず、腔内に血栓は認めなかった。背景の大動脈壁は、中膜の弾性線維の微小な断裂が散見されたが、嚢胞性中

膜壊死の像は目立たなかった。

肺は、両側共に下葉を主体にうっ血がみられたが、死後の変化と考えられた。気管内に血性痰の付着がみられるが、心臓マッサージの影響と考えられた。含気は保たれており、明らかな肺内の出血は指摘できなかった。

左腎動脈基部で狭窄がみられ、左腎は萎縮していた。組織学的にも、多くの糸球体が硬化しており、虚血性の変化と考えられた。

脾臓は、脾粥量が増加し、軟化していたが、組織学的には著変はみられなかった。

その他の臓器に明らかな著変はみられなかった。

今回、下行大動脈から総腸骨動脈分岐部まで新しく大動脈解離を起こしていた。左肺門部レベルで外膜が破綻し、左胸腔内に大量出血し、死に至ったものと考えられた。

2) 担当病理医：三宅川和賀子、上原慶一郎

3) 病理医からのコメント

胸部下行大動脈では、一部に古い解離腔と考えられる血管腔が壁内にみられ、その外側に今回の解離腔を認めた。腹部では紡錘形状大動脈瘤がみられ、内腔に比較的新しい壁血栓が認められた。その外側に今回の解離腔がみられ、腎動脈分岐部より2～3cm程度末梢まで今回の解離腔が続いていた。

胸部の新しい解離腔には壁内にリンパ球や線維芽細胞の浸潤がみられることから、今回の解離により入院時の腹痛がみられ、その部分が破綻したことにより大量血胸から死に至ったものと考えられる。

第6回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：前立腺出血によりショックを来したと思われる一例
2. 診療科、主治医・受持医：泌尿器科 鈴木一生
3. CPC開催日：平成29年2月15日
4. 発表者：臨床側（山口 尊）
病理側（牧田哲幸）
5. 患者：88歳、男性
6. 臨床診断：前立腺出血によるショック
7. 剖検診断：前立腺肥大症、前立腺膀胱移行部出血
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴

X日9時に血尿が出現し、10時に凝血塊が見られた。16時半には多量の凝血塊により膀胱カテーテルの閉塞有り。洗浄を行ったが血圧が低下し、末梢冷感著明となったため当院転送となった。

2) 既往歴・家族歴など

心筋梗塞、脳梗塞、尿閉、光覚弁、Alzheimer型認知症、腸閉塞

3) 診療所見

vital sign：BT 36.8℃，BP 84/58mmHg，HR 115/min，RR 23/min，SpO₂ 100% (5LO2)，GCS E4V4M6

4) 主な検査データ

[血液検査]

血算：WBC 13.1*10³/μL (Seg 76.0%，Lymph 7.0%，Mono 5.0%，Eos 6.0%，Baso 0.0%)，RBC 280*10⁴/μL，Hb 9.0 g/dL，MCV 92 fL，MCH 32.1 pg，PLT 12.9*10⁴/μL

生化：TP 5.2 g/dL，Alb 2.3 g/dL，T-Bil 0.4 mg/dL，AST 19 U/L，ALT 14 U/L，LD 264 U/L，ALP 187 U/L，γ-GTP 14 U/L，CK 62 U/L，Amy 82 IU/L，BUN 29.2 mg/dL，Cr 1.36 mg/dL，eGFR 38 mL/min/1.73m²，Na 136 mEq/L，K 3.2 mEq/L，Ca 7.3 mg/dL，Glu 112 mg/dL，CRP 0.79 mg/dL

[尿培養] Proteus mirabilis ESBL 10⁴，Escherichia coli 10⁵，Pseudomonas aeruginosa 10⁴，Streptococcus group G 10⁵

[血液培養] No growth

[心電図] HR 102/min、心房細動

5) 画像診断所見

[胸部X線] 心拡大なし、浸潤影なし、胸水なし

[胸腹部造影CT]

前立腺肥大あり、尿道バルーン留置中。活動性出血を示唆する造影剤漏出像なし。

尿路に粗大な腫瘍性病変なし。水腎症なし。

6) 経過・治療

X日：造影CTおよび膀胱造影で明らかな活動性出血や膀胱損傷見られず、膀胱洗浄後に血尿は消失した。輸液で血圧も改善し、帰宅の方針となった。

X+1日：朝方から再度血尿が出現し、膀胱洗浄でも止血を得られなかった。血圧低下およびHb低下も見られ、輸血を開始し、入院のうえICU管理となった。

X+3日：早朝に再度血尿が出現し、血圧低下

およびHb低下が見られた。膀胱タンポナーデ解除目的に経尿道的焼灼術を施行され、可及的に出血源になりそうな部位を焼灼された。術後に再度出血が出現したが、全身状態からこれ以上の積極的な治療は難しく、家族との相談のうえDNRの方針となった。

X+4日：朝8時、永眠された。

7) 手術所見

少量のコアグラ、血尿あり、まずは膀胱洗浄施行しコアグラ除去した。

膀胱内全体を観察したがactiveな出血なく、頸部を全周にTUR止血。

22Fr3wayバルーンを留置。

膀胱洗浄を施行し、血尿がないことを確認し、終了。

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- (1) 出血の原因は何か。腫瘍性病変はあったか。
- (2) 死因は出血性ショックだけで良いか。

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) 前立腺肥大症 (TUR焼灼止血後) (膀胱と合わせて187g)
 - 1-1) 前立腺間質過形成
 - 1-2) 前立腺-膀胱境界部出血 (膀胱内凝血塊：少量)
- (2) 小腸非閉塞性腸管虚血・出血 (血性泥状内容物多量)

【副病変】

- (1) 誤嚥性肺炎 (左下葉) (左：290g)
- (2) ショック肝 (756g)
- (3) 左室陳旧性心内膜下梗塞 (急性心筋梗塞既往) (349g)
- (4) 増殖性糸球体腎炎 (潜在的DM疑い、他の鑑別；Mタンパク血症等) (右腎：174.8g、左腎329.5g)
- (5) 胃粘膜出血 (軽度)
- (6) 脾うっ血 (58g)
- (7) 結腸憩室症
- (8) 右腺腫様甲状腺腫 (20.4g)
- (9) 両側腎嚢胞
- (10) 両側陰嚢水腫 (右：56.6g、左：39.4g)
- (11) 大動脈粥状硬化症 (高度)
- (12) 腹水 (淡黄色透明 600ml)

肉眼像の段階では、前立腺肥大、消化管出血、陳旧性心内膜下梗塞、肝うっ血が主な検索事項に挙げられた。

2) 担当病理医：藤倉航平

3) 病理医からのコメント

病理所見からは前立腺肥大症による出血性ショックが直接の死因で、このショックに起因する非閉塞性腸管虚血・出血が死の転帰を更に助長したものと考えられる。

組織学的には、前立腺に著明な間質過形成が確認されたが、明らかな悪性所見は指摘できなかった。尿路の出血は、前立腺肥大症による尿路の破綻によるものとして矛盾しない。小腸には粘膜壊死とうっ血が確認され、明らかな閉塞起点は確認されないことから、非閉塞性腸管虚血の所見と考えられた。肝臓には広範な鬱血所見と部分的な肝細胞脱落が観察され、ショック肝と考えられた。

副病変としては、左下葉誤嚥性肺炎、増殖性糸球体腎炎 (潜在的DM疑い)、左室内膜下梗塞、大動脈粥状硬化症が観察された。その他に、脾うっ血、大腸憩室、右腺腫様甲状腺腫、腎嚢胞が確認されたが、いずれも死因につながる所見は指摘できなかった。

10. 考察

前立腺前部からの血尿の原因としては、前立腺肥大症、医原性の尿路損傷、前立腺癌、放射線治療後などが挙げられる。とくに、放射線治療後は前立腺粘膜の浮腫や毛細血管拡張、粘膜虚血などによる出血の頻度が高い。診断には、膀胱鏡、CTなどの画像所見、尿培養、尿細胞診などの検査が必要であり、出血源を確定するとともに、悪性の可能性を除外する必要がある。

前立腺前部からの血尿はたいていは身体活動の制限、水分摂取の励行、膀胱バルーン留置などの保存的治療により軽快するが、これらに抵抗性を示し、繰り返す場合には、今回のような致命的な経過を取ることもある。一般に、治療は低侵襲のものから徐々に侵襲の大きなものへと以降し、上記の他、5 α 還元酵素阻害薬の内服、科学的焼却剤の膀胱内注入療法なども一定の効果がある。これらで軽快しなければ、経尿道的な前立腺摘除やPVPなどの処置、さらには、経腹の前立腺全摘まで必要になることもありえる。

このところは、侵襲が少なく効果が期待できる治療として、前立腺動脈塞栓術がある。局所麻酔で施

行可能であり、手術よりも低侵襲、合併症を減らすことができる。また、動脈塞栓により前立腺の縮小効果もあり、術後排尿症状の軽快も期待できる。

ご本人やご家族との相談も必須であるが、治療抵抗性の前立腺前部からの出血に対しては、上記治療手段の中から適切なものを適切なタイミングで施行していく必要がある。

11. 参考文献

Keith Pereira, et al : Role of prostate artery embolization in the management of refractory haematuria of prostatic origin. BJU Int 118 : 359-365, 2016

【症例2】

1. 症例テーマ：全身多発血栓症により死亡したと考えられる一例

2. 診療科、主治医・受持医：総合内科 志水隼人
森 充広
亀井博紀

3. CPC開催日：平成29年2月15日

4. 発表者：臨床側（森 充広）
病理側（川崎 翠）

5. 患者：31歳、女性

6. 臨床診断：SLE腸炎

7. 剖検診断：全身性エリテマトーデス 全身性の血栓性塞栓症

8. 臨床情報：

1) 現病歴

X-20日 全身倦怠感と便秘が出現した。嘔気・嘔吐や腹痛は認めなかったが、食事や間食をほとんどしなくなった。

X-14日 倦怠感が強く近医受診し、入院となった。受診時に軽度の腹部膨満、下腹部の圧痛を認め、腹部CTでは腹水貯留、腸管浮腫を認めた。
入院時から発熱を認めていた。腹水の原因の精査のため、腹部CT、MRI検査、腹水検査など施行された。

X-4日 38度台の発熱続いていたが、本人の希望により自宅退院となった。

X-3日 倦怠感、食欲不振が強く再入院となった。同日夜に夜間に叫んだり、頻回にナースコールをするといった意識障害がみられた。

X日 原因精査目的に当院総合内科転院の予定で調整中であったが、呼吸不全・頻脈・

胸水増加など全身状態が悪化したため当院救急搬送、入院となった。

2) 既往歴、家族歴など

食道閉鎖で腹部手術歴あり（0歳）

多指症術後（小児期）、てんかん（25歳）

脊髄小脳変性症・歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症（26歳）

カルバマゼピン、ゾニサミドで薬疹のアレルギー歴

3) 診療所見

身長 155cm、体重 49.9kg

Vital signs : GCS E4V4M6, BP 88/66mmHg, HR 178/分, RR 18/分, SpO₂ 95% (不明), BT 38.0℃

頭頸部：結膜蒼白なし／黄疸なし 結膜 点状出血はなし

顔面に皮疹は認めない 瞳孔 8mm/8mm 対光反射 prompt/prompt 睫毛反射

胸部：心音 過剰音なし／雑音なし、肺音 下肺で減弱 cracklesは聴取せず

腹部：膨満、軟、側腹部で濁音、波動は触れず、心窩部正中から3横指左側に十字の手術痕

関節：小関節、大関節ともに発赤、腫脹、熱感はなし

手指：皮膚硬化・皮疹は認めない

皮膚：体幹、四肢に網状皮斑を認める

前脛骨部：浮腫は認めない

4) 主な検査データ

血液検査：

[血算] WBC $3.6 \times 10^3 / \mu\text{L}$ (Blast 0%, Promyelo 0%, Myelo 1.0%, Meta 1.0%, Band 21%, Seg 48%, Lymph 26%, Mono 21.0%, Eos 2.0%, Baso 0.0%), RBC $337 \times 10^4 / \mu\text{L}$, Hb 8.9 g/dL, Ht 29.7%, MCV 88fL, Plt $27.9 \times 10^4 / \mu\text{L}$

[凝固] PT-INR 1.37

[生化学] Na 131 mEq/L, K 5.8 mEq/L, Ca 7.9 mg/dL, P 5.4 mg/dL, マグネシウム 2.3 mg/dL, TP 5.3 g/dL, Alb 1.9 g/dL, T-Bil 0.3 mg/dL, AST 27 U/L, ALT 10 U/L, LDH 323 U/L, γ -GTP 19 U/L, ALP 188 U/L, BUN 36.2 mg/dL, Cre 1.16 mg/dL, Amy 54 U/L, CK 99 U/L, Glu 172 mg/dL, CRP 3.30mg/dL, Fe $26 \mu\text{g/dL}$, UIBC $173 \mu\text{g/dL}$, C3 43 mg/dL, C4 10 mg/dL,

IgG 1, 417 mg/dL, IgA 195 mg/dL, IgM 57 mg/dL, フェリチン 219.4 ng/mL
抗核抗体 640倍, 抗RNP抗体 216 U/mL, 抗SM抗体 20.9 U/mL, 抗SSA抗体 1200 U/mL, 抗SSB抗体 28.3 U/mL, 抗dsDNA抗体 7.5 IU/mL, LA 1.2ratio, CL-B2GP01 <0.7 U/mL, CL-IgG <8.0 U/mL

[動脈血ガス] pH 7.139, pO₂ 101.0 Torr, pCO₂ 63.0 Torr, HCO₃⁻ 20.5 mmol/L, AG 16.5 mmol/L, Lac 13.0 mmol/L

[腹水] TP 4.4 g/dL, ALB 1.9 g/dL, LD 424 U/L, TG 62 mg/dL, GLU 48 mg/dL
CBC WBC 0.3 × 10³/μL [Seg.79.0%, Lymph.13.0%, Mono.0.0%, Eos.0.0%, Baso.0.0%, 組織球7.0%, 中皮細胞1.0%], Hb 0.0g/dL, Ht0.0%

[胸水] ADA 34.8 U/L

感染症検体:

[血液検査] HBs-Ag (-) HBc-Ab (-) HCV-ab (-)
HIV1/2ab (-) T-SPOT (-)

[血液・腹水・胸水培養] それぞれ陰性

[痰 3回・胸水・腹水 抗酸菌] それぞれ鏡検
陰性 PCR検査
陰性

5) 画像診断所見

座位胸部X線: 右中下葉に葉間胸水+, 左C-P角鈍, 左下肺透過性低下

腹部造影CT: 両側下肺背側に胸水+, 浸潤影+, 腹水+, 両側腎臓低吸収域,
小腸壁の浮腫 (target lesionをとまなう), 頸部・腋窩・傍大動脈部のリンパ節腫脹

6) 手術所見

ROSC後もショック状態であり、敗血症性ショックの可能性を考えメロペネム 1g+バンコマイシン 1gを開始した。造影CTでは腸管浮腫・胸腹水貯留を認め、鑑別としてSLEやMCTD・AOSDなどの漿膜炎を来す自己免疫疾患、結核、悪性腫瘍を挙げた。若年女性である点から、SLEによる漿膜炎およびループス腸炎を最も疑い、ステロイドパルス (メチルプレドニゾン 500mg×2/day) を開始した。腹腔内圧コントロールのため腹腔内アスピレーションキットを挿入した。治療開始後、平均血圧は70 mmHgを維持できたため、入院当日夜にアドレナリンを中止し、ノ

ルアドレナリンの減量をした。しかし、動脈血ガスで、高乳酸血症、アシドーシスが遷延し、第2病日の採血で、AST・ALTの上昇、血小板減少、凝固能亢進を認めDICと考えられた。また経時的に血清乳酸値が上昇傾向であり、CHDFを開始した。CHDFを開始した後も乳酸アシドーシスが遷延するため、腸管壊死の可能性を考え、胸腹部造影CTを再施行した。胸腹部造影CTでは肝臓、両側腎臓、小腸、結腸にそれぞれ造影不領域を認めため腸管虚血を考え、同日緊急手術を行った。

開腹したところ、上部小腸より肛門側の小腸はほぼ全域に、上行結腸にもまだら状の壊死を認め、腸管の壊死範囲が広く、切除しても救命は不可能と判断し試験開腹のみとなった。その後、徐々に血圧低下し第3病日に永眠とされた。

7) 症例の問題点 (剖検で解明したかった事項)

- (1) 腹水、腸管浮腫の原因は病理学的にSLEによる腸炎に一致するものであったか
- (2) 腎臓など多臓器でもSLEを示唆する所見はあったのか
- (3) 腸管壊死部は血栓による微小血管障害に一致する病理所見であったか

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) 多発血栓症 (小腸、腎、肺に血栓形成)
- (2) ショック肝 (右葉優位、1217g)
- (3) 循環不全

【副所見】

- (1) 全身性エリテマトーデス
メサンギウム増殖性糸球体腎炎 (馬蹄腎 267g)、胸膜炎、心膜炎
- (2) 気管支肺炎
- (3) 脊髄小脳変性症 (歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症)
- (4) 先天性食道閉鎖症術後

2) 担当病理医: 前田絢奈

3) 病理医からのコメント

死後3時間に開頭開胸開腹にて検索を行った。体表所見では、網状皮斑と、口唇の出血斑が観察された。試験開腹時の皮切に沿って開腹すると、肉眼的に小腸の広範囲に暗赤色であり、うっ血・壊死を認めた。開胸すると両側胸腔内に胸水と、胸膜癒着が認められた。血栓の有無に関して大血管や、上腸間膜動脈、下腸間膜動脈の中樞側を検

索したが、肉眼的に検出できる血栓はみられなかった。顕微鏡的には、空腸遠位側から回盲部にかけて腸管壁は菲薄化し、広域に粘膜の出血、壊死を認め、一部では筋層も含めて全層性に壊死がみられた。漿膜脂肪組織内の微小血管に血栓形成がみられた。ループス腸炎を考える明らかな壊死性血管炎は認められなかった。他、腎臓の糸球体内の毛細血管と、肺内の毛細血管の微小血管内に多数の血栓形成を認めた。これらの所見から、当症例の腸管壊死などの多臓器不全は血栓形成に伴うものと考えられた。組織学的には、微小血栓形成の所見であり、現時点では検索範囲で血清学的に抗リン脂質抗体陰性であるが、劇症型リン脂質抗体症候群や、その他類縁の血栓形成疾患が背景にある可能性が考えられた。

腎臓にはメサンギウム増殖を認め、蛍光抗体法でC1q 2+であり、メサンギウム増殖性ループス腎炎と考えられた。他、胸膜炎、心膜炎も認められ、背景疾患として全身性エリテマトーデスが認められた。他、心肺停止、蘇生後の変化としてショック肝を認めた。その他、気管支肺炎や肺うっ血が認められた。

脳には明らかな血栓形成は検出できなかったが、全身に血栓形成傾向が認められたことから微小な血栓の存在は否定できない。中枢神経ループスに認められるような血管炎は認められなかった。歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症の所見として、歯状核に萎縮が認められ、組織学的には神経細胞の減少を認め、残存する神経細胞にグルモース変性を認めた。

【総括】 小腸、腎臓、肺に血栓を認め、腸管壊死、多臓器不全は全身性の血栓形成によるものと考えられた。

10. 考 察

全身性エリテマトーデスの腹膜炎、胸膜炎による胸腹水貯留、ショック、腸管壊死を起こしたと考えられる1例を経験した。死亡後であるが抗核抗体の高度陽性に加え、SM抗体は陽性であり、全身性エリテマトーデスが背景疾患としてあったと考えられた。転院時より乳酸アシドーシスは遷延しており、心肺停止となる前から腸管壊死が進んでいた可能性がある。腸管壊死に至った原因として血栓性微小血管障害を考えたが、その誘因として抗リン脂質抗体は陰性であり、抗リン脂質抗体による血栓の可能性は低いと考える。病理解剖では上腸間膜動脈、下腸

間膜動脈の中枢には明らかな血栓はみとめず、びまん性の出血壊死を認めており、微小血管の閉塞による虚血を疑う所見であった。血栓性の微小血管障害の誘因は、臨床上も、病理所見上も判明しなかった。全身性エリテマトーデスが二次性の血栓性微小血管障害になるとの報告がある¹⁾。また、自己免疫疾患に伴う血栓性微小血管障害の6割は、血栓性微小血管障害発症後、もしくは同時期に診断されており、合併する自己免疫疾患として全身性エリテマトーデスが最多との報告もある²⁾。以上からは、本症例も全身性エリテマトーデスや抗体陰性の劇症型リン脂質抗体症候群により微小血管障害が起き、それにより腸管虚血より死の起点となった可能性がある。

11. 参 考 文 献

- 1) Br J Haematol. 2014 Mar ; 164 (6) : 759-766
- 2) Medicine (Baltimore). 2015 Oct ; 94 (42) : e1598

Ⅲ. C P C 報告

Ⅲ. 2 C P C 報告 (2016年4月~2017年3月) (西市民病院)

第1回西市民病院C P C 報告

1. 診療科、主治医・受持医：消化器内科 星 充
吉岡紘輝

2. C P C 開催日：2016年4月26日

3. 発表者：臨床側（吉岡紘輝）、
病理側（勝山栄治）

4. 患者：50才台、男性

5. 臨床診断：前立腺炎、骨盤内膿瘍

6. 剖検診断：前立腺周囲膿瘍

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 前立腺周囲膿瘍

II. 腎膿瘍（左：200、右：200g）

III. 肺炎およびうっ血水腫（左：900、右：720g）

IV. 胃潰瘍（胃角部）

V. 冠動脈粥状硬化症（前下行枝、軽度）

VI. 肝脂肪変性（1200g）

*胃角部に大きな潰瘍をみます。組織にて悪性所見は認められません。*胃から下部消化管には血性内容物をみますが、その他には出血源となる病変は認められません。*骨盤腔、腎に膿瘍をみました。細菌培養にて*Klebsiella pneumoniae* (2+) 認めました。*肺の浸潤影、結節影および左腎の結節影はいずれも肺炎および膿瘍によるものでした。

2) 担当病理医：勝山栄治

第2回西市民病院C P C 報告

1. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 富岡洋海
豆鞆伸昭
太田秀人

2. C P C 開催日：2016年5月31日

3. 発表者：臨床側（太田秀人）、
病理側（勝山栄治）

4. 患者：70才台、女性

5. 臨床診断：強皮症、間質性肺炎

6. 剖検診断：慢性間質性肺炎

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 慢性間質性肺炎（左：500、右：650g）

A. 肺高血圧症

B. 強皮症

II. 肝褐色変性

III. 腔水症

A. 胸水（左：50、右：100ml、血性）

B. 心嚢水（10ml、黄色透明）

*両肺とも表面はいくら状となり、硬く触知されず。肉眼的に慢性間質性肺炎の所見です。組織では胸膜直下に蜂巣状変化があり、UIP pattern相当と考えます。*ごくわずかに真菌増生をみますが、*carinii*の増生は認められません。肺の細菌培養で、*Xanthomonas maltophilia* 少数、*Escherichia coli* 少数、*Aspergillus fumigatus* 少数、*Candida spp.* 1+を認めました。

*肺動脈内膜の肥厚があり、肺高血圧症に一致します。

*一部に肺水腫、肺胞出血、ヒアリン膜形成をみました。

*食道および前胸皮膚の組織では著変を認めません。

2) 担当病理医：勝山栄治

第3回西市民病院C P C 報告

1. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 鎌田貴裕
富岡洋海
山下遥介
荻野敦子

2. C P C 開催日：2016年7月26日

3. 発表者：臨床側（山下遥介）、
病理側（藤倉航平）

4. 患者：60才台、男性

5. 臨床診断：肺癌

6. 剖検診断：肺癌

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 肺癌（左S6、高～中分化型線癌、左肺：560、
右肺：500g）

A. 同転移（脾臓、顕微鏡的）

B. 癌性リンパ管炎

II. 心膠様変性（270g、手拳の1.3倍大）

III. 肝褐色変性（700g）

IV. 腔水症

A. 右胸水（400ml、黄色透明）

B. 心嚢水（5ml、黄色透明）

V. るいそう

*肺の組織所見では、腺管形成、乳頭状パターンをとる腫瘍細胞の増生をみ、*Adenocarcinoma*の所見です。

*癌性リンパ管炎の所見を認めました。*脾臓に小さな転移をみましたが、その他の臓器には転移は認められません。*肺はやや硬く触知しましたが、慢性間質性肺炎の所見はありません。*腹水はなく、また腹膜播種、癒着もなく腹腔概観はきれいです。*消化管にも出血はありません。

1) 担当病理医：藤倉航平・勝山栄治

第4回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：消化器内科 星 充
古屋誠彦

2. C P C開催日：2016年9月27日

3. 発表者：臨床側（古屋誠彦）、
病理側（藤倉航平）

4. 患者：70才台、男性

5. 臨床診断：出血性ショック

6. 剖検診断：二重複癌

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 二重複癌

A. 十二指腸原発濾胞性リンパ腫治療後状態

B. 肝細胞癌（再発なし）

1. c型肝硬変

a) 門脈圧亢進症

(1) 脾腫（300g）

II. 転倒後状態

A. 恥骨座骨折

B. 前下腹部腹壁内血腫

C. 右腎周囲後腹膜血腫

D. 横行結腸漿膜下血腫

III. GIST（胃前後壁漿膜下（直径5mm, 複数））

IV. 求心性心肥大（500g、手拳の1.3倍大、左室前壁厚：2.0cm）

A. 大動脈粥状硬化症（中等度）

V. 腔水症

B. 胸水（右400ml、左150ml）

*下腹部、後腹膜腔に出血があり、それによる急死と考えます。*心には冠動脈を含め、著変はありません。

*十二指腸には濾胞性リンパ腫の残存をみます。*胃漿膜面には小さなGISTを複数認めました。*肝癌の再発は認められません。*食道静脈瘤は認められません。*消化管内容は黄色軟便で、血性ではありませんでした。*出血傾向は明かではありませんでした。

2) 担当病理医：藤倉航平・勝山栄治

第5回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 高田寛仁
小原靖子
白 健人
星 充

2. C P C開催日：2016年10月25日

3. 発表者：臨床側（白 健人）、
病理側（前田紘奈）

4. 患者：60才台、男性

5. 臨床診断：腺癌

6. 剖検診断：腺癌

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 腺癌（腺尾部、中分化型腺癌、同転移あり）

A. 肝（1300g、直径3cm以下多数）

B. 肺（左300g、右352g、1mm未満の顕微鏡的転移）

C. 癌性腹膜炎

1. 血性腹水（6000ml）

II. 求心性心肥大（380g、手拳の1倍大、左室厚：2cm）

III. 肺気腫（左：300、右：380g）

IV. 腔水症

A. 胸水（左：200、右：400ml、血性）

B. 心嚢水（5ml、黄色透明）

*腹膜には小結節を無数に認め、腸管も癒着します。大網も一塊となり、いわゆるomental cakeの状態です。*腹部臓器を一塊として取り出し、固定後剖にて検討したところ、腺には、10cm大の嚢胞がみられ、その周囲の脂肪組織や胃などの隣接臓器に浸潤する中分化型腺癌を認めました。肝臓には肉眼的に多数の白色充実性結節を認め、そこに一致して腺癌の転移を認めます。肺にも顕微鏡的転移を認めます。腸管の漿膜面をはじめ、腹膜にはびまん性に広範な腺癌の播種を認めます。

2) 担当病理医：前田紘奈・勝山栄治

第6回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 高田寛仁
植村久尋
白 健人
黒田紗菜恵

2. C P C開催日：2016年11月29日

3. 発表者：臨床側（黒田紗菜恵）、
病理側（合田直樹）

4. 患者：70才台、男性
5. 臨床診断：肝癌
6. 剖検診断：肝細胞癌治療後状態
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 肝細胞癌治療後状態

A. 横隔膜下膿瘍形成

1. 腹膜炎（腹水：350ml、やや濁）

B. 肝硬変および脂肪肝

1. 脾腫

II. 肺うっ血水腫（左：650、右：750g）

A. ARDS

B. 右陳旧性胸膜炎

C. 右横隔膜プラーク形成

III. 心肥大（550g、手拳の1.2倍大）

A. 大動脈粥状硬化症（高度）

1. 良性腎硬化症（左：150、右：150g）

B. 冠動脈硬化症

気道内異物あるいは肺動脈血栓は認められません
 食道静脈瘤は認められません。*消化管内容も血性でなくきれいです。*
 腹水はやや濁で、その細菌培養にて、P. putida (2+)、S. haemolyticus (2+)、E. faecium (2+)を認めました
 肝横隔膜に接する部分に膿瘍があり、その部分の肝に穿破がみられました。その部分の膿からの細菌培養で、E. faecium (2+)、E. avium (1+)を認めました
 右下葉の細菌培養で、E. coli (1+)、E. faecium (1+)を認めました
 *肺の組織所見で、ヒアリン膜形成をみ、いわゆるARDSの所見です。

2) 担当病理医：合田直樹・勝山栄治

第7回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 北村 薫
高田寛仁
越智達哉
2. CPC開催日：2017年1月31日
3. 発表者：臨床側（越智達哉）、
病理側（藤倉航平）
4. 患者：70才台、女性
5. 臨床診断：急性大動脈解離
6. 剖検診断：上縦隔血腫
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 上縦隔血腫（頸部頸動脈周囲、喉頭食道後側、
気管周囲、右肺門部、食道周囲）

- A. 純血性胸水（右500ml、左1500ml）

B. 心外膜下出血

C. 大動脈粥状硬化症（軽度～中等度）

1. 求心性心肥大（左室心室厚：2cm）
2. 良性腎硬化症（左：100、右：100g）

II. 肺気腫（左：220、右：300g、軽度）

III. 肝褐色変性（560g）

喉頭食道後側から肺門部、食道周囲にまで至る血腫形成をみます。純血性胸水を多量にみましたが、それらはこの血腫からの出血と考えます。
 大動脈には軽度～中等度の硬化をみましたが、穿孔は認められませんでした。出血に広がりからより細い動脈あるいは静脈からの出血と考えられますが、出血部位の確定は困難でした。
 心外膜下に出血をみましたが、心肺蘇生の影響もあり、判断が難しいです。心嚢水はほとんどなくタンポナーデの所見はありません。
 求心性心肥大をみますが、心筋梗塞の所見はみません。
 *腹腔は腹水、癒着などなくきれいです。消化管内容も血性ではありませんでした。

2) 担当病理医：藤倉航平・勝山栄治

第8回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 富岡洋海
森田充紀
荻野敦子
2. CPC開催日：2017年2月28日
3. 発表者：臨床側（荻野敦子）、
病理側（前田紘奈）
4. 患者：70才台、女性
5. 臨床診断：Yellow nail syndrome
6. 剖検診断：気管支拡張症
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 気管支拡張症（左：500、右：500g）

A. 気管支肺炎

B. 肺うっ血水腫

C. 両側慢性胸膜炎（高度癒着）

II. 陳旧性心外膜炎（高度癒着、心重量：200g、
手拳の1.2倍大）

III. 肝褐色変性

IV. るいそう

V. Yellow nail syndrome

両肺はやや硬く触知し、その剖面では含気に乏しく実質の硬化が認められました。肺実質が嚢状に改変された部分も認められました。
 *組織所見では、気管支や肺胞内には無数の好中球が認められ、気管支肺炎の

所見でした。末梢気管支の拡張と、気管支壁の活動性炎症像や、リンパ球浸潤や線維化からなる慢性炎症像が認められ、気管支拡張症に伴う所見も認められました。右上葉などでは気管支周囲の肺実質の線維化がひろく認められる部分も認められました。肺動脈には明かな壁肥厚は認められませんでした。*左上葉と左下葉からの検体で、c. koseri、s. epidermidis、e. faecalisが少数検出されました。*両側肺ともに拡張したリンパ管が比較的目立ち、yellow nail syndromeとしても矛盾しないと思われます。*両側胸膜の高度の癒着があり、胸水は認められません。*心外膜にも高度の癒着をみました。*腹腔概観は腹水あるいは癒着もなく、きれいです。

2) 担当病理医：前田紘奈・勝山栄治

第9回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 富岡洋海
石田 光
堀内沙也香

2. CPC開催日：2017年3月28日

3. 発表者：臨床側（堀内沙也香）、
病理側（家村宜樹）

4. 患者：80才台、男性

5. 臨床診断：心筋梗塞

6. 剖検診断：大腸癌術後状態

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. S状結腸癌術後状態（再発なし）

II. 急性心筋梗塞（500g、手拳の1.1倍大、前壁）

A. 心肥大（左心室厚：1.5cm）

B. 冠動脈硬化症（高度）

III. 肺うっ血水腫（左：450g、右：750g）

IV. 急性気管支肺炎（右肺軽度）

V. 肝褐色変性

VI. ひまん

*心臓の固定後剖面では、前壁から中隔の内腔側に壊死を認めました。*冠動脈には、3本の分枝すべてに高度の粥状硬化性変化をみとめました。血栓の形成は確認できませんでした。*腹腔概観は腹水もなくきれいです。*肺に転移は認めませんでした。*間質性肺炎の所としては、胸膜直下の線維化がみられますが、陳旧性の線維化が主体でした。活動性の所見としては、一部わずかに硝子膜様の変化をみとめました。

2) 担当病理医：家村宜樹・勝山栄治

Ⅲ. CPC報告

Ⅲ. 3 CPC報告 (2016年4月～2017年3月) (西神戸医療センター)

第1回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：腎不全、高Ca血症を呈した多発性骨髄腫の1例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液科 高原佳央里
田中康博
3. CPC開催日：2016年6月27日
4. 発表者：臨床側 (高原佳央里)
病理側 (橋本公夫)
5. 患者：84歳、男性
6. 臨床診断：多発性骨髄腫、骨髄腫腎、偽膜性腸炎
7. 剖検診断：多発性骨髄腫
8. 臨床情報：

【主訴】腰痛

【現病歴】

2016年1月14日に腰痛を主訴に前医を受診し、
圧迫骨折の診断で入院加療中であった。入院中
の血液検査で腎機能低下・貧血・高Ca血症を認
めており、胸部～骨盤部CTの結果を総合的に評
価すると多発性骨髄腫が疑われたため、2016年3
月2日に当院免疫内科を紹介受診された。

【既往歴】

高血圧、膀胱癌 (2014年外科的治療)。生活歴：
喫煙 (-)、飲酒 (-)。

【家族歴】母：胃癌

【診療所見】

身長167cm, 体重70kg, BMI 25.1, 体温36.7℃,
血圧157/58 mmHg, 脈拍81/min, 呼吸数18/min, SpO₂
92% (Room air). 心音：整, 全収縮期雑音. 呼
吸音：清, 減弱なし, ラ音なし, 左右差なし. 腹
部：平坦, 軟, 圧痛 (-), 肝脾触知なし. 眼球結
膜：黄染 (-), 充血 (-), 眼瞼結膜：貧血 (-). 頸
部圧痛 (-), 頸部リンパ節触知 (-). 両下腿浮腫
なし.

【主な検査データ】

WBC 6700/ μ l (STAB 17.0 %, SEG 56.0
%, LYMPH 19.0 %, MONO 3.0 %, EOS 1.0 %,
BASO 1.0 %, ATYLYMP 1.0 %, MYELO 1.0 %,
OTHER1 1.0 %), RBC 216万/ μ l, Hb 7.2 g/dl, Ht
20.1 %, Plt 14.8万/ μ l, 網赤血球数 9 %, 血糖100
mg/dl, CRP 0.5 mg/dl, TP 10.0 g/dl, A/G 0.33, Alb 2.5

g/dl, T-Bil 0.5 mg/dl, ChE 111 IU/l, AST 17 IU/l,
ALT 10 IU/l, γ -GTP 25 IU/l, ALP 198 IU/l, LDH
184 IU/l, CK 30 IU/l, AMY 141 IU/l, Total-Cho
122 mg/dl, UA 6.9 mg/dl, BUN 102 mg/dl, Cr 4.27
mg/dl, eGFR 11.2 ml/分/1.73, Na 133 mEq/l, K 3.1
mEq/l, Cl 100 mEq/l, Ca 12.5 mg/dl, IP 5.1 mg/
dl, Mg 4.1 mg/dl, HbA1c 6.2 %, 蛋白分画：A/G
0.45, Alb 30.8 %, α 1 2.5 %, α 2 6.5 %, β 4.1 %, γ
56.1 %. 血清 β 2-MG 16.3 mg/l, IgG 6516 mg/dl,
IgA 12 mg/dl, IgM 6 mg/dl, PT-INR 1.0, APTT-秒
26.3 秒, Fib 280 mg/dl, D-ダイマー 2.40 μ g/ml
血液ガス：pH 7.463, PCO₂ 43.7 mmHg, PO₂ 70.7
mmHg, HCO₃act 30.6 mmol/l, BE (vt) 6.2

【画像診断所見】

〈腹部～骨盤部単純CT〉：上行結腸に壁肥厚。第
2胸椎と第1腰椎に圧
迫骨折。

〈骨髄穿刺〉過形成性骨髄。核小体明瞭な核を持
つ細胞を認める。また、異形形質細
胞の巣状の増生を認めており、免
疫組織学的にはCD138 陽性、 κ 陽性、
 γ 陰性。多発性骨髄腫 (IgG- κ) の
骨髄として矛盾しない所見。

【経過・治療】

1. 多発性骨髄腫

入院後よりゾレドロン酸 4 mg/100 mlの投
与を開始した。3月3日～4日まで、デキサ
メタゾン計5A点滴を施行。3月9日にはCr
6.08mg/dlと、腎機能の経時的な増悪を認めて
いたが、家族の希望で血液透析は行わない方針
となった。3月14日午後1時30分頃に突然呼吸
状態が悪化し、午後4時09分死亡。

2. 偽膜性腸炎

3月4日頃より左側腹部優位の疼痛と黒色水
様便が持続。腹部単純CTで上行結腸の壁肥厚
を認めるのみで、上部消化管内視鏡検査で明ら
かな異常は認めなかったため、鎮痛剤による対症
療法を行ったが疼痛は改善に乏しかった。3月
9日に下部消化管内視鏡検査を施行。S状結腸
より肛門側に黄白色の丘疹を認めており偽膜性
腸炎と診断され、メトロニダゾール点滴を開始

した。

【症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）】

- (1) 腎機能障害の原因
- (2) 上行結腸の壁肥厚および偽膜性腸炎の原因

9. 剖 検 情 報：

【剖検診断】

〔主病変〕 多発性骨髄腫：腰椎骨髄で確認(IgG-κ)

〔関連病変〕 腎軽鎖沈着症疑い

〔副病変〕 1. 気道閉塞：気道分泌物による喉頭閉塞（直接死因）。2. 偽膜性腸炎：S状結腸から直腸。3. 上行結腸憩室、びらん

【病理所見】

気道：喉頭に内腔を閉塞する分泌物が見られた。

肺：組織学的には末梢気管支内に分泌物が少量認められる。アスベスト小体が確認される。壁側胸膜と横隔膜の壁側胸膜に線維性の肥厚が認められるが、炎症細胞浸潤は見られず異型細胞の浸潤増生も見られない。

消化管：上行結腸には軽度のびらんと憩室を認めた。S状結腸から直腸にかけては、粘膜面には偽膜の付着が認められ、壁の肥厚と内腔の拡張を認めた。組織学的にも噴水状の粘液の付着が認められ、偽膜性腸炎と考えられる。

肝胆脾系：肝臓では門脈域の拡大や線維化は認められず、炎症細胞浸潤もほとんど認められない。異型細胞の浸潤増生は認められない。

腎臓：肉眼的には、形態及び大きさに異常なし。腎盂の拡張なし。組織学的には、尿細管は比較的良く残っており、少数の硬化糸球体は見られるものの、明らかなアミロイドーシスと考えられる沈着物は認められない（アミロイド染色で確認）。糸球体では、分節の変化が認められるが、硬化はほとんど認められない。細胞数の減少は認められない。免疫組織化学的にはκ鎖の沈着が見られており、典型的ではないが軽鎖沈着症の可能性が考えられる。

造血系：脾臓では異型細胞の浸潤増生は認めず。骨髄では肉眼的には、骨梁の破壊が見られ、組織学的には造血が良好な部位と、部分的に異型形質細胞の集簇する部位が認められ、免疫組織化学的にはCD138

(+), κ (+), λ (-)。

【担当病理医】 橋本公夫

【病理医からのコメント】

本例は多発性骨髄腫の症例で、骨髄に骨髄腫細胞が認められたが、他臓器には浸潤は認められなかった。腎臓では典型的ではないが、軽鎖沈着症様の分節性の変化が認められた。アミロイドーシスは全身検索で認められなかった。S状結腸から直腸にかけて偽膜性腸炎が認められた。最終直接死因は分泌物による気道閉塞による窒息と考えられた。

10. 考 察：

本症例では、2016年1月より長期入院が続いていたことと、多発性骨髄腫による腎機能低下が原因となり、喀痰排泄能が低下し気道分泌物による窒息が起こったものと考えられる。また、本症例では長期間にわたる抗生剤治療を行われていないにも関わらず偽膜性腸炎を発症したが、上記原因により免疫能が低下したことが発症の要因となったと考えられる。

多発性骨髄腫は形質細胞の単クローン性増殖と、その産生物である単クローン性免疫グロブリン（M蛋白）の血清・尿中増加により特徴づけられる疾患であり、血液中のM蛋白量、骨髄中の形質細胞の割合、臓器障害、腫瘍の有無により表1のように分類される。本症例は、骨髄におけるクローナル形質細胞の増加があり、高Ca血症・腎不全・貧血・骨病変の臓器障害のうち4項目を満たしているため、症候性骨髄腫であると判断した。

治療は、移植適応のある初発症候性骨髄腫（65歳未満、重篤な合併症なし、心肺機能正常）の場合には、ボルデゾミブやデキサメタゾンなどの薬剤を組み合わせた化学療法を施行する。合併症に対する治療も必要である。高Ca血症は、多発性骨髄腫と

1. MGUS
2. 無症候性骨髄腫
3. 症候性骨髄腫
4. 非分泌型骨髄腫
5. 孤発性形質細胞腫
6. 髄外性形質細胞腫
7. 多発性形質細胞腫
8. 形質細胞性白血病

診断時に約10%程度の患者に合併しているとされる。Ca>12mg/dlの場合には補液とデキサメタゾンを投与し、Ca>14 mg/dlの場合には上記にビスホスホネートを追加する。Ca>18 mg/dlの場合には血液透析を考慮する。腎不全に対しては、血漿交換や血液透析を行う。肺炎や尿路感染症などの感染症にはエンピリックな抗菌薬投与を行う。また、圧迫骨折な

どによる疼痛を訴える場合には十分な疼痛コントロールが必要とされる。本症例では、高齢であったため化学療法の施行対象とはならなかった。補正Ca=14.0mg/dlであったため、ビスホスホネートを含めて十分な補液を行ったところ、経時的に低下を認めた。

11. 参考文献：

レジデントのための感染症診療マニュアル／今日の診断指針第7版

第2回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：非ホジキンリンパ腫再発の1例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液科 丹生真貴子
田中康博
3. CPC開催日：2016年10月24日
4. 発表者：臨床側（丹生真貴子）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：75歳、男性
6. 臨床診断：NK/T細胞リンパ腫
7. 剖検診断：NK/T細胞リンパ腫再発
8. 臨床情報：

【主訴】発熱、倦怠感

【現病歴】

2013年発症のNHL（NK/T cell lymphoma）。CAMBO-VIP療法で2013年11月21日にPET-CTで完全寛解となった。以後外来フォローとしており、2015年9月8日まではsIL-2Rは正常範囲で推移していた。11月10日より38℃台の発熱が出現し、11月16日の近医の血液検査にてWBC1900、Hb 13.2、CRP 7.2と汎血球減少を認めたため、11月18日に当院免疫血液内科を紹介受診した。同日の腹部エコーで脾腫を認め、11月20日より血小板輸血となった。11月21日にPET-CT撮像後より全身倦怠感および悪寒が増悪したため、当院救急外来を受診し、精査加療目的に同日緊急入院となった。

【既往歴】胃潰瘍

【診療所見】

Ht：162.5cm, BW 63kg, BT 36.9℃, BP 94/58 mmHg, HR 106/min, SpO₂ 94% (RA).
眼瞼結膜：蒼白。眼球結膜：黄染なし。口腔内発赤なし、白苔付着、扁桃の腫大なし。頸部リンパ節：表在リンパ節は触知せず。胸部：心音、肺音ともに問題なし。腹部：平坦、軟、自発痛なし、圧痛なし。四肢：冷感なし、蒼白なし、発疹なし。

【検査データ】

WBC 16x10²/μL, RBC 357x10⁴/μL, Hb 10.7 g/dL, Ht 31.4 % Plt 3.3 x10⁴/μL, STAB 17.0 %, SEG 21.0 %, LYMPH 50.0 %, 血糖108 mg/dL, CRP 4.5 mg/dL, TP 5.3 g/dL, Alb 2.7 g/dL, T-Bil 1.4 mg/dL, AST 173 IU/L, ALT 97 IU/L, ALP 4271 IU/L, LDH 1217 IU/L, CK 42 IU/L, AMY 73 IU/L, BUN 18 mg/dL, Cr 0.93 mg/dL, Na 137mEq/L, K 3.6 mEq/L, Ca 7.6 mg/dL, IP 3.1 mg/dL, IgG 896 mg/dL, IgA 575 mg/dL, IgM 29 mg/dL, sIL-2R 34100 U/mL, Fe 206 μg/dL, UIBC 124 μg/dL, HbA1c 7.3 %

【画像診断所見】

〈胸部レントゲン〉異常所見なし 〈ECG〉83 bpm、WNL

〈腹部超音波検査〉脾臓：約10 cm大の軽度脾腫あり、13 mm大の副脾あり、大動脈周囲の明らかなリンパ節腫脹なし。

〈PET-CT〉縦隔・両肺門、脾臓頭部周囲のリンパ節、脾臓に集積あり。骨に瀰漫性に集積あり。胸水・心嚢水少量あり。

【経過・治療】

入院後CFPM+補液にて加療開始した。入院後2日目夜間より吐下血開始。下部消化管では出血確認出来なかった。L-Aspを投与開始し、LDHの改善および汎血球減少の改善を認めたかのように思えたが、26日に突然呼吸状態が増悪し、永眠した。

【症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）】

呼吸停止の原因。治療効果の判定目的

9. 剖検情報：

【剖検診断】

【主病変】NK細胞リンパ腫治療後再発浸潤；骨髓、肝臓、脾臓

【関連病変】1. 腔水症（腹水；1200ml、右胸水；500ml、左胸水；400ml、心嚢水；67ml）2. 黄疸 3. 誤嚥（食道内、気道）

【副病変】食道下部びらん・胸膜ブランク；アスベスト沈着確認できず・粥状動脈硬化症・大動脈・左腸腰筋出血・左腎下極嚢胞形成、死戦期睥炎；脂肪壊死・褥瘡性膀胱炎

【死因】悪性リンパ腫再発

【病理所見】

気道内に一部誤嚥物が付着していたが、完全に閉塞するものは見られず。食道は下部にびらんが見られ、誤嚥物が見られた。胃には急性潰瘍形成が見られた。組織学的にはリンパ腫の浸潤などの異常は認められず。

縦隔：肺門部から気管分岐部、縦隔にかけてリンパ節腫大なし。

肺：誤嚥による肺炎を疑う所見なし。

肝臓：軽度の腫大。門脈域が白色調にやや拡大。

脾臓：軽度の腫大。剖面で出血や梗塞、腫瘍性病変なし。組織学的には赤脾髄に異型細胞の浸潤あり。

骨髄：造血あり。組織学的には異型細胞の浸潤あり。異型細胞はいずれの部位でもCD56(+)で、NK細胞リンパ腫の再発として矛盾しない。

【担当病理医】橋本公夫

【病理医からのコメント】

NK細胞リンパ腫の再発と考えられ、肝臓、脾臓、骨髄で異型細胞が確認されたが、他の臓器やリンパ節に異型細胞は確認できなかった。最終死因は誤嚥の可能性が考えられたが、食道内に誤嚥物が見られたのみで、気道内の閉塞は確認できなかった。胸膜プラークが認められたが、アスペクト小体は組織学的には確認できなかった。

10. 考 察：

日本では悪性リンパ腫のうちNK/T cell lymphomaが約2%を占めており、発症年齢中央値：49歳、男女比：4：1である。臨床症状：鼻閉、疼痛、鼻出血などが初期症状として出現する。EBV関連リンパ増殖性疾患である。ENKLの診断の要点は①病理組織所見：腫瘍細胞は中～大型でびまん性に浸潤であり、凝固壊死を伴い、血管中心性・破壊性増殖を認める。②細胞マーカー：CD2(+)、細胞質CD3(+)、表面CD3(-)、CD5(-)、CD20(-)、CD56(+)、CD45(+)、細胞障害性分子(perforin, granzyme B, TIA-1)(+)。③EBER：腫瘍細胞の核に陽性所見となる。病期診断はAnn Arbor分類で分けられており、本症例はIV期となる。治療法は限局期では、放射線治療と化学療法を同時に開始するRT-2/3DeVIC療法を行い、頸部リンパ節より病変が広がっている場合や、鼻腔以外の臓器から発生し、放射線治療が行えない場合、再発または初回治療で部分奏効以下であった場合には、SMILE療法とい

う多剤併用療法を行う。SMILE療法はMethotrexate、Ceucovorin、Ifosfamide、Mesna、Dexamethasone、Etoposide、L-asparaginase、G-CSFを用いる療法である。L-asparaginaseは抗悪性腫瘍薬であり、大腸菌から産生される酵素。抗腫瘍酵素製剤で、血中のL-アスパラギンを分解し、アスパラギン要求性腫瘍細胞を栄養欠乏状態にすることにより抗腫瘍効果を発揮する。本症例のように再発例に対するSMILE療法の効果は12ヶ月後でOS 79%、PFS 71%というstudyが出ている。

11. 参 考 文 献：

Phase II Study of SMILE Chemotherapy for Newly Diagnosed Stage IV, Relapsed, or Refractory Extranodal Natural Killer (NK) /T-Cell Lymphoma, Nasal Type: The NK-Cell Tumor Study Group study
日本血液学会造血器腫瘍診療ガイドライン

第3回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：治療抵抗性の特発性血小板減少性紫斑病の1例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科 三村裕美
橋本朋子
3. CPC開催日：2016年11月14日
4. 発 表 者：臨床側（三村裕美）
病理側（橋本公夫）
5. 患 者：88歳、女性
6. 臨 床 診 断：特発性血小板減少性紫斑病、呼吸不全
7. 剖 検 診 断：特発性血小板減少性紫斑病、肺胞出血
8. 臨 床 情 報：

【主訴】下血

【現病歴】

201X年3月Y日に肛門部から出血があった。

Y+1日にデイサービスで消化管出血の疑いがあるといわれ、近医を受診した。血液検査で血小板数5000/ μ Lと異常低値であったため緊急入院となった。Y+2, Y+3, Y+6, Y+7, Y+8日に血小板輸血を20単位ずつ施行したが上昇なく、精査加療目的に当科に転院となった。

【既往歴】左膝関節人工関節置換術後、高血圧、虫垂炎（術後）

【診療所見】

体温37.8℃、血圧88/66 mmHg、脈拍77回、SpO₂ 94%（10Lマスク）

眼瞼結膜貧血、眼球結膜黄染なし。頸部リンパ節蝕知せず。

口腔内出血痕あり、活動的な出血なし。呼吸音両側coarse crackle。心音整、雑音なし。腹部平坦軟、全体に圧痛あり。前胸部～上肢にかけて紫斑あり。

【検査データ】

WBC $7.5 \times 10^3 / \mu\text{L}$, RBC $291 \times 10^4 / \mu\text{L}$, Hb 9.4g/dL, Plt $0.4 \times 10^4 / \mu\text{L}$, Plt (ヘパリン) $0.2 \times 10^4 / \mu\text{L}$, 網赤血球 50%、PA-IgG $1043.8 \text{ng}/10^7 \text{cells}$

〔骨髄検査〕有核細胞数43400, 巨核球数16. mildly hypercellular marrow, consistent with ITP. 細胞密度50%の軽度過形成性骨髄。M/E比 1 : 1 幼弱な細胞や芽球の単調増生なし。異型細胞なし。巨核球の軽度増加。

【画像診断所見】

〔胸部レントゲン〕両側肺野にbutterfly shadow, 両側CP angle dull

〔胸部CT〕両側に多量胸水貯留あり。肺尖部～中肺野を主体としてすりガラス影、網状影。心拡大は強くないが、IVC拡大傾向あり。

〔上部消化管内視鏡検査〕胃内全体に粘膜出血あり。明らかな腫瘤や潰瘍形成なし。

【経過・治療】

出血症状あり、消化管出血のため貧血はあるが白血球低下がなく、巨核球のみ増加しているという骨髄所見や、血小板減少を来す他の疾患が否定的であったことから特発性血小板減少性紫斑病として治療を開始した。Day 1 IVIGを施行。mPSL投与開始し、漸減（* 1）していった。Day 2 romipate $1 \mu\text{g}/\text{kg}$ 投与。胸部レントゲン上、胸水に改善なく酸素化も不良であったためCPAPを開始した。Day 10 romipate $1 \mu\text{g}/\text{kg}$ 投与。pylori除菌を開始。入院中、血液検査でHb 8 g/dl前後、Plt $5000 / \mu\text{L}$ 以下で経過し、貧血と血小板低下に改善を認めないため、適宜輸血を施行した（* 2）。レントゲン上、胸水の改善なく、CPAPからの離脱は困難。また、下血にも改善は見られず、Day 17 血圧低下、呼吸状態の悪化を認め、永眠された。

（* 1）mPSL: day 1、2 500mg、day 3～5 125mg、day 6～9 80mg、day 11～14 60mg、day 15～17 40mg

（* 2）血小板輸血: day 1、3、5、7、6、8、11、15。赤血球輸血: day 2、4、6、8、10、11、13、17

【症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）】

消化管出血所見の確認とその他の死因検索

9. 剖検情報:

【剖検診断】

〔主病変〕特発性血小板減少性紫斑病

〔関連病変〕1. 出血傾向: 両肺、消化管（胃から結腸にかけての粘膜出血）、皮膚、心臓、膀胱粘膜、腔壁。2. 血球貪食症候群

【病理所見】

〔肉眼的所見〕

胸部: 胸水右700m、左1100ml黄褐色、気管内に閉塞物なし。心嚢水140ml赤褐色。両側肺は下葉中心に圧排による鬱血を認めしたが、出血は見られず。心臓には陳旧性梗塞の所見なし。

腹部: 食道～S状結腸の全体に粘膜出血。腸管内に血塊が充満。狭窄・腫瘤・潰瘍なし。肝、腎に出血なし。肝臓うっ血あり。門脈分枝拡張。断面に腫瘤性病変なし。脾腫なし。

〔顕微鏡的所見〕

胸部: 左右肺にうっ血、肺胞内出血。（左下肺で著明。）

腹部: 食道～S状結腸にわたり出血急性潰瘍などの限局性の出血性病変はなし。肝臓は中心静脈周囲の類洞拡張、うっ血、出血あり、急性肝うっ血の所見。脾臓では赤脾髄の線維化を認め、慢性的な脾うっ血を疑う。

骨髄: 細胞密度約50%の軽度過形成性骨髄。3系統全ての造血細胞が見られ、M/E比は 1 : 1。巨核球は比較的小型のものが各造血系に3個前後見られている。赤芽球系も各成熟段階の細胞が見られ、骨髄球系は各成熟段階の細胞が見られ、分葉核球への分化も十分、幼弱な細胞も目立たない。芽球の単調な増生や形質細胞はなし。軽度過形成性骨髄で巨核球の軽度増加を認める。ITPとして矛盾しない組織像。

【担当病理医】橋本公夫

【病理医からのコメント】

消化管出血とともに両肺下肺野優位の出血がみられた。最終死因はこれによる呼吸不全と考えられた。消化管出血はびまん性で限局性病変はなし。血球貪食の亢進が、骨髄や脾臓で確認された。

10. 考 察：

治療抵抗性の特発性血小板減少性紫斑病の1例。初診時に血小板数2万/ μ L、消化管出血を呈しており、PSL、IVIG、トロンボポエチン受容体作動薬で治療したが、反応性不良であった。血小板輸血後も血小板上昇を認めなかったが、輸血を継続して消化管出血の改善を図った。しかし、加療中、肺胞出血のコントロールが困難となった。持続的な出血から循環動態が破たんし、肺胞出血から呼吸不全に至った。

剖検では消化管出血とともに両肺下肺野優位の出血を認め、最終死因はこれによる呼吸不全と考えられた。

第4回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：経過中に肺炎と脳出血を併発した急性骨髄性白血病の1例
2. 診 療 科、主 治 医・受 持 医：免疫血液内科 池田賢司
田中 淳
3. C P C 開 催 日：2016年11月28日
4. 発 表 者：臨床側（池田賢司）
病理側（橋本公夫）
5. 患 者：82歳、男性
6. 臨 床 診 断：急性骨髄性白血病、脳出血
7. 剖 検 診 断：急性骨髄性白血病、脳出血
8. 臨 床 情 報：

【主訴】四肢の脱力

【現病歴】

2015年11月に全身倦怠感を主訴に前医を受診した。血液検査でHb 6.6、Plt 3万台と血球減少を認め、末梢血塗抹検査において芽球を認めた。血液悪性疾患を疑われ、精査目的に12月に当院免疫血液内科を紹介受診した。精査にて急性骨髄性白血病と診断され、以後は週に1回程度の輸血と鉄キレート剤deferoxamineの投与を受けながら経過観察されていた。外来で経過観察中の3月8日に胸部単純X線写真で右下肺野に浸潤影を認め、胸部CTが撮像された。同日からLVFX 250 mg/dayの内服加療がなされたが、3月15日のCXRで浸潤影の増悪を認めた。アスペルギルス症などの真菌

感染を考慮し、ITCZ内用液が追加処方されたが、なおも浸潤影の増悪を認め、特発性器質化肺炎の可能性を考慮され、3月25日からプレドニゾン30 mg/dayの追加処方がなされた。経過を通じて呼吸器症状はなかった。3月28日に自宅で四肢の脱力を自覚し、救急要請し当院救急外来に搬送された。

【既往歴】 高血圧、2型糖尿病、前立腺肥大症

【診療所見】

意識レベル：JCS I-1、体温：38.7℃、血圧：173/70 mmHg、呼吸：28回/分、脈拍：101回/分、SpO₂：93%（酸素非投与）→98%（カヌラ1L）。

瞳孔不同なし、対光反射+/+、立位保持可能。四肢に明らかな麻痺を認めず。

【検査データ】

WBC 23900/ μ L, RBC 257万/ μ L, Hb 7.7 g/dl, Plt 1.3万/ μ L, PT-INR 1.4, D-ダイマー 9.12 μ g/ml, 血糖178 mg/dl, CRP 12.3 mg/dl, TP 8.8 g/dl, Alb 2.4 g/dl, T-Bil 0.9 mg/dl, AST 23 IU/l, ALT 16 IU/l, ALP 124 IU/l, LDH 453 IU/l, BUN 23 mg/dl, Cr 1.04 mg/dl, Na 133 mEq/l, K 4.0 mEq/l

【画像診断所見】

〈胸部レントゲン〉 右下肺野に浸潤影を認める。外来のものと比較し、浸潤影は増大傾向であった。

【経過・治療】

救急外来で四肢の粗大な麻痺は認めず、発熱と胸部レントゲンにおける浸潤影の増悪の所見から右下葉肺炎の増悪とそれに伴うADLの低下と考え、TAZ/PIPC 3 g/day divを開始したうえで同日緊急入院となった。血小板1.3万/ μ Lと低下を認めたため、血小板輸血ののちに気管支鏡検査による肺炎の精査を予定していた。来院8時間後に傾眠状態となり、左上下肢の脱力、左半身での痛み刺激に対する反応不良を認めたため、頭部CTを施行した。頭部CTで右小脳半球、右後頭葉、右頭頂葉に多発する境界不明瞭な淡い低吸収域を認め、脳梗塞や脳膿瘍などが疑われたため、脳MRIを施行した。MRIではCTで認めた病変に一致して散在性に周囲に浮腫を伴う結節性病変を認めた。いずれも著明なリング状拡散障害や、中心部の出血成分の混在を認め、脳梗塞、脳腫瘍、感染性塞栓症などが考慮されたため、造影MRIを撮像する方針となったが、MRIから帰宅後30分後に呼吸停止となった。JCS 300の意識レベル低下と

185/82mmHgの血圧高値を認め、挿管ののちに頭部CTを再検した。再検したCTで小脳半球実質内と、周囲のくも膜下腔に出血を疑う高吸収域が新たに出現し、また矢状断において大孔ヘルニアを疑う所見を認めた。急速かつ致死的な経過であり、救命は困難と考えられ、家族との相談ののち、人工呼吸器・昇圧剤の使用のみで経過観察される方針となった。徐々に血圧が低下し、3月29日18時頃に呼吸停止・心停止となり、同日死亡退院となった。

【症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）】

脳出血の原因

9. 剖検情報：

【剖検診断】

【主病変】 急性骨髄性白血病；骨髄、肝臓、中枢神経系、両肺、両腎臓、脾臓に幼若な細胞の浸潤

【関連病変】 1. 脳出血：小脳歯状核、小脳脚、小脳扁桃（大孔）ヘルニア。2. くも膜下出血；後頭蓋窩。3. 右肺下葉出血。4. 真菌症（*Mucor mycosis*）：右肺下葉（梗塞）、腎臓（梗塞）。5. 両肺うっ血水腫、胸水（右：400ml、左：700ml）。

【病理所見】

肺：右肺下葉に梗塞巣、周囲にはうっ血水腫が見られる。組織学的にも肺末梢血管内に腫瘍細胞の浸潤が見られる。梗塞巣が確認され、その中の血管内に節の見られない分枝真菌（ムコール感染症）が認められる。

肝臓：組織学的に門脈域から一部類洞に腫瘍細胞の浸潤増生が見られている。結節形成は見られない

脾臓：組織学的に赤脾髄でマクロファージの増加が見られ、腫瘍細胞の浸潤も見られている。

腎臓：組織学的には梗塞巣が見られており、その基部の血管内に右肺下葉に見られたと同様の真菌が見られている。

中枢神経系：脳摘出時に後頭蓋窩にくも膜下出血が見られており、小脳扁桃（大孔）ヘルニアが確認される。断面では歯状核レベルで小脳内出血が見られており、さらに小脳脚にも拡がっている。周囲くも膜下出血が広がってみられる。橋や延髄そのものに大き

な実質内出血は見られない。大脳半球断面でも大きな出血は見られないが、組織学的には大脳や小脳出血部で血管内やVirchow-Robin腔に腫瘍細胞の浸潤が見られている。真菌は確認されない。

〈剖検時培養検査3/30〉右下肺梗塞巣：*Rhizopus species* 1+, 右小脳病変部：陰性。

【担当病理医】 橋本公夫

【病理医からのコメント】

原疾患である急性骨髄性白血病の腫瘍細胞が中枢神経に浸潤し、脳出血を呈した。直接死因は脳出血が穿破したことによる、くも膜下出血および大孔ヘルニアによる呼吸不全と考えられた。

10. 考察：

本例の頭蓋内病変はいずれもT1WIで低信号、T2WIで高信号を呈し、DWIでリング状の著明な高信号とADCの低下、T2 starで中心部に出血を疑う点状の低吸収域を認めた。画像所見からは出血性脳梗塞が最も疑わしいと考えられた。塞栓子としては肺炎から続発した感染性塞栓と急性骨髄性白血病の腫瘍細胞の2つが考えられたが、臨床的に診断を確定するのは困難であった。急性骨髄性白血病の頭蓋内浸潤としてはMyeloid sarcoma（骨髄性肉腫）として骨髄外に腫瘤形成し、臓器障害を伴うものと、血管内からVirchow-Robin space（血管周囲腔）にかけて顕微鏡的結節を形成する微小浸潤の2つが知られる¹⁾。後者の病態は白血球うっ滞によるoncologic emergencyと密接に関連しており、白血病の中でも白血球数>5(10)万/ μ L、単球系優位といったファクターがリスク要因となりうる。当症例では搬送時に白血球23900/ μ Lであったが、単球系12%とやや単球系骨髄球の増加を認め、白血球うっ滞による血栓症のリスクはあったと考えられる。

一方、ムコール菌症；Zygomycosisは接合菌による日和見感染症の総称であり、2006年のフランスのデータでは罹患率は1.2人/100万と報告される²⁾ 稀な疾患であるが、ある報告では血液悪性疾患に伴う侵襲性真菌感染症の中では侵襲性アルペルギルス症に次ぐ2番目に多い疾患とも報告される³⁾。血液悪性疾患を含む種々の免疫不全状態がリスク要因となり発症し、強い血管親和性を持つため血栓、塞栓を形成するのが特徴である。鼻脳型、皮膚型、消化管型、肺型、播種型、雑多型の6つのサブタイプが

知られるが、血液悪性疾患、頻回輸血による鉄過剰状態、またそれに対する鉄キレート剤 deferoxamine 投与といった因子は肺型・播種型のリスクとして知られ、本例ではそのリスクを複数有していたと言える。播種型の致死率は90-100%⁴⁾と報告され、生前診断は困難である。治療は真菌感染症に広く使われるVCZは無効であり、AMBを高用量（5 mg/kg/day以上）かつ発症後6日以内の早期に投与した方が予後はいいとされるが、前述したように早期診断は非常に困難であり、その死亡率の高さにつながっていると考えられる。

本症例は経過中に一般抗生剤抵抗性の肺炎と、頭蓋内の多発性出血性脳梗塞を併発し、急激に死に至った急性骨髄性白血病の1例であった。塞栓子は剖検により、白血病の腫瘍細胞浸潤と診断されたが、ムコール菌症の併発や播種型のリスクも複数有しており、生前診断が非常に困難であった1例を経験した。

11. 参考文献：

- 1) J Clin Diagn Res. 2013 Dec ; 7 (12) : 3020-3022. Leukostasis in an Adult with AML Presenting as Multiple High Attenuation Brain Masses on CT. Abdulaziz Ahmad Algharras et al.
- 2) merg Infect Dis 15 : 1395-1401. 2009.
- 3) Clin Infect Dis. 2008 Aug 15 ; 47 (4) : 503-9.
- 4) J Glob Infect Dis. 2009 Jul-Dec ; 1 (2) : 131-138. The Rise of an Opportunistic Infection called "Invasive Zygomycosis" Abdelkarim W et al.

第5回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：肉腫様腎細胞癌の1例
2. 診療科、主治医・受持医：消化器内科 太田匠悟
三村 純
3. CPC開催日：2017年1月23日
4. 発表者：臨床側（太田匠悟）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：66歳、男性
6. 臨床診断：癌性腹膜炎（原発不明）
7. 剖検診断：左肉腫様腎細胞癌
8. 臨床情報：

【主訴】発熱

【現病歴】

慢性腎不全に対して、30年程前より近医で通院透析を実施している。近医での血液検査にてHCV陽性の結果であったため、20XX年1月に当

院消化器内科に紹介受診となり、外来にて経過観察されていた。同年4月に施行した腹部超音波検査にて、S8区域に肝細胞癌を疑う増大傾向の腫瘤を認めた。5月21日にRFA施行目的に入院となり、翌5月22日にRFAを施行した。入院中より37℃台後半から38℃台前半の発熱が持続していたが、本人の希望が強く、5月28日に退院となった。しかし、退院後も発熱の持続を認めたため、精査加療目的で6月8日に当院紹介となり、再入院となった。

【既往歴】慢性腎不全（血液透析）、急性膝炎、狭心症

【診療所見】

体温：37.1℃、血圧：114/52mmHg、脈拍：96回/分、SpO₂：96%（room air）

眼瞼結膜：貧血なし。心音：整、心雑音なし。呼吸音：右肺で減弱。腹部：平坦、軟。自発痛なし、反跳痛なし。体幹、四肢等全身に皮下腫瘍が多発。

【検査データ】

WBC 9100/ μ l, RBC 347x10⁴/ μ l, Hb 10.9 g/dl, Plt 17.5x10⁴/ μ l, 血糖103 mg/dl, CRP 8.8 mg/dl, TP 6.8 g/dl, Alb 3.3 g/dl, T-bil 0.3 mg/dl, ChE 177 IU/l, AST 20 IU/l, ALT 13 IU/l, ALP 245 IU/l, LDH 334 IU/l, BUN 45 mg/dl, Cr 8.56 mg/dl, Na 135 mEq/l, K 5.0 mEq/l, Cl 97 mEq/l
AFP 3.5 ng/ml, PIVKA-II 69 mAU/ml

【画像診断所見】

〈腹部超音波検査〉肝臓S8に19x14mm大の低エコー腫瘤像。腫瘤に明らかな血流シグナルなし。腎臓には両側ともに嚢胞多発。

〈腹部CT(4/22)〉肝臓S8区域に約10mm程度の低吸収域。胆嚢内部には結石が充填し、壁の軽度肥厚も認め、慢性胆嚢炎が疑われる所見。腎臓に多発する嚢胞。脾臓や脾臓には異常なく、腹部リンパ節腫大なし。

〈腹部CT(6/8)〉右側に著明は胸水の貯留を認め、所々で胸膜肥厚を伴う。肝臓はRFA後の変化を認める。両側の腎臓は萎縮し、多数の嚢胞が認められている。また、石灰化も散見されるが、腎癌を積極的に

示唆する所見はなし。右腋窩や脾頭部周囲等にリンパ節腫大を認め、リンパ節転移の所見。胸腹壁や臀部、後腹膜などに多数の結節が認められ、転移巣が疑われる。

〔病理組織診断(皮下腫瘍生検)〕

脂肪織内に境界明瞭な腫瘍塊があり、上皮性の異型な細胞を密に認めている。一部には管腔形成があり、胞体の中には、空胞を形成している細胞も多数認める。染色ではPAX8陽性。

【経過・治療】

5月21日から5月29日まで入院し、5月22日に肝S8の腫瘍に対してRFAを施行した。本人の希望が強く一度退院となったが、再度発熱が持続したため、6月8日に再入院となった。炎症反応については経過とともに上昇傾向を認めており、6月8日に再入院の時点で右胸水貯留が著明であったため、6月9日に右胸水を穿刺排液し、胸水検査を提出した。また、再入院時に全身に皮下腫瘍の多発所見が認められたため、6月11日に皮下腫瘍の生検を施行した。その後6月15日にCPAとなり、永眠となった。

【症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)】

癌性腹膜炎の原発巣はどこか？

9. 剖検情報：

【剖検診断】

〔主病変〕腎細胞癌；左；肉腫型。転移；肝臓、腹膜播種、胸膜播種、両肺、心臓、両副腎、骨髄、皮膚、リンパ節（後腹膜、肝門部、縦隔）

〔関連病変〕1. 右胸水（2500ml）、蜂窩肺（UIP pattern）；下葉優位。2. 慢性腎不全、透析腎（多嚢胞腎）

【病理所見】

腹腔、胸腔：腹腔内播種と左胸膜播種が多数、右胸膜播種は少数。右胸腔内に約 2500mlの血性胸水貯留。縦隔リンパ節の腫大。

肺：左右とも下葉、右中葉で無気肺。剖面で腫瘍結節あり。気道内に閉塞物なし。組織学的には腫瘍が血管内から周囲実質に見られており、中下肺野は無気肺状で、胸膜面の結節は肺内への浸潤は軽度。

肝臓：軽度の腫大。RFA後の結節。（組織学的には結節内に腫瘍組織が見られる。残りの肝

組織では腫瘍浸潤は認めず。）

腎臓：左右とも透析腎の所見で、多数の嚢胞形成と実質の強い萎縮が見られる。左腎臓中央部に25mm大の腫瘍形成を認める。組織学的には腫瘍はごくわずかに胞巣形成を認めるが、大部分が紡錘形の異型細胞からなっており、胞体は好酸性紡錘形でやや微細顆粒状。細胞境界は明瞭で、核は円形から卵円形、異型巨核や多核巨細胞が見られるとともに核型不整が強く認められる。核小体も認められ、核分裂像が散見される。免疫組織化学的には腫瘍細胞は非上皮系マーカーである Vimentinが陰性で、腎細胞癌等で陽性となるPAX8染色は陽性。CK7やCK20はともに陰性。転移性腫瘍もいずれも同様の所見。Vimentin (-), MUC1 (+), CD10 (+), PAX8 (+), CK7 (-), CK20 (-)

骨髄：腫瘍の転移を認める。

心臓：心嚢液なし。左室に転移巣を認める。

【担当病理医】橋本公夫

【病理医からのコメント】

死因は腎癌による癌性腹膜炎、胸膜炎、多発転移による悪液質と考えられる。

10. 考察：

本症例では、病理解剖の結果、左腎臓中央部に25mm大の腫瘍形成が認められた。主病変は左の肉腫様腎細胞癌で、RFAを施行したS8の腫瘍は転移巣の一部と考えられ、本症例の死因は悪性度の高い肉腫様腎細胞癌による悪液質と考えられた。

肉腫様腎細胞癌は全腎細胞癌の1.0～6.5%を占める比較的稀な疾患で、非常に悪性度が高く予後は不良とされている。大庭らの報告では、肉腫様成分を含まない腎細胞癌の5年生存率が55.9～70.7%であるのに対し、肉腫様腎細胞癌の癌特異的5年生存率は9.5%に過ぎず、生存期間の中央値は10.6ヶ月（1.9-83.8）であったと報告されている。最近では腎細胞癌の肉腫様変化は病理学的な進行の最終段階とされ、すべての腎細胞癌細胞から脱分化により発生する最も異型度の高い組織型といわれており、clear cellまたはpapillaryな腎細胞癌の1要素としてsarcomatoid成分が存在し、それが増殖することにより元の構成細胞が排除され、発生すると考えられている。

透析患者の肉腫様腎細胞癌は透析歴10年以上に多く、長期透析との関連が疑われ、透析の長期化に伴

い、腎細胞癌の発生率が増加するだけでなく、より悪性度の高い肉腫様腎細胞癌が増加するものと推察される。また腫瘍のサイズと透析年数に明らかな相関性はなく、腫瘍のサイズと転移率も関係性は認められていない。腫瘍径が1.5cmでも診断時に転移を有した肉腫様腎細胞癌の症例も認められている。転移は70%にみられ、肝臓、肺、骨への転移が多くなっている。これらの結果から長期間の透析例に肉腫様腎細胞癌が増加することやサイズの小さい腎細胞癌でも肉腫様腎細胞癌が存在している可能性があり、診断が困難であるという点を考慮すると、透析患者における腎腫瘍の手術適応の決定には、腫瘍のサイズだけでなく、透析期間が重要な因子であると考えられた。透析歴が10年を超えるような症例においては、特に腎細胞癌の存在に注意して、定期的な画像検査でのフォローを行い、腫瘍径が小さくても、腫瘍が疑われるようなケースでは手術を考慮する必要性があると推察された。

11. 参考文献：

- 1) Tomera KM, Farrow GM and Lieber MM : Sarcomatoid renal cell carcinoma. J Urol 130 : 657-659, 1983
- 2) 大庭康司郎、古賀成彦、他：肉腫様腎細胞癌の臨床的検討. 泌尿紀要49 : 131-133, 2003
- 3) Bertoni F, Ferri C, Benati A, et al: Sarcomatoid renal cell carcinoma of the kidney. J Urol 137 : 25-28, 1987
- 4) Timothy DJ, John NE, Mingsheng W, et al: Clonal divergence and genetic heterogeneity in clear cell carcinomas with sarcomatoid transformation. Cancer 104 : 1195-1203, 2005

第6回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：胸腹水貯留、多発リンパ節腫大で発症した成人T細胞白血病の1例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液科 小河孝輔
田中康博
3. CPC開催日：2017年1月30日
4. 発表者：臨床側（小河孝輔）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：65歳、男性
6. 臨床診断：成人T細胞白血病
7. 剖検診断：成人T細胞白血病、胸腹膜浸潤、門脈塞栓

第7回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：膵管内乳頭粘液性腫瘍に合併した急性膵炎の1例
2. 診療科、主治医・受持医：消化器内科 井元裕子
濱田健輔
3. CPC開催日：2017年2月27日
4. 発表者：臨床側（井元裕子）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：73歳、男性
6. 臨床診断：急性壊死性膵炎、膵管内乳頭粘液性腫瘍
7. 剖検診断：膵管内粘液乳頭状腺腫、膵尾部嚢胞破裂、膵炎

8. 臨床情報：

【主訴】心窩部痛

【現病歴】

2016年2月15日より慢性心不全急性増悪のため入院していた。3月5日より心窩部痛が出現し、血液検査で炎症反応および膵酵素上昇を認めたため、3月7日に消化器内科に転科となった。

【既往歴】高血圧症、慢性心不全、糖尿病、脳梗塞、高血圧性腎硬化症

【生活歴】飲酒：日本酒5合/日、喫煙：ex-smoker

【診療所見】

BT : 37.5℃、BP : 161/89 mmHg、HR : 95 bpm、SpO₂ : 98 % (RA)

腹部：平坦、軟。心窩部に圧痛・反跳痛なし。

【検査データ】

WBC 26200 / μ l, RBC 359 万 / μ l, Hb 10.5 g/dl, Ht 31 %, Plt 29.5 万 / μ l, CRP 9.2 mg/dl, TP 7.9 g/dl, Alb 3.5 g/dl, T-Bil 0.2 mg/dl, ChE 179 IU/l, AST 10 IU/l, ALT 5 IU/l, ALP 217 IU/l, LDH 168 IU/l, CK 108 IU/l, AMY 2883 IU/l, BUN 76 mg/dl, Cr 11.62 mg/dl, eGFR 3.9 ml/min/1.73m², Na 145 mEq/l, K 4.3 mEq/l, Cl 107 mEq/l, Ca 9.0 mg/dl, BS 122 mg/dl

【画像診断所見】

〈腹部CT〉膵体尾部の腹側に主膵管と交通する約35mmの壊死性嚢胞性病変を認め、嚢胞の一部には壁の連続性の途絶を認めた。膵液瘻、急性壊死性膵炎の状態、膵管内乳頭粘液性腫瘍 (intraductal papillary mucinous neoplasm : IPMN) の破裂も疑われる。

【経過・治療】

3月7日に消化器内科に転科。絶飲食とし、補液、ミラクリッド、メロペンの点滴を開始した。膵嚢胞は30 mm程度であり分枝型IPMNまたはIPMC (intraductal papillary mucinous carcinoma, 膵管内乳頭粘液性腺癌) の可能性を考慮してERCPを施行した。乳頭部に粘液を確認して膵液細胞診を提出したが陰性であった。同日透析を導入したが意識レベルの低下をきたし、炎症反応はWBC 33500、CRP 29.9と増悪を認めた。3月11日、CHDFを導入して一旦炎症反応は改善傾向となったが、炎症反応もWBC 2万、CRP 24を下回ることにはなかった。誤嚥性肺炎を発症し、その後も徐々に状態は増悪した。3月16日のCTで左下葉の虚脱、左優位の胸水貯留、腹腔内に被膜を有する膵液瘻を認めた。家族と相談し積極的治療は行わず、鎮静の方針となった。3月17日深夜に心肺停止となり永眠した。

【症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)】

膵炎とIPMNとの関連。癌の有無。

9. 剖検情報:

【剖検診断】 膵管内粘液乳頭状腺腫；膵尾部嚢胞破裂、膵炎

【病理所見】

膵頭部から膵尾部にかけて膵管の拡張がみられた。膵頭部に嚢胞がみられ、組織学的には、嚢胞を構成する細胞の核は基底側にあり、配列に乱れはなく、p53染色、Ki-67染色は陰性であった。膵体部～膵尾部にかけては脂肪壊死、炎症細胞の浸潤が高度であった。

【担当病理医】 橋本公夫

【病理医からのコメント】

膵頭部の膵管内粘液乳頭状腺腫と膵尾部での嚢胞の破綻による限局性の腹膜炎がみられた。最終死因は腹膜炎による多臓器不全と考えられた。

10. 考察:

IPMNは膵管拡張を主徴とし、拡張膵管内に粘液産生性の乳頭状増殖を示す腫瘍性上皮をみる腫瘍である。IPMNには腫瘍が主膵管内に存在し粘液が主に主膵管に貯留する主膵管型と、腫瘍が分枝に存在し分枝内に粘液が貯留する分枝型と両者の混合型に細分類される。主膵管型の定義は5 mmを超える主膵管の拡張で、悪性度が高く手術が必要になる。分枝型の定義は5 mmを超える分枝膵管の拡張で、悪性度は低く、主膵管が5-9 mmでは経過観察を、

10mmを超えたら手術を行う。また混合型は悪性度が高く手術が必要である。

IPMN・IPMCが遊離腹腔内に破裂した症例を検討してみると、膵炎を合併していないことが多く、IPMNよりIPMCのほうに破裂症例が多い。

次に、急性膵炎後の嚢胞性病変、急性膵炎とIPMNとの関係性についての考察をする。急性膵炎発症時が間質性浮腫性膵炎→膵周囲液体貯留→(壊死を伴わない場合)膵仮性嚢胞を形成する場合と、急性膵炎発症時が壊死性膵炎→急性壊死性貯留→(壊死を伴う場合には内部に壊死を含んだ液体貯留が器質化した組織周囲組織に囲まれた)被包化壊死という状態になる場合の2つに分類される。本症例では急性壊死性貯留の状態であったと推測される。

膵炎とIPMNの関係性に関してだが、(1) IPMN患者のうち12~67%が急性膵炎を発症。粘調な粘液により主膵管が閉塞することで起こりやすくなる。(2) 主膵管型/分枝型IPMNは急性膵炎の原因となりリスクは同程度である。(3) 良性と悪性で急性膵炎発症リスクに差異はなく、急性膵炎の発症が悪性の可能性を高めるわけではない。という文献があった。

以上より、本症例では膵頭部IPMNにより主膵管内に粘液が貯留し、膵管内圧が上昇し急性壊死性膵炎を発症し、主膵管内圧亢進にて壊死巣と主膵管内が交通し膵液瘻も合併し、膵液瘻に伴う多臓器不全のため死亡したと考えられた。

11. 参考文献:

J Clin Gastroenterol. 2011 Oct; 45 (9): 755-8
日臨外会誌. 2015; 76 (11), 2800-2805

第8回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ: 原発不明の癌性腹膜炎の1例
2. 診療科、主治医・受持医: 消化器内科 宮田智弘
濱田健輔
3. CPC開催日: 2017年3月13日
4. 発表者: 臨床側 (宮田智弘)
病理側 (橋本公夫)
5. 患者: 75歳、男性
6. 臨床診断: 癌性腹膜炎 (原発不明)
7. 剖検診断: groove膵癌 (中分化型管状腺癌)

第9回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ: 難治性の高Ca血症を来したDLBCLの1例

2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科 長田駿一
橋本朗子
3. C P C開催日：2017年3月27日
4. 発表者：臨床側（長田駿一）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：83歳、男性
6. 臨床診断：びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫（DLBCL）
7. 剖検診断：悪性リンパ腫（DLBCL）

IV. 医学振興事業等研究費 補助による業績報告

IV. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

IV. 1 術前化学療法または化学放射線療法を施行された肺癌患者におけるPD-L1免疫染色強度、腫瘍浸潤CD8陽性T細胞の治療前後変化と予後との関係

中央市民病院 呼吸器内科 藤本 大智

肺癌において近年免疫療法が治療効果を認められ、今後の治療発展に重要であることが示唆されています。そのため、今後化学放射線治療に合わせて免疫療法を使用することが治療として考慮されていますが、治療予測因子としてのPD-L1免疫染色が治療前後によってどのように変化するのかを検討することは今後の治療発展に寄与する研究と考えました。そのため、肺癌において化学放射線治療（CRT）前後でPD-L1陽性腫瘍細胞の割合がどのように変化するかを検討するため本研究を行い、2004年1月～2013年12月までに局所進行Ⅱ-Ⅲ期の非小細胞肺癌に対してCRTを受けた後に肺癌の切除術を受けた患者のうち、悪性細胞を100個以上含む治療前生検検体と治療後切除検体が両方存在する症例について免疫染色にて検討をしました。1%以上のPD-L1陽性細胞が含まれた場合を陽性と定義しました。

PD-L1陽性患者数は治療前で22例（63%）、治療後で21例（60%）であり変化は明らかではありませんでしたが、CRT前後におけるPD-L1陽性細胞率は減少15例、不変15例、増加5例であり、前後検体比較にて統計学的に有意にPD-L1陽性細胞の割合は減少を示していました（ $P=0.047$ ）。

また、治療前後においてPD-L1陽性細胞率が増加した患者に関しては予後不良であることが証明されました。

以上のことからCRT前後において局所の腫瘍細胞におけるPD-L1陽性率は減少を示す一方で、PD-L1免疫染色強度が上昇する患者群の予後が不良であることが判明しました。

本結果が今後の治療発展としてどのように寄与するかに関しては、化学放射線治療後にはPD-L1免疫染色は強度が弱くなるということからは化学放射線治療後に免疫療法を行うという治療方針については有効であるとは言えないと判断しました。

そうではなく免疫療法後に放射線治療を行う、もしくは化学放射線治療後早期に再発を起こす患者に関し

ては本研究で示されたようにPD-L1免疫染色強度が上昇している可能性が高いことが考察されるため、免疫療法は有効な治療法と考えられます。

今後この部分がさらに考察されることによって、治療が進歩することが望まれます。

発表に関して

2016年日本肺癌学会学術集会総会で発表

現在、英語論文を投稿中でunder reviewの状況です。

IV. 2 びまん性大細胞Bリンパ腫における診断時骨髄浸潤の評価方法としてのPCR法、フローサイトメトリー法とPET/CTの比較：後ろ向きコホート研究

中央市民病院 血液内科 小野 祐一郎

【研究内容】

当院で2011-2015年に診断されたびまん性大細胞型Bリンパ腫で、R-CHOPを受けた症例を対象として、リンパ腫の骨髄浸潤の評価方法としての標準的検査法であるPET/CTと、骨髄液の分子細胞生物学的手法で調べたB細胞クローナリティーの有無による浸潤評価の予後予測性を検討した。アウトカムは無再発生存率を用いた。B細胞クローナリティーは、BIOMED-2様の手法で解析した免疫グロブリン重鎖遺伝子再構成がクローナルか、あるいはフローサイトメトリーで細胞表面 κ/λ 比に有意な偏りがあるときに陽性と判定した。

134人の患者が対象となり、そのうち23人が骨髄へのFDG集積陽性（骨髄へのびまん性FDG集積ではなく、局所的集積を陽性とした）、27人がB細胞クローナリティー陽性だった。FDG集積陽性患者とB細胞クローナリティー陽性患者は、それぞれ陰性患者に比べて進行生存率が有意に不良だった（2年無進行生存率: FDG集積陽性53%、FDG集積陰性74%、 p -value 0.017; B細胞クローナリティー陽性55%、B細胞クローナリティー陰性74%、 p -value 0.017）。骨髄へのFDG集積の有無とB細胞クローナリティーを共変量に入れた多変量解析では、国際予後指数2以上であることと、B細胞クローナリティー陽性であることが無再発生存率の有意な予後不良因子となった（IPI ≥ 2 : HR 7.27

(2.20-24.11)、p-value 0.001;B細胞クローナリティー: HR 2.27 (1.14-4.55)、p-value、0.02)。

結語として、骨髄のB細胞クローナリティーの有無は、骨髄のFDG集積とは独立した予後因子であった。

【研究報告】

- American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition 2015 ポスター発表: フロリダ州オーランド、2015.12.5-8
- 第78回日本血液学会学術集会 口演: 横浜、2016.10.15

IV. 3 同種造血幹細胞移植後B細胞免疫再構築に関する前向き観察研究

中央市民病院 血液内科 下村 良充

【概要】

同種造血幹細胞移植は血液悪性腫瘍患者において治療を目指す治療のひとつである。しかし、完全なものではなく、多くの合併症をきたす可能性がある。日和見感染、aGVHD (acute graft versus host disease) などが早期死亡の原因となり、cGVHD (chronic graft versus host disease) はQOLを低下させる。特にcGVHDに関しては、はっきりとした成因も明らかになっておらず本邦では有効な治療法も少ない。これらの合併症は免疫再構成が遅れ免疫不全状態となること、もしくは同種抗原に対し過剰に反応することが原因とされている。ドナー由来のT細胞が同種免疫の開始、維持に関与しているが、ドナー由来のB細胞もcGVHDに対し大きな役割を迫っていることが分かっている。B細胞の再構成は移植後早期から始まっている。同種免疫反応を起こす細胞は、BAFF (B cell activation factor belonging to the tumor necrosis factor family) 依存性に増加し、PreGC B cellやCD21Lo B cell、PB-like B cellに分化することで同種免疫反応を起こす。一部のB細胞は抗原提示を通しaGVHDに関与していることが推測されており、分化する特定のサブセットがcGVHDに関与すると報告されている。そのような背景からcGVHDへの治療、予防手段としてリツキシマブの投与が検討されているが、どの時期に行うことが適切であるかははっきりしていない。また、移植後のB細胞のサブセットに関して検討は行われているものの、移植ソースは骨髄、末梢血のみである。一方で臍帯血移植ではB細胞の増加は早いという報告もある。特定の免疫細胞がGVL効果、GVHDの発症にかかわっていることが示唆

されており、免疫反応をコントロールすることでGVL効果の増強や、GVHDを予防もしくは治療することが期待されているが現在のところ有効であったとの報告は少ない。RISTの出現や、臍帯血移植、ハプロ移植の導入などで同種移植の方法が多様化することで免疫再構成の時期などが変わってきている。そもそも移植後の免疫再構築のメカニズムやその影響に関して不明な点も多く、報告も少ない。今回我々は移植後の免疫細胞を定期的に検査することで免疫再構成のメカニズムに関して検討する。同時にGVLおよびGVHDにかかわっている因子、細胞群に関して検討する。

【対象及び方法】

同種移植を受ける予定の患者を対象として定期的に末梢血、骨髄のB細胞サブセットを解析する。主要評価項目は研究後1年までの各サブセット、特にBreg、hematogoneの比較を行う

【進行状況】

2016/1-神戸市立医療センター中央市民病院、先端医療センターIRB通過

2016/2-患者登録開始。

2016は他の同種移植患者を対象とした臨床試験が組み込まれ採血負担のため一時中止している。

IV. 4 同種造血幹細胞移植後骨髄好酸球増加が急性GVHDに与える影響についての検討

中央市民病院 血液内科 下村 良充

【概要】

同種造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病 (acute graft versus host disease, aGVHD) は、重要な合併症の一つである。重症aGVHDは移植関連死亡に関与するのに対し、軽症のaGVHDは急性移植片対白血病効果の発生を示唆する所見でもあり良好な予後と関連していることが示されている。aGVHDの予後予測に関して、様々な研究がなされている。その一つの因子として骨髄中の好酸球増多が重症aGVHDの発生と関連するか検討した。

【対象及び方法】

同種造血幹細胞移植を受けた患者を対象とした。

移植後28日付近に採取している骨髄検査の結果から好酸球数のデータを収集し、その後の重症aGVHDの発症と関連するか検討した。

主要評価項目は骨髄検査後70日目までのaGVHDの累積発症率とした。好酸球数上昇群（高リスク群）と上昇していない群（低リスク群）に分けGray検定を用い評価した。Cut offはCART法を用い決定した。多変量解析にはFine and Gray検定を用い、共変数として年齢、性別、ドナーソース、HLA不一致、非血縁ドナーを組み込んだ。

【結果】

101人の患者が本研究の対象となった。CART法により好酸球4.0%をcut offとして高リスク群と低リスク群に分けた。両群の患者背景に差はなかった。

重症aGVHDの累積発症率は高risk群で35.7%、低risk群で14.9%であった（調整p=0.009、Figure）。ま

た、多変量解析の結果、骨髄中の好酸球が1%上昇するごとに重症aGVHDが1.25倍増加し、高リスク群は低リスク群に比較し3.72倍増加するという結果となった（Table）。

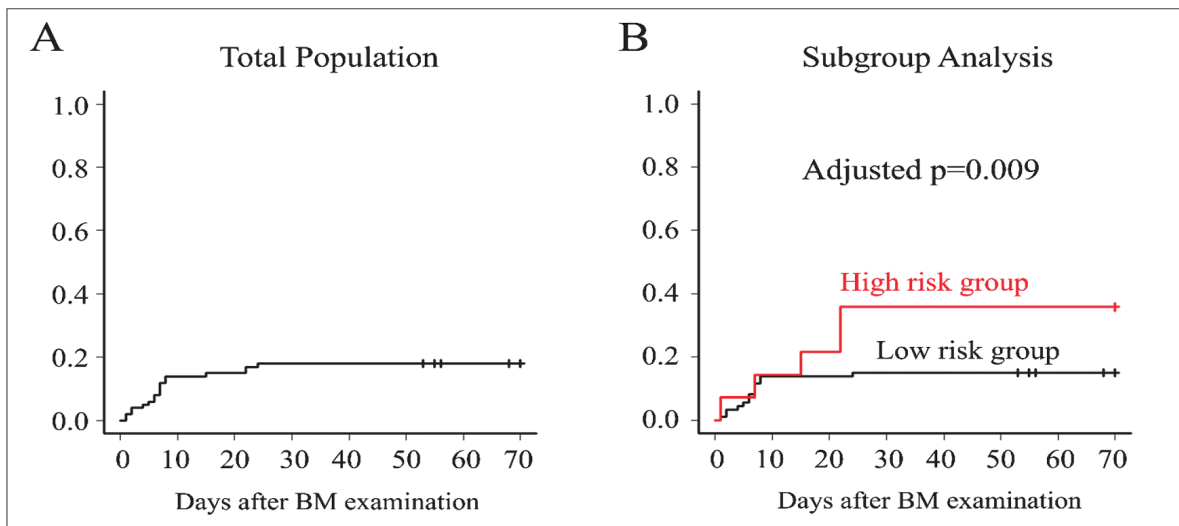
【考察・結論】

同種移植後早期の好酸球増加はその後の重症aGVHDの発症と関連する。重症aGVHDの予測因子として有用である。

【報告】

2016EBMTにて報告

2017Bone marrow transplantation in revision



Figure

	Adjusted HR	95% CI	p-Value
High (>4%) vs Low (≤4%)	3.72	1.39-9.91	0.009
Eosinophil in BM per 1%	1.25	1.12-1.40	<0.001

BM, bone marrow; CI, confidence interval; HR, hazard ratio; and PB, peripheral blood.

Table

IV. 5 同種移植後SSc low CD45 dim細胞集団の予後に与える影響についての検討

中央市民病院 血液内科 下村 良充

【概要】

同種移植は血液悪性腫瘍患者において治療を目指す治療のひとつである。しかし、同種移植は完全なも

のではなく、多種の合併症を呈することが知られており治療関連死亡は2割程度と報告されている。

Hematogoneとは血球増加時に一過性に出現する芽球様細胞でありFlow Cytometry法（FCM）ではSSC low CD45dimに出現する。腫瘍細胞も同位置に出現するものの完全寛解（CR）であれば、多くはHematogoneであるといえる。Hematogoneは同種移

植後に出現することも報告されており、予後との関連も示唆されている。しかし、いずれの研究でも multicolor FCM を使用しており、簡便に行えるものではない。今回我々は簡便に測定できる SSC low CD45 dim の細胞集団が同種移植後の予後に与える影響につき後方視的に検討を行った。

【対象及び方法】

同種移植前にCRの急性骨髄性白血病もしくはリンパ球性白血病患者あるいは化学療法を行っていないMDSの患者を対象とした。移植後28日付近に行った骨髄検査のSSC low CD45 dimの集団につき解析した。全有核細胞の0.6%以上を陽性と判断した。

【結果】

SSC low CD45 dim 集団陽性群と陰性群でそれぞれ2年生存率は91%と67% (p=0.0368)、2年無増悪死亡率は91%と66% (p=0.016)、1年再発率は8.2%と21% (p=0.15)、1年移植関連死亡は0%と21% (p=0.0095)であった。

【考察・結論】

このような結果から同種移植後にSSC low CD45dimの細胞集団を認めることが予後と関連することが示唆された。再発に関して有意差はなかったものの、再発率が低い疾患群であるため統計学的なpowerが足りなかったものと考えている。同種移植後SSC low CD45dimの細胞集団を検討することでその後の予後に

関して有用な情報が得られると考える。

【報告】

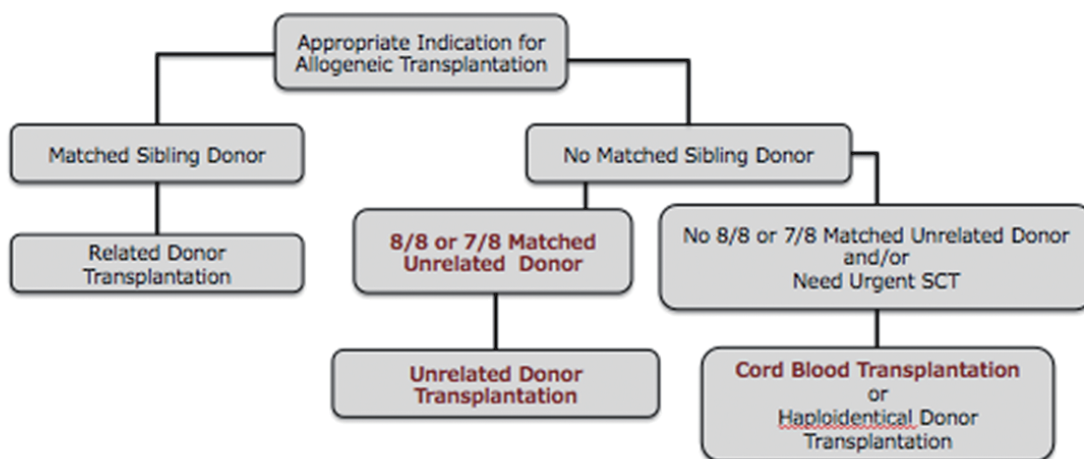
2015 ASH annual meeting
2017冬頃、追加検討の上、論文化予定

IV. 6 同種移植の代替ドナーソースが予後に与える影響の検討

中央市民病院 血液内科 藤本 亜弓

【背景・目的】

同種造血幹細胞移植は多数の血液疾患に対し治療可能な治療法である。ドナー選択が予後に関し重要であり、HLAは8/8一致の血縁ドナーが最も治療成績が良いが、30%の患者にしか血縁のHLA一致ドナーは見つからないと言われている。その場合の代替ドナーとしては、HLA8/8一致の骨髄バンクドナーが次に優先されるが、8/8一致のドナーがいないHLA typeである場合や、病勢のコントロールが不良で迅速な移植が必要な場合は、そのようなドナーを入手するのは困難である。次のドナーソースの候補として、臍帯血がある。臍帯血は元々小児において使用されてきたドナーソースであるが、近年では成人においてもその使用数は増加しており、特に本邦での臍帯血移植数は世界的にも多い。しかし臍帯血移植の優先度に関しての見解は一定していない。そこで、8/8一致の非血縁ドナー、8/7一致の非血縁ドナー、臍帯血に関し、各々の治療成績を当院でのデータを元に後方視的に比較した。



【結果】

患者は16歳以上の血液悪性疾患で、臍帯血または非血縁骨髄をドナーとし、2010年1月から2015年6月までに当院で初回同種造血幹細胞移植を行った107人

をinclusionした。Overall survival (OS)、graft-versus-host-disease (GVHD) -free relapse-free survival (GRFS)、relapse、non-relapse mortality (NRM)、neutrophil recovery、grade II-IV acute GVHD (aGVHD)、and

moderate to severe chronic GVHD (cGVHD) に関して解析を行った。臍帯血、7/8一致ドナー、8/8一致ドナーの1年OSは各々64%、71%、73%で、1年GRFSは各々46%、26%、43%と、OSは有意な差を認めないが、GRFSは7/8一致ドナーが著明に低い結果であった (Table1)。多変量解析では、OSに関してはドナーソースによる有意な影響は認めなかったが、GRFSに関し

ては臍帯血の方が、7/8一致ドナーと比較して有意に良い結果であった。NRM、cGVHDはいずれもドナーソースによる差は認めず、aGVHDは臍帯血の方が7/8一致ドナーと比べて有意に少ない結果であった。臍帯血は他のドナーソースと比較して生着不全が多かったが、再移植により9割近くに生着が得られた。

Table 1

Outcome	UCB vs 8/8URD		UCB vs 7/8URD	
	Relative Risk (95% CI)	P	Relative Risk (95% CI)	P
OS	0.93 (0.39-2.19)	0.87	0.96 (0.34-2.71)	0.94
GRFS	0.78 (0.43-1.44)	0.42	0.47 (0.24-0.91)	0.009
Relapse	1.07 (0.38-3.00)	0.89	0.82 (0.21-3.17)	0.78
NRM	0.91 (0.23-3.58)	0.9	0.5 (1.06-2.35)	0.38
Neutrophil recovery	0.53 (0.30-0.95)	0.032	0.35 (0.20-0.61)	<0.001
aGVHD	0.57 (0.28-1.17)	0.12	0.39 (0.18-0.83)	0.014
cGVHD	0.55 (0.17-1.77)	0.32	0.47 (0.13-1.65)	0.24

【結語】

各々のドナーソースによりOSに有意差を認めなかったが、GRFSは臍帯血移植が8/8一致ドナーと差がなく、7/8一致ドナーより有意に良い結果であった。生着不全は重大な合併症の一つであるが、再移植によりほとんどがレスキュー可能であった。GRFSは移植後のQOLを推測できる指標である。臍帯血移植は迅速に、また安全に入手可能なドナーソースであり、移植後のQOLも良好であることより、血縁8/8一致ドナーがおらず、また8/8一致の非血縁ドナーが入手できない場合や、迅速な移植が必要な場合の代替ドナーソースとして、7/8一致非血縁ドナーよりも優先されるドナーソースであることが示唆された。

【研究成果報告書】

この度「同種移植の代替ドナーソースが予後に与える影響の検討」を行い、42nd Annual Meeting of European Society for Blood and Marrow Transplantation, Valencia, Spain 2016. 4. 3 - 6でポスター発表を行いました。

IV. 7 転移乳癌患者におけるComputer-based Health Evaluation System (CHES) を用いたHRQoL評価の有用性を検討するパイロット研究

Evaluation of Health Related Quality of Life via Computer-based Health Evaluation System (CHES) For Japanese Metastatic Breast Cancer Patients : A single center pilot study

木川雄一郎¹⁾、籾智 幸政²⁾、
Gerhard Rumpold^{4), 5)}、緒方 貴次²⁾、
佐竹 悠良²⁾、加藤 大典¹⁾、
辻 晃仁^{2), 3)}、安井 久晃²⁾、
Bernhard Holzner^{4), 5)}

神戸市立医療センター中央市民病院

¹⁾ 乳腺外科、²⁾ 腫瘍内科、³⁾ 香川大学医学部 臨床腫瘍学、

⁴⁾ Department of Psychiatry, Psychotherapy and Psychosomatic Medicine Medical University of Innsbruck, Austria、

⁵⁾ Evaluation Software Development, www. Ches. pro, Rum

【背景】

Health related quality of life (HRQoL) は医療者評価と患者の主観的評価に乖離があるため、患者自身の自

己記入式質問紙法が一般的とされている。これに対し EORTC QoL group は Computer-based Health Evaluation System (CHES) を開発し、インターネットを介した HRQoL 評価を開始した。今回我々は CHES をアジアで初めて導入し、日本人における web ベースでの HRQoL 評価の pilot study を行った。(UMIN000023250)

【方法】

対象は外来通院中で自身のデバイスよりインターネットへの接続が可能な転移性乳癌患者、16人。入力方法を指導後、患者のデバイスから CHES を通して 1 週間毎に 3 か月間、自宅で EORTC QLQ-C30 の回答入力するよう依頼した。主要評価項目はデータ収集コンプライアンス、副次的評価項目は観察期間中に minimally important difference (MID) を示した患者の割合と、time to deterioration (TTD) とした。

【結果】

年齢中央値は 58 歳 (38-70)、9 人 (56%) は化学療法、7 人 (44%) はホルモン療法中、登録時の ECOG performance status は PS0、1、2 がそれぞれ 9 人 (56%)、5 人 (31%)、2 人 (13%) であった。また、本抄録作成時点で登録から最終回答日までの期間の中央値は 50 日であった。データ収集コンプライアンスの中央値 (IQR) は 95% (45.2-100)。観察期間中に MID を来した症例は 8 例 (50%) で、TTD の中央値は 30 日 (95% CI, 7.7-52.3) であった。

【結論】

CHES による適切な HRQoL 評価はおおむね可能であった。

【報告】

平成 29 年 7 月の日本臨床腫瘍学会で発表予定である。

IV. 8 Feasibility of Early Postoperative Pleurodesis in The Treatment of Air Leak After Lobectomy

Sakanoue I, Hamakawa H, Okubo Y,
Saito T, Minami K, Takahashi Y
Department of Thoracic Surgery, Kobe City
Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Introduction

Postoperative air leak is one of the most frequent

complications and an important reason for extended postoperative hospital stay after lobectomy. Although several studies have analyzed the efficacy and safety of postoperative pleurodesis for prolonged air leak, no study has indicated the feasibility of pleurodesis in early postoperative period. The aim of this study was to evaluate the pleurodesis with OK-432 within 24 hours after lobectomy and to assess the value of early postoperative period.

Methods

Between April 2013 to July 2015, 269 patients (Performance status 0 or 1, without induction therapy) underwent lobectomy in our department. We retrospectively reviewed the data for smoking status, imaging and histological findings, complications, degree of air leak, 90 day mortality, tube durations, hospital stay and postoperative costs. Based on these data, patients underwent pleurodesis were divided into two groups, Group 1: patients who received pleurodesis within 24 hours, and Group 2: those who received it after 24 hours. All pleurodesis procedures were performed with OK-432. The patients having a possibility of pulmonary fibrosis were excluded from this study, considering acute exacerbation of interstitial pneumonia.

Results

58 patients, who were performed pleurodesis due to air leak after lobectomy, were enrolled in this study. The clinical characteristics are shown in Table 1. Among them, 44 patients (75.9%) were in Group 1, and 14 patients (24.1%) were in Group 2. In Group 1, tube duration time was significantly shorter (3.0 ± 1.5 vs 4.2 ± 1.6 days, $p=0.013$), and total costs during postoperative hospital stay tended to be less ($3,481 \pm 2,016$ vs $4,410 \pm 1,639$ US dollars, $p=0.087$) than in Group 2. Degree of air leak was significantly more severe in Group 1 than Group 2 ($p<0.001$). Postoperative hospital stay was not different between the two. No pleurodesis-related death was observed in both groups, although 2 patients with no air leak after lobectomy were dead due to acute exacerbation of interstitial pneumonia.

Conclusions

Early postoperative pleurodesis was acceptable procedure

to seal air leak after lobectomy, although degree of air leak was more severe. Unfortunately, it couldn't shorten the postoperative hospital stay, however, it was significantly beneficial in aspects of tube duration time without any pleurodesis-related death. Moreover, it might cost less than late, after 24hrs, pleurodesis. Further clinical studies are needed to ascertain the efficacy and safety of early period pleurodesis.

IV. 9 Efficacy and safety of thoracoscopic pericardial window in patients with pericardial effusions : a single-center case series

Sakanoue I

Department of Thoracic Surgery,

Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Abstract

Background : Pericardial effusion (PE), a common finding in patients with chronic cardiac failure, post-cardiac surgery, and other benign and malignant diseases, ranges in severity from mild, asymptomatic effusions to cardiac tamponade. Thoracoscopic pericardial window (TPW) is a minimally invasive surgical option for patients with PE. However there are few published data regarding the outcome of TPW for PEs. We investigated the contribution of TPW for treatment of PEs that are recurrent or difficult to drain percutaneously.

Methods : We conducted a retrospective chart review of the indications for TPW ; preoperative, intraoperative, and postoperative variables ; morbidity ; recurrence ; and survival. Fourteen consecutive patients with PE that was recurrent or difficult to drain percutaneously were enrolled in this study and underwent treatment with TPW. Trocars for passage of the thoracoscope and surgical instruments were introduced through two or three incisions. A mini-thoracotomy was also performed in patients with hemopericardium and loculated fibrinous effusions. The patients were evaluated by face-to-face interviews, transthoracic echocardiography (TTE), and chest radiographs 3 to 6 months after the TPW.

Results: The mean age of the patients was 70 (range, 28–83) years. The operative time was 72.1 ± 29.5 min. Six patients had undergone open heart surgery in the month prior to presentation with PE. No intraoperative

or postoperative complications occurred ; however, PE recurred in one patient. Two patients died of malignant disease several months after the TPW. The cardiothoracic ratio on chest radiographs and the ejection fraction ratio on TTE were improved at the 3 - to 6 -month follow-up ($p < 0.0001$, $p = 0.012$, respectively). Some patients discontinued diuretics after the procedure, which was assessed by the cardiologist based on improvement of symptoms, chest radiography, and TTE findings.

Conclusions : In patients with PEs that are recurrent or difficult to drain percutaneously, TPW is an effective and safe surgical approach in terms of cardiac function and radiological findings.

Sakanoue I, Hamakawa H, Okubo Y, et al : Efficacy and safety of thoracoscopic pericardial window in patients with pericardial effusions : a single-center case series. J Cardiothorac Surg 11 : 1–5, 2016

IV. 10 当院における過去10年間の子宮体癌再発症例についての検討

中央市民病院 産婦人科 林 信孝

【概要】

緒言

子宮体癌は、術後再発リスク分類により術後治療の要否を決定し、再発予防を行う。子宮体癌の再発形式はさまざまであり、再発に対する治療も多岐にわたる。当院での子宮体癌の再発形式、再発治療の内容、治療成績について報告する。

対象と方法

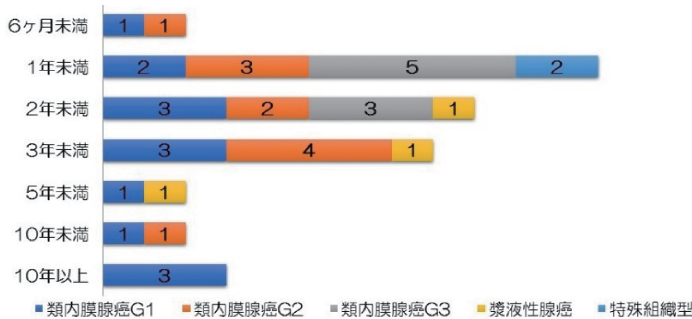
当院で2004年10月から2014年9月までの10年間に子宮体癌再発と診断した38症例について、初回治療の内容、組織型、病期、再発リスク分類、再発形式、再発治療、予後などについて後方視的に検討を行った。

結果

再発症例の背景（38例）

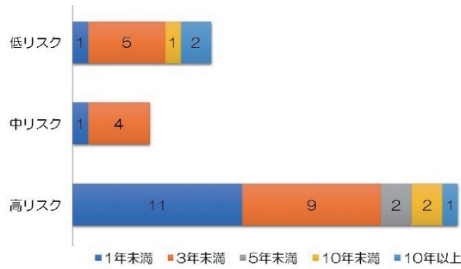
初回治療時病期		組織型		再発リスク分類		再発部位(重複含む)		再発部位の数	
I 期	17	類内膵腺癌 G1	14	低リスク	9	腔壁および断端再発	10	孤発再発	23
II 期	1	類内膵腺癌 G2	11	中リスク	5	リンパ節再発	17	複数箇所	15
III 期	19	類内膵腺癌 G3	8	高リスク	24	腹腔内播種再発	5		
IV 期	1	漿液性腺癌	3			遠隔転移再発	11		
		特殊組織型	2						

再発までの期間と組織型の検討



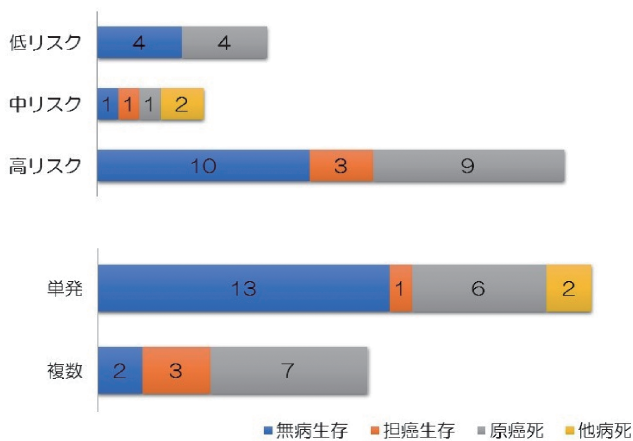
- G3および漿液性腺癌、特殊組織型の再発症例では全症例が5年未満で再発
- 類内膵腺癌 G1 再発症例14例中の4例（28%）は晩期再発

再発までの期間と再発リスクの検討



- 高リスク群では80%の症例が治療後3年未満で再発であったが、晩期再発症例も認められた

再発治療後の予後



- 低リスク群で50%、高リスク群で40%の症例が原癌死に至っており、再発後の予後は、術後再発リスクに影響されない可能性がある
- 孤発再発症例においては56%が無病生存、複数箇所再発では13%が無病生存であり、孤発再発において予後良好である事が示唆される

晩期再発症例の一覧

年齢	術式	組織型	病期	再発リスク	追加治療	再発部位	再発箇所	再発までの期間	再発診断の経緯	自覚症状	治療	予後
48	RHBSO PENPAN	G2	ⅢC2	高リスク	化学療法	傍大動脈リンパ節	単発	66	定期フォローCT PAN再発指摘	無	化学療法	無病生存
52	TAHBSO PEN	G1	ⅢA	高リスク	化学療法	骨盤内リンパ節	単発	126	定期フォローMRI PEN再発指摘	無	化学療法	原癌死
46	TAHBSO OMT	G1	ⅢA	高リスク	化学療法	肝臓	単発	110	定期フォロー中 再発腫瘤出現	右季肋部痛	化学療法 放射線療法	原癌死
58	TAHBSO PENPAN	G1	I A	低リスク	なし	肺	単発	136	11年でフォロー終了 2ヶ月後に血痰出現 CTで発覚	血痰	手術	無病生存
71	TAHBSO	G1	I A	低リスク	化学療法	腔断端 骨盤内リンパ節	複数	128	術後1年で 受診自己中断	性器出血	無治療	原癌死

- 1例を除いた4症例において長期フォローがされており、フォローの画像検査で3例、自覚症状があり施行した検査で1例の再発が判明
- 晩期再発症例の中には類内膜腺癌G1でI A期の術後低リスク群の症例が2例含まれた
- 晩期再発症例においては5例中3例が原癌死となっており、予後不良であった

結語

- 子宮体癌再発症例においては孤発再発で予後良好であった
- 再発後の予後は術後再発リスク分類に影響されない可能性が示唆された
- 類内膜腺癌G1・G2の低悪性度の組織型において晩期再発をきたした
- 晩期再発では再発低リスク群であっても予後不良であり、長期フォローが必要な可能性が示唆された

【報告】

林 信孝、前田裕斗、柳川真澄、山添紗恵子、日野麻世、松林 彩、宮本泰斗、小山瑠梨子、大竹紀子、富田裕之、池田裕美枝、上松和彦、青木卓哉、今村裕子、星野達二、吉岡信也：第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，盛岡，2015.8.7-9

IV. 11 当院における中下咽頭表在癌の臨床的特徴・治療・合併症と治療成績・問題点について

中央市民病院 頭頸部外科 篠原 尚吾

【概要】

【はじめに】 当院においても2008年以来、現在まで24名、27例、31か所の咽頭表在癌に対し内視鏡的切除を施行してきた。

【臨床的特徴】 発見経緯は24名中22名が上部消化管内

視鏡、2名が喉頭内視鏡であった。男：女=22：2と男性に多く、年齢分布は59-81歳で、20名が喉頭あるいは他の上部消化管癌の既往があり、7名に照射歴があった。

【治療】 全身麻酔下に弯曲型喉頭鏡で喉頭を挙上、術野を展開のうえ、EMRC（6例）、ELPS（1例）、ESD（18例）、アルゴンレーザー焼灼（2例）で切除あるいは焼灼した。術後気道確保は抜管帰室12例、翌朝まで挿管管理14例、切除範囲が喉頭にかかるためあらかじめ気管切開した症例が1例であった。

【合併症と治療成績】 18例は第5病日までに退院していた。術後誤嚥性肺炎を合併した2例は保存的に軽快した。中咽頭後壁癌に対してELPSを施行した1例で、術後頸部化膿性脊椎炎になり長期入院を要した。術前生検では全例SCCの診断であったが、術後病理で異形成のみが2例あった。ESDの症例に限って言えば、pHM0：1：2=15：3：0、pVM0：1：2=18：0：0。現在まで他病死2名以外は生存しており、全例で喉頭温存できていた。

【問題点】 先行するがん治療のためすでに食道や下咽頭に狭窄がある患者、化学放射線治療ですでに嚥下が難しい患者などに広範囲な表在癌ができると治療法の選択に難渋する。実際、術後の嚥下障害を恐れて手術の同意を得られない症例もしばしば経験する。

上記内容で、第40回日本頭頸部癌学会、第6回関西頭頸部腫瘍懇話会で口演した。とくに後者は当院消化

器内科の占野医師にも議論に参加していただき、実りの多い発表となった。また、第31回近畿手術手技研究会では当院の成績は口演していないが、兵庫県立尼崎総合医療センターより同様の口演があり、当院の方法や成績と比較した活発な討議が行われて、大いに勉強になった。

業績の報告学会・論文

第40回日本頭頸部癌学会：2016.6.9-10 埼玉

第6回関西頭頸部腫瘍懇話会：2016.11.5 大阪

著者・演者

篠原尚吾¹⁾、菊地正弘¹⁾、末廣 篤¹⁾、原田博之¹⁾、

岸本逸平¹⁾、林 一樹¹⁾、占野尚人²⁾

神戸市立医療センター中央市民病院 ¹⁾耳鼻咽喉科・
頭頸部外科, ²⁾消化器内科

IV. 12 ASA-PSによる全身状態のスコアが甲状腺全摘後の総生存率に及ぼす影響について

中央市民病院 頭頸部外科 篠原 尚吾

【概要】

【はじめに】当院は総合病院であるがゆえに、全身状態の比較的不良な甲状腺疾患を有する症例の紹介を頻繁に受ける。そこで、麻酔科医が術前に記す全身状態を表すスコアであるASA-PS (The American Society of Anesthesiologists Physical Status) を用いて、全身状態の悪さが甲状腺手術に与える影響について検討してみた

【対象と方法】対象は2004年から2014年まで当科で甲状腺全摘術を施行した症例のうち、生命予後が著しく悪い未分化癌・転移性甲状腺癌を除く256例 (男性57例、女性199例、年齢分布14~86歳)、良性72例、悪性182例である。これらの症例につきASA-PSごとの臨床的特徴、合併症、入院期間、総生存率につき後方視的に検討した。

【結果】全症例のASA-PSの分布はPS1が77例 (30%)、PS2が149例 (58%)、PS3が30例 (12%) であった。PS2症例のうち頻度の高い全身疾患は高血圧、高脂血症、糖尿病の順であった。PS3症例のうち頻度の高い全身疾患は心機能不全 (うち4例はペースメーカー挿入)、コントロール不良の糖尿病、透析を有する腎不全の順であった。また、PS3症例のうち4例 (13%) が抗血小板治療中、7例が抗凝固療法中 (23%) であった。年齢分布はPSが上昇するごとに有意に高くなっ

たが、悪性疾患の頻度は逆にPS1症例に多かった。全入院期間、術後入院期間はPS3症例で有意に長く、術前ヘパリン化の割合、死亡退院率はPS3症例に有意に高かった。総生存率は、PS3はPS1-2と比較して有意に悪い結果となり、単変量ではPSが1増加することのHRは3.03であったが、年齢、悪性か否か、PS3か否かで多変量解析したところ、年齢のみが有意に総生存率に影響を与える因子となった。従って、全身麻酔のリスクより、術時年齢のほうが総生存率に寄与していることが示された。

業績の報告学会・論文

第117回 日本耳鼻咽喉科学会総会：2016.5.18-21
名古屋

第9回国際頭頸部癌カンファレンス：2016.7.16-20
シアトル

第49回日本甲状腺外科学会：2016.10.27-28 山梨

業績の論文

Endocrine Journal 63, 999-1004, 2016

著者・演者

篠原尚吾¹⁾、竹林慎治¹⁾、菊地正弘¹⁾、末廣 篤¹⁾、
原田博之¹⁾、柚木一馬²⁾、山崎和夫²⁾

神戸市立医療センター中央市民病院 ¹⁾耳鼻咽喉科・
頭頸部外科, ²⁾麻酔科

IV. 13 声門癌再発に併発し、喉頭亜全摘術で制御可能であった喉頭デスモイドの1例

中央市民病院 頭頸部外科 篠原 尚吾

【概要】

【はじめに】デスモイドは腹壁に好発する軟部組織腫瘍で、周辺組織に浸潤性に増大し、再発を来しやすいことで知られている。外傷や手術との関連も示唆されていたが、近年、家族性大腸ポリポーシスの原因遺伝子 (FAP) との関連が示されている。頭頸部にも発生するが、喉頭に発生するものは極めてまれで、現在までに国内外で7例しか報告がない。

【症例】初診時60歳台の男性。平成20年8月より嗄声。平成21年2月、左声帯白板症の診断で全身麻酔下にラリングマイクロ手術 (LMS)。声帯ポリープと軽度異形成の診断であった。平成21年8月、右声帯後連合付近の赤色の腫瘤に対しLMS下に生検を施行。喉頭乳頭腫及び扁平上皮癌の診断を得、声門癌T1aN0M0の

診断で2Gy/fr x 30frの放射線治療を施行した。平成22年1月、腫瘍の残存を疑い、LMS下に生検、迅速病理は乳頭腫であったので、可及的切除。平成21年10月大腸ファイバーにて2型の進行盲腸癌と、2個のポリープあり、腹腔鏡下回盲部切除術を施行。術後治療としてUFTの内服加療を受けていた。平成22年5月、UFT中断直後より嘔声が増悪。右声帯に出現した不正な腫瘤が急速に増大を来した。平成22年6月緊急気管切開の上、LMSにて腫瘍を可及的切除。組織診断は肉芽組織。同年11月、腫瘍再増大のためLMSにて再生検、病理結果は上皮内癌を伴うデスマイドであったので、同年12月根治治療目的で、右予防的頸部郭清術および喉頭亜全摘術（Pearson法）を施行した。術後病理所見では内部に扁平上皮癌の小病巣を有するデスマイドであった。術後経過は良好で、現在まで扁平上皮癌・デスマイドのどちらも再発所見はない。また残存声帯を利用した発声管の括約機能も良好で誤嚥もなく、気管切開孔を手指にて閉鎖することで、良好に発声可能である。

【結語】長い経過のうちに喉頭にデスマイドを発生した症例を経験した。喉頭への度重なる手術、放射線治療などの侵襲が一因となっている可能性が示唆された。

本症例報告は現在までに国内外で6番目に報告された成人型喉頭乳頭腫で、癌と共存する報告は世界初である。

業績の報告学会・論文

第67回日本気管食道科学会：2015.11.19-20 福島

業績の論文

Auris Nasus Larynx 2016 [Epub ahead of printing]

著者・演者

篠原尚吾¹⁾、菊地正弘¹⁾、末廣 篤¹⁾、原田博之¹⁾、岸本逸平¹⁾、今井幸弘²⁾

神戸市立医療センター中央市民病院 ¹⁾耳鼻咽喉科・頭頸部外科、²⁾臨床病理科

IV. 14 肺腫瘍血栓性微小血管症（PTTM）による呼吸不全のため急激に死の転機をたどった舌下腺腺様嚢胞癌症例

林 一樹¹⁾、篠原 尚吾¹⁾、内藤 泰¹⁾、
藤原 敬三¹⁾、末廣 篤¹⁾、岸本 逸平¹⁾、
原田 博之¹⁾、桑田 文彦¹⁾、山本 亮介¹⁾、
佐藤 悠城²⁾、上原慶一郎³⁾

中央市民病院 ¹⁾耳鼻咽喉科・頭頸部外科、
²⁾呼吸器内科、³⁾臨床病理科

PTTM（肺腫瘍血栓性微小血管症：pulmonary tumor thrombotic microangiopathy）は肺動脈の微小腫瘍塞栓により肺高血圧症を来す病態で、急激に呼吸困難を来し、多くは短期間で死亡する。CTにて肺野に異常所見を認めず、肺動脈に明らかな血栓や塞栓を認めないので、生前に診断することは困難とされている。

今回われわれはT2の舌下腺腺様嚢胞癌に伴うPTTMのため短期間で死の転機をたどった症例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告した。

症例は53歳男性。1か月来の右口腔底腫瘤のため紹介受診となった。右口腔底粘膜下に長径20mm程度の腫瘤を認め、穿刺吸引細胞診にて唾液腺導管癌の疑いであった。PET-CTにて肺や骨にも多発する転移巣を認めたので組織型確定のため、外来手術で開放生検を施行した。このとき酸素飽和度84%と低下を認め、労作時呼吸困難も認めため緊急入院となった。

造影CTにて酸素飽和度低下に見合うような気道狭窄、胸水、肺動脈の血栓など肺野の変化を認めず、転移性病変を認めるのみであった。肺機能検査上も、拘束性障害・閉塞性障害を認めず、超音波検査にて心疾患は否定的と考えられた。残る鑑別として肝肺症候群やPTTMの可能性が考えられた。換気血流シンチにて、肺門部～縦隔側で強く末梢の血流は全般に弱い傾向であり、最終的に経気管支肺生検でもPTTMに矛盾しない所見であったので、抗凝固療法・化学療法を施行した。しかし、入院19日目に転移性脳腫瘍からの出血を認め中断した。その後、緊急放射線照射を開始したが、入院23日目には発熱性好中球減少症を発症し、入院25日目に急性呼吸不全のため死亡された。口腔底腫瘍の最終病理は腺様嚢胞癌であった。病理解剖にて多数の末梢肺血管内に微小腫瘍塞栓と内膜の線維性肥厚を認め、組織学的にPTTMと診断した。

PTTMは1990年にVon Herbayらによって報告された。肺の細小動脈壁への腫瘍の多発転移により、血管内膜の線維細胞性増生や局所における血栓形成から、血管

内腔の狭小化・閉塞を生じる。

単純に腫瘍細胞塊が血流に乗って肺動脈に塞栓する肺動脈腫瘍塞栓症とは異なる病態である。

通常の画像診断で生前に診断することは困難であり、悪性腫瘍剖検例の0.9-3.3%に認められるとの報告がある。

胃癌での報告が最も多い。(Von Herbay A, 1990)

今回我々は、T2の舌下腺腺様嚢胞癌に伴うPTTMのため急速な死の転機をたどった症例を経験した。頭頸部癌に伴うPTTMの報告は、耳下腺癌の1例のみであり、それもまた、剖検での症例である。生前の舌下腺腺様嚢胞癌に伴うPTTMの報告は我々が渉猟する限りでは認められていない。

主要肺動脈に塞栓がなく急性の呼吸状態の悪化が癌患者にみられた場合、臨床医はPTTMを疑うべきである。

PTTMが疑われる場合、肺生検を行い早期に診断し、治療を開始すべきである。

今後、有効な治療法の検討が急がれるが、頭頸部の早期癌でもPTTMを引き起こす可能性があるという貴重な報告ができたと考える。

なお、この症例は現在、論文投稿中である。

IV. 15 ひとたび寛解したものの9年後に肺転移巣で死の転帰をたどった甲状腺未分化癌の症例

林 一樹¹⁾、篠原 尚吾¹⁾、末廣 篤¹⁾、
原田 博之¹⁾、岸本 逸平¹⁾、桑田 文彦¹⁾、
今井 幸弘²⁾、佐竹 悠良³⁾

中央市民病院 ¹⁾耳鼻咽喉科・頭頸部外科、
²⁾臨床病理科、³⁾腫瘍内科

甲状腺未分化癌はすべての悪性腫瘍の中でもっとも予後不良で、診断から1年以内に80%以上が死亡する。

9年前に甲状腺未分化癌の切除術を行い、一旦寛解したが、残存していた分化癌が再未分化転化し、その後急速に死の転機をたどった症例を経験したので報告した。

症例は66歳女性。8年前に甲状腺癌に対して全摘術、頸部郭清を受け、そのときの病理検査で、乳頭癌、一部扁平上皮分化、未分化転化の診断を得た。術後、頸部にI-131集積を認めたためヨード治療を行い、化学療法と放射線照射を追加した。術後6年の時点ではI-131は集積しないが、FDGは集積する多発肺転移を認めていた。術後8年の時点でも多発肺転移巣は軽度増大を認めるのみであった。術後9年経過後、背部痛、発熱を主訴に緊急入院となり、CTにて左上肺野転移

巣の著明な増大と多発骨転移を認めた。肺生検により未分化な癌細胞を検出。腫瘍の増大を認める左肺尖部は、もともと分化癌と思われる甲状腺癌のあった場所であり、肺に残存した分化癌の未分化転化であると考えた。レンバチニブメシル酸塩による治療を開始し、腫瘍の増大を一時的に抑制することができたが、投与開始1か月後に腫瘍からの出血と胸水のコントロール不良のため、死亡された。この度の腫瘍の再燃は、もともと肺転移巣があった部位での腫瘍の急速な増大であり、初回の未分化癌の再発ではなく、残存した分化癌の再未分化転化と考えた。

未分化癌において、数年の生存が一部の症例においては確認されているが、その詳しい予後については不明であり、残存した分化癌が再未分化転化する症例は渉猟した範囲、認められていない。

腫瘍の増大を認めた部位は、もともと分化癌と思われる甲状腺癌のあった部位であり、初回の未分化癌の再発ではなく、肺に転移再発した分化癌の未分化転化であると考えられる

一旦寛解した未分化癌の肺転移巣と考えられる分化癌の再未分化転化した症例は、我々が渉猟する限りでは認められておらず、貴重な報告ができたと考えている。今後、論文を検討している。

IV. 16 Clinicopathological features of intravascular large cell lymphoma : immunohistochemical analysis of adhesion molecule

Fujikura K

Department of Pathology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Background

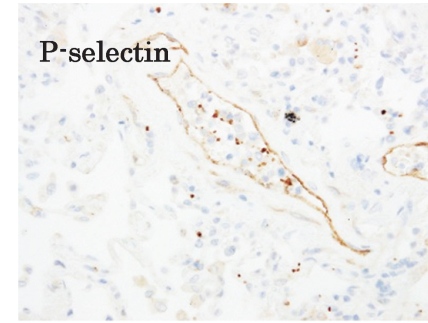
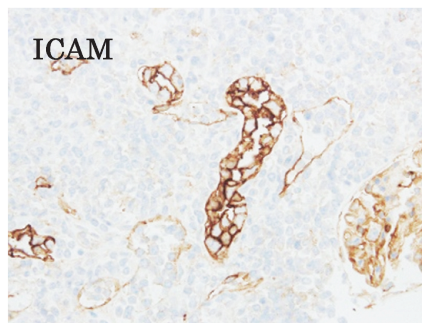
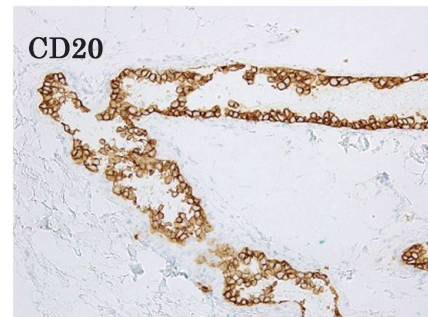
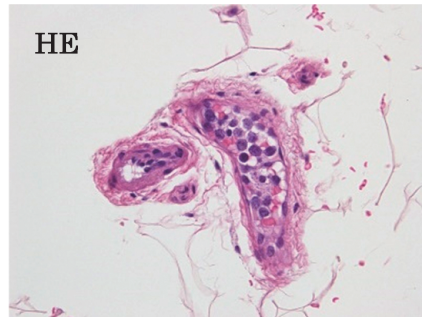
Intravascular large cell lymphoma (IVL) is a rare subtype of extranodal large cell lymphoma characterized by the presence of neoplastic cells within the small- and medium-sized blood vessels. Most cases of IVL have a B-cell phenotype and rare cases of NK/T-cell IVL have been also reported. Here we aimed to elucidate the clinicopathological features of both types of IVLs and analyzed the expressions of adhesion molecules (homing receptors) between lymphoma and blood vessel.

Methods and results

Among the 27 IVL cases examined in the present

study, 25 cases (93%) were classified as the B-cell phenotype and 2 cases (7%) were the T-cell type. The first clinical symptoms were fever (62%), neuropathy (31%), respiratory discomfort (12%), decreased body mass (6%), disturbance of consciousness (6%) and

others, and varied depending on the disease progression. Immunohistochemical analysis of ICAM1 showed partial membranous patterns in IVL cells while P-selectin showed dot-like staining patterns. VCAM1 was positive for vascular epithelium but negative for IVL cells.



Conclusions

IVL represents a rare, aggressive entity of lymphoma. Adhesion molecules such as ICAM and P-selection exhibited irregular expression patterns in IVLs. Further immunohistochemical and genetic analysis is necessary to uncover the pathological features.

IV. 17 Long-term outcomes of salvage radiation therapy for prostate specific antigen relapse after radical prostatectomy

Kosaka Y, Kokubo M, Takayama K,
Imagumbai T, Kimino G, Ueki K
Department of Radiation Oncology,

Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Institution of Biomedical Research and Innovation, Kobe, Japan

Purpose :

To evaluate long-term outcomes of salvage radiation therapy (SRT) for prostate specific antigen (PSA) relapse after radical prostatectomy.

Materials and Methods :

From May 2003 to November 2009, 38 patients who developed PSA relapse after radical prostatectomy for prostate cancer were treated by SRT. Age ranged from 50 to 78 years old, and median was 71 years old. The pathological stage was T1 (n=1), T2 (n=15), T3 (n=19), and T4 (n=3), respectively. Eighteen patients had positive margins. The Gleason score was ≤ 6 (n=11), 7 (n=23), and $8 \leq$ (n=4), respectively. Ten patients were treated with hormone therapy before SRT. The median timing of SRT after prostatectomy was 15.7 (range, 4.2–61.7) months. Prescribed radiation dose was mostly 66 Gy to the prostate bed. After completing SRT, patients were typically evaluated every 3 months for 5 years and every 3 to 6 months thereafter. PSA relapse was defined as having a PSA value of >0.2 ng/mL. Data for outcomes were collected and analyzed retrospectively. Toxicities were evaluated according to the common terminology criteria for adverse events v4.0.

Results :

Median duration of observation was 98.0 (range, 28.9–135.6) months. In 4 patients, PSA levels continued to increase after SRT. In the other 34 patients, PSA levels decreased, and in 19 patients of them, PSA levels fell below measurable limits. At the final follow-up evaluation, 16 patients developed PSA relapse. Two of them developed distant metastases. The overall 5-and 8-year actuarial PSA relapse-free survival rates were 65.2% and 57.1%, respectively. On multivariate analysis, no factors were significantly correlated with PSA relapse-free survival rates, but pre-SRT PSA level had a trend toward a correlation. Grade 2 and grade 3 late genitourinary toxicities were observed in 10 patients and 1 patient, respectively. Although 2 patients had already developed toxicities before SRT, 4 patients developed toxicities more than 5 years after SRT. Grade 2 late gastrointestinal toxicities were observed in 1 patient.

Conclusions :

Long-term outcomes of SRT for PSA relapse after radical prostatectomy seems favorable. PSA relapse or genitourinary toxicities are sometimes observed more than 5 years after SRT, so long-term observation is important.

IV. 18 頭頸部原発悪性腫瘍に対する放射線治療の予測困難な中断原因

小坂 恭弘¹⁾、小久保雅樹¹⁾、篠原 尚吾²⁾、
菊地 正弘²⁾、末廣 篤²⁾、原田 博之²⁾
中央市民病院 ¹⁾放射線治療科、²⁾頭頸部外科

【目的】

予定していた放射線治療の中断は悪性腫瘍の制御率を低下させる為、臨床医は極力避けるべきである。しかしながら予測困難な事態が起り治療を中断せざるをえないことがある。今回我々は頭頸部原発悪性腫瘍に対する放射線治療を行った症例を対象に、その頻度と中断した原因を調べたので報告する。

【方法】

対象は2011年7月～2016年1月に当院で放射線治療を行った217例。悪性腫瘍や併存疾患、治療との因果関係が示唆される病態や事前の検査結果から推定される病態は予測可能と判断し、それ以外を予測困難と判断した。

【結果】

171例で根治目的の放射線治療（術後照射含む）を行い、残り46例は姑息的放射線治療を行った。治療開始日から終了日までの総治療期間は、前者が12～57日（中央値44日）、後者が1～44日（中央値15.5日）であった。予測困難な事態は3例で起り、すべて根治目的の症例であった。原因は下部消化管穿孔、脳動脈瘤破裂、原因不明の心原性ショックであり、事故や事件性のあるものはなかった。それぞれ治療開始から31日目、10日目、12日目に発症した。前2例は迅速な加療で回復し7日後と11日後に放射線治療を再開でき、現在無再発生存中である。後1例も病態から回復したが放射線治療は再開していない。

【結論】

事前予測が困難な原因で放射線治療を中断した症例について報告した。予測困難な病態にも適切に対処できる環境整備が悪性腫瘍の治癒率向上に資すると考えた。

IV. 19 肝臓癌に対する定位放射線治療での Dose-Volumeパラメータと晩期肝機能障害との関係

中央市民病院 放射線治療科 植木 一仁

【背景】

肝臓癌に対する治療は、手術、血管内治療、ラジオ波焼却術が主であったが、近年、体幹部定位放射線治療（SBRT）は切除不能な肝臓癌に対する有効な治療選択肢の一つとなっている。しかしながら、肝臓癌に対する体幹部定位放射線治療の効果、安全性については、不明な点も多い。肝細胞癌の患者は慢性肝障害を有しており、障害を受けた肝細胞の機能は正常肝に比べて十分な代償がなされない。そのため、急性期に重篤な肝障害が生じなかった場合であっても、晩期において肝機能低下につながり予後と関連する可能性があるが、晩期肝機能低下に関しての報告は少ない。

【目的】

肝臓癌に対する体幹部定位放射線治療における Dose-Volumeパラメータと晩期肝機能障害との関係を探索する

【方法】

(1) 対象患者の適格基準

できるだけSBRTの影響のみを評価できるように

に、① SBRT後、6か月以内の追加治療がない ② 肝炎ウイルスが制御されている ③ 重篤な心疾患、呼吸器疾患、膠原病がない ④ 利尿薬の投与がされていない ⑤ 肝切除の既往がない、とした。

(2) 肝機能の評価

肝機能の指標として現在Child-Pugh 分類が広く用いられている。Child-Pugh 分類はもともと肝硬変患者の予後推定のために考案された指標であること、腹水の評価法が明確でないこと、治療適応のある多くの肝臓癌患者はgrade A であること等、肝臓癌患者の肝機能評価に用いるには不十分な点も多い。近年、肝臓癌を有する患者の肝機能の評価する新たな客観的指標 (ALBI: Albumin-Bilirubin model) が考案され、予後と相関することが報告された。本研究ではこのALBIを用い、 $(\log_{10}\text{Bilirubin} \times 0.66) + (\text{Albumin} \times -0.085)$ (Bilirubin: $\mu\text{mol/L}$, Albumin: g/L) と算出される) 放射線治療後、追加治療を行うまで、ALBIの値をフォローした。

(3) 照射線量の評価

n Gy 照射された正常肝の割合をVn [%]、n Gy 照射されない正常肝の体積をVSn [cc] と定義し、全肝、右葉、左葉、で算出した。また、20 Gy 照射された体積が大きい方の肝葉をMainly irradiated lobe of liver (MIL) と定義した。

(4) 統計解析

ALBI の値の変化 (SBRT 前と、SBRT 後6か月以降に追加治療される直前まで) と照射線量の関連を、スピアマン相関 (相関係数: r) で解析した。

【研究成果】

(1) 対象患者は17人で、患者背景は年齢中央値79歳、観察期間中央値12か月、Child-Pugh class はA、B、Cが

それぞれ11、6、0人であった。SBRT前の治療は、TACE, RFA, TACEかつRFAがそれぞれ6、2、5人であった。体幹部定位放射線治療の照射線量は40 Gy/5 fx (D95%)、48Gy/4 fx (@isocenter)、56 Gy/8 fx (@isocenter) がそれぞれ5、10、2人であった。

(2) 全症例のALBIの経時変化は図1の通りであり、ALBIの変化量の中央値は0.02 (範囲 -0.9 から0.8) であった。

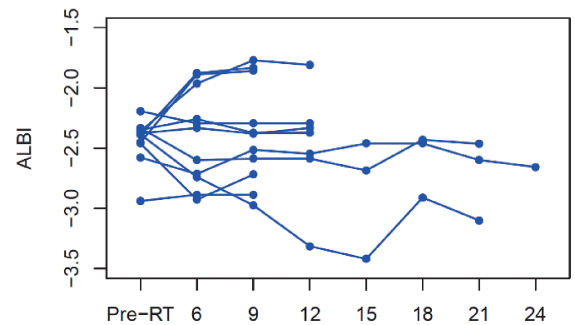


図1

(3) ALBI の変化量と照射線量との相関を図2に示す。ALBIの変化量は、全肝の線量よりも MIL の線量 (特に V5, VS5) と強い相関があった。このことから、慢性肝障害を有する肝臓は、必ずしも単純な並列臓器ではなく、左右の肝臓で耐容線量が異なる可能性があることが示唆された。

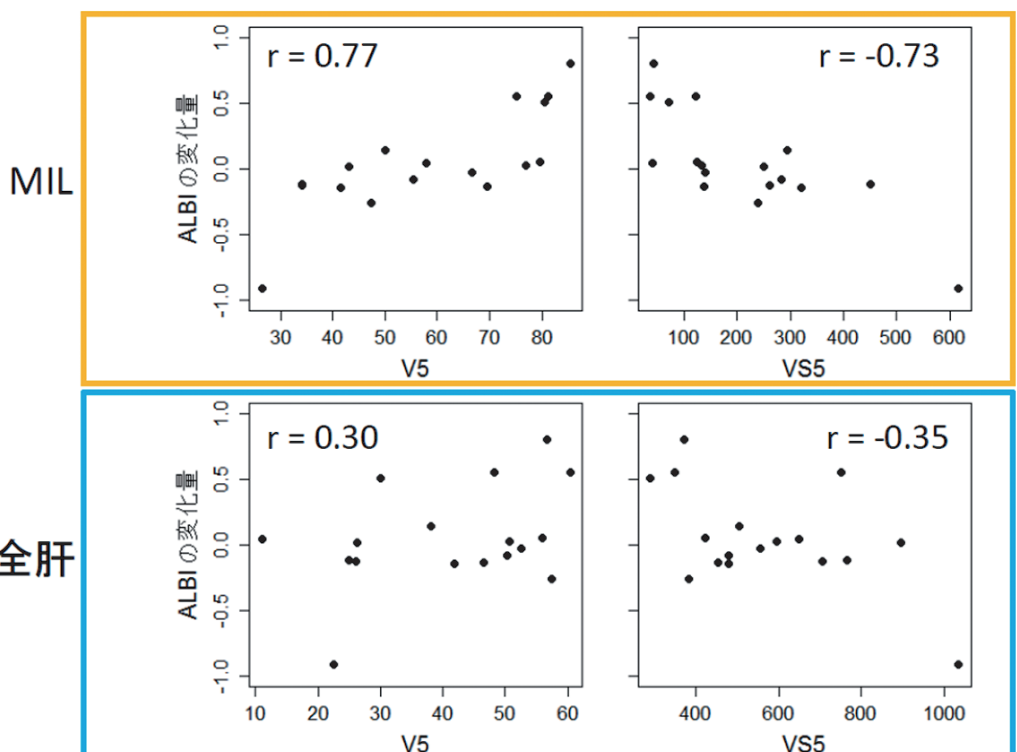


図2

(4) 考察と今後の展望

ALBIの算出は簡便で、Child-Pugh分類と異なり連続変数であるため経時的変化の評価も行きやすい利点があるため、今後肝臓癌に対するSBRTの有害事象の評価や治療適応判断に用いることができる可能性がある。しかし、肝機能の評価において、治療介入の影響と肝硬変の自然経過と完全に区別するのは困難であることが晩期肝機能を適切に評価するうえでの今後の課題である。

【学会発表】

- ①植木一仁, 高山賢二, 飯塚裕介, 君野元規, 今輩倍敏行, 小坂恭弘, 小久保雅樹:肝細胞癌 (HCC) に対する動体追尾体幹部定位放射線治療 (SBRT) 後の晩期肝機能と照射線量の関連. 第29回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2016.11.29
- ②K Ueki, K Takayama, Y Iizuka, G Kimino, Imagumbai, Y Suginoshta, H Tei, Y Kosaka, T Inokuma, M Kokubo : Correlation between dose-volumetric parameters and late liver dysfunction after dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy for hepatocellular carcinoma. 58th annual meeting of ASTRO, Boston, 2016.9.26-28

IV. 20 日本人進行再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態の個体間変動

中央市民病院 薬剤部 平島 正樹

【目的】

エベロリムスは進行再発乳癌治療におけるキードラッグのうちのひとつである。しかし、乳がん患者におけるエベロリムスの副作用は、臓器移植に使われる場合に比べて発現頻度が高く、特に日本人患者において問題となっている。

エベロリムスが臓器移植で使用される場合、その投与量は推奨される血中トラフ濃度をもとに調節される。例え

ば、カルシニューリン阻害剤 (CNI)、グルココルチコイドと併用の場合は3-8ng/mL、CNIを含まない場合は6-8ng/mLが目標トラフ濃度とされている。

しかし乳がん患者におけるエベロリムスの薬物動態 (PK)に関する情報は限られている。そこで今回、進行再発乳がん患者におけるエベロリムスのPKと副作用の関係について調べることにした。

【方法】

神戸市立医療センター中央市民病院で2015年11月から2016年11月にエベロリムスが投与され同意が得られた11名を対象とした。エベロリムス服用前と、服用1、4、8時間後の全血2mLを採取した。エベロリムスは1日1回10mgの服用とし、エベロリムスに関連すると思われる副作用の場合に減量可能とした。初回の減量は1日1回5mgとし、2回目の減量は5mgの隔日服用とした。

エベロリムス血中濃度はvalidated latex-enhanced turbidimetric immunoassayにより測定した。PKパラメーターの推定は、ベイジアン法を用いたMW/Pharm (Mediware)を用いて行った。

エベロリムスの副作用の評価は最初の1か月間は毎週、その後は1-4週ごとに、Common Terminology Criteria for Adverse Events Ver. 4.0. に基づき行った。

【結果】

患者の背景を表1に示す。エベロリムスの開始用量は10mgが7名、5mgが4名であった。10mg開始の患者7名のうち4名に、また5mg開始の5名のうち3名に減量が必要であった。

表1. 患者背景

Pt	Age	Body Weight (kg)	Height (cm)	PS	Dose at PK study	Initial dose	Everolimus dosing period (days)	previous chemotherapy
1	67	56.6	151.2	0	5 mg/day	10 mg/day	366	6
2	49	51.1	162.3	0	5 mg/day	10 mg/day	720*	5
3	85	58.0	162.0	0	5 mg/ 2days	5 mg/day	271	3
4	64	56.7	148.5	0	5 mg/ 2days	5 mg/day	415	7
5	81	39.0	146.1	0	5 mg/day	10 mg/day	624	13
6	65	61.5	152.0	0	10 mg/day	10 mg/day	332*	7
7	64	59.5	167.4	0	5 mg/ 2days	5 mg/day	775*	5
8	67	45.0	149.5	0	10 mg/day	10 mg/day	480*	3
9	65	45.0	157.0	0	5 mg/day	10 mg/day	202*	4
10	42	46.2	164.0	0	10 mg/day	10 mg/day	52	12
11	73	45.8	155.0	0	5 mg/day	5 mg/day	19*	7

推定したPKパラメータを表2に示す。クリアランスとトラフ濃度の最小値と最大値は3倍以上の差が見られた。

表2. 推定PKパラメーター

Bayesian estimated PK parameters		Bayesian estimated parameters at PK study			Bayesian estimated parameters at steady state for initial dose	
CL (L/h)	V1 (L)	C _{trough} (ng/mL)	AUC ₀₋₂₄ (ng·h/mL)	AUC ₀₋₄₈ (ng·h/mL)	C _{trough} (ng/mL)	AUC ₀₋₂₄ (ng·h/mL)
9.6 (4.4-16.2)	71.8 (39.0-125.5)	11.1 (6.6-23.1)	590 (363-1046)	740 (622-1132)	19.1 (11.3-35.7)	822 (563-1295)

開始用量別の推定トラフ濃度を図1に示す。すべての患者において、エベロリムスが臓器移植に用いられる場合の目標トラフ濃度である6-10ng/mL以上であった。また、減量が必要であった患者と、減量が必要なかった

患者と、減量後の患者の推定トラフ濃度を図2に示す。減量が必要であった患者は、減量が必要なかった患者に比べ有意に推定トラフ濃度が高かった (p=0.013)。

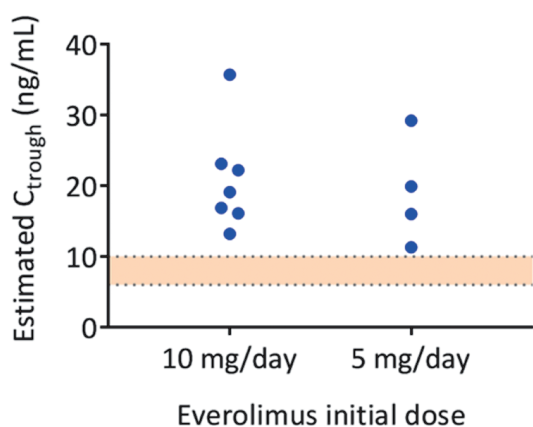


図1. 開始用量別推定トラフ濃度

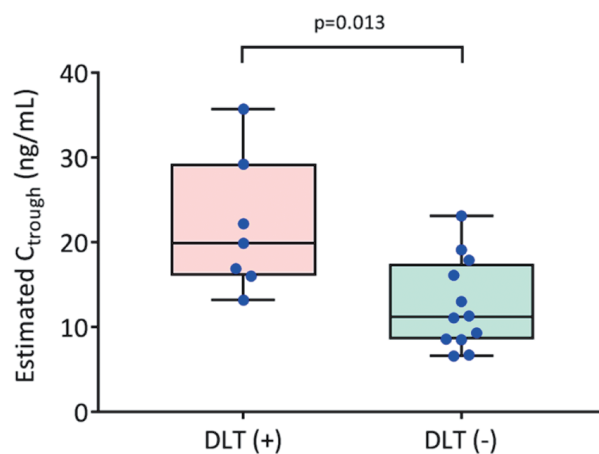


図2. 推定トラフ濃度と治療忍容性

【考察】

今回の研究により、日本人乳がん患者におけるエベロリムスPKに大きな個体差があることが明らかになった。また、エベロリムスの高曝露が忍容性の低下につながることを示唆された。

今後さらに研究を重ね、エベロリムスのPKとPDの関係を明らかにし、進行再発乳がん患者におけるエベロリムスの目標トラフ濃度の同定につながるようにしたい。

ASCPT 2017 (2017/3/15ワシントンD.C.) にて発表

IV. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(2) 松本アレルギー疾患研究事業

IV. 21 小児における安全で効果的な環境アレルギー皮下免疫療法の普及

中央市民病院 小児科 田中 裕也

【研究活動の要旨】

アレルギー免疫療法はアレルギー疾患における唯一の原因特異的治療である。海外においてはアレルギー診療の中心的役割を果たしているが、本邦ではほとんど普及していない。その理由として、手技が煩雑であること、アナフィラキシーのリスクがあること、それに見合った診療報酬が算定されていないこと、薬物療法が発展していることが考えられる。

一方、アレルギー免疫療法には新たな抗原感作を抑える働きがあるという報告もあり、成長するに従って発症する可能性のあるアレルギー疾患を予防するポテンシャルのある治療で小児こそ行うべきであると我々は考えており、積極的に実施している。

現在、我々は比較的アナフィラキシーの危険の高いアレルギー免疫療法導入期を当院小児科で行い、アナフィラキシーの危険の極めて少ないアレルギー免疫療法維持期をアレルギー診療に興味のある近隣医療機関で行うという関係を構築し、アレルギー免疫療法を本邦でも日常的に実施できるモデルケースになるべく情報発信をしている。また2015年より日常診療で使用可能になった標準化ダニ抗原に対するアレルギー免疫療法を、安全に効果的に行うことができるプロトコルを提案し、情報発信している。

2017年4月現在で合計150名の小児に対して急速皮下免疫療法で導入を完了しており、この数は小児では国内有数である。今後もアレルギーに悩む小児に対して積極的に行うだけでなく引き続き学会発表、論文投稿、各種セミナー/研究会への発表などを通じて、当院の活動を発信していき、小児へのアレルギー免疫療法普及に努めたいと考えている。

【研究成果】

論文

日本小児アレルギー学会雑誌

「日本人低年齢児に対してハウスダスト急速皮下免疫療法の安全性と効果の検討」

日本小児科学会雑誌

「小児への環境アレルギー皮下免疫療法における地域連携の取り組み」(投稿中)

日本アレルギー学会誌

「プロトコル改良により安全性が向上した小児のダニ急速皮下免疫療法」(投稿中)

学会発表(発表済)

第119回日本小児科学会学術集会(2016.4 札幌)

「小児への環境アレルギー皮下免疫療法における地域連携の取り組み」

第65回日本アレルギー学会(2016.6 東京)

「小児への標準化ダニ抗原を用いた急速皮下免疫療法の安全性」

第53回日本小児アレルギー学会(2016.10 群馬)

「環境アレルギー免疫療法により好塩基球ヒスタミン遊離試験における自然ヒスタミン遊離率が改善する」

「プロトコル改良により安全性が向上した小児のダニ急速皮下免疫療法」

IV. 22 アニサキスによる遅発性アナフィラキシーの1例

中央市民病院 救急科 小森 大輝

アニサキスアレルギーはアナフィラキシーを起こす頻度が多いことはあまり知られていない。40代女性が受診4日前の夕食にサバを摂取し、受診当日の朝に呼吸苦で目覚め全身に皮疹を認めたため救急外来受診した。来院時、頻脈と頻呼吸に加え、喘鳴と全身の膨疹を認めたことからアナフィラキシーと診断した。薬剤投与で症状は軽快したが、入院当初病歴からはアレルギーが同定できず、2相性反応の経過観察目的に入院とした。

入院直後は症状の再燃なく経過していたが、夕食摂取後に膨疹と湿性咳嗽を認め、再度アドレナリン投与を要した。その後一旦症状は消退したが、誘因無く同日深夜に全身の膨疹が増悪したため、抗ヒスタミン薬の内服を開始し軽快した。しかし第2病日の深夜、再び膨疹の増悪を認めたため抗ヒスタミン薬の点滴を行い、膨疹は消退傾向となった。第6病日に血清アニ

サキスIgE高値が判明し、胃内視鏡にて虫体を確認したことから一連の症状はアニサキスによるアレルギー反応と診断した。

過去の報告でも魚介類摂取後、数時間後にアナフィラキシー症状を認めた症例があり本症例では摂取後4日という点がより長時間であった。原因不明のアナフィラキシーでは、より病歴を遡って聴取（特に魚介類）することが大切である。また、アレルギー症状を繰り返す場合にはアニサキスアレルギーを念頭におき、検査を行うことと適切な患者指導をする必要がある。

【発表】

平成28年11月17日に行われた日本救急医学会総会において報告した。また、日本救急医学会雑誌に同論文を投稿予定である。

IV. 23 シリコンバック破損により発症したヒトアジュバント病の検討

中央市民病院 総合内科 水野 泰志

ヒトアジュバント病は、アジュバント作用を持つパラフィンやシリコンなどの異物が体内に長期間存在することにより膠原病類似の病態を呈する疾患であり、自己抗体が出現する症例もあることから免疫を介した機序の関与が推定されている。挿入したシリコンバックの破損がこの疾患を発症する契機のひとつになると考えられている。しかしシリコンバックが破損しても、局所の自他覚所見の異常を認めないことはしばしばあり、このような患者が自己免疫疾患様の病態を呈した場合に、ヒトアジュバント病の可能性が見逃され、不要な免疫抑制療法が施行される危険性がある。

MRIやエコーなどの画像検査で、自他覚所見に異常がないシリコンバックの破損を同定できるとの報告がある。破損の多くは挿入後10-15年で生じるといわれており、FDAもMRIによる定期的なスクリーニングを推奨しているが、実際にこのような定期的な検査を受けている患者は少ない。ただし画像検査でシリコンバックの破損が疑われても無症候の場合に、インプラントの除去を行うべきか否かについては結論がでない。

このたび我々は、発熱、胸膜炎、心膜炎を呈したヒトアジュバント病の一例を経験した。本症例は14年前にシリコンバックによる豊胸術を受けている既往があったが、胸痛や乳房の変形、皮膚の色調変化などのバック破損を疑う病歴や身体所見は認めておらず、

CTスキャンでも破損を疑う画像所見は認めなかった。ヒトアジュバント病の可能性を考えてシリコンバック除去術を施行したところ、術中所見でバックの破損を認めシリコンが漏出していた。シリコンバックの除去および周囲の肉芽組織の除去のみで症状所見はすべて改善し、その後の投薬も不要であった。

体内に挿入されたシリコンバックの破損により、自己免疫疾患様の病態を呈するヒトアジュバント病が発症することは十分に認知されておらず、発症機序も解明されていない。また本症例のように、胸膜炎、心膜炎を合併したヒトアジュバント病の報告は極めてまれである。シリコンバック挿入術を受けている患者で胸膜炎、心膜炎を発症した際は、インプラント破損によるヒトアジュバント病も想起し、破損したインプラントの抜去を考慮すべきである。

本研究の内容は2016年9月26日～29日に開催された第18回アジア太平洋リウマチ会議で報告し、論文投稿中である。

IV. 24 難治性強膜炎合併再発性多発軟骨炎におけるトシリズマブの使用経験

中央市民病院 総合内科 志水 隼人

【はじめに】

再発性多発軟骨炎は、軟骨組織や心臓弁膜、眼の炎症により特徴づけられる稀な疾患である。一般的にはステロイドで治療されることが多く、そのほかTNF- α 阻害薬が使用されることもある。しかしTNF- α 阻害薬が奏功しなかった症例での治療方法は確立していない。我々はIL-6受容体阻害薬であるトシリズマブにより治療が成功した再発性多発軟骨炎関連の強膜炎の症例を経験した。

【症例】

54歳女性。2週間前からの耳介軟骨の疼痛と6日前からの眼痛・羞明を主訴に当院を受診された。来院時のバイタルサインに逸脱はなく、意識は清明だった。身体所見では、両側の眼球結膜および眼瞼結膜は充血しており、耳垂を除く耳介の発赤・腫脹・圧痛を認めた。輪状甲状軟骨や左肋軟骨の圧痛も認めた。採血は、白血球 14,900/ μ L、ヘモグロビン 11.6 g/dL、血小板 34.9万/ μ L、CRP 9.66 mg/dLだった。第3病日に耳介軟骨生検を施行し、強膜炎合併再発性多発軟骨炎と診断した。プレドニゾロン 45 mg/日の内服を開始したが、

症状は改善しなかった。第10病日と第17病日にステロイドパルス療法を施行したが、症状は改善しなかった。第25病日にはメトトレキサートとインフリキシマブを開始したところ、症状は改善しCRPも低下した。しかしプレドニゾロン 30 mg/日に減量した際に、強膜炎が増悪しCRPは上昇した。3回目のステロイドパルスを施行し、インフリキシマブからトシリズマブに変更したところ、強膜炎は寛解しCRPも正常になった。その後も増悪なくプレドニゾロン 10 mg/日まで減量できている。

【考察】

グルココルチコイドあるいはTNF- α 阻害薬に抵抗性の強膜炎非合併再発性多発軟骨炎に対してトシリズマブが有効だった症例はいくつか報告されている。強膜組織を構成するプロテオグリカンは軟骨におけるプロテオグリカンと共通の抗原性を有し、交差反応を起こすことで再発性多発軟骨炎患者における強膜炎の炎症をもたらすと考えられている。再発性多発軟骨炎に関連した強膜炎は通常グルココルチコイドと免疫抑制剤で治療される。そしてこれらが無効であった時はTNF- α 阻害薬が使用されることがある。しかし再発性多発軟骨炎に関連した強膜炎に対してトシリズマブを使用した報告はなく、本症例は再発性多発軟骨炎に関連したグルココルチコイドおよびインフリキシマブ抵抗性の強膜炎にトシリズマブが有効だった初めての症例である。再発性多発軟骨炎は、Th2サイトカインよりもTh1サイトカイン介在性の疾患と考えられている。IL-6はTh2細胞によって産生されるサイトカインであり、血清サイトカインを分析した報告では、血清IL-6濃度は再発性多発軟骨炎群とコントロール群では差はなかった。しかしトシリズマブが有効であったいくつかの症例では血清IL-6濃度の上昇が見られていた。血清IL-6濃度の上昇を伴う再発性多発軟骨炎はグルココルチコイドやTNF- α 阻害薬に抵抗性だが、トシリズマブが有効かもしれないと考えられた。

【結論】

再発性多発軟骨炎に関連したグルココルチコイドやTNF- α 阻害薬抵抗性の強膜炎に対してトシリズマブは治療選択肢の一つとなるかもしれない。

【発表学会】

第60回日本リウマチ学会総会・学術集会：2016.4.21-23, 横浜

【発表論文】

Shimizu H, Nishioka H : Successful treatment with tocilizumab for refractory scleritis associated with relapsing polycondritis. Scand J Rheumatol 25:1-2, 2017 [Epub ahead of print]

IV. 25 アレルギー疾患に対し安定した医療を提供するためのクリニカルパスの使用

中央市民病院 看護部3西病棟

櫻井 明弓、松本 涼子、田中 裕也

【研究内容】

当病棟では気管支喘息やアレルギー性鼻炎に対して、急速皮下免疫療法を行っている。また、気管支喘息発作入院時には家族と患児に対し個別で気管支喘息指導を行っている。

平成27年度に急速皮下免疫療法クリニカルパスの修正を行い、治療の内容をわかりやすく表し、治療の終了時には患児自身でシールを貼れるような、患児用参加型パスを新たに作成した。この患児用参加型パスの作成について第16回日本クリニカルパス学術集会で発表した。

気管支喘息指導においては、当院入院時に統一した指導を行えるように平成25年よりマニュアルを作成し、クリニカルパスを使用し指導をすすめている。現行のクリニカルパスでは、家族にも医療者間にも指導の進捗状況がわかりにくいという問題点があった。そのため、平成28年度は患者用クリニカルパスを患児と家族、医療者が共通して使用できる形式に修正した。この患者用パスの修正について第17回日本クリニカルパス学術集会で発表した。

結果として、急速皮下免疫療法の患児用参加型パスを作成することで、患児の主体性を促し、意欲を高められるような工夫が行えたと考えられる。気管支喘息発作パスの修正を行うことで、家族・患児・医療者で指導内容を共有できるようになり、指導の進捗状況がわかりやすくなった。また、家族に喘息指導の内容が入院時からわかるようになり、家族が主体的に指導を受けられるようになった。

アレルギー疾患は長期管理が重要な疾患である。我々は今後も引き続きクリニカルパスを用いて医療者が患児へ安定した指導や治療ができるよう取り組んでいきたいと考えている。

【学会発表】

第16回日本クリニカルパス学会学術集会（2015.11）

「患児の治療への参加を目的とした患児用パス作成の工夫」

第17回日本クリニカルパス学会学術集会（2016.11）

「統一した気管支喘息指導を行うためのパスの作成」

Ⅳ. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(3) 医学振興事業

Ⅳ. 26 中枢神経悪性リンパ腫におけるJAK-STAT阻害薬による新たな治療法の開発

西神戸医療センター 脳神経外科 西原 賢在

【概要】

中枢神経原発悪性リンパ腫（PCNSL）は、大量MTX療法+放射線療法を行っても極めて予後不良であり、新たな治療法が必要である。また、PCNSL患者の髄液ではIL-10が上昇し、IL-10高値の患者は低値の患者に比べて予後不良である。IL-10は免疫抑制的に働き、JAK-STAT経路を活性化して、悪性リンパ腫の細胞の増殖や生存を促進すると考えられる。そこで本研究では、臨床サンプルを用いてPCNSLにおける髄液IL-10とJAK-STAT経路の活性化との関連性を解析し、さらにJAK-STAT経路を阻害することで、抗腫瘍効果が得られるかを解析することを計画している。まず、40例のPCNSLの臨床サンプルを用いて、STAT 3発現およびSTAT 3のリン酸化状態を免疫染色で調べた。STAT 3の発現はほぼすべてのPCNSL組織で強陽性を示した。リン酸化STAT 3の発現については、発現強度および陽性細胞率でscore 1～score 6に分類した。結果は、score 6が13例、score 5が8例、score 4が6例、score 3が4例、score 2が9例で、平均score 4.3であった。髄液IL-10、IL-6の濃度との相関を検討したところ、髄液IL-10高値群ではリン酸化STAT 3の発現が有意に高く、IL-6では有意な相関を認めなかった。また、western blotでもリン酸化STAT 3の発現量と髄液IL-10濃度との統計学的な正の相関を認めた。このことから、髄液IL-10がPCNSLの細胞のSTAT 3を活性化している可能性が示唆された。次に、PCNSL培養細胞を用いて、髄液IL-10を投与すると、STAT 3のリン酸化蛋白の発現が上昇し、IL-10抗体で抑制すると、STAT 3のリン酸化蛋白の減少を来したことから、髄液IL-10が実際にPCNSL細胞のSTAT 3を活性化していることが明らかとなった。また、ヌードマウスの皮下にPCNSL細胞を移植し、成長した皮下リンパ腫組織内にIL-10蛋白を注射すると、リンパ腫のSTAT 3のリン酸化蛋白の上昇を認めたため、IL-10がin vivoでPCNSL細胞のSTAT 3を活性化することが判明した。

V. 病 院 別 診 療 科 別
論文発表及び学会報告数

V. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

(2016.4.1 ~ 2017.3.31)

	中央市民病院	論文発表	学会報告
1	循環器内科	36	137
2	糖尿病・内分泌内科	8	47
3	腎臓内科	0	4
4	神経内科	10	45
5	消化器内科	7	101
6	呼吸器内科	16	54
7	血液内科	15	62
8	腫瘍内科	9	42
9	緩和ケア内科	1	0
10	感染症科	14	41
11	精神・神経科	2	3
12	小児科・新生児科	18	33
13	皮膚科	4	22
14	外科・移植外科	1	70
15	乳腺外科	0	7
16	心臓血管外科	10	14
17	呼吸器外科	1	17
18	脳神経外科	37	143
19	整形外科	7	42
20	形成外科	0	4
21	産婦人科	7	41
22	泌尿器科	9	52
23	眼科	22	71
24	耳鼻咽喉科	17	39
25	頭頸部外科	7	40
26	麻酔科	8	35
27	歯科・歯科口腔外科	4	26
28	病理診断科	25	10
29	放射線診断科	0	6
30	放射線治療科	12	24
31	救急科	22	59
32	総合内科	14	50
33	看護部	0	39
34	薬剤部	23	95
35	臨床検査技術部	5	32
36	放射線技術部	1	23
37	リハビリテーション技術部	1	22
38	臨床工学技術部	0	22
39	栄養管理部	1	7
40	情報企画課	2	2

	西市民病院	論文発表	学会報告
	循環器内科	-	-
	糖尿病・内分泌内科	0	17
	腎臓内科	0	0
	神経内科	0	2
	消化器内科	8	15
	呼吸器内科	17	49
	リウマチ・膠原病内科	0	2
	臨床腫瘍科	-	-
	精神・神経科	-	-
	小児科	2	13
	皮膚科	-	-
	外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科	2	17
	整形外科	4	12
	リハビリテーション科	-	-
	産婦人科	-	-
	泌尿器科	3	7
	眼科	-	-
	耳鼻咽喉科	-	-
	麻酔科	-	-
	歯科口腔外科	2	7
	臨床病理科	2	5
	放射線科	-	-
	救急総合診療部	1	2
	総合内科	-	-
	看護部	8	11
	薬剤部	0	15
	臨床検査技術部	0	13
	放射線技術部	-	-
	リハビリテーション技術部	7	7
	臨床工学室	0	2
	栄養管理室	0	2

※神戸市立病院紀要第56巻（平成29年）に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

	西神戸医療センター	論文発表	学会報告
1	循環器内科	1	3
2	内分泌・糖尿内科	3	2
3	腎臓内科	0	9
4	神経内科	2	5
5	消化器内科	2	27
6	呼吸器内科	0	5
7	免疫血液内科	2	6
8	緩和ケア内科	1	3
9	精神・神経科	4	1
10	小児科	7	24
11	皮膚科	11	8
12	外科・消化器外科	3	16
13	乳腺外科	4	11
14	呼吸器外科	8	14
15	脳神経外科	5	5
16	整形外科	2	5
17	形成外科	1	5
18	産婦人科	3	9
19	泌尿器科	3	22
20	眼科	2	6
21	耳鼻いんこう科	5	15
22	リハビリテーション科	-	-
23	麻酔科	0	3
24	歯科口腔外科	2	7
25	病理診断科	-	-
26	放射線科	0	4
27	看護部	-	-
28	薬剤部	0	6
29	臨床検査技術部	13	17
30	放射線技術部	0	5
31	リハビリテーション技術部	3	13
32	臨床工学室	12	54
33	栄養管理室	0	4

	先端医療センター	論文発表	学会報告
	総合腫瘍科	14	23
	細胞治療科	-	-
	血管再生科	5	5
	脳血管内治療科	-	-
	整形外科	-	-
	眼科	22	71
	耳鼻いんこう科	16	43
	歯科口腔外科	-	-
	放射線治療科	12	24
	PET診療部	-	-
	看護部	-	-
	薬剤科	-	-
	臨床検査技術科	-	1
	放射線技術科	5	14
	栄養管理科	-	-

VI. 論 文 発 表

VI. 論文発表

VI. 1 中央市民病院

VI. 1. 1 循環器内科

1. 山根崇史：【心電図を詠む－心に残る24症例から】QRS波にかかわる心電図 左室肥大. *Medicina* 53 : 620-623, 2016
2. 佐々木康博, 北井 豪：【心電図を詠む－心に残る24症例から】不整脈 WPW症候群. *Medicina* 53 : 662-665, 2016
3. 古川 裕：冠動脈関連疾患の主なエビデンス 1. CREDO-Kyoto Registry. 日本臨床 最新冠動脈疾患学(上)～冠動脈疾患の最新治療戦略～ 74 : 679-684, 2016
4. 北井 豪：【周術期マネジメント】術前心エコー図検査は必須か？ ガイドラインと臨床のニーズとの間のギャップとは. *Hospitalist* 4 : 242-246, 2016
5. 太田光彦：卵巣癌の治療経過中に多発臓器塞栓を発症した1例. *心エコー* 17 : 754-759, 2016
6. 小堀敦志：心房細動に対するカテーテルアブレーション. チームで成功させる脳梗塞血管内治療, 幸原伸夫, 藤堂謙一, 坂井信幸, 今村博敏 編, 診断と治療社, 東京, 148-152, 2016
7. 石津賢一, 加地修一郎：【大動脈解離の診断と治療の最近の動向】急性大動脈解離の病態：偽腔閉存型と偽腔閉塞型－血管壁では何が起きているのか？ カレントセラピー 34 : 843-848, 2016
8. 藤田靖之, 木下 慎, 川本篤彦：【成体幹細胞Adult stem cell】慢性重症下肢虚血に対する自家CD34陽性細胞治療. *BIO Clinica* 31 : 1047-1051, 2016
9. 北井 豪：実践！みためだけじゃない画像診断：循環器integrated imagingのススメ (CIRCULATION Up-to-Date Books 16), メディカ出版, 大阪, 2016
10. 中嶋正貴, 北井 豪：【心不全の診かた 診断・治療の王道と専門医の匠の技を教えます！】救急での心不全の診断～画像検査の役割. レジデントノート 18 : 1838-1849, 2016
11. Kai H, Kimura T, Fukuda K, Fukumoto Y, Kakuma T, Furukawa Y : CREDO-Kyoto Investigators : Impact of Low Diastolic Blood Pressure on Risk of Cardiovascular Death in Elderly Patients With Coronary Artery Disease After Revascularization - The CREDO-Kyoto Registry Cohort- 1. *Circ J* 80 : 1232-1241, 2016
12. Yamaji K, Shiomi H, Morimoto T, Nakatsuma K, Toyota T, Ono K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Shirai S, Onodera T, Watanabe H, Natsuaki M, Sakata R, Hanyu M, Nishiwaki N, Komiya T, Kimura T : Effects of Age and Sex on Clinical Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention Relative to Coronary Artery Bypass Grafting in Patients With Triple-Vessel Coronary Artery Disease. *Circulation* 133 : 1878-1891, 2016
13. Matsue Y, Suzuki M, Torii S, Yamaguchi S, Fukamizu S, Ono Y, Fujii H, Kitai T, Nishioka T, Sugi K, Onishi Y, Noda M, Kagiya N, Satoh Y, Yoshida K, Goldsmith SR : Clinical Effectiveness of Tolvaptan in Patients With Acute Heart Failure and Renal Dysfunction. *J Card Fail* 22 : 423-432, 2016
14. Natsuaki M, Morimoto T, Yamamoto E, Shiomi H, Furukawa Y, Abe M, Nakao K, Ishikawa T, Kawai K, Yunoki K, Shimizu S, Akao M, Miki S, Yamamoto M, Okada H, Hoshino K, Kadota K, Morino Y, Igarashi K, Tanabe K, Kozuma K, Kimura T : One-year outcome of a prospective trial stopping dual antiplatelet therapy at 3 months after everolimus-eluting cobalt-chromium stent implantation : ShortT and OPTimal duration of Dual AntiPlatelet Therapy after everolimus-eluting cobalt-chromium stent (STOPDAPT) trial. *Cardiovasc Interv Ther* 31 : 196-209, 2016
15. Nakatsuma K, Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Yamamoto T, Suwa S, Horie M, Kimura T : CREDO-Kyoto AMI investigators : Inter-Facility Transfer vs. Direct Admission of Patients With ST-Segment Elevation Acute Myocardial Infarction Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J* 80 : 1764-1772, 2016
16. Shiomi H, Yamaji K, Morimoto T, Shizuta S, Nakatsuma K, Higami H, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Sakata R, Okabayashi H, Hanyu M, Shimamoto M, Nishiwaki N, Komiya T, Kimura T : Very Long-Term (10 to 14 Year) Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention Versus Coronary Artery Bypass Grafting for Multivessel Coronary Artery Disease in the Bare-Metal Stent Era. *Circ Cardiovasc Interv* 9 : e003365, 2016

17. Hatani T, Kitai T, Murai R, Kim K, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Tani T, Sasaki Y, Yamane T, Koyama T, Nasu M, Okada Y, Furukawa Y : Associations of Residual Left Ventricular and Left Atrial Remodeling with Clinical Outcomes in Patients after Aortic Valve Replacement for Severe Aortic Stenosis. *J Cardiol* 68 : 241 – 247, 2016
18. Matsue Y, Suzuki M, Torii S, Yamaguchi S, Fukamizu S, Ono Y, Fujii H, Kitai T, Nishioka T, Sugi K, Onishi Y, Noda M, Kagiya N, Satoh Y, Yoshida K, Goldsmith SR : Prognostic impact of early treatment with tolvaptan in patients with acute heart failure and renal dysfunction. *Int J Cardiol* 221 : 188 – 193, 2016
19. Matsue Y, Suzuki M, Torii S, Yamaguchi S, Fukamizu S, Ono Y, Fujii H, Kitai T, Nishioka T, Sugi K, Onishi Y, Noda M, Kagiya N, Satoh Y, Yoshida K, Goldsmith SR : Corrigendum to "Clinical Effectiveness of Tolvaptan in Patients With Acute Heart Failure and Renal Dysfunction" *Journal of Cardiac Failure*, Vol. 22, No. 6, June 2016, pp. 423 – 432. *J Card Fail* 22 : 941, 2016
20. Sato Y, Minatoguchi S, Nishigaki K, Hirata KI, Masuyama T, Furukawa Y, Uematsu M, Yoshikawa J, Otsuji S, Ishida M, Fujiwara H : SHYOGI Study Investigators : Results of a Prospective Study of Acute Coronary Syndrome Hospitalization After Enactment of A Smoking Ban in Public Places in Hyogo Prefecture– Comparison With Gifu, a Prefecture Without a Public Smoking Ban. *Circ J* 80 : 2528 – 2532, 2016
21. Takimoto S, Saito N, Minakata K, Shirai S, Isotani A, Arai Y, Hanyu M, Komiya T, Shimamoto T, Goto T, Fuku Y, Ehara N, Furukawa Y, Koyama T, Nagasawa A, Tamura T, Miyake M, Yamanaka K, Sakaguchi H, Murata K, Onodera T, Yamazaki F, Nakai M, Taniguchi T, Sakata R, Kimura T : Favorable Clinical Outcomes of Transcatheter Aortic Valve Implantation in Japanese Patients -First Report From the Post- Approval K-TAVI Registry. *Circ J* 81 : 103 – 109, 2016
22. Shimizu R, Torii H, Yasuda D, Hiraoka Y, Furukawa Y, Yoshimoto A, Iwakura T, Matsuoka N, Tomii K, Kohara N, Hashida T, Kume N : Comparison of serum lipid management between elderly and non-elderly patients with and without coronary heart disease (CHD). *Prev Med Rep* 4 : 192 – 198, 2016
23. Krittanawong C, Kitai T, Zhang H, Sun T : Cardiovascular Safety of Evolocumab : a Systematic Review and Meta-Analysis. *Cardiovasc Drugs Ther* 30 : 645 – 646, 2016
24. Krittanawong C, Kitai T, Sun T : Time to start implementing Lean and Six Sigma in the catheterization laboratory. *Cardiovasc Revasc Med* 17 : 503, 2016
25. Kitai T, Furukawa Y, Murotani K, Krittanawong C, Kaji S, Koyama T, Okada Y : Therapeutic strategy for functional tricuspid regurgitation in patients undergoing mitral valve repair for severe mitral regurgitation. *Int J Cardiol* 227 : 803 – 807, 2017
26. Taniguchi T, Shiomi H, Morimoto T, Watanabe H, Ono K, Shizuta S, Kato T, Saito N, Kaji S, Ando K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T : Incidence and Prognostic Impact of Heart Failure Hospitalization During Follow-Up After Primary Percutaneous Coronary Intervention in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction. *Am J Cardiol* 119 : 1729 – 1739, 2017
27. Yamashita Y, Shiomi H, Morimoto T, Yaku H, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Abe M, Nagao K, Shizuta S, Ono K, Kimura T, on behalf of the CREDO-Kyoto AMI registry investigators : Cardiac and Noncardiac Causes of Long-Term Mortality in ST-Segment-Elevation Acute Myocardial Infarction Patients Who Underwent Primary Percutaneous Coronary Intervention. *Circ Cardiovasc Qual Outcomes* 10 : e002790, 2017
28. Shiomi H, Morimoto T, Kitaguchi S, Nakagawa Y, Ishii K, Haruna Y, Takamisawa I, Motooka M, Nakao K, Matsuda S, Mimoto S, Aoyama Y, Takeda T, Murata K, Akao M, Inada T, Eizawa H, Hyakuna E, Awano K, Shirotani M, Furukawa Y, Kadota K, Miyauchi K, Tanaka M, Noguchi Y, Nakamura S, Yasuda S, Miyazaki S, Daida H, Kimura K, Ikari Y, Hirayama H, Sumiyoshi T, Kimura T : ReACT Investigators : The ReACT Trial : Randomized Evaluation of Routine Follow-up Coronary Angiography After Percutaneous Coronary Intervention Trial. *JACC Cardiovasc Interv* 10 : 109 – 117, 2017
29. Kitai T, Taniguchi T, Morimoto T, Toyota T, Izumi C, Kaji S, Kim K, Saito N, Nagao K, Inada T, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ishii K, Koyama T, Sakata R, Furukawa Y, Kimura T : CURRENT AS registry Investigators : Different clinical outcomes in patients with asymptomatic severe aortic stenosis according to the stage classification : Does the aortic valve area matter? *Int J Cardiol* 228 : 244 – 252, 2017

30. Watanabe H, Morimoto T, Shiomi H, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Kimura T : Chronic total occlusion in a non-infarct-related artery is closely associated with increased five-year mortality in patients with ST-segment elevation acute myocardial infarction undergoing primary percutaneous coronary intervention (from the CREDO-Kyoto AMI registry). *EuroIntervention* 12 : e1874 – e1882, 2017
31. Fukunaga N, Kitai T, Imai Y, Furukawa Y, Koyama T : Three-year survival in primary cardiac angiosarcoma. *J Med Invest* 64 : 181 – 183, 2017
32. Toyota T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Ono K, Shizuta S, Kato T, Saito N, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T, on behalf of the CRECO-Kyoto PCI/CAPG Registry Cohort-2 Investigators : Ad-hoc Versus Non-ad-hoc Percutaneous Coronary Intervention Strategies in Patients with Stable Coronary Artery Disease. *Circ. J* 81 : 458 – 467, 2017
33. Miwa E, Tani T, Okada Y, Furukawa Y : A rare cardiac tumor : Bronchogenic cyst in the interatrial septum. *Echocardiography* 34 : 474 – 475, 2017
34. Kitai T, Kirsop J, Tang WH : Exploring the Microbiome in Heart Failure. *Curr Heart Fail Rep* 13 : 103 – 109, 2016
35. Tang WH, Kitai T : Intrarenal Venous Flow : A Window Into the Congestive Kidney Failure Phenotype of Heart Failure ? *JACC Heart Fail* 8 : 683 – 686, 2016
36. Krittanawong C, Kitai T, Aydar M, Sun T : Sitagliptin and Risk of Heart Failure in Patients With Type 2 Diabetes : A Meta-Analysis. *JACC Heart Fail* 4 : 910, 2016

VI. 1. 2 糖尿病・内分泌内科

1. 杉山有吏子, 池村 舞, 奥貞 智, 岩倉敏夫, 橋田 亨 : 1型糖尿病患者における既存持効型インスリンからインスリンデグレルデクへの変更による血糖コントロールの評価. *医療薬学* 42 : 562 – 568, 2016
2. Hattori N, Ishihara T, Matsuoka N, Saito T, Shimatsu A : Anti-TSH autoantibodies in patients with macro-TSH and long-term changes in macro-TSH and serum TSH levels. *Thyroid* 27 : 138 – 146, 2017
3. Hataya Y, Oba A, Yamashita T, Komatsu Y : Hyponatremia in an Elderly Patient due to Isolated Hypoaldosteronism Occurring after Licorice Withdrawal. *Intern Med* 56 : 175 – 179, 2017
4. 松岡直樹 : 肥満症, メタボリックシンドロームを伴う糖尿病. *日本臨床 増刊号 新時代の臨床糖尿病学 (下)* 74 : 380 – 383, 2016
5. 新村里美, 藤本寛太, 岩倉敏夫 : 薬効・薬剤別の糖尿病治療薬の使い方 インスリン分泌促進薬, インスリン製剤. *糖尿病の最新治療* 7 : 123 – 131, 2016
6. 岩倉敏夫 : 重症低血糖とそのリスク. *月刊糖尿病 迫りくる低血糖～糖尿病治療に伴う低血糖の危険性～* 8 : 28 – 35, 2016
7. 能登理央, 岩倉敏夫 : 低血糖および高血糖による意識障害. *実践！神経救急 (neurocritical care) 知っておきたい神経救急疾患* 105 : 106 – 111, 2017
8. 石原 隆 : 亜急性甲状腺炎. *Medicina* 53 : 2155 – 2161, 2016

VI. 1. 3 神経内科

1. Ishii J, Yuki N, Kawamoto M, Yoshimura H, Kusunoki S, Kohara N : Recurrent Guillain-Barré syndrome, Miller Fisher syndrome and Bickerstaff brainstem encephalitis. *Journal of the Neurological Sciences* 364 : 59 – 64, 2016
2. Todo K, Sakai N, Kono T, Hoshi T, Imamura H, Adachi H, Kohara N : National Institutes of Health Stroke Scale-Time Score Predicts Outcome after Endovascular Therapy in Acute Ischemic Stroke : A Retrospective Single-Center Study. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 25 : 1187 – 1191, 2016
3. 幸原伸夫, 川本未知, 石井淳子, 村瀬 翔 : Lambert-Eaton筋無力症候群. *臨床神経生理学* 44 : 28 – 35, 2016
4. Yoshimura H, Matsumoto R, Ueda H, Ariyoshi K, Kawamoto M, Ishii J, Ikeda A, Takahashi R, Kohara N : Status epilepticus in the elderly : Prognostic implications of rhythmic and periodic patterns in electroencephalography and hyperintensities on diffusion-weighted imaging. *Journal of the Neurological Sciences* 370 : 284 – 289, 2016

5. 吉村 元, 松本理器: てんかん重積状態の治療方針: できるだけ早く発作活動を停止させる. *INTENSIVIST* 8 : 807-817, 2016
6. Sone J, Mori K, Inagaki T, Katsumata R, Takagi S, Yokoi S, Araki K, Kato T, Nakamura T, Koike H, Takashima H, Hashiguchi A, Kohno Y, Kurashige T, Kuriyama M, Takiyama Y, Tsuchiya T, Kitagawa N, Kawamoto M, Yoshimura H, Suto Y, Nakayasu H, Uehara N, Sugiyama H, Takahashi M, Kokubun N, Konno T, Katsuno M, Tanaka F, Iwasaki Y, Yoshida M, Sobue G : Clinicopathological features of adult-onset neuronal intranuclear inclusion disease. *BRAIN A JOURNAL OF NEUROLOGY* 139 : 3170-3186, 2016
7. Ohira J, Mori N, Kajikawa S, Nakamura T, Arisato T, Takahashi M : Posterior reversible encephalopathy syndrome with extensive deep white matter lesion including the temporal pole. *internal medicine* 55 : 3529-3533, 2016
8. Misawa S, Sato Y, Katayama K, Nagashima K, Aoyagi R, Sekiguchi Y, Sobue G, Koike H, Yabe I, Sasaki H, Watanabe O, Takashima H, Nishizawa M, Kawachi S, Kusunoki S, Mitsui Y, Kikuchi S, Nakashima I, Ikeda S, Kohara N, Kanda T, Kira J, Hanaoka H, Kuwabara S, Japanese POEMS Syndrome for Thalidomide (J-POST) Trial Study Group : Safety and efficacy of thalidomide in patients with POEMS syndrome: a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled trial. *THE LANCET Neurology* 15 : 1129-1137, 2016
9. Noda Y, Sekiguchi K, Kohara N, Kanda F, Toda T : Ultrasonographic diaphragm thickness correlates with compound muscle action potential amplitude and forced vital capacity. *Muscle Nerve* 53 : 522-527, 2016
10. Ueda J, Yoshimura H, Shimizu K, Hino M, Kohara N : Combined visual and semi-quantitative assessment of 123I-FP-CIT SPECT for the diagnosis of dopaminergic neurodegenerative diseases. *Neurological sciences* 38 : 1187-1191, 2017

VI. 1. 4 消化器内科

1. 福島政司, 伊藤卓彦, 松本一寛, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: オルメサルタン関連スプルー様腸疾患の1例. *胃と腸* 51 : 497-502, 2016
2. 南出竜典, 和田将弥, 谷口洋平, 福島政司, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: von Hippel-Lindau病に合併した多発性膵神経内分泌腫瘍の1例. *膵臓* 31 : 150-157, 2016
3. 北本博規, 森田周子, 南出竜典, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 経皮内視鏡的胃瘻造設時に胃粘膜下血腫を来し, 術後早期にバンパー埋没症候群を合併した1例. *在宅医療と内視鏡治療* 20 : 85-89, 2016
4. 伊藤卓彦, 占野尚人, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 上原慶一郎, 今井幸弘, 猪熊哲朗: NBI拡大観察により早期肛門扁平上皮癌と診断した病変に対しESDを施行した1例. *Gastroenterological Endoscopy* 58 : 1426-1431, 2016
5. 森田周子, 上原慶一郎: 食道・Barrett食道 症例アトラス5 食道表在癌 (0-IIa+IIc). 新しい診断基準・分類に基づいたNBI/BLI/LCI内視鏡アトラス, 田尻久雄 監修, 第1版第1刷, 日本メディカルセンター, 東京, 64-65, 2016
6. Ito T, Morita S, Shimeno N, Uehara K, Imai Y, Inokuma T : The prospect of endoscopic submucosal dissection for early anal canal squamous cell carcinoma. *Clinical Journal of Gastroenterology* 9 : 384-388, 2016
7. 畑森裕之, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 胆嚢十二指腸瘻を形成した悪性胃十二指腸狭窄に対する内視鏡的十二指腸ステント留置術において側孔付バルーンカテーテルが有用であった1例. *Gastrological Endoscopy* 59 : 56-61, 2017

VI. 1. 5 呼吸器内科

1. Urata Y, Katakami N, Morita S, Kaji R, Yoshioka H, Seto T, Satouchi M, Iwamoto Y, Kanehara M, Fujimoto D, Ikeda N, Murakami H, Daga H, Oguri T, Goto I, Imamura F, Sugawara S, Saka H, Nogami N, Negoro S, Nakagawa K, Nakanishi Y : Randomized Phase III Study Comparing Gefitinib With Erlotinib in Patients With Previously Treated Advanced Lung Adenocarcinoma : WJOG 5108L. *J Clin Oncol* 34 : 3248-3257, 2016

2. 富井啓介：高流量鼻カニュー酸素療法（ネーザルハイフロー）. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 26 : 21–25, 2016
3. Otsoshi T, Kataoka Y, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K : Clinical Features and Outcomes of Diffuse Alveolar Hemorrhage During Antithrombotic Therapy : A Retrospective Cohort Study. *Lung* 194 : 475–481, 2016
4. Matsumoto T, Otsuka K, Imai Y, Tomii K : Bacterial Pericarditis Accompanied by Sudden Cardiac Tamponade After Transbronchial Needle Aspiration Cytology. *J Bronchology Interv Pulmonol* 23 : 155–159, 2016
5. Sekiya K, Nakatani E, Fukutomi Y, Kaneda H, Ikura M, Yoshida M, Takahashi K, Tomii K, Nishikawa M, Kaneko N, Sugino Y, Shinkai M, Ueda T, Tanikawa Y, Shirai T, Hirabayashi M, Aoki T, Kato T, Iizuka K, Homma S, Taniguchi M, Tanaka H : Severe or life-threatening asthma exacerbation : patient heterogeneity identified by cluster analysis. *Clin Exp Allergy* 46 : 1043–1055, 2016
6. 富井啓介：急性呼吸不全終末期の管理. 人工呼吸 33 : 3–8, 2016
7. 富井啓介：特集：「NPPVガイドライン改訂第2版」をめぐって 特殊な状況（終末期，挿管禁忌症例，悪性腫瘍，高齢者）におけるNPPVの適応. 日本胸部臨床 75 : 628–635, 2016
8. 富井啓介：質疑応答：プロからプロへ 重症喘息発作に対する非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の適応. 日本医事新報 4824 : 51–51, 2016
9. Iwata T, Yoshino I, Yoshida S, Ikeda N, Tsuboi M, Asato Y, Katakami N, Sakamoto K, Yamashita Y, Okami J, Mitsudomi T, Yamashita M, Yokouchi H, Okubo K, Okada M, Takenoyama M, Chida M, Tomii K, Matsuura M, Azuma A, Iwasawa I, Kuwano K, Sakai S, Hiroshima K, Fukuoka J, Yoshimura K, Tada H, Nakagawa K, Nakanishi Y, West Japan Oncology Group : A phase II trial evaluating the efficacy and safety of perioperative pifrenidone for prevention of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis in lung cancer patients undergoing pulmonary resection : West Japan Oncology Group 6711 L (PEOPLE Stud). *Respir Res* 17 : 90, 2016
10. Sato Y, Fujimoto D, Uehara K, Shimizu R, Ito J, Kogo M, Teraoka S, Kato R, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Hamakawa H, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K : The prognostic value of serum CA 19-9 for patients with advanced lung adenocarcinoma. *BMC Cancer* 16 : 890–898, 2016
11. Kogo M, Nagata K, Morimoto T, Ito J, Sato Y, Teraoka S, Fujimoto D, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K : Enteral Nutrition Is a Risk Factor for Airway Complications in Subjects Undergoing Noninvasive Ventilation for Acute Respiratory Failure. *Respiratory Care* 62 : 459–467, 2016
12. Fujimoto D, Kato R, Morimoto T, Shimizu R, Sato Y, Kogo M, Ito J, Teraoka S, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K : Characteristics and Prognostic Impact of Pneumonitis during Systemic Anti-Cancer Therapy in Patients with Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer. *PLOS ONE* 11 : e0168465, 2016
13. Akashiba T, Ishikawa Y, Ishihara H, Imanaka H, Ohi M, Ochiai R, Kasai T, Kimura K, Kondoh Y, Sakurai S, Shime N, Suzukawa M, Takegami M, Takeda S, Tasaka S, Taniguchi H, Chohnabayashi N, Chinq K, Tsuboi T, Tomii K, Narui K, Hasegawa N, Hasegawa R, Ujike Y, Kubo K, Hasegawa Y, Momomura S, Yamada Y, Yoshida M, Takekawa Y, Tachikawa R, Hamada S, Murase K : The Japanese Respiratory Society Noninvasive Positive Pressure Ventilation (NPPV) Guidelines (second revised edition). *Respiratory Investigation* 55 : 83–92, 2017
14. Matsumoto H, Kanemitsu Y, Nagasaki T, Tohda Y, Horiguchi T, Kita H, Kuwabara K, Tomii K, Otsuka K, Fujimura M, Ohkura N, Tomita K, Yokoyama A, Ohnishi H, Nakano Y, Oguma T, Hozawa S, Izuhara Y, Ito I, Oguma T, Inoue H, Tajiri T, Iwata T, Ono J, Ohta S, Hirota T, Kawaguchi T, Tamari M, Yokoyama T, Tabara Y, Matsuda F, Izuhara K, Niimi A, Mishima M : Staphylococcus aureus enterotoxin sensitization involvement and its association with the CysLTR1 variant in different asthma phenotypes. *Ann Allergy Asthma Immunol* 118 : 197–203, 2017
15. Tomii K, Kato T, Takahashi M, Noma S, Kobashi Y, Enatsu S, Okubo S, Kobayashi N, Kudoh S : Pemetrexed-related interstitial lung disease reported from post marketing surveillance (malignant pleural mesothelioma / non-small cell lung cancer). *Jpn J Clin Oncol* 47 : 350–356, 2017
16. Terasaki Y, Ikushima S, Matsui S, Hebisawa A, Ichimura Y, Izumi S, Ujita M, Arita M, Tomii K, Komase Y, Owan I, Kawamura T, Matsuzawa Y, Murakami M, Ishimoto H, Kimura H, Bando M, Nishimoto N, Kawabata Y, Fukuda Y, Ogura T : Comparison of clinical and pathological features of lung lesions of systemic IgG4-related disease and idiopathic multicentric Castleman's disease. *Histopathology* 70 : 1114–1124, 2017

VI. 1. 6 血液内科

1. Ochi Y, Hiramoto N, Ono Y, Yoshioka S, Tabata S, Yonetani N, Matsushita A, Imai Y, Ishikawa T : Tolerability and efficacy of rituximab-containing immunochemotherapy in patients with B-cell non-Hodgkin lymphoma receiving hemodialysis. *Leuk Lymphoma* 57 : 1945 – 1948, 2016
2. Shimomura Y, Mitsui H, Yamashita Y, Kamae T, Kanai A, Matsui H, Ishibashi T, Tanimura A, Shibayama H, Oritani K, Kuyama J, Kanakura Y : New variant of acute promyelocytic leukemia with IRF2BP2-RARA fusion. *Cancer science* 107 : 1165 – 1168, 2016
3. Kishimoto W, Nishikori M, Arima H, Miyoshi H, Sasaki Y, Kitawaki T, Shirakawa K, Kato T, Imaizumi Y, Ishikawa T, Ohno H, Haga H, Ohshima K, Takaori-Kondo A : Expression of Tim-1 in primary CNS lymphoma. *Cancer Med* 5 : 3235 – 3245, 2016
4. Maruyama D, Nagai H, Fukuhara N, Kitano T, Ishikawa T, Shibayama H, Choi I, Hatake K, Uchida T, Nishikori M, Kinoshita T, Matsuno Y, Nishikawa T, Takahara S, Tobinai K : Efficacy and safety of ibrutinib in Japanese patients with relapsed or refractory mantle cell lymphoma. *Cancer Sci* 107 : 785 – 1790, 2016
5. Yoshioka S, Miura Y : Human Mesenchymal Stem Cell Therapy for Acute Graft Versus Host Disease. *Transl Med* 6 : 171, 2016
6. Ochi Y, Kazuma Y, Hiramoto N, Ono Y, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Imai Y, Hashimoto H, Ishikawa T : Utility of a simple prognostic stratification based on platelet counts and serum albumin levels in elderly patients with diffuse large B cell lymphoma. *Ann Hematol* 96 : 1 – 8, 2017
7. Ishiyama K, Kitawaki T, Sugimoto N, Sozu T, Anzai N, Okada M, Nohgawa M, Hatanaka K, Arima N, Ishikawa T, Tabata S, Onaka T, Oka S, Nakabo Y, Amakawa R, Matsui M, Moriguchi T, Takaori-Kondo A, Kadowaki N : Principal component analysis uncovers cytomegalovirus-associated NK cell activation in Ph+ leukemia patients treated with dasatinib. *Leukemia* 31 : 203 – 212, 2017
8. Nagahata Y, Ono Y, Ochi Y, Koba Y, Kazuma Y, Yamauchi N, Hiramoto N, Tabata S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T : Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation from Sources other than Matched Related Donors in the Management of Elderly Acute Myeloid Leukemia Patients in First Complete Remission. *Journal of Hematopoietic Cell Transplantation* 6 : 45 – 51, 2017
9. Komatsu N, Kirito K, Shimoda K, Ishikawa T, Ohishi K, Ohyashiki K, Takahashi N, Okada H, Amagasaki T, Yonezu T, Akashi K : Assessing the safety and efficacy of ruxolitinib in a multicenter, open-label study in Japanese patients with myelofibrosis. *Int J Hematol* 105 : 309 – 317, 2017
10. Otsuka Y, Nishikori M, Kitano T, Oka T, Ishikawa T, Haga H, Takaori-Kondo A : Persistence of a t (11 ; 14) -positive clone in a patient with mantle cell lymphoma for 20 years. *Clinical Case Reports* 5 : 477 – 481, 2017
11. 数馬安浩, 小野祐一郎, 米谷 昇, 今井幸弘, 川上 学, 橋本尚子, 石川隆之 : 顆粒球輸血により重症感染を制御することで同種末梢血幹細胞移植を施行できた重症再生不良性貧血. *臨床血液* 57 : 440 – 444, 2016
12. 藪下知宏, 吉岡 聡, 越智陽太郎, 小野祐一郎, 田端淑恵, 石川隆之 : 難治性血栓性血小板減少性紫斑病に対するRituximabの使用経験. *神戸市立病院紀要* 55 : 9 – 14, 2016
13. 前田 (阪上) 由可子, 田中康博, 木場悠介, 新里偉咲, 石川隆之 : 突然の脾破裂で発症したマンツル細胞リンパ腫. *臨床血液* 57 : 1018 – 1025, 2016
14. 吉岡 聡, 石川隆之 : 【多発性骨髄腫 – 最新の診療と基礎研究 –】 V. 多発性骨髄腫の検査, 診断 5. 骨髄穿刺, 骨髄生検. *日本臨床* 4 : 213 – 216, 2016
15. 石川隆之 : 1. 成人骨髄異形成症候群 (MDS) 2) 治療 ①アザシチジン (高リスクMDS). *日本臨床* 75 : 257 – 261, 2017

VI. 1. 7 腫瘍内科

1. 荒木葉子, 田中登美, 安井久晃 : 「 I暮らしをサポートする A. 患者さんの考え方を知る」. *がんの治療と暮らしのサポート実践ガイド – 通院・在宅治療の継続を支える –*, N P O 法人キャンサーリボンズ 編集, エス・エム・エス出版, 東京, 7 – 14, 2017
2. 倉田宝保, 安藤正志, 安井久晃 : N C C N ガイドライン日本語版 原発不明がん 監訳. “<http://www.tri-kobe.org/nccn/guideline/occult/inde, 臨x.html>” 床研究情報センター (TRI), 2017

3. 安井久晃 : Chapter 58 黄疸 (翻訳) [ハリソン内科学 第5版]. 福井次矢, 黒川 清 監修, メディカルサイエンスインターナショナル, 東京, 285-291, 2017
4. Hamada C, Yamada Y, Azuma M, Nishikawa K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hyodo I : Meta-analysis supporting noninferiority of oxaliplatin plus S-1 to cisplatin plus S-1 in first-line treatment of advanced gastric cancer (G-SOX study) : indirect comparison with S-1 alone. *Int J Clin Oncol* 21 : 668-675, 2016
5. Bando H, Yamada Y, Tanabe S, Nishikawa K, Gotoh M, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hamada C, Hyodo I : Efficacy and safety of S-1 and oxaliplatin combination therapy in elderly patients with advanced gastric cancer. *Gastric Cancer* 19 : 919-926, 2016
6. Nishikawa K, Yamada Y, Ishido K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hamada C, Hyodo I : Impact of progression type on overall survival in patients with advanced gastric cancer based on randomized phase III I study of S-1 plus oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin. *Gastric Cancer* 2016 Nov 7. [Epub ahead of print]
7. Satake H, Miki A, Kondo M, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Yasui H, Imai Y, Ichikawa C, Murotani K, Hashida H, Kobayashi H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A : Phase I study of neoadjuvant chemotherapy with S-1 and oxaliplatin for locally advanced gastric cancer (Neo G-SOX PI). *ESMO Open* : 2017 : 2 : e000130.
8. Satake H, Tahara M, Mochizuki S, Kato K, Hara H, Yokota T, Kiyota N, Kii T, Chin K, Zenda S, Kojima T, Bando H, Yamazaki T, Iwasa S, Honma Y, Hamauchi S, Tsushima T, Ohtsu A : A prospective, multicenter phase I/II study of induction chemotherapy with docetaxel, cisplatin and fluorouracil (DCF) followed by chemoradiotherapy in patients with unresectable locally advanced esophageal carcinoma cancer. *Cancer Chemotherapy and Pharmacology* 78 : 91-99, 2016
9. Satake H, Iwatsuki M, Uenosono Y, Shiraiishi T, Tanioka H, Saeki H, Sugimachi K, Kitagawa D, Shimokawa M, Oki E, Emi Y, Kakeji Y, Tsuji A, Akagi Y, Natsugoe S, Baba H, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer : Phase II trial of capecitabine plus modified cisplatin (mXP) as first-line therapy in Japanese patients with metastatic gastric cancer (KSCC1104). *Cancer Chemotherapy and Pharmacology* 79 : 147-153, 2017

VI. 1. 8 緩和ケア内科

1. 李 美於 : アブストラクト開始量の盲点. 緩和医療ピットフォールファイル, 森田達也, 濱口 恵 編, 第1版, 南江堂, 東京, 79-82, 2017

VI. 1. 9 感染症科

1. Moriyama Y, Sono Y, Nishioka H : Tuberculous arthritis of the hip with *Staphylococcus aureus* superinfection. *Journal of Infection and Chemotherapy* 22 : 752-754, 2016
2. Ohji G, Doi A, Yamamoto S, Iwata K : Is De-escalation of Antimicrobials Effective ? A Systematic Review and Meta-analysis. *International Journal of Infectious Diseases* 49 : 71-79, 2016
3. Mizuno Y, Doi A, Endo A, Nishioka H : *Streptococcus pneumoniae* Meningitis Presenting with Acute Urinary Retention and Emphysematous Cystitis. *Internal Medicine* 55 : 2101-2104, 2016
4. Kanzawa Y, Mizuno Y, Imai Y, Nishioka H : Giant Cell Arteritis with Facial Edema Presenting with Delayed Jugular Venous Flow. *Internal Medicine* 55 : 2077-2080, 2016
5. Doi A, Iwata K, Hara S, Imai Y, Hasuike T, Nishioka H : Interstitial nephritis caused by HIV infection by itself : a case report. *International Journal of General Medicine* 9 : 311-314, 2016
6. Iwata K, Doi A : A qualitative study of infectious diseases fellowships in Japan. *International Journal Medical Education* 7 : 62-68, 2016
7. Shimizu H, Nishioka H : Successful treatment with tocilizumab for refractory scleritis associated with relapsing polychondritis. *Scandinavian Journal of Rheumatology* doi : 10.1080/03009742.2016.1275774. Epub 2017 Jan 25

8. 西岡弘晶, 荒井秀典: 終末期の医療およびケアに関する意識調査. 日本老年医学会雑誌 53: 374-378, 2016
9. 西岡弘晶: 栄養療法としての輸液 レジデントノート増刊 18: 19-25, 2016
10. 西岡弘晶: どのような症状があれば痛風を疑うの? Nutrition Care 9: 916-917, 2016
11. 西岡弘晶: 痛風は足の親指の付け根以外にも痛くなるの? Nutrition Care 9: 918-919, 2016
12. 西岡弘晶: 高尿酸血症に運動療法は有効なの? Nutrition Care 9: 928-929, 2016
13. 土井朝子, 川上大裕, 瀬尾龍太郎: 血液疾患患者の下部消化管穿孔後のCandida腹膜炎. Intensivist 8: 958-962, 2016
14. 蓮池俊和, 是永 章, 瀬尾龍太郎: 水汚染を伴った開放骨折. Intensivist 19: 220-225, 2016

VI. 1. 10 精神・神経科

1. 大谷恭平, 伊藤聡子, 大音三枝子, 鶴谷 茂, 勝又知子, 石丸綾子, 俵 崇記, 松石邦隆, 北村 登: せん妄の予防と治療における薬物療法. 臨床精神薬理 20: 163-173, 2017
2. 高宮静男, 上月 遥, 川添文子, 河村麻美子, 石川慎一, 大谷恭平, 植本雅治, 磯部昌憲, 寺園沙矢香, 島村康弘, 唐木美喜子, 大波由美恵, 加地啓子, 塚本由紀, 小松龍史, 作田亮一, 生野照子, 甲村弘子, 中里道子, 西園マーハ文: 摂食障害の診療体制整備に関する研究 小児領域におけるチーム医療. 摂食障害の診療体制整備に関する研究 平成27年度 研究報告書(総括研究報告書+分担研究報告書) 125-131, 2016

VI. 1. 11 小児科・新生児科

1. 二村昌樹, 岡藤郁夫, 福家辰樹, 海老島優子, 村田卓士, 森川みき, 南部光彦: 「プロアクティブ療法」を日常診療にどのように取り入れていくか? 日本小児アレルギー学会誌 30: 91-97, 2016
2. 森川みき, 岡藤郁夫, 福家辰樹, 海老島優子, 二村昌樹, 村田卓士, 南部光彦: 患者さんのために医師はどう連携すればよいか? ~小児科と皮膚科, 開業医と病院, 専門医と非専門医の関係~. 日本小児アレルギー学会誌 30: 84-90, 2016
3. 海老島優子, 末廣 豊, 岡藤郁夫, 福家辰樹, 二村昌樹, 村田卓士, 森川みき, 南部光彦: アトピー性皮膚炎に効果的なスキンケアは? ~入浴, 体の洗い方, 石けんの使用, 保湿剤について考える~. 日本小児アレルギー学会誌 30: 75-83, 2016
4. 村田卓士, 岡藤郁夫, 福家辰樹, 海老島優子, 二村昌樹, 森川みき, 南部光彦: あなたはアトピー性皮膚炎と診断できるか? ~適切な治療のために, とくに一般小児科医として~. 日本小児アレルギー学会誌 30: 63-74, 2016
5. 岡藤郁夫, 福家辰樹: ワークショップ2 アトピー性皮膚炎治療の素朴な疑問について考えよう 座長のまとめ. 日本小児アレルギー学会誌 30: 61-62, 2016
6. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: ハウスダスト特異的IgE抗体陽性のアレルギー性鼻炎日本人低年齢児に対するハウスダスト急速皮下免疫療法の安全性と効果の検討. 日本小児アレルギー学会誌 30: 627-634, 2017
7. 二村昌樹, 岡藤郁夫, 山本貴和子, 荒川浩一: 診療ガイドラインにおけるシステマティックレビューの方法. 日本小児アレルギー学会誌 31: 89-95, 2017
8. 山岸裕和, 日馬由貴, 中村晴奈, 潮見祐樹, 矢野直子, 藪本仁美, 竹内典子, 橋本浩一: GBS, あなたは除菌する? しない? GBSの母子感染予防について考える. 小児感染免疫 27: 356-363, 2016
9. 中西恭一, 岡藤隆夫, 安部治郎, 飯尾 潤, 折山文子, 梶山瑞隆, 小林 謙, 田中一宏, 田中尚子, 鶴田 悟, 八若博司, 藤田 位, 三木和典, 桃田哲也, 吉田元嗣, 熊谷直樹: 保育園および幼稚園職員の麻疹・風疹対策に関するアンケート調査結果. 日本小児科医会会報 52: 183-184, 2016
10. Narabayashi S, Okafuji I, Tanaka Y, Tsuruta S, Takamatsu N: Anaphylaxis caused by casein used in artificially marbled beef: A case report. Allergol Int 65: 341-342, 2016
11. Otsubo Y, Okafuji I, Shimizu T, Nonaka F, Ikeda K, Eguchi K: A long-term follow-up of Japanese mother and her daughter with Blau syndrome: Effective treatment of anti-TNF inhibitors and useful diagnostic tool of joint ultrasound examination. Mod Rheumatol 27: 169-173, 2017
12. Nomura O, Mishina H, Kobayashi Y, Ishiguro A, Sakai H, Kato H: Limitation of duty hour regulations for pediatric resident wellness: A mixed methods study in Japan. Medicine (Baltimore) 95: e4867, 2016

13. Kobayashi Y, Hanaoka Y, Akiyama T, Ohmori I, Ouchida M, Yamamoto T, Oka M, Yoshinaga H, Kobayashi K: A case of Dravet syndrome with cortical myoclonus indicated by jerk-locked back-averaging of electroencephalogram data. *Brain Dev* 39 : 75–79, 2017
14. Tashiro Y, Miyakoshi C: Statistical research of shunt system in Japanese society for hydrocephalus and CSF disorder. *J. Hydrocephalus* 8 : 30–32, 2016
15. Miura S, Hamamoto N, Osaki M, Nakano S, Miyakoshi C: Extubation failure in neonates after cardiac surgery : prevalence, etiology, and risk factor. *Ann Thorac Surg* 103 : 1293–1298, 2017
16. 岡藤郁夫: Q園・学校生活の中(給食を除く)で起きる誘発事故と, それを防ぐコツは? 総合小児医療カンパニア 専門医が答えるアレルギー疾患Q&A, 亀田 誠, 赤澤 晃, 伊藤浩明, 遠藤朝彦 総編集, 初版, 中山書店, 東京, 2016
17. 岡藤郁夫: 第5章 食物アレルギー. 食物アレルギー診療ガイドライン2016, 海老澤元宏, 伊藤浩明, 藤澤隆夫 監修, 初版, 協和企画, 東京, 2016
18. 岡藤郁夫: V 食物アレルギーに関連する社会的諸問題 B 患児・保護者への生活指導. 伊藤浩明 編集, 初版, 診断と治療社, 東京, 2016

VI. 1. 12 皮膚科

1. 長野 徹: 光線力学療法-その現況と展望-. 皮膚病診療 38 : 860–864, 2016
2. Nagano T, Oka M, Horikawa T, Nishigori C, Kotera M: Single, blue nevus-like localized argyria. *J Dermatol* 43 : 1359–1360, 2016
3. Nagano T, Kotani S, Omori M, Kosaka H, Ogawa M: Pigmented extramammary Paget's disease : Pitfalls of diagnosis. *J Dermatol*, 2016 Nov 14. doi : 10.1111/1346–8138. 13684
4. 長野 徹: 総合感冒薬服用後のショックの原因物質の特定方法は? プリックテスト, スクラッチテストを行う. 日本医事新報 4839, 61, 2017

VI. 1. 13 外科・移植外科

1. 増井秀行: 術中に診断し得た重複胆嚢管の1症例. 手術 70 : 701–706, 2016

VI. 1. 14 心臓血管外科

1. Fukunaga N, Matsuo T, Koyama T: Does Triplex Vascular Prosthesis Contribute to Reducing the Inflammatory Reaction after Surgical Repair of Abdominal Aortic Aneurysms? *Ann Vasc Dis* 9 : 91–94, 2016
2. Kanemitsu H, Nakamura K, Fukunaga N, Koyama T: Long-Term Outcomes of Mitral Valve Repair for Active Endocarditis. *Circ J* 80 : 1148–1152, 2016
3. Fukunaga N, Uryuhara K, Koyama T: Axillobifemoral Bypass for Aortitis Syndrome in a Living-Donor Liver Transplant Patient. *Ann Vasc Dis* 9 : 114–116, 2016
4. Fukunaga N, Koyama T: Evolution of diagnosis and clinical outcomes in acute aortic dissection : data from the International Registry of Acute Aortic Dissection. *J Thorac Dis* 8 : E625–627, 2016
5. Yoshida K, Fukunaga N, Sakon Y, Koyama T: Early Failure of Trifecta Bioprosthesis in the Aortic Position. *J Card Surg* 31 : 526, 2016
6. Fukunaga N, Koyama T: Outcomes of surgical repairs for thoracic aortic pseudoaneurysms after cardiovascular surgery. *J Card Surg* 31 : 535–540, 2016
7. Fukunaga N, Okada Y, Koyama T: Re-Repair of Tricuspid Valve after Tricuspid Suture Annuloplasty : An Analysis of the Causes for Reoperation and its Durability. *J Heart Valve Dis* 25 : 341–348, 2016
8. Fukunaga N, Yoshida K, Nishiya K, Koyama T: A Subcutaneous Mass as a Sign of Thoracic Aortic Pseudoaneurysm. *Ann Vasc Surg* 41 : e9–279.e12, 2017
9. 小泉滋樹, 小山忠明, 上田浩之, 小林裕之: 上腸間膜動脈狭窄に伴うリオラン弓の破裂に対して待機的に静脈グラフトでのバイパスを行った1例. 日本血管外科学会雑誌 25 : 189–192, 2016
10. 吉田一史, 福永直人, 小泉滋樹, 西矢健太, 松田靖弘, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 自己心膜による弁輪部再建を伴う大動脈弁置換術後にパッチが離開した活動期感染性心内膜炎. 胸部外科雑誌 70 : 177–180, 2017

VI. 1. 15 呼吸器外科

1. Okubo Y, Hamakawa H, Sakanoue I, Takahashi Y, Pieracci F : A case of trapped lung by a fractured rib. *J Trauma Acute Care Surg* 81 : 1175–1177, 2016

VI. 1. 16 脳神経外科

1. 今村博敏, 坂井信幸 : 脳血管内治療に用いるデバイスの基礎知識, Wingspanの使い方—適応, 留置, 抗血栓療法. *脳神経外科速報* 26 : 1303–1309, 2016
2. 坂井信幸, 藤堂謙一 : 脳梗塞急性期治療の進歩—血管内治療. *総合リハビリテーション* 44 : 197–201, 2016
3. 坂井信幸, 藤堂謙一 : 特集 : 脳卒中治療の進歩—再発予防のための血管内治療の将来. *動脈硬化予防* 15 : 72–77, 2016
4. 坂井信幸, 今村博敏 : 虚血性脳卒中 : 頭蓋内動脈閉塞, 狭窄病変に対する血行再建術—バイパス手術とステント留置術. *Medical Practice* 33 : 445–448, 2016
5. 坂井信幸, 今村博敏 : 脳梗塞急性期治療のブレイクスルー, 脳梗塞急性期治療のつぎなる挑戦—血管内治療の立場から. *分子脳血管病* 15 : 53–56, 2016
6. 坂井信幸 : From the World Conference. 日本脳神経外科学会第74回学術総会. *Cardio-Coagulation* 3 : 70–71, 2016
7. 原 淑恵, 坂井信幸, 山下晴央, 林 成人, 石井大嗣, 山下俊輔 : Overlapping stentとコイル塞栓により治療した破裂内頸動脈血豆状動脈瘤の2例. *Jpn J Neurosurg (Tokyo)* 25 : 157–163, 2016
8. Agawa Y, Mineharu Y, Tani S, Adachi H, Imamura H, Sakai N : Bilateral Chronic Subdural Hematoma is Associated with Rapid Progression and Poor Clinical Outcome. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 16 : 198–203, 2016
9. Enomoto Y, Yoshimura S, Egashira Y, Yamagami H, Sakai N : Committee of Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism (RESCUE) -Japan Study Group : Committee of Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism (RESCUE) -Japan Study Group : The Risk of Intracranial Hemorrhage in Japanese Patients with Acute Large Vessel Occlusion; subanalysis of the RESCUE-Japan registry. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 25 : 1076–1080, 2016
10. Morimoto T, Mineharu Y, Kobayashi H, Harada KH, Funaki T, Takagi Y, Sakai N, Miyamoto S, Koizumi A : Significant Association of the RNF213 p.R4810K Polymorphism with Quasi-Moyamoya Disease. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 25 : 2632–2636, 2016
11. Todo K, Sakai N, Kono T, Hoshi T, Imamura H, Adachi H, Kohara N : National Institutes of Health Stroke Scale-Time Score Predicts Outcome after Endovascular Therapy in Acute Ischemic Stroke : A Retrospective Single-Center Study. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 25 : 1187–1191, 2016
12. Qureshi AI, Palesch YY, Barsan WG, Hanley DF, Hsu CY, Martin RL, Moy CS, Silbergleit R, Steiner T, Suarez JJ, Toyoda K, Wang Y, Yamamoto H, Yoon BW : ATACH-2 Trial Investigators and the Neurological Emergency Treatment Trials Network : Intensive Blood-Pressure Lowering in Patients with Acute Cerebral Hemorrhage. *N Eng J Med* 375 : 1033–43, 2016
13. Shimizu K, Imamura H, Mineharu Y, Adachi H, Sakai C, Sakai N : Endovascular Treatment of Unruptured Paraclinoid Aneurysms : Single-Center Experience with 400 Cases and Literature Review. *AJNR Am J Neuro Radiol* 37 : 679–685, 2016
14. 今村博敏 : 11章 椎骨脳底動脈瘤のシミュレーションとIVRの実際 2 脳底動脈瘤 D 先端部 (大型). 前大脳動脈瘤・椎骨脳底動脈瘤 (ACA・VBA Aneurysm) のすべて—シミュレーションで経験する手術・IVR (脳神経外科速報EX部位別に学ぶ脳動脈瘤シリーズ), 宝金清博 監修, 井川房夫, 宮地 茂 編集, メディカ出版, 大阪, 319–324, 2016
15. 徳永 聡, 鶴崎雄一郎, 三本木良紀, 津本智幸, 矢坂正弘, 岡田 靖 : Stent Retrieverにより得られる治療時間短縮効果. *日本血管内治療学会誌* 17 : 6–10, 2016
16. 今村博敏, 河野智之, 藤堂謙一, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 有村公一, 齊藤智成, 船津堯之, 別府幹也, 武部軌良, 鈴木啓太, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 坂井信幸 : 急性期脳梗塞治療における再開通までの時間短縮の工夫とその効果. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 34 : 8–13, 2016

17. 徳永 聡, 鶴崎雄一郎, 津本智幸, 桑城貴弘, 矢坂正弘, 岡田 靖: 急性期再開通療法におけるSingle call activation systemを用いた治療時間短縮および情報共有の有用性. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 34: 191-195, 2016
18. Tsumoto T, Tsurusaki Y, Tokunaga S: Interaction between the stent strut and thrombus characterized by contrast-enhanced high-resolution cone beam CT during deployment of the Solitaire stent retriever. *J Neurointerv Surg*, doi: 10.1136/neurintsurg-2016-012492. Epub 2016 Aug 19
19. 津本智幸, 鶴崎雄一郎, 徳永 聡: アクセス困難症例に対する頸動脈ステント留置術の工夫. *脳卒中の外科* 44: 260-265, 2016
20. 今村博敏: 脳血管内治療最近の動向 時間短縮への取り組みの成果. チームで成功させる脳梗塞血管内治療, 幸原信夫, 藤堂謙一, 坂井信幸, 今村弘敏 編集, 初版, 診断と治療社, 東京, 34-38, 2016
21. 杉浦由理, 早川幹人, 今村博敏: 多発性頭蓋外動脈狭窄・閉塞による脳梗塞例. *脳神経外科速報* 26: 1074-1080, 2016
22. 今村博敏, 船津堯之, 坂井信幸: C液体塞栓物質を使いこなす ② Onyzを用いたTAE. 脳血管内治療の進歩2017, 坂井信幸, 江面正幸, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一 編集, 初版, 診断と治療社, 東京, 157-164, 2016
23. Sugiura Y, Yamagami H, Sakai N, Yoshimura S; Committee of Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism (RESCUE) -Japan Study Group: Predictors of Symptomatic Intracranial Hemorrhage after Endovascular Therapy in Acute Ischemic Stroke with Large Vessel Occlusion. *J Stroke Cerebrovasc Dis*, doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2016.10.015. Epub 2016 Nov 10
24. Ikeda H, Imamura H, Agawa Y, Imai Y, Tani S, Adachi H, Ishikawa T, Mineharu Y, Sakai N: Onyx extravasation during embolization of a brain arteriovenous malformation. *Interv Neuroradiol*, doi: 10.1177/1591019916680112. Epub 2016 Dec 1
25. 今村博敏: この論文がすごい「してもいい治療」から「すべき治療」へ. 脳主幹動脈閉塞症に対する急性期再開通療法. *IVR BOOK 2016* 14: 76-79, 2016
26. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire FR 血栓除去デバイス. *IVR BOOK 2016* 14: 42-43, 2016
27. 今村博敏, 坂井信幸: Wingspanの使い方-適応, 留置, 抗血栓療法. *脳神経外科速報* 26: 1303-1309, 2016
28. Shimizu K, Imamura H, Mineharu Y, Adachi H, Sakai C, Tani S, Arimura K, Beppu M, Sakai N: Endovascular parent-artery occlusion of large or giant unruptured internal carotid artery aneurysms. A long-term single-center experience. *J Clin Neurosci* 37: 73-78, 2017
29. Taschner CA, Vedantham S, de Vries J, Biondi A, Boogaarts J, Sakai N, Lylyk P, Szikora I, Meckel S, Urbach H, Kan P, Siekmann R, Bernardy J, Gounis MJ, Wakhloo AK: Surpass Flow Diverter for Treatment of Posterior Circulation Aneurysms. *AJNR Am J Neuroradiol* 38: 582-589, 2017
30. Sakai C, Sakai N, Kobayashi S, Iihara K, Ezura M, Yamamoto H: Guidelines and Post-market Surveillance of Flow Diverter for Intracranial Aneurysms. *JNET* 11: 173-179, 2017
31. 坂井信幸, 今村博敏: 「脳血管障害—診療のエッセンス」硬膜動静脈瘻. *日本医師会雑誌* 146: 204-206, 2017
32. 今村博敏, 坂井信幸: 血栓回収療法の実際 血栓回収療法のテクニック (ステント型デバイス). *脳と循環* 22: 45-50, 2017
33. Tokunaga S, Sambomgi Y, Tsurusaki Y, Tsumoto T: High-resolution cone-beam CT localization of an iatrogenic vertebral arteriovenous fistula for trans-arterial target embolization. *JNET* 11: 81-87, 2017
34. Tokunaga S, Sambomgi Y, surusaki Y, Tsumoto T: Balloon-Inflation Anchoring Technique for Insertion of a Guiding Catheter in Acute Mechanical Thrombectomy. *JNET* 11: 53-58, 2017
35. 鈴木啓太, 有村公一, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 船津堯之, 別府幹也, 柴田帝式, 武部軌良, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 坂井信幸: 塞栓術直後に対側の塞栓を要したcavernous sinus dural AVFの1例. *脳血管内治療* 2: 24-30, 2017
36. 今村博敏, 坂井信幸: 血管内治療, フローダイバーター. プライム脳神経外科 脳動脈瘤1, 木内博之, 斉藤延人 監修, 木内博之 編集, 三輪書店, 東京, 82-86, 2017

- 坂井信幸, 江面正幸, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一 (編集): 脳血管内治療の進歩2016-硬膜動静脈瘻の全て~脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2016~, 診断と治療社, 東京, 2016

VI. 1. 17 整形外科

- Onishi E, Yasuda T, Yamamoto H, Iwaki K, Ota S: Outcomes of Surgical Treatment for Thoracic Myelopathy: A Single-institutional Study of 73 Patients. *Spine* 41: E1356-E1363, 2016
- Yasuda T, Yokoi Y, Oyanagi K, Hamamoto K: Hip rotation as a risk factor of anterior cruciate ligament injury in female athletes. *J Phys Fitness Sports Med* 5: 105-113, 2016
- 岩城公一, 山本博史, 大英次郎, 太田 司, 藤田俊史, 安田 義: 劇症型溶連菌感染症の7例. *中部整災誌* 59: 1129-1130, 2016
- 吉元孝一, 竹内久貴, 渡邊 陸, 安田 義: Masquelet法による脛骨広範囲骨欠損治療の1例. *中部整災誌* 59: 823-824, 2016
- 梶田崇一郎, 竹内久貴, 岩城公一, 安田 義: 当院における小児上腕骨顆上骨折完全転位型 (Gartland分類 type IV) に神経血管損傷を合併した2例. *中部整災誌* 59: 59-60, 2016
- 太田悟司, 安田 義, 山本博史, 岩城公一, 大西英二郎, 藤田俊史: 陰圧閉鎖療法を併用した下腿急性コンパートメント症候群の治療. *別冊整形外科70骨折 (四肢・脊椎脊髄外傷) の診断と治療 (その1)* 35: 147-150, 2016
- 安田 義: 運動療法が関節軟骨代謝に与える効果に関するバイオマーカーを用いた検討. *基盤研究B*, 課題番号25282220, 科学研究費助成事業研究報告書, 2016

VI. 1. 18 産婦人科

- 大竹紀子, 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 日野麻世, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 吉岡信也: 当院で加療した妊娠中の付属器腫瘍の茎捻転13例の検討. *臨床婦人科産科* 70: 551-555, 2016
- 星野達二, 山添紗恵子, 柳川真澄, 前田裕斗, 日野麻世, 上松和彦, 吉岡信也, 今井幸弘, 清水大功: わが国における胎児心拍陽性の頸管妊娠の治療について. *産科と婦人科* 83: 839-845, 2016
- 林 信孝, 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 日野麻世, 松林 彩, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 吉岡信也: 当院における卵巣癌に対してのペパシズマブの使用経験. *産婦人科の進歩* 68: 288-289, 2016
- 池田裕美枝, 森下真理子: 総合診療医こそが行く! 学校における性教育. *月刊地域医学* 30: 930-935, 2016
- 金光佳織, 森本茂文, 北田徳昭, 片岡和二郎, 青木卓哉, 吉岡信也, 北 正人, 橋田 亨: 妊婦の風疹抗体価に基づく風疹ワクチン接種推奨の必要性に関する検討. *医療薬学* 42: 687-693, 2016
- 池田裕美枝, 対馬ルリ子 (編集): *Jmedmook あなたも名医 プライマリケア現場における女性診療*. 日本医事新報社, 東京, 2016
- Hoshino T, Yanagawa M, Hino M, Uematsu K, Yoshioka S: Useful technique for endometrial polypectomy under direct hysteroscope observation. DOI: <http://dx.doi.org/10.1016/j.gmit.2016.12.002>, Open access funded by Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy & Minimally Invasive Therapy, 2016

VI. 1. 19 泌尿器科

- 川喜田睦司: 前立腺がん摘出術後の尿漏れについて. *みんなの健康相談*, ラジオ関西, 2016
- 川喜田睦司: 前立腺がん, 手術後の尿漏れ対策は. *カルテQ&A*, 神戸新聞, 2016
- 川喜田睦司, 小久保雅樹: 前立腺がん. シリーズ5 *がん診療最前線II* ①, 新ひょうごの医療, 神戸新聞, 2017
- 川喜田睦司: Editorial Comment. *泌尿器科紀要* 63: 119-124, 2017
- 軸屋良介, 橋爪章仁, 蓼沼知之, 水野伸彦, 村岡研太郎, 河合正記, 滝沢明利, 岸田 健: 化学療法後HCG低値陽性遷延するも病理学的完全寛解が確認された進行精巣腫瘍の1例. *泌尿器科紀要* 63: 123-124, 2017

6. 松岡崇志, 市川千宙, 福永有伸, 矢野敏史, 杉野善雄, 岡田卓也, 今井幸弘, 川喜田睦司 : Oncocytic papillary renal cell carcinomaの2例. 泌尿器科紀要 62 : 187-191, 2016
7. 岡田卓也, 高山賢二, 小久保雅樹, 河野有香, 松本敬優, 住吉崇幸, 増田憲彦, 白石裕介, 根来宏光, 宇都宮紀明, 常森寛行, 大久保和俊, 清川岳彦, 諸井誠司, 六車光英, 川喜田睦司 : 高リスク前立腺癌に対するネオアジュバント内分泌併用外照射放射線療法の治療成績と予後関連因子の検討. 日泌尿会誌 107 : 162-169, 2016
8. 宇都宮紀明, 松本敬優, 常森寛行, 六車光英, 川喜田睦司, 上山裕樹, 金丸聡淳, 伊藤哲之, 塚崎秀樹, 白波瀬敏明, 高橋 毅 : 過活動膀胱を有する前立腺肥大症患者に対する薬物治療の臨床的検討 : クロスオーバー法を用いた比較検討. 泌尿器科紀要 62 : 341-347, 2016
9. 岡田卓也, 河野有香, 松本敬優, 宇都宮紀明, 常森寛行, 川喜田睦司 : 腎部分切除後の遷延性尿瘻に対しFibrin glueの経皮的注入を行った1例. 泌尿器科紀要 63 : 107-110, 2017

VI. 1. 20 眼科

1. Khor CC, Do T, Jia H, Nakano M, George R, Abu-Amero K, Duvesh R, Chen LJ, Li Z, Nongpiur ME, Perera SA, Qiao C, Wong HT, Sakai H, Barbosa de Melo M, Lee MC, Chan AS, Azhany Y, Dao TL, Ikeda Y, Perez-Grossmann RA, Zarnowski T, Day AC, Jonas JB, Tam PO, Tran TA, Ayub H, Akhtar F, Micheal S, Chew PT, Aljasim LA, Dada T, Luu TT, Awadalla MS, Kitnarong N, Wanichwecharungruang B, Aung YY, Mohamed-Noor J, Vijayan S, Sarangapani S, Husain R, Jap A, Baskaran M, Goh D, Su DH, Wang H, Yong VK, Yip LW, Trinh TB, Makornwattana M, Nguyen TT, Leuenberger EU, Park KH, Wiyogo WA, Kumar RS, Tello C, Kurimoto Y, Thapa SS, Pathanapitoon K, Salmon JF, Sohn YH, Fea A, Ozaki M, Lai JS, Tantisevi V, Khaing CC, Mizoguchi T, Nakano S, Kim CY, Tang G, Fan S, Wu R, Meng H, Nguyen TT, Tran TD, Ueno M, Martinez JM, Ramli N, Aung YM, Reyes RD, Vernon SA, Fang SK, Xie Z, Chen XY, Foo JN, Sim KS, Wong TT, Quek DT, Venkatesh R, Kavitha S, Krishnadas SR, Soumitra N, Shantha B, Lim BA, Ogle J, de Vasconcellos JP, Costa VP, Abe RY, de Souza BB, Sng CC, Aquino MC, Kosior-Jarecka E, Fong GB, Tamanaja VC, Fujita R, Jiang Y, Waseem N, Low S, Pham HN, Al-Shahwan S, Craven ER, Khan MI, Dada R, Mohanty K, Faiq MA, Hewitt AW, Burdon KP, Gan EH, Prutthipongsit A, Patthanathamrongkasem T, Catacutan MA, Felarca IR, Liao CS, Rusmayani E, Istiantoro VW, Consolandi G, Pignata G, Lavia C, Rojanapongpun P, Mangkornkanokpong L, Chansangpetch S, Chan JC, Choy BN, Shum JW, Than HM, Oo KT, Han AT, Yong VH, Ng XY, Goh SR, Chong YF, Hibberd ML, Seielstad M, Png E, Dunstan SJ, Chau NV, Bei J, Zeng YX, Karkey A, Basnyat B, Pasutto F, Paoli D, Frezzotti P, Wang JJ, Mitchell P, Fingert JH, Allingham RR, Hauser MA, Lim ST, Chew SH, Ebstein RP, Sakuntabhai A, Park KH, Ahn J, Boland G, Snippe H, Stead R, Quino R, Zaw SN, Lukasik U, Shetty R, Zahari M, Bae HW, Oo NL, Kubota T, Manassakorn A, Ho WL, Dallorto L, Hwang YH, Kiire CA, Kuroda M, Djamal ZE, Peregrino JI, Ghosh A, Jeoung JW, Hoan TS, Srisamran N, Sandragasu T, Set SH, Doan VH, Bhattacharya SS, Ho CL, Tan DT, Sihota R, Loon SC, Mori K, Kinoshita S, Hollander AI, Qamar R, Wang YX, Teo YY, Tai ES, Hartleben-Matkin C, Lozano-Giral D, Saw SM, Cheng CY, Zenteno JC, Pang CP, Bui HT, Hee O, Craig JE, Edward DP, Yonahara M, Neto JM, Guevara-Fujita ML, Xu L, Ritch R, Liza-Sharmini AT, Wong TY, Al-Obeidan S, Do NH, Sundaresan P, Tham CC, Foster PJ, Vijaya L, Tashiro K, Vithana EN, Wang N, Aung T : Genome-wide association study identifies five new susceptibility loci for primary angle closure glaucoma. Nat Genet 48 : 556-562, 2016
2. Iraha S, Hiramami Y, Ota S, Sunagawa GA, Mandai M, Tanihara H, Takahashi M, Kurimoto Y : Efficacy of valproic acid for retinitis pigmentosa patients : a pilot study. Clin Ophthalmol 10 : 1375-1384, 2016
3. Sugita S, Iwasaki Y, Makabe K, Kamao H, Mandai M, Shiina T, Ogasawara K, Hiramami Y, Kurimoto Y, Takahashi M : Successful transplantation of retinal pigment epithelial cells from MHC homozygote iPSCs in MHC-matched models. Stem Cell Reports 7 : 635-648, 2016
4. Kamao H, Mandai M, Ohashi W, Hiramami Y, Kurimoto Y, Kiryu J, Takahashi M : Evaluation of the surgical device and procedure for extracellular Matrix-Scaffold-Supported human iPSC-Derived retinal pigment epithelium cell sheet transplantation. Invest Ophthalmol Vis Sci 58 : 211-220, 2017

5. Nishida A, Kojima H, Kameda T, Mandai M, Kurimoto Y : Five-year outcomes of pars plana vitrectomy for macular edema associated with branch retinal vein occlusion. *Clinical Ophthalmology* 11 : 369–375, 2017
6. Mandai M, Watanabe A, Kurimoto Y, Hirami Y, Morinaga C, Daimon T, Fujihara M, Akimaru H, Sakai N, Shibata Y, Terada M, Nomiya Y, Tanishima S, Nakamura M, Kamao H, Sugita S, Onishi A, Ito T, Fujita K, Kawamata S, Go MJ, Shinohara C, Hata KI, Sawada M, Yamamoto M, Ohta S, Ohara Y, Yoshida K, Kuwahara J, Kitano Y, Amano N, Umekage M, Kitaoka F, Tanaka A, Okada C, Takasu N, Ogawa S, Yamanaka S, Takahashi M : Autologous induced stem-cell-derived retinal cells for macular degeneration. *N Engl J Med* 376 : 1038–1046, 2017
7. 栗本康夫 : iPS細胞による網膜色素上皮移植. *眼科手術* 29 : 238–242, 2016
8. 平見恭彦 : 再生医療と視覚リハビリテーション. *視覚リハビリテーション* 83 : 29–32, 2016
9. 松崎光博, 広瀬文隆, 山本庄吾, 吉水 聡, 宇山紘史, 藤原雅史, 栗本康夫 : Ex-PRESS®併用濾過手術における術中光干渉断層計の有用性. *あたらしい眼科* 33 : 1053–1056, 2016
10. 松崎光博, 下園正剛, 平見恭彦, 広瀬文隆, 宮本紀子, 西田明弘, 菊地雅史, 栗本康夫 : 急性視神経炎における造影MRI所見と疼痛および視力予後の関連. *臨床眼科* 70 : 1259–1263, 2016
11. 平見恭彦 : iPS細胞. *RETINA Medicine* 5 : 201–202, 2016
12. 平見恭彦, 荒井優気, 高橋政代, 栗本康夫 : 遺伝カウンセリングにより患者の不安が軽減された網膜色素変性の2症例. *臨床眼科* 70 : 1795–1801, 2016
13. 広瀬文隆 : 13. 眼圧検査 1) 眼圧測定法. *眼科検査ガイド*, 根木 昭, 飯田知弘, 近藤峰生, 中村 誠, 山田昌和 編, 第2版, 文光堂, 東京, 431–439, 2016
14. 広瀬文隆 : 13. 眼圧検査 3) 誘発試験. *眼科検査ガイド*, 根木 昭, 飯田知弘, 近藤峰生, 中村 誠, 山田昌和 編, 第2版, 文光堂, 東京, 443–445, 2016
15. 吉水 聡, 栗本康夫 : 隅角鏡による隅角検査. *眼科診療マイスター I 診察と検査*, 飯田知弘, 中澤 徹, 堀 裕一 編, 第1版, メジカルビュー社, 東京, 118–123, 2016
16. 栗本康夫 : iPS細胞による治療の現状. *週刊日本医事新報* 4829 : 39–44, 2016
17. 高木誠二, 平見恭彦, 栗本康夫 : 網膜の再生医療のこれまでと現在. *PHARMASTAGE* 16 : 4–10, 2016
18. 平見恭彦, 高橋政代 : 細胞治療と再生医療. *眼科臨床エキスパート 網膜変性疾患診療のすべて*, 村上 晶, 吉村長久 編, 医学書院, 東京, 215–220, 2016
19. 宇山紘史, 宮本紀子, 山本庄吾, 藤原雅史, 石田和寛, 栗本康夫 : 糖尿病黄斑浮腫に対するアフリベルセプト硝子体内注射の短期治療成績. *眼科臨床紀要* 9 : 889–893, 2016
20. 広瀬文隆 : 緑内障セミナー : 前眼部OCTによる虹彩形状と隅角開大度の評価. *あたらしい眼科* 34 : 233–234, 2017
21. 広瀬文隆 : 緑内障セミナー : 眼圧変動と眼軸長の変化. *あたらしい眼科* 34 : 389–390, 2017
22. 平見恭彦 : 眼の再生医療. *眼科診療マイスター III, 処置と手術手技*, 飯田知弘, 中澤 徹, 堀 裕一 編, 第一版, メジカルビュー社, 東京, 238–241, 2017

VI. 1. 21 耳鼻咽喉科

1. 船曳和雄, 内藤 泰 : めまい. *Medicina* 53 : 152–155, 2016
2. Karino S, Usami S, Kumakawa K, Takahashi H, Tonoe T, Naito Y, Doi K, Itoh K, Suzuki M, Sakata H, Takumi Y, Iwasaki S, Kakigi A, Yamasoba T : Discrimination of Japanese monosyllables in patients with high-frequency hearing loss. *Auris Nasus Larynx* 43 : 269–280, 2016
3. 内藤 泰 : 残存聴力がない例の人工内耳でも正円窓アプローチによる保存的手術に意味があるか? ENT臨床フロンティア Next 耳鼻咽喉科イノベーション—最新の治療・診断・疾患概念, 小林俊光, 高橋晴雄, 浦野正美 編, 初版, 中山書店, 東京, 86–88, 2016
4. Nakagawa T, Yamamoto M, Kumakawa K, Usami S, Hato N, Tabuchi K, Takahashi M, Fujiwara K, Sasaki A, Komune S, Yamamoto N, Hiraumi H, Sakamoto T, Shimizu A, Ito J : Prognostic impact of salvage treatment on hearing recovery in patients with sudden sensorineural hearing loss refractory to systemic corticosteroids : A retrospective observational study. *Auris Nasus Larynx* 43 : 489–494, 2016
5. Ohno S, Hirano S, Yasumoto A, Ikeda H, Takebayashi S, Miura M : Outcome of regenerative therapy for age-related vocal fold atrophy with basic fibroblast growth factor. *Laryngoscope* 126 : 1844–1848, 2016

6. 藤原敬三, 内藤 泰: 人工聴覚器手術 人工内耳手術 - 内耳奇形の場合 -. *JOHNS* 32: 1285-1290, 2016
7. 内藤 泰: 外リンパ瘻とは - 疾患概念と病態 *Perilympha fistula-diseases concept and pathophysiology*. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 88: 716-720, 2016
8. 竹林慎治, 中平真衣, 谷上由城, 林 泰之, 木村俊哉, 山田光一郎, 暁久美子, 池田浩己, 三浦 誠: 口蓋扁桃摘出術後出血の検討. *耳鼻臨床* 109: 717-722, 2016
9. 内藤 泰: 人工内耳に使用する電極は現在どのように選択しますか? *JOHNS* 32: 1688-1690, 2016
10. 内藤 泰: (どうしました) 耳が突然聞こえなくなった. 朝日新聞, 2016
11. 内藤 泰: 小児人工内耳の大いなる成功と最近のトピックス. *小児耳* 37: 295-299, 2016
12. Naito Y, Moroto S, Yamazaki H, Kishimoto I: Speech and hearing after cochlear implantation in children with inner ear malformation and cochlear nerve deficiency. *Cochlear Implantation in Children with Inner Ear Malformation and Cochlear Nerve Deficiency*, Kaga K, editors, Published by Springer, Singapore, 147-165, 2017
13. 内藤 泰: 小児人工内耳 - 最近の話題. *小児科* 58: 55-62, 2017
14. 内藤 泰, 諸頭三郎: 乳幼児聴力検査. 聴覚検査の実際, 日本聴覚医学会 編, 第4版, 南山堂, 東京, 139-152, 2017
15. Morita S, Fujiwara KS, Fukuda A, Fukuda S, Nishio SY, Kitoh R, Hato N, Ikezono T, Ishikawa K, Kaga K, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Nishizaki K, Ogawa K, Sano H, Sato H, Sone M, Suzuki M, Takahashi H, Tono T, Yamashita H, Yamasoba T, Usami SI: The clinical features and prognosis of mumps-associated hearing loss: a retrospective, multi-institutional investigation in Japan. *Acta Otolaryngol*, 2017. doi: 10.1080/00016489.2017.1290826. [Epub ahead of print]
16. Okada M, Hato N, Nishio SY, Kitoh R, Ogawa K, Kanzaki S, Sone M, Fukuda S, Hara A, Ikezono T, Ishikawa K, Iwasaki S, Kaga K, Kakehata S, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Nakagawa T, Nishizaki K, Noguchi Y, Sano H, Sato H, Suzuki M, Shojaku H, Takahashi H, Takeda H, Tono T, Yamashita H, Yamasoba T, Usami SI: The effect of initial treatment on hearing prognosis in idiopathic sudden sensorineural hearing loss: a nationwide survey in Japan. *Acta Otolaryngol*, 2017. doi: 10.1080/00016489.2017.1296970. [Epub ahead of print]
17. Kuwata F, Shinohara S, Harada H, Kishimoto I, Suehiro A, Fujiwara K, Naito Y: Two cases with an interseptal sinus cell mucocoele: The different mechanisms of the development varying the time of the onset. *Acta Oto-Laryngologica Case Reports* 2: 77-80, 2017

VI. 1. 22 頭頸部外科

1. 竹林慎治, 谷上由城, 中平真衣, 林 泰之, 木村俊哉, 暁久美子, 池田浩己, 三浦 誠: 気管切開術後閉鎖の検討. *日気食* 67: 209-216, 2016
2. Shinohara S, Suehiro A, Kikuchi M, Harada H, Kishimoto I, Imai Y: A case of desmoid tumor co-existing with recurrent squamous cell carcinoma in the larynx. *Auris Nasus Larynx* doi: 10.1016/j.anl.2016.07.006. Epub 2016 Jul 26
3. Shinohara S, Kikuchi M, Harada H, Takebayashi S, Yunoki K, Yamazaki K: The influence of American Society of Anesthesiologists Physical Status on patient morbidity and survival after total thyroidectomy. *Endocrine Journal* 63: 1001-1006, 2016
4. 竹林慎治, 谷上由城, 中平真衣, 林 泰之, 木村俊哉, 山田光一郎, 暁久美子, 池田浩己, 三浦 誠: 急性期病院における嚥下外来受診後死亡症例の検討. *嚥下医学* 5: 214-220, 2016
5. 篠原尚吾, 末廣 篤, 岸本逸平, 原田博之, 林 一樹: 基礎疾患により甲状腺専門病院から紹介のあった甲状腺手術症例の検討. *頭頸部外科* 26: 321-326, 2016
6. 脇坂仁美, 篠原尚吾, 末廣 篤: 原発性副甲状腺機能亢進症の検討 - Focused parathyroidectomyの妥当性について -. *日気食* 68: 26-31, 2017
7. Yamamoto R, Shinohara S, Harada H, Saida K, Hayashi K, Michida T, Takebayashi S, Fujiwara K, Naito Y: Two swallowed dentures found in the hypopharynx and rectum of an elderly Japanese woman simultaneously Case Reports in Clinical Pathology. *Acta Oto-Laryngologica Case Reports* 2: 43-46, 2017

VI. 1. 23 麻酔科

1. 大嶋圭一, 植田浩司, 十河正弥, 松岡亮介, 武田親宗, 柚木一馬, 美馬裕之: 間質性肺炎を背景とした肺嚢胞内出血から重症脳空気塞栓をきたした1例. 日本蘇生学会雑誌 35: 6-9, 2016
2. Yunoki K, Sasaki R, Taguchi A, Maekawa S, Ueta H, Yamazaki K: Successful recovery without any neurological complication after intraoperative cardiopulmonary resuscitation for an extended period of time in the lateral position: a case report. JA Clinical Reports 2: 7, 2016
3. 植田浩司, 山崎和夫: 造影剤によるAKI～患者をとりまく周辺のリスクも鑑みて～. クリティカルケアにおけるAKIの管理. 濱本実也, 道又元裕 編, 総合医学社, 東京, 263-271, 2016
4. 植田浩司, 美馬裕之, 武田親宗, 浅香葉子, 川上大祐, 下藺崇宏, 山崎和夫: 周術期緊張性気胸を合併した頸部血管肉腫の例. 麻酔と蘇生 52: 43-46, 2016
5. 武田親宗, 美馬裕之, 川上大祐, 浅香葉子, 朱 祐珍, 植田浩司, 下藺崇宏, 山崎和夫: ICU入室に関する危険因子の検討. 日集中医誌 23: 306-311, 2016
6. 川上大祐, 瀬尾龍太郎, 須賀将文, 村石真紀夫, 神谷侑画, 園 真廉, 有吉孝一: 携帯型veno venous extracorporeal membrane oxygenationの有用性. 日集中医誌 23: 355-356, 2016
7. Kainuma A, Ihara M, Miyawaki I, Mima H, Koyama T, Yamazaki K: Usefulness of Transesophageal Echocardiography in Guiding Acute Aortic Dissection Management During Open Repair of an Abdominal Aortic Aneurysm. Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia 30: 725-728, 2016
8. 小谷穰治, 東別府直紀, 白井邦博, 上田敬博, 山田太平, 平井康富, 藤崎宣友, 満保直美, 中尾博之, 山田 勇: Acute care surgery (ACS) における栄養管理. Japanese Journal of Acute Care Surgery 6: 37-48, 2016

VI. 1. 24 歯科・歯科口腔外科

1. 薬師寺登, 和田康志, 竹信俊彦, 藤盛真樹, 萩野浩子, 堀江彰久, 山下徹郎: 歯科医療における機能分化と連携-病院歯科口腔外科 未来への切符-. 日本口腔外科学会誌 62: 386-394, 2016
2. 山本信祐, 竹信俊彦, 高地いづみ, 大谷紗織, 平井雄三, 谷池直樹: 結石内部に真菌塊がみられた頬粘膜小唾液腺唾石症の1例. 日本口腔外科学会雑誌 62: 570-574, 2016
3. 谷池直樹, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 首藤敦史, 山本信祐: 交通外傷により多発外傷を併発した小児顎顔面多発骨折の治療経験. 日本口腔顎顔面外傷学会誌 15: 38-43, 2016
4. 首藤敦史, 竹信俊彦, 平井雄三, 山本信祐, 谷池直樹, 宇佐美悠: 下顎歯肉扁平上皮癌と頸部原発悪性リンパ腫の同時性重複がんの1例. 日本口腔外科学会雑誌 63: 45-50, 2017

VI. 1. 25 病理診断科

1. Kanzawa Y, Mizuno Y, Imai Y, Nishioka H: Giant Cell Arteritis with Facial Edema Presenting with Delayed Jugular Venous Flow. Intern Med 55: 2077-2080, 2016
2. Shinohara S, Suehiro A, Kikuchi M, Harada H, Kishimoto, I o Imai Y: A case of desmoid tumor co-existing with recurrent squamous cell carcinoma in the larynx. Auris Nasus Larynx, doi: 10.1016/j.anl.2016.07.006. Epub 2016
3. Sakanoue I, Hamakawa H, Onishi E, Imai Y, Takahashi Y: Giant cell tumor of the rib with direct invasion into the thoracic spine. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2016 May 12. [Epub ahead of print]
4. Matsumoto T, Otsuka K, Imai Y, Tomii K: Bacterial Pericarditis Accompanied by Sudden Cardiac Tamponade After Transbronchial Needle Aspiration Cytology. J Bronchology Interv Pulmonol 23: 155-159, 2016
5. Endo A, Matsuoka R, Mizuno Y, Doi A, Nishioka H: Sequential necrotizing fasciitis caused by the monomicrobial pathogens Streptococcus equisimilis and extended-spectrum beta-lactamase-producing Escherichia coli. J Infect Chemother 22: 563-566, 2016
6. Doi A, Iwata K, Hara S, Imai Y, Hasuike T, Nishioka H: Interstitial nephritis caused by HIV infection by itself: a case report. Int J Gen Med 9: 311-314, 2016
7. Sato Y, Fujimoto D, Uehara K, Shimizu R, Ito J, Kogo M, Teraoka S, Kato R, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Hamakawa H, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K: The prognostic value of serum CA 19-9 for patients with advanced lung adenocarcinoma. BMC Cancer 16: 890, 2016

8. Mizuno K, Inoue T, Kinoshita H, Yano T, Kawanishi H, Kanda H, Terada N, Kobayashi T, Kamba T, Mikami Y, Shiraishi T, Uemura Y, Imai Y, Honjo G, Shirase T, Okumura K, Kawakita M, Ogura K, Sugimura Y, Matsuda T, Ogawa O : Evaluation of predictors of unfavorable pathological features in men eligible for active surveillance using radical prostatectomy specimens : a multi-institutional study. *Jpn J Clin Oncol* 46 : 1156 – 1161, 2016
9. Ito T, Morita S, Shimeno N, Uehara K, Imai Y, Inokuma T : The prospect of endoscopic submucosal dissection for early anal canal squamous cell carcinoma. *Clin J Gastroenterol* 9 : 384 – 388, 2016
10. Ochi Y, Kazuma Y, Hiramoto N, Ono Y, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Imai Y, Hashimoto H, Ishikawa T : Utility of a simple prognostic stratification based on platelet counts and serum albumin levels in elderly patients with diffuse large B cell lymphoma. *Ann Hematol* 96 : 1 – 8, 2017
11. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上朗, 南 和弘, 齋藤伴樹, 高橋 豊, 今井幸弘 : 左下葉気管支粘表皮癌の1例. *気管支学* 39 : 100, 2017
12. 中川嘉宏, 加藤了資, 大塚浩二郎, 伊藤宗洋, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簀智幸政, 富井啓介, 齋藤伴樹, 南 和宏, 大久保祐, 坂之上朗, 浜川博司, 高橋 豊, 今井幸弘 : 異所性甲状腺腫に対するEBUS-TBNAにて血気胸を来した1例. *気管支学* 39 : 99, 2017
13. 森田明子, 丸岡隼人, 田代章人, 尾松雅仁, 井本秀志, 上原慶一郎, 今井幸弘 : 胸水細胞診を契機に早期診断に至ったTリンパ芽球性リンパ腫 (T-LBL) の1例. *日本医学検査学会抄録集* 6 – 1, 238, 2016
14. 石井淳子, 川本未知, 藤原 悟, 船津堯之, 今井幸弘, 奴久妻聡一, 高橋健太, 中道一生, 幸原伸夫 : 全身性エリテマトーデス加療中に頭部MRIで散在性点状T2高信号病変を呈し進行が見られていないPMLの1例. *NEUROINFECTION* 21 : 226, 2016
15. 林 一樹, 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之, 市川千宙, 今井幸弘, 佐竹悠良 : ひとたび寛解したものの9年後に肺転移巣で死の転帰をたどった甲状腺未分化癌の症例. *日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌* 33 : S274, 2016
16. 藪下知宏, 木場悠介, 小野祐一郎, 田端淑恵, 松岡亮介, 今井幸弘, 石川隆之 : DLBCLに対する初回治療終了後早期に発症したサルコイドーシスの一例. *日本リンパ網内系学会誌* 56 : 97, 2016
17. 加藤了資, 竹下純平, 奥田千幸, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之, 松岡亮介, 今井幸弘 : 急激に呼吸状態の悪化を認めた多臓器転移を有する悪性胸膜中皮腫の1剖検例. *肺癌* 56 : 146, 2016
18. 古郷摩利子, 藤本大智, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 加藤了資, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 浜川博司, 小坂恭弘, 高山賢二, 小久保雅樹, 今井幸弘, 高橋 豊, 富井啓介 : 肝臓のoligometastasisに対して化学療法後動体追尾照射を行い病勢コントロールが得られた肺腺癌の1例. *肺癌* 56 : 145, 2016
19. 佐藤悠城, 永田一真, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 加藤了資, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 林 一樹, 篠原尚吾, 今井幸弘 : TBLBで生前診断を得られた舌下腺癌による肺腫瘍源性塞栓性微血管症の剖検例. *肺癌* 56 : 141, 2016
20. 伊藤宗洋, 佐藤悠城, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 加藤了資, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 下村良充, 小坂恭弘, 今井幸弘 : 広範な骨髄浸潤で著しいADL低下をきたした肺扁平上皮癌の1例. *肺癌* 56 : 139, 2016
21. 吉積悠子, 加藤了資, 奥田千幸, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之, 今井幸弘 : 3次治療のカルボプラチン+ナブパクリタキセルが著効した非小細胞肺癌の1例. *肺癌* 56 : 138, 2016
22. 小谷晋平, 大森麻美子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 今井幸弘 : シクロスポリンが著効した毛孔性紅色秕糠疹の1例. *臨床皮膚科* 71 : 216 – 220, 2017
23. 篠崎健太, 味木徹夫, 松本 拓, 村上 冴, 吉田優子, 岡崎太郎, 福本 巧, 上原慶一郎, 具 英成 : 黄色肉芽腫性胆嚢炎に対する胆嚢全摘後の遺残胆嚢癌の1例. *日本消化器外科学会雑誌* 49 : 1108 – 1116, 2016
24. 森田明子, 丸岡隼人, 丹羽欣正, 上野寿行, 加藤大祐, 下村良充, 今井幸弘, 吉岡 聡 : ALK陰性未分化大細胞型リンパ腫との鑑別に苦慮したCD30陽性アグレッシブNK細胞白血病の2症例. *日本検査血液学会雑誌* 18 : 61 – 70, 2017
25. 伊藤卓彦, 占野尚人, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 上原慶一郎, 今井幸弘, 猪熊哲朗 : NBI拡大観察により早期肛門管扁平上皮癌と診断した病変に対しESDを施行した1例. *Gastroenterological Endoscopy* 58 : 1426 – 1431, 2016

VI. 1. 26 放射線治療科

1. 小坂恭弘：塩化ストロンチウム89による骨転移疼痛緩和治療. 日本臨床 74：676-680, 2016
2. Takamiya M, Nakamura M, Akimoto M, Ueki N, Yamada M, Tanabe H, Matsuo Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M, Itoh A : Multivariate analysis for the estimation of target localization errors in fiducial marker-based radiotherapy. Medical Physics 43 : 1907, 2016
3. Mukumoto N, Nakamura M, Yamada M, Takahashi K, Akimoto M, Miyabe Y, Yokota K, Kaneko S, Nakamura A, Itasaka S, Matsuo Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a four-axis moving phantom for patient-specific quality assurance of surrogate signal-based dynamic tumor tracking intensity-modulated radiotherapy. Med Phys 43 : 6364-6374, 2016
4. 岡田卓也, 高山賢二, 小久保雅樹, 河野有香, 松本敬優, 住吉崇幸, 増田憲彦, 白石裕介, 根来宏光, 宇都宮紀明, 常森寛行, 大久保和俊, 清川岳彦, 諸井誠司, 六車光英, 川喜田陸司 : 高リスク前立腺癌に対するネオアジュバント内分秘療法併用外照射放射線療法の治療成績と予後関連因子の検討. 日本泌尿器科学会雑誌 107 : 162-169, 2016
5. Ueki K, Kosaka Y, Kimino G, Imagumbai T, Takayama K, Kokubo M : Treatment of malignant melanoma with nivolumab and vemurafenib combined with hypofractionated radiation therapy. Int Canc Conf J 5 : 214-218, 2016
6. Onimaru R, Onishi H, Shibata T, Hiraoka M, Ishikura S, Karasawa K, Matsuo Y, Kokubo M, Shioyama Y, Matsushita H, Ito Y, Shirato H : Phase I study of stereotactic body radiation therapy for peripheral T2N0M0 non-small cell lung cancer (JCOG0702) : results for the group with PTV ? 100cc. Radiother Oncol 122 : 281-285, 2017
7. Ishihara Y, Nakamura M, Miyabe Y, Mukumoto N, Matsuo Y, Sawada A, Kokubo M, Mizowaki T, Hiraoka M : Development of four-dimensional Monte Carlo dose calculation system for real time tumor-tracking irradiation with a gimbaled X-ray head. Phys Med 35 : 59-65, 2017
8. 小坂博志, 小谷晋平, 大森麻美子, 小川真希子, 長野 徹, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 諏訪達也, 伊藤 仁, 平岡真寛 : 放射線単独療法が有用であったメルケル細胞癌の2例. 皮膚の科学 15 : 17-22, 2016
9. Ogura K, Kosaka Y, Imagumbai T, Ueki K, Narukami R, Hattori T, Kokubo M : Modifying planning target volume in optimization of dose distribution in dynamic conformal arc therapy for large metastatic brain tumors. Jap J Radiol 35 : 335-340, 2017
10. Kimura T, Nagata Y, Harada H, Hayashi S, Matsuo Y, Takanaka T, Kokubo M, Takayama K, Onishi H, Hirakawa K, Shioyama Y, Ehara T : Phase I study of stereotactic body radiation therapy for centrally located stage IA non-small cell lung cancer (JROSG10-1). IJCO, doi : 10.1007/s10147-017-1125-y. [Epub ahead of print]
11. 小久保雅樹 : 治療計画. 外部放射線治療におけるQAシステムガイドライン 2016年版, (公財)日本放射線腫瘍学会, 金原出版, 東京, 2016
12. 小久保雅樹 : 放射線治療計画総論. 放射線治療計画ガイドライン 2016年版, (公財)日本放射線腫瘍学会, 金原出版, 東京, 2016

VI. 1. 27 救急科

1. Ebina M, Inoue A, Atsumi T, Ariyoshi K : Concomitant fat embolism syndrome and pulmonary embolism in a patient with a femoral shaft fracture. Acute Medicine & Surgery 3 : 135-138, 2016
2. Inoue A, Ebina M, Atsumi T, Ariyoshi K : Refractory paroxysmal sympathetic hyperactivity following brain injury in a pregnant woman that dramatically improved after delivery. Acute Medicine & Surgery 3 : 268-271, 2016
3. 朱 祐珍, 東別府直紀 : II 疾患とリハビリテーション栄養, 8. ICU関連筋力低下. 治療を支える疾患別リハビリテーション栄養, 森脇久隆, 大村健二, 若林秀隆 編集, 南江堂, 東京, 2016
4. 水 大介 : Dr. MIZUのマイナーエマージェンシー入門, 第23回「マイナーエマージェンシートリアージ総復習」, Emergency Care 29 : 466-470, 2016
5. Kondo T, Takahashi M, Watanabe S, Ebina M, Mizu D, Ariyoshi K, Asano M, Nagasaki Y, Ueno Y : An autopsy case of zinc chloride poisoning. Legal Medicine 21 : 11-14, 2016
6. 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 富井啓介 : 急性重症呼吸不全に対するECMOの役割. 呼吸と循環 64 : 617-622, 2016

7. 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第1回「敗血症を読み解く」. *Emergency Care* 29 : 674-677, 2016
8. 瀬尾龍太郎：抜管後の換気補助～離脱評価のポイントを比べてみよう～. *呼吸器ケア* 14 : 63-639, 2016
9. 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第2回「心肺蘇生を読み解く」. *Emergency Care* 29 : 776-779, 2016
10. 水 大介 超カンタン !! ERとICUを読み解く 第3回「終末期を読み解く」. *Emergency Care* 29 : 888-891, 2016
11. 有吉孝一：臨時特集 災害医療を振り返って. DMATの意義と今後の課題（私的考察）, *メディカル朝日*, 72-73, 2016
12. 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第4回「ショックを読み解く」. *Emergency Care* 29 : 976-979, 2016
13. Yoshimura H, Matsumoto R, Ueda H, Ariyoshi K, Kawamoto M, Ishii J, Ikeda A, Takahashi R, Kohara N : Status epilepticus in the elderly : Prognostic implications of rhythmic and periodic patterns in electroencephalography and hyperintensities on diffusion-weighted imaging. *Journal of the Neurological Sciences* 370 : 284-289, 2016
14. 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第5回「Airway management（rapid sequence intubation）を読み解く」. *Emergency Care* 29 : 1076-1079, 2016
15. 神谷侑画, 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第6回「脳卒中を読み解く」. *Emergency Care* 29 : 976-979, 2016
16. 須賀将文, 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第7回「ICU再入室・・・を読み解く」. *Emergency Care* 30 : 82-84, 2017
17. 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第8回「救急外来での鎮痛・鎮静（procedural sedation）を読み解く」. *Emergency Care* 30 : 174-178, 2017
18. 有吉孝一：揮発性有機化合物による中毒（シンナーを含む）. 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 総編集, 今日の治療指針 私はこう治療している, 医学書院, 148, 2017
19. 浅香葉子, 渥美生弘, 川上大祐, 是永 章, 有吉孝一：心停止蘇生後患者の長期予後調査. *日本臨床救急医学会雑誌* 19 : 720-724, 2016
20. 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第9回「輸液・輸血戦略を読み解く」. *Emergency Care* 30 : 310-313, 2017
21. 松岡由典, 水 大介：超カンタン !! ERとICUを読み解く 第10回「高齢者を読み解く」. *Emergency Care* 30 : 407-409, 2017
22. 有吉孝一：中毒. 最新ガイドライン準拠, 小児科診断・治療指針, 遠藤文夫 総編集, 中山書店, 東京, 265-269, 2017

VI. 1. 28 総合内科

1. Moriyama Y, Sono Y, Nishioka H : Tuberculous arthritis of the hip with *Staphylococcus aureus* superinfection. *Journal of Infection and Chemotherapy* 22 : 752-754, 2016
2. Ohji G, Doi A, Yamamoto S, Iwata K : Is De-escalation of Antimicrobials Effective? A Systematic Review and Meta-analysis. *International Journal of Infectious Diseases* 49 : 71-79, 2016
3. Mizuno Y, Doi A, Endo A, Nishioka H : *Streptococcus pneumoniae* Meningitis Presenting with Acute Urinary Retention and Emphysematous Cystitis. *Internal Medicine* 55 : 2101-2104, 2016
4. Kanzawa Y, Mizuno Y, Imai Y, Nishioka H : Giant Cell Arteritis with Facial Edema Presenting with Delayed Jugular Venous Flow. *Internal Medicine* 55 : 2077-2080, 2016
5. Doi A, Iwata K, Hara S, Imai Y, Hasuike T, Nishioka H : Interstitial nephritis caused by HIV infection by itself : a case report. *International Journal of General Medicine* 9 : 311-314, 2016
6. Iwata K, Doi A : A qualitative study of infectious diseases fellowships in Japan. *International Journal Medical Education* 7 : 62-68, 2016
7. Shimizu H, Nishioka H : Successful treatment with tocilizumab for refractory scleritis associated with relapsing polychondritis. *Scandinavian Journal of Rheumatology* doi : 10.1080/03009742.2016.1275774. Epub 2017 Jan 25

8. 西岡弘晶, 荒井秀典: 終末期の医療およびケアに関する意識調査. 日本老年医学会雑誌 53: 374-378, 2016
9. 西岡弘晶: 栄養療法としての輸液. レジデントノート増刊 18: 19-25, 2016
10. 西岡弘晶: どのような症状があれば痛風を疑うの? Nutrition Care 9: 916-917, 2016
11. 西岡弘晶: 痛風は足の親指の付け根以外にも痛くなるの? Nutrition Care 9: 918-919, 2016
12. 西岡弘晶: 高尿酸血症に運動療法は有効なの? Nutrition Care 9: 928-929, 2016
13. 土井朝子, 川上大裕, 瀬尾龍太郎: 血液疾患患者の下部消化管穿孔後のCandida腹膜炎. Intensivist 8: 958-962, 2016
14. 蓮池俊和, 是永 章, 瀬尾龍太郎: 水汚染を伴った開放骨折. Intensivist 9: 220-225, 2016

VI. 1. 29 薬剤部

1. Tamaki R, Amano F, Hashida T, Satake H, Yasui H, Tsuji A: The outcome of treatment for patient with Borrmann Type 4 advanced gastric cancer. J Cancer Ther 7: 953-963, 2016
2. Shimizu R, Torii H, Yasuda D, Hiraoka Y, Furukawa Y, Yoshimoto A, Iwakura T, Matsuoka N, Tomii K, Kohara N, Hashida T, Kume N: Comparison of serum lipid management between elderly and non-elderly patients with and without coronary heart disease (CHD). Prev Med Rep 8: 192-198, 2016
3. Tamaki R, Kanai-Mori A, Morishige Y, Koike A, Yanagihara K, Amano F: Effects of 5-fluorouracil, adriamycin and irinotecan on HSC-39, a human scirrhus gastric cancer cell line. Oncol Reports 37: 2366-2374, 2017
4. Øverby A, Murayama SY, Michimae H, Suzuki H, Suzuki M, Serizawa H, Tamura R, Nakamura S, Takahashi S, Nakamura M: Prevalence of Gastric Non-Helicobacter pylori-Helicobacters in Japanese Patients with Gastric Disease. Digestion 95: 61-66, 2017
5. Suetsugu K, Ikesue H, Miyamoto T, Shiratsuchi M, Yamamoto-Taguchi N, Tsuchiya Y, Matsukawa K, Uchida M, Watanabe H, Akashi K, Masuda S: Analysis of the variable factors influencing tacrolimus blood concentration during the switch from continuous intravenous infusion to oral administration after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Int J Hematol 105: 361-368, 2017
6. 杉山有吏子, 池村 舞, 奥貞 智, 岩倉敏夫, 橋田 亨: 1型糖尿病患者における既存持効型インスリンからインスリンデグルデクへの変更による血糖コントロールの評価. 医療薬学 42: 562-568, 2016
7. 金光佳織, 森本茂文, 北田徳昭, 片岡和二郎, 青木卓哉, 吉岡信也, 北 正人, 橋田 亨: 妊婦の風疹抗体価に基づく風疹ワクチン接種推奨の必要性に関する検討. 医療薬学 42: 687-693, 2016
8. 大音三枝子, 薩摩由香里, 稲角利彦, 梅田節子, 李 美於, 橋田 亨: リスクマネジメントを考慮したフェンタニルクエン酸塩舌下錠の安全な使用に向けた運用の構築とその有用性について. 医薬ジャーナル 52: 2111-2119, 2016
9. 池村 舞, 橋田 亨: Pharmacist・Scientistsの育成を目的とした修了課程に基づく研究経験の評価. YAKUGAKU ZASSHI 136: 131-137, 2016
10. 玉木理衣, 村瀬博子, 橋田 亨, 柳原五吉, 小池敦資, 天野富美夫: スキルス胃癌患者から分離・樹立したヒトスキルス胃癌細胞株を用いた5-フルオロウラシル (5-FU) ならびにシスプラチン耐性の評価. 細胞 48: 713-716, 2016
11. 池末裕明, 秦晃二郎, 了戒百合子, 大島俊一, 末次王卓, 渡邊裕之, 増田智先: がん骨転移治療薬デノスマブによる低カルシウム血症の発現時期と危険因子. 臨床薬理の進歩 142-148, 2016
12. 石田 茂, 武田真樹, 尾川理恵, 中島貴史, 池末裕明, 渡邊裕之, 金谷朗子, 江頭伸昭, 増田智先: 集中治療室における注射剤配合変化早見表の作成と有用性の評価. 医療薬学 42: 286-294, 2016
13. 鹿子木成美, 末次王卓, 高田敦史, 池末裕明, 渡邊裕之, 福田未音, 了戒百合子, 金谷朗子, 江頭伸昭, 増田智先: IT支援システムの構築による退院時薬剤情報管理指導の効率化. 日病薬誌 52: 882-886, 2016
14. 武田祐子, 平島正樹, 橋田 亨: 免疫抑制・化学療法によるB型肝炎発症予防における薬剤師の介入効果-化学療法施行時および終了後のフォローアップ体制構築とその評価-. 医療薬学 43: 18-25, 2017
15. 池村 舞: 基礎研究と臨床研究を基盤とした糖尿病患者における有効かつ安全ながん治療法の確立を目指して. Drug Delivery System 32: 70-71, 2017
16. 池末裕明: 悪性新生物の基礎と治療薬. 抗がん薬. 病気とくすり2017. 薬局増刊号 68: 1342-1355, 2017

17. 金剛圭佑, 稲角利彦, 大音三枝子, 北田徳昭, 安藤基純, 李 美於, 橋田 亨: 経口トラマドールを導入オピオイドとした時の疼痛管理状況および副作用発現状況についての後方視的調査. *Palliative Care Research* 1: 108-115, 2017
18. 大谷恭平, 伊藤聡子, 大音三枝子, 鶴谷 茂, 勝又知子, 石丸綾子, 俵 崇記, 松石邦隆, 北村 登: せん妄の予防と治療における薬物療法. *臨床精神薬理* 20: 163-173, 2017
19. 奥中真白, 玉木理衣, 森重雄太, 橋田 亨, 柳原五吉, 小池敦資, 天野富美夫: ヒトスキルス胃癌細胞株HSC-39由来の薬剤耐性変異株の樹立. *細胞* 49: 38-42, 2017
20. 平島正樹: 大腸がん (XELOX±Bev). *がん化学療法 レジメン管理マニュアル*, 濱 敏弘 監修, 青山 剛, 東加奈子, 池末裕明, 川上和宜, 佐藤淳也, 橋本浩伸 編集, 第2版, 医学書院, 東京, 220-227, 2016
21. 平島正樹: 大腸がん (パニツムマップ). *がん化学療法 レジメン管理マニュアル*, 濱 敏弘 監修, 青山 剛, 東加奈子, 池末裕明, 川上和宜, 佐藤淳也, 橋本浩伸 編集, 第2版, 医学書院, 東京, 228-233, 2016
22. 池末裕明: 血液がん. *がん化学療法 レジメン管理マニュアル*, 濱 敏弘 監修, 青山 剛, 東加奈子, 池末裕明, 川上和宜, 佐藤淳也, 橋本浩伸 編集, 第2版, 医学書院, 東京, 409, 2016
23. 池末裕明: デノスマブ. *がん化学療法 レジメン管理マニュアル*, 濱 敏弘 監修, 青山 剛, 東加奈子, 池末裕明, 川上和宜, 佐藤淳也, 橋本浩伸 編集, 第2版, 医学書院, 東京, 466-469, 2016

VI. 1. 30 臨床検査技術部

1. 枋尾人司: 教科書には書いていない採血のコツ12: 血管迷走神経反応 (VVR) の回避法「患者を笑顔に」検査と技術 44: 293, 2016
2. 玉木恵里子, 枋尾人司, 木川雄一郎, 今井幸弘, 黒田真百美, 荒木直子, 登阪貴子, 橋本一樹, 箕輪和士, 加藤大典: 造影超音波検査で化学療法前後のVascularityの変化を評価した乳腺のMyeloid Sarcomaの1例. *日本超音波医学会* 43: 509-514, 2016
3. 枋尾人司, 玉木恵里子, 今井幸弘, 岩崎信広, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 箕輪和士, 猪熊哲朗: ソナゾイド造影超音波で造影剤の残存を認めた血管筋脂肪腫におけるCD68陽性細胞の腫瘍内局在について. *肝臓* 57: 302-304, 2016
4. Tochio H, Tamaki E, Imai Y, Iwasaki N, Minowa K, Chung H, Suginoshta Y, Inokuma T, Kudo M: CD68-Positive Cells in Hepatic Angiomyolipoma. *Oncology DOI*: 10.1159/000451013 December 29, 2016
5. 森田明子: ALK陰性未分化大細胞型リンパ腫との鑑別に苦慮したCD30陽性アグレッシブNK細胞白血病の2症例. *検査血液学会* 18: 61-70, 2017

VI. 1. 31 放射線技術部

1. Shimizu K, Yamamoto S, Matsumoto K, Hino M, Senda M: Image quality and variability for routine diagnostic FDG-PET scans in a Japanese community hospital: current status and possibility of improvement. *Japanese Journal of Radiology* 34: 529-535, 2016

VI. 1. 32 リハビリテーション技術部

1. 大塚脩斗, 坪井大和, 村田峻輔, 澤 龍一, 斎藤 貴, 中村 凌, 伊佐常紀, 海老名葵, 近藤有希, 鳥澤幸太郎, 福田章真, 小野 玲: 地域在住高齢者における包括的なヘルスリテラシーと健康関連Quality of Lifeの関連の検討. *日本健康教育学会* 25: 3-11, 2017

VI. 1. 33 栄養管理部

1. 杉岡ふみ子, 日清医療食品: クックチル&ニュークックチルの使いこなし術を教えます. 私の施設の使いこなし術&人気レシピ (2). *ニュートリションケア* 10: 220-228, 2017

VI. 1. 34 情報企画課

1. 中西寛子, 瀬戸遼馬: 各科で行う処置に関するシステム. *医療情報 医療情報システム編*, 第5版, 篠原出版新社, 東京, 2016
2. 中西寛子: 電子カルテ時代の看護記録. *看護きろくと看護計画*, 2016

VI. 2 西市民病院

VI. 2. 1 消化器内科

1. 三上 栄, 丸尾正幸, 山下幸政, 平川旭人, 星 充, 横出正隆, 植村久尋, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 小野寺正征: 特異的な大腸内視鏡像を呈した糞線虫の1例. *Clinical Parasitology* 27: 9-11, 2016
2. 三上 栄, 山下幸政, 清水誠治, 平川旭人, 横出正隆, 植村久尋, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 小野寺正征: 粘膜下腫瘍様の内視鏡像を呈した粟粒結核の腸病変の1例. *胃と腸* 52: 225-231, 2017
3. 三上 栄, 丸尾正幸, 山下幸政, 星 充, 横出正隆, 植村久尋, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 小野寺正征: 特異的な大腸内視鏡像を呈した糞線虫の1例. *胃と腸* 52: 365-373, 2017
4. 三上 栄, 清水誠治: 図説「胃と腸」所見用語集「偽膜」. *胃と腸* 52: 637, 2017
5. 三上 栄, 清水誠治: 図説「胃と腸」所見用語集「回盲弁開大」. *胃と腸* 52: 657, 2017
6. 三上 栄, 清水誠治: 図説「胃と腸」所見用語集「大腸憩室」. *胃と腸* 52: 671, 2017
7. 三上 栄, 清水誠治: IBDとクロストリジウム感染-IBDを日常診療で診る. 日比紀文, 久松理一 編, 羊土社, 東京, 171-174, 2017
8. Yokode M, Yamashita Y, Zen Y: Biliary intraductal papillary neoplasm with metachronous multiple tumors-true multicentric tumors or intrabiliary dissemination: A case report and review of the literature. *Mol Clin Oncol* 6: 315-320, 2017

VI. 2. 2 呼吸器内科

1. Kamada T, Furuta K, Tomioka H: Drug-induced lung injury associated with combination therapy of daclatasvir and asunaprevir: the first case report. *Respir Investig* 54: 207-210, 2016
2. Kamada T, Furuta K, Tomioka H: Pneumocystis pneumonia associated with human immunodeficiency virus infection without elevated (1→3)- β -D glucan: A case report. *Respir Med Case Reports* 18: 73-75, 2016
3. Tomioka H, Kaneda T, Katsuyama E, Kitaichi M, Moriyama H, Suzuki E: Elemental analysis of occupational granulomatous lung disease by electron probe microanalyzer with wavelength dispersive spectrometer: Two case reports. *Respir Med Case Reports* 18: 66-72, 2016
4. 金子正博: 症候論 S-3 呼吸困難. 内科救急診療指針2016, 一般社団法人日本内科学会 認定医制度審議会 救急委員会 編集, 総合医学社, 東京, 39-46, 2016
5. 金子正博: 症候論 S-4 窒息, その他の上気道閉塞. 内科救急診療指針2016, 一般社団法人日本内科学会 認定医制度審議会 救急委員会 編集, 総合医学社, 東京, 47-51, 2016
6. 小武由紀子, 富岡洋海, 金子正博, 勝山栄治: 柴胡加竜骨牡蛎湯による薬剤性肺炎の一例. *日本胸部臨床* 75: 774-779, 2016
7. Miyamoto E, Kaneko M, Ichimaru S, Hokotachi Y, Amagai T: Upper extremity muscle volume and function as indicators of pre-frailty in older adult patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD). *J Aging Res Clin Practice* 5: 147-154, 2016
8. 富岡洋海: サルコイドーシスとその周辺疾患との関わり: 膠原病. *日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌* 36: 17-20, 2016
9. Kamada T, Yamashita Y, Tomioka H: Acute eosinophilic pneumonia following heat-not-burn cigarette smoking. *Respirology Case Reports* 4: e00190, 2016
10. Oki Y, Kaneko M, Fujimoto Y, Sakai H, Misu S, Mitani Y, Yamaguchi T, Yasuda H, Ishikawa A: Usefulness of the 6-minute walk test as a screening test for pulmonary arterial enlargement in COPD. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 11: 2869-2875, 2016
11. セ 也, 富岡洋海, 山下修司, 金子正博: アダリムマブ投与開始1ヶ月後に発症したレジオネラ肺炎の1例. *日本胸部臨床* 75: 1384-1389, 2016
12. 富岡洋海: 結核治療薬. *Pocket Drugs* 2017, 福井次矢 監修, 小松康宏, 渡邊裕司 編集, 医学書院, 東京, 695-697, 2017

13. Tomioka H, Takada H : Treatment with nintedanib for acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis. *Respirology Case Reports* 5 : e00215, 2017
14. Kamada T, Kaneko M, Tomioka H : Impact of exacerbations on respiratory system impedance measured by a forced oscillation technique in COPD : a prospective observational study. *Int J COPD* 12 : 509–506, 2017
15. Kamada T, Kaneko M, Tomioka H : The relationship between respiratory system impedance and lung function in asthmatics : A prospective observational study. *Respir Physiol Neurobio* 239 : 41–45, 2017
16. Oga T, Taniguchi H, Kita H, Tsuboi T, Tomii K, Ando M, Kojima E, Tomioka H, Taguchi Y, Kaji Y, Maekura R, Hiraga T, Sakai N, Kimura T, Mishima M, Windisch W, Chin K : Validation of the Japanese Severe Respiratory Insufficiency Questionnaire in hypercapnic patients with noninvasive ventilation. *Respir Investig* 55 : 166–172, 2017
17. 富岡洋海, 坂東政司, 吾妻安良太, 小池和彦 : 早期発見・治療をめざす間質性肺炎・肺線維症診療. *Medical Practice* 34 : 524–540, 2017

VI. 2. 3 小児科

1. 安島英裕 : 片頭痛と β 遮断薬. 小児科, 伊藤保彦, 河野陽一, 中西敏雄, 岡部信彦, 高橋孝雄 編集, 金原出版, 東京, 1518–1519, 2016
2. 安島英裕 : 片頭痛とトリプタン系薬. 小児科, 伊藤保彦, 河野陽一, 中西敏雄, 岡部信彦, 高橋孝雄 編集, 金原出版, 東京, 1520–1521, 2016

VI. 2. 4 外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科

1. 姚 思遠, 三上 栄, 三上隆一, 多田陽一郎, 塩津聡一, 池田篤志, 村上哲平, 池田宏国, 原田武尚, 山本満雄 : 若年者の上腸間膜症候群に対して行った単孔式腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術の1例. *日本消化器外科学会雑誌* 49 : 177–184, 2016
2. 竹尾正彦, 茅田洋之, 池田宏国, 原田武尚, 小縣正明, 山本満雄 : Churg-Strauss症候群(好酸球性多発血管炎性肉芽腫症)に肺癌と胃癌を合併した1例. *外科* 78 : 1249–1252, 2016

VI. 2. 5 整形外科

1. 西口 滋, 藤原弘之, 山根逸郎, 吉元孝一, 布施謙三 : 非定型大腿骨骨折を生じた乳癌骨転移の2症例. *中部日本整形外科災害外科学会雑誌* 59 : 161–162, 2016
2. 西口 滋 : 骨粗鬆症は女性の病気か? – 前立腺癌と骨粗鬆症 –. *兵庫県泌尿器科医会会報* 12 : 35–39, 2016
3. Masuda S, Fujibayashi S, Otsuki B, Kimura H, Neo M, Matsuda S : The dural repair using the combination of polyglycolic acid mesh and fibrin glue and postoperative management in spine surgery. *J Orthop Sci* 21 : 586–590, 2016
4. 西口 滋, 梶田崇一郎, 山根逸郎, 藤原弘之, 布施謙三 : 病的に診断された大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折の1例. *中部整災誌* 60 : 203–204, 2017

VI. 2. 6 泌尿器科

1. 中村一郎, 岸田 健, 田中良典, 大和豊子 : II章 背景知識 2下部尿路症状. *がん患者の泌尿器症状の緩和に関するガイドライン2016年版*, 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会 編集, 金原出版, 東京, 22–35, 2016
2. 中村一郎, 後藤たみ : II章 背景知識 7尿路カテーテル管理. *がん患者の泌尿器症状の緩和に関するガイドライン2016年版*, 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会 編集, 金原出版, 東京, 58–63, 2016
3. 中村一郎, 大和豊子 : III章 推奨 3下部尿路症状(頻尿・尿失禁). *がん患者の泌尿器症状の緩和に関するガイドライン2016年版*, 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会 編集, 金原出版, 東京, 79–81, 2016

VI. 2. 7 歯科口腔外科

1. 河合峰雄：巻頭言 有病超高齢社会において本学会が求められること. 有病者歯科医療 25：273, 2016
2. 河合峰雄：有病者歯科の現在. 歯界月報 11：17, 2016

VI. 2. 8 臨床病理科

1. Tomioka H, Kaneda T, Katsuyama E, Kitaichi M, Moriyama H, Suzuki E : Elemental analysis of occupational granulomatous lung disease by electron probe microanalyzer with wavelength dispersive spectrometer : Two case reports. *Respir Med Case Reports* 18 : 66–72, 2016
2. 小武由紀子, 富岡洋海, 金子正博, 勝山栄治 : 柴胡加竜骨牡蛎湯による薬剤性肺炎の1例. *日本胸部臨床* 75 : 774–779, 2016

VI. 2. 9 救急総合診療部

1. 小縣正明：腸管の動きも診たい！消化管エコー－腹部膨満. 特集「症状・症候別エコーを使った診断推論－Point-of-Care超音波－」. *総合診療* 26 : 756–760, 2016

VI. 2. 10 看護部

1. 新田和子：一般常識がない, 通じない新人看護師. *ナースマネジャー*, 2016
2. 嶋村倫子, 左山朋美：効率的な看護記録への取り組み～多職種で共有できる記録を目指して. *看護記録と看護過程*, 2016
3. 大路貴子：分子標的治療を継続するための看護師の関わり *Oncology NURSE*, 2016
4. 大路貴子：ガイドラインを受けた取り組み 市立病院の例：PPEの見直し. 抗がん薬の曝露対策～ガイドライン策定1年後の各施設の取り組み～, *がん看護*, 2016
5. 大路貴子：副作用対策 1. どんな副作用がいつ出るのか. はじめてのがん化学療法看護 カラービジュアルで見てわかる！辻 晃仁 編集, *メディカ出版*, 46–47, 2016
6. 大路貴子：副作用対策 7. 口内炎. はじめてのがん化学療法看護 カラービジュアルで見てわかる！辻 晃仁 編集, *メディカ出版*, 68–70, 2016
7. 新田和子：緩和ケアを行う循環器看護師のメンタルヘルス～患者さんや家族の心とともに自分の心も守ろう. *循環器ナーシング*, 2017
8. 杉原陽子：高齢循環器患者さんの緩和ケア～疾患と身体機能の低下のなかで迎える最期. *循環器ナーシング*, 2017

VI. 2. 11 リハビリテーション技術部

1. Misu S, Asai T, Doi T, Sawa R, Ueda Y, Saito T, Nakamura R, Murata S, Sugimoto T, Yamada M, Ono R : Association between gait abnormality and malnutrition in a community-dwelling elderly population. *Geriatr Gerontol Int*, 2016, in press
2. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Sakamoto H, Iwata K, Chuman Y, Ono R : Pre-fracture nutritional status is predictive of functional status at discharge during the acute phase with hip fracture patients : A multicenter prospective cohort study. *Clin Nutr*, 2016, in press
3. Oki Y, Kaneko M, Fujimoto Y, Sakai H, Misu S, Mitani Y, Yamaguchi T, Yasuda H, Ishikawa A : Usefulness of the 6-minute walk test as a screening test for pulmonary arterial enlargement in COPD. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 11 : 2869–2875, 2016
4. Asai T, Misu S, Sawa R, Doi T, Yamada M : The association between fear of falling and smoothness of lower trunk oscillation in gait varies according to gait speed in community-dwelling older adults. *J Neuroeng Rehabil* 14:5, 2017
5. Mitani Y, Oki Y, Fujimoto Y, Yamaguchi T, Iwata K, Watanabe Y, Takahashi K, Yamada K, Ishikawa A : Relationship between functional independence measure and geriatric nutritional risk index in pneumonia patients in long-term nursing care facilities. *Geriatr Gerontol Int*, 2017, in press
6. 三栖翔吾：時期（場所）による理学療法の特徴：急性期. *高齢者理学療法学*, 島田裕之 編, 第1版, 医歯薬出版, 東京, 68–75, 2017

7. 三栖翔吾：高齢者理学療法の実践－基本編－：高齢者に対する接遇. 高齢者理学療法学, 島田裕之 編, 第1版, 医歯薬出版, 東京, 472-476, 2017

VI. 3 西神戸医療センター

VI. 3. 1 循環器内科

1. 相田健次, 木下美菜子, 佐藤信浩, 吉開友羽子, 山根啓一郎, 吉野直樹, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志, 小山忠明: Raphal cord断裂により急性大動脈弁閉鎖不全症を来した大動脈二尖弁の1例. *Jpn J Med Ultrasonics* 44: 49-54, 2017

VI. 3. 2 内分泌・糖尿内科

1. Sato H, Nagashima K, Ogura M, Sato Y, Tahara Y, Ogura K, Yamano G, Sugizaki K, Fujita N, Tatsuoka H, Usui R, Mukai E, Fujimoto S, Inagaki N: Src regulates insulin secretion and glucose metabolism by influencing subcellular localization of glucokinase in pancreatic β -cells. *J Diabetes Investig* 7: 171-178, 2016
2. Ogura K, Ogura M, Shoji T, Sato Y, Tahara Y, Yamano G, Sato H, Sugizaki K, Fujita N, Tatsuoka H, Usui R, Mukai E, Fujimoto S, Inagaki N, Nagashima K: Oral Administration of Apple Procyanidins Ameliorates Insulin Resistance via Suppression of Pro-Inflammatory Cytokine Expression in Liver of Diabetic ob/ob Mice. *J Agric Food Chem* 64: 8857-8865, 2016
3. Nishi K, Sato Y, Ohno M, Hiraoka Y, Saijo S, Sakamoto J, Chen PM, Morita Y, Matsuda S, Iwasaki K, Sugizaki K, Harada N, Mukumoto Y, Kiyonari H, Furuyama K, Kawaguchi Y, Uemoto S, Kita T, Inagaki N, Kimura T, Nishi E: Nardilysin Is Required for Maintaining Pancreatic β -Cell Function. *Diabetes* 65: 3015-3027, 2016

VI. 3. 3 神経内科

1. 高野 真, 阿部さやか, 榊野智子, 矢野奈央: 尿意のない脳卒中患者の尿意再獲得に対する排尿誘導法の効果の後方視的研究. *Jpn J Rehabil Med* 53: 947-951, 2016
2. Okuda S, Takano S, Ueno M, Hara Y, Chida Y, Ikkaku T, Kanda F, Toda T: Gait analysis of patients with Parkinson's disease using a portable triaxial accelerometer. *Neurology and Clinical Neuroscience* 4: 93-97, 2016

VI. 3. 4 消化器内科

1. 井谷智尚, 瀧本郁久, 井関隼也, 濱田健輔, 荒尾真道, 徳永英里, 鷺尾麻紀子: PTEGカテーテルの自己抜去によって生じた瘻孔狭窄に対する瘻孔確保の工夫. *在宅医療と内視鏡治療* 20: 67-72, 2016
2. 島田友香里, 吉田裕幸, 安達神奈, 井谷智尚, 三村 純, 橋本公夫: びまん浸潤型を呈した低分化型十二指腸癌の1例. *日本消化器内視鏡学会雑誌* 58: 2412-2417, 2016

VI. 3. 5 免疫血液内科

1. 前田(阪上)由可子, 田中康博, 木場悠介, 新里偉咲, 石川隆之: 突然の脾破裂で発症したマントル細胞リンパ腫. *臨床血液* 57: 1018-1025, 2016
2. Tanaka Y, Tanaka A, Hashimoto A, Hayashi K, Shinzato I: Acute Myeloid Leukemia with Basophilic Differentiation Transformed from Myelodysplastic Syndrome. *Case Reports in Hematology* Article ID 4695491, 2017

VI. 3. 6 緩和ケア内科

1. 安藤俊弘: 神経ブロックの効果が持続しない頸肩腕痛に漢方薬が奏効した1症例. *痛みと漢方* 26: 186-188, 2016

VI. 3. 7 精神・神経科

1. Kodama T, Syouji H, Takaki S, Fujimoto H, Ishikawa S, Fukutake M, Taira M, Hashimoto T: Text Messaging for Psychiatric Outpatients: Effect on Help-Seeking and Self-Harming Behaviors. *J Psychosoc Nurs Ment Health Serv* 54: 31-37, 2016

2. Seike K, Hanazawa H, Ohtani T, Takamiya S, Sakuta R, Nakazato M : A questionnaire survey of the type of support required by Yogo teacher to effectively manage students suspected of having an eating disorders. *Biopsychosoc Med* 10 : 15, 2016
3. Seike K, Nakazato M, Hanazawa H, Ohtani T, Niitsu T, Ishikawa S, Ayabe A, Otani R, Kawabe K, Horiuchi F, Takamiya S, Sakuta R : A questionnaire survey regarding the support needed by Yogo teachers to take care of students suspected of having eating disorders (second report). *Biopsychosoc Med* 10 : 28, 2016
4. 永井貞之, 松原康策, 高宮静男, 針谷秀和, 仁紙宏之, 岩田あや, 上月愛瑠, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 田坂佳資, 深谷 隆 : 神経性やせ症制限型における入院時血液検査の異常頻度. *日本小児科学会雑誌* 120 : 594-602, 2016

VI. 3. 8 小児科

1. 田坂佳資, 松原康策, 仁紙宏之, 岩田あや, 磯目賢一, 山本 剛 : 侵襲性*Campylobacter jejuni/coli*感染症 - 2000-2015年における当院9症例報告と日本人症例の文献的検討 -. *感染症学誌* 90 : 297-304, 2016
2. Tasaka K, Matsubara K, Hori M, Nigami H, Iwata A, Isome K, Kawasaki Y, Nagai S : Neurogenic pulmonary edema combined with febrile seizures in early childhood - a report of two cases -. *IDCases* 6 : 90-93, 2016
3. 川崎 悠, 松原康策, 岩田あや, 仁紙宏之 : 馬蹄腎にループス腎炎を発症した男児例. *日児腎誌* 29 : 172-178, 2016
4. Hori M, Yasumi T, Shimodera S, Shibata H, Hiejima E, Oda H, Izawa K, Kawai T, Ishimura M, Nakano N, Shirakawa R, Nishikomori R, Takada H, Morita S, Horiuchi H, Ohara O, Ishii E, Heike T : A CD57⁺ CTL Degranulation assay effectively identifies familial hemophagocytic lymphohistiocytosis type 3 patients. *J Clin Immunol* 37 : 92-99, 2017
5. Tasaka K, Matsubara K, Takamiya S, Ishikawa S, Iwata A, Nigami Y : Long-term follow-up of hospitalized pediatric anorexia nervosa restricting type. *Pediatr Int* doi : 10.1111/ped.13194, 2016
6. Washio K, Fujii S, Kawasaki Y, Nagai S, Hori M, Matsubara K, Hashimoto K, Masaki T : Langerhans cell histiocytosis with molluscum contagiosum : A correlation? *J Dermatol* doi : 10.1111/1346-8138.13734, 2016
7. Matsubara K, Hoshina K, Kondo M, Miyairi I, Yukitake Y, Ito Y, Minami K, Genkawa R : Group B streptococcal disease in infants in the first year of life : a nationwide surveillance study in Japan, 2011 - 2015. *Infection*, 2017 Feb 25 doi : 10.1007/s15010-017-0995-2

VI. 3. 9 皮膚科

1. 川上由香里, 正木太朗, 橋本公二, 錦織千佳子 : 皮膚がんを生じていない色素性乾皮症バリエーション型の1例. *皮膚診療* 38 : 817-820, 2016
2. 関向亜紀子, 正木太朗, 錦織千佳子 : カルボシステイン (ムコダイン®) の貼付試験が陽性であった固定薬疹の1例. *臨床皮膚科* 70 : 1027-1030, 2016
3. 中内恵美, 鷺尾 健, 三木康子, 正木太朗, 錦織千佳子 : カルシフィラキシスの治療に用いたチオ硫酸ナトリウムが奏効したAcquired perforating dermatosisの1例. *皮膚の科学* 15 : 470-475, 2016
4. 川上由香里, 藤井翔太郎, 正木太朗, 田中康博, 堀川達弥 : 全身性エリテマトーデスに伴った多発性皮膚線維腫の1例. *臨床皮膚科* 71 : 49-53, 2017
5. Miki Y, Washio K, Masaki T, Nakata K, Fukunaga A, Nishigori C : A case of eperisone hydrochloride-induced anaphylaxis : A true type I reaction? *Allergol Int* 66 : 152-153, 2017
6. Washio K, Fukunaga A, Onodera M, Hatakeyama M, Taguchi K, Ogura K, Horikawa T, Nishigori C : Clinical characteristics in cholinergic urticaria with palpebral angioedema : report of 15 cases. *J Dermatol Sci* 85 : 135-137, 2017
7. Washio K, Fujii S, Kawasaki Y, Nagai S, Hori M, Matsubara K, Hashimoto K, Masaki T : Langerhans cell histiocytosis with molluscum contagiosum : a correlation? *J Dermatol* 44 : e136-e137, 2017
8. Washio K, Ijuin K, Fukunaga A, Nagai H, Nishigori C : Contact anaphylaxis due to basic blue 99 in hair dye. *Contact Dermatitis*, 2016 in press
9. Fukumoto T, Oka M, Masaki T, Sakaguchi M, Fukunaga A, Norose K, Sarayama Y, Imai H, Nishigori C : Cutaneous Rosai-Dorfman disease associated with uveitis. *Eur J Dermatol* 27 : 85-86, 2017

10. Nakano E, Masaki T, Kanda F, Ono R, Takeuchi S, Moriwaki S, Nishigori C : The present status of xeroderma pigmentosum in Japan and a tentative severity classification scale. *Exp Dermatol* 25 : 28–33, 2016
11. Ono R, Masaki T, Mayca Pozo F, Nakazawa Y, Swagemakers SM, Nakano E, Sakai W, Takeuchi S, Kanda F, Ogi T, van der Spek PJ, Sugawara K, Nishigori C : A 10-year follow-up of a child with mild case of xeroderma pigmentosum complementation group D diagnosed by whole-genome sequencing. *Photodermatol Photoimmunol Photomed* 32 : 174–180, 2016

VI. 3. 10 外科・消化器外科

1. 吉田真也, 石原美佐, 宇山直樹, 小寺澤康文, 住井敦彦, 安川大貴, 松浦正徒, 伊丹 淳, 橋本公夫, 京極高久 : 回腸原発淡明細胞肉腫の1例. *日本消化器外科学会雑誌* 49 : 29–35, 2016
2. 吉田真也, 石井隆道, 小寺澤康文, 松浦正徒, 長井和之, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 橋本公夫, 京極高久 : 保存的治療が可能な門脈ガス血症の臨床的特徴. *日本消化器外科学会雑誌* 49 : 707–713, 2016
3. 小寺澤康文 : 胆嚢捻転症6手術例の検討. *日本腹部救急医学会雑誌* 36 : 813–817, 2016

VI. 3. 11 乳腺外科

1. 奥野敏隆, 吉田真也, 石原美佐, 橋本公夫, 京極高久 : 嚢胞内腫瘍を呈した乳腺葉状腫瘍の1例. *神戸市立病院紀要* 55 : 15–19, 2016
2. Kotake T, Kikawa Y, Takahara S, Tsuyuki S, Yoshibayashi H, Suzuki E, Moriguchi Y, Yamashiro H, Yamagami K, Suwa H, Okuno T, Okamura T, Hashimoto T, Kato H, Tsuji A, Toi M : Impact of Eribulin Monotherapy on Post-Progression Survival in Patients with HER2-Negative Advanced or Metastatic Breast Cancer. *Int J Cancer Res* 3 : 061, 2016
3. Egawa C, Hirokaga K, Takao S, Yamagami K, Miyashita M, Baba M, Ichii S, Konishi M, Kikawa Y, Minohata J, Okuno T, Miyauchi K, Wakita K, Suwa H, Hashimoto T, Nishino M, Matsumoto T, Hidaka T, Konishi Y, Sakoda Y, Miya A, Mitsunobu M, Nishikawa H, Kono S, Kokufu I, Sakita I, Kitatsuji K, Oh K, Miyoshi Y : Risk factors for joint symptoms in postmenopausal Japanese breast cancer patients treated with anastrozole : a prospective multicenter cohort study of patient-reported outcomes. *Int J Clin Oncol* 21 : 262–269, 2016
4. 奥野敏隆 : 2. ソナゾイド造影超音波の基本的知識, E. 乳房超音波フローイメージングとソナゾイド. *乳房ソナゾイド造影超音波診断ガイドブック*, 位藤俊一 編, 南江堂, 東京, 35–39, 2016

VI. 3. 12 呼吸器外科

1. 宮田 亮, 大政 貢, 大竹洋介, 石原美佐, 藤本 遼, 青木 稔 : 悪性腫瘍随伴皮膚筋炎を伴った胸腺癌の1例. *日本肺癌学会誌* 56 : 189–193, 2016
2. 石川浩之, 大政 貢, 藤本 遼, 宮田 亮, 田中里奈, 青木 稔 : 自然気胸発症を契機に発見された先天性気管支閉鎖症の1手術例. *日本呼吸器外科学会誌* 30 : 645–649, 2016
3. 長田駿一, 宮田 亮, 大政 貢, 多田公英, 橋本公夫, 青木 稔 : 肺癌術後の急性期に結核性胸膜炎を発症した1例. *日本呼吸器外科学会誌* 30 : 772–776, 2016
4. Miyata R, Omasa M, Fujimoto R, Ishikawa H, Aoki M : Efficacy of Ramelteon for delirium after lung cancer surgery. *Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery* 24 : 8–12, 2017
5. Fujimoto R, Sato M, Miyata R, Minakata K, Omasa M, Kubo T, Date H : Successful resection of recurrent mediastinal liposarcoma using preoperative evaluation of organ invasion by four-dimensional computed tomography. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 64 : 488–491, 2016
6. Omasa M, Date H, Takamochi K, Suzuki K, Miyata Y, Okada M : Completion lobectomy after radical segmentectomy for pulmonary malignancies. *Asian Cardiovasc Thorac Ann* 24 : 450–454, 2016
7. 大政 貢, 他 (肺癌診療ガイドライン委員) : EBMの手法による肺癌診療ガイドライン2016年版. *日本肺癌学会*, 金原出版, 東京, 2016
8. 大政 貢 : 胸腺上皮性腫瘍に対する術後放射線治療. *縦隔腫瘍治療のコンセンサス, コンセンサス癌治療* 14 : 139–141, 2016

VI. 3. 13 脳神経外科

1. Takeda N, Nishihara M, Harada T, Kidoguchi K, Hashimoto K : Supratentorial extraventricular WHO grade III (anaplastic) ependymoma 17 years after total removal of WHO grade II ependymoma of the fourth ventricle. *Br J Neurosurg* 2016 May 24 : 1 - 3 [Epub ahead of print]
2. Sasayama T, Tanaka K, Mizowaki T, Nagashima H, Nakamizo S, Tanaka H, Nishihara M, Mizukawa K, Hirose T, Itoh T, Kohmura E : Tumor-Associated Macrophages Associate with Cerebrospinal Fluid Interleukin-10 and Survival in Primary Central Nervous System Lymphoma (PCNSL). *Brain Pathol* 26 : 479 - 487, 2016
3. 篠山隆司, 田中一寛, 西原賢在, 長嶋宏明, 甲村英二 : 中枢神経原発悪性リンパ腫診断における髄液マーカーの有用性. *Diagnostic usefulness of the CSF markers in primary central nervous system lymphoma (PCNSL)*. *Neuro-Oncologyの進歩 (Progress in Neuro-Oncology)* 23 : 9 - 15, 2016
4. 西原賢在, 武田直也 : 脳腫瘍の病態と治療. *理学療法MOOK21 がんの理学療法*, 三輪書店, 東京, 16 - 27, 2017
5. Sasayama T, Tanaka K, Mizukawa K, Nishihara M, Kohmura E : Cerebrospinal Fluid Interleukin - 10 (IL - 10) as a Diagnostic Marker in Primary Central Nervous System Lymphoma. *Primary Central Nervous System Lymphoma Pensl : Incidence, Management and Outcomes*, Nova Science Pub Inc, 51 - 66, 2016

VI. 3. 14 整形外科

1. 吉田圭二, 関本善啓, 高矢憲一, 藤原正利 : 両側膝関節感染と胸椎化膿性脊椎炎を同時発症した1例. *中部整災誌* 59 : 343 - 344, 2016
2. Shibata K. R, Matsuda S, Safran MR : Is there a distinct pattern to the acetabular labrum and articular cartilage damage in non-dysplastic hip with instability? *Knee Surg Sports Traumatic Arthrosc*. Published online 01 October 2016 doi : 10.1007/s00167 - 016 - 4342 - 4. Epub 2016 Oct 1.

VI. 3. 15 形成外科

1. 村井信幸, 小熊 孝, 吉武 優, 西尾祐美 : 術後ケロイドを生じた巨趾を伴う合趾症の治療経験. *創傷* 7 : 87 - 91, 2016

VI. 3. 16 産婦人科

1. 山下暢子, 佐原裕美子, 大谷恭平, 登村信之, 酒井理恵, 奥杉ひとみ, 川北かおり, 竹内康人, 近田恵里 : 当院における精神神経疾患合併妊娠の周産期予後 - 向精神薬内服群と非内服群の比較検討 -. *産婦人科の実際* 65 : 325 - 331, 2016
2. 荻野美智, 川北かおり, 橋本公夫, 登村信之, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人 : 異所性妊娠の臨床像を呈した原発性絨毛癌の1例. *産婦人科の進歩* 68 : 381 - 388, 2016
3. 山下暢子, 近田恵里, 竹内康人, 橋本公夫, 登村信之, 奥杉ひとみ, 川北かおり, 佐原裕美子 : 播種性骨髄癌腫症を呈した, 子宮体癌の1例. *産婦人科の進歩* 69 : 13 - 20, 2017

VI. 3. 17 泌尿器科

1. 江村正博, 土橋一成, 清水洋祐, 金丸聰淳, 的場 俊, 伊藤哲之 : ウレアーゼ産生菌による尿路感染に伴う高アンモニア血症から意識障害を発症した1例. *泌尿器科紀要* 62 : 421 - 425, 2016
2. 牧野雄樹, 土橋一成, 清水洋祐, 金丸聰淳, 橋本公夫, 伊藤哲之 : 腎摘術後にリンパ節転移と対側腎癌を認めたACD-Associated RCCの1例. *泌尿器科紀要* 62 : 349 - 353, 2016
3. 伊藤哲之 : これだけは伝えたい! 腎癌手術のコツ 腹腔鏡下根治的腎摘除術 : 経腹膜到達法. *臨床泌尿器科* 70 : 328 - 332, 2016

VI. 3. 18 眼科

1. 三輪裕子, 吉田章子, 三河章子 : Behçet病に合併した壊死性強膜炎の1例. *臨床眼科* 70 : 1389 - 1395, 2016
2. 黒田佳陽, 吉田章子, 三輪裕子, 三河章子 : 硝子体手術後に中心性漿液性脈絡網膜症を発症した2例. *眼科臨床紀要* 9 : 766 - 771, 2016

VI. 3. 19 耳鼻いんこう科

1. Shinomiya H, Ito Y, Kubo M, Yonezawa K, Otsuki N, Iwae S, Inagaki H, Nibu K : Expression of Amphiregulin in Mucoepidermoid Carcinoma of the Major Salivary Glands : A Molecular and Clinicopathological Study. *Human Pathology* 57 : 37-44, 2016
2. Shinomiya H, Yamashita D, Fujita T, Nakano E, Inokuchi G, Hasegawa S, Otsuki N, Nishigori C, Nibu K : Hearing Dysfunction in *Xpa*-Deficient Mice *Front. Aging Neurosci.*, Feb 10 ; 9 : 19, 2017
3. 四宮 瞳, 大月直樹, 山下大介, 四宮弘隆, 手島直則, 江島泰生, 清田尚臣, 佐々木良平, 丹生健一 : 耳下腺癌72例の臨床的検討. *頭頸部癌* 42 : 51-56, 2016
4. Avinçsal MÖ, Hiroshima Y, Shinomiya H, Shinomiya H, Otsuki N, Nibu K : First bite syndrome - An 11-year experience. *Auris Nasus Larynx* Aug 12, 2016
5. Kumoi K, Takahashi T : Hungry bone syndrome after parathyroid carcinoma resection : a case report. *Kobe City Hosp Bull* 55 : 21-25, 2016

VI. 3. 20 歯科口腔外科

1. 岩城 太, 朴 成泰, 市川麻梨子 : 口内法のみにて観血的整復固定術を施行した関節突起基底部骨折の2例. *日本口腔顎顔面外傷学会雑誌* 14 : 102-106, 2016
2. Iwaki F, Amano H, Ohura K : Nicorandil inhibits osteoclast differentiation in vitro. *European Journal of Pharmacology* 793 : 14-20, 2016

VI. 3. 21 臨床検査技術部

1. 山本 剛, 國寶香織, 池町真実 : 見て学ぶ グラム染色の手技と評価 1. グラム染色総論 意義とその解釈・限界を理解する. *MEDICAL TECHNOLOGY* 44 : 444-449, 2016
2. 山本 剛 : 第5章 検査材料. 抗酸菌検査ガイド2016, 日本結核病学会 編, 南江堂, 東京, 29-32, 2016
3. 山本 剛 : 画像診断道場 第14回インフルエンザ罹患後の肺炎 : 起炎菌は? *日本医事新報* 4810 : 7-8, 2016
4. 山本 剛 : 画像診断道場 第26回急性咽頭炎後・肺多発陰影例のグラム染色をどう考えるか? *日本医事新報* 4822 : 5-6, 2016
5. 池町真実, 山本 剛 : *Roseomonas mucosa*の検査法. *Bacterial Infection Note* 16, 1-6, 2016
6. 山本 剛 : クエスチョン3 喀痰培養における目的菌を伝えることによってどのようなメリットがありますか? 感染症の診断って, こんなちょっとしたことで差がついちゃうんですね, 柳原克紀 編, 南江堂, 東京, 7-9, 2017
7. 山本 剛 : 感染対策 To Do リスト 感染情報レポートの作成. *INFECTION CONTROL* 2017年春季増刊, 97-99, 2017
8. 山本 剛 : 感染対策 To Do リスト 薬剤耐性菌の取り組み. *INFECTION CONTROL* 2017年春季増刊, 42-48, 2017
9. 山本 剛 : 検体採取に関する工夫 正しい検査結果は的確な検体採取が大切. *Bio Scan* 2 : 9, 2017
10. 山本 剛 : 第2章 臨床微生物学 a-2 ストレプトコッカス (Genus *Streptococcus*) とエンテロコッカス (Genus *Enterococcus*). 最新臨床検査学講座 臨床微生物学, 松本哲哉 編, 医歯薬出版, 東京, 120-126, 2017
11. 山本 剛 : 第2章 臨床微生物学 b-1 ナイセリア科 (*Neisseriaceae*) とモラクセラ科 (*Moraxellaceae*). 最新臨床検査学講座 臨床微生物学, 松本哲哉 編, 医歯薬出版, 東京, 112-119, 2017
12. 山本 剛 : 第2章 臨床微生物学 g-1 マイコバクテリア科 (*Mycobacteriaceae*), g-2 ノカルジア科 (*Nocardiaceae*), g-3 ツカムレラ科 (*Tsukamurellaceae*). 最新臨床検査学講座 臨床微生物学, 松本哲哉 編, 医歯薬出版, 東京, 197-207, 2017
13. 山本 剛 : 第3章 微生物検査法 B顕微鏡による観察. 最新臨床検査学講座 臨床微生物学, 松本哲哉 編, 医歯薬出版, 東京, 323-330, 2017

VI. 3. 22 リハビリテーション技術部

1. Inoue T, Tanaka T : Pre-fracture Nutritional Status is Predictive of Functional Status at Discharge during the Acute Phase with Hip Fracture Patients : A Multicenter Prospective Cohort Study. *Clinical Nutrition*, 2016, doi : 10.1016/j.clnu.2016.08.021
2. 垣内優芳 : 透析療法中に下肢痛や筋痙攣を認めた症例の運動療法経験. *PTジャーナル* 50 : 1063-1067, 2016
3. 垣内優芳 : 斜面上における片脚立位バランス能力. *登山医学* 36 : 29-33, 2016

VI. 3. 23 臨床工学室

1. 石橋一馬 : CE目線の人工呼吸器選び 新連載 今月のテーマ (第1回) 集中治療室向け人工呼吸器. *呼吸器ケア* 14 : 264-265, 2016
2. 石橋一馬 : CE目線の人工呼吸器選び 今月のテーマ (第2回) どう選ぶ? NPPV. *呼吸器ケア* 14 : 368-369, 2016
3. 石橋一馬 : CE目線の人工呼吸器選び 今月のテーマ (第3回) 一般病棟向け汎用機を選ぶなら. *呼吸器ケア* 14 : 458-459, 2016
4. 石橋一馬 : CE目線の人工呼吸器選び 今月のテーマ (第4回) 家でも安心, 在宅向け人工呼吸器とNPPV. *呼吸器ケア* 14 : 568-569, 2016
5. 石橋一馬 : CE目線の人工呼吸器選び 今月のテーマ (第5回) 最終回 救急室, 救急搬送に最適な人工呼吸器を選ぼう. *呼吸器ケア* 14 : 656-657, 2016
6. 石橋一馬 : Theme 1 原理と構造 ~しくみと効果を比べてみよう~. *呼吸器ケア* 594-598, 2016
7. 石橋一馬 : Theme 2 機器管理 ~操作性と安全性を比べてみよう~. *呼吸器ケア* 599-602, 2016
8. 石橋一馬 : NPPVの取り扱い : 人体のメカニズムから学ぶ臨床工学. 磨田 裕 監修, 大塚将秀, 相嶋一登, 編集, *呼吸治療学*, メジカルビュー社, 東京, 220-230, 2016
9. 石橋一馬 : 呼吸療法と診療記録のあり方を洞察する総括と展望. *日本臨床工学技士会誌* 55 : 54-56, 2016
10. 石橋一馬 : 救急から在宅までとことん使える酸素療法まるごとブック. 石原英樹, 竹川幸恵 編著, 2016年冬季増刊, *メジカルビュー社*, 東京, 110-118, 2016
11. 加藤博史 : 時間外診療への対応の現状と今後の課題 (3) オンコール体制での対応. *Clinical Engineering* 27 : 557-560, 2016
12. 加藤博史 : いのちのエンジニアのはなし-選んでもらえる職業としての取り組み-総括と展望. *日本臨床工学技士会誌* 56 : 66-67, 2016

VI. 4 先端医療センター

VI. 4. 1 総合腫瘍科

1. 真砂勝泰：肺癌Ⅱ【新しい疾患】Meningioma. 病理と臨床 34：380–383, 2016
2. Fujita S, Masago K, Katakami N, Yatabe Y：Transformation to SCLC after Treatment with the ALK Inhibitor Alectinib. *J Thorac Oncol* 11：e67–72, 2016
3. Iwata T, Yoshino I, Yoshida S, Ikeda N, Tsuboi M, Asato Y, Katakami N, Sakamoto K, Yamashita Y, Okami J, Mitsudomi T, Yamashita M, Yokouchi H, Okubo K, Okada M, Takenoyama M, Chida M, Tomii K, Matsuura M, Azuma A, Iwasawa T, Kuwano K, Sakai S, Hiroshima K, Fukuoka J, Yoshimura K, Tada H, Nakagawa K, Nakanishi Y; West Japan Oncology Group：A phase II trial evaluating the efficacy and safety of perioperative pirfenidone for prevention of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis in lung cancer patients undergoing pulmonary resection：West Japan Oncology Group 6711 L (PEOPLE Study). *Respir Res* 17：90, 2016
4. Kuriyama T, Sakai N, Niida N, Sueoka M, Beppu M, Dahmani C, Kojima I, Sakai C, Imamura H, Masago K, Katakami N：Dose reduction in cone-beam CT scanning for intracranial stent deployment before coil embolization of intracranial wide-neck aneurysms. *Interv Neuroradiol* 22：420–425, 2016
5. Takayama K, Atagi S, Imamura F, Tanaka H, Minato K, Harada T, Katakami N, Yokoyama T, Yoshimori K, Takiguchi Y, Hataji O, Takeda Y, Aoe K, Kim YH, Yokota S, Tabeta H, Tomii K, Ohashi Y, Eguchi K, Watanabe K：Quality of life and survival survey of cancer cachexia in advanced non-small cell lung cancer patients-Japan nutrition and QOL survey in patients with advanced non-small cell lung cancer study. *Support Care Cancer* 24：3473–3480, 2016
6. Takayama K, Katakami N, Yokoyama T, Atagi S, Yoshimori K, Kagamu H, Saito H, Takiguchi Y, Aoe K, Koyama A, Komura N, Eguchi K：Anamorelin (ONO-7643) in Japanese patients with non-small cell lung cancer and cachexia：results of a randomized phase 2 trial. *Support Care Cancer* 24：3495–3505, 2016
7. Urata Y, Katakami N, Morita S, Kaji R, Yoshioka H, Seto T, Satouchi M, Iwamoto Y, Kanehara M, Fujimoto D, Ikeda N, Murakami H, Daga H, Oguri T, Goto I, Imamura F, Sugawara S, Saka H, Nogami N, Negoro S, Nakagawa K, Nakanishi Y：Randomized Phase III Study Comparing Gefitinib With Erlotinib in Patients With Previously Treated Advanced Lung Adenocarcinoma：WJOG 5108L. *J Clin Oncol* 34：3248–3257, 2016
8. Tsuyuki S, Senda N, Kanng Y, Yamaguchi A, Yoshiyoshi H, Kikawa Y, Katakami N, Kato H, Hashimoto T, Okuno T, Yamauchi A, Inamoto T：Evaluation of the effect of compression therapy using surgical gloves on nanoparticle albumin-bound paclitaxel-induced peripheral neuropathy：a phase II multicenter study by the Kamigata Breast Cancer Study Group. *Breast Cancer Res Treat* 160：61–67, 2016
9. Nosaki K, Satouchi M, Kurata T, Yoshida T, Okamoto I, Katakami N, Imamura F, Tanaka K, Yamane Y, Yamamoto N, Kato T, Kiura K, Saka H, Yoshioka H, Watanabe K, Mizuno K, Seto T：Re-biopsy status among non-small cell lung cancer patients in Japan：A retrospective study. *Lung Cancer* 101：1–8, 2016
10. Kuriyama T, Sakai N, Beppu M, Sakai C, Imamura H, Kojima I, Masago K, Katakami N：Optimal dilution of contrast medium for quantitating parenchymal blood volume using a flat-panel detector. *J Int Med Res.* 2017 Jan 1 [Epubahead of print]
11. Nanjo S, Arai S, Wang W, Takeuchi S, Yamada T, Hata A, Katakami N, Okada Y, Yano S：MET Copy Number Gain Is Associated with Gefitinib Resistance in Leptomeningeal Carcinomatosis of EGFR-mutant Lung Cancer. *Mol Cancer Ther* 16：506–515, 2017
12. Katakami N, Hida T, Nokihara H, Imamura F, Sakai H, Atagi S, Nishio M, Kashii T, Satouchi M, Helwig C, Watanabe M, Tamura T：Phase I/II study of tecemotide as immunotherapy in Japanese patients with unresectable stage III non-small cell lung cancer. *Lung Cancer* 105：23–30, 2017
13. Hata A, Katakami N, Hattori Y, Tanaka K, Fujita S, Kotani Y, Nishimura T, Imamura F, Yokota S, Satouchi M, Monden K, Otsuka K, Nishiyama A, Tsubouchi K, Kaneda T, Yoshioka H, Morita S, Negoro S：Pemetrexed monotherapy for chemo-naïve elderly (aged ≥ 80) patients with non-squamous non-small cell lung cancer：results from combined analysis of two single arm phase II studies (HANSHIN002 and 003). *Cancer Chemother Pharmacol* 79：689–695, 2017

14. Katakami N, Oda K, Tauchi K, Nakata K, Shinozaki K, Yokota T, Suzuki Y, Narabayashi M, Boku N : Phase IIb, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study of Naldemedine for the Treatment of Opioid-Induced Constipation in Patients with Cancer. *J Clin Oncol* 35 : 1921 – 1928, 2017

VI. 4. 2 血管再生科

1. Omae K, Kanemaru SI, Nakatani E, Kaneda H, Nishimura T, Tona R, Naito Y, Kawamoto A, Fukushima M : Regenerative treatment for tympanic membrane perforation using gelatin sponge with basic fibroblast growth factor. *Auris Nasus Larynx* 44 : 664 – 671, 2017
2. Nakamura T, Koga H, Iwamoto H, Tsutsumi V, Imamura Y, Naitou M, Masuda A, Ikezono Y, Abe M, Wada F, Sakaue T, Ueno T, Ii M, Alev C, Kawamoto A, Asahara T, Torimura T : Ex vivo expansion of circulating CD34 (+) cells enhances the regenerative effect on rat liver cirrhosis. *Mol Ther Methods Clin Dev* 3 : 16025, 2016
3. 藤田靖之, 木下 慎, 川本篤彦 : 慢性重症下肢虚血に対する自家CD34陽性細胞治療. *BIO Clinica A SPECIAL EDITION 成体幹細胞* 31 : 1047 – 1051, 2016
4. Fujita Y, Kawamoto A : Granulocyte colony-stimulating factor in *Therapeutic Angiogenesis*. Edt by Higashi Y and Murohara T, Springer, Singapore, 191 – 216, 2017
5. Ii M, Kawamoto A, Masuda H, Asahara T : Vascular Regeneration Therapy : Endothelial progenitor cell therapy for ischemic diseases in *Regenerative Medicine – from Protocol to Patient. 5. Regenerative Therapies II (Ed3)*. Edt by Steinhoff G. Springer, Netherlands, 35 – 57, 2016

VI. 4. 3 眼科

1. Khor CC, Do T, Jia H, Nakano M, George R, Abu-Amero K, Duvesh R, Chen LJ, Li Z, Nongpiur ME, Perera SA, Qiao C, Wong HT, Sakai H, Barbosa de Melo M, Lee MC, Chan AS, Azhany Y, Dao TL, Ikeda Y, Perez-Grossmann RA, Zarnowski T, Day AC, Jonas JB, Tam PO, Tran TA, Ayub H, Akhtar F, Micheal S, Chew PT, Aljasim LA, Dada T, Luu TT, Awadalla MS, Kitnarong N, Wanichwecharungruang B, Aung YY, Mohamed-Noor J, Vijayan S, Sarangapani S, Husain R, Jap A, Baskaran M, Goh D, Su DH, Wang H, Yong VK, Yip LW, Trinh TB, Makornwattana M, Nguyen TT, Leuenberger EU, Park KH, Wiyogo WA, Kumar RS, Tello C, Kurimoto Y, Thapa SS, Pathanapitoon K, Salmon JF, Sohn YH, Fea A, Ozaki M, Lai JS, Tantisevi V, Khaing CC, Mizoguchi T, Nakano S, Kim CY, Tang G, Fan S, Wu R, Meng H, Nguyen TT, Tran TD, Ueno M, Martinez JM, Ramli N, Aung YM, Reyes RD, Vernon SA, Fang SK, Xie Z, Chen XY, Foo JN, Sim KS, Wong TT, Quek DT, Venkatesh R, Kavitha S, Krishnadas SR, Soumitra N, Shantha B, Lim BA, Ogle J, de Vasconcellos JP, Costa VP, Abe RY, de Souza BB, Sng CC, Aquino MC, Kosior-Jarecka E, Fong GB, Tamanaja VC, Fujita R, Jiang Y, Waseem N, Low S, Pham HN, Al-Shahwan S, Craven ER, Khan MI, Dada R, Mohanty K, Faiq MA, Hewitt AW, Burdon KP, Gan EH, Prutthipongsit A, Patthanathamrongkasem T, Catacutan MA, Felarca IR, Liao CS, Rusmayani E, Istantoro VW, Consolandi G, Pignata G, Lavia C, Rojanapongpun P, Mangkornkanokpong L, Chansangpetch S, Chan JC, Choy BN, Shum JW, Than HM, Oo KT, Han AT, Yong VH, Ng XY, Goh SR, Chong YF, Hibberd ML, Seielstad M, Png E, Dunstan SJ, Chau NV, Bei J, Zeng YX, Karkey A, Basnyat B, Pasutto F, Paoli D, Frezzotti P, Wang JJ, Mitchell P, Fingert JH, Allingham RR, Hauser MA, Lim ST, Chew SH, Ebstein RP, Sakuntabhai A, Park KH, Ahn J, Boland G, Snippe H, Stead R, Quino R, Zaw SN, Lukasik U, Shetty R, Zahari M, Bae HW, Oo NL, Kubota T, Manassakorn A, Ho WL, Dallorto L, Hwang YH, Kiire CA, Kuroda M, Djamal ZE, Peregrino JI, Ghosh A, Jeoung JW, Hoan TS, Srisamran N, Sandragasu T, Set SH, Doan VH, Bhattacharya SS, Ho CL, Tan DT, Sihota R, Loon SC, Mori K, Kinoshita S, Hollander AI, Qamar R, Wang YX, Teo YY, Tai ES, Hartleben-Matkin C, Lozano-Giral D, Saw SM, Cheng CY, Zenteno JC, Pang CP, Bui HT, Hee O, Craig JE, Edward DP, Yonahara M, Neto JM, Guevara-Fujita ML, Xu L, Ritch R, Liza-Sharmini AT, Wong TY, Al-Obeidan S, Do NH, Sundaresan P, Tham CC, Foster PJ, Vijaya L, Tashiro K, Vithana EN, Wang N, Aung T : Genome-wide association study identifies five new susceptibility loci for primary angle closure glaucoma. *Nat Genet* 48 : 556 – 562, 2016
2. Iraha S, Hirami Y, Ota S, Sunagawa GA, Mandai M, Tanihara H, Takahashi M, Kurimoto Y : Efficacy of valproic acid for retinitis pigmentosa patients : a pilot study. *Clin Ophthalmol* 10 : 1375 – 1384, 2016

3. Sugita S, Iwasaki Y, Makabe K, Kamao H, Mandai M, Shiina T, Ogasawara K, Hiram Y, Kurimoto Y, Takahashi M : Successful transplantation of retinal pigment epithelial cells from MHC homozygote iPSCs in MHC-matched models. *Stem Cell Reports* 7 : 635–648, 2016
4. Kamao H, Mandai M, Ohashi W, Hiram Y, Kurimoto Y, Kiryu J, Takahashi M : Evaluation of the surgical device and procedure for extracellular Matrix-Scaffold-Supported human iPSC-Derived retinal pigment epithelium cell sheet transplantation. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 58 : 211–220, 2017
5. Nishida A, Kojima H, Kameda T, Mandai M, Kurimoto Y : Five-year outcomes of pars plana vitrectomy for macular edema associated with branch retinal vein occlusion. *Clinical Ophthalmology* 11 : 369–375, 2017
6. Mandai M, Watanabe A, Kurimoto Y, Hiram Y, Morinaga C, Daimon T, Fujihara M, Akimaru H, Sakai N, Shibata Y, Terada M, Nomiya Y, Tanishima S, Nakamura M, Kamao H, Sugita S, Onishi A, Ito T, Fujita K, Kawamata S, Go MJ, Shinohara C, Hata KI, Sawada M, Yamamoto M, Ohta S, Ohara Y, Yoshida K, Kuwahara J, Kitano Y, Amano N, Umekage M, Kitaoka F, Tanaka A, Okada C, Takasu N, Ogawa S, Yamanaka S, Takahashi M : Autologous induced stem-cell-derived retinal cells for macular degeneration. *N Engl J Med* 376 : 1038–1046, 2017
7. 栗本康夫 : iPS細胞による網膜色素上皮移植. *眼科手術* 29 : 238–242, 2016
8. 平見恭彦 : 再生医療と視覚リハビリテーション. *視覚リハビリテーション* 83 : 29–32, 2016
9. 松崎光博, 広瀬文隆, 山本庄吾, 吉水 聡, 宇山紘史, 藤原雅史, 栗本康夫 : Ex-PRESS®併用濾過手術における術中光干渉断層計の有用性. *あたらしい眼科* 33 : 1053–1056, 2016
10. 松崎光博, 下園正剛, 平見恭彦, 広瀬文隆, 宮本紀子, 西田明弘, 菊地雅史, 栗本康夫 : 急性視神経炎における造影MRI所見と疼痛および視力予後の関連. *臨床眼科* 70 : 1259–1263, 2016
11. 平見恭彦 : iPS細胞. *RETINA Medicine* 5 : 201–202, 2016
12. 平見恭彦, 荒井優気, 高橋政代, 栗本康夫 : 遺伝カウンセリングにより患者の不安が軽減された網膜色素変性の2症例. *臨床眼科* 70 : 1795–1801, 2016
13. 広瀬文隆 : 13. 眼圧検査 1) 眼圧測定法. *眼科検査ガイド*, 根木 昭, 飯田知弘, 近藤峰生, 中村 誠, 山田昌和 編, 第2版, 文光堂, 東京, 431–439, 2016
14. 広瀬文隆 : 13. 眼圧検査 3) 誘発試験. *眼科検査ガイド*, 根木 昭, 飯田知弘, 近藤峰生, 中村 誠, 山田昌和 編, 第2版, 文光堂, 東京, 443–445, 2016
15. 吉水 聡, 栗本康夫 : 隅角鏡による隅角検査. *眼科診療マイスター I 診察と検査*, 飯田知弘, 中澤 徹, 堀 裕一 編, 第1版, メジカルビュー社, 東京, 118–123, 2016
16. 栗本康夫 : iPS細胞による治療の現状. *週刊日本医事新報* 4829 : 39–44, 2016
17. 高木誠二, 平見恭彦, 栗本康夫 : 網膜の再生医療のこれまでと現在. *PHARMASTAGE* 16 : 4–10, 2016
18. 平見恭彦, 高橋政代 : 細胞治療と再生医療. *眼科臨床エキスパート 網膜変性疾患診療のすべて*, 村上 晶, 吉村長久 編, 医学書院, 東京, 215–220, 2016
19. 宇山紘史, 宮本紀子, 山本庄吾, 藤原雅史, 石田和寛, 栗本康夫 : 糖尿病黄斑浮腫に対するアフリバルセプト硝子体内注射の短期治療成績. *眼科臨床紀要* 9 : 889–893, 2016
20. 広瀬文隆 : 緑内障セミナー : 前眼部OCTによる虹彩形状と隅角開大度の評価. *あたらしい眼科* 34 : 233–234, 2017
21. 広瀬文隆 : 緑内障セミナー : 眼圧変動と眼軸長の変化. *あたらしい眼科* 34 : 389–390, 2017
22. 平見恭彦 : 眼の再生医療. *眼科診療マイスター III, 処置と手術手技*, 飯田知弘, 中澤 徹, 堀 裕一 編, 第一版, メジカルビュー社, 東京, 238–241, 2017

VI. 4. 4 耳鼻咽喉科

1. 内藤 泰 : 残存聴力がない例の人工内耳でも正円窓アプローチによる保存的手術に意味があるか? ENT臨床フロンティア Next 耳鼻咽喉科イノベーション-最新の治療・診断・疾患概念, 小林俊光, 高橋晴雄, 浦野正美 編, 初版, 中山書店, 東京, 86–88, 2016
2. 内藤 泰 : 小児人工内耳-最近の話題. *小児科* 58 : 55–62, 2017
3. 内藤 泰, 諸頭三郎 : 乳幼児聴力検査. *聴覚検査の実際*, 日本聴覚医学会 編, 第4版, 南山堂, 東京, 139–152, 2017
4. 船曳和雄, 内藤 泰 : めまい. *Medicina* 53 : 152–155, 2016

5. 藤原敬三, 内藤 泰: 人工聴覚器手術 人工内耳手術 - 内耳奇形の場合 -. *JOHNS* 32:1285-1290, 2016
6. 内藤 泰: リンパ瘻とは - 疾患概念と病態 *Perilymphe fistula-diseases concept and pathophysiology*. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 88:716-720, 2016
7. 内藤 泰: 人工内耳に使用する電極は現在どのように選択しますか? *JOHNS* 32:1688-1690, 2016
8. 内藤 泰: 小児人工内耳の大いなる成功と最近のトピックス. *小児耳* 37:295-299, 2016
9. 内藤 泰: (どうしました) 耳が突然聞こえなくなった. 朝日新聞, 2016
10. Karino S, Usami S, Kumakawa K, Takahashi H, Tonoe T, Naito Y, Doi K, Itoh K, Suzuki M, Sakata H, Takumi Y, Iwasaki S, Kakigi A, Yamasoba T: Discrimination of Japanese monosyllables in patients with high-frequency hearing loss. *Auris Nasus Larynx* 43:269-280, 2016
11. Nakagawa T, Yamamoto M, Kumakawa K, Usami S, Hato N, Tabuchi K, Takahashi M, Fujiwara K, Sasaki A, Komune S, Yamamoto N, Hiraumi H, Sakamoto T, Shimizu A, Ito J: Prognostic impact of salvage treatment on hearing recovery in patients with sudden sensorineural hearing loss refractory to systemic corticosteroids: A retrospective observational study. *Auris Nasus Larynx* 43:489-494, 2016
12. Naito Y, Moroto S, Yamazaki H, Kishimoto I: Speech and hearing after cochlear implantation in children with inner ear malformation and cochlear nerve deficiency. *Cochlear Implantation in Children with Inner Ear Malformation and Cochlear Nerve Deficiency*, Kaga K, editors, Published by Springer, Singapore, 147-165, 2017
13. Yamamoto R, Shinohara S, Harada H, Saida K, Hayashi K, Michida T, Takebayashi S, Fujiwara K, Naito Y: Two swallowed dentures found in the hypopharynx and rectum of an elderly Japanese woman simultaneously Case Reports in Clinical Pathology. *Acta Oto-Laryngologica Case Reports* 2:43-46, 2017
14. Morita S, Fujiwara KS, Fukuda A, Fukuda S, Nishio SY, Kitoh R, Hato N, Ikezono T, Ishikawa K, Kaga K, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Nishizaki K, Ogawa K, Sano H, Sato H, Sone M, Suzuki M, Takahashi H, Tono T, Yamashita H, Yamasoba T, Usami SI: The clinical features and prognosis of mumps-associated hearing loss: a retrospective, multi-institutional investigation in Japan. *Acta Otolaryngol*, 2017. doi:10.1080/00016489.2017.1290826. [Epub ahead of print]
15. Okada M, Hato N, Nishio SY, Kitoh R, Ogawa K, Kanzaki S, Sone M, Fukuda S, Hara A, Ikezono T, Ishikawa K, Iwasaki S, Kaga K, Kakehata S, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Nakagawa T, Nishizaki K, Noguchi Y, Sano H, Sato H, Suzuki M, Shojaku H, Takahashi H, Takeda H, Tono T, Yamashita H, Yamasoba T, Usami SI: The effect of initial treatment on hearing prognosis in idiopathic sudden sensorineural hearing loss: a nationwide survey in Japan. *Acta Otolaryngol*, 2017. doi:10.1080/00016489.2017.1296970. [Epub ahead of print]
16. Kuwata F, Shinohara S, Harada H, Kishimoto I, Suehiro A, Fujiwara K, Naito Y: Two cases with an interseptal sinus cell mucocoele: The different mechanisms of the development varying the time of the onset. *Acta Oto-Laryngologica Case Reports* 2:77-80, 2017

VI. 4. 5 放射線治療科

1. 小坂恭弘: 塩化ストロンチウム89による骨転移疼痛緩和治療. *日本臨床* 74:676-680, 2016
2. Takamiya M, Nakamura M, Akimoto M, Ueki N, Yamada M, Tanabe H, Matsuo Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M, Itoh A: Multivariate analysis for the estimation of target localization errors in fiducial marker-based radiotherapy. *Medical Physics* 43:1907, 2016
3. Mukumoto N, Nakamura M, Yamada M, Takahashi K, Akimoto M, Miyabe Y, Yokota K, Kaneko S, Nakamura A, Itasaka S, Matsuo Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Development of a four-axis moving phantom for patient-specific quality assurance of surrogate signal-based dynamic tumor tracking intensity-modulated radiotherapy. *Med Phys* 43:6364-6374, 2016
4. 岡田卓也, 高山賢二, 小久保雅樹, 河野有香, 松本敬優, 住吉崇幸, 増田憲彦, 白石裕介, 根来宏光, 宇都宮紀明, 常森寛行, 大久保和俊, 清川岳彦, 諸井誠司, 六車光英, 川喜田睦司: 高リスク前立腺癌に対するネオアジュバント内分泌療法併用外照射放射線療法の治療成績と予後関連因子の検討. *日本泌尿器科学会雑誌* 107:162-169, 2016

5. Ueki K, Kosaka Y, Kimino G, Imagumbai T, Takayama K, Kokubo M : Treatment of malignant melanoma with nivolumab and vemurafenib combined with hypofractionated radiation therapy. *Int Canc Conf J* 5 : 214 – 218, 2016
6. Onimaru R, Onishi H, Shibata T, Hiraoka M, Ishikura S, Karasawa K, Matsuo Y, Kokubo M, Shioyama Y, Matsushita H, Ito Y, Shirato H : Phase I study of stereotactic body radiation therapy for peripheral T2N0M0 non-small cell lung cancer (JCOG0702) : results for the group with PTV ? 100cc. *Radiother Oncol* 122 : 281 – 285, 2017
7. Ishihara Y, Nakamura M, Miyabe Y, Mukumoto N, Matsuo Y, Sawada A, Kokubo M, Mizowaki T, Hiraoka M : Development of four-dimensional Monte Carlo dose calculation system for real time tumor-tracking irradiation with a gimbaled X-ray head. *Phys Med* 35 : 59 – 65, 2017
8. 小坂博志, 小谷晋平, 大森麻美子, 小川真希子, 長野 徹, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 諏訪達也, 伊藤 仁, 平岡真寛 : 放射線単独療法が有用であったメルケル細胞癌の2例. *皮膚の科学* 15 : 17 – 22, 2016
9. Ogura K, Kosaka Y, Imagumbai T, Ueki K, Narukami R, Hattori T, Kokubo M : Modifying planning target volume in optimization of dose distribution in dynamic conformal arc therapy for large metastatic brain tumors. *Jap J Radiol* 35 : 335 – 340, 2017
10. Kimura T, Nagata Y, Harada H, Hayashi S, Matsuo Y, Takanaka T, Kokubo M, Takayama K, Onishi H, Hirakawa K, Shioyama Y, Ehara T : Phase I study of stereotactic body radiation therapy for centrally located stage IA non-small cell lung cancer (JROSG10 – 1). *IJCO*, doi : 10.1007/s10147 – 017 – 1125 – y. [Epub ahead of print]
11. 小久保雅樹 : 治療計画. 外部放射線治療におけるQAシステムガイドライン 2016年版, (公財)日本放射線腫瘍学会, 金原出版, 東京, 2016
12. 小久保雅樹 : 放射線治療計画総論. 放射線治療計画ガイドライン 2016年版, (公財)日本放射線腫瘍学会, 金原出版, 東京, 2016

VI. 4. 6 放射線技術科

1. Akamatsu G, Ohnishi A, Aita K, Nishida H, Ikari Y, Sasaki M, Kohara N, Senda M : A revisit to quantitative PET with ¹⁸F – FDOPA of high specific activity using a high-resolution condition in view of application to regenerative therapy. *Ann Nucl Med* 31 : 163 – 171, 2017
2. Ikari Y, Akamatsu G, Nishio T, Ishii K, Ito K, Iwatsubo T, Senda M : Phantom criteria for qualification of brain FDG and amyloid PET across different cameras. *EJNMMI physics* 3 : 23, 2016
3. Akamatsu G, Ikari Y, Ohnishi A, Nishida H, Aita K, Sasaki M, Yamamoto Y, Sasaki M, Senda M : Automated PET-only quantification of amyloid deposition with adaptive template and empirically pre-defined ROI. *Phys Med Biol* 61 : 5768 – 5780, 2016
4. Ohnishi A, Senda M, Yamane T, Mikami T, Nishida H, Nishio T, Akamatsu G, Ikari Y, Kimoto S, Aita K, Sasaki M, Shinkawa H, Yamamoto Y, Shukuri M, Mawatari A, Doi H, Watanabe Y, Onoe H : Exploratory human PET study of the effectiveness of 11C-ketoprofen methyl ester, a potential biomarker of neuroinflammatory processes in Alzheimer's disease. *Nucl Med Biol* 43 : 438 – 444, 2016
5. Takeshita T, Morita K, Tsutsui Y, Kidera D, Mikasa S, Maebatake A, Akamatsu G, Miwa K, Baba S, Sasaki M : The influence of respiratory motion on the cumulative SUV-volume histogram and fractal analyses of intratumoral heterogeneity in PET/CT imaging. *Ann Nucl Med* 30 : 393 – 399, 2016

VII. 学 会 報 告

Ⅶ. 学 会 報 告

Ⅶ. 1 中央市民病院

Ⅶ. 1. 1 循環器内科

1. Kitai T, Kaji S, Ohnishi A, Akamatsu G, Murai R, Koyama T, Senda M, Furukawa Y: Risk Prediction Using 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography (FDG-PET) in Patients with Acute Aortic Intramural Hematoma. ACC. 16 65th Annual Scientific Session & Expo, Chicago, I 1, 2016. 4. 2 - 4
2. 小堀敦志: 関西から世界へ発信! KPAF研究~UNDER-ATP試験の読み方~. 関西不整脈セミナー~for the Next Generation~, 大阪, 2016. 4. 16
3. 石橋健太: 胸骨骨折後に心不全を発症した1例. 第16回BACCHUS, 大阪, 2016. 4. 16
4. 加地修一郎: 内科医が知っておくべき大動脈疾患の診断と治療. 垂水区医師会学術講演会, 神戸, 2016. 5. 12
5. 小堀敦志: 心房細動の治療と実践管理. 第29回北区心臓の会, 神戸, 2016. 5. 17
6. 加地修一郎: 日常臨床における心臓MRI ~臨床にどう役立てるか~. 第19回垂水循環器連携カンファレンス, 神戸, 2016. 5. 19
7. 山根崇史: 当院における循環器救急の現状と取り組み. 神戸循環器疾患治療セミナー, 神戸, 2016. 5. 21
8. 古川 裕: 循環器疾患のバイオマーカー~有用性と限界~. シスメックス循環器セミナーin大阪, 大阪, 2016. 5. 26
9. 宮本淳子, 太田光彦, 紺田利子, 角田敏明, 谷 知子, 加地修一郎, 古川 裕: 経胸壁心エコー図による左室内腔計測部位の検討: 従来法と最新ガイドライン法との対比. 日本超音波医学会第89回学術集会, 京都, 2016. 5. 27-29
10. 石橋健太, 太田光彦, 堀 香菜, 大畑淳子, 野村菜美子, 野本奈津美, 菅沼直生子, 紺田利子, 角田敏明, 江原夏彦, 谷 知子, 古川 裕: 経皮的僧帽弁交連裂開術の術後急性期の治療効果判定に運動負荷エコーが有用であった僧帽弁狭窄症の1例. 第83回神戸臨床心エコー図研究会, 神戸, 2016. 6. 4
11. 松本 讓: CT122偶然発見された左房内腫瘍の1例. 大阪木曜カンファレンス, 大阪, 2016. 6. 9
12. 古川 裕: 大動脈狭窄症の治療に関する最近の話題~当院でのTAVIの現状も含めて~. 中之島循環器フォーラム, 大阪, 2016. 6. 9
13. 古川 裕: PCIにおける抗血栓治療: ガイドラインと診療実態. 神戸市医師会学術講演会, 神戸, 2016. 6. 11
14. 太田光彦: 経食道心エコー図によるTAVI術中ガイドと合併症診断. KTAVI, 大阪, 2016. 6. 17
15. 加地修一郎, 金 基泰, 笠本 学, 村井亮介, 山根崇史, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕: 急性心筋梗塞後の虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対してレニンアンジオテンシン阻害薬は有効か? 第25回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2016, 東京, 2016. 7. 7 - 9
16. 古川 裕: 心房細動に対する抗凝固治療: 未解決問題に関する考察. Anticoagulant Forum in Awaji, 洲本, 2016. 7. 9
17. 小堀敦志: 心房細動のトータルマネージメント. 第2回関西心エコーリサーチクラブ, 神戸, 2016. 7. 9
18. Kobori A, Sasaki Y, Matsumoto Y, Ishizu K, Nakashima M, Ishibashi K, Murai R, Ota M, Kim K, Yamane T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Durability of Pulmonary Vein Isolation by Various Kind of Ablation Catheter. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 14-17
19. Kobori A: ATP/adenosine-guided PVI improves the outcome. PVIにATPは有用か? 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 14-17
20. Sasaki Y, Kobori A, Furukawa Y: Relationship Between Esophagus Temperature And Esophagus Injury During Cryoballoon Ablation For Atrial Fibrillation. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 14-17
21. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 坂地一朗, 古川 裕: クライオバルーンアブレーションにおける横隔神経刺激ペーシング出力についての検討. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 14-17
22. 田中雄己, 小堀敦志, 佐々木康博, 中村悟士, 中農陽介, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 坂地一朗, 古川 裕: Cryoballoon ablation後の再伝導肺静脈と治療状況の調査. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 14-17

23. 山城悠葵, 小堀敦志, 佐々木康博, 中村悟士, 中農陽介, 杉澤朋弥, 田中雄己, 坂地一朗, 古川 裕: 造影剤を使用せず心房細動アブレーションを施行した1例. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 14-17
24. Kurotobi T, Okada T, Kaitani K, Kobori A, Toyota T, Morimoto T, Togashi K, Kimura T, Shizuta S: Silent Cerebral Infarction and Anticoagulation in Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: From the Kansai Plus Atrial Fibrillation Study. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 14-17
25. 松本 讓, 金 基泰, 小堀敦志, 石津賢一, 石橋健太, 中嶋正貴, 村井亮介, 佐々木康博, 太田光彦, 山根崇史, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 左室病変を伴った不整脈源性右室心筋症の1例. 第121回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2016. 7. 16
26. 小泉滋樹, 吉田一史, 西矢健太, 福永直人, 松田靖弘, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明, 太田光彦, 石津賢一: 診断に苦慮した僧帽弁輪石灰化病変への感染による感染性心内膜炎の一手術症例. 第121回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2016. 7. 16
27. 古川 裕: 心臓リハビリテーション適応患者の二次予防における薬物治療. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
28. 福岡長知, 代田浩之, 島田和典, 長山雅俊, 横山美帆, 安達 仁, 及川恵子, 上月正博, 下川宏明, 折口秀樹, 井澤英夫, 池亀俊美, 甲斐久史, 古川 裕, 西崎真里, 三浦伸一郎: 日本心臓リハビリテーション学会レジストレーションシステム: 中間報告と今後の展望. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
29. 西原浩真, 岩田健太郎, 坂本裕規, 前川俊雄, 山根崇史, 古川 裕: CCU専従理学療法士配置後の多職種連携による急性期心臓リハビリテーション. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
30. 川内ななみ, 岩田健太郎, 井澤和夫, 坂本裕規, 田内都子, 小寺 睦, 中垣美優, 蔵谷鷹大, 尾畑貴昭, 小谷将太, 廣瀬正和, 原田惇平, 南本陽菜, 前川利雄, 中村 健, 山根崇史, 古川 裕: 慢性腎不全患者における心臓外科手術後の転帰に影響する関連要因について明らかにする. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
31. 坂本裕規, 岩田健太郎, 井澤和夫, 田内都子, 小寺 睦, 中垣美優, 川内みなみ, 蔵谷鷹大, 尾畑貴昭, 小谷将太, 廣瀬正和, 原田惇平, 南本陽菜, 前川利雄, 中村 健, 山根崇史, 古川 裕: 心臓血管外科術前および術後の骨格筋量と筋力はどのように変化するか? 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
32. 石原可菜, 藤本和美, 仲村直子, 長尾幸恵, 村井亮介, 山根崇史, 古川 裕: 退院後の生活調整が困難な成人期の初発心不全患者への看護~外来心臓リハビリテーションでの関わり~. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
33. 小寺 睦, 岩田健太郎, 井澤和夫, 坂本裕規, 藤本和美, 仲村直子, 小椋由美子, 山根崇史, 古川 裕: 自己管理不足により入退院を繰り返した慢性心不全患者に対する双方向教育についての検討. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
34. 宮本千絵, 岩田健太郎, 井澤和夫, 小林正樹, 坂本裕規, 中垣美優, 山根崇史, 古川 裕: 重症心疾患患者に対する作業療法の介入が有効であった1例. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
35. 藤本和美, 仲村直子, 小椋由美子, 村井亮介, 山根崇史, 古川 裕: 外来心リハにおける身体活動量計を用いた患者教育の検討. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
36. 堀田 怜: 腎不全合併心不全におけるサムスカの使用経験からの考察. 心不全セミナーin神戸, 神戸, 2016. 7. 29
37. 村井亮介: ACS患者に対して難渋したPCI治療の症例. 第2回Domestic PCI Symposium in Hyogo, 神戸, 2016. 8. 4
38. 小泉滋樹, 江原夏彦, 金 基泰, 太田光彦, 石津賢一, 西矢健太, 古川 裕, 坂田隆造, 小山英明: 術後左室流出路へ大きくずれ込んだSapien Valveに対してValve-in- Valve TF-TAVIを試みたが, 術中1st valveが左室内へ脱落し, 開心術を行った1例. 第7回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 JTVT2016, 大阪, 2016. 8. 11

39. Taniguchi T, Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T: Incidence of heart failure hospitalization in patients with ST-segment elevation myocardial infarction who underwent primary percutaneous coronary intervention. ESC Congress 2016, Rome, Italy, 2016. 8 .27-31
40. Kobori A, Sasaki Y, Matsumoto Y, Ishizu K, Nakashima M, Ishibashi K, Murai R, Ota M, Kim K, Yamane T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Durability of pulmonary vein isolation by various kind of ablation catheter. ESC Congress 2016, Rome, Italy, 2016. 8 .27-31
41. Kim K: Successful transcatheter aortic valve implantation in a patient after apico-aortic conduit surgery for severe aortic stenosis complicated by hemolytic anemia. ESC Congress 2016, Rome, Italy, 2016. 8 .27-31
42. Natsuaki M, Morimoto T, Fukukawa Y, Kimura T: Short versus prolonged dual antiplatelet therapy duration after bare-metal stent implantation : 2-month landmark analysis from the Credo-Kyoto registry cohort-2. ESC Congress 2016, Rome, Italy, 2016. 8 .27-31
43. Ando K, Kanda S, Miura F, Ashikaga K, Ehara N, Sakai Y, Adachi K, Furukawa T, Yoshimura H: Implant success and complication rates of left ventricular bipolar and quadripolar leads. ESC Congress 2016, Rome, Italy, 2016. 8 .27-31
44. Torii S, Matsue Y, Suzuki M, Yamaguchi S, Fukamizu S, Ono Y, Fujii H, Ktai T, Nishioka T, Sugi K, Noda M, Kagiya N, Satoh Y, Yoshida K, S.R. Goldsmith: The relationship between dyspnea relief and prognosis in patients with acute heart failure- insights from AQUAMARINE study. ESC Congress 2016, Rome, Italy, 2016. 8 .27-31
45. 古川 裕：海外Update, 抗血小板薬の最新情報を参考に, 国内製造販売後の開発戦略について. Plasugrel Japanese Advisory Meeting, Rome, Italy, 2016. 8 .30
46. 古川 裕：心不全のバイオマーカー～BNP/NT-proBNPの相違と今後の展望. 循環器疾患病診連携研究会, 神戸, 2016. 9 .14
47. 古川 裕：心房細動に対する抗凝固治療：UPDATE. 第116回内科医会講演会, 神戸, 2016. 9 .20
48. 金 基泰, 江原 夏彦, 村井亮介, 太田光彦, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕：大動脈弁狭窄症に対する Apico-aortic conduit手術後, 溶血性貧血による心不全を発症し経カテーテル大動脈弁置換術を施行した1例. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016. 9 .23-25
49. 村井亮介, 加地修一郎, 太田光彦, 金 基泰, 古川 裕：感染性心内膜炎患者における脳微小出血の臨床的特徴とその意義について. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016. 9 .23-25
50. 石橋健太, 太田光彦, 村井亮介, 金 基泰, 加地修一郎, 古川 裕：胸骨骨折を契機に右心不全を発症した多発性骨髄腫の1例. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016. 9 .23-25
51. 夜久英憲, 塩見紘樹, 森本 剛, 山下侑吾, 古川 裕, 中川義久, 安藤猷児, 門田一繁, 阿部 充, 長央和也, 静田 聡, 尾野 亘, 木村 剛：ST上昇型急性心筋梗塞と非ST上昇型急性心筋梗塞の短期及び長期予後と死因の比較. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016. 9 .23-25
52. 山下侑吾, 森本 剛, 古川 裕, 中川義久, 木村 剛：ST上昇型急性心筋梗塞患者における経橈骨と経大腿アプローチによる患者背景とアウトカムの比較：CREDO-Kyoto AMI Registry. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016. 9 .23-25
53. 小堀敦志：不整脈治療最前線. 心房細動患者を地域でまもる～わがまちの医療連携～, 神戸, 2016. 9 .29
54. 石津賢一：心嚢穿刺後に急激に血行動態が破綻し, 高度右心不全に至った1例. 第20回日本心不全学会学術集会, 札幌, 2016.10. 7-9
55. 仲村直子, 山根崇史, 古川 裕：地域基幹病院における心不全診療の実態～地域連携の課題～. 第20回日本心不全学会学術集会, 札幌, 2016.10. 7-9
56. 太田光彦：弁膜症に対する運動負荷 適応と判定. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション2016, 京都, 2016.10. 7-8
57. 安積佑太, 江原夏彦, 堀田 怜, 石津賢一, 松本 譲, 石橋健太, 中嶋正貴, 村井亮介, 佐々木康博, 太田光彦, 金 基泰, 山根崇史, 小堀敦志, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕, 小山忠明：大動脈弁狭窄症に対してTF-TAVIを施行し塞栓による冠動脈閉塞を呈した1例. 第27回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 豊中, 2016.10. 8
58. 古川 裕：PCSK9阻害薬アリロクマブの開発経緯と, その特性. KOBE Total Vascular Management Conference, 神戸, 2016.10.12

59. 山根崇史：脂質低下療法の現状と今後～レパーサに期待すること～. 第9回神戸循環器ミニレクチャー, 神戸, 2016.10.13
60. 加地修一郎：心臓MRIと心臓CTを臨床にどう活かすか～最新の話～. Cardiovascular Imaging Conference, 名古屋, 2016.10.13
61. 中嶋正貴：Semi-Rigid Bandを用いた僧帽弁形成術における弁輪形態と弁機能の変化に関する検討. 第7回日本心臓弁膜症学会, 札幌, 2016.10.21-22
62. 石橋健太：経皮的僧帽弁交連裂開術の術後急性期の治療効果判定に運動負荷心エコー図検査が有用であった僧帽弁狭窄症の1例. 第7回日本心臓弁膜症学会, 札幌, 2016.10.21-22
63. 小堀敦志：バルーンアブレーション（クライオとホットバルーン）. 日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2016, 福岡, 2016.10.27-29
64. 佐々木康博, 小堀敦志, 松本 譲：クライオバルーンアブレーション後のEarly recurrenceとLate recurrenceとの関連性の検討. 日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2016, 福岡, 2016.10.27-29
65. 佐藤 純, 小堀敦志, 相原雅士, 中村悟士, 中農陽介, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 田中雄己, 坂地一朗, 佐々木康博, 古川 裕：クライオアブレーションにてCMAP減高を伴わずに横隔神経麻痺を認めた1例. 日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2016, 福岡, 2016.10.27-29
66. 山本 駿, 太田光彦, 紺田利子, 角田敏明, 菅沼直生子, 野本奈津美, 大畑淳子, 谷 知子, 加地修一郎, 古川 裕：消化官の解剖学的位置異常の診断に経胸壁心エコー図検査が有用であった1例. 日本超音波医学会第43回関西地方学術集会, 大阪, 2016.10.29
67. 山根崇史：甘く見ない！抗血小板薬とスタチン. CADET 12th, 東京, 2016.10.29
68. 古川 裕：NT-proBNP使用法と今後の展望. ロシユ循環器セミナーin神戸, 神戸, 2016.11. 3
69. 小堀敦志：高齢者の心房細動管理について. 心房細動治療セミナーin長田・兵庫, 神戸, 2016.11. 9
70. 古川 裕：心房細動に対する抗凝固治療～未解決問題に関する考察～. 三田市循環器疾患懇話会, 神戸, 2016.11. 9
71. 古川 裕：心房細動に対する抗凝固治療：DOAC普及後の実地臨床の現状. 抗血栓治療セミナー, 神戸, 2016.11.10
72. Ishibashi K, Yamane T, Murai R, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Impact of Late Onset Worsening Renal Function on Outcomes in Patients With Acute Decompensated Heart Failure. Scientific Sessions of the American Heart Association 2016, New Orleans, LA, 2016.11.12-16
73. Nakashima M, Kaji S, Murai R, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Yamane T, Kitai T, Kobori A, Kinoshita M, Furukawa F: Beta-blocker Therapy Reduces Adverse Aorta-Related Events in Patients With Type B Acute Aortic Intramural Hematoma. Scientific Sessions of the American Heart Association 2016, New Orleans, LA, 2016.11.12-16
74. Nakashima M, Kaji S, Murai R, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Yamane T, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa F: Detection of Micro Intimal Tear at a Very Early Stage in Patients With Acute Aortic Intramural Hematoma. Scientific Sessions of the American Heart Association 2016, New Orleans, LA, 2016.11.12-16
75. Yamamuro A, Tamita K, Yoshikawa J, Kaji S, Furukawa Y: Assessment of Both Coronary Microvascular Damage and Epicardial Flow Velocity Measurement Immediately After Successful Percutaneous Coronary Intervention Predicts In-Hospital Complications and Survival in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction. Scientific Sessions of the American Heart Association 2016, New Orleans, LA, 2016.11.12-16
76. 古川 裕：循環器バイオマーカー最新知見. 循環器セミナー, 神戸, 2016.11.13
77. 小堀敦志：心房細動のテーラーメイド治療～こんな心房細動に対してどのように対処しますか!?!～神戸臨床トータルケアミーティング, 神戸, 2016.11.17
78. 江原夏彦：冠動脈瘤に合併したSTEMIの1例. 第2回PAC Session 1, 京都, 2016.11.18
79. 古川 裕：心房細動の抗凝固治療における課題と展望. 加賀市医師会学術講演会, 加賀, 2016.11.18
80. 小堀敦志：カテーテルアブレーションの最前線. KNCC, 京都, 2016.11.19
81. 金 基泰, 江原夏彦, 堀田 怜, 安積佑太, 石津賢一, 松本 譲, 石橋健太, 中嶋正貴, 村井亮介, 佐々木康博, 太田光彦, 山根崇史, 小堀敦志, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕, 小山忠明：Apico-aortic conduit手術後の溶血性貧血による心不全に対して経カテーテル大動脈弁置換術を施行した1例. 第122回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2016.11.26

82. 石津賢一：STEMIで発症した非細菌性血栓性心内膜炎（NBTE）の1例。天神京循環器セミナー2016，大阪，2016.11.26
83. 太田光彦：初心者でもわかる！心エコーブートキャンプTTEの基本と応用。第11回東京ハートラボ，東京，2016.12.3
84. 古川 裕：心房細動の薬物治療：高齢者における治療を中心に。Pharmacist Seminar～高齢者の薬物治療を考える～，神戸2016.12.8
85. 山根崇史：癌合併VTE～循環器内科の立場から～。神戸VTEセミナー，神戸，2016.12.8
86. 石橋健太：Impact of Late Onset Worsening Renal Function on Outcomes in Patients With Acute Decompensated Heart Failure. 第8回KCGH Form，神戸，2016.12.17
87. 小堀敦志：高齢化社会における心房細動治療。Daiichi Sankyo Oral Anticoagulant Forum，神戸，2016.12.22
88. 金 基泰，江原夏彦，堀田 玲，安積佑太，松本 讓，石津賢一，中嶋正貴，石橋健太，村井亮介，太田光彦，佐々木康博，山根崇史，小堀敦志，木下 慎，加地修一郎，小山忠明，古川 裕：大動脈弁狭窄症に対するApico-aortic conduit手術後，溶血性貧血による心不全を発症し，経カテーテル大動脈弁置換術を施行した1例。第15回京都心血管疾患フォーラム，京都，2017.1.7
89. 太田光彦，中嶋正貴，村井亮介，佐々木康博，金 基泰，山根崇史，北井 豪，江原夏彦，小堀敦志，木下 慎，加地修一郎，古川 裕，小山忠明：Semi-rigid bandを用いた僧帽弁形成術における弁輪形態と弁機能の変化に関する検討。第15回京都心血管疾患フォーラム，京都，2017.1.7
90. 堀田 玲，江原夏彦，金 基泰，安積佑太，松本 讓，石津賢一，中嶋正貴，石橋健太，村井亮介，太田光彦，佐々木康博，山根崇史，小堀敦志，木下 慎，加地修一郎，小山忠明，古川 裕：大動脈弁狭窄症に対するApico-aortic conduit手術後，溶血性貧血による心不全を発症し，経カテーテル大動脈弁置換術を施行した1例。第43回ベイエリアハートカンファレンス，大阪，2017.1.14
91. 小堀敦志：EnSite Automap Moduleの活用法～冷凍アブレーションの実際。Meet The Experts in Osaka，大阪，2017.1.21
92. 佐々木康博：クライオバルーン肺静脈隔離におけるアデノシン投与の心房細動カテーテルアブレーション治療への効果。第21回京都大学 関西心不全と不整脈カンファレンス，大阪，2017.1.28
93. 小堀敦志：高齢化社会における心房細動治療。心房細動トータルマネジメントin 南京都～心房細動とSAS～，京都，2017.2.2
94. 山根崇史：PCI後の抗血小板療法の現状と課題。第3回NAK PCI Conference，神戸，2017.2.2
95. 石橋健太：ACS患者に対して難渋したPCI治療の症例。第3回NAK PCI Conference，神戸，2017.2.2
96. 古川 裕：心房細動と心不全：超高齢社会における循環器診療の象徴。ハートをまもる心不全・心房細動カンファレンス，2017.2.8
97. 古川 裕：高齢心房細動患者の特徴と抗血栓治療。抗血栓治療セミナー，神戸，2017.2.9
98. 小堀敦志：高齢者における心房細動の管理。西神戸血栓症セミナー，神戸，2017.2.9
99. 村井亮介：中枢神経合併症をもつ活動期感染性心内膜炎患者における，早期心臓手術が予後に与える影響。第4回院内研究フォーラム，神戸，2017.2.18
100. 仲村直子，藤本和美，石原可菜，下雅意崇亨，出口千尋，登 佳寿子，山根崇史，古川 裕：多職種連携の工夫～真の意味での多職種連携とは～。日本心臓リハビリテーション学会第2回近畿地方会，大阪，2017.2.25
101. 佐藤千賀，仲村直子，山根崇史，古川 裕：地域基幹病院の心不全入院における心臓リハビリテーションの実態。日本心臓リハビリテーション学会第2回近畿地方会，大阪，2017.2.25
102. 中田歩美香，下雅意崇亨，岩田健太郎，山根崇史，古川 裕：TEVAR 後に脊髄梗塞を呈した一症例－歩行獲得後に生じた反張膝に着目して－。日本心臓リハビリテーション学会第2回近畿地方会，大阪，2017.2.25
103. 古川 裕：心房細動の薬物治療：高齢者の抗凝固治療における問題点。Daiichi Sankyo Oral Anticoagulant Forum，神戸，2017.2.25
104. 松本 讓，太田光彦，長野真弥，城本千裕，山本 駿，堀 香菜，大畑淳子，野村菜美子，野本奈津美，菅沼直生子，紺田利子，角田敏明，谷 知子，小山忠明，古川 裕：左房内ポケットを認めた高度僧帽弁逆流の1例。第84回神戸臨床心エコー図研究会，神戸，2017.3.4

105. 安積佑太, 江原夏彦, 堀田 怜, 石津賢一, 松本 讓, 石橋健太, 中嶋正貴, 村井亮介, 佐々木康博, 太田光彦, 金 基泰, 山根崇史, 小堀敦志, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 冠動脈瘤に合併した心筋梗塞の1例. 第28回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 大阪, 2017. 3 .11
106. 堀田 怜, 江原夏彦, 中嶋正貴, 金 基泰, 太田光彦, 山根崇史, 木下 慎, 加地修一郎, 小山忠明, 古川裕: 大動脈二尖弁に対してTAVIを施行した1例. 第28回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 大阪, 2017. 3 .11
107. 騰 由香, 森川奈緒美, 山根崇史: E-CPR 導入後の結果と課題. 第28回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 大阪, 2017. 3 .11
108. 加地修一郎, 古川 裕: Update in the Medical Management of Type B Aortic Dissection. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
109. Kobori A, Inoue K, Kaitani K, Kurotobi T, Morishima I, Nakazawa Y, Morimoto T, Kimura T, Shizuta S: Extended Three-Year Follow-Up Results of the Unmasking Dormant Electrical Reconduction by Adenosine Triphosphate (UNDER-ATP) Trial. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
110. Nakashima M, Kaji S, Matsumoto Y, Ishizu K, Ishibashi K, Murai R, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Yamane T, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y: Beta-blocker Therapy Reduces Adverse Aorta-Related Events in Patients with Type B Acute Aortic Intramural Hematoma. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
111. Nakashima M, Ota M, Matsumoto Y, Ishizu K, Ishibashi K, Murai R, Sasaki Y, Kim K, Yamane T, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Effect of Semi-rigid Partial Band versus Complete Rings for Mitral Valve Annuloplasty: Three-Dimensional Transesophageal Echocardiographic Study. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
112. Kobori A, Sasaki Y, Ishibashi K, Murai R, Ota M, Kim K, Yamane T, Kaji S, Furukawa Y: Strategical Efficacy of Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
113. Murai R, Kitai T, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Yamane T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Prognostic Value of Procalcitonin Levels at Discharge in Patients with Acute Heart Failure. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
114. Sasaki Y, Kobori A, Shizuta S, Matsumoto Y, Murai R, Ota M, Kim K, Yamane T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Inoue K, Kaitani K, Kurotobi K, Morishima I, Yamaji H, Nakazawa Y, Satomi K, Kusano K, Kimura T, Furukawa Y: Effectiveness of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Patients with Cardiomyopathy: Subanalysis of Kansai Plus Atrial Fibrillation (KPAF) Registry. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
115. 佐々木康博, 小堀敦志, 古川 裕: Effectiveness of Single Shot Procedure of Pulmonary Vein Isolation Using Hotballoon: An Experience of Introduction Period. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
116. 石橋健太, 山根崇史, 松本 讓, 中嶋正貴, 村井亮介, 佐々木康博, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: Impact of Late Onset Worsening Renal Function on Outcomes in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
117. 杉澤朋弥, 小堀敦志, 田中雄己, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 相原雅士, 佐藤 純, 坂地一朗, 古川裕: クライオアブレーション後の心房細動再発症例における肺静脈隔離面積の検証. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
118. 中農陽介, 小堀敦志, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中村悟士, 相原雅士, 坂地一朗, 古川 裕, 佐藤純: クライオバルーンカテーテルのバルーンマッサージ法による気泡除去効果の検証. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
119. 中村悟士, 小堀敦志, 相原雅士, 中農陽介, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 田中雄己, 坂地一朗, 古川 裕: 横隔膜筋電位 (CMAP) における良好なモニタリング方法の検討. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
120. Tani T, Ohata J, Konda T, Sumida T, Suganuma N, Nomoto N, Nomura N, Hori K, Ota M, Kim K, Kaji S, Furukawa Y: Prognosis and Left Atrial Dysfunction in Patients with Severe Aortic Stenosis on Different Types Classified by Transthoracic Echocardiography. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19

121. Ito S, Kitai T, Murai R, Sasaki Y, Kim K, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Ando K, Furukawa Y : Stroke Volume and Cardiovascular Event Risk in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
122. 奥村貴裕, 近藤 徹, 末永祐哉, 鍵山暢之, 北井 豪, 山口徹雄, 木田圭亮, 白石 淳, 室原豊明 : The Outcome of Emergency Physician-led Versus Cardiologist-led Initial Management in Patients with Acute Heart Failure : Insights from the REALITY-AHF Study. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
123. Usami S, Ozasa N, Yokomatsu T, Furukawa Y, Yamane T, Kitai T, Taniguchi R, Yamada T, Ohishi S, Satoh S, Bao B, Sugiyama H, Doi T, Shizuta S, Ueshima K, Kimura T : Severe Chronotropic Incompetence Predicts Impaired Exercise Capacity in Patients Undergoing Cardiac Device Implantation. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
124. Sawano M, Kitai T, Tamita K, Obunai K, Ikegami Y, Yamane T, Katsuki T, Ueda I, Endo A, Maekawa Y, Kawamura A, Fukuda K, Kohsaka S : Randomized Trial of Calcium Channel Blockers Versus Beta-Blockers in Acetylcholine Provocation of Vasospasm After Coronary Artery Stenting. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
125. 田中宣暎, 井上耕一, 静田 聡, 田中耕史, 豊島優子, 岡 崇史, 岡田真人, 中丸 遼, 岩倉克臣, 藤井謙司, 小堀敦志, 貝谷和昭, 森本 剛, 中澤優子, 黒飛俊哉, 森島逸郎, 里見和浩, 山地博介, 草野研吾, 木村剛 : Distinct Gender Differences in the Efficacy and Safety of Atrial Fibrillation Ablation : Insights from the Kansai Plus Atrial Fibrillation Registry. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
126. Watanabe H, Morimoto T, Shiomi H, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Kimura T : Clinical Impact of CTO in Non-infarct-related Artery in Patients with ST-segment Elevation Acute Myocardial Infarction Complicated by Cardiogenic Shock. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
127. Watanabe T, Kubota I, Iwayama T, Yashiro Y, Noguchi T, Ohishi M, Tsutsui H, Kawasaki T, Furukawa Y, Yoshimura M, Morita H, Nakao Y, Nishimura K, Higashi M, Miyamoto Y, Naitoh H, Yasuda S : Gender Differences in the Impact of Hyperuricemia in Coronary Artery Calcification : Subanalysis of the NADESICO Study. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
128. Matsue Y, Suzuki M, Torii S, Yamaguchi S, Fukamizu S, Ono Y, Fujii H, Kitai T, Nishioka T, Sugi K, Onishi Y : Changes in Brain Natriuretic Peptide Discriminates Prognostic Significance of Worsening Renal Function in Patients with Acute Heart Failure. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
129. Onishi N, Kaitani K, Shimizu Y, Hanazawa K, Izumi C, Nakagawa Y, Shizuta S, Kobori A, Inoue K, Morimoto T, Kurotobi T, Morishima I, Shirayama T, Kimura T : The Clinical Impact of the Timing of Early Recurrence after Atrial Fibrillation Ablation : From Kansai Plus Atrial Fibrillation (KPAF) Registry. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
130. Nagayama T, Noda T, Miyamoto K, Kamakura T, Wada M, Ishibashi K, Nagase S, Aiba T, Shizuta S, Kobori A, Inoue K, Kaitani K, Kurotobi T, Morishima I, Satomi K, Yamaji H, Nakazawa Y, Kimura T, Kusano K : Obesity Does not Increase Recurrence after Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation in Japan : From the Kansai Plus Atrial Fibrillation Registry. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
131. Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Saitoh N, Kitai T, Izumi C, Kimura T : Effect of Left Ventricular Ejection Fraction on Long-term Clinical Outcomes in Patients with Severe Aortic Stenosis. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
132. 高橋宏輔, 木村 剛, 谷口智彦, 森本 剛, 山地杏平, 古川 裕, 湊谷謙司, 豊福 守, 本橋恭代, 花澤康司, 田中麻里子, 北田雅彦, 田村 崇 : Sex Differences in Clinical Presentation and Mortality of Severe Aortic Stenosis. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
133. Yamamoto M, Seo Y, Matsue Y, Kitai T, Kagiya N, Okumura T, Kida K, Ohishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamaguchi T, Aonuma K : Fluid Retention is Common Pathology among Clinical Scenario Classifications of Acute Decompensated Heart Failure : Insights from REALITYAHF Registry. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19

134. Morishima I, Morita Y, Takagi K, Yoshida R, Nagai H, Ikai Y, Furui K, Shibata N, Tsuduki K, Yoshioka N, Tsuboi H, Kobori A, Inoue K, Kaitani K, Kurotobi T, Satomi K, Yamaji H, Nakazawa Y, Kusano K, Kimura T, Shizuta S : Catheter Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients with Coexisting Sick Sinus Syndrome : Insights from Kansai Plus Atrial Fibrillation (KPAF) Registry. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
135. Kaitani K, Onishi N, Kobori A, Inoue K, Kurotobi T, Morishima I, Satomi K, Yamaji H, Nakazawa Y, Kusano K, Shizuta S, Kimura T : The Impact of Early Recurrence of Atrial Tachyarrhythmias after Pulmonary Antrum Isolation for non-Paroxysmal Atrial Fibrillation. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
136. Yuri T, Kagiya N, Matsue Y, Suzuki M, Torii S, Yamaguchi S, Fukamizu S, Ono Y, Fujii H, Kitai T, Nishioka T, Sugi K, Hayashida A, Hirohata A, Yamamoto K, Yoshida K : Relative Change in Plasma Volume in Acute Phase is a Predictor of Mortality in Acute Heart Failure. 第81回日本循環器学会総会学術集会, 金沢, 2017. 3 .17-19
137. 堀田 怜, 金 基泰, 山根崇史, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕 : たこつぼ型心房症に完全房室ブロックを合併し, 恒久的ペースメーカー移植術を施行した1例. 日本内科学会第215回近畿地方会, 神戸, 2017. 3 .25

VII. 1. 2 糖尿病・内分泌内科

1. 小松弥郷, 簀谷雄二 : 多発性骨転移をきたした悪性褐色細胞腫の1例. 第89回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2016. 4 .22
2. 濱崎暁洋, 藤本寛太, 岡本絵美, 徳本信介, 山口恵理子, 河崎祐貴子, 本庶祥子 : 2型糖尿病治療における甲状腺機能と血糖変動の関連の検討. 第89回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2016. 4 .22
3. 服部尚樹, 石原 隆, 松岡直樹, 島津 章 : マクロTSHの血清TSH値への影響 : アッセイシステム間の比較検討. 第89回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2016. 4 .23
4. 迎とく子, 山口智美, 阿部 梢, 岩倉敏夫 : インスリン注射部位選択の再指導に関する検討. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016. 5 .19
5. 新村里美, 佐々木翔, 森野隆広, 藤本寛太, 松岡直樹, 岩倉敏夫 : 基礎インスリン使用下におけるDPP4阻害薬と速効型インスリン分泌促進薬のクロスオーバー試験による比較. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016. 5 .20
6. 岩倉敏夫 : 糖尿病治療薬の光と影～重症低血糖の問題をふまえて考える～. 倉敷糖尿病パートナーセミナー, 倉敷, 2016. 5 .31
7. 岩倉敏夫 : 重症低血糖を回避した高齢者糖尿病の個別化した治療戦略. 帯広糖尿病学術講演会～将来を見据えた治療戦略について～, 帯広, 2016. 6 .17
8. 石田芳彦, 原 賢太, 岩倉敏夫 : 高齢者2型糖尿病の個別化治療. 高齢者糖尿病治療セミナー in KOBE, 神戸, 2016. 6 .23
9. 岩倉敏夫 : 重症低血糖のリスクを考慮した適切な糖尿病治療プラン. 北播磨動脈硬化ミーティング, 加東, 2016. 6 .30
10. 岩倉敏夫 : リスクベネフィットを考慮した個別化した糖尿病治療戦略. 第52回神戸市立医療センター中央市民病院 眼科臨床懇話会, 神戸, 2016. 7 .7
11. 新村里美, 簀谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 今井幸弘, 松岡直樹 : 典型的な橋本病の所見を認めなかった甲状腺悪性リンパ腫の一例. 第106回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2016. 9 .10
12. 伯田琢郎, 藤本寛太, 新村里美, 能登理央, 岩倉敏夫, 簀谷雄二, 石原 隆, 松岡直樹 : 原発性甲状腺機能低下症と診断されていた1例. 第106回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2016. 9 .10
13. 松岡直樹 : 心血管イベントリスクを考慮した最新の糖尿病治療. 第35回神戸市中央区内科医会学術講演会, 神戸, 2016. 9 .10
14. 松岡直樹 : インスリン分泌とSU剤. Xstar KOBE summit 2016, 神戸, 2016. 9 .16
15. 岩倉敏夫 : 重症低血糖を回避する糖尿病の個別化した治療選択. 第13回泉佐野・泉南糖尿病 病診連携の会, 泉佐野, 2016. 9 .24
16. 岩倉敏夫 : SGLT2阻害薬の臓器保護の可能性. Kobe Expert Deep Dive ～大規模臨床試験の最新知見から考える～, 神戸, 2016. 9 .28

17. 新村里美, 旗谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 辰巳智美, 藤本大智, 松岡直樹: 当院の肺癌患者に対するニボルマブ投与の甲状腺機能への影響の検討. 第91回京都内分泌同好会, 京都, 2016.10. 1
18. 岩倉敏夫: 血糖コントロール指標の変遷を振り返って. 第2回阪神糖尿病臨床講演会, 神戸, 2016.10. 6
19. 山本 覚, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 旗谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 絶食試験陰性で経口糖負荷後に低血糖を呈するインスリノーマの1例. 第2回阪神糖尿病臨床講演会, 2016.10. 6
20. 能登理央: 腎不全患者における血糖コントロール, 低血糖の危険性. 第4回神戸心・腎・糖尿病談話会, 神戸, 2016.10. 8
21. 伯田琢郎, 旗谷雄二, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 松岡直樹, 佐々木翔, 吉本明弘, 今井幸弘: 腎生検を施行した先端巨大症の1例. 第17回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 和歌山, 2016.10.15
22. 能登理央, 中村和史, 木下啓太, 佐々木翔, 南 和宏, 斎藤伴樹, 森崎裕子, 吉本明弘: COL3A1遺伝子変異を同定し得た, 解離性腎動脈瘤破裂を発症した若年男性の一例. 第46回日本腎臓学会西部学術大会, 宮崎, 2016.10.15
23. 阿部 梢, 松岡直樹: 『内科看護師からみたSAP療法』～当院でSAPを導入した1例～. 第8回インスリンポンプ研究会, 神戸, 2016.10.15
24. 岩倉敏夫: 複雑化する薬物療法における薬剤師への期待～こんな時あなたはどうか対応しますか～. 第5回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 神戸, 2016.10.30
25. 新村里美, 藤本寛太, 旗谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 岩倉敏夫, 日野 恵, 松岡直樹, 石原 隆: I-131治療後に耳下腺癌を発症した甲状腺癌の2例. 第59回日本甲状腺学会学術集会, 東京, 2016.11. 4
26. 小松弥郷, 梅澤智史, 旗谷雄二: ヨード過剰摂取によりチアマゾールの薬効が阻害されたと考えられた1例. 第59回日本甲状腺学会学術集会, 東京, 2016.11. 4
27. 藤本寛太, 伯田琢郎, 能登理央, 新村里美, 旗谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 絶食試験陰性で経口糖負荷後に低血糖を呈するインスリノーマの1例. 第53回日本糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2016.11.12
28. 藤本寛太, 能登理央, 伯田琢郎, 新村里美, 旗谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 絶食試験陰性で, 糖負荷後に低血糖を呈するインスリノーマの1例. 第26回臨床内分泌代謝Update, さいたま, 2016.11.18
29. 岩倉敏夫: 複雑化する糖尿病薬物療法～薬物選択のコツと落とし穴～. 十勝心血管内分泌代謝セミナー, 帯広, 2016.11.18
30. Noto R, Yokoi H, Saito T, Morisaki Y, Yoshimoto A, Yanagita M: A COL3A1 Gene Mutation in a Young Male with Rupture of a Dissected. Kidney Week 2016, Chicago, USA, 2016.11.19
31. 旗谷雄二: 当院における内分泌疾患治療の現状と取り組み. 神戸 糖尿病・内分泌 連携セミナー, 神戸, 2016.12. 1
32. 新村里美, 旗谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 松岡直樹: 橋本病の所見を認めなかった甲状腺悪性リンパ腫の1例. 第214回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.12. 3
33. 城田祥吾, 藤原 悟, 川本未知, 藤本寛太, 幸原伸夫: 反復発作性頭痛を呈した亜急性甲状腺炎の1例. 第214回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.12. 3
34. 岩倉敏夫: 高齢の糖尿病患者に求められるインスリンとは. 糖尿病学術講演会in西神, 神戸, 2016.12.15
35. 齊藤二葉, 竹中麻理子, 岩倉敏夫: 間接熱量計での栄養評価が困難であったALSの一例. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017. 1. 14
36. 平田伊都香, 新村里美, 竹中麻理子, 岩本昌子, 岩倉敏夫: 在宅静脈栄養の周期的投与による適正な栄養補給に難渋した1例. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017. 1. 15
37. 岩倉敏夫: 重症低血糖を回避する高齢者糖尿病の個別化した治療選択. 糖尿病フォーラム2017 In 東葛, 柏, 2017. 1. 17
38. 新村里美, 旗谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 今井幸弘, 松岡直樹: 橋本病の所見を認めなかった甲状腺悪性リンパ腫の1例. 第39回京都甲状腺研究会, 京都, 2017. 1. 21
39. 佐渡康介, 能登理央, 伯田琢郎, 新村里美, 藤本寛太, 旗谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹: *Streptococcus intermedius*による化膿性脊椎炎を合併した無治療糖尿病の1例. 第11回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2017. 1. 28

40. 迎とく子, 岩倉敏夫: インスリン注射部位選択の再指導のもたらす効果と注意点についての検討. 第19回神戸糖尿病チーム医療研究会, 神戸, 2017. 2. 3
41. 新村里美, 簇谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 辰巳智美, 藤本大智, 松岡直樹: 当院で経験したニボルマブによる甲状腺機能異常について. 第107回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2017. 2. 11
42. 岩倉敏夫: 高齢者の重症低血糖をいかにして回避するか~カテゴリー別目標値への適切な対応~. 美波セミナーin別府, 2017. 2. 21
43. 三宅川和賀子, 藤本寛太, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 簇谷雄二, 岩倉敏夫, 齋田浩二, 篠原尚吾, 松岡直樹: 急性喉頭蓋炎様の症状を契機に診断された原発性副甲状腺機能亢進症の1例. 第92回京都内分泌同好会, 京都, 2017. 3. 4
44. 岩倉敏夫: 変貌しつつある2型糖尿病治療~10年前とは違う糖尿病治療戦略~. 65歳からの糖尿病治療を考える懇話会~心臓・腎臓からのアプローチ~, 神戸, 2017. 3. 8
45. 迎とく子, 山口智美, 阿部 梢, 岩倉敏夫: インスリン注射部位ローテーションの効果と指導の実際~見逃していませんか? インスリンボール~. 第18回兵庫県糖尿病トータルケア研究会, 神戸, 2017. 3. 11
46. 三宅川和賀子, 藤本寛太, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 簇谷雄二, 岩倉敏夫, 齋田浩二, 篠原尚吾, 松岡直樹: 急性喉頭蓋炎様の症状を契機に診断された原発性副甲状腺機能亢進症の1例. 第215回日本内科学会 近畿地方会, 神戸, 2017. 3. 25
47. 松岡直樹: 糖尿病とその予備軍. 健康ライフプラザ土曜健康科学セミナー, 神戸, 2017. 3. 25

VII. 1. 3 腎臓内科

1. 能登理央: 腎不全患者における血糖コントロール, 低血糖の危険性. 第4回神戸心・腎・糖尿病談話会, 神戸, 2016.10. 8
2. 伯田琢郎, 簇谷雄二, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 松岡直樹, 佐々木翔, 吉本明弘, 今井幸弘: 腎生検を施行した先端巨大症の1例. 第17回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 和歌山, 2016.10.15
3. 能登理央, 中村和史, 木下啓太, 佐々木翔, 南 和宏, 斎藤伴樹, 森崎裕子, 吉本明弘: COL3A1遺伝子変異を同定し得た, 解離性腎動脈瘤破裂を発症した若年男性の1例. 第46回日本腎臓学会西部学術大会, 宮崎, 2016.10.15
4. 能登理央, 横井秀基, 斎藤伴樹, 森崎裕子, 吉本明弘, 柳田素子: A COL3A1 Gene Mutation in a Young Male with Rupture of a Dissected. The ASN Kidney Week 2016 Annual Meeting, Chicago, USA, 2016.11.19

VII. 1. 4 神経内科

1. 尾原信行, 小林潤也, 池上剛史, 合田敏章, 渡辺光太郎, 丸谷明子, 浅田喜代一, 西 憲幸, 高橋大介, 山田與徳: 当院における治療開始時間短縮に向けての取り組み. 第41回日本脳卒中学会学術集, 札幌, 2016. 4. 14
2. 石井淳子, 上田 潤, 上田哲大, 藤原 悟, 引網亮太, 村瀬 翔, 齊藤智成, 河野智之, 吉村 元, 星拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: Guillain-Barré症候群の臨床症状による分類及び頻度. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016. 5. 18
3. 川本未知, 石井淳子, 吉村 元, 上田 潤, 藤原 悟, 上田哲大, 齊藤智成, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 幸原伸夫: 当院における自己末梢血幹細胞移植後POEMS症候群の長期予後の検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016. 5. 19
4. 吉村 元, 松本理器, 池田昭夫, 幸原伸夫: 高齢者てんかん重積状態の臨床的特徴と治療 (シンポジウムなおる神経内科: 治るてんかん: 高齢者てんかんの診断と治療). 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016. 5. 20
5. 上田 潤, 川本未知, 吉村 元, 大平純一朗, 三村直哉, 上田哲大, 藤原 悟, 石井淳子, 齊藤智成, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 松本理器, 幸原伸夫: 抗NMDA受容体脳炎にみられるextreme delta brushの自験2例での検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016. 5. 21

6. 河野智之, 坂井信幸, 上田 潤, 藤原 悟, 上田哲大, 引網亮太, 村瀬 翔, 別府幹也, 齊藤智成, 有村公一, 今村博敏, 星 拓, 藤堂謙一, 足立秀光, 幸原伸夫: 来院から再開通まで90分以内を目指した急性期脳梗塞診療の取り組みと治療成績. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016. 5 .21
7. 藤堂謙一, 坂井信幸, 河野智之, 有村公一, 星 拓, 今村敏博, 足立秀光, 幸原伸夫: 再開通時間短縮への取り組みによる転帰改善効果. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016. 5 .21
8. 上田哲大, 河野智之, 石上雅之介, 上田 潤, 藤原 悟, 齊藤智成, 石井淳子, 吉村 元, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 小山忠明, 幸原伸夫: 上行弓部大動脈置換術後に合併した左総頸動脈閉塞に対して, 鎖骨下-総頸動脈バイパス術を施行した1例. 第3回日本心脳血管卒中学会学術集会, 東京, 2016. 6 .17
9. 河野智之, 坂井信幸, 別府幹也, 齊藤智成, 有村公一, 星 拓, 今村敏博, 藤堂謙一, 足立秀光, 幸原伸夫: 内頸動脈起始部急性閉塞に対する緊急血管内治療成績. 第3回日本心脳血管卒中学会学術集会, 東京, 2016. 6 .18
10. 上田 潤, 川本未知, 大平純一郎, 三村直哉, 上田哲大, 藤原 悟, 石井淳子, 齊藤智成, 河野智之, 吉村元, 星 拓, 藤堂謙一, 松本理器, 幸原伸夫: Extreme delta brushをはじめとする脳波の変遷を追った抗NMDA受容体脳炎の1例. 第51回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), 大阪, 2016. 6 .25
11. 上田 潤, 吉村 元, 大平純一郎, 三村直哉, 上田哲大, 藤原 悟, 石井淳子, 齊藤智成, 河野智之, 星拓, 藤堂謙一, 川本未知, 藤本亜弓, 松下章子, 幸原伸夫: 髄注化学療法で症状の改善を得たBing-Neel Syndromeの一例. 第105回近畿地方会, 京都, 2016. 7 .2
12. 尾原信行: 急性期脳梗塞治療の現在~当院の取り組み~. 南大阪脳卒中研究会, 大阪, 2016. 8 .31
13. 尾原信行: 急がなあかんで! 脳卒中. 第58回大阪南医療センター健康フェア, 大阪, 2016. 9 .7
14. 尾原信行: そこが知りたい! 脳卒中の予防と治療. 河内長野市民大学 くらまる塾本部講座, 河内長野, 2016. 9 .14
15. 石井淳子, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫: GBSの病初期神経伝導検査におけるA波/repeater F波の意義. 第28回日本神経免疫学会学術集会, 長崎, 2016. 9 .30
16. 藤原 悟, 吉村 元, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 上田哲大, 石井淳子, 河野智之, 齊藤智成, 星拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 脳波所見がとらえられたfocal inhibitory status epilepticusの1例. 第50回日本てんかん学会学術集会, 静岡, 2016.10. 7
17. 吉村 元, 上田 潤, 藤本亜弓, 大平純一郎, 三村直哉, 藤原 悟, 上田哲大, 石井淳子, 齊藤智成, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 松下章子, 幸原伸夫: レベチラセタム静注製剤が有効であった全身状態不良の非けいれん性てんかん重積状態高齢者例. 第50回日本てんかん学会学術集会, 静岡, 2016.10. 8
18. 藤堂謙一: 本当にESUSですか? 第19回日本栓子検出と治療学会, 神戸, 2016.10.14
19. 齊藤智成, 藤堂謙一, 星 拓, 河野智之, 今村敏博, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 足立秀光, 幸原伸夫, 坂井信幸: 急性期脳梗塞再開通療法における出血性梗塞例の検討. 第19回日本栓子検出と治療学会, 神戸, 2016.10.14
20. 河野智之, 木庭悠介, 中嶋正貴, 藤堂謙一, 石川隆之, 古川 裕, 坂井信幸, 幸原伸夫: 好酸球増多症の原因検索に難渋した多発脳梗塞の1例. 第19回日本栓子検出と治療学会, 神戸, 2016.10.14
21. 三村直哉, 齊藤智成, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 急性腎不全と食思不振に続き多発脳梗塞を認めた特発性コレステロール結晶塞栓症の1例. 第19回日本栓子検出と治療学会, 神戸, 2016.10.14
22. 十河正弥, 川本未知, 大平純一郎, 齊藤智成, 河野智之, 吉村 元, 星 拓, 藤堂謙一, 幸原伸夫: 脳塞栓症を合併したCADASILの1例. 第19回日本栓子検出と治療学会, 神戸, 2016.10.14
23. 尾原信行, 小林潤也, 池上剛史, 合田敏章, 渡辺光太郎, 丸谷明子, 浅田喜代一, 西 憲幸, 高橋大介, 山田與徳: 院内発症脳梗塞の特徴と課題. 第19回日本栓子検出と治療学会総会, 神戸, 2016.10.14
24. 尾原信行, 小林潤也, 池上剛史, 合田敏章, 渡辺光太郎, 丸谷明子, 浅田喜代一, 西 憲幸, 高橋大介, 山田與徳: 緊急TVE+PTA後に過灌流症候群を呈した硬膜動静脈瘻の一例. NET-I 2016, 神戸, 2016.10.15
25. 石井淳子, 川本未知, 藤原 悟, 船津堯之, 今井幸弘, 奴久妻聡一, 高橋健太, 中道一生, 幸原伸夫: 全身性エリテマトーデス加療中に頭部MRIで散在性点状T2高信号病変を呈し進行が見られていないPMLの1例. 第21回日本神経感染症学会総会・学術大会, 金沢, 2016.10.22
26. 藤原 悟, 川本未知, 石井淳子, 吉村 元, 幸原伸夫, 岡 伸幸: IVIgの著効した血清VEGF高値, M蛋白陽性の緩徐進行性ポリニューロパチーの1例. 第46回日本臨床神経生理学学会, 郡山, 2016.10.28

27. 川本未知, 村瀬 翔, 幸原伸夫: 3, 4 ジアミノピリジンが起立性低血圧に著効したLEMSの1例. 第34回日本神経治療学会総会, 米子, 2016.11.4
28. 齊藤智成, 坂井信幸, 別府幹也, 船津堯之, 徳永 聡, 河野智之, 星 拓, 今村博敏, 藤堂謙一, 足立秀光, 幸原伸夫: 急性再開通療法後に過灌流症候群を呈し, 遅発性に出血性梗塞を認めた急性内頸動脈閉塞症の1例. 第59回脳循環代謝学会, 徳島, 2016.11.11
29. 藤原 悟, 吉村 元, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 上田哲大, 石井淳子, 齊藤智成, 河野智之, 星拓, 川本未知, 幸原伸夫: てんかん重積状態に至った自己免疫性てんかんの1例. 日本神経学会第106回近畿地方会, 京都, 2016.11.19
30. 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 上田哲大, 藤原 悟, 齊藤智成, 石井淳子, 河野智之, 吉村 元, 星拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫, 西野一三, 鈴木重明: 抗titin抗体陽性重症筋無力症に筋炎を合併した1例. 日本神経学会第106回近畿地方会, 京都, 2016.11.19
31. 河野智之, 坂井信幸, 別府幹也, 齊藤智成, 船津堯之, 星 拓, 今村敏博, 藤堂謙一, 足立秀光, 幸原伸夫: 内頸動脈tandem occlusionに対する血管内治療の転帰に関する検討. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会(JSNET), 神戸, 2016.11.24
32. 尾原信行, 渡辺光太郎, 小林潤也, 池上剛史, 合田敏章, 丸谷明子, 浅田喜代一, 西 憲幸, 高橋大介, 山田與徳: 急性期再開通治療術後のMRI画像変化. 第32回日本脳神経血管内治療学会総会, 神戸, 2016.11.24
33. 齊藤智成, 藤堂謙一, 星 拓, 河野智之, 今村敏博, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 足立秀光, 幸原伸夫, 坂井信幸: 急性期脳梗塞再開通療法における出血性梗塞の予測因子の検討. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会(JSNET), 神戸, 2016.11.25
34. 川本未知, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 藤原 悟, 上田哲大, 石井淳子, 吉村 元, 河野智之, 星拓, 藤堂謙一, 村上良子, 木下タロウ, 幸原伸夫: 16年間延べ121回にわたる反復性無菌性髄膜炎にPIGT変異によるPNHを合併しEculizumabが著効した1例. 第52回亀山正邦記念神経懇話会(KSK), 大阪, 2016.11.26
35. 城田祥吾, 藤原 悟, 川本未知, 藤本寛太, 幸原伸夫: 反復発作性頭痛を呈した亜急性甲状腺炎の1例. 第214回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.12.3
36. Murakami Y, Kawamoto M, Inoue N, Osato M, Murata S, Murase S, Yoshimura H, Ueda Y, Nishimura J, Kanakura Y, Kohara N, Kinoshita T: Paroxysmal Nocturnal Hemoglobinuria Caused By Pigt Mutations : Atypical PNH. American Society of Hematology 58th ASH Annual Meeting & Exposition, San Diego, USA, 2016.12.4
37. 三村直哉, 齊藤智成, 大平純一郎, 上田 潤, 上田哲大, 藤原 悟, 石井淳子, 河野智之, 吉村 元, 星拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 原因不明の腎機能低下・食思不振に引き続き, 再発性多発脳塞栓症を来した76歳男性. 第73回兵庫神経内科研究会, 神戸, 2017.2.17
38. Ohara N, Kobayashi J, Goda T, Ikegami T, Watanabe K, Asada K, Marutani A, Nishi N, Takahashi D, Yamada T: Reducing Door-to-Needle Times in Acute Ischemic Stroke ; Multidisciplinary Team-based Approach at a Single Center. International Stroke Conference 2017, Houston, USA, 2017.2.23
39. 三村直哉, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 乳がん治療中に発症した多発脳塞栓症の1例. NJM, 大阪, 2017.3.3
40. 三村直哉, 島 淳, 眞木崇州, 山下博文, 高橋良輔, 江本憲明, 吉藤 元: 可逆性脳血管攣縮症候群による脳梗塞を発症した全身性エリテマトーデス・抗リン皮質抗体症候群の1例. 第107回近畿地方会, 大阪, 2017.3.5
41. 藤原 悟, 吉村 元, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 上田哲大, 石井淳子, 齊藤智成, 河野智之, 星拓, 川本未知, 幸原伸夫: ニボルマブ, イピリムマブ併用による肺小細胞癌治療後に自己免疫性脳炎を発症した1例. 第107回近畿地方会, 大阪, 2017.3.5
42. 齊藤智成, 藤堂謙一, 星 拓, 河野智之, 今村敏博, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 足立秀光, 幸原伸夫, 坂井信幸: 急性期脳梗塞再開通療法後の出血性梗塞を術前MRI所見から予測できるか? STROKE2017, 大阪, 2017.3.16
43. 尾原信行, 小林潤也, 池上剛史, 合田敏章, 渡辺光太郎, 丸谷明子, 浅田喜代一, 西 憲幸, 高橋大介, 山田與徳: チームで取り組む治療開始時間短縮の成果と課題. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017.3.18

44. 吉村 元, 松本理器, 幸原伸夫: てんかん重積状態の治療方針. 第31回JSEPTICセミナー, 東京, 2017. 3 .19
45. Murakami Y, Hirata T, Murata S, Kinoshita T, Kawamoto M, Murase S, Yoshimura H, Kohara N, Inoue N, Osato M, Nishimura J, Ueda Y, Kanakura Y, Peter M, Krawitz PM, Knaus A, Jager M, Flottmann R, Eggermann T, Hoechsmann B, Schrezenmeier H: Atypical paroxysmal nocturnal hemoglobinuria presenting with autoinflammatory symptoms is caused by germline and somatic mutations involving PIGT. 28th Annual Meeting of the German Society of Humangenetics together with Austrian Society of Humangenetics (ÖGH) and the Swiss Society of Medical Genetics, Bochum, Germany, 2017. 3 .30

VII. 1. 5 消化器内科

1. 鄭 浩柄: 肝臓専門医に残された課題 - B型肝炎 -. 第14回東神戸肝疾患対策病診連携の会, 神戸, 2016. 4 .2
2. 猪熊哲朗: 薬物性消化管傷害の予防 - ボノプラザンへの期待 -. タケキャブ錠発売1周年記念講演会, 神戸, 2016. 4 .14
3. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 山本晴菜, 奥村 圭, 畑森裕之, 松本一寛, 伊藤卓彦, 南出竜典, 細谷和也, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 猪熊哲朗: 当院におけるダクラタスビル・アスナプレビル併用療法の成績. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016. 4 .21
4. 井上聡子: third line therapyとしての抗TNF- α 抗体治療が有効であった潰瘍性大腸炎3例の検討. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016. 4 .21
5. 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗: 当院における内鏡的乳頭括約筋切除術(EST)+口径バルーン拡張術(EPLBD)について. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016. 4 .23
6. 奥村 圭: 当院における*Helicobacter pylori*の除菌における除菌率についての検討. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016. 4 .23
7. 北本博規, 森田周子, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 細谷和也, 南出竜典, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における高齢者に対する経皮内視鏡的胃瘻造設症例の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5 .12
8. 畑森裕之, 福島政司, 奥村 圭, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院におけるS状結腸軸捻転症51例の臨床的検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5 .12
9. 福島政司: 当院における小腸悪性腫瘍診断のストラテジー. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5 .13
10. 谷口洋平: 経下部消化管からの超音波内視鏡下穿刺吸引術(EUS-FNA)について. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5 .13
11. 伊藤卓彦, 谷口洋平, 奥村 圭, 畑森裕之, 松本一寛, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における悪性腫瘍によるGastric Outlet Obstruction (GOO)に対するステント留置療法の有用性の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5 .13
12. 松本一寛, 谷口洋平, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 北本博規, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における大腸ステント留置症例の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5 .13
13. Kitamoto H, Inoue S, Inokuma T: Clinical features of Cytomegalovirus enterocolitis (当院におけるCMV腸炎症例の検討). 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5 .14
14. 森田周子: 女性指導医による胃ESD. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5 .14
15. 和田将弥, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院におけるジェノタイプ2型C型慢性肝炎・肝硬変に対するソホスビル/リバビリン併用療法の治療成績. 第52回日本肝臓学会総会, 千葉, 2016. 5 .19
16. Ito T, Suginoshi Y, Tei H, Inokuma T: Predictive Factors for Efficacy of Tolvaptan in Patients with Refractory Ascites in Decompensated Liver Cirrhosis. Digestive Disease Week 2016, San Diego, 2016. 5 .21
17. Ito T, Taniguchi Y, Wada M, Inokuma T: The Efficacy of an Endoscopic Self-Expandable Metal Stent for Gastric Outlet Obstruction by Malignancies. Digestive Disease Week 2016, San Diego, 2016. 5 .23

18. Taniguchi Y, Ito T, Inokuma T: A Newly Designed Cross-Wired Metallic Stent for Unresectable Malignant Hilar Bile Duct Obstruction. Digestive Disease Week 2016, San Diego, 2016. 5 .24
19. 鄭 浩柄：消化器 肝腫瘍：診断②. 第89回日本超音波医学会学術集会, 京都, 2016. 5 .29
20. 猪熊哲朗：透析症例におけるウイルス性肝炎治療. 神戸市透析HCVセミナー, 神戸, 2016. 6 .2
21. 杉之下与志樹：透析症例におけるウイルス性肝炎治療. 神戸市透析HCVセミナー, 神戸, 2016. 6 .2
22. 豊永啓翔, 和田将弥, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗：内視鏡的に切除した十二指腸 Brunner腺由来腺癌の一例. 第39回京大消化器内科関連病院症例検討会, 尼崎, 2016. 6 .4
23. 森田周子：食道講義. アストラゼネカ社内研修会, 神戸, 2016. 6 .6
24. 井上聡子：小腸穿孔で発症した回腸末端炎の高齢女性. 第24回兵庫IBDカンファレンス, 神戸, 2016.6.10
25. 谷口洋平：痔. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会, 京都, 2016. 6 .11
26. 北本博規, 福島政司, 井上聡子, 猪熊哲朗：当院における小腸悪性腫瘍に対する内視鏡的アプローチについて. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会, 京都, 2016. 6 .11
27. 占野尚人, 福島政司, 猪熊哲朗：当院における胃体部大弯ESDにおけるアプローチ. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会, 京都, 2016. 6 .11
28. 青山直樹, 南出竜典, 和田将弥, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗：内視鏡的に観察・診断しえた食道GISTの一例. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会, 京都, 2016. 6 .11
29. 伊藤卓彦, 谷口洋平, 奥村 圭, 畑森裕之, 松本一寛, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 上原慶一郎：出血コントロールに難渋し, 腹腔鏡下に切除した胃glomus腫瘍の1例. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会, 京都, 2016. 6 .11
30. 畑森裕之, 福島政司, 奥村 圭, 伊藤卓彦, 松本一寛, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 松岡亮介：内視鏡像を確認出来た軽症腸管糞線虫症の1例. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会, 京都, 2016. 6 .11
31. 奥村 圭, 谷口洋平, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗：当院における大腸憩室出血に対するEBL (Endoscopic Band Ligation) の検討. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会, 京都, 2016. 6 .11
32. 松本一寛, 和田将弥, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘：Choledochocoeleの1例. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会, 京都, 2016. 6 .11
33. 井上聡子：＜潰瘍性大腸炎の上部消化器病変に対する診療アプローチ＞この症例をどう診て, どう治療するか? 第37回大腸病態治療研究会, 大阪, 2016. 6 .16
34. 杉之下与志樹：生体肝移植後の高度黄疸を伴ったC型慢性肝炎急性増悪に対してSOF/LDVが奏功した1例. 第1回関西肝疾患フォーラム, 大阪, 2016. 6 .18
35. 福島政司, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗：当院における緊急DB-ERCPの現状. 第49回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2016. 6 .22
36. 猪熊哲朗：B型肝炎抗ウイルス療法と肝発癌抑制. 第4回神戸肝炎シンポジウム, 神戸, 2016. 6 .24
37. 鄭 浩柄：当院におけるダクラスタビル・アスナプレビルの治療成績－腎機能低下・透析症例を含めた検討－. 第4回神戸肝炎シンポジウム, 神戸, 2016. 6 .24
38. 鄭 浩柄：C型肝炎へのIFNフリー療法について. Kobe Liver Meeting 学術講演会, 神戸, 2016. 7 .2
39. Kitamoto H, Inoue S, Inokuma T: Cytomega 1 ovirus enterocolitis in patients with ulcerative colitis. AOCC2016, Kyoto, 2016. 7 .7 - 9
40. 和田将弥, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗：第5回兵庫胆膵・EUSワークショップ. 尼崎, 2016. 7 .9

41. 畑森裕之, 和田将弥, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: EUS-FNA後に特異的な形態を呈する膵液瘻を来した自己免疫性膵炎の1例. 第5回兵庫胆膵・EUSワークショップ, 尼崎, 2016. 7. 9
42. 井上聡子: 感染症. 第7回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2016. 7. 10
43. 北本博規: 潰瘍性大腸炎に合併したCytomegalovirus腸炎の再発に関する検討. 第7回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2016. 7. 10
44. 福島政司: 逆流性食道炎の治療の現状と課題. MR実践研修会, 神戸, 2016. 8. 26
45. 北本博規: 抗結核治療後も残存した原因不明の回腸潰瘍の1例. 第32回IBDクラブジュニアウエスト, 大阪, 2016. 8. 27
46. 北本博規: 急性発症の嚥下障害に対する経皮内視鏡的胃瘻造設術の検討. 第21回PEG・在宅医療研究会学術集会, 高松, 2016. 9. 3
47. 森田周子: Freshman Session 5 (胃・十二指腸). 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
48. 北本博規, 井上聡子, 猪熊哲朗: チオプリン製剤の副作用と最適化. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
49. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 山本晴菜: 当院におけるダクラスタビル+アスナブレビル併用療法の成績. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
50. 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗: 非切除悪性肝門部胆道狭窄に対するBONASTENT M-Hilar使用によるstent in stentについて. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
51. 豊永啓翔, 鄭 浩柄, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 藤本亜弓, 石川隆之, 今井幸弘: 急性肝不全を呈したEpstein-Barr Virus関連血球貪食性リンパ組織球症の1例. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
52. 奥村 圭, 杉之下与志樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 肝硬変患者の難治性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注療法(CART)の検討. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
53. 畑森裕之, 和田将弥, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 上原慶一郎: 自己免疫性膵炎に対するEUS-FNA施行後に特異的な形態を呈する膵液瘻を来した1例. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
54. 伊藤卓彦, 谷口洋平, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 松本一寛, 北本博規, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 上原慶一郎: 血を契機に発見され, EUS-FNAで診断することができた胃迷入膵の1例. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
55. 青山直樹, 福島政司, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 小腸内視鏡で経過観察しえたII型腸管症関連T細胞リンパ腫(ESTL)の3例. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
56. 松本一寛, 谷口洋平, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 北本博規, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 内視鏡的硬化療法を行った十二指腸静脈瘤破裂の1例. 日本消化器病学会近畿支部第105回例会, 大阪, 2016. 9. 17
57. 和田将弥, 谷口洋平: 当院における狭義の先天性胆道拡張症の検討. 第52回日本胆道学会学術集会, 横浜, 2016. 9. 30
58. 鄭 浩柄: 消化器疾患の最近の話題-C型肝炎治療を中心に-. Pharmacy Seminar in Port Island-最新治療を学ぶ会-, 神戸, 2016. 9. 30
59. 猪熊哲朗: 初診患者の診断プロセスを考えよう-発熱・腹痛・下痢・皮疹を認めた40代のスーパー店員-. Next Symposium 2016 in Kobe, 神戸, 2016. 10. 6
60. 井上聡子: IBD診療のポイントとピットホール. 第6回IBD Research Seminar, 大阪, 2016. 10. 8
61. Matsumoto K, Taniguchi Y, Shimeno N, Inokuma T: Feasibility and safety of laparoscopic and endoscopic surgery for gastric submucosal tumors. UEG 2016, Vienna, Austria, 2016. 10. 15-19

62. Hatamori H, Fukushima M, Inokuma T: Efficacy and safety of urgent double balloon enteroscopy-assisted endoscopic retrograde cholangiopancreatography. UEG 2016, Vienna, Austria, 2016.10.15-19
63. 森田周子：総合討論：拡大内視鏡画像の検討および病理対比について。新潟神戸拡大内視鏡研究会，神戸，2016.10.29
64. 森田周子：上部消化管出血性病変に対して緊急上部消化管内視鏡を試行した症例の検討。新潟神戸拡大内視鏡研究会，神戸，2016.10.29
65. 杉之下与志樹：消化器（肝）：肝疾患診療における超音波－基本から最新の技術まで。日本超音波医学会第43回関西地方学術集会，大阪，2016.10.29
66. 鄭 浩柄：消化器2（消化管②）。日本超音波医学会第43回関西地方学術集会，大阪，2016.10.29
67. 占野尚人，奥村 圭，畑森裕之，伊藤卓彦，松本一寛，細谷和也，南出竜典，北本博規，谷口洋平，福島政司，和田将弥，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗，上原慶一郎：当院における胃癌ESD非切除例の検討。JDDW2016，神戸，2016.11.3
68. 井上聡子，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，伊藤卓彦，松本一寛，北本博規，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，今井幸弘，猪熊哲朗：当院における好酸球性胃腸炎の臨床像。JDDW2016，神戸，2016.11.4
69. 谷口洋平，奥村 圭，畑森裕之，伊藤卓彦，松本一寛，北本博規，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：当院における非切除悪性肝門部胆道狭窄に対するSelf-expandable metallic stent（SEMS）について。JDDW2016，神戸，2016.11.5
70. 和田将弥，谷口洋平，奥村 圭，畑森裕之，伊藤卓彦，松本一寛，細谷和也，南出竜典，北本博規，福島政司，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：当院におけるEUS-FNAの偶発症についての検討。JDDW2016，神戸，2016.11.5
71. Morita S：Current status of GI women in Asia. APDW2016，神戸，2016.11.5
72. 猪熊哲朗：HBV再活性化の現状。バラクルード10周年記念講演会in兵庫，神戸，2016.11.17
73. 鄭 浩柄：脂肪肝に由来する肝発癌メカニズム～遺伝子解析からのアプローチ～。西神戸消化器疾患講演会，神戸，2016.11.17
74. 谷口洋平：Fresh Endoscopist Session 4（FS4）胃・胆膵。日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会，京都，2016.11.26
75. 占野尚人，福島政司，森田周子，猪熊哲朗：高齢者早期胃癌に対するESD。日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会，京都，2016.11.26
76. 森田周子，福島政司，占野尚人，猪熊哲朗：拾い上げ困難な食道癌症例の検討－過去2年以内に上部消化管内視鏡施行したが指摘できなかった当院での食道癌症例の検討－。日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会，京都，2016.11.26
77. 和田将弥，谷口洋平，猪熊哲朗：当院における膵癌に対するEUS-FNAの現状。日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会，京都，2016.11.26
78. 松本一寛，森田周子，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，伊藤卓彦，北本博規，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗，今井幸弘：食道癌を侵入門戸としたリステリア菌血症の一例。日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会，京都，2016.11.26
79. 伊藤卓彦，谷口洋平，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，松本一寛，北本博規，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗，上原慶一郎：重篤な出血をきたしたため外科的に切除した胃平滑筋腫の1例。日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会，京都，2016.11.26
80. 青山直樹，和田将弥，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，伊藤卓彦，松本一寛，北本博規，谷口洋平，福島政司，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗，今井幸弘：下部消化管内視鏡検査時に偶然発見，摘除した鞭虫症の1例。日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会，京都，2016.11.26
81. 畑森裕之，谷口洋平，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，伊藤卓彦，松本一寛，北本博規，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗，上原慶一郎：EUS-FNAで診断困難であった脱分化型脂肪肉腫の1例。日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会，京都，2016.11.26

82. 奥村 圭, 井上聡子, 青山直樹, 豊永啓翔, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:大量出血を契機に発見された小腸悪性リンパ腫の1例. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会, 京都, 2016.11.26
83. 北本博規, 占野尚人, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘:内視鏡的経過を追っているLymphomatoid Gastropathyの1例. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会, 京都, 2016.11.26
84. 豊永啓翔, 谷口洋平, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 上原慶一郎:胆道鏡(SpyGlass™MDS)による観察, 生検が診断に有用であった胆管断端神経腫の1例. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会, 京都, 2016.11.26
85. 谷口洋平, 奥村 圭, 和田将弥, 杉之下与志樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗:非切除悪性肝門部胆管狭窄に対してMetallic stentに留置後にERCP下ラジオ波焼灼術を施行した1例. 第50回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2016.11.30
86. 鄭 浩柄:肝疾患診療における当院の院内連携について. 兵庫肝疾患連携シンポジウム2016, 神戸, 2016.12.8
87. 猪熊哲朗:当院におけるC型肝炎診療の現状. 神戸肝疾患病診連携の会, 神戸, 2016.12.15
88. 杉之下与志樹:当院におけるC型肝炎診療の現状. 神戸肝疾患病診連携の会, 神戸, 2016.12.15
89. 猪熊哲朗:C型肝炎患者の現状~CKDを含めて~, エレルサ・グラジナ発売記念講演会in兵庫, 神戸, 2017.2.18
90. 占野尚人:症例呈示(胃・食道). 第349回兵庫県消化管研究会, 神戸, 2017.2.23
91. 豊永啓翔:症例呈示(胃). 第349回兵庫県消化管研究会, 神戸, 2017.2.23
92. 井上聡子:Young Investigator Session 6 大腸(3). 日本消化器病学会近畿支部第106回例会, 大阪, 2017.2.25
93. 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗:痔腫瘍に対するEZ Shot 3 plusの使用経験について. 日本消化器病学会近畿支部第106回例会, 大阪, 2017.2.25
94. 北本博規, 福島政司, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:全胃幽門輪温痔頭十二指腸切除後の残痔瘻石に対して内視鏡治療を行った1例. 日本消化器病学会近畿支部第106回例会, 大阪, 2017.2.25
95. 奥村 圭, 井上聡子, 青山直樹, 豊永啓翔, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 上原慶一郎:急激に進行した関節リウマチに伴う消化管アミロイドーシスの1例. 日本消化器病学会近畿支部第106回例会, 大阪, 2017.2.25
96. 青山直樹, 和田将弥, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘:十二指腸副乳頭神経内分泌腫瘍の1例. 日本消化器病学会近畿支部第106回例会, 大阪, 2017.2.25
97. 畑森裕之, 福島政司, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:当院におけるS状結腸軸捻転の検討. 日本消化器病学会近畿支部第106回例会, 大阪, 2017.2.25
98. 豊永啓翔, 和田将弥, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:過粘稠性Klebsiella pneumoniaeによる侵襲性肝膿瘍症候群. 日本消化器病学会近畿支部第106回例会, 大阪, 2017.2.25
99. 杉之下与志樹:慢性肝疾患患者のそう痒症に対する当院における対応. 慢性肝疾患と関連疾患を考える会, 神戸, 2017.3.2
100. 伊藤卓彦:当院におけるサムスカ使用経験に基づく考察. 神戸芝蘭消化器セミナー, 神戸, 2017.3.11
101. 谷口洋平:当院における痔瘻診療の現状について. 神戸痔瘻早期発見を考える会, 神戸, 2017.3.16

VII. 1. 6 呼吸器内科

1. 藤本大智, 加藤了資, 清水亮子, 佐藤悠城, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 寺岡俊輔, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: 進行期非小細胞肺癌患者における化学療法による薬剤性肺炎についての検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 8
2. 永田一真: Pro/Con 急性期の呼吸管理. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 8
3. 佐藤悠城, 植木一仁, 藤本大智, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 加藤了資, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 小久保雅樹, 富井啓介: 間質性肺炎合併肺癌に対する放射線療法の安全性についての検討. 第56回日本呼吸器学会, 京都, 2016. 4. 8
4. 中川 淳: 間質性肺炎合併肺結核. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 9
5. 中川嘉宏, 古郷摩利子, 永田一真, 伊藤宗洋, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 加藤了資, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: 急性II型呼吸不全の予後因子の検討. 第56回日本呼吸器学会総会, 京都, 2016. 4. 9
6. 伊藤次郎, 永田一真, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 加藤了資, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: 間質性肺炎の急性増悪に関する新たな診断基準と予後についての検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 9
7. 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 加藤了資, 中川 淳, 大塚浩二郎, 植木一仁, 小久保雅樹, 富井啓介: 間質性肺炎合併肺癌に対する放射線療法の安全性についての検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 9
8. 古郷摩利子, 永田一真, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 加藤了資, 清水亮子, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: 意識障害のある1型呼吸不全に対するNPPVの使用についての検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 9
9. 大塚浩二郎, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 加藤了資, 清水亮子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簀智幸政, 富井啓介: 喘息患者の安定期のFENO値の長期変動と臨床所見との関連の検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 9
10. 永田一真, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: 特発性間質性肺炎急性増悪の生存退院例における長期予後に関する検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 9
11. 寺岡俊輔, 藤本大智, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 加藤了資, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: EGFR-TKIの治療効果に対する制酸剤併用の影響. 第56回呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 10
12. 藤本大智, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 佐藤悠城, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 伊藤次郎, 加藤了資, 清水亮子, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: EGFR遺伝子変異陰性もしくは不明のPS不良進行期非小細胞肺癌患者における化学療法によるPS変化についての検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 10
13. 中川 淳: 間質性肺炎合併肺結核. 第91回日本結核病学会総会, 金沢, 2016. 5. 26
14. 平林亮介, 寺岡俊輔, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 上田浩之, 富井啓介: 気管支内への義歯陥入8年後より咯血を繰り返した1症例. 第87回日本呼吸器学会 近畿地方会, 京都, 2016. 7. 8
15. 佐藤悠城, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簀智幸政, 大塚浩二郎, 富井啓介: ペグフィルグラスチムによる毛細血管漏出症候群の1例. 第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
16. 寺岡俊輔, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 志水隼人, 西岡弘晶, 今井幸弘, 富井啓介: Sjogren症候群を合併した特発性CD4陽性Tリンパ球減少症患者に認めた播種性クリプトコッカス症の1例. 第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
17. 伊藤次郎, 大塚浩二郎, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簀智幸政, 坂之上朗, 浜川博司, 高橋 豊, 今井幸弘, 山鳥一郎, 富井啓介: びまん性粒状影を呈した多発血管炎性肉芽腫症の1例. 第117回日本結核病学会近畿地方会・第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9

18. 古郷摩利子, 小野雄一郎, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 小久保雅樹, 小坂恭弘, 今井幸弘, 瀬尾龍太郎, 富井啓介: 骨破壊を伴い肺癌が疑われた悪性リンパ腫の1例. 第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
19. 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 瀬尾龍太郎, 富井啓介: VV-ECMO後合併症管理に難渋したインフルエンザ肺炎の1例. 第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
20. 河内勇人, 寺岡俊輔, 永田一真, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 上田浩之, 富井啓介: 大量咯血による気道閉塞を繰り返す気管支動脈造影で初めて判明した蔓状血管腫の1例. 第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
21. 森 令法, 古郷摩利子, 河内勇人, 平林亮介, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 齋藤伴樹, 南 和宏, 浜川博司, 高橋 豊, 富井啓介: 手術2年後に両側肺多発GGNで再発した肺腺癌の1例. 第87回日本呼吸器学会近畿地方会・第118回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
22. 平林亮介, 藤本大智, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川 淳, 簀智幸政, 大塚浩二郎, 坂之上朗, 濱川博司, 高橋 豊, 今井幸弘, 富井啓介: 粘液産生胸腺腺癌に対しCBDCA+PEM+BEV療法およびPEM+BEV維持療法が奏功した1例. 第104回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2016. 7. 15
23. 富井啓介: HMV適応判定における経皮CO2モニターの精度と適応. 第38回日本呼吸療法医学会学術集会, 名古屋, 2016. 7. 16
24. 河内勇人, 佐藤悠城, 森 令法, 平林亮介, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 吉水 聡, 富井啓介: 視野障害を契機に診断に至りアフタチニブが奏効した肺腺癌脈絡膜転移の1例. 第104回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2016. 7. 16
25. 森 令法, 伊藤次郎, 河内勇人, 平林亮介, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 中村文香, 長野 徹, 今井幸弘, 富井啓介: ニボルマブ投与後にStevens-Johnson症候群を発症した肺腺癌の1例. 第104回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2016. 7. 16
26. Teraoka S, Fujimoto D, Kawachi H, Hirabayashi R, Mori R, Ito J, Kogo M, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Hatachi Y, Tomii K: Intolerance of pirfenidone and its associated factors in the real world. *European respiratory society international congress 2016, London, England, 2016. 9. 4*
27. 古郷摩利子, 永田一真, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 加藤了資, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: Noninvasive ventilation for acute hypoxemic respiratory failure with mildly altered consciousness. *European Respiratory Society International Congress 2016, London, England, 2016. 9. 6*
28. 新村里美, 簀谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 辰巳智美, 藤本大智, 松岡直樹: 当院の肺癌患者に対するニボルマブ投与の甲状腺機能への影響の検討. 第91回京都内分泌同好会, 京都, 2016.10. 1
29. 伊藤次郎, 永田一真, 白木 晶, 佐藤 晋, 西村直樹, 泉 信有, 立川 良, 富井啓介: ハイフローセラピー (HFT) の使用実態に関する多施設共同研究. 第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2016.10.10
30. 富井啓介: 救急, do not intubate: 酸素療法, HFT, NPPV, 挿管人工呼吸. 第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 横浜, 2016.10.11
31. 中川嘉宏, 加藤了資, 大塚浩二郎, 伊藤宗洋, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簀智幸政, 富井啓介, 齋藤伴樹, 南 和宏, 大久保祐, 坂之上朗, 浜川博司, 高橋豊, 今井幸弘: 異所性甲状腺腫に対するEBUS-TBNAにて血気胸を来した1例. 第100回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 大阪, 2016.11.26

32. 古郷摩利子, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 佐藤悠城, 寺岡俊介, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 浜川博司, 高橋 豊, 小久保雅樹, 富井啓介: ECMOの一時的な使用により抗癌治療が可能となった肺癌の3例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
33. 平林亮介, 大塚浩二郎, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 旗智幸政, 坂之上一朗, 浜川博司, 高橋 豊, 今井幸弘, 高橋克仁, 富井啓介: 著明な胸背部痛で発症した肺類上皮血管内皮腫の1例. 日本呼吸器学会第88回近畿地方会, 京都, 2016.12.10
34. 佐藤悠城, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 旗智幸政, 大塚浩二郎, 今井幸弘, 富井啓介: 16年間にわたり増悪を繰り返し, 亜急性期から慢性進行期に至る長期間の経過の追えた過敏性肺炎の1例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
35. 古郷摩利子, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 瀬尾龍太郎, 浜川博司, 高橋 豊, 小久保雅樹, 富井啓介: ECMOの一時的な使用により抗癌治療が可能となった肺癌の3例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
36. 中川嘉宏, 大塚浩二郎, 伊藤宗洋, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 旗智幸政, 松下章子, 上田浩之, 今井幸弘, 富井啓介: 出血コントロール困難であった気管・気管支アミロイドーシスの1例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
37. 伊藤宗洋, 永田一真, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一, 富井啓介: 気管支喘息と鑑別を要したアナキシアレルギーの1例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
38. 森 令法, 伊藤宗洋, 永田一真, 河内勇人, 平林亮介, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: 急速に進行する両側肺多発空洞病変で再発した乳癌の1例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会・第118回日本結核病学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
39. 河内勇人, 伊藤次郎, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 富井啓介: 経気管支穿刺ドレナージにより速やかに改善を認めた肺化膿症の1例. 日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
40. 寺岡俊輔, 藤本大智, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 競 晴香, 田中年恵, 中西真也, 富井啓介: 非小細胞肺癌に対するNivolumabの治療効果と早期免疫関連有害事象との相関についての前向き観察研究. 第57回日本肺癌学会学術総会, 福岡, 2016.12.19
41. 佐藤悠城, 上原慶一郎, 藤本大智, 菅原雅史, 松浦亮一郎, 井本秀志, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: 市中病院病理部での, PD-L1免疫染色の実施と臨床応用可能性についての検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19
42. 伊藤次郎, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 高橋 豊, 富井啓介: 急速進行性間質性肺炎を伴って発症した関節リウマチの1例. 第86回日本呼吸器学会近畿地方会・第116回日本結核病学会近畿地方会, 京都, 2016.12.19
43. 藤本大智, 上原慶一郎, 坂之上一朗, 佐藤悠城, 伊藤宗弘, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川淳, 大塚浩二郎, 小坂恭弘, 浜川博司, 今井幸弘, 小久保雅樹, 高橋 豊, 富井啓介: 局所進行非小細胞肺癌における化学放射線治療前後でのPD-L1発現の変化. 第57回日本肺癌学会, 福岡, 2016.12.20
44. 藤本大智, 伊藤宗洋, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 伊藤次郎, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 富井啓介: 1st EGFR-TKIとして使用されたアファチニブの有効性と安全性についての検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.20
45. 佐藤悠城, 藤本大智, 伊藤宗洋, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 旗智幸政, 坂之上一朗, 浜川博司, 高橋 豊, 上原慶一郎, 今井幸弘, 富井啓介: 多発GGN (ground glass nodule) の臨床病理学的背景と自然史についての後ろ向き検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.20

46. 伊藤宗洋, 藤本大智, 加藤了資, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: 進行期非小細胞肺癌患者の筋肉量と予後の検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.20
47. 坂之上一朗, 浜川博司, 伊達直希, 齋藤伴樹, 南 和宏, 高橋 豊, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 今井幸弘: 当院における間質性肺炎合併肺癌手術症例の検討. 第57回日本肺癌学会, 福岡, 2016.12.21
48. 藤本大智, 上原慶一郎, 坂之上一朗, 佐藤悠城, 伊藤宗洋, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川淳, 大塚浩二郎, 小坂恭弘, 浜川博司, 今井幸弘, 小久保雅樹, 高橋 豊, 富井啓介: 局所進行非小細胞肺癌における化学放射線治療前後でのPD-L1発現の変化. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.21
49. 富井啓介: 薬物療法による間質性肺炎急性増悪の回避と積極的診断治療. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.21
50. 新村里美, 簀谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 辰巳智美, 藤本大智, 松岡直樹: 当院で経験したニボルマブによる甲状腺機能異常について. 第107回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2017. 2 .11
51. 服部貴之, 小坂恭弘, 大塚浩二郎, 奥田千幸, 鳴神 亮, 植木一仁, 小倉健吾, 今輩倍敏行, 片上信之, 富井啓介, 小久保雅樹: 気管支癌に対し外照射と画像誘導線源治療を行った1例. 第43回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2017. 2 .18
52. 平林亮介, 伊藤次郎, 大塚浩二郎, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簀智幸政, 今井幸弘, 植木一仁, 小久保雅樹, 富井啓介: Osimertinib投与中に小細胞肺癌への形質転換を認めたT790M陽性肺腺癌の1例. 第105回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2017. 2 .25
53. 伊藤宗洋, 藤本大智, 河内勇人, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 小倉健吾, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 富井啓介: 脳転移放射線治療後に脳浮腫を伴う症状増悪がみられラムシルマブ(RAM)とドセタキセル(DTX)併用療法を行った肺扁平上皮癌の1例. 第105回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2017. 2 .25
54. 河内勇人, 佐藤悠城, 藤本大智, 森 令法, 平林亮介, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介, 吉水 聡, 上原慶一郎, 今井幸弘: Osimertinibが奏効した肺腺癌脈絡膜転移の1例. 第105回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2017. 2 .25

VII. 1. 7 血液内科

1. Fujimoto A, Shimomura Y, Ono Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Tabata S, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: Favorable outcomes of allogeneic stem cell transplantation using umbilical cord blood as an alternative donor source in adults with hematologic malignancies. 42nd Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation, Valencia, Spain, 2016. 4 . 4
2. Shimomura Y, Ochi Y, Koba Y, Ono Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Tabata S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: Increase in eosinophil counts in bone marrow is closely related with acute graft versus host disease. 42nd Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation, Valencia, Spain, 2016. 4 . 5
3. Katoh D, Shimomura Y, Maruoka H, Ochi Y, Yoshioka S, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: Modified BIOMED-2, a sensitive and easy MRD detection system, is useful in the estimation of the needs for allogeneic transplantation in Ph-negative. ALL The 7th JSH International Symposium 2006 in Awaji, 淡路, 2016. 5 .13
4. 藤本亜弓, 平本展大, 下村良充, 米谷 昇, 石川隆之: 自家移植後に中枢神経再発を認めレナリドミドが奏功した形質細胞性白血病. 第41回日本骨髄腫学会学術集会, 徳島, 2016. 5 .29
5. 松下章子: 当院でのPVにおけるルキソリチブの使用経験. 第9回神戸血液セミナー, 神戸, 2016. 6 .11
6. 吉岡 聡, 越智陽太郎, 加藤大祐, 松下章子, 石川隆之: 菌状息肉症に合併したホジキンリンパ腫. 第105回近畿血液学地方会, 大阪, 2016. 6 .18
7. 小野祐一郎, 藪下知宏, 木場悠介, 田端淑恵, 石川隆之: 17コース以上ブレンツキシマブ・ベドチンを継続して寛解を維持している骨髄移植後再発ホジキンリンパ腫の1例. 第105回近畿血液学地方会, 大阪, 2016. 6 .18

8. 藤本亜弓, 下村良充, 平本展大, 米谷 昇, 石川隆之: 腎移植後リンパ増殖性疾患の2例. 第105回近畿血液学地方会, 大阪, 2016. 6 .18
9. 藪下知宏, 木場悠介, 小野祐一郎, 田端淑恵, 石川隆之: 高齢者に発症したEBV関連T細胞リンパ増殖性疾患の1例. 第105回近畿血液学地方会, 大阪, 2016. 6 .18
10. 加藤大祐, 越智陽太郎, 吉岡 聡, 松下章子, 石川隆之: ダサチニブ投与後に筋肉内血腫を合併した慢性骨髄性白血病の1例. 第105回近畿血液学地方会, 大阪, 2016. 6 .18
11. 藪下知宏: 当院でのルキソリチブの使用経験. Novartis Hematology Forum in Kyoto, 京都, 2016. 6 .25
12. 米谷 昇: 悪性リンパ腫救済療法における当科の状況-ジールスタ使用経験-. 悪性リンパ腫セミナー, 神戸, 2016. 6 .30
13. 加藤大祐, 吉岡 聡, 石川隆之: 微小骨髄浸潤が濾胞性リンパ腫の治療予後に与える影響. 第11回meet the hematologists, 京都, 2016. 7 . 2
14. 下村良充, 森田真梨, 中村桃子, 加藤大祐, 藪下知宏, 藤本亜弓, 平本展大, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 米谷昇, 松下章子, 石川隆之: 頸部リンパ節腫大と血小板減少をきたし診断に苦慮した1例. 第76回兵庫県白血病懇話会, 神戸, 2016. 7 .16
15. 吉岡 聡: AML治療今昔 あの時, 今の自分ならどう治療する. 第76回兵庫県白血病懇話会, 神戸, 2016. 7 .16
16. 石川隆之: 骨髄異形成症候群の診断と最新の治療戦略. MDSセミナー2016 in鳥取, 鳥取, 2016. 7 .22
17. 小野祐一郎: 当院におけるBVによる自家移植前salvage療法の使用経験. Meet the experts 2016, 東京, 2016. 7 .23
18. Katoh D : The prognostic significance of minimal bone marrow involvement in follicular lymphoma treated with immunochemotherapy. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016. 7 .28
19. 石川隆之: 骨髄異形成症候群の診断と最新の治療戦略. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016. 7 .29
20. 藪下知宏, 木場悠介, 小野祐一郎, 田端淑恵, 松岡亮介, 今井幸弘, 石川隆之: DLBCLに対する初回治療終了後早期に発症したサルコイドーシスの1例. 第56回日本リンパ網内系学会総会, 熊本, 2016. 9 . 3
21. 森田真梨: BCR-ABL陰性MPNにおけるJAK2 allele burdenの臨床的意義. 第10回神戸血液セミナー, 神戸, 2016. 9 . 3
22. 加藤大祐, 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: 状腺原発悪性リンパ腫の検討. 第57回神戸血液研究会, 神戸, 2016. 9 .17
23. 城田祥吾, 下村良充, 加藤大祐, 小野祐一郎, 米谷 昇, 今井幸弘, 石川隆之: 急性リンパ性白血病が疑われた小細胞癌の1例. 第213回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9 .24
24. 下村良充, 丸岡隼人, 藤本亜弓, 平本展大, 米谷 昇, 石川隆之: AML with PRKG2-PDGFRB fusion gene was successfully treated with imatinib. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.13
25. 青木一成, 近藤忠一, 竹田淳恵, 水谷知里, 平本展大, 安齋尚之, 野吾和宏, 小高泰一, 伊藤 満, 橋本尚子, 石川隆之, 今田和典, 川端 浩, 高折晃史: Impact of azacitidine before allogeneic stem-cell transplantation for myelodysplastic syndromes. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.13
26. 下村良充, 加藤大祐, 藤本亜弓, 藪下知宏, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: Guillain-Barre syndrome after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.13
27. 糸永英弘, 石山 謙, 青木 淳, 青木一成, 石川隆之, 大橋一輝, 福田隆浩, 小澤幸泰, 小林直樹, 内田直之, 衛藤徹也, 高梨美乃子, 一戸辰夫, 熱田由子, 宮崎泰司: Impact of der (1;7) (q10;p10) and -7/del (7q) on the prognostic value after allo-HSCT in MDS. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.14
28. 藤本亜弓, 下村良充, 加藤大祐, 藪下知宏, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: Low blood level of Tacrolimus can be a risk of graft failure after cord blood transplantation. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.14
29. 平本展大, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 今井幸弘, 吉田健一, 小川誠司, 石川隆之: Donor cell-derived transient abnormal myelopoiesis after umbilical cord blood transplantation. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.14

30. 藪下知宏, 加藤大祐, 藤本亜弓, 下村良充, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: The impact of leukemic stem cell marker expression on the prognosis of acute myeloid leukemia. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.14
31. 加藤大祐, 藪下知宏, 藤本亜弓, 下村良充, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: Parvovirus B19 infection in the adult patients after allogeneic stem cell transplantation. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.14
32. 長畑洋佑, 近藤忠一, 北野俊行, 菱澤方勝, 山下浩平, 橋本尚子, 石川隆之, 高折晃史: The significance of HD-AraC before allo-HSCT for non-CBF acute myeloid leukemia in first CR. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.15
33. 小野祐一郎: Prognostic value of BM involvement detected with FDG/PET or Ig rearrangement. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.15
34. 中村桃子, 下村良充, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for relapsed or refractory lymphoma. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.15
35. 加藤大祐, 石川隆之: 再発・難治性DLBCLの予後予測因子. 第106回近畿血液学地方会, 大阪, 2016.10.29
36. 古宮健至, 藪下知宏, 吉岡 聡, 石川隆之: VATSにて早期治療が可能になった節外性NK/T細胞リンパ腫の1例. 第106回近畿血液学地方会, 大阪, 2016.10.29
37. 片山宣郎, 加藤大祐, 下村良充, 小野祐一郎, 米谷 昇, 石川隆之: 脾破裂を合併した急性骨髄性白血病の1例. 第106回近畿血液学地方会, 大阪, 2016.10.29
38. 佐渡康介, 森田真梨, 藤本亜弓, 平本展大, 松下章子, 石川隆之: 系統不明確な急性白血病 (AUL) との鑑別を要したNPM1変異陽性急性骨髄性白血病の1例. 第106回近畿血液学地方会, 大阪, 2016.10.29
39. 森田真梨, 下村良充, 藤本亜弓, 平本展大, 松下章子, 石川隆之: BCR-ABL陰性骨髄増殖性疾患 (MPN) におけるJAK2V617F allele burden測定の意義. 第106回近畿血液学地方会, 大阪, 2016.10.29
40. 中村桃子, 吉岡 聡, 藪下知宏, 石川隆之, 伊藤隆彦, 山本和代: クリオグロブリン腎炎を契機に診断したCLLの1例. 第106回近畿血液学地方会, 大阪, 2016.10.29
41. 藪下知宏, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 石川隆之: 周期性血球減少を呈した自己免疫性好中球減少症の1例. 第106回近畿血液学地方会, 大阪, 2016.10.29
42. 中村桃子, 藪下知宏, 吉岡 聡, 石川隆之: 左大腿部痛と筋力低下を契機に発症したBurkitt lymphomaの1例. 第77回兵庫県白血病懇話会, 神戸, 2016.11.12
43. Shimomura Y, Ono Y, Yoshioka S, Hiramoto N, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: Splenomegaly Negatively Affects Patients with Acute Myeloid Leukemia and Myelodysplastic Syndrome after Allogeneic Stem Cell Transplantation. 58th American Society of Hematolog annual meeting and exposition, San Diego, CA, 2016.12. 3
44. Kato D, Yoshioka S, Yabushita T, Shimomura S, Ono Y, Hiramoto N, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: The Clinical Impact of Minimal Bone Marrow Involvement on the Outcome of Patients with Follicular Lymphoma. 58th American Society of Hematolog annual meeting and exposition, San Diego, CA, 2016.12. 4
45. Yoshioka S, Miura Y, Iwasa M, Fujishiro A, Sugino N, Fujii S, Nakagawa Y, Sato A, Yokota A, Hirai H, Ichinohe T, Kondo Takaori A, Maekawa T: Late Adherent Subpopulation in Umbilical Cord Blood Has the Same Characteristics and Hematopoiesis-Supporting Capacity As Mesenchymal Stromal/Stem Cells. 58th American Society of Hematolog annual meeting and exposition, San Diego, CA, 2016.12. 4
46. Maeda Y, Tobinai K, Nagai H, Nakane T, Shimoyama T, Nakazato T, Sakai R, Ishikawa T, Izutsu K, Ueda R: Pralatrexate: Phase 1/2 Study in Japanese Patients with Relapsed or Refractory Peripheral T-Cell Lymphoma (PTCL). 58th American Society of Hematolog annual meeting and exposition, San Diego, CA, 2016.12. 5
47. 平本展大: 血液内科領域でのアスペルギルス症に対する薬剤選択. 真菌症フォーラムin神戸, 神戸, 2017. 2. 3
48. 藪下知宏, 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之: ステロイド抵抗性急性GVHDに対する当院のMSC使用経験. 第一回KSCTG研究会, 大阪, 2017. 2. 4
49. 中村桃子: 当院におけるアザシチジンの使用経験. 第5回神戸MDSフォーラム, 神戸, 2017. 2. 11

50. 下村良充：Splenomegaly Negatively Affects Patients with Acute Myeloid Leukemia and Myelodysplastic Syndrome after Allogeneic Stem Cell Transplantation. Hematology Conference in Osaka, 大阪, 2017. 2 .17
51. 鈴木憲史, 熊谷匡也, 杉浦 勇, 石川隆之, 五十嵐忠彦, 佐藤 勉, 宮本敏浩, 内山倫宏, 上田恭典, 小野孝明, 木口 亨, 林亜晃夫, 須永義則, 佐々木亨, 末永孝生：日本人非ホジキンリンパ腫を対象とした, 造血幹細胞の動員及び採取に用いられるplerixaforの安全性及び有効性の検討. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 2
52. 小野祐一郎, 吉岡 聡, 中村桃子, 森田真梨, 加藤大祐, 藤本亜弓, 藪下知宏, 下村良充, 平本展大, 米谷昇, 松下章子, 丸岡隼人, 井上和久, 石川隆之：末梢血CD34陽性細胞数に基づく末梢血幹細胞採取時の処理血液量の設定. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 2
53. 加藤大祐, 丸岡隼人, 下村良充, 小野祐一郎, 米谷 昇, 石川隆之：急性リンパ性白血病におけるIgH再構成を利用したBIOMED2改変法でのMRD評価. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 3
54. 藪下知宏, 中村桃子, 森田真梨, 加藤大祐, 藤本亜弓, 下村良充, 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷昇, 松下章子, 石川隆之：当院における節外性NK/T細胞性リンパ腫（ENKTL）に対する同種移植の成績. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 3
55. 森田真梨, 吉岡 聡, 平本展大, 中村桃子, 藤本亜弓, 藪下知宏, 加藤大祐, 下村良充, 小野祐一郎, 米谷昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之：初回治療として同種造血幹細胞移植を行った最重症再生不良性貧血5例の治療成績. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 3
56. 刈谷美里, 岡田 裕, 下村良充, 平本展大, 橋本尚子, 大歳 愛, 牧はるか：同種造血幹細胞移植患者におけるバンコマイシンの腎機能障害に影響を与える併用薬についての後ろ向き調査. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 3
57. 吉永則良, 諫田淳也, 相佐好伸, 萩原将太郎, 森 毅彦, 福田隆浩, 石田陽治, 橋本尚子, 一戸辰夫, 熱田由子, 高折晃史：HIV感染が自家末梢血幹細胞移植の成績に及ぼす影響－日本造血幹細胞移植学会データベースを用いた解析－. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 3
58. 藤井紀恵, 三浦康生, 岩佐磨佐紀, 吉岡 聡, 藤城 綾, 杉野典子, 平井秀世, 高折晃史, 一戸辰夫, 前川 平：凍結保存された臍帯血細胞からの間葉系幹細胞分離. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 3
59. 糸永秀弘, 石山 謙, 青木 淳, 青木一成, 石川隆之, 内田直行, 大橋一輝, 上田恭典, 福田隆浩, 一戸辰夫, 高梨美乃子, 熱田由子, 宮崎泰司：60歳以上の骨髓異形成症候群症例に対する同種造血幹細胞移植の成績. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 4
60. 城田祥吾, 加藤大祐, 下村良充, 小野祐一郎, 米谷 昇, 石川隆之：急性骨髄性白血病の同種末梢血幹細胞移植後に発症した腕神経叢炎の1例. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 4
61. 山内洋子, 井上佐智, 太田里香, 前田待子, 田原仁美, 長崎節子, 田中真咲, 毛利京子, 下村良充, 橋本尚子：造血幹細胞移植患者に対するリフレクソロジーの有効性の検討. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 松江, 2017. 3 . 4
62. 森田真梨, 中村桃子, 藪下知宏, 藤本亜弓, 平本展大, 吉岡 聡, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之：臍帯血移植後の生着不全に対し再移植を施行したGCSF不応最重症再生不良性貧血2例. 第58回神戸血液病研究会, 神戸, 2017. 3 .18

VII. 1. 8 腫瘍内科

1. 安井久晃：実地臨床における大腸がん化学療法のコツ. Hyogo HUB meeting, 2016. 5 .26
2. 安井久晃：「抗がん薬曝露対策の現状と将来－3学会ガイドラインを利用するために－」医師の立場として行うべき曝露対策. 第8回JSOPP（日本がん薬剤学会）学術大会, 名古屋, 2016. 6 . 4
3. 安井久晃：胃癌術後補助化学療法における治療方針. Meet The Expert in Seishin, 2016. 6 .17
4. Kotaka M, Satake H, Okita Y, Hatachi Y, Kotake T, Hashida H, Kato T, Tsuji A: Regorafenib vs TAS-102 as salvage-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard chemotherapies : A multicenter retrospective comparison study. 18th WCG, Barcelona 2016. 6 .29－ 7 . 2

5. Tsuji A, Nakamura M, Ogawa M, Satake H, Kotake T, Hatachi Y, Takagane A, Okita Y, Nakamura K, Onikubo T, Takeuchi M, Fujii M, Nakajima T: Phase I trial of FOLFOXIRI in combination with Panitumumab as first-line treatment of RAS wild-type metastatic colorectal cancer (JACCRO CC-14). 18th WCGC, Barcelona, 2016. 6.29-7.2
6. Satake H, Tsuji A, Hashida H, Tanioka H, Miyake Y, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku M, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Kotaka M, Kato T, Kaihara S: Hepatectomy followed by adjuvant chemotherapy with capecitabine plus oxaliplatin for three months for liver metastases from colorectal cancer: a multicenter phase 2 study. 18th WCGC, Barcelona, 2016. 6.29-7.2
7. 安井久晃:「がん薬物療法における曝露対策の進め方」3学会合同ガイドラインに基づいた, チーム医療としての曝露対策. 第14回日本臨床腫瘍学会, 2016. 7.28-30
8. 北本博規, 福島政司, 米谷 昇, 佐竹悠良, 簗智幸政, 今井幸弘, 猪熊哲朗:小腸内視鏡で診断し得た小腸 Discordant lymphomaの2例. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016. 7.28-30
9. 大北仁裕, 佐竹悠良, 奥山浩之, 西内崇将, 簗智幸政, 古武 剛, 亀井敬子, 辻 晃仁:切除不能進行・再発大腸癌に対するTAS-102, Regorafenib投与の後方視的検討. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016. 7.28-30
10. 佐竹悠良, 辻 晃仁, 古武 剛, 大北仁裕, 簗智幸政, 小高雅人, 亀井敬子, 加藤健志: First-line Chemotherapy with XELOd/OXaliplatin for Advanced Gastric Cancer PI(G-XELOX PI study). 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016. 7.28-30
11. 長野 徹, 鷺見真由子, 小坂博志, 篠原尚吾, 簗智幸政:根治切除不能悪性黒色腫に対するNivolumabの使用経験. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016. 7.28-30
12. 簗智幸政, 佐竹悠良, 大北仁裕, 辻 晃仁, 古武 剛:当院における進行・再発膵臓癌に対するFOLFIRINOX及びGEM+nabPTXの後方視的検討. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016. 7.28-30
13. 茶屋原菜穂子, 清田尚臣, 豊田昌徳, 向原 徹, 藤島佳未, 辻 晃仁, 佐竹悠良, 木村祥子, 小高雅人, 南博信:治療切除不能な進行・再発結腸直腸癌患者に対するセツキシマブ隔週投与の第II相臨床試験. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016. 7.28-30
14. 安井久晃:大腸がん化学療法の最前線. 部長会, 神戸, 2016. 8.26
15. 安井久晃:進行大腸癌における治療戦略 ~ガイドラインを日常臨床に活かす~. 第7回進行消化器癌問題解決フォーラム, 2016. 9. 9
16. Satake H, Nakamura M, Tsuji A, Sagawa T, Tamura F, Hatachi Y, Oguchi K, Takagane A, Kaji T, Sekikawa T, Furukawa M, Kochi M, Ichikawa W, Fujii M, Takeuchi M, Nakajima T: Phase II study to evaluate the efficacy of regorafenib in metastatic colorectal cancer patients by the assessment using FDG-PET/CT (JACCRO CC-12). ESMO 2016 Congress, Copenhagen, 2016.10. 7-11
17. Tsuji A, Eto T, Masuishi T, Satake H, Segawa Y, Tanioka H, Hara H, Kotaka M, Sagawa T, Watanabe T, Nakamura M, Takahashi T, Negoro Y, Manaka D, Fujita H, Suto T, Ichikawa W, Fujii M, Takeuchi M, Nakajima T: Phase II study of third-line cetuximab rechallenge in patients with metastatic wild-type K-RAS colorectal cancer who achieved a clinical benefit in response to first-line cetuximab plus chemotherapy (JACCRO CC-08). ESMO 2016 Congress, Copenhagen, 2016.10. 7-11
18. Yuki S, Komatsu Y, Satake H, Miyamoto Y, Tanioka H, Tsuji A, Asayama M, Shiraishi T, Kotaka M, Makiyama A, Kashiwada T, Takeuchi N, Shimokawa M, Saeki H, Oki E, Emi Y, Baba H, Maehara Y: Updated report: A randomized, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic dexamethasone (dex) therapy for fatigue and malaise due to regorafenib in patient (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC): (KSCC1402/HGCSG1402). ESMO 2016 Congress, Copenhagen, 2016.10. 7-11
19. Funakoshi T, Horimatsu T, Nakamura M, Suyama K, Mizukami T, Arita S, Ozaki Y, Yasui H, Satake Y, Toyoda M, Yazumi S, Kishima T, Nozaki A, Yoshioka A, Matsubara T, Yanagita M, Fukuhara S, Muto M: Chemotherapy in cancer patients undergoing hemodialysis: A multicenter study. ESMO 2016 Congress, Copenhagen, 2016.10. 7-11
20. 佐竹悠良, 宮本裕士, 谷岡洋亮, 辻 晃仁, 朝山雅子, 白石 猛, 結城敏志, 小高雅人, 牧山明資, 小松嘉人, 佐伯浩司, 沖 英次, 江見泰徳, 馬場秀夫, 前原喜彦:大腸癌レゴラフェニブ療法の疲労倦怠感に対する経口ステロイドによる予防の検討. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.10.20-22

21. 安井久晃：ガイドラインに基づいたがん薬物療法における曝露対策. 第54回日本がん治療学会学術集会 学術セミナー34, 横浜, 2016.10.22
22. 安井久晃：がん薬物療法における曝露対策について～組織としてどう取り組むか～. 滋賀医科大学がん医療研修会, 滋賀, 2016.10.26
23. 安井久晃：「がんとVTE」. VTE診療Update, 臨床研究情報センター (TRI), 神戸2016.10.31
24. 安井久晃：がんの情報をどう活用するか～情報難民にならないために～. 第11回がん市民フォーラム in KOBE, 神戸, 2016.11. 5
25. 安井久晃：がん化学療法総論. がん専門薬剤師研修講義, 神戸, 2016.11.16
26. 安井久晃：組織として取り組む抗がん薬曝露対策. 山城北がん地域連携セミナー, 京都, 2016.11.18
27. Ogata T, Satake H, Hatachi Y, Yasui H: Oxaliplatin-induced hyperammonemic encephalopathy. ESMO-ASIA, Singapore, 2016.12.16–19
28. Yamazaki Y, Kito Y, Esaki T, Satake H, Taniguchi H, Tsuda T, Denda T, Moriwaki T, Mori K: Dose-finding phase Ib study of FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer. ESMO-ASIA, Singapore, 2016.12.16–19
29. Satake H, Kondo M, Kotake T, Okita Y, Ogata T, Hatachi Y, Yasui H, Kaihara S, Kotaka M, Kato T, Tsuji A: Phase I study of neoadjuvant chemotherapy with Xeloda and oxaliplatin (G-XELOX) for locally advanced gastric cancer. ASCO-GI, San Francisco, 2017. 1 .19–21
30. Tsuji A, Sunakawa Y, Ichikawa W, Kubota Y, Kochi M, Sekikawa T, Sagawa T, Kotaka M, Nakamura M, Shimada K, Masuishi T, Satake H, Yabuno T, Yoshida T, Goto M, Ota H, Okita Y, Takeuchi M, Fujii M, Nakajima T: A randomized phase II study to investigate the deepness of response (DpR) of FOLFOXIRI plus cetuximab (Erbix) versus FOLFOXIRI plus bevacizumab as the first-line therapy. ASCO-GI, San Francisco, 2017. 1 .19–21
31. Kato T, Kagawa Y, Komatsu Y, Oki E, Yoshino T, Yamazaki K, Yasui H, Satake H, Shibuya K, Oba K, Yamaguchi K: A phase I/II study for panitumumab combined with TAS-102 in patients with RAS wild-type metastatic colorectal cancer (APOLLON study) : Phase I results. ASCO-GI, San Francisco, 2017. 1 .19–21
32. Esaki T, Makiyama A, Kashiwada T, Hosokawa A, Kawada J, Moriwaki T, Horie Y, Satake H, Shinozaki K, Ishida H, Tanioka H, Tsukuda H, Uchino K, Nishikawa K, Sukawa Y, Yamanaka T, Nakamura S, Boku N, Hyodo I, Muro K: T-ACT (WJOG7112G) : A randomized phase II study of weekly paclitaxel ± trastuzumab in patients with HER2-positive advanced gastric or gastroesophageal junction cancer. ASCO-GI, San Francisco, 2017. 1 .19–21
33. 安井久晃：上皮間葉転換とがん化学療法. 兵庫県立こども病院・神戸市立医療センター中央市民病院・理化学研究所多細胞システム形成研究センター (CDB) ジョイントシンポジウム, 神戸, 2017. 1 .21
34. 安井久晃：地域密着型診療から最先端治療まで. 神戸市立医療センター中央市民病院 第1回地域連携セミナー, 神戸, 2017. 1 .26
35. 安井久晃：がん薬物療法と“攻める”サポーターケア. 第17回都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー 化学療法に関する研修会, 香川, 2017. 1 .31
36. 安井久晃：大腸癌の集学的治療の中で化学療法を最大限に生かす. 阪神エリア大腸癌治療カンファレンス, 尼崎, 2017. 2 . 4
37. 安井久晃：がん専門修練医修了10年後の私. 第24回国立がん研究センター医局同窓会, 東京, 2017. 2 .11
38. 安井久晃：支持療法・曝露対策における医師の役割. 平成28年度チーム医療推進のための研修2 (がん化学療法) がんチーム医療体制を深める－支持療法, 曝露対策の取り組み－, 大阪, 2017. 2 .17
39. 安井久晃：その研究は誰のため? ～臨床研究の倫理と正義～. 臨床研究倫理に関する講演会, 神戸, 2017. 2 .22
40. 安井久晃：腫瘍内科医と共に考える大腸癌化学療法～成功のカギは薬剤師にあり～. 第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 大阪, 2017. 2 .25
41. 安井久晃：ESMO Consensus Guidelene Summary～改訂のポイント～. ESMO-GL Leaders Meeting, 神戸, 2017. 3 . 3

42. Satake H, Kondo M, Kotake T, Okita Y, Ogata T, Hatachi Y, Yasui H, Imai Y, Ichikawa C, Kaihara S, Tsuji A: Phase I study of neoadjuvant chemotherapy with Xeloda and oxaliplatin (G-XELOX) for locally advanced gastric cancer. 第89回日本胃癌学会総会, 広島, 2017. 3. 8 - 10

VII. 1. 9 感染症科

1. 吉崎亜衣沙, 水野泰志, 西岡弘晶: *Helicobacter cinaedi*を直接同定できた椎体炎の1例. 第113回日本内科学会講演会, 東京, 2016. 4. 16
2. 守山祐樹, 水野泰志, 蓮池俊和, 土井朝子, 西岡弘晶: 抗レトロウイルス療法で著明な縮小を認めたHIV関連リンパ腫の1例. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016. 4. 16
3. 進藤達哉, 遠藤明子, 西岡弘晶: メトロニダゾール点滴製剤による治療が奏功した破傷風の1例. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016. 4. 16
4. 土井朝子, 岩田健太郎, 蓮池俊和, 西岡弘晶: HIV感染を原因とする間質性腎炎の1例. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016. 4. 16
5. 官澤洋平, 亀井博紀, 水野泰志, 西岡弘晶: *Klebsiella pneumoniae*による急性胆嚢炎後に発症したIgA-dominant postinfectious glomerulonephritisの1例. 第60回日本リウマチ学会総会学術集会, 横浜, 2016. 4. 21
6. 志水隼人, 遠藤明子, 亀井博紀, 水野泰志, 西岡弘晶: トシリズマブが奏効した難治性強膜炎合併再発性多発軟骨炎の1例. 第60回日本リウマチ学会総会学術集会, 横浜, 2016. 4. 21
7. 土井朝子: Not another routine. 第10回FLEEKIC, 神戸, 2016. 5. 22
8. Yoshizaki A, Mizuno Y, Kanamori M, Imai Y, Higashibeppu N, Nishioka H: Liver damage in malnourished patient during nutrition therapy. ACP日本支部年次総会2016, 京都, 2016. 6. 4
9. Kanzawa Y, Nishioka H: Successful Treatment of Severe Japanese Spotted Fever Complicated with Tako-tsubo (Stress-Induced) Cardiomyopathy. ACP日本支部年次総会2016, 京都, 2016. 6. 4
10. 守山祐樹, 吉崎亜衣沙, 官澤洋平, 志水隼人, 園 諭美, 水野泰志, 西岡弘晶: 病歴と薬物中毒検出用キットにより診断できた覚醒剤による横紋筋融解症の1例. 第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 東京, 2016. 6. 11
11. 守山祐樹, 官澤洋平, 志水隼人, 園 諭美, 水野泰志, 西岡弘晶: 直腸穿孔で死亡した神経性食思不振症の1例. 第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 東京, 2016. 6. 11
12. 上月友寛, 金森真紀, 西岡弘晶: 原因不明の慢性腹痛として紹介された前皮神経絞扼症候群の1例. 第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 東京, 2016. 6. 11
13. 蓮池俊和: 症例カンファレンス・感染症編. 臨床微生物学会第17回感染症学セミナー, 神戸, 2016. 6. 22
14. 吉崎亜衣沙, 水野泰志, 西岡弘晶: 急激に増悪する胸痛で受診した胸骨骨髓炎の1例. 第212回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 6. 25
15. 守山祐樹, 蓮池俊和, 水野泰志, 土井朝子, 西岡弘晶: アゾール耐性の*Candida albicans*を検出した1例. 第212回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 6. 25
16. 志水隼人, 水野泰志, 西岡弘晶: 播種性クリプトコッカス症を合併した特発性CD4陽性Tリンパ球減少症の1例. 第45回神戸免疫・膠原病懇話会, 神戸, 2016. 6. 25
17. 東別府直紀, 下藺崇宏, 西岡弘晶: ICU入室後経腸栄養開始時間と生命予後の関連について 国際栄養調査2013の結果より. 第8回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会, 神戸, 2016. 7. 3
18. 西岡弘晶: 末梢静脈栄養. 大塚製薬工場 社内研修会, 神戸, 2016. 9. 20
19. 川崎 翠, 守山祐樹, 金森真紀, 西岡弘晶: 血液培養から診断された*Nocardia asteroides*感染の1例. 第213回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9. 24
20. Mizuno Y, Imoto H, Nishioka H: Human adjuvant disease caused by silent rupture of silicone gel-filled breast implant presenting pleuritis and pericarditis. 18th APLAR2016, 上海, 中国, 2016. 9. 26
21. 西岡弘晶: アレルギー疾患についての気になる話. 平成28年度神戸市民健康大学講座, 神戸, 2016. 10. 6
22. 土井朝子: 尿路感染症, 性感染症の診断, 検査, 治療. 2016年度感染看護認定看護師教育課程, 神戸, 2016. 10. 26
23. Doi A, Morimoto T, Iwata K: Effectiveness of short-course antimicrobial therapy compared with long-course therapy. IDWeek 2016, New Orleans, USA, 2016. 10. 28

24. 土井朝子：HIV感染症の診断，検査，治療，免疫不全者の感染症．2016年度感染看護認定看護師教育課程，神戸，2016.11.2
25. 西岡弘晶：基本から考える感染症診療，感染症講演会 in 芦屋，芦屋，2016.11.22
26. 吉崎亜衣沙，金森真紀，水野泰志，西岡弘晶：*Bacteroides fragilis*による椎体炎，腸腰筋膿瘍の1例．第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会，沖縄，2016.11.24
27. 守山祐樹，竹川啓史，金森真紀，蓮池俊和，土井朝子，西岡弘晶：リスク因子のない患者からアゾール耐性の*Candida albicans*を検出した1例．第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会，沖縄，2016.11.24
28. 守山祐樹，金森真紀，蓮池俊和，土井朝子，西岡弘晶：*Candida glabrata*による大腿に蜂窩織炎と皮下膿瘍をきたした糖尿病患者の1例．第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会，沖縄，2016.11.24
29. 進藤達哉，西岡弘晶：院内感染を起こしたジャカルタからの輸入麻疹の1例．第214回日本内科学会近畿地方会，大阪，2016.12.3
30. 井本寛東，金森真紀，西岡弘晶：*Streptococcus agalactiae*の感染性心内膜炎に細菌性眼内炎を合併した1例．第214回日本内科学会近畿地方会，大阪，2016.12.3
31. 組谷彰太郎，吉崎亜衣沙，金森真紀，西岡弘晶：急性腰痛を来した偽痛風の1例．第214回日本内科学会近畿地方会，大阪，2016.12.3
32. 東別府直紀，讚井將満，祖父江和哉，西岡弘晶：国際栄養調査2014の結果：本邦ICUでは経腸栄養は遅く投与量は少ない．第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会，岡山，2017.2.23
33. 楠田かおり，西岡弘晶，池村 舞，西岡和子，東別府直紀，橋田 亨：胃酸分泌抑制薬がペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に及ぼす影響．第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会，岡山，2017.2.23
34. 東別府直紀，西岡弘晶，東口高志，Marianna Sioson：アジア，中東におけるICUでの栄養療法の現状：栄養療法に関わる職種について～多施設アンケートの結果～．第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会，岡山，2017.2.24
35. 尾松雅仁，東別府直紀，西岡弘晶：アミノ酸含有電解質製剤の投与方法制限実施前後での*Bacillus cereus*菌血症発生件数の変化．第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会，岡山，2017.2.24
36. 西岡弘晶，竹中麻理子，東別府直紀：低栄養患者の栄養管理開始後に肝酵素異常が悪化した1例．第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会，岡山，2017.2.24
37. 竹中麻理子，東別府直紀，岩本昌子，西岡弘晶：空腸ストーマとなった血液透析2症例の水分・Na管理．第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会，岡山，2017.2.24
38. 常峰かな，東別府直紀，西岡弘晶：診断名不明の障害をもった新生児に口腔・嚥下リハビリおよび栄養療法を行った1例．第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会，岡山，2017.2.24
39. 井本寛東，金森真紀，西岡弘晶：濃厚流動食を摂取しながらの腹部超音波検査が胃流出路閉塞の原因の鑑別に有用であった1例．第14回日本病院総合診療医学会学術総会，岡山，2017.3.3
40. 進藤達哉，西岡弘晶，山脇佑介，今井幸弘：術後7年目に骨転移で再発した胃癌の1例．第215回日本内科学会近畿地方会，神戸，2017.3.25
41. 土井朝子：HIV感染症の臨床．第215回日本内科学会近畿地方会専門医部会教育セミナー，神戸，2017.3.25

VII. 1. 10 精神・神経科

1. 北村 登，石丸綾子，勝又知子，大谷恭平，俵 崇記，松石邦隆：身体合併症病棟開設について．第9回兵庫県総合病院精神医学会，神戸，2016.9.10
2. 大谷恭平，関口典子，玉岡文子，長谷川弘子，松川悦之，河村麻美子，石川慎一，上月 遥，磯部昌憲，植本雅治，高宮静男：ADHDに対する総合病院精神科こども外来と小児専門病院精神科との薬物療法を中心とした比較．第57回日本児童青年精神医学会，岡山，2016.10.28
3. 大谷恭平，河村麻美子，石川慎一，上月 遥，磯部昌憲，植本雅治，高宮静男：ADHD患者（患児）に対する総合病院精神科での薬物療法の検討．第26回日本臨床精神神経薬理学会，大分，2016.11.17

VII. 1. 11 小児科・新生児科

1. 岡田麻里, 潮見祐樹, 加藤宏樹, 新井千恵, 田中裕也, 小林由典, 岡藤郁夫, 上村克徳, 川崎浩三, 鶴田 悟: 可逆性後頭葉白質脳症を伴ったヘノッホ・シェーンライン紫斑病の1例. 第119回日本小児科学会学術集会, 札幌, 2016. 5. 13
2. 潮見祐樹, 山川 勝, 岡田麻里, 山本啓央, 加藤宏樹, 新井千恵, 田中裕也, 宮越千智, 上村克徳, 鶴田 悟: 埋め込み型除細動器 (ICD) 移植小児患者への精神的サポートの必要性 当科症例の検討. 第119回日本小児科学会学術集会, 札幌, 2016. 5. 13
3. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 小児の環境アレルゲン皮下免疫療法における地域連携の取り組み. 第119回日本小児科学会学術集会, 札幌, 2016. 5. 15
4. 田中裕也: 環境アレルゲン免疫療法とヒスタミン遊離試験. 第46回兵庫県臨床アレルギー研究会, 神戸, 2016. 5. 28
5. 青田千恵, 山川 勝, 山下裕加, 元生和宏, 岡田麻里, 山本啓央, 潮見祐樹, 伊藤 環, 加藤宏樹, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 上村克徳, 川崎浩三, 鶴田 悟: 後遺症なく社会復帰したICD抵抗性Electrical stormの1例. 第268回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2016. 5. 28
6. 山下裕加, 小林由典, 岡田麻里, 潮見祐樹, 山本啓央, 加藤宏樹, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 岡藤郁夫, 上村克徳, 川崎浩三, 山川 勝, 鶴田 悟: 持続する肝逸脱酵素上昇と肝腫大の鑑別を契機に糖尿病Ia型と判明した5歳女児の管理例. 第268回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2016. 5. 28
7. 岡 牧郎, 小林由典, 秋山麻里, 諸岡輝子, 花房 香, 荻野竜也, 吉永治美, 小林勝弘: 幼児期早期に退行を来たし, 環状22番染色体を認めた自閉症スペクトラム障害の男児例. 第58回日本小児神経学会学術集会, 東京, 2016. 6. 4
8. 田中尚子, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 飯尾 潤, 折山文子, 梶山瑞隆, 中西恭一, 吉田元嗣, 藤田 位, 熊谷直樹: 兵庫県小児科医会会員への「小児肺炎マイコプラズマ感染症の診断, 治療に関するアンケート」結果について. 第27回日本小児科医会総会フォーラム, 米子, 2016. 6. 11
9. 八若博司, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 吉田元嗣, 折山文子, 田中一宏, 三木和典, 藤田 位, 熊谷直樹: ヒトメタニューモウイルス感染症の臨床像についてのアンケート調査2015 (第3報). 第27回日本小児科医会総会フォーラム, 米子, 2016. 6. 11
10. 桃田哲也, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 安部治郎, 梶山瑞隆, 小林 謙, 田中一宏, 吉田元嗣, 藤田 位, 熊谷直樹: 溶連菌感染症, 水痘の治療についてのアンケート調査. 第27回日本小児科医会総会フォーラム, 米子, 2016. 6. 11
11. 桃田哲也, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 小林 謙, 中西恭一, 吉田元嗣, 藤田 位, 熊谷直樹: インフルエンザの治療についてのアンケート調査. 第27回日本小児科医会総会フォーラム, 米子, 2016. 6. 11
12. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 小児の標準化ダニ抗原を用いた急速皮下免疫療法の安全性. 第65回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2016. 6. 18
13. 平瀬敏志, 岡藤郁夫, 大坪ひろみ, 木寺えり子, 田中裕也, 鶴田 悟: 加熱卵黄負荷試験における負荷方法の検討. 第65回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2016. 6. 19
14. 岡藤郁夫: 喘息発作時の全身ステロイドの上手な使い方. 第65回兵庫小児アレルギー・呼吸器懇話会, 神戸, 2016. 6. 30
15. 新井千恵, 宮越千智, 潮見祐樹, 山川 勝: 冠動脈瘤非合併川崎病における冠動脈の中長期的成長に関する検討. 第52回日本小児循環器学会総会・学術集会, 東京, 2016. 7. 6
16. 岡田麻里, 菅原勝美, 山本啓央, 潮見祐樹, 加藤宏樹, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 上村克徳, 川崎浩三, 島田誠一, 山川 勝, 鶴田 悟: 出生直後より血便を呈した新生児・乳児消化管アレルギーの1例. 第269回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2016. 9. 17
17. 木寺えり子, 岡藤郁夫, 田中裕也, 鶴田 悟: ヒト化抗IgE抗体で喘息症状の安定化させることで安全にアレルゲン免疫療法を導入できた重症持続型喘息の9歳男児例. 第269回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2016. 9. 17
18. 田中裕也, 伊藤 環, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 当科におけるスギ舌下免疫療法の現状と今後の展望. 第269回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2016. 9. 17
19. 岡藤郁夫: 子どもたちのアレルギー性鼻炎にちゃんと対応できる医療者になるために必要な知識・技術・態度. 第8回近畿小児アレルギーケア研究会, 大阪, 2016. 9. 24

20. 田中裕也：今さら注射で免疫療法するの？第2回神戸小児環境アレルギー免疫療法カンファランス，神戸，2016.10.1
21. 田中裕也，岡藤郁夫，鶴田 悟：環境アレルギー免疫療法導入児における好塩基球ヒスタミン遊離試験での自然ヒスタミン遊離率変動の検討．第53回日本小児アレルギー学会，前橋，2016.10.8
22. 田中裕也，岡藤郁夫，鶴田 悟：小児に対するより安全性の高い標準化ダニ抗原急速皮下免疫療法導入期プロトコルの検討．第53回日本小児アレルギー学会，前橋，2016.10.8
23. 岡藤郁夫：シンポジウム3 食物アレルギーガイドライン2016改訂に関する最新情報 食物アレルギーの知識．第53回日本小児アレルギー学会，前橋，2016.10.8
24. 鷺見真由子，増田泰之，中村文香，小谷晋平，小坂博志，小川真希子，田中裕也，岡藤郁夫：著明な腹部症状を呈し，頻回のアドレナリン投与を要した急性感染性蕁麻疹の1例．第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会，東京，2016.11.5
25. 櫻井明弓，田中裕也，松本涼子，丸山浩枝，石井須美子，坂井信幸：統一した気管支喘息指導を行うためのパスの作成．第17回日本クリニカルパス学会学術集会，石川，2016.11.25
26. 根津麻里，加藤宏樹，山下裕加，元生和宏，潮見祐樹，山本啓央，伊藤 環，青田千恵，田中裕也，宮越千智，小林由典，岡藤郁夫，上村克徳，川崎浩三，鶴田 悟：副鼻腔炎による眼窩蜂窩織炎から脳膿瘍へ進展した1例．第270回日本小児科学会兵庫県地方会，尼崎，2017.2.18
27. 根津麻里，加藤宏樹，田中裕也，山下裕加，元生和宏，潮見祐樹，山本啓央，伊藤 環，青田千恵，宮越千智，小林由典，岡藤郁夫，上村克徳，川崎浩三，鶴田 悟：Streptococcus mitisによる深頸部膿瘍の1例．第270回日本小児科学会兵庫県地方会，尼崎，2017.2.18
28. 田中由起子，松本和徳，光田好観，竹中尚美，安島英裕，江口統治，青田千恵：再発と考えられた弁膜症合併リウマチ熱の1症例．第270回日本小児科学会兵庫県地方会，尼崎，2017.2.18
29. 笠井和子，菱谷好洋，田中裕也，岡藤郁夫，中岸保夫：スギ花粉飛散時期に加熱トマトでアナフィラキシーを起こした花粉-食物アレルギー症候群の12才男児例．第270回日本小児科学会兵庫県地方会，尼崎，2017.2.18
30. 宮越千智，青田千恵，根津麻里，伊藤 環，田中裕也，鶴田 悟，山川 勝：急性期に2方向性心室性不整脈を認めた川崎病の1例．第41回近畿川崎病研究会，大阪，2017.3.4
31. 岡藤郁夫：現在作成中の小児気管支喘息診療ガイドラインにおけるシステムティックレビューの方法．第13回小児気管支喘息研究会，大阪，2017.3.11
32. 山本啓央，山下裕加，田中裕也，小林由典，長野 徹，神戸大朋，鶴田 悟：低亜鉛母乳により生じた亜鉛欠乏性皮膚炎の1例．第30回日本小児科学会近畿地方会，大阪，2017.3.12
33. 山下裕加，菅原勝美，山本啓央，潮見祐樹，田中裕也，上村克徳，島田誠一，鶴田 悟，山川 勝，長野 徹：良好な中長期予後が得られた道化師様魚鱗癬の1例．第30回日本小児科学会近畿地方会，大阪，2017.3.12

VII. 1. 12 皮膚科

1. 増田泰之，中村文香，鷺見真由子，小谷晋平，小坂博志，小川真希子，長野 徹：Rippled-pattern sebaceomaの1例．第455回日本皮膚科学会大阪地方会，大阪，2016.5.21
2. 鷺見真由子，小坂博志，小谷晋平，大森麻美子，小川真希子，長野 徹：若年男性の背部に生じ，ヘモジデリン沈着を顕著に認めた色素性隆起性皮膚線維肉腫の1例．第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会，鹿児島，2016.5.27-28
3. 鷺見真由子，小谷晋平，小坂博志，大森麻美子，小川真希子，長野 徹：放射線治療を試みた難治性偽リンパ腫の1例．第115回日本皮膚科学会総会，京都，2016.6.3-5
4. 中村文香，小谷晋平，大森麻美子，鷺見真由子，小坂博志，小川真希子，長野 徹：道化師様魚鱗癬の1例．第109回近畿皮膚科集談会，神戸，2016.7.10
5. 長野 徹：足・爪白癬の外用療法．平成28年8月度兵庫区医師会学術講演会，神戸，2016.8.19
6. 長野 徹：どうする？在宅褥瘡．第5回明石在宅医療を考える会，明石，2016.8.20
7. 長野 徹，鷺見真由子，小坂博志，山田佳枝，甲斐田博子，澤井智恵，大川亜弥，足立絵里奈，橋尚吾：単純縫合にて創閉鎖しえた仙骨骨髄炎合併難治性褥瘡の1例．第18回日本褥瘡学会学術集会，横浜，2016.9.2-3

8. 増田泰之：当院で経験したコレステリン塞栓症－LDLアフェレーシス施行例の検討を含めて－. 第28回神戸 Podiatry meeting, 神戸, 2016. 9. 17
9. 長野 徹：気になる皮膚のできもの－皮膚がん? かも・・・－. 神戸市健康づくりセンター土曜健康科学セミナー, 神戸, 2016. 9. 24
10. 長野 徹：最近当院で経験した症例から①94歳男性：手掌の結節. 平成28年度神戸中央皮膚科懇話会, 神戸, 2016.10. 6
11. 長野 徹：最近当院で経験した症例から②0歳男児：顔面・肛門周囲のびらん. 平成28年度神戸中央皮膚科懇話会, 神戸, 2016.10. 6
12. 中村文香：最近当院で経験した症例から③77歳男性：右大転子部の結節. 平成28年度神戸中央皮膚科懇話会, 神戸, 2016.10. 6
13. 増田泰之, 中村文香, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹：当初接触性皮膚炎を疑った眼瞼脂腺癌の1例. 第457回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2016.10. 8
14. 中村文香, 小坂博志, 増田泰之, 鷺見真由子, 小川真希子, 村田洋三, 長野 徹：臨床的に毛母腫を疑った著明な石灰化を伴う基底細胞癌の1例. 第67回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪, 2016.10.22-23
15. 増田泰之, 小谷晋平, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 石川隆之：高齢発症し種痘様水疱症様皮疹を生じた慢性活動性EBウイルス感染症の1例. 第67回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪, 2016.10.22-23
16. 鷺見真由子, 増田泰之, 小谷晋平, 中村文香, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹：著明な腹部症状を呈し, 頻回のアドレナリン投与を要した急性感染性蕁麻疹の1例. 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 東京, 2016.11.4-5
17. 鷺見真由子, 増田泰之, 中村文香, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹：妊娠経過中増大傾向を示した悪性黒色腫の1例. 第458回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2016.12. 3
18. 中村文香, 増田泰之, 鷺見真由子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 山本啓央, 鶴田 悟：低亜鉛母乳による腸性肢端皮膚炎の1例. 第459回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2017. 2. 4
19. 村田洋三, 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 熊野公子：爪甲色素線状に対するintraoperative dermoscopyと生検標本のcross section像. 第460回日本皮膚科学会大阪地方会, 和歌山, 2017. 3. 11-12
20. 長野 徹：最近当院で経験した症例から①女児肛門部腫瘤. 平成28年皮膚科地域合同カンファレンス, 神戸, 2017. 3. 16
21. 鷺見真由子：最近当院で経験した症例から②45歳女性, 軀幹に生じた乾癬様皮疹. 平成28年皮膚科地域合同カンファレンス, 神戸, 2017. 3. 16
22. 小坂博志：最近当院で経験した症例から③爪の線状病変. 平成28年皮膚科地域合同カンファレンス, 神戸, 2017. 3. 16

VII. 1. 13 外科・移植外科

1. 貝原 聡, 他：当院における肝外胆管癌手術の現状と対策. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
2. 瓜生原健嗣, 他：当院における肝移植後C型肝炎再発に対する治療状況と新たな抗ウイルス薬使用経験. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
3. 小林裕之, 他：食道癌左上縦隔リンパ節郭清時のNIM-response systemの有用性. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
4. 橋田裕毅, 他：クローン病に対する手術加療と周術期抗TNF- α 抗体治療. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
5. 小森淳二, 他：幹細胞移植による肝臓・臓器創世へのチャレンジ. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
6. 近藤正人, 他：局所進行胃癌に対する術前SOX療法. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
7. 水本素子, 他：Delleを伴う胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術の工夫. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
8. 阪本裕亮, 他：当院におけるT2胆嚢癌についての術式の検討. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
9. 喜多亮介, 他：創部管理プロトコルの有用性の検討. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16

10. 増井秀行, 他: 高齢者に対する肝切除の治療成績. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
11. 北野翔一, 他: 当院における膵消化管吻合の工夫と成績. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
12. 熊田有希子, 他: 当院における悪性大腸閉塞に対する大腸ステントSEMSの留置成績. 第116回日本外科学会, 大阪, 2016. 4. 14-16
13. Kaihara S, et al: Treatment strategy for large HCC. 28th JHPBA annual meeting, Osaka, 2016. 6. 4 - 6
14. Iwamura S, et al: Pancreatoduodenectomy with portal vein resection for locally advanced pancreatic head cancer. 28th JHPBA annual meeting, Osaka, 2016. 6. 4 - 6
15. Kita R, et al: Evaluation of clinical outcome of our procedure in biliary reconstruction. 28th JHPBA annual meeting, Osaka, 2016. 6. 4 - 6
16. Masui H, et al: Standardization of distal pancreatectomy for prevention of pancreatic fistula. 28th JHPBA annual meeting, Osaka, 2016. 6. 4 - 6
17. 瓜生原健嗣, 他: 当院におけるBlumgart変法による膵空腸吻合の検討. 第28回日本肝胆膵外科学会, 大阪, 2016. 6. 4 - 6
18. 橋田裕毅, 他: 完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の手技と有用性. 第18回日本女性骨盤底医学会, 北九州, 2016. 6. 11-12
19. Kobayashi H, et al: Prevention of Recurrent Laryngeal Nerve Paralysis after Esophagectomy using NIM-Response System. EAES 2016, Amsterdam, 2016. 6. 15-18
20. Minumoto M, et al: A new method of laparoscopic endoscopic cooperative surgery for gastric submucosal tumor. EAES 2016, Amsterdam, 2016. 6. 15-18
21. 小林裕之, 他: 食道癌術後栄養のための胃管瘻作成の工夫と治療成績. 第70回日本食道学会, 東京, 2016. 7. 4 - 6
22. 貝原 聡, 他: Our strategies to achieve safety in major hepatectomy. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
23. 小森淳二, 他: 同所性肝細胞シート移植による臓器再生. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
24. 橋田裕毅, 他: 傍ストーマヘルニアに対するSandwich法による腹腔鏡下修復術. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
25. 瓜生原健嗣, 他: 当院における生体肝移植後長期フォロー患者の問題点. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
26. 水本素子, 他: 当院における十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術の経験. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
27. 木下裕光, 他: 当院における80才以上大腸大腸癌手術症例の検討. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
28. 熊田有希子, 他: 80歳以上の高齢者における肝切除術の手術成績, 長期予後の検討. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
29. 喜多亮介, 他: 透析患者に対する外科手術について. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
30. 阪本裕亮, 他: 直腸癌手術における縫合不全症例の検討と対策. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
31. 北野翔一, 他: 当院における膵頭十二指腸切除術後の膵液瘻低減に向けた工夫. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
32. 大森彩加, 他: 早期直腸癌に合併した微小NET G2の1切除例. 第71回日本消化器外科学会, 徳島, 2016. 7. 14-16
33. Kaihara S, et al: Long term follow up after surgical resection for pancreas cancer smaller than 2cm in diameter. The 20th meeting of IAP, Sendai, 2016. 8. 4 - 7
34. Iwamura S, et al: Management of locally advanced pancreatic cancer adjacent to the celiac axis. The 20th meeting of IAP, Sendai, 2016. 8. 4 - 7
35. Kita R, et al: Our Strategy for pancreaticojejunostomy. The 20th meeting of IAP, Sendai, 2016. 8. 4 - 7
36. Kondo M, et al: Complete laparoscopic spleen-preserving distal pancreatectomy without splenic vessels ligation. ACS 2016, Washington DC, 2016. 10. 16-20
37. Kumata M, et al: The Sandwich Method for Parastomal Hernia. ACS 2016, Washington DC, 2016. 10. 16-20

38. 橋田裕毅, 他: 多発転移を伴う切除不能横行結腸癌に対する化学療法CR後の原発巣再発を切除した1例. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.10.20-22
39. 近藤正人, 他: 腹腔鏡胃癌手術における郭清の定型化と要点. 胃癌術後障害研究会, 米子, 2016.10.27-28
40. 増井秀行, 他: 80歳以上の高齢者胃癌手術症例の検討. 胃癌術後障害研究会, 米子, 2016.10.27-28
41. 熊田有希子, 他: The Sandwich Method for Parastomal Hernia. 第14回日本ヘルニア学会, 東京, 2016.10.28-29
42. 大森彩加, 他: The usefulness of preoperative ultrasound scan to detect contralateral groin hernia. 第14回日本ヘルニア学会, 東京, 2016.10.28-29
43. 松原孝明, 他: 当院における腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術手術術式の検討. 第14回日本ヘルニア学会, 東京, 2016.10.28-29
44. Hashida H, et al: Infliximab therapy and surgical intervention for Crohn's disease. APDW 2016, Kobe, 2016.11.2-5
45. Kaihara S, et al: Liver parenchymal dissection with pre-coagulation dissection technique for laparoscopic hepatectomy. ELSA 2016, Shuzo, 2016.11.9-12
46. Masui H, et al: Introduction of Laparoscopic Liver Resection in our hospital. ELSA 2016, Shuzo, 2016.11.9-12
47. 北村好史: 術前に診断できなかった異物誤飲による小腸穿孔(症例報告). 第44回日本救急医学会, 東京, 2016.11.17-18
48. 橋田裕毅: 下部消化管穿孔に対する緊急人工肛門造設後のSSI予防の取り組み. 第71回日本大腸肛門病学会, 伊勢, 2016.11.18-19
49. 岩本宣重: 当科における腹腔鏡下系統的肝切除の導入に向けた取り組み-外側区域切除におけるグリソン個別先行処理法-. 第10回肝臓内視鏡外科研究会, 東京, 2016.11.23
50. 増井秀行: 当院における高難度部腫瘍へのアプローチ~市中病院における取り組み~. 第10回肝臓内視鏡外科研究会, 東京, 2016.11.23
51. 近藤正人: 胃癌手術の術野展開を応用した腹腔鏡下尾側臍切除術. 第8回臍臓内視鏡外科研究会, 東京, 2016.11.23
52. 大森彩加: 腫瘍進展により臍の著明な腫大を認めたIPMCの1切除例. 第78回臨床外科学会, 東京, 2016.11.24-26
53. 松原孝明: 消化管出血をきたし, 腹腔鏡下胃局所切除術を施行した胃glomus腫瘍の1例. 第78回臨床外科学会, 東京, 2016.11.24-26
54. 水本素子: 腹腔鏡下大腸切除術に対するクリニカルパスを用いた検討. 第17回日本クリニカルパス学会学術集会, 金沢, 2016.11.24-26
55. 貝原 聡, 他: 出血しない肝実質切離法: ソフト凝固によるpre-coagulation dissection technique. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
56. 小林裕之, 他: 腸管膜化とIntra-Operative Nerve Monitoringによる食道癌術後反回神経麻痺の予防. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
57. 橋田裕毅, 他: 脾湾曲部結腸癌に対する内側アプローチを中心とした腹腔鏡下左側結腸切除術. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
58. 近藤正人, 他: 一般市中病院における幽門側胃切除術の定型化 布石と本番, 場の置き換え. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
59. 近藤正人, 他: 腫瘍と脈管, 脾臓との位置関係から術式選択を行う機能温存尾側臍切除術の定型化. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
60. 北村好史, 他: 当科での腹腔鏡下肝外側区域切除におけるGlisson処理法の手技改新~適応拡大にむけての段階的な工夫. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
61. 水本素子, 他: 当院における腹腔鏡下胃全摘術のLinear staplerを用いた吻合法. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
62. 岩村宣重, 他: 腹腔鏡下尾側臍切除における術野展開の工夫 腹腔鏡下臍体尾部切除における胃のテーピングは必要か? 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
63. 増井秀行, 他: 市中病院における腹腔鏡下肝切除術の試み. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
64. 喜多亮介, 他: 左側進行結腸癌に対する内側アプローチによる手術手技の定型化. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10

65. 北野翔一, 他: 当院における腹腔鏡補助下右側結腸切除術の出血量低減にむけた工夫. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
66. 熊田有希子, 他: 腹腔鏡下胃切除術における止血手技~出血を広げない, ドライな視野を保つための工夫. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
67. 大森彩加, 他: 当院におけるTAPPと鼠径部切開法の実際. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
68. 松原孝明, 他: 腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術の定型化にむけての取り組み. 第29回内視鏡外科学会, 横浜, 2016.12.8-10
69. 橋田裕毅, 他: 傍ストーマヘルニアに腹腔鏡下修復術. 第34回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会, 名古屋, 2017.2.17-18
70. 近藤正人, 他: 局所進行胃癌に対する術前SOX療法の治療成績. 第89回日本胃癌学会, 広島, 2017.3.8-9

VII. 1. 14 乳腺外科

1. 加藤大典, 武部沙也香, 波々伯部絵理, 木川雄一郎, 橋本一樹: $^{16}\alpha$ -[^{18}F]-fluoro- $^{17}\beta$ -estradiol (FES) positron emission tomography (PET) による早期の乳癌骨転移の診断. 第12回京都乳腺TVカンファレンス, 京都, 2016.5.11
2. 加藤大典, 武部沙也香, 波々伯部絵理, 橋本一樹, 一ノ瀬庸, 木川雄一郎, 今井幸弘, 上原慶一郎, 市川千宙, 松岡亮介, 旗智幸政, 正井良和: 術前ホルモン治療によるLuminal乳癌の生物学的特性の変化, 特にLuminal HER2乳癌への誘導についての解析. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016.6.16
3. 波々伯部絵理, 橋本一樹, 武部沙也香, 木川雄一郎, 一ノ瀬庸, 加藤大典, 平嶋正樹, 橋田 亨: 乳癌患者におけるエベロリムス血中濃度モニタリングの意義. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016.6.16
4. 橋本一樹, 加藤大典, 木川雄一郎, 武部沙也香, 波々伯部絵理, 片岡和哉, 池田実香, 松添晴加, 今井幸弘, 松岡亮介: 同時両側性下部領域乳癌に対し乳房縮小術を用い根治性と整容性を保ち得た1例. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016.6.16
5. 橋本一樹, 木川雄一郎, 波々伯部絵理, 武部沙也香, 緒方貴次, 佐竹悠良, 旗智幸政, 安井久晃, 加藤大典: 当院におけるdose-dense療法. 第72回京滋乳癌研究会, 京都, 2016.9.10
6. 橋本一樹, 木川雄一郎, 波々伯部絵理, 加藤大典, 市川千宙, 今井幸弘, 黒田真百美, 朽尾人司: 同時性・同側性に悪性葉状腫瘍と浸潤性乳管癌を認めた1例. 第14回日本乳癌学会近畿地方会, 大阪, 2016.12.3
7. 武部沙也香, 加藤大典, 波々伯部絵理, 木川雄一郎, 大平純一郎, 川本未知, 石井淳子, 幸原伸夫, 岡 伸幸: 乳癌の術後補助化学療法においてdocetaxel + cyclophosphamide を契機に慢性炎症性脱髄性多発神経炎を来したと思われる1例. 第14回日本乳癌学会近畿地方会, 大阪, 2016.12.3

VII. 1. 15 心臓血管外科

1. 松尾武彦, 西矢健太, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 福永直人, 石上雅之助, 坂田隆造, 小山忠明: 遠位弓部大動脈瘤に対するOpen stentを用いた全弓部置換術: 脊髄神経障害予防は可能か? 第44回日本血管外科学会学術総会, 東京, 2016.5.25
2. 西矢健太, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 福永直人, 石上雅之助, 松尾武彦, 坂田隆造, 小山忠明: 当施設における感染性動脈瘤の遠隔期治療成績. 第44回日本血管外科学会学術総会, 東京, 2016.5.26
3. 西矢健太, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 福永直人, 石上雅之助, 松尾武彦, 坂田隆造, 小山忠明: 2度のCABG後で下行大動脈から回旋枝へのバイパスが開存する重度低左心機能患者に対しopen stentを用いて弓部置換術を施行した1例. 第59回関西胸部外科学会学術集会, 三重, 2016.6.17
4. 松田靖弘, 西矢健太, 小泉滋樹, 中村 健, 福永直人, 石上雅之助, 松尾武彦, 坂田隆造, 小山忠明: オープンステントグラフトを用いた弓部置換後の左総頸動脈閉塞による脳血流障害に対する血行再建で血流改善を得られた1例. 第59回関西胸部外科学会学術集会, 三重, 2016.6.17
5. 小泉滋樹, 江原夏彦, 金 基泰, 太田光彦, 石津賢一, 西矢健太, 古川 裕, 坂田隆造, 小山忠明: 術後左室流出路へ大きくずれ込んだSapien valveに対してvalve-in-valve TF-TAVIを試みたが, 術中1stValveが左室内へ脱落し開心術を行った1例. 第7回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会, 大阪, 2016.8.11
6. 西矢健太, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 術前頭部MRIで脳合併症を認めた活動期感染性心内膜炎での術後脳合併症病変のリスク解析. 第69回日本胸部外科学会定期学術集会, 岡山, 2016.9.29

7. 小泉滋樹, 福永直人, 吉田一史, 西矢健太, 松田靖弘, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: A型急性大動脈解離における術後心房細動発症の特徴と要因. 第69回日本胸部外科学会定期学術集会, 岡山, 2016.10.1
8. 吉田一史, 小泉滋樹, 西矢健太, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 冠動脈疾患を有する高齢者大動脈弁狭窄症に対するSurgical AVRは妥当か? 第47回日本心臓血管外科学会学術総会, 東京, 2017.2.27
9. 西矢健太, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 糖尿病, 肥満症例のオフポンプ冠動脈バイパス術において両側内胸動脈の使用は妥当か. 第47回日本心臓血管外科学会学術総会, 東京, 2017.2.27
10. 福永直人, 吉田一史, 小泉滋樹, 西矢健太, 松田靖弘, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: グルタール処理した自己心膜パッチを使用した僧帽弁形成術後再手術因子の検討. 第47回日本心臓血管外科学会学術総会, 東京, 2017.2.27
11. 福永直人, 吉田一史, 小泉滋樹, 西矢健太, 松田靖弘, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 弁膜症再手術25年の経験. 第47回日本心臓血管外科学会学術総会, 東京, 2017.2.27
12. 松田靖弘, 吉田一史, 小泉滋樹, 西矢健太, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 80歳以上の真性胸部大動脈瘤における周術期呼吸管理の重要性. 第47回日本心臓血管外科学会学術総会, 東京, 2017.2.28
13. 吉田一史, 小泉滋樹, 西矢健太, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 急速な動脈瘤形成から左総腸骨動脈解離性動脈瘤破裂に至った血管型Ehlers-Danlos症候群の一手術例. 第31回血管外科近畿地方会, 神戸, 2017.3.4
14. 松田靖弘, 吉田一史, 小泉滋樹, 西矢健太, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 左冠動脈狭窄を伴う急性大動脈解離術後において補助循環離脱後早期に再導入を余儀なくされた1例. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017.3.9

VII. 1. 16 呼吸器外科

1. 高橋 豊: 肺がん治療について-手術を中心に-. 土曜健康科学セミナー, 神戸, 2016.4.23
2. 伊達直希: 多発肋骨骨折に伴う大動脈損傷により術中心肺停止に陥るも救命し得た外傷性血胸の1例. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016.5.12
3. 浜川博司, 南 和宏, 坂之上朗, 大久保祐, 齋藤伴樹, 伊達直希, 高橋 豊: 肺嚢胞切除術前後における呼吸性容量特性の変化: 両側巨大肺嚢胞患者の分析. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016.5.13
4. Hamakawa H, Minami K, Sakanoue I, Okubo Y, Saito T, Date N, Takahashi Y: Alteration of Respiratory Resistance Before and After Bullectomy: A Case Study of the Patient with Bilateral Giant Bullae. ATS2016, San Francisco, USA, 2016.5.16
5. Sakanoue I, Hamakawa H, Okubo Y, Saito T, Minami K, Takahashi Y: Feasibility of Early Postoperative Pleurodesis in the Treatment of Air Leak After Lobectomy. ATS2016, San Francisco, USA, 2016.5.16
6. Minami K, Hamakawa H, Saito T, Okubo Y, Sakanoue I, Takahashi Y: A Case of a Large Traumatic Pneumatocele Treated by Video-Assisted Thoracoscopic Surgery. ATS2016, San Francisco, USA, 2016.5.17
7. 齋藤伴樹, 浜川博司, 南 和宏, 大久保祐, 坂之上朗, 高橋 豊: 異所性甲状腺腫合併の右上葉肺腺癌に対しEBUS-TBNA施行後, 緊張性気胸・血胸を来し, 緊急肺葉切除を施行した1例. 第59回関西胸部外科学会, 津, 2016.6.17
8. 齋藤伴樹, 浜川博司, 伊達直希, 南 和宏, 坂之上朗, 高橋 豊, 小久保雅樹, 小坂恭弘: I期肺腺癌への体幹部定位放射線治療後の再燃例に対し, 胸壁合併右上葉切除を施行した1例. 第104回日本肺癌学会関西支部, 大阪, 2016.7.16
9. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上朗, 南 和宏, 齋藤伴樹, 高橋 豊: 胸膜外血腫の4例. 京都大学呼吸外科教室平成28年夏季研究会, 箱根湯本, 2016.7.23
10. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上朗, 南 和宏, 齋藤伴樹, 高橋 豊: 当院における胸膜外血腫の経験例. 第55回兵庫呼吸器外科研究会, 神戸, 2016.9.8
11. 浜川博司: こんな時どうする? 完全胸腔鏡手術の工夫. 第69回日本胸部外科学会総会, 岡山, 2016.9.28

12. 浜川博司：モニター視時代の呼吸器外科低侵襲手術. 第100回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 大阪, 2016.11.26
13. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上一郎, 南 和宏, 齋藤伴樹, 高橋 豊：左下葉気管支粘表皮癌の1例. 第100回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 大阪, 2016.11.26
14. 大久保祐, 浜川博司, 坂之上一郎, 高橋 豊：著明な造影効果を示し肺動静脈奇形としてフォローされた子宮筋腫肺転移の一切除例. 第57回日本肺癌学会, 福岡, 2016.12.21
15. 坂之上一郎, 浜川博司, 伊達直希, 齋藤伴樹, 南 和宏, 高橋 豊, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 今井幸弘：当院における間質性肺炎合併肺癌手術症例の検討. 第57回日本肺癌学会, 福岡, 2016.12.21
16. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上一郎, 南 和宏, 齋藤伴樹, 高橋 豊：気管支形成を想定するも異なる術式となった左下葉気管支唾液腺型腫瘍の2例. 第45回京都大学呼吸器外科教室冬期研究会, 京都, 2017.2.11
17. 齋藤伴樹, 浜川博司, 坂之上一郎, 南 和宏, 伊達直希, 高橋 豊, 今井幸弘：特発性胸腺嚢胞出血の2例. 第56回兵庫呼吸器外科研究会, 神戸, 2017.3.9

VII. 1. 17 脳神経外科

1. 今村博敏：脳動脈瘤2. Spinal Surgery NEUROSURGERY KINKI 2016 Spring meeting, 千里, 2016.4.2
2. 奥田智裕, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 有村公一, 別府幹也, 武部軌良, 鈴木啓太, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 坂東鋭明：甲状腺癌の頭蓋骨転移に対して腫瘍栄養血管塞栓術後に摘出術を施行した一例. Spinal Surgery NEUROSURGERY KINKI 2016 Spring meeting, 千里, 2016.4.2
3. 吉田泰規, 有村公一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 別府幹也, 武部軌良, 鈴木啓太, 奥田智裕, 松井雄一, 川端修平, 坂井信幸：妊娠初期に発症したくも膜下出血に対しクリッピング術を施行し妊娠継続し得た一例. Spinal Surgery NEUROSURGERY KINKI 2016 Spring meeting, 千里, 2016.4.2
4. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Todo K, Arimura K, Adachi H, Kono T: Diagnosis and Treatment Strategy for Acute Ischemic Stroke by Atherosclerosis. CFCVD2016, Beijing, China, 2016.4.10
5. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Todo K, Arimura K, Adachi H, Kono T: Current Status of Endovascular Therapy for ICAD in JAPAN-Japanese prospective study of endovascular therapy for ICAD in Japan. CFCVD2016, Beijing, China, 2016.4.10
6. 坂井信幸, 大田慎三, 松本康史, 近藤 礼, 佐藤 徹, 久保道也, 津本智幸, 榎本由貴子, 片岡丈人, 今村博敏, 藤堂謙一, 早川幹人, 山上 宏, 伊藤 靖, 杉生憲志, 松丸祐司, 吉村紳一：Results of Reperfuse Ischemic Vessels With Endovascular Recanalization Device in JAPAN, REVIVE™ SE approving study. 第45回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, 2016.4.14
7. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 有村公一, 別府幹也, 武部軌良, 鈴木啓太, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 坂井信幸：破裂動脈瘤コイル塞栓術における術中破裂に関わる因子の検討. 第45回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, 2016.4.14
8. 足立秀光, 坂井信幸, 坂井千秋, 谷 正一, 今村博敏, 藤堂謙一, 有村公一, 船津堯之, 別府幹也, 武部軌良, 鈴木啓太, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 坂東鋭明：国内脳血管内治療ライブデモンストラーション手術の治療成績. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016.4.14
9. 今村博敏, 藤堂謙一, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 河野智之, 徳永 聡, 齋藤智成, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸：時間短縮にこだわった急性期血栓回収療法の治療成績. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016.4.14
10. 別府幹也, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 有村公一, 船津堯之, 武部軌良, 鈴木啓太, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 坂東鋭明, 坂井信幸：PRESで発症した産褥期RCVS2症例. 第45回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, 2016.4.14
11. 川端修平, 今村博敏, 有村公一, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 別府幹也, 武部軌良, 鈴木啓太, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 坂井信幸：当院における破裂前交通動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016.4.15
12. 徳永 聡, 鶴崎雄一郎, 津本智幸, 桑城貴弘, 矢坂正弘, 岡田 靖：緊急血行再建術における予後改善を目的とした術前画像診断. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016.4.16

13. 別府幹也, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 有村公一, 船津堯之, 武部軌良, 鈴木啓太, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 坂東鋭明, 坂井信幸: やはり未破裂大型, ワイドネック脳動脈瘤は再発率, 合併症率が高い-当院の1000例を超える症例を検討して. 第45回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, 2016. 4 .16
14. 谷 正一, 有村公一, 別府幹也, 船津堯之, 吉田泰規, 奥田智裕, 足立秀光, 今村博敏, 坂井千秋, 坂井信幸: X-ray angiography perfusion analysisにてバイパス術の選択を決定したblister-likeの破裂内頸動脈瘤の2例. 第45回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, 2016. 4 .16
15. 今村博敏, 坂井信幸, 今堀太一郎: 治療成績向上の為の院内体制作りと実臨床. 急性期脳梗塞治療の現状と展望, 新潟, 2016. 4 .22
16. 坂井信幸: 新時代の頸動脈狭窄症マネジメント. 第4回Brain&Heart Attack Conference (Meet the Experts), 大阪, 2016. 4 .23
17. 今村博敏, 坂井信幸: 血栓回収療法-Next stage-. 第15回岡山脳血管内治療研究会, 岡山, 2016. 5 .14
18. 坂井信幸: 脳動脈瘤の血管内治療-今後の展望. 第7回川澄脳神経外科同門研究会, 名古屋, 2016. 5 .14
19. Shimizu K, Imamura H, Mineharu Y, Sakai N, Takagi Y, Yoshida K, Kikuchi T, Tanji M, Miyamoto S: Endovascular treatment of unruptured paraclinoid aneurysms:single-center experience with 400 cases. The 9th Kyoto-Seoul-Taipei Neurosurgical Friendship Meeting, Taipei Taiwan, 2016. 5 .14
20. 徳永 聡: 未破裂脳動脈瘤の最新治療. 第1回地域医師のための生涯研修セミナー, 福岡, 2016. 5 .14
21. 徳永 聡, 鶴崎雄一郎, 津本智幸, 桑城貴弘, 矢坂正弘, 岡田 靖: 緊急血行再建術における予後改善を目的とした術前画像診断. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016. 5 .16
22. 吉田泰規, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: MEPモニタリングでBOTを行った前大脳動脈遠位部大型動脈瘤の一例. 3病院合同勉強会, 神戸, 2016. 5 .16
23. 坂井信幸, 今村博敏, 坂井千秋, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史: 脳血管内治療の近未来-機器の開発改良. 第36回日本脳神経外科コンgres (プレナリー), 大阪, 2016. 5 .21
24. 坂井信幸: Flow Diverterを用いる脳動脈瘤治療の光と影. The 5th Aesculap Neurosurgery Special Conference 「安全確実な手術と困難な手術への挑戦」, 大阪, 2016. 5 .22
25. 今村博敏, 坂井信幸: エビデンス時代の急性期血栓回収療法. 第9回福井IVNR勉強会, 福井, 2016. 5 .27
26. 坂井信幸: とどまらない進歩を続ける脳血管内治療. 第1回長崎脳血管内治療研究会, 長崎, 2016. 6 .3
27. 今村博敏, 坂井信幸: エビデンス時代の急性期血行再建術の現状と未来. 第9回FAST, 三重, 2016. 6 .11
28. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 藤堂謙一, 河野智之, 星 拓: 頸動脈ステント留置術の成績を良くする工夫. 第3回日本心臓脳卒中学会学術集会, 東京, 2016. 6 .17
29. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 頸動脈直接穿刺にて治療し得た破裂内頸動脈瘤の一例. 第17回脳神経血管内治療琉球セミナー, 沖縄, 2016. 6 .24
30. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Sakai C, Tokunaga S, Beppu M, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Matsui Y, Okuda T, Yoshida Y, Kawabata S, Akiyama R Horiuchi K: Direct CCF after Flow Diverter treatment for ICA cavernous aneurysm. Cerebrovascular Complication Conference, Wyoming, USA, 2016. 6 .27
31. 徳永 聡, 今村博敏, 吉田泰規, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 川端修平, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 経上腕動脈アプローチによる緊急血行再建. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2016, 神戸, 2016. 6 .30
32. 今村博敏, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 液体塞栓物質はどう使うかONYX TAE. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2016, 神戸, 2016. 7 .2
33. Matsui Y, Imamura H, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Beppu M, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Kawabata S, Yoshida Y, Akiyama R, Horiuchi K, Todo K, Kono T, Hoshi T, Sakai N: Recent our improvement of endovascular recanalization by stent retriever for middle cerebral artery occlusion. East Asian Conference of Neurointervention 2016, Kobe, 2016. 7 .3

34. Sakai N, Sakai C, Imamura H, Tani S, Adachi H, Narumi O, Sato S, Arimura K, Shibata T, Morimoto T, Takebe N, Agawa Y, Shimizu K, Okuda T, Matsui Y, Yoshida Y: Flow Diverter treatment for Vertebro-Basilar Aneurysms. SIMI2016, Buenos Aires, Argentina, 2016. 7. 4
35. 今村博敏, 徳永 聡, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 難治性内頸動脈瘤の1例. 第52回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 和歌山, 2016. 7. 16
36. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 頸動脈直接穿刺にて治療し得た破裂内頸動脈瘤の一例. 第46回兵庫県脳神経外科医懇話会, 神戸, 2016. 7. 16
37. 今村博敏: How I Do It? 第52回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 和歌山, 2016. 7. 17
38. 徳永 聡, 鶴崎雄一郎, 佐原範之, 黒木亮太, 宮崎雄一, 津本智幸: 母血管閉塞術を施行した前大脳動脈解離の1例. 第52回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 和歌山, 2016. 7. 17
39. 今村博敏, 坂井信幸: DAVFに対するOnyx治療. 脳血管内治療スキルアップ講習会, 東京, 2016. 7. 22
40. 今村博敏, 別府幹也, 鈴木啓太, 坂井信幸: コイル塞栓術の信頼性とフロータイバーター留置術の可能性. Chikugo Neuro intervention seminar, 久留米, 2016. 7. 30
41. 坂井信幸: 脳動脈瘤の血管内治療 - 最近の進歩と今後の展望. 第7回信濃町脳血管障害セミナー, 東京, 2016. 7. 30
42. 松井雄一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 再開通時間短縮後の中大脳動脈閉塞に対するstent retriever治療成績. 第22回日本血管内治療学会学術総会, 東京, 2016. 7. 30
43. 今村博敏, 坂井信幸: 急性期血行再建術への熱い思い. 第6回北海道Neuro IVR 研究会, 札幌, 2016. 8. 6
44. 足立拓優, 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史: 当院におけるPipelineの使用経験. 第35回The Mt.Fuji Workshop, 東京, 2016. 8. 27
45. 今村博敏, 藤堂謙一, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 河野智之, 徳永 聡, 齊藤智成, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 急性期脳梗塞治療の最前線. 第3回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9. 3
46. 今村博敏: 血管内: 脳動脈瘤1. 第3回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9. 3
47. 足立拓優, 藤堂謙一, 河野智之, 齊藤智成, 鈴木啓太, 藤原 悟, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 坂井信幸: 頸部内頸動脈解離と遠位塞栓のtandem lesionに対する急性期血行再建術を行った1例. 第3回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9. 3
48. 秋山 亮, 船津堯之, 谷 正一, 今井幸弘, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 三上和幸, 堀内一史, 坂井信幸: 斜台転移により脳神経症状を呈した肝細胞癌の1例. 第72回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪2016. 9. 3
49. 坂井信幸, 今村博敏: Pipelineの有用性 - stent assist塞栓術との使い分け. 東京脳卒中の血管内治療セミナー, 東京, 2016. 9. 10
50. 坂井信幸: 脳血管内治療の進歩と今後 - 虚血性脳卒中を中心に. 第11回静循会, 静岡, 2016. 9. 10
51. 坂井信幸: 脳血管内治療 最近の話題, 急性脳卒中に対する再開通療法. 第10回高知血管治療懇話会, 高知, 2016. 9. 16
52. 坂井信幸: 安全で正確なIVUS oriented CAS. X-ray先端医療・技術術講演会2016, 大阪, 2016. 9. 17
53. 別府幹也, 今村博敏, 坂井信幸: 時間短縮のための当院での取り組み. Trevo Clinical Update in Kansai, 大阪, 2016. 9. 17
54. 今村博敏, 鈴木啓太, 坂井信幸: Flow diverter治療とAneurysmFlow. X-ray先端医療&技術講演会, 大阪, 2016. 9. 17
55. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Beppu M, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Matsui Y, Yoshida Y, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K: Initial experience of Flow Diverter for large aneurysms in Japan. JKJC2016, Busan, Korea, 2016. 9. 22
56. 坂井信幸: 新時代を迎えた無症候性頸動脈狭窄症に対する血管内治療. 日本脳神経外科学会第75回学術総会, 福岡, 2016. 9. 29

57. 坂井信幸, 今村博敏, 坂井千秋, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 別府幹也, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史: Future of coiling, Flow Diverter and others. 日本脳神経外科学会第75回学術総会, 福岡, 2016. 9 .29
58. 谷 正一, 今村博敏, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 2D perfusion analysis (XAP analysis) にてバイパス術の選択をした破裂blister-like動脈瘤の3例. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016. 9 .29
59. 今村博敏: 脳虚血: 急性期IVR2. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016. 9 .29
60. 足立拓優, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 後方循環系における急性期結構再建術の成績. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016. 9 .29
61. 徳永 聡, 津本智幸, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 坂井信幸: 緊急血行再建術におけるガイディングカテーテル留置困難例に対するBalloon-Inflation Anchoring Techniqueの有用性. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016. 9 .29
62. 吉田泰規, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 三神和幸, 坂井信幸: 再発を繰り返し複数回のコイル塞栓術を必要とした難治療性脳動脈瘤の検討. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016. 9 .30
63. 足立秀光, 別府幹也, 谷 正一, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井千秋, 坂井信幸: 動脈硬化性頭蓋内動脈狭窄症に対するバルーン拡張型ステント留置術の長期予後. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016. 9 .30
64. 松井雄一, 徳永 聡, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 90歳以上の超高齢者に対する急性期血行再建術の治療成績. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016. 9 .30
65. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: CTで評価した脳虚血急性期治療の課題. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016.10. 1
66. 別府幹也, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 1000例を超える未破裂脳動脈瘤の治療成績~再開通による再治療の検討~. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016.10. 1
67. 奥田智裕, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: Flow diverter (Pipeline Flex) を用いた血管内治療の初期治療成績. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016.10. 1
68. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 内頸動脈眼動脈分岐部動脈瘤の治療成績. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016.10. 1
69. 堀内一史, 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 坂井信幸: 頭蓋内硬膜動静脈瘻に対するOnyxを用いた根治的経動脈的塞栓術の当院における初期治療成績. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016.10. 1
70. 川端修平, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 未破裂椎骨動脈解離性動脈瘤に対する治療成績. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016.10. 1
71. 足立拓優, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 後方循環系における急性期血行再建術の成績. 第19回日本栓子検出と治療学会, 神戸, 2016.10.14
72. 松井雄一, 徳永 聡, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 吉田泰規, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 90歳以上の超高齢者に対する急性期血行再建術の治療成績. 第19回日本栓子検出と治療学会, 神戸, 2016.10.14

73. 今村博敏, 藤堂謙一, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 河野智之, 徳永 聡, 齊藤智成, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 幸原伸夫, 坂井信幸: CTのみで術前評価を行った血栓回収療法の治療成績. 第19回日本栓子検出と治療学会, 神戸, 2016.10.15
74. 坂井信幸: 脳血管内治療に携わる内科医に求めること. NET-I2016, 神戸, 2016.10.15
75. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Todo K, Adachi H, JR-NET, IDEALCAST CASTER, CAS-CARE Collaborators: The latest evidence of CAS and New Deice-Current status of carotid revascularization in Japan, - why CAS already overdrive CEA in Japan. CCT2016, Kobe, 2016.10.22
76. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Adachi H: Evaluation of mechanical detachable coil (Presgo/Achieva) - Japanese experience for approval. OCIN2016, Shanghai, China, 2016.10.28
77. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Beppu M, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Matsui Y, Yoshida Y, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K: Embolization if wide-necked bifurcation aneurysms:initial experience of PulseRider. OCIN2016, Shanghai, China 2016.10.28
78. Sakai N, Imamura H, Todo K, Adachi H, Tani S Tokunaga S, Beppu M Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Kono T, Hoshi T: Rapid and successful reperfusion using REVIVE SE. OCIN2016, Shanghai, China, 2016.10.28
79. 秋山 亮, 今村博敏, 谷正一, 足立秀光, 徳永 聡, 別府幹也, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 堀内一史, 坂井信幸: 機械的血栓回収療法を施行した院内発症脳梗塞の検討. 第75回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016.10.29
80. Imamura H, Sakai N: Initial experiences of ReVive SE at acute thrombectomy. KSIN-SKEN joint conference, Seoul, 2016.11. 8
81. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Beppu M, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Matsui Y, Yoshida Y, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K: I can't save patient, my worst case in recent 1 year.How do you manage intra - procedural rupture of intracranial aneurysm during stent - assisted coiling. LINNC Asia 2016, Singapore, 2016.11.17
82. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Beppu M, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Matsui Y, Yoshida Y, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Todo K, Kono T, Hoshi T, Saito T, Fujiwara S: A case of acute carotid artery occlusion, difficult to withdraw thrombectomy device. LINNC Asia 2016, Singapore, 2016.11.17
83. 別府幹也, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 堀内一史, 秋山 亮, 堀 晋也, 坂井信幸: Flow diverter留置術におけるプラスグレルの有用性. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.24
84. 足立拓優, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 後方循環系における急性期結構再建術の成績. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.24
85. 徳永 聡, 津本智幸, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 坂井信幸: 緊急血行再建術におけるガイディングカテーテル留置困難例に対するBalloon-Inflation Anchoring Techniqueの有用性. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.24
86. Tokunaga S, Imamura H, Akiyama R, Tani S, Adachi H, Funatsu T, Beppu M, Suzuki K, Adachi H, Sakai N: Bilateral Common Carotid Artery Occlusion associated with Acute Type A Aortic Dissection. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.24
87. 松井雄一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 吉田泰規, 坂井信幸: 90歳以上の超高齢者に対する急性期血行再建術の治療成績. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.24
88. 今村博敏, 鈴木啓太, 別府幹也, 坂井信幸: Flow diverter治療とAneurysmFlow - 血栓化の予想は可能か? -. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25
89. 今村博敏, 坂井信幸: 治療標準化を目指すためのデバイス選択. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25

90. 坂井信幸, 峰松一夫, 長谷川泰弘, 兵頭明夫, 飯原弘二, 小笠原邦昭, 今村博敏, 藤堂謙一, 足立秀光, 谷正一, 徳永 聡, 別府幹也, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 河野智之, 星 拓, 齊藤智成, 坂井千秋: 頭蓋内動脈硬化症に対する血管内治療, 我が国の現状と前向き登録研究の現状. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25
91. 坂井信幸: Codman Enterprise VRDマスターへの道. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会 (cet the Expert), 神戸, 2016.11.25
92. Imamura H, Todo K, Tani S, Adachi H, Hoshi T, Kono T, Tokunaga S, Saito T, Funatsu T, Beppu M, Suzuki K, Adachi H, Komai T, Okuda T, Kawabata S, Matsui Y, Yohida Y, Akiyama R, Hori S, Horiuchi K, Sakai N: Improved outcomes of acute thrombectomy by shortening door-to-reperfusion time – Attempts for reducing time to reperfusion – . The 32nd Annual Meeting of The Japanese Society for NeuroEndovascular Therapy, Kobe, 2016.11.25
93. 今村博敏, 坂井信幸: CEP「疾患・応用」トラブルシューティング. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25
94. 鈴木啓太, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 足立拓優, 坂井信幸: Aneurysm Flowを用いた未破裂脳動脈瘤に対するステント留置前後の血流動態評価. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25
95. 足立秀光, 別府幹也, 谷 正一, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 齊藤智成, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 坂井千秋, 坂井信幸: バルーン拡張型ステントで治療を行った頭蓋内動脈狭窄症の長期成長. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25
96. 足立秀光: 脳動静脈奇形. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25
97. 吉田泰規, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 三神和幸, 坂井信幸: 再発を繰り返し複数回のコイル塞栓術を必要とした難治療性脳動脈瘤の検討. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25
98. 川端修平, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 未破裂動脈瘤における術中破裂の検討. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.25
99. 今村博敏, 坂井信幸: データが示すHydroGelCoilの効果的な使い方. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.26
100. Imamura M: Case II Ilustration. 13th International IntraCranial Stent Meeting Interdisciplinary Cerebrovascular Symposium, Kobe, 2016.11.26
101. 奥田智裕, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 遠位部後大脳動脈瘤に対する血管内治療の治療成績. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.26
102. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 内頸動脈眼動脈分岐部動脈瘤の治療成績. 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016.11.26
103. Adachi H, Beppu M, Tani S, Imamura H, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Matsui Y, Yoshida Y, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Komai T, Hori S, Saito T, Kouno T, Hoshi T, Todo K, Sakai C, Sakai N: Long term results of balloon expandable stenting for intracranial atherosclerotic diseases. 13th International IntraCranial Stent Meeting Interdisciplinary Cerebrovascular Symposium, Kobe, 2016.11.27
104. Imamura H, Sakai N, Alexander J M: Flow-diverter stenting of internal carotid artery mycotic aneurysm A case report. 13th International IntraCranial Stent Meeting Interdisciplinary Cerebrovascular Symposium, Kobe, 2016.11.27
105. Beppu M, Imamura H, Tani S, Adachi H, Sakai C, Todo K, Hoshi T, Kouno T, Saito T, Funatsu T, Suzuki K, Okuda T, Matsui Y, Yoshida Y, Kawabata S, Sakai N: In-stent protrusion (ISP) as a predictive marker of in-stent Thrombosis (IST) after carotid artery stenting (CAS) . 13th International IntraCranial Stent Meeting Interdisciplinary Cerebrovascular Symposium, Kobe, 2016.11.27

106. Kawabata S, Imamura H, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Beppu M, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Matsui Y, Yoshida Y, Horiuchi K, Sakai N: Deconstructive and Reconstructive techniques in treatment of intracranial vertebral artery dissecting aneurysms. 13th International IntraCranial Stent Meeting Interdisciplinary Cerebrovascular Symposium, Kobe, 2016.11.27
107. Sakai N, Minematsu K, Hasegawa Y, Hyodo A, Iihara K, Ogasawara K, Imamura H, Todo K, Adashi H, Sakai C, KCGH Stroke Center: Current Status of Endovascular Therapy for ICAD in JAPAN-Japanese prospective study of endovascular therapy for ICAD. ICS2016, Kobe, 2016.11.27
108. 今村博敏, 坂井信幸: エビデンス時代の急性期血栓回収療法. 第6回Tama-FAST, 東京, 2016.12.2
109. Sakai N, Tatsushima S, Imamura H, Arimura K, Sakai C: Embolization of wide-necked bifurcation aneurysms: Experience of PulseRider®-The end of clipping? ALICE2016, Essen, Germany, 2016.12.8
110. Imamura H, Beppu M, Suzuki K, Sakai N: Flow Analysis by AneurysmFlow for Flow Diverter and Neck Bridge Stent. The 8th Severance Stroke Center Symposium, Seoul, 2016.12.17
111. Imamura H, Beppu M, Suzuki K, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Adachi H, Komai T, Okuda T, Kawabata S, Matsui Y, Yosida Y, Akiyama R, Hori S, Horiuchi K, Sakai N: Intial experience of Pipeline Flex and blood flow analysis by AneurysmFlow. The 32nd Annual Meeting of The Japanese Society for NeuroEndovascular Therapy, Kobe, 2016.12.24
112. 徳永 聡, 足立秀光, 吉田泰規, 谷 正一, 今村博敏, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 松井雄一, 川端修平, 堀内一史, 秋山 亮, 堀 晋也, 坂井信幸: 術中破裂した破裂前交通動脈瘤の1例. 第53回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 神戸, 2017.1.7
113. 坂井信幸: 脳血管内治療の勧め-神経内科医が血管内治療に携わる意義. 大阪大学神経内科第21回レジデント懇話会, 大阪, 2017.1.21
114. 坂井信幸: 脳動脈硬化症に対する血管内治療の役割. Stroke Expert Meeting in Hiroshima, 広島, 2017.1.24
115. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 徳永 聡, 別府幹也, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 藤堂謙一, 河野智之, 尾原信行, 星 拓, 齊藤智成: 急性虚血性脳卒中に対する血行再建の重要性-いかに全ての適応患者に提供するか. 第25回全国救急隊シンポジウム (パネルディスカッション「消防と医療の連携」), 神戸, 2017.1.26
116. 坂井信幸, 坂井千秋, 山本晴子, 永井洋士, 吉村紳一, 今村博敏: 脳血管内治療関連医療機器の治験と多施設共同研究. 日本臨床試験学会第8回学術集会総会, 大阪, 2017.1.26
117. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 坂井信幸: 血栓回収の目指すべき姿~より多くの患者を救うために~. 第22回日本脳神経外科救急学会, 高松, 2017.2.4
118. Sakai N, Imamura H, Todo K, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Beppu M, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Kono T, Hoshi T: Our standars proecedure of Carotid Artery Stenting. JET2017 (Video Live of CAS), 東京, 2017.2.15
119. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 齊藤智成, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 坂井信幸: 院内体制整備, 前方連携. JET2017, 東京, 2017.2.17
120. 坂井信幸: Future Outlook, 脳動脈瘤に対する血管内治療, コイル塞栓術からフローダイバーター, その先にあるもの. 京都大学脳神経外科同門会, 大阪, 2017.2.18
121. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 齊藤智成, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 坂井信幸: AIS治療における時間短縮の効果と今後の課題. 第35回日本脳神経血管内治療学会東北地方会, 仙台, 2017.2.25
122. 川端修平, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 堀 晋也, 坂井信幸: Lateral spinal artery動脈瘤破裂によるくも膜下出血の1例. 第40回日本脳神経CI学会総会, 鹿児島, 2017.3.3
123. 奥田智裕, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 脳底動脈の斜台骨折部への嵌頓をCone-beam CTで同定できた1例. 第40回日本脳神経CI学会総会, 鹿児島, 2017.3.3

124. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: Pipeline Embolization Device留置後のstent長および径測定. 第40回日本脳神経CI学会総会, 鹿児島, 2017. 3. 3
125. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 急性主幹動脈閉塞に対する血管内治療-院内体制と治療成績-. 第25回河田町脳神経外科懇話会, 東京, 2017. 3. 11
126. 坂井信幸, 今村博敏, 藤堂謙一, 坂井千秋, 吉村紳一, 山本晴子, 永井洋士, 飯原弘二, 佐藤 徹, 小林繁樹: 脳血管内治療関連医療機器の治験と臨床研究. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
127. 別府幹也, 今村博敏, 杉山慎一郎, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 堀 晋也, 八木高伸, 坂井信幸: Flow diverter (FD) 留置前後における脳動脈瘤内の血行動態変化~Computational fluid dynamicsを用いた解析~. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
128. 秋山 亮, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 別府幹也, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 堀内一史, 坂井信幸: 血栓回収療法を施行した院内発症脳梗塞の検討. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
129. 足立拓優, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 急性期脳梗塞治療としてのemergent CASの成績. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
130. 吉田泰規, 別府幹也, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 松井雄一, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 堀 晋也, 坂井信幸: ONYXによる経動脈的塞栓術で完全閉塞し得たCognard typ3の頭蓋内硬膜動静脈瘻の1例. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
131. 徳永 聡, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立秀光, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 硬膜動静脈瘻に対するDouble-lumen balloon catheterを用いたOnyx TAEの有用性. 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
132. 川端修平, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別部幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 椎骨動脈解離性動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術の有用性. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
133. 川端修平: 動脈瘤クリッピング術後の慢性硬膜下血腫発症に関わる因子の検討. 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
134. 堀内一史, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別部幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 坂井信幸: 急性期に治療を要した出血発症頭蓋内硬膜動静脈瘻の治療成績. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 16
135. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 吉田泰規, 奥田智裕, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 頸動脈解離による急性主幹動脈閉塞に対する血管内治療. 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 17
136. 鈴木啓太, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 堀 晋也, 坂井信幸: アテローム血栓症脳梗塞による頭頸部主幹動脈に急性閉塞をきたした症例の当院における治療成績. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 17
137. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 齊藤智成, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 坂井信幸: CASファースト施設における治療方針と成績. 日本脳神経血管内治療学会・STROEK2017合同シンポジウム, 大阪, 2017. 3. 17
138. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 齊藤智成, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 坂井信幸: 急性期脳梗塞治療我々の現在地と近未来. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 17

139. 今村博敏：脳動脈瘤塞栓術におけるHydrosoft coilの塞栓効果に関する多施設共同前向き登録研究. Japanese HydroSoft Registry (JHSR) 結果報告会, 大阪, 2017. 3. 17
140. 足立秀光, 船津堯之, 谷 正一, 今村博敏, 徳永 聡, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 駒井崇紀, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 堀 晋也, 齊藤智成, 尾原信行, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 坂井千秋, 坂井信幸：動脈硬化性頭蓋内動脈狭窄症に対するWingspanステント留置術の初期成績. 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 18
141. 奥田智裕, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸：遠位部後大脳動脈瘤に対する血管内治療の治療成績. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 18
142. 別府幹也：flow diverter治療におけるプラスグレルの有用性. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 18
143. 今村博敏, 坂井信幸：Solitaireの有効性・安全性の検討. Solitaire de Night in Osaka, 大阪, 2017. 3. 24

VII. 1. 18 整形外科

1. 岩城公一, 山本博史, 大西英次郎, 太田悟司, 藤田俊史, 安田 義：劇症型溶連菌感染症の7例. 第126回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 浜松, 2016. 4. 8
2. 吉元孝一, 竹内久貴, 渡邊 陸, 安田 義：Masquelet法による脛骨広範囲骨欠損治療の一例. 第126回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 浜松, 2016. 4. 8
3. 安田 義：ロコモティブシンドローム－変形性膝関節症を中心に－. 神戸市医師会学術講演会, 神戸, 2016. 4. 9
4. Yasuda T: Medial meniscus extrusion and spontaneous osteonecrosis of the knee. The 60th Annual General Assembly and Scientific Meeting of the Japan College of Rheumatology, Yokohama, Japan, 2016. 4. 22
5. 安田 義：変形性膝関節症の発症機序と保存的療法. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会ランチョンセミナー34, 横浜, 2016. 4. 23
6. 安田 義, 山本博史, 岩城公一, 大西英次郎, 太田悟司, 藤田俊史, 林 信実, 山脇佑介, 吉元孝一, 榊田崇一郎, 宮崎由佳：大腿骨内顆骨壊死と内側半月逸脱との関連. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016. 5. 14
7. 太田悟司, 安田 義, 岩城公一, 藤原正利, 大西英次郎, 山本博史, 藤田俊史, 竹内久貴, 渡邊 陸, 山脇佑介, 林 信実：当科における骨盤骨折の治療成績. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016. 5. 15
8. 太田悟司：骨盤骨折の当院での治療成績と今後－スポーツ損傷も含めて－. 神戸京整会症例検討会第9回特別講演会, 神戸, 2016. 5. 28
9. Azukizawa M, Ito H, Yasuda T, Furu M, Hamamoto Y, Fujii T, Morita Y, Okahata A, Masamoto K, Matsuda S: Effect of an exercise therapy systemic biomarkers for cartilage metabolism. European League against Rheumatism 2016 Annual Meeting, London, UK, 2016. 6. 8 – 11
10. 安田 義, 太田悟司, 渡邊 陸：潜在性甲状腺機能亢進症に伴う骨粗鬆症から生じた大腿骨頸部脆弱性骨折の一例. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016. 7. 1
11. 竹内久貴, 渡邊 陸, 太田悟司, 山脇佑介, 京 英紀, 池口良輔, 安田 義：開放骨折後に生じた感染性骨欠損に対してMasquelet法にて治療を行った3例. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016. 7. 1
12. 榊田崇一郎, 竹内久貴, 西口 滋, 安田 義：開放性及び閉鎖性小児橈骨骨折に対する治療成績. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016. 7. 1
13. Yasuda T, Yokoi Y, Oyanagi K, Hamamoto K: Hip rotation as a predisposing factor of the screening tests for anterior cruciate ligament injury in female athletes. 21st annual congress of the European College of Sports Science, Vienna, Austria, 2016. 7. 6 – 9
14. 藤田俊史：高齢者の肩関節痛－外傷から慢性期疾患－. 第30回神戸市北区整形外科医会, 神戸, 2016. 7. 9
15. 安田 義：女性アスリートにおける膝前十字靭帯損傷の危険因子. 姫路市整形外科医会学術講演会, 姫路, 2016. 7. 16
16. 植村美咲, 安田 義：人工膝関節置換術後の内側広筋深部温の経時的変化. 第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2016. 7. 28

17. 安田 義：大腿骨内顆骨壊死と大腿脛骨角との関連. 第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2016. 7. 29
18. 森田悠吾, 小西宏樹, 宮崎由佳, 林 信実, 山脇佑介, 吉元孝一, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英二郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義：Suicidal jumper's fractureの1例. 第27回神戸京整会症例検討会, 神戸, 2016. 8. 5
19. 小西宏樹, 太田悟司, 安田 義, 岩城公一, 山本博史, 大西英二郎, 藤田俊史, 末吉達也：膝複合靭帯損傷を伴った重度下肢外傷の一例. 第53回兵庫県膝関節研究会, 神戸, 2016. 9. 3
20. Onishi E, Yasuda T, Yamamoto H, Iwaki K, Ota S, Fujita S: Surgical treatment of thoracic myelopathy due to simultaneous ossification of the posterior longitudinal ligament and ligamentum flavum at the same level. 37th SICOT, Rome, Italy, 2016. 9. 8 - 10
21. Yasuda T, Konishi H, Morita Y, Miyazaki Y, Hayashi M, Yamawaki Y, Yoshimoto K, Sueyoshi T, Ota S, Fujita S, Onishi E, Iwaki K, Yamamoto H: Association between Medial Meniscus Extrusion and Spontaneous Osteonecrosis of the Knee. 24th Annual Meeting of EORS, Bologna, 2016. 9. 14 - 16
22. 安田 義, 吉矢晋一, 市橋則明, 伊藤浩充：女性アスリートにおける股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性に関する研究. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016. 9. 25
23. 林 信実, 宮崎由佳, 山脇佑介, 太田悟司, 岩城公一, 安田 義：ビスフォスフォネート投与に伴う非定型大腿骨骨折の2例. 第127回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松本, 2016. 9. 30
24. 森田悠吾, 山本博史, 櫻木淳史, 宮崎由佳, 安田 義：頸椎CT-discographyが診断の決め手となった一例. 第127回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松本, 2016. 10. 1
25. 山脇佑介, 小西宏樹, 森田悠吾, 宮崎由佳, 林 信実, 吉元孝一, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英二郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義：骨欠損を生じたため遊離腸骨骨移植を行った踵骨開放粉碎骨折の1例. 第25回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2016. 10. 8
26. 藤田俊史, 安田 義, 山本博史, 坂口裕哉, 小寺 睦：LCPを用いた上腕骨近位端骨折治療における皮質骨厚の影響. 第43回日本肩関節学会, 広島, 2016. 10. 21 - 22
27. 小寺 睦, 藤田俊史, 坂口雄哉, 川内ななみ, 柴田久美子, 安田 義：ホットバックによる腱板周囲組織の温度変化について. 第43回日本肩関節学会, 広島, 2016. 10. 21 - 22
28. 坂口雄哉, 藤田俊史, 小寺 睦, 川内ななみ, 安田 義：RSA後反復性脱臼にエコー下でリハビリを行い機能改善した一例. 第13回肩の運動機能研究会, 広島, 2016. 10. 21 - 22
29. 安田 義：ころばぬ先のロコモ - ロコモティブシンドローム -. 神戸市民健康大学講座, 神戸, 2016. 10. 27
30. 太田悟司, 小西宏樹, 森田悠吾, 宮崎由佳, 林 信実, 山脇佑介, 吉元孝一, 末吉達也, 藤田俊史, 大西英二郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義：分節性脛骨骨折の一例. 第28回神戸京整会症例検討会, 神戸, 2016. 10. 29
31. 大西英次郎：腰痛診療の実際. かかりつけ医のための腰痛診療セミナー, 神戸, 2016. 11. 9
32. 藤田俊史：How to maintain microsurgical skills in a general hospital. 第43回日本マイクロサージャリー学会, 広島, 2016. 11. 17
33. 大西英次郎, 山脇佑介, 小西宏樹, 森田悠吾, 宮崎由佳, 林 信実, 吉元孝一, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 岩城公一, 山本博史, 安田 義：治療に難渋した上腕骨頸部脱臼骨折. 第5回京整会轍会症例検討会, 松江, 2016. 11. 26
34. 池口良輔, 太田壮一, 織田宏基, 洵江宏文, 竹内久貴, 松田秀一, 安田 義：上腕骨遠位端関節内骨折 (AO/OTA type C) に対するdouble plate 固定法による骨接合術の治療成績. 第29回日本肘関節学会学術集会, 東京, 2017. 2. 3
35. 山本博史, 藤田俊史：診断, 治療に難渋する小児上腕骨通顆骨折. 第29回日本肘関節学会学術集会, 東京, 2017. 2. 4
36. 小西宏樹, 森田悠吾, 宮崎由佳, 林 信実, 山脇佑介, 吉元孝一, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義：肩甲骨窩高度骨欠損に対しBIO RSAで治療した一例. 第29回神戸京整会症例検討会, 神戸, 2017. 2. 10

37. 藤田俊史, 小西宏樹, 森田悠吾, 宮崎由佳, 林 信実, 山脇佑介, 吉元孝一, 末吉達也, 太田悟司, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義: 大腿骨顆上開放骨折後の偽関節. 第4回京都大学外傷研究会, 大阪, 2017. 2. 18
38. 森田悠吾, 小西宏樹, 宮崎由佳, 林 信実, 山脇佑介, 吉元孝一, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義: 大腿骨骨幹部骨折の治療経験. 第4回京都大学外傷研究会, 大阪, 2017. 2. 18
39. 末吉達也, 安田 義: 人工膝関節における同一デザインのセメントレス及びセメント大腿骨コンポーネントの長期成績. 第47回日本人工関節学会, 宜野湾, 2017. 2. 25
40. 小豆澤勝幸, 伊藤 宣, 濱本洋輔, 中谷敏昭, 坪山直生, 松田 誠, 松田秀一, 安田 義: 運動療法が関節軟骨代謝に及ぼす効果におけるバイオマーカーを用いた検討. 第30回日本軟骨代謝学会, 京都, 2017. 3. 4
41. 小西宏樹, 森田悠吾, 宮崎由佳, 林 信実, 山脇佑介, 吉元孝一, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義: 非定型大腿骨ステム周囲骨折と思われた1例. 第21回兵庫股関節研究会, 神戸, 2017. 3. 11
42. 森田悠吾, 小西宏樹, 宮崎由佳, 林 信実, 山脇佑介, 吉元孝一, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義: 当院におけるドール手術手技の改良. 第1回THAアプローチ研究会, 大阪, 2017. 3. 25

VII. 1. 19 形成外科

1. 松添晴加, 片岡和哉, 池田実香, 高橋夏子, 南 遼平, セ 也: 当院における顔面骨骨折症例の検討. 第59回日本形成外科学会総会学術集会, 福岡, 2016. 4. 13-15
2. 池田実香, 内藤素子, 片岡和哉, 松添晴加, 高橋夏子, セ 也: 当院に新規開設したケロイド外来のご案内. 第43回兵庫県形成外科医会研究会, 神戸, 2016. 5. 21
3. セ 也, 片岡和哉, 池田実香, 松添晴加, 高橋夏子, 南 遼平: 上眼瞼内反症を来したHallermann-Streif症候群の一例. 第113回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2016. 7. 10
4. セ 也, 片岡和哉, 池田実香, 松添晴加, 高橋夏子, 南 遼平: 基底細胞癌を含む4重複癌の一例. 第115回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 5

VII. 1. 20 産婦人科

1. 増田望穂, 山口 建, 安彦 郁, 濱西潤三, 吉岡弓子, 越山雅文, 近藤英治, 馬場 長, 松村謙臣, 小西郁生: 当科での低悪性度卵巣漿液性癌9例の臨床的検討. 第68回日本産科婦人科学会, 東京, 2016. 4. 22-24
2. 池田裕美枝, 安日一郎, 鳴本敬一郎, 新井隆成, 加藤一朗, 蓮尾 豊, 伊藤雄二: 非産婦人科プライマリ・ケア医に対する低用量ピル普及講習の開発: ALSOから広がる女性医療普及事業. 第68回日本産科婦人科学会, 東京, 2016. 4. 22-24
3. 富田裕之, 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 松林 彩, 日野麻世, 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 吉岡信也, 松岡直樹, 今井幸弘: 後腹膜原発malignant solitary fibrous tumorの腹腔内多発再発にともなう低血糖症状にたいして緩和的放射線照射により低血糖症状が軽快した1例. 第68回日本産科婦人科学会, 東京, 2016. 4. 22-24
4. 前田裕斗, 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 吉岡信也: Meigs'症候群を伴った顆粒膜細胞腫. 第68回日本産科婦人科学会, 東京, 2016. 4. 22-24
5. 星野達二, 山添紗恵子, 柳川真澄, 前田裕斗, 日野麻世, 松林 彩, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: わが国における胎児心拍陽性の頸管妊娠の治療について. 第68回日本産科婦人科学会, 東京, 2016. 4. 22-24
6. 北 正人, 吉村智雄, 佛原悠介, 溝上友美, 村田紘未, 木戸健陽, 岡田英孝, 吉岡信也: 開腹および腹腔鏡下逆行性広汎子宮全摘出術の安全性・根治性・排尿機能の評価. 第68回日本産科婦人科学会, 東京, 2016. 4. 22-24
7. 小山瑠梨子, 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 子宮体癌根治術後にポート再発をきたした症例. 第15回兵庫産婦人科内視鏡懇話会, 神戸, 2016. 5. 28

8. 池田裕美枝：妊娠と薬. ACP日本支部年次総会2016, 京都, 2016. 6. 4
9. 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 松林 彩, 日野麻世, 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 市川千宙, 吉岡信也：卵巣癌・結核性腹膜炎と鑑別を要したVegetable Granulomaの一例. 第134回近畿産科婦人科学会, 神戸, 2016. 6. 4 - 5
10. 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 日野麻世, 松林 彩, 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓也, 今村裕子, 星野達二, 吉岡信也：不妊治療中に発症したPyomyomaの一例. 第134回近畿産科婦人科学会, 神戸, 2016. 6. 4 - 5
11. 池田裕美枝：「PID」「妊婦のミカタ」. ERアップデートin沖縄2016, 沖縄, 2016. 7. 2
12. 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 松林 彩, 日野麻世, 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 市川千宙, 吉岡信也：閉経後女性における子宮捻転の一例. 第90回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 神戸, 2016. 7. 3
13. 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 日野麻世, 松林 彩, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 吉岡信也：頻回の輸血を要した再生不良性貧血合併妊娠の1例. 第90回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 神戸, 2016. 7. 3
14. 林 信孝, 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 松林 彩, 日野麻世, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 吉岡信也：当院における子宮体癌再発リスク分類と再発症例の検討. 第58回日本婦人科腫瘍学会, 盛岡, 2016. 7. 8 - 10
15. 池田裕美枝：実践, あなたも今日から診られる女性の不定愁訴. 女性医療ネットワーク神戸シンポジウム, 神戸, 2016. 7. 9
16. 小山瑠梨子, 松林 彩, 林 信孝, 大竹紀子, 上松和彦, 今村裕子, 吉岡信也：周術期管理に難渋した子宮腺筋症術後妊娠の1例. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会, 富山, 2016. 7. 16 - 18
17. 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 松林 彩, 日野麻世, 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 市川千宙, 吉岡信也：閉経後女性における子宮捻転の一例. 研修医・修練医のための産婦人科サマーセミナー2016, 京都, 2016. 7. 30
18. 池田裕美枝：HFD児を分娩し, 妊娠糖尿病を疑われた産婦人科医からの提案(しくじり先生). 第40回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 札幌, 2016. 9. 1
19. 小山瑠梨子, 宮本泰斗, 松林 彩, 林 信孝, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也：腹腔鏡下子宮体癌根治術後にポート再発をきたした1例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 長崎, 2016. 9. 1 - 3
20. 富田裕之, 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 松林 彩, 日野麻世, 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 吉岡信也：腸管膜嚢腫と術前診断された巨大腹腔内嚢腫にたいして腹腔鏡補助下に手術をおこない傍卵管嚢腫の診断にて傍卵管嚢腫核出術を施行した1例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 長崎, 2016. 9. 1 - 3
21. 大竹紀子, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 埜山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也：当科における初期子宮体癌の腹腔鏡下手術の検討. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 長崎, 2016. 9. 1 - 3
22. 吉岡信也, 増田望穂, 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 埜山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小林史昌, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子：腹腔鏡下子宮体癌根治術後にポート再発をきたした1例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 長崎, 2016. 9. 1 - 3
23. 星野達二, 柳川真澄, 松林 彩, 吉岡信也, 岸 淳二, 江見信之, 小野吉行：子宮鏡下経頸管的粘膜下筋腫摘除術における子宮鏡直視観察下の筋腫把持手技について. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 長崎, 2016. 9. 1 - 3
24. 星野達二, 柳川真澄, 日野麻世, 上松和彦, 吉岡信也, 岸 淳二, 江見信之, 小野吉行：軟性子宮鏡直接観察下の子宮内膜ポリープ摘除術の胎盤鉗子把持手技について. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 長崎, 2016. 9. 1 - 3
25. 上田浩之, 清水大功, 日野 恵, 坂本 亮, 北口耕輔, 岡野 拓, 伊藤 亨, 前田裕斗, 宮本泰斗, 吉岡信也：子宮捻転の一例. 第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 東京, 2016. 9. 16 - 18
26. 池田裕美枝：OC/LEP処方. papスミア講習会, プライマリケア連合学会第13回秋季生涯教育セミナー, 大阪, 2016. 10. 6

27. 前田裕斗, 柳川真澄, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 当院における子宮型羊水塞栓症症例の解析. 第135回近畿産科婦人科学会学術集会周産期研究部会, 京都, 2016.10.23
28. 山添紗恵子, 増田望穂, 前田裕斗, 柳川真澄, 崎山明日香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 当院におけるリンパ浮腫外来についての検討. 第135回近畿産科婦人科学会学術集会腫瘍研究部会, 京都, 2016.10.23
29. 北 正人, 佛原悠介, 木戸健陽, 村田紘未, 溝上友美, 吉村智雄, 岡田英孝, 大竹紀子, 吉岡信也: リンパ管温存リンパ節郭清によるリンパ浮腫予防の臨床成績. 第135回近畿産科婦人科学会学術集会腫瘍研究部会, 京都, 2016.10.23
30. Hoshino T, Kishi J, Emi N, Ono Y, Yanagawa M Matsubayashi A Yoshioka S: Simple and very convenient technique for submucous myomectomy under direct transcervical resectoscope observation, 2016 APAGE & TAMIG Annual Congress of the Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive Therapy Annual Congress and Taiwan Association for Minimally Invasive Gynecology, TAIPEI, Taiwan, 2016.11. 4 – 6
31. Hoshino T, Kishi J, Emi N, Ono Y, Yanagawa M, Hino M, Uematsu K, Yoshioka S: Simple and convenient technique for endometrial polypectomy under direct hysteroscope observation. 2016 APAGE & TAMIG Annual Congress of the Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive Therapy Annual Congress and Taiwan Association for Minimally Invasive Gynecology, TAIPEI, Taiwan, 2016.11. 4 – 6
32. 池田裕美枝: 病院における性暴力被害者支援. 2016年度内閣府モデル事業兵庫県における性暴力被害者のためのバーチャルワンストップセンター構築の一環として, 姫路, 2016.11.10
33. 青木卓哉: 当院における子宮内膜症治療の現状. 第6回神戸Endometriosis検討会, 神戸, 2016.11.19
34. 小林史昌, 柳川真澄, 前田裕斗, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 原発巣決定に苦慮した悪性卵巣腫瘍の1例. 第8回関西婦人科腫瘍・病理懇話会, 京都, 2016.11.26
35. 池田裕美枝: 女性の健康を考える国際シンポジウム. 国際女性会議「WAW! 2016」シャイン・ウィークス公式サイドイベント, 東京, 2016.12. 7
36. 前田裕斗, 柳川 澄, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 自験例の後方視的検討を踏まえた当院での産科危機的出血への対応. 2016年度兵庫県産婦人科臨床懇話会, 神戸, 2017. 1 .14
37. 池田裕美枝: 女性医療総論. 女性医療ネットワークジョイラボ新春講座, 東京, 2017. 1 .29
38. 吉岡信也: 当院における不妊治療後妊娠の後方視的検討. 兵庫県生殖・周産期医療交流シンポジウム, 神戸, 2017. 2 . 5
39. 上松和彦, 前田裕斗, 柳川 澄, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 神戸市立医療センター中央市民病院産科 年次報告. 第4回神戸市立医療センター中央市民病院総合周産期医療センター オープンカンファレンス, 神戸, 2017. 2 .11
40. 前田裕斗, 柳川 澄, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 病院間連携により救命しえた絨毛がん合併妊娠の一例. 第4回神戸市立医療センター中央市民病院総合周産期医療センター オープンカンファレンス, 神戸, 2017. 2 .11
41. 崎山明香, 柳川真澄, 前田裕斗, 増田望穂, 山添紗恵子, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 池田裕美枝, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 当院で経験した産褥子宮内反症例の後方視的検討. 第17回産婦人科手術・化学療法研究会, 京都, 2017. 3 .18

VII. 1. 21 泌尿器科

1. 川喜田睦司, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 河野有香, 松岡崇志, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 杉野善雄, 岡田卓也: 完全体腔内腹腔鏡下回腸導管造設術 (ビデオ). 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .23
2. 松岡崇志, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 河野有香, 松本敬優, 住吉崇幸, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田睦司: HoLEPにおける術中出血に関する検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .23

3. 杉野善雄, 鈴木良輔, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 増田憲彦, 白石裕介, 宇都宮紀明, 矢野敏史, 岡田卓也, 川喜田睦司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術後のテストステロン, LHの推移に関する臨床的検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .24
4. 矢野敏史, 鈴木良輔, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 宇都宮紀明, 常森寛行, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田睦司: インドシアニドグリーンを用いたロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術における術中センチネルリンパ節郭清の経験. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .24
5. 川喜田睦司: Hot topic lecture 無阻血腎部分切除術の進化. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .25
6. 川喜田睦司: フルハイビジョン3DとICG蛍光法は, どこまで手術を変えるのか? -解剖, 縫合, 同定, 郭清-. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .25
7. 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 西原大策, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 矢野敏史, 常森寛行, 杉野善男, 岡田卓也, 清川岳彦, 川喜田睦司: 腹腔鏡下腎部分切除術における実質縫合の有無による合併症の比較検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .25
8. 今尾哲也, 岸蔭貴裕, 福田 護, 天野俊康, 川喜田睦司: 当科における腹膜鏡下腎部分切除術の経験. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .25
9. 香野日高, 中川 健, 森田伸也, 川喜田睦司, 伊原博行, 奥村和弘, 寺地敏郎: ネオアジュバント内分泌療法後に腹腔鏡下前立腺全摘除術を施行し長期にフォローした患者のPSA再発の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .25
10. 鈴木良輔, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 増田憲彦, 白石裕介, 根来宏光, 矢野敏史, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田睦司: 中リスク前立腺癌における恥骨後式根治的前立腺全摘除術後の生化学的再発について. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .25
11. 福永有伸, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 矢野敏史, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田睦司: 抗血栓薬継続による前立腺生検施行後合併症に関する比較検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .25
12. 岡田卓也, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 宇都宮紀明, 矢野敏史, 常森寛行, 杉野善雄, 清川岳彦, 川喜田睦司: 前立腺癌におけるリンパ節転移予測ノモグラムの比較検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016. 4 .25
13. Kawakita M: Renal Cell Carcinoma: A Case of the Right Renal Tumor with IVC Tumor Thrombus (Level II) . The 9th AUA/JUA International Affiliate Society Meeting 2016, San Diego, USA, 2016. 5 . 8
14. 松岡崇志, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 河野有香, 松本敬優, 矢野敏史, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田睦司: 当院における転移性副腎腫瘍に対する体腔鏡下副腎摘除術の経験. 第28回日本内分泌外科学会総会, 横浜, 2016. 5 .27
15. 岡田卓也, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 松岡崇志, 矢野敏史, 杉野善雄, 川喜田睦司, 松岡亮介, 今井幸弘: EVRアドオン後に間質性肺炎とBKV感染を生じ, 導入MZ導入にて改善が得られた1症例. 第32回腎移植・血管外科研究会, 姫路, 2016. 5 .27
16. 川喜田睦司: 前立腺肥大症と小径腎細胞癌: 手術療法の変遷. 第6回香川LUTSスモールミーティング, 高松, 2016. 6 . 3
17. 川喜田睦司: 前立腺肥大症の診断と治療. 日本新薬社内勉強会, 神戸, 2016. 6 . 6
18. 川喜田睦司: Endoscopic Surgery (鏡視下手術・標準手術) 泌尿器科領域の腹腔鏡下/ロボット支援手術. 第41回日本外科系連合学会学術集会, 大阪, 2016. 6 .16
19. 川喜田睦司, 井上幸治, 杉野善雄, 矢野敏史, 松岡崇志, 福永有伸, 鈴木良輔, 鈴木一生, 石川英二: 当病院での診療成績について. 第15回港島泌尿器科病院診療所交流会 (灘・東灘), 神戸, 2016. 6 .30
20. 川喜田睦司: 腎細胞癌に対する腹腔鏡手術. RCC seminar in Kyoto (ノバルティス), 京都, 2016. 7 . 2
21. 川喜田睦司, 川端 岳, 伊藤哲之, 田中一志 (講師): 泌尿器腹腔鏡手術手技の向上を目指して. Covidien Urol-Lap Brush-Up Seminar Vol.2-CULBUS-, 神戸, 2016. 7 .10
22. 石川英二: 神戸市立医療センター中央市民病院泌尿器科男性外来の臨床統計. 第4回Kobe Men's Health研究会, 神戸, 2016. 7 .14
23. 鈴木良輔, 鈴木一生, 福永有伸, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 副腎腫瘍の1例. 第50回兵庫岡山RCC研究会, 神戸, 2016. 7 .23

24. 川喜田睦司（コーディネーター），川端 岳，繁田正信（講師）：第10回泌尿器腹腔鏡下縫合・結紮手技講習会，神戸，2016.7.30
25. 川喜田睦司（総合司会），田中一志：腹腔鏡下右腎摘除術（後腹膜到達），腹腔鏡下右腎摘除術（経腹膜到達）。第31回日本泌尿器内視鏡学会ビデオ講習会，東京，2016.9.10
26. 川喜田睦司：CRPC薬物療法とRARC。二四木会特別講演会，高松，2016.9.16
27. 内田一徳，稲木紀幸，川喜田睦司：第160回日本内視鏡外科学会腹腔鏡下結紮・縫合手技講習会，神戸，2016.9.17
28. 松田 年，稲木紀幸，川喜田睦司：第161回日本内視鏡外科学会腹腔鏡下結紮・縫合手技講習会，神戸，2016.9.18
29. 鈴木一生，鈴木良輔，福永有伸，土肥洋一郎，松岡崇志，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：前立腺癌内分泌療法。第28回Clinical Urology研究会，神戸，2016.10.1
30. 川喜田睦司：腎細胞癌に対する診断・治療の実際。ブリストルマイヤーズ社内勉強会，神戸，2016.10.4
31. 松岡崇志，鈴木一生，鈴木良輔，福永有伸，土肥洋一郎，矢野敏史，宇都宮紀明，杉野善雄，井上幸治，岡田卓也，川喜田睦司：DegarelixによるVolume Study。第4回KULPセミナー，神戸，2016.10.6
32. 川喜田睦司：前立腺摘出術後の合併症。ラジオ関西 みんなの健康相談，2016.10.22
33. 鈴木一生，簗智幸政，鈴木良輔，福永有伸，河野有香，松岡崇志，矢野敏史，杉野善雄，辻 晃仁，川喜田睦司：去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）に対するカバジタキセル療法の安全性についての検討。第2回日本泌尿器科腫瘍学会学術集会，横浜，2016.10.23
34. 杉野善雄，鈴木一生，鈴木良輔，赤羽瑞穂，福永有伸，河野有香，松本敬優，松岡崇志，増田憲彦，白石裕介，矢野敏史，井上幸治，岡田卓也，川喜田睦司：前立腺癌小線源療法後のテストステロン，LHの推移に関する検討。第66回日本泌尿器科学会中部総会，四日市，2016.10.27
35. 井上幸治：日本泌尿器科学会卒後教育プログラム：泌尿器科マイナーイマージンシー2。第66回日本泌尿器科学会中部総会，四日市，2016.10.27
36. 松岡崇志，川喜田睦司：当院でのRARPの現状と次世代ロボットの展望（特に膀胱憩室合併症例について）。第66回日本泌尿器科学会中部総会，四日市，2016.10.28
37. 福永有伸，鈴木一生，赤羽瑞穂，鈴木良輔，西原大策，河野有香，松本敬優，松岡崇志，矢野敏史，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：第66回日本泌尿器科学会中部総会 2016.10.28（10.27-30）四日市市
38. Matsuoka T, Suzuki I, Suzuki R, Fukunaga A, Yano T, Sugino Y, Inoue K, Kawakita M: Extended pelvic lymph node dissection (ELND) at the time of laparoscopic radical prostatectomy (LRP) improves biochemical free survival (BFS) for intermediate risk prostate cancer. 34th World Congress of Endourology, Cape Town, South Africa, 2016.11.9
39. 福永有伸，鈴木一生，鈴木良輔，松岡崇志，矢野敏史，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：RARPにおけるTotal Anatomical Reconstructionによる術後短期尿禁制の検討。第30回日本泌尿器内視鏡学会総会，大阪，2016.11.17
40. 川喜田睦司，福永有伸，松岡崇志，杉野善雄：Advanced Laparoscopy鏡視下手術の限界に挑戦2：ロボット補助腹腔鏡下前立腺全摘除術と同時施行した膀胱憩室粘膜下切除術。第30回日本泌尿器内視鏡学会総会，大阪，2016.11.18
41. 松岡崇志，鈴木一生，鈴木良輔，福永有伸，矢野敏史，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：当院における転移性副腎腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘除術の経験。第30回日本泌尿器内視鏡学会総会，大阪，2016.11.18
42. 鈴木良輔，鈴木一生，赤羽瑞穂，福永有伸，河野有香，松本敬優，松岡崇志，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：中リスク前立腺癌における恥骨後式VS腹腔鏡下根治的前立腺全摘術のPSA再発について。第30回日本泌尿器内視鏡学会総会，大阪，2016.11.18
43. 矢野敏史，鈴木良輔，赤羽瑞穂，福永有伸，河野有香，松岡崇志，杉野善雄，岡田卓也，今井幸弘，川喜田睦司：ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術における前立腺前面リンパ節転移に関する検討。第30回日本泌尿器内視鏡学会総会，大阪，2016.11.19
44. 川喜田睦司：腎部分切除術～腹腔鏡下手術とロボット支援下手術の比較～。第68回西日本泌尿器科学会総会，下関，2016.11.24
45. 川喜田睦司：腹腔鏡下膀胱全摘除術と体腔内尿路変向術。第10回静岡泌尿器腹腔鏡研究会，静岡，2016.11.26

46. 土肥洋一郎, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田陸司: ニボルマブマブ投与における当院での取り組みとその初期投与経験. HOWN RCC講演会, 神戸, 2016.12.3
47. 川喜田陸司: 前立腺癌のアプローチ別, 郭清手技, 短期・長期成績, コスト: RALPはLRPを凌駕するか?: 制癌効果. 第29回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2016.12.10
48. 川喜田陸司: 前立腺がん治療の最近の話題. 神戸市中央区医師会学術講演会, 神戸, 2017.1.18
49. 福永有伸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田陸司: RARPにおけるTotal anatomical Reconstructionによる術後短期的尿禁制の検討. 第9回日本ロボット外科学会学術集会, 佐賀, 2017.1.28
50. 矢野敏史, 上原慶一郎, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 河野有香, 松岡崇志, 宇都宮紀明, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田陸司: RARPにおける前立腺前面リンパ節郭清の検討. 第9回日本ロボット外科学会学術集会, 佐賀, 2017.1.28
51. 川喜田陸司: 前立腺癌診断からRARPまで. ヤンセンファーマ・アストラゼネカ社内勉強会, 神戸, 2017.1.30
52. Fukunaga A, Kawakita M: Risk factors for mortality in patients with urosepsis. The 32nd Annual European Association of Urology Congress, London, 2017.3.24-28

VII. 1. 22 眼科

1. 栗本康夫: 人工多能性幹細胞による網膜色素上皮シート移植術 (シンポジウム). 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016.4.7-10
2. 栗本康夫: 神戸市立医療センター中央市民病院の指導体制 (専門医制度指導医講習会). 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016.4.7-10
3. 栗本康夫: 原発閉塞隅角緑内障の手術治療 (サブスペシャリティサンデー). 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016.4.7-10
4. 吉水 聡, 広瀬文隆, 宇山紘史, 高木誠二, 藤原雅史, 栗本康夫: 急性原発閉塞隅角眼と慢性原発閉塞隅角眼における前眼部構造の比較. 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016.4.7-10
5. 宮本紀子, 万代道子, 宇山紘史, 高木誠二, 西田明弘, 栗本康夫: 加齢黄斑変性におけるアフリバルセプト早期再発群の維持中のDry maculaに関する検討. 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016.4.7-10
6. 許沢尚弘, 藤原雅史, 吉水 聡, 宇山紘史, 高木誠二, 広瀬文隆, 栗本康夫: 毛様体扁平部挿入型バルベルト緑内障インプラント手術の術後中期成績. 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016.4.7-10
7. 高木誠二, 高橋政代, 平見恭彦, 藤原雅史, 富田剛司, 栗本康夫: 視力良好な定型網膜色素変性での網膜血管面積と中心窩無血管領域の評価. 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016.4.7-10
8. 平見恭彦: 網膜変性疾患へのiPS細胞の臨床応用と今後の展開 (講演). 第21回眼科若手研究者の会, 仙台, 2016.4.8
9. 宮本紀子: DME治療のアプローチ. H3DME研究会, 神戸, 2016.4.16
10. Kurimoto Y, Hirami Y, Fujihara M, Morinaga C, Yamamoto M, Fujita K, Sugita S, Mandai M, Takahashi M, Fujita K, Sugita S: Transplantation of autologous induced pluripotent stem cell-derived retinal pigment epithelium cell sheets for exudative age related macular degeneration: A pilot clinical study. ARVO 2016, Seattle in U.S.A, 2016.5.1-5
11. Yamamoto S, Miyamoto N, Fujihara M, Ishida S, Kurimoto Y: Five-year outcomes of inner segment ellipsoid and external limiting membrane status after pars plana vitrectomy in diabetic macular edema. ARVO 2016, Seattle in U.S.A, 2016.5.1-5
12. 栗本康夫: 原発閉塞隅角症/緑内障の治療戦略 (講演). 第16回北海道眼科ワークショップ, 札幌, 2016.5.14
13. 栗本康夫: 滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植 (特別講演). 第20回奈良県黄斑疾患研究会, 奈良, 2016.5.19
14. 平見恭彦: 網膜変性疾患へのiPS細胞による再生医療 (講演). JRPS徳島支部第12回定期総会, 徳島, 2016.5.22
15. 宇山紘史: 専門外来報告 神経眼科外来報告. 第51回神戸市立医療センター中央市民病院 眼科臨床懇話会, 神戸, 2016.6.2

16. 吉水 聡：抗VEGF薬をswitching backしたPCVの一例. Hyogo Young Macula Club, 神戸, 2016. 6 .10
17. 山本庄吾：IVR併用PDTが有効だったRAPの一例. AMD治療におけるPDTの再評価, 神戸, 2016. 6 .11
18. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（招待講演）. 第9回NMS EYE CONFERENCE, 東京, 2016. 6 .15
19. 藤原雅史：視野の基本～緑内障を添えて～（講演）. 第4回眼科疾患勉強会, 西宮, 2016. 6 .15
20. 広瀬文隆：閉塞隅角緑内障を読み解く！（特別講演）. 第7回関西Glaucoma Update, 大阪, 2016. 6 .25
21. 栗本康夫：PACS, PAC, PACG 病期別の白内障手術の適応（特別講演）. Regional Seminar of Cataract Surgery with TECNIS in北九州, 北九州, 2016. 7 .2
22. 石田和寛：糖尿病網膜症外来報告「DMEに対するアフリベルセプト硝子体注射の中期成績」. 第52回神戸市立医療センター中央市民病院 眼科臨床懇話会, 神戸, 2016. 7 .7
23. 藤原雅史：難治性緑内障に対する毛様体扁平部挿入型バルバルト緑内障インプラントの術後中期成績（講演）. 第17回緑内障手術研究会, 大阪, 2016. 7 .15
24. 平見恭彦：加齢黄斑変性に対するiPS細胞を用いた治療と今後の展望（特別講演）. 第91回中央眼科集談会, 東京, 2016. 7 .15
25. 宮本紀子：AMDの長期管理, どないしてます？ 第21回兵庫県黄斑疾患研究会, 神戸, 2016. 7 .16
26. 松崎光博, 西田明弘, 宇山紘史, 高木誠二, 宮本紀子, 万代道子, 栗本康夫：抗VEGF 薬で再発を繰り返した網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫への硝子体手術例. 第33回日本眼循環学会, 福岡, 2016. 7 .22-23
27. 平見恭彦：再生医療とロービジョンケア（講演）. 平成28年度低視覚者社会適応訓練講習会, 大阪, 2016. 7 .23
28. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（講演）. 関西ニュービジネス協議会 夏のビッグイベント2016 講演会, 神戸, 2016. 8 .29
29. 平見恭彦：再生医療と視覚リハビリテーション（講演）. 平成28年度大阪府北ブロック保健所難病講演会, 吹田, 2016. 9 .1
30. 広瀬文隆：みんなの閉塞隅角緑内障（特別講演）. 滋賀県眼科セミナー, 大津, 2016. 9 .3
31. 広瀬文隆：閉塞隅角緑内障の診療ポイント（特別講演）. なにわ眼科勉強会, 大阪, 2016. 9 .6
32. 広瀬文隆：閉塞隅角の科学（シンポジウム）. 第27回日本緑内障学会, 横浜, 2016. 9 .17-19
33. 吉水 聡, 広瀬文隆, 山本庄吾, 宇山紘史, 高木誠二, 藤原雅史, 栗本康夫：急性原発閉塞隅角眼と慢性原発閉塞隅角眼の水晶体再建術後の前眼部構造の比較. 第27回日本緑内障学会, 横浜, 2016. 9 .17-19
34. Kurimoto Y：Surgical Treatment of Primary Angle Closure（Japan-Asia Symposium）. 第27回日本緑内障学会, 横浜, 2016. 9 .17-19
35. Takagi S, Kurimoto Y, Hirami Y, Takahashi M, Tomita G, Fujihara M, Yamamoto S: Fundus autofluorescence and optical coherence tomography in pigmented paravenous retinochoroidal atrophy. XVII International symposium on retinal degeneration RD2016, Kyoto, 2016. 9 .19-24
36. Kurimoto Y: Transplantation of autologous iPS cell-derived RPE cell sheets for exudative AMD: A Pilot clinical study. XXII Biennial meeting of the international society for eye research, Tokyo, 2016. 9 .25-29
37. 平見恭彦：再生医療と視覚リハビリテーション（講演）. 平成28年度姫路市難病相談会, 姫路, 2016.10.1
38. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植（特別講演）. 第60回眼科フォーラムプログラム, 松山, 2016.10.2
39. 平見恭彦：再生医療と視覚リハビリテーション（講演）. 第11回JRPS網脈絡膜変性フォーラム, 伊勢, 2016.10.2
40. 藤原雅史：はじめての緑内障（講演）. 平成28年目の愛護デー, 神戸, 2016.10.2
41. 広瀬文隆：水晶体摘出術後の閉塞隅角緑内障. 第14回兵庫県眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2016.10.8
42. 平見恭彦：加齢黄斑変性に対するiPS細胞を用いた再生医療（講演）. 平成28年度近眼連主催眼科スタッフ教育講座, 大阪, 2016.10.15
43. Yoshimizu S, Miyamoto N, Fujihara M, Ishida K, Kurimoto Y, Yoshimizu S, Miyamoto N, Fujihara M, Ishida K, Kurimoto Y: Association of vessel flow density and inner segment ellipsoid defect with visual acuity in diabetic macular edema. AAO2016, Chicago in U.S.A, 2016.10.15-18
44. 広瀬文隆：閉塞隅角緑内障を解き明かす！（特別講演）. 兵庫区眼科懇話会, 神戸, 2016.10.20

45. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（特別講演）．熊本眼疾患フォーラム，熊本，2016.10.21
46. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（特別講演）．第26回東邦大学医療センター大橋病院と渋谷区・世田谷区・目黒区眼科医会合同勉強会，東京，2016.10.22
47. 栗本康夫，酒井 寛，山本哲也：原発閉塞隅角緑内障の治療戦略－用語の基本から困った症例の対応まで－（インストラクションコース）．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11. 3－6
48. 大家義則，奥村直毅，羽藤 晋，平見恭彦：再生医療ナナメヨミ2016（インストラクションコース）．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11. 3－6
49. 中村隆宏，稲富 勉，脇外耕一，平見恭彦，藤原雅史，高木誠二，栗本康夫，外園千恵，木下 茂：虹彩縫合による瞳孔形成術を併用したDSAEKの治療成績．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11. 3－6
50. 平見恭彦，荒井優気，高橋政代，栗本康夫：遺伝カウンセリングにより疾患の遺伝性への認識が変化した網膜色素変性の一例．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11. 3－6
51. 吉水 聡，宮本紀子，栗本康夫：ポリープ状脈絡膜血管症破裂後著明な出血のため前房の完全消失，眼圧上昇に至った一例．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11. 3－6
52. 許沢尚弘，広瀬文隆，栗本康夫：眼球突出と兎眼を伴う外傷性眼内炎に対して眼球内容除去術を施行した1例．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11. 3－6
53. 高木誠二，平見恭彦，高橋政代，山本庄吾，藤原雅史，富田剛司，栗本康夫：色素性傍静脈網脈絡膜萎縮のFAFとOCT所見の特徴．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11. 3－6
54. 広瀬文隆：閉塞隅角緑内障を解き明かす！（特別講演）．神戸市眼科医会西区講演会，神戸，2016.11.10
55. 栗本康夫：加齢黄斑変性に対するiPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植（講演）．第19回浜松眼科フォーラム，浜松，2016.11.11
56. Miyamoto N, Mandai M, Oishi A, Nakai S, Honda S, Hirashima T, Oh H, Matsumoto Y, Uenishi M, Kurimoto Y: Long-term results of verteporfin PDT or ranibizumabu for PCV in LAPTOP study（優秀演題シンポジウム）．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12. 2－4
57. 高木誠二，万代道子，宮本紀子，西田明弘，平見恭彦，宇山紘史，山本 翠，池見 洋，高橋政代，富田剛司，栗本康夫：抗VEGF治療中の加齢黄斑変性において矯正視力が不良となる症例の特徴と背景．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12. 2－4
58. 栗本康夫，平見恭彦，藤原雅史，森永千佳子，山本 翠，藤田佳奈子，伊都知子，杉田 直，万代道子，高橋政代：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮シート移植：2年の臨床経過．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12. 2－4
59. 西田明弘，宇山紘史，高木誠二，宮本紀子，万代道子，栗本康夫：網膜静脈分枝閉塞症に対するラニビズマブからアフリバルセプトへの切り替え例．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12. 2－4
60. 石田和寛，宮本紀子，藤原雅史，宇山紘史，山本庄吾，吉水 聡，松崎光博，許沢尚弘，栗本康夫：糖尿病黄斑浮腫に対するアフリバルセプト硝子体注射の治療成績．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12. 2－4
61. 西田明弘：前眼部新生血管を伴うCRVOに対する抗VEGF薬とPRPの併用療法．黄斑疾患フォーラムin Kobe，神戸，2016.12.17
62. 平見恭彦：網膜疾患へのiPS細胞の臨床応用（講演）．静岡県中部医学会学術講演会，静岡，2017. 1 .14
63. 栗本康夫：加齢黄斑変性に対するiPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植（特別講演）．第36回とやま眼科学術講演会，富山，2017. 1 .21
64. 許沢尚弘，広瀬文隆，松崎光博，宇山紘史，藤原雅史，栗本康夫：硝子体切除で改善しない悪性緑内障に対して周辺虹彩切除と水晶体嚢切除を施行した2例．第40回日本眼科手術学会，東京，2017. 1 .27－29
65. 山本庄吾，宮本紀子，許沢尚弘，中村隆宏，栗本康夫：眼球破裂の診断に前眼部光干渉断層計が有用であった一例．第40回日本眼科手術学会，東京，2017. 1 .27－29
66. Kurimoto Y: iPS in the retina (Invited, Symposium) APAO2017, Singapore, 2017. 3 . 1－5
67. 栗本康夫，平見恭彦，高木誠二，小田稔彦，坂口裕和，岡田 潔，高須直子，土肥浩美，小出直史，森永千佳子，北島裕幸，杉田 直，万代道子，西田幸二，山中伸弥，高橋政代：加齢黄斑変性に対する他家人工多能性幹細胞由来網膜色素上皮細胞移植の臨床研究実施計画．第16回日本再生医療学会総会，仙台，2017. 3 . 7－9
68. 広瀬文隆：前眼部OCTでわかる閉塞隅角緑内障（特別講演）．第279回広島眼科症例検討会，広島，2017. 3 . 9

69. 中村隆宏, 平見恭彦, 藤原雅史, 高木誠二, 外園千恵, 栗本康夫: 先端医療センター病院眼科における DSAEK の治療成績. 第36回神戸市立医療センター中央市民病院眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2017. 3. 11
70. 吉水 聡, 広瀬文隆, 宇山紘史, 高木誠二, 藤原雅史, 栗本康夫: 急性原発閉塞隅角眼と慢性原発閉塞隅角眼における前眼部構造の比較. 第36回神戸市立医療センター中央市民病院眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2017. 3. 11
71. 広瀬文隆: 閉塞隅角緑内障を解き明かす! (特別講演). 宝塚市眼科医会学術講演会, 宝塚, 2017. 3. 25

VII. 1. 23 耳鼻咽喉科

1. 諸頭三郎: 小児内耳, 内耳道奇形例に対する人工内耳医療. 神戸聴覚特別支援学校職員研修会, 神戸, 2016. 4. 28
2. 諸頭三郎: 思春期を迎えた難聴児の課題と対応 - 医療・心理・学習 -, 西宮市難聴児親の会, 西宮, 2016. 5. 8
3. 山本亮介, 内藤 泰, 林 一樹, 桑田文彦, 原田博之, 岸本逸平, 末廣 篤, 藤原敬三, 篠原尚吾: 小児両側人工内耳の成績. 第117回日本耳鼻咽喉科学会, 名古屋, 2016. 5. 18-21
4. 竹林慎治, 中平真衣, 谷上由城, 林 泰之, 木村俊哉, 暁久美子, 池田浩己, 三浦 誠: 口蓋扁桃摘出術後出血の検討. 第117回日本耳鼻咽喉科学会, 名古屋, 2016. 5. 18-21
5. 諸頭三郎, 前川圭子, 山崎朋子, 玉谷輪子, 大西晶子, 藤井直子: 当科の小児人工内耳術後成績. 第17回日本言語聴覚学会, 京都, 2016. 6. 10-11
6. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 末廣 篤, 岸本逸平, 原田博之, 桑田文彦, 山本亮介: 反復性髄膜炎を内耳窓閉鎖術により制御しえたcommon cavity奇形の1例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23-24
7. 桑田文彦, 篠原尚吾, 山本亮介, 原田博之, 岸本逸平, 末廣 篤, 藤原敬三, 内藤 泰: 上顎洞内に生じたコレステリン肉芽腫症例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23-24
8. 松永麻美, 大田耕造, 牛呂幸司, 道田哲彦, 脇坂仁美, 中村 一: 当院における鼻副鼻腔乳頭腫の検討: exophytic papillomaに合併したcarcinoma in situ. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23-24
9. 藤原敬三: 先天性難聴の遺伝子検査 (講演). 神戸地区耳鼻咽喉科医会連絡会, 学術講演会・臨床セミナー, 神戸, 2016. 6. 25
10. 内藤 泰: 小児人工内耳 - 大いなる成功と最近のトピックス (ランチョンセミナー). 第11回日本小児耳鼻咽喉科学会, 徳島, 2016. 6. 30-7. 1
11. 藤井直子, 諸頭三郎, 大西晶子, 岸本逸平, 内藤 泰: 残存聴力活用型人工内耳 (EAS: Electric acoustic stimulation) の小児例5例の術後成績. 第11回日本小児耳鼻咽喉科学会, 徳島, 2016. 6. 30-7. 1
12. 道田哲彦, 内藤 泰, 篠原尚吾, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 林 一樹, 山本亮介, 齊田浩二: 小児両側同時人工内耳埋め込み術の経験. 第183回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2016. 7. 9
13. 川瀬哲明, 内藤 泰: 「耳鳴診療ガイドライン作成にむけて」標準耳鳴検査法 - その記載法について - (パネルディスカッション, パネリスト). 日本聴覚医学会, 第2回耳鳴難聴研究会, 東京, 2016. 7. 9
14. 諸頭三郎: 人工内耳の効果と限界. 和歌山県立和歌山ろう学校職員研修会, 和歌山, 2016. 7. 25
15. Naito Y, Kishimoto I, Moroto S, Sasaki I, Fujiwara K: Electrically evoked brainstem responses of prelingually deafened children who underwent sequential bilateral cochlear implantation. 2016 Annual CORLAS meeting, Bordeaux, France, 2016. 8. 28-31
16. 内藤 泰: 耳科手術から見た側頭骨画像所見読影のポイント (日耳鼻領域講習講演). 富山県呉西地区耳症例研究会, 高岡, 2016. 9. 15
17. 諸頭三郎: 人工内耳の効果と限界, そして対応 (講演). 姫路聴覚支援学校および東播地区難聴学級担任研修会, 姫路, 2016. 9. 16
18. 道田哲彦, 内藤 泰, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之: 小児両側同時人工内耳埋め込み術 - 自験例の検討. 第26回日本耳科学会, 松本, 2016. 10. 5-8
19. 内藤 泰, Claude J: 人工内耳における低侵襲手術 - 術者の視点から (ランチョンセミナー). 第26回日本耳科学会, 松本, 2016. 10. 5-8
20. 藤原敬三, 内藤 泰, 竹林慎治, 原田博之, 道田哲彦: 中耳疾患の診療において撮影されたMRI拡散強調画像の検討 (テーマセッション). 第26回日本耳科学会, 松本, 2016. 10. 5-8

21. Naito Y : Two cases with novel vestibular aqueduct anomalies who underwent successful cochlear implantation. New trends in hearing implant sciences 2016 – Hakuba meeting in OKUSHIGA –, 長野県下高井郡, 2016.10. 8 – 10
22. 道田哲彦, 藤原敬三, 内藤 泰:音響性聴器障害の非対称性に関する検討. 第61回日本聴覚医学会, 盛岡, 2016.10.19–21
23. 大西晶子, 諸頭三郎, 前川圭子, 山崎朋子, 玉谷輪子, 藤井直子, 藤原敬三, 内藤 泰: データロギング機能を用いた人工内耳装用小児の装用状況と音環境の検討. 第61回日本聴覚医学会, 盛岡, 2016.10.19–21
24. 藤原敬三, 内藤 泰, 宇佐美真一, 道田哲彦: 当科で施行した先天性難聴の遺伝学的検査に関する検討. 第61回日本聴覚医学会, 盛岡, 2016.10.19–21
25. 山本真子, 前川圭子, 白井裕美子, 雲井一夫: 般化に難渋した機能性発声障害症例. 第61回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 横浜, 2016.11. 3
26. 白井裕美子, 土師知行, 山本真子, 前川圭子, 雲井一夫: 小児声帯結節症例に対する音声治療. 第61回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 横浜, 2016.11. 3
27. 諸頭三郎: 人工内耳の最新の動向. 兵庫県立こばと聴覚特別支援学校研修会, 西宮, 2016.11.11
28. 齊田浩二, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 篠原尚吾, 内藤 泰: 中耳腺腫の1例. 第184回耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2016.11.27
29. 内藤 泰: これからの難聴小児の医療について. 神戸市立総合療育センター難聴児通園施設難聴児クラス保護者勉強会, 神戸, 2016.12. 2
30. 道田哲彦: 小児両側同時人工内耳手術の経験. 第29回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2016.12. 3
31. 藤原敬三, 竹林慎治, 末廣 篤, 原田博之, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 齊田浩二: ご紹介頂いた症例呈示, 治療方針, 経過報告, 診療の話題. 第13回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2016.12. 8
32. 山崎朋子: 当科の人工内耳 最近のトピック. 第13回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2016.12. 8
33. 内藤 泰: 神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・平成28年の現況. 第13回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2016.12. 8
34. 藤原敬三: 次世代シーケンス解析によりOTOF遺伝子変異が同定された1例. 第2回次世代シーケンス解析講習会, 松本, 2017. 1 .21–22
35. 内藤 泰: 髄膜炎・内耳奇形 (講演・シンポジウム). 第27回日本頭頸部外科学会総会, 東京, 2017. 2 .2 – 3
36. 内藤 泰: 言語習得前失聴小児の言語到達における視聴覚統合の脳機能 (講演). 第23回東大・慶大ジョイントカンファレンス, 東京, 2017. 2 .9
37. 諸頭三郎: 人工内耳医療について –人工内耳の効果と限界 –そしてコミュニケーション– (講演). 第20回ろう教育学習会, 姫路, 2017. 2 .11
38. 諸頭三郎: 人工内耳のマッピングについて –その重要性和聾学校でできること (講演). 和歌山県立聾学校職員研修会, 和歌山, 2017. 3 .3
39. 内藤 泰: 人工内耳と難聴の医療について (講演). 第17回人工内耳と難聴に関する勉強会 (人工内耳親の会), 神戸, 2017. 3 .4

VII. 1. 24 頭頸部外科

1. 原田博之, 篠原尚吾, 末廣 篤, 岸本逸平, 林 一樹, 内藤 泰: 胸腹部原発癌の頸部リンパ節転移に対する頸部郭清術についての検討. 第28回京都耳鼻咽喉科研究発表会, 京都, 2016. 4 .2
2. 篠原尚吾, 原田博之, 末廣 篤, 岸本逸平, 林 一樹, 内藤 泰: 全身麻酔のリスク (ASA-PS) は甲状腺全摘術後の全生存率に影響するか? 第28回京都耳鼻咽喉科研究発表会, 京都, 2016. 4 .2
3. 前川圭子: 音声障害の評価と治療 (特別講演). 神戸医療福祉専門学校実習指導者会議, 三田, 2016. 4 .16
4. 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之, 林 一樹, 山本亮介, 桑田文彦, 岸本逸平, 藤原敬三, 内藤 泰: 全身麻酔のリスクは, 甲状腺全摘術後の生命予後に影響するか? 第117回日本耳鼻咽喉科学会, 名古屋, 2016. 5 .18–21
5. 三浦 誠, 竹林慎治, 曉久美子, 木村俊哉, 山田光一郎, 林 泰之, 谷上由城, 中平真衣, 池田浩己: 外耳道奇形を伴わない中耳奇形例の検討. 第117回日本耳鼻咽喉科学会, 名古屋, 2016. 5 .18–21

6. 篠原尚吾, 占野尚人, 末廣 篤, 菊地正弘, 原田博之, 岸本逸平, 林 一樹: 当院における中下咽頭表在癌の臨床的特徴・治療・合併症と治療成績・問題点について. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6. 9 - 10
7. 竹林慎治, 谷上由城, 中平真衣, 林 泰之, 木村俊哉, 山田光一郎, 松本久美子, 池田浩己, 三浦 誠: 放射線治療後に生じた下咽頭癌に対する経口腔的腫瘍切除後の経験. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6. 9 - 10
8. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之: 頭頸部原発悪性腫瘍に対する放射線治療の予測困難な中断. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6. 9 - 10
9. 末廣 篤, 篠原尚吾, 林 一樹, 原田博之, 岸本逸平: Biphenotypic Sinonasal Sarcoma例. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6. 9 - 10
10. 原田博之, 篠原尚吾, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 竹信俊彦, 末廣 篤, 岸本逸平, 林 一樹: 当科における根治照射後の放射線性骨髄炎の検討. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6. 9 - 10
11. 谷上由城, 中平真衣, 林 泰弘, 木村俊哉, 山田光一郎, 暁久美子, 竹林慎治, 池田浩己, 三浦 誠: 一度の生検で診断が困難であった症例の検討. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23 - 24
12. 山本亮介, 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之, 桑田文彦, 岸本逸平, 藤原敬三, 内藤 泰: 著明な高Ca血症により術前から拡大切除を計画した副甲状腺癌例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23 - 24
13. 竹林慎治, 中平真衣, 谷上由城, 林 泰弘, 木村俊哉, 山田光一郎, 暁久美子, 池田浩己, 三浦 誠: 入院再手術症例の検討. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23 - 24
14. 牛呂幸司, 藤本康子, 道田哲彦, 松永麻美, 脇坂仁美, 大田耕造, 中村 一: 甲状腺未分化癌との鑑別に苦慮した滑膜肉腫の1例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23 - 24
15. 前川圭子: 構音障害の治療について. 兵庫県言語聴覚士会小児学習会, 神戸, 2016. 7. 3
16. 齊田浩二, 篠原尚吾, 原田博之, 道田哲彦, 竹林慎治, 林 一樹, 山本亮介, 藤原敬三, 内藤 泰: 急性喉頭蓋炎様の症状を示した副甲状腺腫瘍出血の1例. 第183回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2016. 7. 9
17. Harada H, Shinohara S, Suehiro A, Fujiwara K, Kishimoto I, Kuwata F, Hayashi K, Yamamoto R, Naito Y: Neck dissection for cervical lymph node metastases from primaries not in the head and neck. AHNS 9th International Conference on Head and Neck Cancer, Seattle, U. S. A, 2016. 7. 16 - 20
18. Shinohara S, Suehiro A, Harada H, Kikuchi M, Kishimoto I, Kuwata F, Yamamoto R, Hayashi K, Yamazaki K, Yunoki K: Does ASA physical status make an influence on the patients' survival after total thyroidectomy? AHNS 9th International Conference on Head and Neck Cancer, Seattle, U.S.A, 2016. 7. 16 - 20
19. Kikuchi M, Raghvendra M Srivastava, Lingyi S, Dexing Z, Carolyn J Anderson, Barry E, Robert L Ferris, David A. Clump: Pet imaging of radiation-induced PD-L1 upregulation in tumor micro-environments using ZR-89 labeled PD-L1 AB in AB16F10 mouse model. AHNS 9th International Conference on Head and Neck Cancer, Seattle, U.S.A, 2016. 7. 16 - 20
20. Harada H, Shinohara S, Suehiro A, Fujiwara K, Kishimoto I, Hayashi K, Yamamoto R, Naito Y: ND for metastases from primaries that are not in the head and neck. American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Annual Meeting (AAO-HNSF 2016), San Diego, U.S.A, 2016. 9. 18 - 21
21. 篠原尚吾, 竹林慎治, 原田博之, 菊地正弘, 末廣 篤, 山崎和夫, 柚木一馬: ASA-PSによる全身状態のスコアが甲状腺全摘後の総生存率に及ぼす影響について. 第49回日本甲状腺外科学会, 甲府, 2016. 10. 27 - 28
22. 竹林慎治, 齊田浩二, 山本亮介, 林 一樹, 道田哲彦, 原田博之, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 左総頸動脈蛇行症を伴った甲状腺手術の1例. 第49回日本甲状腺外科学会, 甲府, 2016. 10. 27 - 28
23. 林 一樹, 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之, 市川千宙, 今井幸弘, 佐竹悠良: ひとたび寛解したものの9年後に肺転移巣で死の転帰をたどった甲状腺未分化癌の症例. 第49回日本甲状腺外科学会, 甲府, 2016. 10. 27 - 28
24. 前川圭子, 土師知行, 吐師道子, 城本 修: 新しい喉頭ストロボスコーピー評価トレーニングプログラムの開発と有用性の検証. 第61回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 横浜, 2016. 11. 3
25. 末廣 篤, 前川圭子, 大森孝一: 音声振戦症に対する音声治療. 第61回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 横浜, 2016. 11. 3
26. 篠原尚吾, 占野尚人, 竹林慎治, 原田博之, 森田周子: 当院における咽頭表在癌治療. 第6回関西頭頸部腫瘍懇話会, 大阪, 2016. 11. 5

27. 中平真衣, 竹林慎治, 本多啓吾, 暁久美子, 山田光一郎, 木村俊哉, 林 泰之, 谷上由城, 池田浩己, 三浦誠: 甲状腺硝子化巣状腫瘍例. 第68回日本気管食道学会総会, 東京, 2016.11.17-18
28. 前川圭子: 小児に対する構音指導のコツ. 神戸市通級指導教室研修会, 神戸, 2016.11.22
29. 山本亮介, 篠原尚吾, 齊田浩二, 林 一樹, 道田哲彦, 原田博之, 竹林慎治, 藤原敬三, 内藤 泰: 腫瘍随伴症候群と思われる多関節炎を合併した甲状腺乳頭癌症例. 第184回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2016.11.27
30. 前川圭子: 喉頭外来. 第13回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2016.12. 8
31. 篠原尚吾: 扁桃癌の患者さんご紹介のお願い-HPV関連中咽頭痛に対する低侵襲治療の前向き臨床研究-. 第13回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2016.12. 8
32. 篠原尚吾: 側頭下窩の大きな石灰化腫瘍-疾患は? 治療方針は? -. 第31回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会, 大阪, 2017. 1 .28
33. 竹林慎治: 咽後膿瘍から進展したと考えられた劇症型溶血性レンサ球菌感染症の1例. 第27回日本頭頸部外科学会総会, 東京, 2017. 2 . 2 - 3
34. 前川圭子: 音声障害の評価と治療 (講演). 兵庫県言語聴覚士会神戸西ブロック勉強会, 神戸, 2017. 2 .26
35. 道田哲彦, 篠原尚吾, 内藤 泰, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 林 一樹, 山本亮介, 齊田浩二: 膜様部から気管内に進展し喉頭全摘を要した甲状腺乳頭癌の一例. 第4回上方内分泌外科研究会, 大阪, 2017. 3 . 3
36. Michida T, Shinohara S, Naito Y, Fujiwara K, Takebayashi S, Harada H, Hayashi K, Yamamoto R, Saida K, Imai Y: Poorly differentiated thyroid carcinoma : a retrospective study. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3 .23-25
37. Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Harada H, Michida T, Yamamoto R, Hayashi K, Saida H, Usami Y, Uehara K, Imai Y: P16 positive/ p53 negative oropharyngeal squamous cell carcinoma - Response to chemotherapy, survival and multiple malignancy incidence. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3 .23-25
38. Shinohara S, Funabiki K, Nakano M, Goto T, Kataoka Y, Takebayashi S, Saida K, Hayashi K, Yamamoto R, Michida T, Harada H, Fujiwara K, Imai Y, Naito Y: Optical biopsy in head and neck cancers using fiber-bundle based micro-endoscope. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3 .23-25
39. Takebayashi S, Shinohara S, Saida K, Hayashi K, Yamamoto R, Michida T, Harada H, Fujiwara K, Naito Y: A retrospective study on adenoid cystic carcinoma in the head and neck. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3 .23-25
40. Hayashi K, Shinohara S, Naito Y, Fujiwara K, Takebayashi S, Harada H, Michida T, Yamamoto R, Saida K: Clynical analysis of cervical metastatic carcinoma of unknown primary. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3 .23-25

VII. 1. 25 麻酔科

1. 宮脇郁子, 山崎和夫, 柚木一馬: 当院における心血管合併症を持った非心臓手術症例の検討. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016. 5 .26
2. 下園崇宏, 東別府直紀, 美馬裕之, 山崎和夫: ICU入室後経腸栄養開始時期と生命予後の関連について 国際栄養調査2013の結果より. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016. 5 .27
3. 田口聡久, 清水綾子, 山崎和夫: 当院における手術室内心停止症例の検討. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016. 5 .27
4. 柚木一馬, 下園崇宏, 東別府直紀, 美馬裕之, 宮脇郁子, 山崎和夫: ASA physical status class 5と評価した43症例の検討. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016. 5 .27
5. 森 美喜, 宮脇郁子, 山崎和夫: 予定入院手術における中止理由の検討. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016. 5 .27

6. 田口聡久, 谷 大輔, 浅香葉子, 川上大裕, 植田浩司, 下藺崇宏, 美馬裕之: 上行弓部大動脈置換術後に遷延する意識障害の原因精査に頸動脈エコーを活用できた一例. 第61回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
7. 伊原正幸, 下園崇宏, 植田浩司, 美馬裕之, 山崎和夫: 冠動脈バイパス術後に生じた心嚢・縦隔乳糜胸の一例. 第61回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
8. 山村 愛, 岡澤佑樹, 植田浩司, 美馬裕之, 山崎和夫: 末梢挿入型中心静脈カテーテルによる上大静脈への穿通を認めた一例. 第61回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
9. 三好健太郎, 柚木一馬, 早坂朋彦, 山崎和夫: 偶発的気管支損傷により換気不能に陥った胸腔鏡下食道手術の一例. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016. 9. 3
10. 泉 侑希, 田口聡久, 清水綾子, 山崎和夫: 緊急帝王切開となった重症急性膵炎合併妊婦の1例. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016. 9. 3
11. 吉藤正泰, 東別府直紀, 山崎和夫: ロボット支援腎部分切除術中に, 一過性の胸郭出口症候群を生じた一例. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016. 9. 3
12. 濱場啓史, 宮脇郁子, 山崎和夫: 著明な前傾姿勢を呈する多発性骨髄腫患者に対する麻酔経験. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016. 9. 3
13. 岡村章平, 東別府直紀, 早坂朋彦, 山崎和夫: 経膈分娩時の癒着胎盤より産科危機的出血に至り, 子宮動脈塞栓術を要した一例. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016. 9. 3
14. 柚木一馬, 下園崇宏, 山崎和夫: 異所性褐色細胞腫摘出術の麻酔管理は副腎性のものと比較してより困難である. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016. 9. 3
15. 武田雄勇毅, 東別府直紀, 甲斐沼篤, 岡澤佑樹, 宮脇郁子, 山崎和夫: 左上大静脈遺残を合併した症例の心臓手術: 4症例の検討. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 16
16. 濱場啓史, 清水綾子, 宮脇郁子, 山崎和夫: Apico-aortic-conduit術後患者に対する経皮の大動脈弁置換術の麻酔経験. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 16
17. 村上隆司, 岡澤佑樹, 柚木一馬, 宮脇郁子, 山崎和夫: 人工心肺離脱後に透析用内シャントから出血しショックとなった開心術の1例. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 16
18. 佐々木怜, 早坂朋彦, 宮脇郁子, 徐 舜鶴, 山崎和夫: 胸骨切開時に椎骨動脈を損傷した一例. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 16
19. 池田真悠実, 柚木一馬, 宮脇郁子, 山崎和夫: 開心術直後の仰臥位胸部レントゲン写真で気胸を診断するために, 注意しておくべき所見. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 17
20. 森 美喜, 宮脇郁子, 山崎和夫: 心臓血管外科術後のしびれと末梢神経障害. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 17
21. 山村 愛, 清水綾子, 宮脇郁子, 山崎和夫: カテコラミン誘発性多形性心室頻拍合併妊婦に対する帝王切開の麻酔経験. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 17
22. 田口聡久, 宮脇郁子, 山崎和夫: 薬剤溶出性ステント留置後4日目に緊急胆嚢摘出術を行い, 術後心筋梗塞をなした一例. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 17
23. 谷 大輔, 岡澤佑樹, 柚木一馬, 下藺崇宏, 宮脇郁子, 山崎和夫: 修正大血管転位を合併したロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の1例. 日本心臓血管麻酔学会第21回学術大会, 横浜, 2016. 9. 17
24. Sasaki R, et al: Misdiagnosis of Myocardial Infarction as Cholecystitis of Patient with Cardiac Pacemaker. Anesthesiology 2016 Annual Meeting, Chicago, USA, 2016.10.22
25. Higashibeppu N: Insulin Dose Helps Identify Patients Who Benefit Most from Artificial Nutrition, 46th Critical Care Congress Hawaii, USA, 2017. 1. 22
26. Nakamori Y: Preventive Effect of Propofol and Dexmedetomidine on TIA in Pediatric Patients with Moyamoya Disease. 46th Critical Care Congress, Hawaii, USA, 2017. 1. 23
27. Kawakami D: Relationship of new fragmented QRS and myocardial damage after coronary artery bypass graft surgery. 46th Critical Care Congress, Hawaii, USA, 2017. 1. 23
28. Ueta H: Number of Days Until Achieving Dry Weight After Cardiac Surgery in Chronic Hemodialysis Patients. 46th Critical Care Congress, Hawaii, USA, 2017. 1. 23

29. 中森裕毅, 是永 章, 川上大裕, 植田浩司, 下藺崇宏, 美馬裕之, 山崎和夫: 大動脈弁逆流症に対する大動脈弁置換術後に生じる交互脈の急性期循環管理の指標としての有用性の検討. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 9
30. 浅香陽子, 瀬尾龍太郎, 植田浩司, 美馬裕之, 山崎和夫: 心臓外科術後患者における鏡を使用したせん妄予防. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 9
31. 東別府直紀: アジア, 中東と比較した本邦ICUでの栄養療法への障害~他施設アンケートの結果~. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 9
32. 川上大裕, 植田浩司, 下藺崇宏, 美馬裕之, 是永 章, 中森裕毅, 山崎和夫: Off-pump coronary artery bypass術後のノルアドレナリンの使用はグラフト閉塞を増加させるか? 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 10
33. 須賀将文, 川上大裕, 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 山崎和夫: VAP診療におけるICU医によるグラム染色の有用性の検討. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 10
34. 東別府直紀, 讚井将満, 祖父江和哉: ICUにおける栄養療法国際調査の参加経験は優れた栄養法と関連する. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 10
35. 是永 章, 瀬尾龍太郎, 朱 祐珍, 美馬裕之, 有吉孝一: チームで医療倫理を共有する方法. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 11

VII. 1. 26 歯科・歯科口腔外科

1. 山本信祐, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 大谷紗織, 平井雄三, 谷池直樹: 慢性閉塞性唾液腺炎に対する新しいマイクロバーの使用経験. 第70回日本口腔科学会学術集会, 福岡, 2016. 4. 15-17
2. 平井雄三, 谷池直樹, 前田圭吾, 高地いづみ, 大谷紗織, 山本信祐, 竹信俊彦: 下顎骨褐色腫を合併した原発性副甲状腺機能亢進症の1例. 第70回日本口腔科学会学術集会, 福岡, 2016. 4. 15-17
3. 竹信俊彦: 顎矯正手術を成功に導くために-トラブル症例に学ぶ. 大阪歯科大学歯科矯正学講座同門会総会, 大阪, 2016. 4. 17
4. 竹信俊彦: 下顎枝垂直骨切り術. 第2回宮崎大学医学部顎変形症研究会, 宮崎, 2016. 4. 25
5. 竹信俊彦: 顎顔面外傷. 岡山大学歯学部歯科放射線分野特別講義, 岡山, 2016. 5. 17
6. 竹信俊彦: 役に立つ病院歯科を目指して-中央市民病院の取り組み-. 平成28年度東灘区・灘区・中央区歯科医師会合同学術講演会, 神戸, 2016. 6. 4
7. 原田博之, 篠原尚吾, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 竹信俊彦, 末廣 篤, 岸本逸平, 林 一樹: 当科における根治照射後の放射線性骨髄炎の検討. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6. 9-10
8. 高地いづみ, 山本信祐, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦: 球麻痺が疑われた顎関節脱臼の1例. 第27回日本老年歯科医学会総会・学術集会, 徳島, 2016. 6. 19
9. 平井雄三: 周術期口腔機能管理の現状と今後の展望. 神戸市立医療センター中央市民病院 がん診療オープンカンファレンス, 神戸, 2016. 6. 23
10. 竹信俊彦: 多数歯欠損症例の多数歯欠損症例の顎矯正手術: 周術期の管理. 第26回日本顎変形症学会総会, 東京, 2016. 6. 24
11. 小野円香, 平井雄三, 泉 彩夏, 向仲佑美香, 東 友莉, 前田圭吾, 高地いづみ, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦: 下顎骨内に金属製異物が迷入した1例. 第47回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2016. 7. 2
12. 東 友莉, 竹信俊彦, 泉 彩夏, 向仲佑美香, 小野円香, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 山本信祐, 谷池直樹: 陳旧性顎関節突起骨折に伴う咬合不全に対し, 顎矯正手術で対応した1例. 第47回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2016. 7. 2
13. 山本信祐, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦: 当科で経験した抜歯に関連する合併症について. 第32回兵庫県歯科医学大会, 神戸, 2016. 7. 3
14. 前田圭吾, 谷池直樹, 高地いづみ, 平井雄三, 山本信祐, 竹信俊彦: 顎関節突起骨折用に新たに開発されたプレートシステムの使用経験. 第18回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会, 東京, 2016. 7. 31
15. 平井雄三: がん患者や周術期における口腔機能管理. HATメディカルセミナー, 神戸, 2016. 8. 25
16. 高地いづみ: 歯科医師から見た摂食・嚥下の基礎知識. 神戸市灘区歯科医師会学術講演会, 神戸, 2016. 9. 30

17. 前田圭吾, 平井雄三, 泉 彩夏, 向仲佑美香, 小野円香, 東 友莉, 高地いづみ, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦: 当院で加療した感染性心内膜炎101例の臨床的検討. 第25回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 神戸, 2016.10.15-16
18. 竹信俊彦, 谷池直樹, 山本信祐, 平井雄三, 高地いづみ, 前田圭吾, 小野円香, 東 友莉, 泉 彩夏, 向仲佑美香: 菌性感染から骨片壊死を生じた顎矯正治療の2例. 第25回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 神戸, 2016.10.15-16
19. 高地いづみ: 「口から食べる」を再考する. 第130回NCM講演会, 神戸, 2016.10.20
20. 平井雄三, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 山本信祐, 谷池直樹: Le Fort I型骨切り術におけるMOJシステムの使用経験. 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016.11.25-27
21. 山本信祐, 竹信俊彦, 泉 彩夏, 向仲佑美香, 小野円香, 東 友莉, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹: 結石内部に真菌塊がみられた頬粘膜小唾液腺唾石症: 症例報告. 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016.11.25-27
22. 上原京憲, 竹信俊彦, 谷池直樹, 宇佐美 悠, 平井雄三, 山本信祐: 小児に生じた放線菌性関節突起部骨髄炎の1例. 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016.11.25-27
23. 竹信俊彦: 災害時の歯科保健医療を考える-JMATに参加して見えてきたこと. 兵庫県歯科医師会熊本地震報告会, 神戸, 2016.12.4
24. 竹信俊彦: 顎顔面外傷/顎変形症. 宮崎大学医学部3, 4回生合同講義, 宮崎, 2016.12.15
25. 竹信俊彦, 谷池直樹, 山本信祐, 平井雄三, 高地いづみ, 前田圭吾, 小野円香, 東 友莉, 泉 彩夏, 向仲佑美香: 新しいマイクロバーを使用した唾石の無い閉塞性唾液腺疾患に対する内視鏡治療. 第172回京都歯科口腔外科集談会, 京都, 2016.12.17
26. 竹信俊彦: ARONJに関するポジションペーパーについて-米国口腔顎顔面外科学会と日本. 兵庫県歯科医師会訪問歯科ガイダンス6: リスクのある患者の抜歯では, 中断するのはしないの? ビスホスホネート (BP) 製剤, 神戸, 2017.1.29

VII. 1. 27 病理診断科

1. 市川千宙, 松岡亮介, 上原慶一郎, 今井幸弘, 細谷和也, 田川 弘, 橋田裕毅: 小腸血管性病変の4例の検討. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016.5.12-14
2. 原 重雄, 今井幸弘, 吉本明弘, 他: 糖尿病性腎症にみられる糸球体C4d陽性像の病理学的意義. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016.5.12-14
3. 前田紘奈, 他: Large cell transformationを来した菌状息肉症4例における検討. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016.5.12-14
4. 藤倉航平, 他: IPNBと乳頭型胆管癌の臨床病理学的特徴の比較検討. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016.5.12-14
5. 前田紘奈, 他: Beckwith Wiedemann症候群の胎児の胎盤に嚢胞状病変を認め, 産後母体にhCG上昇を来した一例. 第77回関西小児病理研究会, 大阪, 2016.6.10
6. 松岡亮介, 市川千宙, 上原慶一郎, 今井幸弘, 篠原尚吾, 伊藤智雄: 鼻腔腫瘍の一例. 第73回日本病理学会近畿支部学術集会, 西宮, 2016.6.25
7. 市川千宙, 藤倉航平, 前田紘奈, 上原慶一郎, 加藤大典, 今井幸弘: 皮膚潰瘍を伴った乳腺腫瘍の1例. 第73回日本病理学会近畿支部学術集会, 西宮, 2016.6.25
8. 松岡亮介, 山本侑毅, 藤村順也, 忍頂寺毅史, 森 健, 飯島一誠, 藤倉航平, 今井幸弘, 伊藤智雄: 肝脾腫及び血球貪食症候群を認めた小児悪性リンパ腫の一例. 第74回日本病理学会近畿支部学術集会, 枚方, 2016.9.17
9. 藤倉航平, 前田紘奈, 市川千宙, 上原慶一郎, 石川隆之, 伊藤智雄, 今井幸弘: 少数の大型分葉核出現とFDCの不整増生を呈したリンパ節病変の一例. 第75回日本病理学会近畿支部学術集会, 大阪, 2016.12.10
10. 前田紘奈, 他: 妊娠合併絨毛性疾患の1例. Cholangiocarcinoma arising from complete mole coexisting with a fetus. 第76回日本病理学会近畿支部学術集会, 高槻, 2017.2.4

VII. 1. 28 放射線診断科

1. 堀内大右, 上田浩之, 清水大功, 坂本 亮, 北口耕輔, 岡野 拓, 日野 恵, 伊藤 亨: 静脈洞血栓症との鑑別が問題となった髄膜腫の一例. 第313回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2016. 6 .11
2. 上田浩之, 清水大功, 坂本 亮, 伊藤 亨, 増井秀行, 瓜生原健嗣, 貝原 聡: 亜全胃温存腓島十二指腸切除(SSPPD)後の門脈閉塞に対してIVRを施行した一症例. 第61回関西Interventional Radiology研究会, 大阪, 2016. 6 .25
3. 平林亮介, 寺岡俊輔, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簇智幸政, 上田浩之, 富井啓介: 気管支内への義歯陷入8年後より喀血を繰り返した1症例. 第87回日本呼吸器学会 近畿地方会, 京都, 2016. 7 . 8
4. 上田浩之, 清水大功, 日野 恵, 坂本 亮, 北口耕輔, 岡野 拓, 伊藤 亨, 前田裕斗, 宮本泰斗, 吉岡信也: 子宮捻転の一例. 第26回日本救急放射線研究会, 東京, 2016. 9 .18
5. 山口 尊, 坂本 亮, 上田浩之, 清水大功, 北口耕輔, 岡野 拓, 日野 恵, 伊藤 亨: 小脳病変を呈した低マグネシウム血症の一例. 第314回日本医学放射線学会関西研究会, 大阪, 2016.11. 5
6. 上田浩之, 清水大功, 伊藤 亨: 乳腺の巨大悪性葉状腫瘍に対して術前TAEを行った1例. 第62回関西IVR研究会, 大阪, 2017. 2 .18

VII. 1. 29 放射線治療科

1. 佐藤悠城, 植木一仁, 藤本大智, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 加藤了資, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 小久保雅樹, 富井啓介: 間質性肺炎合併肺癌に対する放射線療法の安全性についての検討. 第56回日本呼吸器学会, 京都, 2016. 4 . 8
2. Iizuka Y, Ueki N, Matsuo Y, Ishihara Y, Takayama K, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: 3D and 4D dose calculations for tumour-tracking irradiation of lung/liver tumours using gimbaled linac. 35th European Society for Radiation Oncology, Turin, Italy, 2016. 4 .30
3. Hanazawa H, Matsuo Y, Nakamura M, Tanabe H, Takamiya M, Iizuka Y, Shibuya K, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Correlation and directional stability of principal component of respiratory motion in the lung. 35th European Society for Radiation Oncology, Turin, Italy, 2016. 4 .30
4. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之: 頭頸部原発悪性腫瘍に対する放射線治療の予測困難な中断. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6 . 9
5. 原田博之, 篠原尚吾, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 竹信俊彦, 末廣 篤, 岸本逸平, 林 一樹: 当科における根治照射後の放射線性骨髄炎の検討. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6 .10
6. 齋藤伴樹, 浜川博司, 伊達直希, 南 和宏, 坂之上朗, 高橋 豊, 小久保雅樹, 小坂恭弘: I期肺癌への体幹部定位放射線治療後の再燃例に対し, 胸壁合併右上葉切除を施行した一例. 第104回日本肺癌学会関西支部, 大阪, 2016. 7 .16
7. Yamashita M, Takahashi R, Kokubo M, Takayama K, Tanabe H, Sueoka M, Ishii M, Iwamoto Y, Okuuchi N, Tachibana H: A feasibility study of independent dose verification for Vero4DRT. 58th American Association of Medical Physics, Washington DC, USA, 2016. 7 .30
8. Iizuka Y, Matsuo Y, Ueki N, Takayama K, Mitsuyoshi T, Ueki K, Tanabe H, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Clinical result of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy for liver tumors using a gimbal mounted linac. 58th American Society for Radiation Oncology, Boston, USA, 2016. 9 . 26
9. Ueki K, Takayama K, Iizuka Y, Kimino G, Imagumbai T, Suginosita Y, Tei H, Kosaka Y, Inokuma T, Kokubo M: Correlation between dose-volumetric parameters and late liver dysfunction after dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy for hepatocellular carcinoma. 58th American Society for Radiation Oncology, Boston, USA, 2016. 9 .26
10. 光吉隆真, 松尾幸憲, 高山賢二, 植木奈美, 飯塚裕介, 新谷 堯, 植木一仁, 田邊裕朗, 中村光宏, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡真寛: 肺腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾SBRTの初期治療成績. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.10.22
11. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 高山賢二, 植木奈美, 光吉隆真, 植木一仁, 田邊裕朗, 中村光宏, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡真寛: 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾定位放射線治療の臨床成績. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.11.20

12. Yamashita M, Ishi M, Yoshida K, Okamura Y, Kokubo M : The accuracy of TPS calculation algorithm in the inhomogeneity area : a phantom study. 第29回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2016.11.25
13. Narukami R, Kosaka Y, Kokubo M, Imaginbai T, Ogura K, Ueki K, Hattori T, Shinohara S, Harada H: Concurrent Lenvatinib and Radiation Therapy for Radioiodine Refractory Thyroid Cancer; A Case Report. 第29回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2016.11.26
14. Ueki K, Takayama K, Iizuka Y, Kimino G, Kosaka Y, Imagumbai T, Kokubo M : Relationship between dosimetric parameters and late liver dysfunction after SBRT for HCC. 第29回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2016.11.26
15. Mitsuyoshi T, Matsuo Y, Takayama K, Ueki N, Iizuka Y, Shintani T, Ueki K, Tanabe H, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: The First Report to Evaluate Clinical Outcome of Dynamic Tumor-Tracking Stereotactic Body Radiotherapy for Early Stage Lung Cancer and Oligometastatic Lung Tumors using a Gimbal-Mounted Linear Accelerator. 102nd Radiological Society of North America, Chicago, USA, 2016.11.27
16. Matsuo Y, Nagata Y, Wakabayashi M, Eba J, Ishikura S, Onishi H, Kokubo M, Karasawa K, Shioyama Y, Onimaru R, Hiraoka M: Impact of Inflammation and Sarcopenia on Outcomes after Stereotactic Body Radiotherapy for T1N0M0 Non-Small Cell Lung Cancer. 17th World Conference of Lung Cancer, Vienna, Austria, 2016.12.6
17. Sawada A, Itoh N, Imataki Y, Shintani M, Sueoka M, Taniuchi S, Kokubo M: Fabrication of 3D-Printed Shielding Block with High Accuracy for Total Body Irradiation. International Conference on Medical Physics 2016, Bangkok, Thailand, 2016.12.9
18. Nakai T, Sawada A, Tanabe H, Sueoka M, Taniuchi S, Shiinoki T, Ishihara Y, Kokubo M: Investigation of Well-Balanced kV X-Ray Imaging Conditions between Skin Dose and Image Noise. International Conference on Medical Physics 2016, Bangkok, Thailand, 2016.12.9
19. 古郷摩利子, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 佐藤悠城, 寺岡俊介, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 浜川博司, 高橋 豊, 小久保雅樹, 富井啓介 : ECMOの一時的な使用により抗癌治療が可能となった肺癌の3例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
20. 藤本大智, 上原慶一郎, 坂之上朗, 佐藤悠城, 伊藤宗弘, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 小坂恭弘, 浜川博司, 今井幸弘, 小久保雅樹, 高橋 豊, 富井啓介 : 局所進行非小細胞肺癌における化学放射線治療前後でのPD-L1発現の変化. 第57回日本肺癌学会, 福岡, 2016.12.20
21. 服部貴之, 小坂恭弘, 大塚浩二郎, 奥田千幸, 鳴神 亮, 植木一仁, 小倉健吾, 今輩倍敏行, 片上信之, 富井啓介, 小久保雅樹 : 気管支癌に対し外照射と画像誘導線源治療を行った一例. 第43回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2017.2.18
22. 平林亮介, 伊藤次郎, 大塚浩二郎, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 旗智幸政, 今井幸弘, 植木一仁, 小久保雅樹, 富井啓介 : Osimertinib投与中に小細胞肺癌への形質転換を認めたT790M陽性肺腺癌の一例. 第105回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2017.2.25
23. 伊藤宗洋, 藤本大智, 河内勇人, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 小倉健吾, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 富井啓介: 脳転移放射線治療後に脳浮腫を伴う症状増悪がみられラムシルマブ(RAM)とドセタキセル(DTX)併用療法を行った肺扁平上皮癌の一例. 第105回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2017.2.25
24. 小倉健吾, 小坂恭弘, 今輩倍敏行, 植木一仁, 鳴神 諒, 服部貴之, 小久保雅樹 : 大きな転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療におけるmodified PTV法の定量的評価・意義. 第315回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2017.2.25

VII. 1. 30 救急科

1. Kamitani Y: Accidental Fishbone Ingestion in Children. Internatonal Conference of Emergency Medicine (ICEM 2016), Cape Town, South Africa, 2016.4.18-21
2. 有吉孝一 : 座長 壊死性筋炎, 他. 第19回日本臨床救急医学会学術集会, 福島, 2016.5.13
3. 井上 彰, 有吉孝一, 松田 聡, 岡田泰長 : 神戸マラソン2011~2015. 第19回日本臨床救急医学会, 福島, 2016.5.14

4. 松岡由典, 園 真廉, 有吉孝一, 殿村博昭, 畑下知之: フッ化水素酸による多数傷病者事案からみえたこと～災害時における医療機関と消防機関の連携の重要性. 第19回日本臨床救急医学会, 福島, 2016. 5. 14
5. 畑 菜摘, 松岡由典, 園 真廉, 有吉孝一: 市中肺炎における胸部CTの有用性について. 第19回日本臨床救急医学会, 福島, 2016. 5. 14
6. 桑原佑典, 井上 彰, 有吉孝一: 急性妊娠脂肪肝の一例. 第19回日本臨床救急医学会, 福島, 2016. 5. 14
7. 小森大輝, 蛭名正智, 栗林真悠, 井上 彰, 有吉孝一: だんじりに挟まれ受傷した外傷性十二指腸損傷の一例. 第30回日本外傷学会, 東京, 2016. 5. 30
8. 井上 彰, 蛭名正智, 有吉孝一: 外傷性髄液瘻に対して脊髄ドレナージ中に緊張性気脳症をきたした一例. 第30回日本外傷学会, 東京, 2016. 5. 30
9. 蛭名正智, 井上 彰, 小森大輝, 栗林真悠, 有吉孝一: 10階以上から墜落し生存した2症例. 第30回日本外傷学会, 東京, 2016. 5. 30
10. 栗林真悠, 小森大輝, 井上 彰, 蛭名正智, 有吉孝一: 外傷性肝損傷に対するTAE中に増悪する右季肋部痛にて診断しえた胆嚢動脈損傷の一例. 第30回日本外傷学会, 東京, 2016. 5. 30
11. 松山重成, 井上明彦, 中山晴輝, 橋高弘忠, 石原 諭, 中山伸一, 山田太平, 鶴飼 勲, 蛭名正智, 板垣友亮: 兵庫県南部における救命センター増加と外傷症例集約化の現状. 第30回日本外傷学会, 東京, 2016. 5. 30
12. 水 大介, 松岡由典, 有吉孝一: 3か月未満の発熱患児の入院はどこまで必要か? 第30回日本小児救急医学会, 仙台, 2016. 7. 1
13. 上村恵理, 水 大介, 有吉孝一: 当院での墜落分娩の臨床的検討. 第30回日本小児救急医学会, 仙台, 2016. 7. 1
14. 有吉孝一: 教育講演 6 ER Underground (イーアール・アンダーグラウンド). 第30回日本小児救急医学会, 仙台, 2016. 7. 1
15. 有吉孝一: 座長 異物その他. 第30回日本小児救急医学会, 仙台, 2016. 7. 1
16. 是永 章, 井上 彰, 須賀将文, 川上大裕, 岩崎 寛, 朱 祐珍, 園 真廉, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: メタノール中毒と脳浮腫. 第61回日本集中治療学会近畿地方会, 2016. 7. 9
17. 瀬尾龍太郎: 共催教育講演「ECMO...」. 第61回日本集中治療学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
18. 高場章宏, 川上大裕, 田中雄己, 蛭名正智, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: NPPVを用いたHigh-flow nasal cannula代替システムの検討. 第38回日本呼吸療法医学会学術集会, 名古屋, 2016. 7. 16
19. 蛭名正智: 救急医のキャリアパス ER. 第4回臨床研修医・医学生のための救急セミナーin近畿, 第114回近畿救急医学研究会, 大阪, 2016. 7. 16
20. 井上 彰, 有吉孝一: 脳浮腫から脳死に至ったメタノール中毒の一例. 第38回 日本中毒学会総会・学術集会, 新潟, 2016. 7. 24
21. 安藤基純, 中浴伸二, 仁木真理恵, 崎園賢治, 有吉孝一, 箕輪和士, 福島昭二, 橋田 亨: GC-MSによる β 受容体遮断薬の他成分同時測定系確立に向けた検討. 第38回日本中毒学会総会・学術集会, 2016. 7. 24
22. 有吉孝一: 講演「ER診療のTIPS」. 第一回姫路ER/ICU勉強会, 姫路, 2016. 9. 30
23. 山田 翔, 高場章宏, 有吉孝一: iQOS®登場による, 小児タバコ誤飲の新しい形. 神戸市中央区医師会学術集談会, 神戸, 2016. 10. 8
24. 上村恵理, 朱 祐珍, 水 大介, 有吉孝一: 当院におけるヘリ搬送患者の実態. 第23回日本航空医療学会, 埼玉, 2016. 10. 29
25. Matsuoka Y, Hata N, Ariyoshi K: Performance of emergency ultrasound during cardiopulmonary resuscitation: Trained residents versus experienced staff doctors. AHA-ReSS 2016, New Orleans, USA, 2016. 11. 11
26. Hata N, Matsuoka Y, Mizu D, Ariyoshi K: Can emergency physician in non-pediatric-specialty hospitals resuscitate children with out-of-hospital cardiac arrest? AHA-ReSS 2016, New Orleans, USA, 2016. 11. 13
27. 本多英喜, 蛭名正智: ER (診療体制) 座長. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016. 11. 17
28. 水 大介, 松岡由典, 有吉孝一: 救急医としてどうMCに関わるか. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016. 11. 17
29. 杉村朋子, 蛭名正智, 有吉孝一: ERにおける急性大動脈解離の検討. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016. 11. 17

30. 林 卓郎, 松井 鋭, 楠元真由美, 武田洋樹, 上谷良行, 有吉孝一: 小児病院が救急をすること～一地方都市における小児救急医療事情～. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.18
31. 松岡由典, 畑 菜摘, 水 大介, 有吉孝一: 発熱患児におけるPAT・バイタルサインの有用性. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.18
32. 栗林真悠, 松岡由典, 有吉孝一: 低体温症における血液培養の意義についての検討. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.18
33. 井上純一, 有吉孝一, 松岡由典, 中村祐美子: グリーフケアパンフレット配布に関する実態調査. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.18
34. 西山 隆, 安藤維洋, 中山伸一, 有吉孝一, 森田晃司, 岡田直己: 神戸市消防局における血糖測定とブドウ糖溶液投与について(第二報). 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.18
35. 小森大輝, 蛭名正智, 有吉孝一: アニサキスによる遅発性アナフィラキシーの一例. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.18
36. 畑 菜摘, 松岡由典, 有吉孝一: 脳卒中診療におけるER医の役割. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.18
37. 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: ECMOセンターの現状と課題. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.18
38. 上村恵理, 松岡由典, 水 大介, 有吉孝一: ER受診後に帰宅となり, あとで判明した菌血症患者の検討. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.19
39. 井上 彰, 有吉孝一: 救命救急センター内に精神科身体合併症病棟(MPU: Medical Psychiatric Unit)を開設する. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.19
40. 小平 博, 佐藤慎一, 中山伸一, 小谷譲治, 松田 聡, 西 芳徳, 有吉孝一: 熊本地震におけるJMATひょうごの救護活動について～DMATからJMATへ繋ぐ医療～. 第44回日本救急医学会学術集会, 2016.11.19
41. 有吉孝一, 平田 旭: 座長 小児の救急・集中治療. 第44回日本救急医学会学術集会, 東京, 2016.11.19
42. 有吉孝一: 特別講演「ERの過去・現在・未来」. 第4回救急・集中治療・家庭医療研究会, 滋賀, 2016.12.10
43. 有吉孝一: コウベ・アンダーグラウンド マスギャザリングイベントにおける感染症対応. 第25回全国救急隊員シンポジウム, 神戸, 2017. 1 .26
44. 瀬尾龍太郎: 指導救命士II・隊員教育II. 第25回全国救急隊員シンポジウム, 神戸, 2017. 1 .26
45. 桑原佑典, 有吉孝一: グロリオサ球根による自殺目的のコレヒチン中毒. 第37回日本中毒学会西日本地方会, 三重, 2017. 2 .4
46. 井上 彰, 岩崎 寛, 有吉孝一: ER型救命救急センターにおける局地災害対応と通常救急対応の両立. 日本集団災害医学会学術集会, 名古屋, 2017. 2 .14
47. 岩崎 寛, 井上 彰, 有吉孝一: 橋桁転落事故 個別搬送か分散搬送か? 日本集団災害医学会学術集会, 名古屋, 2017. 2 .14
48. 荻田将之, 上山留美子, 上田篤史, 島津裕紀, 中谷 愛, 島井菜穂, 荻野咲貴, 柴田美由紀, 井上 彰: 集中治療部における発災時の初動に焦点を当てたアクションカード運用の実際～熊本地震から見出された課題～. 日本集団災害医学会学術集会, 名古屋, 2017. 2 .15
49. 田中雄己, 瀬尾龍太郎, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 相原雅士, 佐藤 純, 坂地一郎: 当院における人工呼吸息を用いた患者搬送と特徴についての考察. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3 .9
50. 栗林真悠, 井上 彰, 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: SGLT2阻害薬内服中の重症尿路感染症患者における正常血糖糖尿病ケトアシドーシス. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3 .9
51. 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 植田浩司, 美馬裕之, 山崎和夫: 心臓外科術後患者における鏡を利用したせん妄予防. 第44回日本集中治療学会学術集会, 札幌, 2017. 3 .9
52. 桑原佑典, 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: グロリオサの球根を自殺目的に摂取し死亡したコレヒチン中毒. 第44回日本集中治療学会学術集会, 札幌, 2017. 3 .9
53. 高場章宏, 朱 祐珍, 川上大裕, 蛭名正智, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 当院ICUにおけるM&Mカンファレンス. 第44回日本集中治療学会学術集会, 札幌, 2017. 3 .9

54. 熊沢淳史, 近藤 豊, 川口 敦, 瀬尾龍太郎, 橋本 悟: ARDSガイドライン作成の副産物: CQ2「成人ARDS患者の初期呼吸管理としてNPPVを行うべきか」論文化の過程. 第44回日本集中治療学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 9
55. 須賀将文, 川上大裕, 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 井上 彰, 山崎和夫: VAP診療におけるICU医によるグラム染色の有用性の検討. 第44回日本集中治療学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 10
56. 是永 章, 瀬尾龍太郎, 朱 祐珍, 美馬裕之, 有吉孝一: チームで医療倫理を共有する方法. 第44回日本集中治療学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 11
57. 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 院内ICUと救命救急センターICUの協働のための仕組みづくり. 第44回日本集中治療学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 11
58. 有吉孝一: ERで良いのか? “Previously on ER” 合同シンポジウム「多種多様なERのかたち-自分もかかりたいERをめざして-」. 第115回近畿救急医学研究会(日本救急医学会 近畿地方会), 奈良, 2017. 3. 18
59. 小川顕太, 水 大介, 有吉孝一: 膀胱留置カテーテルによる尿管への迷入・損傷例. 第115回近畿救急医学研究会(日本救急医学会 近畿地方会), 奈良, 2017. 3. 18

VII. 1. 31 総合内科

1. 水野泰志: 関節リウマチ治療. ユーシービージャパン Cycle meeting 2016社内招聘講演会, 神戸, 2016. 4. 13
2. 吉崎亜衣沙, 水野泰志, 西岡弘晶: *Helicobacter cinaedi*を直接同定できた椎体炎の1例. 第113回日本内科学会講演会, 東京, 2016. 4. 16
3. 守山祐樹, 水野泰志, 蓮池俊和, 土井朝子, 西岡弘晶: 抗レトロウイルス療法で著明な縮小を認めたHIV関連リンパ腫の1例. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016. 4. 16
4. 進藤達哉, 遠藤明子, 西岡弘晶: メトロニダゾール点滴製剤による治療が奏功した破傷風の1例. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016. 4. 16
5. 土井朝子, 岩田健太郎, 蓮池俊和, 西岡弘晶: HIV感染を原因とする間質性腎炎の1例. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016. 4. 16
6. 官澤洋平, 亀井博紀, 水野泰志, 西岡弘晶: *Klebsiella pneumoniae*による急性胆嚢炎後に発症したIgA-dominant postinfectious glomerulonephritisの1例. 第60回日本リウマチ学会総会学術集会, 横浜, 2016. 4. 21
7. 志水隼人, 遠藤明子, 亀井博紀, 水野泰志, 西岡弘晶: トシリズマブが奏効した難治性強膜炎合併再発性多発軟骨炎の1例. 第60回日本リウマチ学会総会学術集会, 横浜, 2016. 4. 21
8. 土井朝子: Not another routine. 第10回FLEEKIC, 神戸, 2016. 5. 22
9. 井本寛東, 金森真紀: 6週間前から嘔吐を繰り返す78歳女性. 第10回FLEEKIC第7回神戸GMカンファレンス, 神戸, 2016. 5. 22
10. Yoshizaki A, Mizuno Y, Kanamori M, Imai Y, Higashibepu N, Nishioka H: Liver damage in malnourished patient during nutrition therapy. ACP日本支部年次総会2016, 京都, 2016. 6. 4
11. Kanzawa Y, Nishioka H: Successful Treatment of Severe Japanese Spotted Fever Complicated with Tako-tsubo (Stress-Induced) Cardiomyopathy. ACP日本支部年次総会2016, 京都, 2016. 6. 4
12. 守山祐樹, 吉崎亜衣沙, 官澤洋平, 志水隼人, 園 諭美, 水野泰志, 西岡弘晶: 病歴と薬物中毒検出用キットにより診断できた覚醒剤による横紋筋融解症の1例. 第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 東京, 2016. 6. 11
13. 守山祐樹, 官澤洋平, 志水隼人, 園 諭美, 水野泰志, 西岡弘晶: 直腸穿孔で死亡した神経性食思不振症の1例. 第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 東京, 2016. 6. 11
14. 上月友寛, 金森真紀, 西岡弘晶: 原因不明の慢性腹痛として紹介された前皮神経絞扼症候群の1例. 第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 東京, 2016. 6. 11
15. 蓮池俊和: 症例カンファレンス・感染症編. 臨床微生物学会第17回感染症学セミナー, 神戸, 2016. 6. 22
16. 吉崎亜衣沙, 水野泰志, 西岡弘晶: 急激に増悪する胸痛で受診した胸骨骨髓炎の1例. 第212回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 6. 25
17. 守山祐樹, 蓮池俊和, 水野泰志, 土井朝子, 西岡弘晶: アゾール耐性の*Candida albicans*を検出した1例. 第212回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 6. 25

18. 志水隼人, 水野泰志, 西岡弘晶: 播種性クリプトコッカス症を合併した特発性CD4陽性Tリンパ球減少症の1例. 第45回神戸免疫・膠原病懇話会, 神戸, 2016. 6. 25
19. 東別府直紀, 下菌崇宏, 西岡弘晶: ICU入室後経腸栄養開始時間と生命予後の関連について 国際栄養調査2013の結果より. 第8回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会, 神戸, 2016. 7. 3
20. 進藤達哉: 抗菌薬の基本のは. 救急オープンセミナー, 神戸, 2016. 7. 13
21. 西岡弘晶: 末梢静脈栄養. 大塚製薬工場 社内研修会, 神戸, 2016. 9. 20
22. 川崎 翠, 守山祐樹, 金森真紀, 西岡弘晶: 血液培養から診断されたNocardia asteroides感染の1例. 第213回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9. 24
23. Mizuno Y, Imoto H, Nishioka H: Human adjuvant disease caused by silent rupture of silicone gel-filled breast implant presenting pleuritis and pericarditis. 18th APLAR2016, 上海, 中国, 2015. 9. 26
24. 西岡弘晶: アレルギー疾患についての気になる話. 平成28年度神戸市民健康大学講座, 神戸, 2016.10. 6
25. 舛本慧子, 井本寛東, 金森真紀: 発熱, 倦怠感のある84歳女性. 京都GMカンファレンス, 京都, 2016.10. 7
26. 進藤達哉: 抗菌薬の基本のん. 救急オープンセミナー, 神戸, 2016.10.12
27. 水野泰志: リウマチ治療における生物学製剤の役割について. ブリストル・マイヤーズ・スクイブ 社内研修会, 神戸, 2016.10.20
28. 土井朝子: 尿路感染症, 性感染症の診断, 検査, 治療. 2016年度感染看護認定看護師教育課程, 神戸, 2016.10.26
29. Doi A, Morimoto T, Iwata K: Effectiveness of short-course antimicrobial therapy compared with long-course therapy. IDWeek 2016, New Orleans, USA, 2016.10.28
30. 土井朝子: HIV感染症の診断, 検査, 治療, 免疫不全者の感染症. 2016年度感染看護認定看護師教育課程, 神戸, 2016.11. 2
31. 水野泰志: ループス腎炎の診断と治療. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, 神戸, 2016.11.17
32. 西岡弘晶: 基本から考える感染症診療. 感染症講演会 in 芦屋, 芦屋, 2016.11.22
33. 吉崎亜衣沙, 金森真紀, 水野泰志, 西岡弘晶: *Bacteroides fragilis*による椎体炎, 腸腰筋膿瘍の1例. 第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 沖縄, 2016.11.24
34. 守山祐樹, 竹川啓史, 金森真紀, 蓮池俊和, 土井朝子, 西岡弘晶: リスク因子のない患者からアゾール耐性の*Candida albicans*を検出した1例. 第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 沖縄, 2016.11.24
35. 守山祐樹, 金森真紀, 蓮池俊和, 土井朝子, 西岡弘晶: *Candida glabrata*による大腿に蜂窩織炎と皮下膿瘍をきたした糖尿病患者の1例. 第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 沖縄, 2016.11.24
36. 進藤達哉, 西岡弘晶: 院内感染を起こしたジャカルタからの輸入麻疹の1例. 第214回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.12. 3
37. 井本寛東, 金森真紀, 西岡弘晶: *Streptococcus agalactiae*の感染性心内膜炎に細菌性眼内炎を合併した1例. 第214回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.12. 3
38. 組谷彰太郎, 吉崎亜衣沙, 金森真紀, 西岡弘晶: 急性腰痛を来した偽痛風の1例. 第214回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.12. 3
39. 井本寛東: ステロイド内服患者がERへ来たら. 救急オープンセミナー, 神戸, 2017. 1. 15
40. 東別府直紀, 讚井将満, 祖父江和哉, 西岡弘晶: 国際栄養調査2014の結果: 本邦ICUでは経腸栄養は遅く投与量は少ない. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2. 23
41. 楠田かおり, 西岡弘晶, 池村 舞, 西岡和子, 東別府直紀, 橋田 亨: 胃酸分泌抑制薬がペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に及ぼす影響. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2. 23
42. 東別府直紀, 西岡弘晶, 東口高志, Marianna Sioson: アジア, 中東におけるICUでの栄養療法の現状: 栄養療法に関わる職種について~多施設アンケートの結果~. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2. 24
43. 尾松雅仁, 東別府直紀, 西岡弘晶: アミノ酸含有電解質製剤の投与法制限実施前後での *Bacillus cereus* 菌血症発生件数の変化. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2. 24
44. 西岡弘晶, 竹中麻理子, 東別府直紀: 低栄養患者の栄養管理開始後に肝酵素異常が悪化した1例. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2. 24

45. 竹中麻理子, 東別府直紀, 岩本昌子, 西岡弘晶: 空腸ストーマとなった血液透析2症例の水分・Na管理. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2. 24
46. 常峰かな, 東別府直紀, 西岡弘晶: 診断名不明の障害をもった新生児に口腔・嚥下リハビリおよび栄養療法を行った1例. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2. 24
47. 井本寛東: PHによる心不全を発症しMCTDと診断しIVCYを施行した1例. 第6回神戸肺高血圧症研究会, 神戸, 2017. 2. 24
48. 井本寛東, 金森真紀, 西岡弘晶: 濃厚流動食を摂取しながらの腹部超音波検査が胃流出路閉塞の原因の鑑別に有用であった1例. 第14回日本病院総合診療医学会学術総会, 岡山, 2017. 3. 3
49. 進藤達哉, 西岡弘晶, 山脇佑介, 今井幸弘: 術後7年目に骨転移で再発した胃癌の1例. 第215回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2017. 3. 25
50. 土井朝子: HIV感染症の臨床. 第215回日本内科学会近畿地方会専門医部会教育セミナー, 神戸, 2017. 3. 25

VII. 1. 32 看護部

1. 迎とく子, 山口智美, 阿部 梢: インスリン注射部位選択の再指導に関する検討. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016. 5. 19-21
2. 永友 舞: 救命救急センターに搬送された代諾者のいない高齢者救急医療における専門看護師が行う倫理調整. 日本看護倫理学会 第9回年次大会, 京都, 2016. 5. 21-22
3. 梅田節子: がん看護専門看護師のカウンセリング技術獲得を目的とした研修での相互作用と効果. 第3回日本CNS看護学会, 東京, 2016. 6. 11
4. 梅田節子: 地域応援医師の参加による緩和チームの活動の変化. 第21回日本緩和医療学会学術集会, 京都, 2016. 6. 17-18
5. 末神純子, 吉川恵理: 産婆学雑誌にみる骨盤位分娩の事例における産婆の役割. 第28回兵庫県母性衛生学会・学術集会, 神戸, 2016. 7. 2
6. 吉川恵理, 末神純子: 産婆試験にみる明治期の産婆に必要とされた骨盤位分娩の知識と技能. 第28回兵庫県母性衛生学会・学術集会, 神戸, 2016. 7. 2
7. 山岡 肇, 長尾幸恵, 飾森 薫, 柴田美由紀, 後山文子, 森ふみ代, 雑賀貴子, 佐藤恵美, 片山佛代, 堤恵美, 東田規希, 山田佳枝, 山本靖子, 中西寛子: 看護必要度の適正評価のためのeラーニングの活用. 第17回日本医療情報学会看護学術大会, 神戸, 2016. 7. 8-9
8. 野村優子: 認定看護管理者研修の受講生の背景が情報活用の実践力に及ぼす影響について. 第17回日本医療情報学会看護学術大会, 神戸, 2016. 7. 8-9
9. 山口美紀, 松井洋幸, 安達奈央, 谷川伽織, 大藤沙紀, 飯塚瑞恵, 伊藤聡子: 腹部大動脈瘤の開腹術後せん妄患者の看護支援の検討. 第47回日本看護学会・急性期看護, 沖縄, 2016. 7. 15-16
10. 藤本和美, 仲村直子, 小椋由美子: 外来心リハにおける身体活動量計を用いた患者教育の検討. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
11. 石原可菜, 藤本和美, 仲村直子, 長尾幸恵: 退院後の生活調整が困難な成人期の初発心不全患者への看護～外来心臓リハビリテーションでの関わり～. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016. 7. 16-17
12. 世良直哉: 社会人経験を持つ看護師が働く上で活かされたと感じた前職の経験. 第20回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 2016. 8. 19-20
13. 藤川愛子: 急性期・外科病棟で手術を受ける認知症高齢者の看護-KJ法による熟練看護師の面接内容の構造化から-. 日本看護研究学会 第42回学術集会, 茨城, 2016. 8. 20-21
14. 吉川恵理: 明治34(1901)年に出版された「産婆学雑誌」にみる産婆と産科醫が取り扱った薬物. 日本看護歴史学会第30回学術集会, 千葉, 2016. 8. 20-21
15. 長谷川美和: 危機管理体制の整備とは: 管理者の役割について考える. 日本災害看護学会第18回年次大会, 久留米, 2016. 8. 26-27
16. 中西寛子: 一目瞭然を実現する自科検査システムと生理画像保存. 兵庫医療情報研究会, 神戸, 2016. 9. 10
17. 仲村直子: 地域基幹病院における心不全診療の実態～前回調査後5年間の変化～. 第20回日本心不全学会学術集会, 札幌, 2016. 10. 7-9

18. 佐藤千賀, 仲村直子: 新たな療養行動に苦痛を感じている高齢心不全患者の課題を看護師が見出すための支援. 第20回日本心不全学会学術集会, 札幌, 2016.10.7-9
19. 米谷久美子: かかりつけ医相談窓口の実践~困った相談から知る患者のニーズと働きかけのポイント~. 第55回全国自治体病院学会, 富山, 2016.10.20-21
20. 宮田真衣, 中田美樹, 山下真由美, 大塚真子, 迫本早穂, 藤原正和, 騰 由香, 森川奈緒美: 当院IVRセンターでのタイムアウトの実態調査. 第55回全国自治体病院学会, 富山, 2016.10.20-21
21. 竹内志津枝, 田中優子, 雑賀貴子, 藤原のり子: 急性期病院におけるPACU導入後の実践報告. 第55回全国自治体病院学会, 富山, 2016.10.20-21
22. 田中明子: 他施設からの救急転送不応需事例の実態調査~事例検証を実施して~. 第55回全国自治体病院学会, 富山, 2016.10.20-21
23. 佐藤千賀: 高齢心不全患者が新たな療養行動を獲得するための支援. 第13回日本循環器看護学会学術集会, 仙台, 2016.10.22-23
24. 藤原正和, 騰 由香, 安田美恵, 安藤瑞穂, 森川奈緒美: 当院画像診断放射線科でのRRS導入と急変時対応への取り組み. 第11回医療の質・安全学会学術集会, 千葉, 2016.11.19-20
25. 古瀬和久, 山本正也, 騰 由香, 森川奈緒美: 当院での急性期血行再建におけるDoor-to-Reperfusion timeへの取り組みと今後の課題. 脳血管治療学会, 神戸, 2016.11.25
26. 森ふみ代, 長尾幸恵: アウトカム評価率向上を目指した活動とその結果. 第17回日本クリニカルパス学会学術集会, 石川, 2016.11.25-26
27. 中垣由紀子, 繁平清美, 長尾幸恵, 高野けい子: クリニカルパスの運用に関する入院前検査センターでの取り組み. 第17回日本クリニカルパス学会学術集会, 石川, 2016.11.25-26
28. 藤原知香, 前田淳子, 米谷久美子: 多職種と連携し実現した2週間パス-その効果とコスト分析-. 第17回日本クリニカルパス学会学術集会, 石川, 2016.11.25-26
29. 櫻井明弓, 松本涼子, 丸山浩枝, 石井須美子: 統一した気管支喘息指導を行うためのパスの作成. 第17回日本クリニカルパス学会学術集会, 石川, 2016.11.25-26
30. 松本涼子, 櫻井明弓, 丸山浩枝, 石井須美子: 小児腸重積(非観血的整復術)パス. 第17回日本クリニカルパス学会学術集会, 石川, 2016.11.25-26
31. 仲村直子: グループディスカッションにおけるCNSの自己課題の明確化. 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.12.10-11
32. 木村瞳彩: 一般看護師の専門看護師・認定看護師に対するイメージとニーズ. 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.12.10-11
33. 田中年恵, 横山加奈, 杉尾利恵, 競 晴香: 高用量シスプラチン投与における尿量測定の必要性の検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21
34. 大坪賢治, 杉江英理子: 快・不快刺激に着目した全失語患者への介入. 第4回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会, 東京, 2017.1.21
35. 藤村弓子, 濱田麻美子, 笠垣八重子: 乳房一次再建術を受けた患者の術前の体験. 第31回日本がん看護学会学術集会, 高知, 2017.2.4-5
36. 荻田将之, 上山瑠美子, 上田篤史, 島津裕紀, 中谷 愛, 島井菜穂, 荻野咲貴, 柴田美由紀: 集中治療部における発災時の初動に焦点をあてたアクションカード運用の実際~熊本地震から見出された課題~. 第22回日本集団災害医学会総会学術集会, 名古屋, 2017.2.13-15
37. 新改法子: 海外で医療曝露歴がある患者の入院時耐性菌スクリーニングによる疫学調査. 第32回日本環境感染学会総会・学術集会, 神戸, 2017.2.24-25
38. 佐藤千賀, 仲村直子: 地域基幹病院の心不全入院における心臓リハビリテーションの実態. 第2回日本心臓リハビリテーション学会第2回近畿地方会, 大阪, 2017.2.25
39. 西田悠香, 種子由夏子, 水田萌恵, 小西真千子, 新みどり, 末神純子: 搬送患者の医療連携~帝王切開後下肢麻痺が出現した褥婦への関わりを通して~. 平成28年度周産期医療事例検討会, 神戸, 2017.3.11

VII. 1. 33 薬剤部

1. 奥貞 智: 薬剤師による高齢者糖尿病患者への関わりを再考する. 神戸薬科大学第72回リカレントセミナー(高齢者糖尿病), 神戸, 2016.4.3

2. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 山本晴菜, 奥村 圭, 畑森裕之, 松本一寛, 伊藤卓彦, 南出竜典, 細谷和也, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 猪熊哲朗: 当院におけるグラタスビル・アスナブレビル併用療法の成績. 第102回消化器病学会総会, 東京, 2016. 4 .21-23
3. 池末裕明: 医療連携のさらなる充実に向けて. 神戸学院大学薬学部FD研究会, 神戸, 2016. 5 . 9
4. 橋田 亨: 薬剤師外来から地域へつなぐ～アドヒアランス向上と副作用マネジメント～ (講演). 平成28年国公立大学病院医療技術職員研修, 東京, 2016. 5 .26
5. 土肥麻貴子, 安藤基純, 小曳恵里子, 柏木裕子, 中浴伸二, 橋田 亨: 肥満患者のベイジアン法に基づく投与設計における体重補正がバンコマイシンの血中濃度予測精度に及ぼす影響. 第33回日本TDM学会・学術大会, 栃木, 2016. 5 .28-29
6. 橋田 亨: 薬剤師の人材養成～やりがいとプライドの醸成～ (特別講演). 平成28年度全国自治体病院協議会薬剤部長研修会, 盛岡, 2016. 6 . 3
7. 山本晴菜, 尾山将樹, 柴谷直樹, 池村 舞, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 橋田亨: レジパスビル/ソホスプレビルの相互作用における添付文書以外の情報源の活用. 第19回医薬品情報学会, 東京, 2016. 6 . 5
8. 橋田 亨: 抗がん薬のリスクを回避する～RevMateから薬剤師外来まで～ (講演). 第19回日本医薬品情報学会総会・学術集会, 東京, 2016. 6 . 5
9. 橋田 亨: 医療の最前線で活躍する薬剤師を目指して (講演). 名城大学薬学部夢発見セミナー, 名古屋, 2016. 6 .11
10. 池末裕明: がん薬物療法における安全性向上の取り組み. 函館病院薬剤師会例会・学術講演会 (がん専門薬剤師セミナー), 函館, 2016. 6 .17
11. 橋田 亨: 広がり高まるニーズに応える薬剤師～2025年医療モデルに向けて～ (特別講演). 日本薬剤学会粒子加工技術分科会平成28年度第1回見学・講演会, 泉佐野, 2016. 6 .17
12. 池村 舞, 油屋 恵, 平島正樹, 橋田 亨: 基礎研究と臨床研究の連携による糖尿病におけるがん化学療法の有効性と安全性の評価. 医療薬学フォーラム2016/第24回クリニカルファーマシーシンポジウム, 滋賀, 2016. 6 .25-26
13. 橋田 亨: 病院のミッションを見据えた薬剤業務マネジメント (講演). 平成28年度全国労災病院薬剤部長会議, 川崎, 2016. 6 .29
14. 橋田 亨: 地域薬剤師のバトントス～薬物療法と安心をつなぐ～ (特別講演). 鳥根県病院薬剤師会新任者および生涯研修会, 出雲, 2016. 7 . 2
15. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 山本晴菜, 猪熊哲朗: C型肝炎へのインターフェロンフリー治療について. Kobe Liver Meeting学術大会, 神戸, 2016. 7 . 2
16. 三浦理恵子: 乳癌患者を対象としたエベロリムス薬物動態の臨床研究と薬剤師の役割. 第9回大学-医療連携講演会, 神戸, 2016. 7 . 4
17. 池末裕明: 安全な化学療法の実践. 日本病院薬剤師会・日本医療薬学会がん専門薬剤師集中教育講座, 京都, 2016. 7 .13
18. 橋田 亨: 広がり高まるニーズに応える薬剤師～地域の薬物治療をシームレスに繋ぐ～ (講演). 第9回日本在宅薬学会学術大会, 大阪, 2016. 7 .17
19. 六車龍介, 奥貞 智, 富田里佳, 西濱輝美, 増本憲生, 辻本 勉: 兵庫県CDE活動報告 (平成27年～28年). 第4回日本糖尿病療養指導学術集会, 京都, 2016. 7 .23-24
20. 玉木理衣, 森本茂文, 辻 晃仁: 大腸がん術後補助化学療法開始前の画像評価の有用性. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2016. 7 .28-30
21. 池松裕明, 了戒百合子, 秦晃二郎, 渡邊裕之, 江藤正俊, 中西洋一, 前原喜彦, 赤司浩一, 中村雅史, 増田智先: デノスマブによる低カルシウム血症のリスク軽減に向けた取組みの有用性. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2016. 7 .28-30
22. 秦晃二郎, 池松裕明, 渡邊裕之, 江頭伸昭, 中西洋一, 江藤正俊, 赤司浩一, 前原喜彦, 中村雅史, 増田智先: ゴレドロン酸誘発腎障害のリスク評価におけるeGFRの有用性. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2016. 7 .28-30
23. 橋田 亨: 薬剤師の職能とキャリアパス (特別講演). Pharma Talk Kagawa 8th, 高松, 2016. 8 . 3

24. 南 晴奈, 池末裕明, 石田 茂, 齊藤麻美, 渡邊裕之, 江頭伸昭, 増田智先, 鈴木俊幸, 田中琢磨, 植田圭二郎, 李 倫學, 河邊 颯, 伊藤鉄英: ストレプトゾシン療法 of 副作用発現状況調査に基づいた服薬指導シートの作成. 第47回日本腎臓学会大会, 仙台, 2016. 8. 4 - 7
25. 藤原秀敏: 地域医療の中で薬物療法を安全につなぐ. 第24回病診病病連携学術集談会, 神戸, 2016. 8. 25
26. 橋田 亨: 薬剤師レジデント研修プログラムの現状と課題. 薬学教育の充実・発展に向けた取組, 第一回日本薬学教育学会大会, 京都, 2016. 8. 27
27. 奥貞 智, 清水里紗, 柴谷直樹, 池村 舞, 池末裕明, 森本茂文, 橋田 亨: 薬学実務実習に関するガイドラインへのとりくみ. ~改訂コアカリキュラム下の病院実務実習に先行したプログラムの実施と課題~. 第1回薬学教育学会大会, 京都, 2016. 8. 27 - 28
28. Ikesue H, Watanabe H, Masuda S: Role of pharmacists in the safe and efficient care of patients receiving cancer treatment. FIP World Congress of Pharmacy & Pharmaceutical Sciences 2016, Buenos Aires, 2016. 8. 28 - 9. 1
29. 橋田 亨: 急性期病院における薬剤部門マネジメントを考える~2025年医療モデルを見据えて (特別講演). 第6回北九州Expert Seminar for Pharmacist, 北九州, 2016. 8. 31
30. Ikemura M: Evaluation of efficacy and safety of cancer chemotherapy in diabetes based on basic and clinical research. APSTJ Global Education Seminar 2016 - 1st, Kyoto, 2016. 9. 2
31. 橋田 亨: 入院前から退院, 地域へとつながる薬剤業務 (特別講演). 第54回中四国地区国立病院薬剤師研修会, 広島, 2016. 9. 4
32. 池末裕明: 有効性と安全性を支える治療マネジメント. Lilly Pharma Academy Virtual Symposium 2016, 神戸, 2016. 9. 12
33. 橋田 亨: 最初の一步が肝心-次世代薬剤師のキャリアパス-. チーム医療を担える次世代薬剤師の人材育成. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17
34. 辻本貴江, 甲斐龍介, 池村 舞, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一, 橋田 亨: 救急症例における早期経腸栄養の安全性と有効性に関する調査. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17 - 19
35. 奥貞 智, 池末裕明, 森本茂文, 橋田 亨: 薬学的介入報告の解析による病棟薬剤業務の効果検証. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17 - 19
36. 田村 亮, 中浴伸二, 宗村雅男, 長永知世, 土肥麻貴子, 高瀬友貴, 池末裕明, 奥貞 智, 森本茂文, 橋田 亨: 特定集中治療室における薬剤業務分析と病棟薬剤業務展開の方向性. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17 - 19
37. 畑中由香子, 三浦理恵子, 奥貞 智, 永田一真, 藤本大智, 岩本善嵩, 富井啓介, 橋田 亨: フェブキソスタットとアザチオプリンの相互作用による汎血球減少症の一例. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17 - 19
38. 藤原秀敏: 地域医療連携センターへの薬剤師配置で実現した薬物治療のバトントス. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17 - 19
39. 了戒百合子, 池末裕明, 木下智広, 大島俊一, 森川花絵, 園田祥子, 益口 賢, 渡邊裕之, 江頭伸昭, 増田智先: 婦人科がんTC療法における発熱性好中球減少症のリスク因子解析. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17 - 19
40. 平島正樹: 当院におけるがん化学療法チーム医療. 平成28年度がん化学療法医療チーム養成にかかる指導者研修, 東京, 2016. 9. 30
41. 橋田 亨: 2025年医療モデルを見据えた実力派薬剤師への期待~薬剤業務マネジメントと人材養成を通して~ (特別講演). 平成28年度第3回大阪府病院薬剤師会第8支部研修会, 大阪, 2016. 10. 12
42. 池末裕明: がん薬物療法のトータルマネジメント. 新潟県病院薬剤師会学術講演会, 新潟, 2016. 10. 14
43. 橋田 亨: 地域包括ケア推進と充実のために求められる薬剤師の活動. 特別講演, 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会, 高槻, 2016. 10. 15
44. 三浦理恵子, 平島正樹, 中西真也, 森本茂文, 木川雄一郎, 加藤大典, 橋田 亨: エベロリムス服用乳癌患者を対象とした臨床研究において薬剤師が果たした2つの役割. 第54回癌治療学会学術集会, 横浜, 2016. 10. 20 - 22
45. 橋田 亨: 入院から外来, 地域へと広がる薬物治療をつなぐ (教育講演). 患者メンタル支援学会第2回学術総会, 東京, 2016. 10. 22

46. 池末裕明：服薬アドヒアランスと副作用マネジメント（教育セミナー）. 第22回日本癌治療学会, 横浜, 2016.10.22
47. 橋田 亨：病診薬連携 推進を通じた地域包括ケア充実に向けて（講演）. 平成28年度連携7大学がんプロ合同研修, 「がん患者 退院後における医療支援向上のために」, 大阪, 2016.10.23
48. 森本茂文：薬剤師が取り組む患者・家族メンタル支援. 抗がん薬治療における患者支援を考える～薬剤師外来を通して～. 患者・家族メンタル支援学会第2回学術総会, 東京, 2016.10.23
49. 奥貞 智, 富田里佳, 西濱輝美, 増本憲生, 六車龍介, 辻本 勉：糖尿病療養指導士兵庫県連合会活動の検証～アンケート調査結果による育成・教育効果～. 第5回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 神戸, 2016.10.29-30
50. 六車龍介, 奥貞 智, 富田里佳, 西濱輝美, 増本憲生, 辻本 勉：糖尿病療養指導士兵庫県連合会活動報告. 第5回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 神戸, 2016.10.29-30
51. 橋田 亨：暴露対策のコストと職員の満足度について. シンポジウム, 第57回日本肺癌学会学術集会分科会, 福岡, 2016.11.6
52. 橋田 亨：院内協働における薬剤師職能の発揮と課題. フォーラム, 第52回全国経営管理学会, 東京, 2016.11.11
53. 楠田かおり, 柴谷直樹：実践的能力を有する薬剤師育養成のための実務実習プログラムの紹介. 兵庫県病院薬剤師会DI研修会, 神戸, 2016.11.11
54. 藤原秀敏：高度急性期病院の薬剤師が転院に際して果たせる役割. 第1回兵庫県地域医療・薬剤業務研究会, 神戸, 2016.11.16
55. 池末裕明：がん薬物療法に対する取り組みのこれまでとこれから. 第1回神戸エリアファーマシーセミナー, 神戸, 2016.11.16
56. 池末裕明：がん薬物療法に対する取り組みのこれまでとこれから. 第4回阪神エリアファーマシーセミナー, 西宮, 2016.11.18
57. 平島正樹：乳がん患者におけるアフィニトールの薬物動態解析と副作用. くすのきブレストセミナー, 神戸, 2016.11.19
58. 橋田 亨：薬剤師外来がなぜ期待されているのか. 特別講演, 平成28年度近畿ブロック日赤薬剤業務研修会, 大阪, 2016.11.19
59. 池末裕明：薬剤師が繋ぐがん薬物療法のチーム医療. 第13回 北六甲オンコロジー勉強会, 兵庫県三田, 2016.11.30
60. 池末裕明：安全な化学療法の実践. 日本病院薬剤師会・日本医療薬学会がん専門薬剤師集中教育講座, 福岡, 2016.12.3
61. 池末裕明：薬剤師がつなぐがん薬物療法のチーム医療. 水辺の森がん薬物療法セミナー, 長崎, 2016.12.5
62. 山本晴菜：当院でのC型肝炎診療における薬剤師外来の実績. 神戸肝疾患病診連携の会, 神戸, 2016.12.15
63. 奥貞 智：改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムにむけた実務実習プログラムの実施と課題. 第11回大学-医療連携講演会, 神戸, 2016.12.16
64. 楠田かおり, 柴谷直樹：悪性黒色腫に対しイピリムマブが投与された1例. 兵庫県病院薬剤師会DI研修会, 神戸, 2017.1.8
65. 玉木理衣：大腸がん概論, CRCの立場から. 大腸がん勉強会, 東京, 2017.1.9
66. 玉木理衣：臨床試験とCRCの役割-医師と患者をつなぐ臨床試験コーディネーター-. 第16回都道府県がん診療連携拠点研修セミナー, 香川, 2017.1.10
67. 池末裕明：薬剤師外来の取り組みと副作用マネジメント. 第9回兵庫県薬剤師セミナー, 神戸, 2017.1.21
68. 橋田 亨：薬剤師外来の進化とシームレスな薬学ケア（講演）. 薬剤師フォーラムin Tokyo, 東京, 2017.1.21
69. 池末裕明：医療センターにおける薬剤業務の実際. 九州大学病院薬剤部臨床薬物治療研究会, 福岡, 2017.1.28
70. 薩摩由香里, 楠田かおり, 中西真也, 平島正樹, 池末裕明, 藤本大智, 富井啓介, 橋田 亨：ニボルマブ適正使用チームにおける薬剤師の関わりと副作用発現状況. 第15回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2017.2.2
71. 土肥麻貴子：静脈栄養の実際・簡易懸濁. 第4回NST合同研修プログラム, 神戸, 2017.2.7

72. 橋田 亨：がん患者を対象とした薬剤師外来～広がり高まるニーズに応える～（特別講演）. 岩手がんセミナー, 盛岡, 2017. 2.10
73. 池末裕明：エビデンスに基づく支持療法の実践と情報共有. 独立行政法人国立病院機構近畿グループ平成28年度チーム医療推進のための研修2（がん化学療法）, 大阪, 2017. 2.16
74. 橋田 亨：多職種連携で活躍する薬剤師とそれを支える大学－医療連携プラットフォーム（特別講演）. 2016年度MS-26推進支援 多職種連携教育に関する講演会, 名古屋, 2017. 2.17
75. 橋田 亨：がん医療を変えるPrecision Medicineとその方向性（講演）. 大阪薬科大学がんプロ第12回公開シンポジウム「がんの遺伝情報を用いた予知と患者の容態からの判断による, 最適な薬物療法に向けて」, 高槻, 2017. 2.19
76. 楠田かおり, 西岡弘晶, 池村 舞, 西岡和子, 東別府直紀, 橋田 亨：胃酸分泌抑制薬がペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に及ぼす影響. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2.23-24
77. 玉木理衣：臨床試験に対する施設での取り組み－CRCの立場から－. PARADIGM試験中間進捗報告会, 大阪, 2017. 2.25
78. 田村 亮：ER型救急医療において薬剤師が果たすべき役割～「これまで」と「これから」～. 第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 大阪, 2017. 2.25-26
79. 中西真也：チームで行う一歩進んだ抗がん薬曝露対策～早期導入から全面展開へ～. 第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 大阪, 2017. 2.25-26
80. 近藤祐未, 平島正樹, 山本香織, 野村洋道, 中西真也, 濱田麻美子, 旗智幸政, 橋田 亨：新規加圧式医薬品注入器「トレフューザー-typeT」の薬剤充填作業における評価. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017, 新潟, 2017. 3. 2
81. 橋田 亨：機能分化していく病院を支える薬剤業務と人材養成（特別講演）. Hiroshima Pharmacy Director Conference, 広島, 2017. 3. 8
82. 池末裕明：デノスマブによる低カルシウム血症の予防～九州大学病院での取り組みの経験～. 乳癌Total Management Seminar, 福岡, 2017. 3. 9
83. 橋田 亨：広がり, 高まるニーズに応える薬剤師～地域の薬物治療をシームレスに繋ぐ～（特別講演）. 静岡県病院薬剤師会第47回臨床薬学研究会, 静岡, 2017. 3.11
84. Hirabatake M, Mizuno T, Miura R, Hohokabe E, Takebe S, Hashimoto K, Kikawa Y, Kato H, Hashida T: Inter-patient variability in everolimus pharmacokinetics in Japanese patients with advanced breast cancer. ASCPT 2017 Annual Meeting, Washington, 2017. 3.15-18
85. 高瀬友貴：「レジデントの成長をどう評価するか」現状と今後の課題～高度急性期病院の取り組み～. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3.20
86. 富田秀明, 池末裕明, 下里 萌, 池村 舞, 安藤基純, 平島正樹, 森本茂文, 橋田 亨：ゾレドロン酸投与患者における腎障害のリスク因子解析. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3.20
87. 濱田祥之, 藤原秀敏, 池末裕明, 森本茂文, 橋田 亨：高度急性期病院に緊急入院した高齢患者における常用薬及び退院時の処方薬に関する実態調査. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3.20
88. 溝口菜摘, 池末裕明, 薩摩由香里, 楠田かおり, 中西真也, 平島正樹, 橋田 亨：ニボルマブの適切な副作用モニタリングに果たす薬剤師の役割とその評価. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3.20
89. 中田 賢, 野村洋道, 安藤基純, 池末裕明, 森本茂文, 橋田 亨：セツキシマブ投与患者の爪囲炎発現リスク因子解析. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3.20
90. 片岡美咲, 池末裕明, 橋田 亨：薬剤師の介入による経済効果に関する評価方法の検討. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3.20
91. 三沖大介, 安藤基純, 平島正樹, 池末裕明, 橋田 亨：血液透析がゲムシタピン+シスプラチン療法の副作用発現に及ぼす影響. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3.20
92. 山下花南恵, 柴谷直樹, 池末裕明, 内田まよこ, 池村 舞, 安藤基純, 橋田 亨：レナリドミド・デキサメタゾン併用療法における好中球数減少症の発現状況とリスク因子解析. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3.20

93. 福井里佳, 宗村雅男, 櫻井晴奈, 田村 亮, 中浴伸二, 池村 舞, 池末裕明, 有吉孝一, 橋田 亨: 緊急入院患者における24時間対応の常用薬管理業務の有用性について. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3 .20
94. 下里 萌, 池末裕明, 富田秀明, 平島正樹, 池村 舞, 橋田 亨: ゴレドロン酸, デノスマブ投与に伴う顎骨壊死の発生状況とリスク因子の探索. 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2017. 3 .20
95. 中西真也: 患者自らが意欲的に治療に取り組むための薬剤師予診の実践. 第5回ポートアイランド医看薬業連携の会, 神戸, 2017. 3 .22

VII. 1. 34 臨床検査技術部

1. 菅沼直生子, 谷 知子, 紺田利子, 堀 香菜, 野本奈津美, 藤井洋子, 角田敏明, 川井順一, 江藤正明, 太田光彦, 加地修一郎, 古川 祐: 右室短縮率を用いた右室収縮能の有用性. 日本心エコー図学会, 大阪, 2016. 4 .23
2. 楠本壽子, 吉田昌弘, 山内容子, 濱田充生: 重症外傷患者に対する当院の緊急輸血の依頼状況. 第64回日本輸血・細胞治療学会総会, 京都, 2016. 4 .28
3. 丸岡隼人: 造血器腫瘍における免疫フェノタイピングの有用性 (学術講演). 兵庫県臨床検査技師会血液検査研修会, 兵庫, 2016. 5 .10
4. 竹川啓史, 奈須聖子, 内藤拓也, 仁木真理恵, 野村菜美子, 野上美由紀, 崎園賢治, 老田達雄: 両側眼窩先端症候群を来した副鼻腔真菌症の一例. 第56回日臨技近畿支部医学検査学会, 和歌山, 2016. 5 .14-15
5. 宮本淳子, 太田光彦, 紺田利子, 角田敏明, 谷 知子, 加地修一郎, 古川 裕: 経胸壁心エコー図による左室内腔計測部位の検討: 従来法と最新ガイドライン法との対比. 第89回日本超音波医学会, 京都, 2016. 5 .27-29
6. 朽尾人司, 中村真実子, 木川雄一郎, 岩崎信広, 橋本一樹, 加藤大典, 今井幸弘, 箕輪和士: 授乳性腺腫の一例. 第89回日本超音波医学会, 京都, 2016. 5 .27-29
7. 香原美咲, 岩崎信広, 中村真実子, 佐々木一朗, 朽尾人司, 箕輪和士, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 今井幸弘: Lymphangiohemangioma (lymphatic-venous malformation) の一例. 第89回日本超音波医学会, 京都, 2016. 5 .27-29
8. 岩崎信広, 朽尾人司, 杉之下与志樹, 箕輪和士, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 今井幸弘: パネルディスカッション: 急性腹症の超音波診断, 消化管領域におけるadvantage. 第89回日本超音波医学会, 京都, 2016. 5 .27-29
9. 玉木恵里子, 朽尾人司, 岩崎信広, 香原美咲, 箕輪和士, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 今井幸弘: ソナゾイド造影超音波を施行した転移性肝血管外皮細胞腫 (hemangiopericytoma) の1例. 第89回日本超音波医学会, 京都, 2016. 5 .27-29
10. 森田明子: 著明な好酸球増加を認めた慢性リンパ性白血病/小細胞性リンパ腫 (CLL/SLL) の1例. 第57回日本臨床細胞学会総会, 横浜, 2016. 5 .28
11. 森田明子: 急性骨髄性白血病におけるFLT3-ITD発現量の意義. 第17回日本検査血液学会, 福岡, 2016. 8 .6
12. 丸岡隼人: HRM解析を用いたAML遺伝子変異スクリーニング法. 第17回日本検査血液学会, 福岡, 2016. 8 .6
13. 白石祐美, 丸岡隼人, 山本 駿, 矢野由希子, 末岡 馨, 老田達雄: HRM解析を用いたAMLにおけるRAS遺伝子検査法の確立. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016. 9 .3
14. 香原美咲, 松下隆史, 中村真実子, 南 佳織, 菅原雅史, 佐々木一朗, 朽尾人司, 箕輪和士: 手根管症候群では近位部の伝導速度が低下する-MCV, F波を用いた検討-. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016. 9 .3
15. 森田明子, 丸岡隼人, 田代章人, 尾松雅仁, 井本秀志, 上原慶一郎, 今井幸弘: 胸水細胞診を契機に早期診断に至ったTリンパ芽球性リンパ腫 (T-LBL) の一例. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016. 9 .3
16. 菅原雅史, 井本秀志, 松浦亮一郎, 井本秀志, 老田達雄: 盲腸検体におけるEBER-ISH非特異反応についての検討. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016. 9 .3
17. 野本奈津美, 田村明代, 内藤拓也, 中村真実子, 仁木真理恵, 森田明子, 角田敏明, 老田達雄: 当院臨床検査技術部におけるTeam STEPPS導入への取り組み. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016. 9 .4
18. 奈須聖子, 竹川啓史, 野上美由紀, 仁木真理恵, 内藤拓也, 野村菜美子, 神田 彩, 崎園賢治: 当院における過去10年間の血液培養検査の解析. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016. 9 .4

19. 丸岡隼人：DNAの抽出実習．アークレイ遺伝子アカデミー2016，京都，2016.10.15
20. 田中佑果，登阪貴子，岩崎信広，佐々木一朗，朽尾人司，箕輪和士，杉之下与志樹，鄭浩柄，猪熊哲朗，島田誠一：超音波検査が有用であった卵巣滑脱ヘルニアの一症例．第43回日本超音波医学会，大阪，2016.10.29
21. 森恵里子，朽尾人司（発表），鄭浩柄，岩崎信広，佐々木一朗，箕輪和士，杉之下与志樹，猪熊哲朗：超音波検査で描出できた食道憩室（Zenker憩室）の一例．第43回日本超音波医学会，大阪，2016.10.29
22. 岩崎信広：腹部超音波検査の進歩と新たな展開，消化管超音波検査の原石－“initial 5 minutes” Ultrasonography in the gastrointestinal tract－．第43回日本超音波医学会，大阪，2016.10.29
23. 香原美咲，岩崎信広，佐々木一朗，朽尾人司，箕輪和士，杉之下与志樹，鄭浩柄，猪熊哲朗：異なる臨床経過をたどったGVHD腸炎の2例．第43回日本超音波医学会，大阪，2016.10.29
24. 山本 駿，太田光彦，紺田利子，角田敏明，菅沼直生子，野本奈津美，大畑淳子，谷 知子，加地修一郎，古川 裕：消化管の解剖学的位置異常に心エコー図検査が有用であった一例．日本超音波医学会第43回関西地方会学術集会，大阪，2016.10.29
25. 松下隆史，岩崎信広，佐々木一朗，朽尾人司，江藤正明，杉之下与志樹，鄭浩柄，猪熊哲朗，大西英次郎：大腿神経原発後腹膜腫瘍の1例．第43回日本超音波医学会，大阪，2016.10.29
26. 田代章人，井本秀志，森田明子，尾松雅仁，上原慶一郎，今井幸弘：好中球に中毒顆粒を認めG-CSF産生が示唆された転移性腫瘍の1例．第55回日本臨床細胞学会秋期大会，大分，2016.11.18
27. 丸岡隼人：造血器腫瘍における遺伝子検査～検査の原理と臨床的有用性について～．奈良県臨床検査技師会・日本染色体遺伝子検査学会合同研修会，奈良，2016.12.10
28. 竹川啓史：臨床検査の現場で行う「真菌同定」の現状と課題．第28回日本臨床微生物学会総会・学術総会，長崎，2017.1.21
29. 佐々木一朗：誘発電位測定．第10回関西脳波・筋電図セミナー，京都，2017.1.21
30. 丸岡隼人：FCMの測定原理とデータの見方・考え方．第27回日臨技近畿支部血液研修会，大阪，2017.2.4
31. 尾松雅仁：アミノ酸含有電解質製剤の投与制限実施前後でのBacillus cereus菌血症発症件数の変化．第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会，岡山，2017.2.23
32. 中 彩乃：悪性黒色腫に免疫染色を施行した1例．兵庫臨床細胞学会第33回総会，神戸，2017.3.4

VII. 1. 35 放射線技術部

1. 小川敦久，藤本孝弘，清水敬二：Basic Study for Quantification of SPECT/CT．第72回日本放射線技術学会総会学術大会，横浜，2016.4.15
2. 藤本孝弘，小川敦久，清水敬二：脳線条体シンチの解析法による診断能の検討．第72回日本放射線技術学会総会学術大会，横浜，2016.4.15
3. 岡村佳明，山下幹子，木元 唯，吉田一貴，岡田雄基，中井高宏：全身照射（TBI）について．第16回兵庫放射線治療研究会，神戸，2016.7.1
4. Yamashita M, Takahashi R, Kokubo M, Takayama K, Tanabe H, Sueoka M, Ishii M, Okuuchi N, Iwamoto Y, Tachibana H: A feasibility study of independent dose verification for Vero 4DRT. American Association of Physicists in Medicine 58th Annual Meeting and Exhibition, Washington D.C, USA, 2016.7.31-8.4
5. Itano M, Tachibana R, Yamashita M, Shimizu H, Sugawara Y, Kotabe K, Kamima T, Takahashi R, Ishibashi S, Uchida Y, Yamazaki T, Tachibana H: A multi-institutional study independent dose verification using golden beam data. American Association of Physicists in Medicine 58th Annual Meeting and Exhibition, Washington D.C, USA, 2016.7.31-8.4
6. 伊田雄貴：救急で役立つ心電図の見方．中央市民病院救急オープンカンファレンス，神戸，2016.9.9
7. 小山寛之，東 雅章，酒井慎治，中野 大，中村 大，耕田隆志，黄川田薫：CT colonographyにおける隆起形状強調機能の基礎的検討．第32回日本診療放射線技師学術大会，岐阜，2016.9.16-18
8. 清水敬二，松本圭一，千田道雄，日野 恵，奥内 昇，山本誠一：デリバリーFDG-PET/CT検査におけるPET画像の画質についての検討．第56回日本核医学会学術総会，名古屋，2016.11.4
9. 岡村佳明，山下幹子，木元 唯，吉田一貴，岡田雄基，中井高宏：放射線治療における位置照合装置の画質評価の検討．平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会，神戸，2016.11.12

10. 二田水絵梨, 白井優子, 三船祐輔, 岸田絵美, 葉田恵三, 茨木丈晴: 低侵襲腰椎側方固定術における二相性造影CT撮影法についての初期検討. 平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2016.11.12
11. 高須賀健, 武本 渚, 馬場健司, 小川敦久, 清水敬二: FDG-PET/CT検査におけるUptake timeがSUVに及ぼす影響の検討. 平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2016.11.12
12. 大塚 聖, 浅田泰弘, 伊田雄貴, 宇草賢二: カテ室直入ECPRにおけるシミュレーションの重要性. 平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2016.11.12
13. 泊 祐加, 山下智之, 三船祐輔, 茨木丈晴: メーカーの異なるCT装置における再構成関数の比較検討. 平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2016.11.12
14. 山下智之, 三船祐輔: 躯幹領域におけるFIRSTの有効条件の検討. 平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2016.11.12
15. 小山寛之, 東 雅章, 石井政男, 酒井慎治, 中野 大, 中村 大, 耕田隆志, 黄川田薫: CT colonographyにおける隆起形状強調機能の基礎的検討. 平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2016.11.12
16. 三船祐輔: Aquilion ONE GENESIS Editionの可能性 ~その有用性と新たな取り組み~. 平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2016.11.12
17. 浜田 誠: 保健所業務について. 平成28年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2016.11.12
18. 増田祥子, 浅田泰弘, 福井敏明, 奥内 昇, 今村博敏, 坂井信幸: Aneurysm Flowにおける使用経験と問題点の改善策. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会, 神戸, 2016.11.12
19. 清水敬二: Xofigo使用経験. 第42回兵庫県核医学技術検討会, 神戸, 2016.11.19
20. Yamashita M, Ishii M, Yoshida K, Okamura Y, Kokubo M: The accuracy of TPS calculation algorithm in the inhomogeneity area: a phantom study. 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会, 京都, 2016.11.25-27
21. Itano M, Tachibana R, Yamashita M, Shimizu H, Sugawara Y, Kotabe K, Kamima T, Takahashi R, Ishibashi S, Uchida Y, Yamazaki T, Tachibana H: A multi-institutional study independent dose verification using golden beam data. 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会, 京都, 2016.11.25-27
22. 宇草賢二: 脳卒中ホットラインにおけるDoor to Puncture短縮に向けた取り組み. 日本放射線技術学会近畿支部第60回学術大会, 大阪, 2017.1.29
23. 岡村佳明, 山下幹子, 木元 唯, 吉田一貴, 岡田雄基, 中井高宏, 石井政男, 奥内 昇, 小久保雅樹: 呼吸同期放射線治療における4D-CTの基礎検討. 第30回高精度放射線外部照射部会学術大会, 仙台, 2017.3.18

VII. 1. 36 リハビリテーション技術部

1. 大塚脩斗, 坪井大和, 村田峻輔, 澤 龍一, 斎藤 貴, 中村 凌, 伊佐常紀, 海老名葵, 近藤有希, 鳥澤幸太郎, 福田章真, 小野 玲: 地域在住高齢者における包括的なヘルスリテラシーと健康関連Quality of Lifeの関連の検討. 第51回日本理学療法学会学術大会, 札幌, 2016.5.27
2. 小柳圭一, 岩田健太郎, 西原浩真, 横井佑樹, 坂本裕規, 影山智広, 門 浄彦, 田内都子, 蔵谷鷹大, 沖侑太郎, 藤本由香里, 石川 朗, 椿 淳裕, 大西秀明: 当院救急入院患者の退院遅延因子の検討. 第51回日本理学療法学会学術大会, 札幌, 2016.5.27
3. 中田歩美香: 超音波ジェルの温度差は組織温に影響を与えるのか? 第51回日本理学療法学会学術大会, 札幌, 2016.5.27
4. 影山智広, 橋 尚吾, 伊福 明, 前川利雄, 岩田健太郎, 坂本裕規, 蔵谷鷹大, 原田淳平, 稲角利彦: 理学療法介入中のがん患者に対する疼痛緩和がADLに与える影響. 第51回日本理学療法学会学術大会, 札幌, 2016.5.27
5. 蔵谷鷹大, 坂本裕規, 中垣美優, 原田淳平, 南本陽菜: 術前ADLが同程度にも関わらず, 冠動脈バイパス術後に歩行自立が遅延する術前因子の検討. 第51回日本理学療法学会学術大会, 札幌, 2016.5.27
6. 川内ななみ, 岩田健太郎, 前川利雄, 坂本裕規, 田内都子, 小寺 睦, 中垣美優, 蔵谷鷹大, 小谷将太, 尾畑貴昭, 廣瀬正和, 原田淳平, 南本陽菜: 後期高齢者の運動機能の回復について-心臓血管外科術後着目して-. 第51回日本理学療法学会学術大会, 札幌, 2016.5.27
7. 西原浩真, 岩田健太郎, 井澤和夫, 影山智広, 坂本裕規, 小柳圭一, 前川利雄, 瀬尾龍太郎, 朱 佑珍, 北井 豪: 挿管下人工呼吸器装着患者に対する専従理学療法士配置による早期リハビリテーションの効果. 第51回日本理学療法学会学術大会, 札幌, 2016.5.27

8. 大竹康平, 横井佑樹, 小柳圭一, 西原浩真, 婦木亜紀子, 岩田健太郎, 富井啓介: 右肺亜全摘後, 細菌性肺炎を発症し, NPPV離脱困難となった一例〜NPPV離脱を目指したチームアプローチ〜. 第2回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 近畿支部学術集会, 神戸, 2016. 6. 4
9. 渡邊千春, 三宅裕子: 錐体外路症状を伴わない小字症の1症例. 第17回日本言語聴覚学会, 京都, 2016. 6. 10-11
10. 西原浩真, 岩田健太郎, 井澤和夫, 影山智広, 坂本裕規, 小柳圭一, 前川利雄, 山根崇史, 古川 裕: CCU専従理学療法士配置後の多職種連携による急性期心臓リハビリテーション. 第22回日本心臓リハビリテーション学会, 東京, 2016. 7. 16-17
11. 宮本千絵, 小林正樹, 浅井康紀, 北尾友一: 終末期癌患者と家族が望む“退院後の生活”に重きを置き, 多職種で関わった一例. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016. 9. 9
12. Sasaki K, Sarada K, Taito S, Kawae T, Sekikawa K, Watanabe T, Ota K, Hirohashi N, Ueda K, Ushio K, Kimura H, Shime N, Ito Y, Kataoka T: Factors Associated with Timing of Getting Out of Bed in Patients with Critical Illness on Mechanical Ventilation. Asian Confederation for Physical Therapy Congress 2016, Malaysia, 2016.10. 7 - 8
13. 小寺 睦, 藤田俊史, 坂口雄哉, 河内ななみ, 柴田久美子, 安田 義: ホットパックによる腱板周囲組織の温度変化について. 第43回日本肩関節学会, 広島, 2016.10.21
14. 坂口雄哉, 藤田俊史, 小寺 睦, 河内ななみ, 安田 義: RSA後反復性脱臼に対しエコー下にリハビリを行い機能改善した一例. 第43回日本肩関節学会, 広島, 2016.10.21
15. 影山智広, 橘 尚吾, 伊福 明, 前川利雄, 岩田健太郎, 西原浩真, 坂本裕規, 梅田節子, 稲角利彦, 李美於: がん患者における疼痛緩和とADL改善との関連性. 第5回日本がんのリハビリテーション研究会, 神戸, 2017. 1. 9
16. 西原浩真, 岩田健太郎, 井澤和夫, 影山智広, 坂本裕規, 小柳圭一, 前川利雄, 山根崇史, 古川 裕: 救急救命センターICUにおける呼吸リハビリテーション〜多職種連携によるチームアプローチを目指して〜. 第23回呼吸ケアネットワークセミナー, 神戸, 2017. 1. 22
17. 松下文哉: 早期より看護師と情報共有しトイレ動作介助量軽減を目指した症例. 兵庫県作業療法士会, 神戸, 2017. 1. 22
18. 大塚脩斗, 坪井大和, 村田峻輔, 澤 龍一, 斎藤 貴, 中村 凌, 伊佐常紀, 海老名葵, 近藤有希, 鳥澤幸太郎, 福田章真, 小野 玲: 運動負荷に着目して介入した重症筋無力症クリーゼの1症例. 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック 新人発表, 神戸, 2017. 2. 5
19. 篠田 琢: 敗血症性ショックを繰り返し, 車椅子移乗動作の獲得に難渋した胸髄損傷の1例. 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック 新人発表, 神戸, 2017. 2. 5
20. 中田歩美香: TEVAR後に脊髄梗塞を呈した一症例-歩行獲得後に生じた反張膝に着目して-. 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック 新人発表, 神戸, 2017. 2. 5
21. 中田歩美香, 下雅意崇亨, 岩田健太郎, 山根崇史, 古川 裕: TEVAR後に脊髄梗塞を呈した一症例-歩行獲得後に生じた反張膝に着目して-. 日本心臓リハビリテーション学会第2回近畿地方会, 大阪, 2017. 2. 25
22. 佐々木康介, 岩田健太郎, 坂本裕規, 下雅意崇亨, 井澤和夫, 山根崇史, 川上大裕, 植田浩司, 下藺崇宏, 美馬裕之: 心臓血管外科手術後患者における術前身体機能は人工呼吸器離脱遅延に関連する. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3. 9-11

VII. 1. 37 臨床工学技術部

1. 中村将大, 吉田一貴, 中根 亮, 畑 秀治, 大畑達哉, 田中雄己, 井上和久, 吉田哲也, 坂地一朗, 川上大裕, 瀬尾龍太郎: 院内トレーニングにおける臨床工学技士の関わり-ECMOプロジェクト参入を経験して-. 第26回日本臨床工学技士会, 京都, 2016. 5. 14
2. 田中雄己, 中村悟士, 中農陽介, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 坂地一朗, 佐々木康, 小堀敦志, 古川 裕: Cryoballoon ablation後の再伝導肺静脈と治療状況の調査. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 16

3. 中村悟士, 中農陽介, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 田中雄己, 坂地一朗, 佐々木康, 小堀敦志, 古川 裕: クライオバルーンアブレーションにおける横隔神経刺激ペーシング出力についての検討. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 17
4. 山城悠葵, 中村悟士, 中農陽介, 杉澤朋弥, 田中雄己, 坂地一朗, 佐々木康, 小堀敦志, 古川 裕: 造影剤を使用せず心房細動アブレーションを施行した1例. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016. 7. 17
5. 釜江直也: 当院における透析患者の急変症例に関する検討. 第37回 神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2016. 10. 23
6. 佐藤 純, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 相原雅士, 坂地一朗, 佐々木康, 小堀敦志, 古川 裕: クライオバルーンアブレーションにてCMAP減高を伴わずに横隔神経麻痺を認めた1例. カテーテルアブレーション関連秋季大会2016, 福岡, 2016. 10. 28
7. 釜江直也, 植田浩司, 井上和久: 当院における透析患者の急変症例. 第27回日本急性血液浄化学会学術集会, 東京, 2016. 10. 29
8. 佐藤 純, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 相原雅士, 坂地一朗, 佐々木康, 小堀敦志, 古川 裕: クライオアブレーションにて横隔神経刺激モニタリングが無効であった1例. 京滋奈良ハートリズム研究会, 京都, 2016. 11. 12
9. 中村 聡, 井上和久, 中園紘子, 釜江直也, 原園 裕, 森本純平, 坂地一朗, 中村和史, 能登理央, 木下啓太, 佐々木翔, 吉本明弘: 当院における透析時エコー下穿刺法の現状. 第23回近畿臨床工学技士会, 神戸, 2016. 11. 12
10. 大畑達哉, 吉田一貴, 畑 秀治, 中根 亮, 中村将大, 坂地一朗: その圧力, 正確ですか? ~圧力セパレータの違いによる圧力変化について~. 第23回近畿臨床工学会, 神戸, 2017. 11. 13
11. 吉田哲也, 山田恭二, 花岡正志, 井上和久, 田中雄己, 吉田一貴, 坂地一朗, 美馬裕之, 田中年恵, 濱田麻美, 稲岡佳子, 平島正樹, 橋田 亨, 辻 晃仁: 抗がん剤曝露防止「一体型輸液ライン」の共同研究開発. 第11回医療の質 安全学会学術集会, 千葉, 2016. 11. 19
12. 畑 秀治, 吉田一貴, 大畑達哉, 中根 亮, 中村将大, 濱本優樹, 吉田哲也: 当院における手術部門の現状と課題への取り組み. 第6回西神戸ME機器保守管理カンファレンス, 神戸, 2017. 2. 2
13. 吉田一貴, 大畑達哉, 畑 秀治, 中根 亮, 中村将大, 坂地一朗: 人工心肺ハンズオンを用いた他職種への体外循環教育の取り組み. 第36回日本体外循環技術医学会近畿地方会大会, 洲本, 2017. 2. 11
14. 大畑達哉, 吉田一貴, 畑 秀治, 中根 亮, 中村将大, 坂地一朗: DO2の観点から見た当院の体外循環管理の現状. 第36回日本体外循環技術医学会近畿地方会大会, 洲本, 2017. 2. 11
15. 吉田哲也: ゼロから始める医工連携. メディカルジャパン2017, 大阪, 2017. 2. 16
16. 吉田哲也: 抗がん剤曝露防止「完全一体型輸液ライン」の共同研究開発. 院内研究フォーラム, 神戸, 2017. 2. 18
17. 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 相原雅士, 佐藤 純, 瀬尾龍太郎, 坂地一朗: 当院における人工呼吸器を用いた患者搬送の方法と特徴についての調査. 第44回日本集中治療医学会, 札幌, 2017. 3. 9
18. 杉澤朋弥, 小堀敦志, 佐々木康, 田中雄己, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 相原雅士, 佐藤 純, 坂地一朗, 古川 裕: クライオアブレーション後の心房細動再発症例における肺静脈隔離面積の検証. 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017. 3. 17
19. 中農陽介, 小堀敦志, 佐々木康, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中村悟士, 佐藤 純, 相原雅士, 森本純平, 坂地一朗, 古川 裕: クライオバルーンカテーテルのバルーンマッサージ法による気泡除去効果の検証. 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017. 3. 17
20. 吉田哲也, 山田恭二, 花岡正志, 田中雄己, 井上和久, 吉田一貴, 坂地一朗, 美馬裕之, 田中年恵, 濱田麻美, 稲岡佳子, 平島正樹, 橋田 亨, 辻 晃仁: 抗がん剤曝露防止を目的とした「完全一体型輸液ライン」の共同研究開発. 第3回日本医療安全学会, 東京, 2017. 3. 18
21. 吉田一貴, 大畑達哉, 畑 秀治, 中根 亮, 中村将大, 濱本優樹: 災害訓練から見たdavinci緊急時対応. 第二回study group of the daVinci by CE, 大阪, 2017. 3. 18

22. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 佐藤 純, 相原雅士, 森本純平, 坂地一朗, 古川 裕: 横隔膜筋電位 (CMAP) における良好なモニタリング方法の検討. 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017. 3 .19

VII. 1. 38 栄養管理部

1. 亀井こずえ, 岩本昌子, 杉岡ふみ子, 若田恭介, 岩田健太郎, 永田一真, 富井啓介: 呼吸リハビリテーションに栄養療法を有効に取り入れることができた一例. 第28回兵庫県呼吸ケアリハビリテーション懇話会, 神戸, 2016. 9 .17
2. 岩本昌子: 管理栄養士のための学会発表のススメと進め方. 第14回兵庫臨床管理栄養士研究会, 神戸, 2016.12.10
3. 茨木まどか: 肝疾患患者の食事療法. 神戸肝疾患病診連携の会, 神戸, 2016.12.15
4. 斉藤二葉, 竹中麻理子, 岩倉敏夫: 間接熱量計での栄養評価が困難であったALSの一例. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017. 1 .14
5. 平田伊都香, 新村里美, 竹中麻理子, 岩本昌子, 岩倉敏夫: 在宅静脈栄養の周期的投与による適正な栄養補給に難渋した一例. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017. 1 .15
6. 竹中麻理子, 東別府直紀, 岩本昌子, 西岡弘晶: 空腸ストーマとなった血液透析2症例の水分・Na管理. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2 .24
7. 竹中麻理子, 東別府直紀, 岩本昌子, 西岡弘晶: 空腸ストーマとなった血液透析2症例の水分・Na管理. 第25回西神戸NSTオープンカンファレンス, 神戸, 2017. 3 . 9

VII. 1. 39 情報企画課

1. 田中千春, 木下 聡, 中西寛子, 藤田純子: QI活動に対する事務局の取り組み. 第55回全国自治体病院学会, 富山, 2016.10.20-21
2. 中西寛子, 田中千春, 藤田純子, 長尾幸恵, 坂井信幸: 各診療科がクリニカルパス分析するに至った委員会活動の報告. 第17回日本クリニカルパス学会学術集会, 金沢, 2016.11.25-26

Ⅶ. 2 西市民病院

Ⅶ. 2. 1 糖尿病・内分泌内科

1. 中村武寛：薬物療法で幸せを守るにはどうすればいいのか～週1回GLP-1受容体作動薬を含めて～. GLP-1 Meeting in Kobe, 神戸, 2016. 4. 28
2. 中村武寛：糖尿病治療薬の選び方～処方する前に考えておくこと～. Pharmacy Seminar in長田・兵庫, 神戸, 2016. 5. 31
3. 糖尿病チーム：知っ得！納得！糖尿病！長田公民館リフレッシュセミナー, 神戸, 2016. 5. 31
4. 篠田 恵, 北村 薫, 小原靖子, 石井佳子, 武部礼子, 中村武寛：肝性糖尿病患者への糖質コルチコイド補充の検討. 第212回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 6. 25
5. 中村武寛：どうすれば, より多くの患者さんを救えるか? ～神戸糖尿病地域連携～, 四国中央DMサークル, 愛媛, 2016. 7. 21
6. 北村 薫：受診中断を防ぐためにできること. 第8回長田 循環器/糖尿病 Joint Forum, 神戸, 2016. 7. 28
7. 中村武寛：どうすれば, より多くの患者さんを救えるのか? ～神戸糖尿病地域連携～第8回長田 循環器/糖尿病 Joint Forum, 神戸, 2016. 7. 28
8. 中村武寛：「地域」で糖尿病に取り組むには～患者・診療所・病院のHappy 三重奏を目指して～. DM Network Seminar, 神戸, 2016. 8. 25
9. 篠田 恵, 北村 薫, 小原靖子, 石井佳子, 武部礼子, 中村武寛：DPP-4 阻害剤内服中に水疱性類天疱瘡を発症した2型糖尿病の9例の検討. 第213回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9. 2
10. 中村武寛：高齢者の糖尿病診療を地域で診ることの重要性. 長田区医師会・薬剤師会, 須磨区医師会・薬剤師会 地域で診る！高齢者糖尿病診療を考える会, 神戸, 2016.10. 6
11. 中村武寛：イキイキ糖尿病らいふ. 兵庫県予防医学協会 市民対象セミナー, 神戸, 2016.10.16
12. 中村武寛：幸せを守る薬物療法とは～患者さんの気持ちになって考える～. 第2回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2016.10.19
13. 中村武寛：糖尿病治療薬を処方する前に～みんなで考えればきっとうまくいく～. 第5回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 神戸, 2016.10.30
14. 中村武寛：みんなで前向きになるには? 第20回兵庫県糖尿病協会ウォークラリー大会 歩いて学ぶ糖尿病, 神戸, 2016.10.30
15. 小原靖子：メトホルミンと大腸腫瘍の関係性についての検討. Inject combination seminar in Kobe, 神戸, 2016.11. 2
16. 中村武寛：糖尿病治療薬を処方する前に～「幸せ」を守るにはどうしたらいいのか～. Kowa Web Conference in Kobe, 神戸, 2016.11. 8
17. 小原靖子, 北村 薫, 石井佳子, 篠田 恵, 武部礼子, 中村武寛：メトホルミンと大腸腫瘍の関係性についての検討. 第214回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.12. 3

Ⅶ. 2. 2 神経内科

1. 石田 光, 菅生教文, 城洋志彦, 樋口 理：コリンエステラーゼ阻害薬に過敏反応を示した抗LRP4抗体陽性の重症筋無力症の一例. 日本神経学会第106回近畿地方会, 京都, 2016.11.19
2. 古屋誠彦, 菅生教文, 城洋志彦：Campylobacter. Fetusによる髄膜炎の1例. 日本内科学会第215回近畿地方会, 大阪, 2017. 3. 25

Ⅶ. 2. 3 消化器内科

1. 星 充, 平川旭人, 横出正隆, 植村久尋, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政：胃ESDを施行した胃NETを合併したA型胃炎の1例. 第96回日本消化器内視鏡病学会近畿地方会, 京都, 2016. 6. 11
2. 植村久尋, 平川旭人, 横出正隆, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政：カプセル内視鏡とシングルバルーン内視鏡検査により診断に至ったMeckel憩室の1例. 第96回日本消化器内視鏡病学会近畿地方会, 京都, 2016. 6. 11

3. 横出正隆, 平川旭人, 星 充, 植村久尋, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 診断に苦慮した腓全体癌の1例. 第96回日本消化器内視鏡病学会近畿地方会, 京都, 2016. 6. 11
4. 三上 栄, 山下幸政, 平川旭人, 星 充, 横出正隆, 植村久尋, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 小野寺正征: 特異的な大腸内視鏡像を呈した糞線虫症の一例. 第27回日本臨床寄生虫学会大会, 金沢, 2016. 6. 18
5. 三上 栄: 潰瘍性大腸炎, クローン病. 第65回神戸市難病連主催医療相談会, 神戸, 2016. 7. 10
6. 板井良輔, 三上 栄: 症例 大腸Follicular lymphoma. 第214回大腸疾患研究会, 大阪, 2016. 9. 9
7. 横出正隆, 平川旭人, 植村久尋, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 拡大右葉切除後3年で異所性再発を来した右胆管原発IPMBの1例. 第105回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2016. 9. 11
8. Mikami S, Sumitomo Y, Yamashita Y: The case of colitis with Ulcerative Colitis-like endoscopic appearance associated with Juvenile Polyposis (JP) -Hereditary Hemorrhagic telangiectasia syndrome (HHT) with SMAD4 mutation. 24th UEG Week, Vienna, 2016.10.17
9. 三上 栄, 平川旭人, 横出正隆, 植村久尋, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政: クローン病患者の肛門病変の検討. 第58回日本消化器病学会大会, 神戸, 2016.11. 5
10. 板井良輔, 平川旭人, 横出正隆, 植村久尋, 星 充, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 当院での炎症性腸疾患患者における5-アセチルサリチル酸 (5-ASA) 製剤の副作用についての検討. 第58回日本消化器病学会大会, 神戸, 2016.11. 5
11. 三上 栄, 中井勝彦, 川上和彦, 植村久尋, 横出正隆, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政, 松田保秀: IBD患者における肛門部病変の検討. 第71回日本大腸肛門病学会学術総会, 三重, 2016.11.19
12. 横出正隆, 平川旭人, 植村久尋, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: コーラ療法とガイドワイヤーを用いた自作碎石器による内視鏡的碎石法 (ELG法) が奏功した巨大胃石の1例. 第97回日本消化器内視鏡病学会近畿地方会, 京都, 2016.11.26
13. 横出正隆, 平川旭人, 植村久尋, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 肝生検で診断し得た肺原発combined large cell neuroendocrine carcinomaの1例. 第106回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2017. 2. 25
14. 植村久尋, 平川旭人, 横出正隆, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 前立腺癌治療薬アピラテロン投与で重篤な肝障害を来した1例. 第106回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2017. 2. 25
15. 横出正隆, 三上 栄: 虫垂がんの上行結腸浸潤症例. 第450回大阪胃研究会, 大阪, 2017. 3. 8

VII. 2. 4 呼吸器内科

1. 石川 哲, 山口哲生, 河端美則, 酒井文和, 中村秀範, 小倉高志, 田口善夫, 小橋陽一郎, 野間恵之, 渡邊憲太朗, 新美彰男, 網谷良一, 富岡洋海, 河村哲治, 井上義一, 松島秀和, 天野雅子: 特発性上葉限局型肺線維症 (IPUF) の臨床病理学的検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 8
2. 金子正博, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 富岡洋海: Goddard scoreと臨床指標・6分間歩行試験・呼吸機能・forced oscillation technique (FOT) の相関. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 8
3. 山下修司, 富岡洋海, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 豆鞆伸昭, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博: 胃瘻造設を行った肺炎症例の検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 9
4. 富岡洋海: シンポジウム 症例を臨床から分子レベルまで考える 6 間質性肺炎. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 10
5. 古田健二郎, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 豆鞆伸昭, 山下修司, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: ImmunoCAP Specific IgGによる鳥特異抗体陽性慢性過敏性肺炎症例の検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 10
6. 富岡洋海: IPFの集学的評価 MultiDisciplinary Diagnosis of IPF by MDD. IPF academy How IPF is diagnosed and treated? 大阪, 2016. 4. 12

7. Tomioka H, Yamashita S, Kamada T, Takata H, Mamesaya N, Furuta K, Kida Y, Kaneko M: Clinical analysis of the aspiration pneumonia in which percutaneous endoscopic gastrostomy was constructed: Our 10-year experience. ATS 2016 International Conference, San Francisco, 2016. 5.15
8. 高田寛仁, 富岡洋海, 鎌田貴裕, 吉積悠子, 豆鞆伸昭, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 西尾智尋: レボフロキサシン投与にて診断が遅れた気管支結核の1例. 第91回日本結核病学会総会, 金沢, 2016. 5.26
9. 吉積悠子, 富岡洋海, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 勝山栄治, 河端美則: 気胸を契機に診断されたサルコイドーシスの1例. 第13回近畿サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会, 大阪, 2016. 5.28
10. 山下修司, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 急速に進行し, 診断に苦慮したG-CSF, IL-6高値の肺扁平上皮癌の検討. 第124回兵庫県肺癌懇話会, 神戸, 2016. 6.29
11. 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 非結核性抗酸菌の穿破による気胸, 胸膜炎の1例. 第117回日本結核病学会・第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
12. 山下修司, 山添正敏, 吉積悠子, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 森田充紀, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海, 勝山栄治: 肺門・縦隔リンパ節腫大, 心嚢水, 胸水貯留を認め, 原発性肺癌が疑われた肺結核の1例. 第117回日本結核病学会・第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
13. 木田陽子, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 富岡洋海: 中葉舌区症候群としてフォローされていた肺動脈単独欠損症の1例. 第117回日本結核病学会・第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
14. 吉積悠子, 山下修司, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 森田充紀, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 悪性胸膜中皮腫との鑑別を要したびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の一例. 第117回日本結核病学会・第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7. 9
15. 山下遥介, 鎌田貴裕, 富岡洋海: 加熱式煙草の増量を契機とした急性好酸球性肺炎の一例. NPO法人西日本呼吸器内科医療推進機構 平成28年度夏季学術集会, 神戸, 2016. 7.30
16. 鎌田貴裕, 金子正博, 富岡洋海: 喘息の増悪はFOTで測定される気道インピーダンスを悪化させる. NPO法人西日本呼吸器内科医療推進機構 平成28年度夏季学術集会, 神戸, 2016. 7.30
17. 金子正博, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田光紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 富岡洋海: 閉塞性肺疾患における体成分分析装置 (InBody S10[®]) 測定値と呼吸機能検査およびForced oscillation technique (MostGraph-01[®]) 測定値の相関. 第12回MostGraph臨床研究会, 大阪, 2016. 8. 6
18. Takada H, Tomioka H, Kamada T, Yoshizumi Y, Morita N, Yamashita Y, Furuta K, Kida Y, Kaneko M, Abe T, Katsuyama E, Kawabata Y: A case of interstitial lung disease complicated with chronic thyroiditis. 第145回びまん性肺疾患研究会, 大阪, 2016. 8.27
19. 富岡洋海: 当院でのオフエブ[®]使用経験ー使用継続についてー. Ofev First year Events Change the path of IPF, 大阪, 2016. 9. 1
20. 富岡洋海: 肺の病気について 慢性の呼吸器疾患. 平成28年度第2回西市民病院市民公開講座, 神戸, 2016. 9.15
21. 富岡洋海, 金田俊彦, 金子正博, 勝山栄治, 江石義信: 下肺野優位の間質性陰影を呈したサルコイドーシスの1例. 第36回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 東京, 2016.10. 7
22. 富岡洋海: 慢性過敏性肺炎の臨床・画像・病理所見. 第17回東京びまん性肺疾患研究会, 東京, 2016.10.15
23. 富岡洋海: 誤嚥性肺炎をめぐって. 第25回日本口腔感染症学会 総会・学術大会 教育講演, 神戸, 2016.10.16
24. 富岡洋海: 地域へつなぐ呼吸ケア・リハビリテーション. 神戸市立医療センター西市民病院 平成28年度オープンカンファレンス, 神戸, 2016.10.20
25. 山添正敏, 富岡洋海, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博: 防水スプレー吸入による急性肺障害を起こした靴職人の一例. 第19回阪神呼吸器カンファレンス, 神戸, 2016.10.25

26. 森田充紀, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 学校健診で指摘された胸部異常影の症例. 第125回兵庫県肺癌懇話会, 神戸, 2016.10.26
27. 富岡洋海: 高齢者の誤嚥性肺炎をめぐって. 長田区医師会学術講演会, 神戸, 2016.10.27
28. 金子正博: 最新のガイドラインに沿った閉塞性肺疾患の診療. 第41回北区呼吸器疾患研究会, 神戸, 2016.11.10
29. 富岡洋海: 特発性肺線維症 (IPF) の治療意義と治療目標. Meet the Expert, 東京, 2016.11.12
30. 富岡洋海: 特発性肺線維症 (IPF) の治療意義と治療目標. OFEV発売1周年記念講演会, 京都, 2016.11.18
31. 伊藤功朗, 石田直, 橘洋正, 富岡洋海, 大西尚, 長谷川吉則, 西村尚志, 小西聡史: HCAP除外後の市中肺炎における予後予測. 第59回日本感染症学会中日本地方会, 那覇, 2016.11.25
32. 富岡洋海: 間質性肺炎の多様性と治療の展開: 実際の症例から. 第29回上本町呼吸器セミナー, 大阪, 2016.11.26
33. 富岡洋海: COPDについて. 平成28年度肺がん・COPD講演会, 神戸, 2016.12.2
34. 金子正博: 喘息診療・治療のコツ: 咳の患者さんが来られたら. 喘息診断・治療のコツを考える会, 神戸, 2016.12.8
35. 山添正敏, 富岡洋海, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博: 防水スプレー吸入により急性肺障害を起こした靴職人の一例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
36. 鎌田貴裕, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 加熱式煙草の増量を契機とした急性好酸球性肺炎の一例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
37. 西尾智尋, 小西弘起, 王康治, 富岡洋海: Effort thrombosisの関与が疑われた乳び胸の一例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
38. 鎌田貴裕, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 進行期肺癌患者の緊急入院時の予後スコアの検討. 第57回日本肺癌学会, 福岡, 2016.12.21
39. 金子正博: Eilers Oral Assessment Guide (OAG) と臨床背景, 栄養状態, 嚥下グレード, 摂食状況レベル, 転機との関連. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017.1.13
40. 富岡洋海: びまん性肺疾患の診断・治療の進め方 (初歩編) 初歩から学ぶびまん性肺疾患セミナー, 福岡, 2017.2.4
41. 金子正博: 日常診療における咳の見分け方と治療. 兵庫区医師会学術講演会, 神戸, 2017.2.17
42. 森田光紀, 山添正敏, 高田寛仁, 鎌田貴裕, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 当院でのBubble-like appearanceを呈した肺腺癌の検討. 第126回兵庫県肺癌懇話会, 神戸, 2017.2.22
43. 金子正博, 藤原麻耶, 有岡靖隆, 赤澤尚美, 船曳晃代, 辻恵理佳, 太田好美, 福島浩一, 田村昌三, 廣石絢子, 岡本知子: 医療・介護関連肺炎における摂食・嚥下能力グレードの検討. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017.2.23
44. 富岡洋海: 私たちは間質性肺炎をこのように診断, 治療しているーシンポジウム3 呼吸器 セッション1: 急性・亜急性経過の間質性肺炎 1) 臨床. 第36回日本画像医学会総会, 東京, 2017.2.25
45. 富岡洋海: サルコイドーシスの診断と治療について. サルコイドーシス友の会九州大会 難病サルコイドーシス医療講演会, 福岡, 2017.3.5
46. 富岡洋海: 特発性肺線維症 (IPF) の治療意義と治療目標. Meet the Expert, 東京, 2017.3.11
47. 太田秀人, 富岡洋海, 山添正敏, 高田寛仁, 鎌田貴裕, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 勝山栄治, 安部武生: 間質性肺炎が先行し, 約10年の経過を追えた強皮症の1例. 第17回膠原病肺疾患研究会, 大阪, 2017.3.18
48. 西尾智尋, 高田寛仁, 富岡洋海: 結核病床をもたない急性期病院救急外来における肺結核診断の現状. 第92回日本結核病学会総会, 東京, 2017.3.23
49. 富岡洋海: IPFの治療意義と治療目標. IPF呼吸器リハビリテーション・薬物療法研究会, 東京, 2017.3.30

VII. 2. 5 リウマチ・膠原病内科

1. 安部武生: 抗PL-7抗体陽性ARS抗体症候群の後方視的検討. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, 2016.4.21-24

2. 安部武生：分娩後に発症したTAFRO症候群と思われる一例. 第214回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.12.3

VII. 2. 6 小児科

1. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治：当院にて出産された母親へのアレルギー指導の取り組み. 第268回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2016.5.28
2. 藤原絢子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 田中由起子, 江口純治：著しい偏食が原因と考えられたビタミンB12欠乏性貧血の一例. 第268回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2016.5.28
3. 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 田中由起子, 江口純治：肛門周囲膿瘍の症例. 第106回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2016.6.16
4. 松本和徳, 田中由起子：長田区, 兵庫区, 須磨区の神戸市3区における保育園, 幼稚園, 消防隊, 医療機関間の食物アレルギーに対する地域連携の取り組み. 第63回日本小児保健協会学術集会, 埼玉, 2016.6.25
5. 田中由起子, 松本和徳, 渡木綾子, 赤沢尚美, 高橋亜里紗, 竹崎裕子, 山口陽恵：当院にて出産された母親へのアレルギー予防指導の取り組み（新生児からの保湿も含めた）. 第33回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会, 仙台, 2016.7.17
6. 江口純治, 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 田中由起子, 西山将広：発作性運動誘発性舞踏アテトーゼの1例. 第107回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2016.9.8
7. 江口純治, 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 田中由起子, 西山将広：発作性運動誘発性舞踏アテトーゼの1例. 第267回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2016.9.17
8. 田中由起子：神戸市長田区, 兵庫区, 須磨区の3区における食物アレルギー児童に対する地域連携での取り組み～2016年度版～. 第53回日本小児アレルギー学会, 前橋, 2016.10.9
9. 松本和徳, 田中由起子, 安島英裕, 光田好寛, 竹中尚美, 江口純治：当院での食物負荷試験1年間のまとめ. 第270回日本小児科学会兵庫県地方会, 尼崎, 2017.2.18
10. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治, 青田千恵：再発と考えられた弁膜症合併リウマチ熱の1症例. 第270回日本小児科学会兵庫県地方会, 尼崎, 2017.2.18
11. 松本和徳, 田中由起子, 安島英裕, 光田好寛, 竹中尚美, 江口純治：当院での食物負荷試験1年間のまとめ. 第30回近畿小児科学会, 大阪, 2017.3.12
12. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治：「神戸市3区における食物アレルギー児童に対する地域連携での取り組み」2016年度. 第30回近畿小児科学会, 大阪, 2017.3.12
13. 堀内沙也香, 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治：天ぷら摂取により同時にアナフィラキシーを起こしたパンケーキ症候群の2例. 第109回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2017.3.30

VII. 2. 7 外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科

1. 田中英治, 奥本龍夫, 村上哲平, 池田篤志, 姚 思遠, 原田武尚：高齢者胃がん患者における腹腔鏡手術の安全性. 第116回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2016.4.14
2. 松井優悟, 姚 思遠, 池田篤志, 村上哲平, 田中英治, 奥本龍夫, 原田武尚：PTP誤飲による十二指腸穿孔の1例. 第180回兵庫県外科医会学術集会, 神戸, 2016.5.7
3. 村上哲平：シートベルト損傷後にイレウスを来した遅発性小腸狭窄の1例. 第199回近畿外科学会, 大阪, 2016.5.14
4. Tanaka E: Feasibility of laparoscopic gastrectomy for elderly patient. European Association for Endoscopic Surgery, Amsterdam, Holland, 2016.6.15
5. 田中英治, 奥本龍夫, 村上哲平, 池田篤志, 姚 思遠, 原田武尚：市中病院における腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合 オーバーラップ法による胸腔内吻合. 第70回日本食道学会学術集会, 東京, 2016.7.6
6. 田中英治, 奥本龍夫, 村上哲平, 池田篤志, 姚 思遠, 原田武尚：臓器鞘を意識した左反回神経周囲郭清頸胸境界部を含む合理的な郭清のために. 第71回日本消化器外科学会総会, 徳島, 2016.7.16
7. 堀田健太, 田中英治, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 奥本龍夫, 原田武尚：術前診断し得た穿孔部位不明の魚骨による腹腔内膿瘍の1例. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016.11.24
8. 山田真規, 田中英治, 堀田健太, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 奥本龍夫, 原田武尚：術前に小腸腫瘍と思われた後腹膜原発solitary fibrous tumorの1例. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016.11.24

9. 姚 思遠, 田中英治, 池田篤志, 村上哲平, 原田武尚: 腸閉塞の質的診断と治療戦略 腹腔鏡下イレウス解除術の治療成績 7年間, 110例の検討. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016.11.24
10. 村上哲平, 堀田健太, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 田中英治, 奥本龍夫, 松井優悟, 原田武尚, 山本満雄: 術前に診断し得た超高齢者のPress-Through Package (PTP) による小腸穿孔に対して腹腔鏡下手術を施行した1例. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016.11.24
11. 松井優悟, 田中英治, 山田真規, 堀田健太, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 奥本龍夫, 原田武尚: あさりによる小腸食餌性イレウスの1例. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016.11.25
12. 田中英治, 堀田健太, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 奥本龍夫, 原田武尚: 臓器鞘に基づいた左反回神経周囲外科解剖 頸胸境界部を含む合理的な郭清のために. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016.11.26
13. 堀田健太, 田中英治, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 奥本龍夫, 原田武尚: 腹腔鏡下手術で治療し得た穿孔部位不明の魚骨による腹腔内膿瘍の1例. 第29回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2016.12.8
14. 村上哲平, 堀田健太, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 奥本龍夫, 田中英治, 山本満雄: 郭清領域を意識した脾彎曲大腸癌に対する腹腔鏡下結腸切除術. 第29回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2016.12.8
15. 田中英治, 堀田健太, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 奥本龍夫: 食道胃接合部癌に対する腹腔鏡下噴門周囲 経裂孔の下縦隔郭清術. 第29回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2016.12.8
16. 山田真規, 村田飛鳥, 堀田健太, 池田篤志, 村上哲平, 奥本龍夫, 田中英治: 腹腔鏡下結腸右半切除における脚間操作での中枢側リンパ節郭清および血管処理. 第29回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2016.12.10
17. 田中英治, 堀田健太, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 原田武尚: 当院における食道胃接合部癌に対する腹腔鏡下噴門周囲 経裂孔の下縦隔郭清術. 第89回日本胃癌学会総会, 広島, 2017.3.10

Ⅶ. 2. 8 整形外科

1. 榊田崇一郎, 藤林俊介, 大槻文悟, 木村浩明, 根尾昌志, 松田秀一: Polyglycolic Acid Meshとフィブリン糊併用による硬膜修復と後療法に関する考察. 第45回日本脊椎脊髄病学会, 千葉, 2016.4.14-16
2. 榊田崇一郎, 竹内久貴, 西口 滋, 安田 義: 開放性及び閉鎖性小児橈骨骨折に対する治療成績. 第43回日本骨折治療学会, 東京, 2016.7.1-2
3. 藤原弘之: 足関節外果骨折術後感染の治療経験. 第39回日本骨・関節感染症学会, 岡山, 2016.7.8
4. 西口 滋: 当院での非定型大腿骨骨折の治療経験(とプラリア??の使用状況). 新時代の骨粗鬆症治療, 神戸, 2016.9.2
5. 山根逸郎: PPS (経皮的椎弓根スクリュー) システムの有用性と課題. 第28回神戸オープンボーンカンファレンス, 神戸, 2016.9.10
6. 西口 滋, 榊田崇一郎, 山根逸郎, 藤原弘之, 布施謙三, 高岡祐輔: 病理学的に診断された大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折の一例. 第127回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松本, 2016.9.30-10.1
7. 山根逸郎, 西口 滋, 布施謙三, 斎藤聡彦, 藤原弘之, 榊田崇一郎: 整復不能な腰椎骨折の転位が生じたDISHの1例. 第127回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松本, 2016.9.30-10.1
8. 榊田崇一郎, 山根逸郎, 西口 滋: 当院における経皮的椎弓根スクリューの刺入精度に関する検討. 第127回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松本, 2016.9.30-10.1
9. 榊田崇一郎, 山根逸郎, 西口 滋: 当院における経皮的椎弓根スクリューの刺入精度に関する検討. 第26回脊椎インストゥルメンテーション学会, 長崎, 2016.10.28-29
10. 西口 滋: ひざの痛みのお話-変形性膝関節症-. 兵庫ライフプラザ講演会, 神戸, 2016.11.26
11. 西口 滋: 筋肉を切らない人工股関節手術. 病診連携の会, 神戸, 2017.2.23
12. 山根逸郎: 当科における脊椎手術の動向. 病診連携の会, 神戸, 2017.2.23

Ⅶ. 2. 9 泌尿器科

1. 脇田直人, 大西篤史, 山野 潤, 岡本雅之, 中村一郎: DICに対する遺伝子組み換えトロンボモジュリンの有効性に関する検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016.4.24
2. 岡本雅之, 大西篤史, 脇田直人, 山野 潤, 中村一郎: 膀胱全摘術における尿管断端の術中迅速病理診断の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016.4.25

3. 脇田直人, 大西篤史, 山野 潤, 岡本雅之, 中村一郎: 椎間孔への浸潤が疑われた後腹膜脂肪肉腫の1例. 第233回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪, 2016. 9 .24
4. 大西篤史, 脇田直人, 山野 潤, 岡本雅之, 中村一郎: 当院における内視鏡的尿道再建術の検討. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016.11.17
5. 岡本雅之, 大西篤史, 脇田直人, 山野 潤, 中村一郎: 当院におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の初期治療成績. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016.11.18
6. 山野 潤, 大西篤史, 脇田直人, 岡本雅之, 中村一郎: 当科における腎癌手術症例の臨床的検討. 第68回西日本泌尿器科学会総会, 下関, 2016.11.25
7. 脇田直人, 大西篤史, 山野 潤, 岡本雅之, 中村一郎: 当科における去勢抵抗性前立腺癌に対する新規ホルモン剤の使用経験. 第68回西日本泌尿器科学会総会, 下関, 2016.11.26

VII. 2. 10 歯科口腔外科

1. 日野祥子, 河合峰雄, 西田哲也, 渡邊絵里奈: CRPS患者に全身麻酔下で歯科治療を行った1症例. 第51回関西歯科麻酔研究会, 大阪, 2016. 6 .18
2. 渡邊絵里奈, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 日野祥子: 精神的不安定な患者における日帰り全身麻酔下歯科治療の有用性について. 第44回日本歯科麻酔学会総会, 札幌, 2016.10.29
3. 日野祥子, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 渡邊絵里奈: CRPS患者に全身麻酔下で歯科治療を行った1症例. 第44回日本歯科麻酔学会総会, 札幌, 2016.10.29
4. 河合峰雄: 歯と摂食嚥下障害-義歯の取り扱いも含めて-. 平成28年度長田区三師会とケアマネ合同研修会, 神戸, 2016.11. 5
5. 河合峰雄: 安心して下さい〜と患者さんにいえる訪問歯科診療のポイント. 訪問歯科診療講習会, 神戸, 2017. 2 .13
6. 日野祥子, 河合峰雄, 西田哲也, 渡邊絵里奈: 当科における抗血栓薬服用患者の抜歯症例に関する検討. 第26回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 金沢, 2017. 3 . 4
7. 渡邊絵里奈, 河合峰雄, 西田哲也, 日野祥子: 抜歯後感染症を契機に糖尿病と診断された症例. 第26回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 金沢. 2017. 3 . 5

VII. 2. 11 臨床病理科

1. 吉積悠子, 富岡洋海, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 勝山栄治, 河端美則: 気胸を契機に診断されたサルコイドーシスの1例. 第13回近畿サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会, 大阪, 2016. 5 .28
2. 山下修司, 山添正敏, 吉積悠子, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 森田充紀, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海, 勝山栄治: 肺門・縦隔リンパ節腫大, 心嚢水, 胸水貯留を認め, 原発性肺癌が疑われた肺結核の1例. 第117回日本結核病学会・第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2016. 7 . 9
3. 富岡洋海, 金田俊彦, 金子正博, 勝山栄治, 江石義信: 下肺野優位の間質性陰影を呈したサルコイドーシスの1例. 第36回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 東京, 2016.10. 7
4. 宮川祥治, 吉田澄子, 山下展弘, 勝山栄治: 顎下腺癌肉腫1例. 第55回日本臨床細胞学会秋季大会, 大分, 2016.11.19
5. 太田秀人, 富岡洋海, 山添正敏, 高田寛仁, 鎌田貴裕, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 勝山栄治, 安部武生: 間質性肺炎が先行し, 約10年の経過を追えた強皮症の1例. 第17回膠原病肺疾患研究会, 大阪, 2017. 3 .18

VII. 2. 12 救急総合診療部

1. 小縣正明: Point-of-Care超音波検査「消化器系のPoint-of-Care超音波検査-ベッドサイドで利用する臨床医の視点から-」. 第89回日本超音波医学会, 京都, 2016. 5 .27
2. 小縣正明: 講演「急性腹症のPoint-of-Care Ultrasound」. 第2回Point-of-Care超音波研究会, 東京, 2016.10.29

Ⅶ. 2. 13 看護部

- 金子正博, 有岡靖隆, 福嶋浩一, 田村昌三, 船曳晃代, 田辺 望, 岡本智子, 廣石絢子, 太田好美, 辻佳穂里, 濱本カナコ, 赤沢尚美: Eilers Oral Assessment Guide (OAG) と臨床背景, 栄養状態, 嚥下グレード, 摂食状況レベル, 転機との関連. 第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 福岡, 2016. 2. 25-26
- 左山朋美: 外来継続看護支援システムの構築に向けた検討 患者の情報共有が可能なシステム構築. 第17回日本医療情報学会学術大会, 神戸, 2016. 7. 8-9
- 渡木綾子, 嶋田友里絵, 赤沢尚美, 松本和徳, 藤原絢子, 田中由起子: 食物アレルギー患者と関わる地域の連携を目指して 当院近隣神戸市3区のオープンカンファレンスを開いて. 第33回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会, 仙台, 2016. 7. 16-17
- 鷺坂有美, 松本美恵子, 石津 瞳, 青野智子, 吉田直子: 放射線科での継続受け持ち制導入による看護師の意識の変化. 第47回日本看護学会看護教育学術集会, 滋賀, 2016. 8. 4-5
- 川口麻衣: 合併症のない2型糖尿病患者と診断されてから1年以内の患者が糖尿病であることを意識するとき. 第21回日本糖尿病教育・看護学会, 山梨, 2016. 9. 18-19
- 林 有里, 新田和子: CNSのマネジメント能力向上の課題. 第47回日本看護学会看護管理学術集会, 石川, 2016. 9. 27-28
- 俣木陽子: 医療従事者を対象とした麻疹, 風疹, 水痘帯状疱疹, 流行性耳下腺炎ワクチン接種の効果. 第55回全国自治体病院学会, 富山, 2016. 10. 22-23
- 荒木敬雄, 平野通子, 船木 淳, 瀧澤紘輝, 板東由美, 平尾明美: 二次救急病棟で勤務する看護師のキャプテンシー教育プログラムの評価. 第18回日本救急看護学会, 千葉, 2016. 10. 29-30
- 林 有里, 新田和子: グループディスカッションにおけるCNSの自己課題の明確化. 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016. 12. 10-11
- 岡崎美晴: チーム医療を実践する看護師に必要な能力の検討 看護師へのインタビューから. 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016. 12. 10-11
- 杉原陽子: 高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法 第2報 食べる援助の育成. 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016. 12. 10-11

Ⅶ. 2. 14 薬剤部

- 濱 宏仁: 抗がん剤曝露対策について. 大阪府病院薬剤師会第15支部学術講演会, 大阪, 2016. 6. 9
- 田中詳二: 震災派遣における薬剤師の活動. 神戸市立医療センター西市民病院第2回災害対策研修会, 神戸, 2016. 9. 15
- 濱 宏仁: 米国薬局方からみた日本の抗がん剤曝露対策. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17-19
- 平野美優, 濱 宏仁, 田中詳二: アンジオテンシンII受容体拮抗薬の術中血圧への影響への検討. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17-19
- 渡辺享平, 後藤伸之, 佐々木忠徳, 濱 宏仁, 原田幸子, 松浦克彦, 山川雅之: 医療上必要な薬剤の市販化に向けた調査・研究. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17-19
- 加藤早希, 濱 宏仁, 田中詳二: エキセナチド(ビデュリオン)皮下注用ペンの溶解操作による薬液詰まりの検証. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17-19
- 濱 宏仁: 米国薬局方からみた日本の抗がん剤曝露対策. 大阪府病院薬剤師会第9支部(豊能支部)研修会, 大阪, 2016. 10. 18
- 石本学司: 当院における吸入指導の取り組みについて. 第5回長田区呼吸器疾患フォーラム, 神戸, 2017. 1. 29
- 酒井麻衣, 石本学司, 濱 宏仁, 田中詳二: 「おくすり確認外来」運用開始による入院日の抗凝固薬等の休薬状況に対する影響. 第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 大阪, 2017. 2. 25-26
- 光武瑞穂, 赤瀬博文, 濱 宏仁, 田中詳二: ワルファリンとトラマドール併用による血液凝固能の変動に関する検討. 第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 大阪, 2017. 2. 25-26
- 加藤早希, 濱 宏仁, 田中詳二: ポリファーマシーが飲み忘れに与える影響. 第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 大阪, 2017. 2. 25-26

12. 平野美優, 濱 宏仁, 田中詳二: 睡眠導入剤使用による転倒・転落のリスクの検討. 第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 大阪, 2017. 2. 25-26
13. 田中詳二: 電子おくすり手帳と地域連携について. KOBE PHARMACIST SEMINAR, 神戸, 2017. 2. 28
14. 田中詳二: 電子お薬手帳と地域連携. 第34回兵庫医療情報研究会, 神戸, 2017. 3. 11
15. 濱 宏仁: 調製から投与までのCSTD使用による曝露対策の有用性. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017, 新潟, 2017. 3. 18-19

VII. 2. 15 臨床検査技術部

1. 江上和紗, 水谷文子: *Bordetella holmesii*による化膿性関節炎, 蜂窩織炎, 菌血症の一症例. 第56回日臨技近畿支部医学検査学会, 和歌山, 2016. 5. 14
2. 田村周二: 閉塞性黄疸の診かたー急性腹症を中心にー. JSS四国第25回・JSS中国第20回合同地方会学術集会, 高松, 2016. 7. 24
3. 松之舎教子, 高田真理子, 金子正博, 王 康治, 五島恵里, 弘田大智, 恒川麻衣, 三羽えり子, 田村周二, 山下幸政: 生食コントラスト心エコーにて診断に至った肝肺症候群 (HPS) の2例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
4. 五島恵里, 高田真理子, 星 充, 北川宏樹, 恒川麻衣, 弘田大智, 松之舎教子, 三羽えり子, 田村周二, 山下幸政: 腹部超音波検査で小腸内に裂頭条虫を描出し得た一例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
5. 弘田大智, 岩崎倫子, 竹田梨沙, 北川宏樹, 恒川麻衣, 五島恵里, 松之舎教子, 三羽えり子, 田村周二, 高橋明弘: 左右冠動脈左室瘻の一例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
6. 恒川麻衣, 板井良輔, 高田真理子, 五島恵理, 松之舎教子, 三羽えり子, 田村周二, 奥野晃章, 山下幸政: ソナゾイド造影超音波で小腸悪性リンパ腫と鑑別が困難であった小腸GISTの一例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
7. 北川宏樹, 三上 栄, 星 充, 高田真理子, 弘田大智, 恒川麻衣, 中野恵理, 松之舎教子, 田村周二, 白木則朗, 山下幸政: 超音波検査が有用であった腹膜垂炎の2例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
8. 竹田梨沙, 弘田大智, 安村聡樹, 高田真理子, 恒川麻衣, 五島恵里, 松之舎教子, 三羽えり子, 田村周二, 山下幸政: 診断にソナゾイド造影超音波検査が有用であった胆管癌の一例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
9. 宮川祥治, 吉田澄子, 山下展弘, 勝山栄治: 顎下腺癌肉腫1例. 第55回日本臨床細胞学会秋季大会, 大分, 2016.11.19
10. 松之舎教子: この検査では, こんな所に注意する. ~経験から学ぶ~腹部エコー. 兵庫県臨床検査技師会生理検査講習会, 姫路, 2017. 2. 25
11. 田村周二: 生理検査室オープンカンファレンスへの取り組み. 日本医療マネジメント学会 第11回兵庫支部学術集会, 明石, 2017. 2. 26
12. 吉田澄子, 田村周二: 一斉メールの構築. 日本医療マネジメント学会 第11回兵庫支部学術集会, 明石, 2017. 2. 26
13. 釜谷博行, 中村寛治, 山下展弘, 吉田澄子, 前田恵子, 田村周二: 採血管準備システム更新に伴う業務の再構築. 日本医療マネジメント学会 第11回兵庫支部学術集会, 明石, 2017. 2. 26

VII. 2. 16 リハビリテーション技術部

1. 三栖翔吾, 酒井英樹, 沖侑一郎, 藤本由香里, 本田明広, 金子正博, 石川 朗, 小野 玲: COPD患者における息切れを伴わない労作時酸素飽和度低下の有症率とその特徴の検討. 第51回日本理学療法学術大会, 札幌, 2016. 5. 27-29
2. 三栖翔吾, 浅井 剛, 土井剛彦, 澤 龍一, 山田 実, 小野 玲: 地域在住高齢者における栄養障害は歩行時の姿勢安定性低下と関連するー1年間の縦断研究ー. 第51回日本理学療法学術大会, 札幌, 2016. 5. 27-29
3. 山口卓巳, 梅原 健, 山本暁生, 花家 薫, 太田雅史, 大高秀夫, 米澤晶弥, 中本裕之, 石川 朗: シート状ストレッチセンサを用いた嚥下機能の評価ツールの開発 (第二報) 頭頸部肢位による影響. 第53回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2016. 6. 9-11

4. 山口卓巳, 沖侑太郎, 金子弘美, 大平峰子, 石川 朗: 在宅COPD患者における気流閉塞とADLとの関連性. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016. 9. 9 - 11
5. 三栖翔吾, 酒井英樹, 沖侑太郎, 藤本由香里, 本田明広, 金子正博, 石川 朗, 小野 玲: COPD患者における労作時酸素飽和度低下が臨床指標の変化に及ぼす影響 - 1年間の縦断研究 -. 第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2016.10.10 - 11
6. 山口卓巳, 沖侑太郎, 藤本由香里, 山田莞爾, 酒井英樹, 金子弘美, 大平峰子, 石川 朗: 訪問看護導入後のCOPD患者におけるADL能力の経年的変化. 第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 横浜, 2016.10.10 - 11
7. Yamaguchi T, Oki Y, Fujimoto Y, Mitani Y, Watanabe Y, Iwata K, Takahashi K, Hanaie K, Yamada Y, Yamada K, Sawada T, Iwata Y, Yamamoto A, Umehara K, Murakami S, Sakai H, Kaneko H, Ohira M, Ishikawa A: Association Between In-Home Chronic Obstrutive Pulmonary Disease and The Assessment of Motor and Process Skills. 21st Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Bangkok, 2016.11.12 - 15

VII. 2. 17 臨床工学室

1. 林 博英, 石井利英, 沖中徳子, 豊岡大征, 梅津未来, 村上 圭, 和中慎治: タンクレスROシステム ミクニキカイ社製MP-TLの使用経験. 第61回日本透析医学会学術集会, 大阪, 2016. 6.10 - 12
2. 石井利英, 和中慎治, 沖中徳子, 豊岡大征, 林 博英, 梅津未来, 岩崎倫子, 原口英子, 吉野智亮, 高橋明広: 心房リード完全断裂症例における手動測定等の重要性を再認識させられた1症例. 第63回日本不整脈心電学会, 札幌, 2016. 7.17

VII. 2. 18 栄養管理室

1. 高原依里子: SGLT2阻害薬服用患者の栄養相談について. 第4回テーラーメイド糖尿病治療を考える会, 神戸, 2016. 7. 7
2. 赤沢尚美, 田中由起子, 松本和徳, 渡木綾子, 嶋田友里絵, 高橋亜里紗: 当院における食物アレルギーの管理栄養士の取り組み. 第33回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会, 仙台, 2016. 7.16

Ⅶ. 3 西神戸医療センター

Ⅶ. 3. 1 循環器内科

1. 相田健次, 太田匠悟, 吉開友羽子, 山根啓一郎, 吉野直樹, 木下美菜子, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志: 透析導入期にQT延長からtorsades de pointesを来したたこつほ心筋症の1例. 第121回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2016. 7. 16
2. 川戸充徳, 吉開友羽子, 相田健次, 山根啓一郎, 吉野直樹, 木下美菜子, 江尻純哉, 永澤浩志, 桑田陽一郎: 腎動脈ステントが著効したうっ血性心不全を繰り返す治療抵抗性高血圧の1例. 第121回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2016. 7. 16
3. 片山素子, 川戸充徳, 吉開友羽子, 相田健次, 山根啓一郎, 吉野直樹, 木下美菜子, 江尻純哉, 永澤浩志, 佐藤雄一: バセドウ病に合併した急性心膜炎の1例. 第213回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9. 24

Ⅶ. 3. 2 内分泌・糖尿内科

1. 太田匠悟, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: 膝性糖尿病に合併したCRP上昇が軽度であった股関節周囲膿瘍と腎盂腎炎の1例. 第53回糖尿病近畿地方会, 大阪, 2016. 11. 12
2. 西 清人, 佐藤雄一, 大野美紀子, 平岡義範, 西城さやか, 坂本二郎, 陳 博敏, 森田雄介, 松田真太郎, 北 徹, 稲垣暢也, 木村 剛, 西英一郎: ナルディライジンは膵β細胞機能, 分化の維持を介して糖代謝を制御する. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016. 11. 30

Ⅶ. 3. 3 腎臓内科

1. Oyama A, et al: Clinical outcomes of tonsillectomy and steroid pulse therapy for patients with IgA nephropathy. ERA-EDTA congress, Vienna, Austria, 2016. 5. 23
2. 大山敦嗣: rituximab投与を行ったステロイド依存性ネフローゼ症候群の成人例. 神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2016. 5. 29
3. 大山敦嗣, 他: 血液透析を導入した短腸症候群の2症例. 日本透析医学会学術総会, 大阪, 2016. 6. 10
4. 鳥越和雄, 他: 透析導入時, 不明熱精査の過程で診断に結びついた神経内分泌腫瘍の1例. 日本透析医学会学術総会, 大阪, 2016. 6. 11
5. 大山敦嗣, 他: 当センターにおけるIgA腎症に対する扁桃摘出+ステロイドパルス療法の成績. 日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016. 6. 17
6. 大山敦嗣: ADPKD疾患概要. 日経メディカル Online エリア座談会, 神戸, 2016. 7. 14
7. Oyama A, et al: Cardiac tamponade due to uremic pericarditis: a case report. Asia-Pacific Congress of Nephrology, Perth, Australia, 2016. 9. 19
8. 大山敦嗣, 他: 経過中2回の自然寛解と様々な臓器病変を認めたIgG4関連疾患(IgG4-RD)の1症例. 日本腎臓学会西部学術大会, 宮崎, 2016. 10. 14
9. 大山敦嗣: rituximabを使用した成人一次性ネフローゼ症候群の3症例. 兵庫県腎疾患治療懇話会

Ⅶ. 3. 4 神経内科

1. 奥田志保, 井元万紀子, 上野正夫, 一角朋子, 荻田典生, 高野 真: パーキンソン病患者のリハビリテーション効果と前頭葉機能との関係. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016. 5. 19
2. 井元万紀子, 奥田志保, 上野正夫, 野田昌宏, 楠 仁美, 高田俊之, 早川みち子, 富士井睦, 一角朋子, 荻田典生, 高野 真: 回復期リハビリテーション病棟において転院が必要となった脳卒中患者の検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016. 5. 19
3. 奥田志保, 井元万紀子, 一角朋子, 上野正夫, 高野 真: パーキンソン病患者のリハビリテーション効果と前頭葉機能との関係. 第53回リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2016. 6. 10
4. 井元万紀子, 奥田志保, 上野正夫, 野田昌宏, 楠 仁美, 高田俊之, 早川みち子, 富士井睦, 一角朋子, 高野 真: 回復期リハビリテーション病棟において転院が必要となった患者の検討. 第53回リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2016. 6. 10
5. 立岡 悠, 的場 俊, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 高野 真: 亜急性小脳失調症状・高次脳機能障害を呈した傍腫瘍性症候群の一例. 第107回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2017. 3. 5

Ⅶ. 3. 5 消化器内科

1. 井上貴裕, 瀧本郁久, 井関隼也, 濱田健輔, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 安達神奈, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 自己免疫性膵炎の検討. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016. 4. 21-23
2. 島田友香里, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 安達神奈, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院における妊娠中の緊急腹部超音波検査の現況. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016. 4. 21-23
3. 井関隼也, 瀧本郁久, 井上貴裕, 濱田健輔, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 安達神奈, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院における急性出血性直腸潰瘍の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5. 12-14
4. 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 安達神奈, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院で内視鏡的治療を行った直腸神経内分泌腫瘍20症例の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016. 5. 12-14
5. 井谷智尚: ランチョンセミナー 座長. 第15回日本PTEG研究会学術集会, 淡路, 2016. 5. 28
6. 井谷智尚, 瀧本郁久, 濱田健輔, 井関隼也: W-EDチューブ[®]を用いて経管栄養と消化管減圧を行ったPTEGの2症例. 第15回日本PTEG研究会学術集会, 淡路, 2016. 5. 28
7. 井谷智尚: セッション 8 座長. 第15回日本PTEG研究会学術集会, 淡路, 2016. 5. 28
8. 安達神奈, 三村 純, 井谷智尚, 林 幹人, 島田友香里: 癒痕合併胃癌症例に対するESD. 第96回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016. 6. 11
9. 濱田健輔, 原 和也, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純, 石原美佐, 橋本公夫: 当院で経験した転移性胃腫瘍の検討. 第96回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016. 6. 11
10. 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 安達神奈, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 胃癌術後の残胃に発生した4 cm大の柿胃石を内視鏡的に除去した一例. 第96回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016. 6. 11
11. 長田駿一, 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 濱田健輔, 井上貴裕, 井関隼也, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 若年に発症した早期十二指腸乳頭部癌の一例. 第96回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016. 6. 11
12. 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 濱田健輔, 井上貴裕, 井関隼也, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純, 川崎 悠, 松原康策, 石原美佐, 橋本公夫: アザチオプリンが奏効した小児発症腸管ベーチェット病の一例. 第96回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016. 6. 11
13. 安達神奈: 大腸Ⅳ 座長. 第96回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016. 6. 11
14. 井谷智尚: 一般演題15 座長. PEG・在宅医療研究会学術集会, 高松, 2016. 9. 3
15. 瀧本郁久, 猪股典子, 原 和也, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 終末期緩和医療におけるPTEG (Percutaneous Trans-Esophageal Gastro-tubing) ドレナージの有効性, 安全性に対する検討. 第105回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2016. 9. 17
16. 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純, 石原美佐, 橋本公夫: G-CSF産生膵腺扁平上皮癌の一例. 第105回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2016. 9. 17
17. 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純, 石原美佐, 橋本公夫: 十二指腸傍乳頭憩室穿孔による汎発性化膿性腹膜炎の一例. 第105回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2016. 9. 17
18. 原田樹幸, 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純, 石原美佐, 橋本公夫: 非B非C型肝炎細胞癌5切除例の検討. 第105回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2016. 9. 17
19. 井上貴裕, 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 井関隼也, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院における悪性胆道・十二指腸狭窄に対する経十二指腸ステント下ERCPの検討. 第24回日本消化器関連学会週間 (JDDW2016 KOBE), 神戸, 2016. 11. 3-6

20. 瀧本郁久, 原 和也, 猪股典子, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院における大腸憩室出血に対する治療についての検討. 第24回日本消化器関連学会週間 (JDDW2016 KOBE), 神戸, 2016.11.3-6
21. 井関隼也, 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: 痔瘻診断における内視鏡的逆行性胆管膵管造影下生検および細胞診の有用性の検討. 第24回日本消化器関連学会週間 (JDDW2016 KOBE), 神戸, 2016.11.3-6
22. 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純, 石原美佐, 橋本公夫: EUS-FNAによって診断した縦隔神経鞘腫の一例. 第97回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016.11.26
23. 瀧本郁久, 猪股典子, 原 和也, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純: EUS-FNAによって診断した原発性肺癌膵転移の一例. 第97回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016.11.26
24. 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純, 石原美佐, 橋本公夫: 当院における成人腸重積症5例の検討. 第97回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016.11.26
25. 濱田健輔, 瀧本郁久, 井関隼也, 井谷智尚: 当院におけるW-EDチューブの使用経験. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017.2.23-24
26. 井関隼也, 瀧本郁久, 濱田健輔, 尾鼻俊弥, 倉藤明子, 鷺尾麻紀子, 大音和重, 井谷智尚: 当院における経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) に伴う出血の検討. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017.2.23-24
27. 瀧本郁久, 井谷智尚, 井関隼也, 濱田健輔, 鷺尾麻紀子, 倉藤明子, 尾鼻俊弥, 大音和重: 当院における経皮経食道胃管挿入術 (PTEG) の治療成績. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017.2.23-24

VII. 3. 6 呼吸器内科

1. 中野貴之, 池田顕彦, 佐藤宏紀, 瀧本力也, 多田公英, 桜井稔泰: 当院における粟粒結核42例の臨床的検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016.4.10
2. 佐藤宏紀, 池田顕彦, 中野貴之, 瀧本力也, 桜井稔泰, 多田公英: 5年の経過観察後に診断したリポイド肺炎の1例. 第213回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.9.24
3. 中野貴之, 池田顕彦, 佐藤宏紀, 瀧本力也, 桜井稔泰, 多田公英, 大政 貢, 的場 俊, 石原美佐, 橋本公夫: 胸部異常陰影を契機に発見された髄膜炎合併肺クリプトコッカス症の一例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
4. 佐藤宏紀, 中野貴之, 瀧本力也, 桜井稔泰, 多田公英, 池田顕彦: IgA 欠損症に合併した肺クリプトコッカス症の1例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
5. 中野貴之, 池田顕彦, 佐藤宏紀, 瀧本力也, 桜井稔泰, 多田公英, 橋本公夫: 長期生存を得ている正岡4b期胸腺類基底細胞癌の一例. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19

VII. 3. 7 免疫血液内科

1. 田中康博: 比較的稀な悪性腫瘍に合併した皮膚筋炎の2例. 第60回日本リウマチ学会, 横浜, 2016.4.23
2. 池田賢司, 田中 淳, 田中康博, 橋本朗子, 新里偉咲: 著明な副水貯留で発症した全身性肥満細胞症の1例. 第213回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2016.9.24
3. 橋本朗子, 田中 淳, 田中康博, 新里偉咲: 腎機能障害患者に対する当院でのRd療法の安全性と有効性についての検討. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.13
4. 田中康博, 田中 淳, 橋本朗子, 新里偉咲: CD20陰性・CD30陽性で再発したB細胞リンパ腫の3例. 第78回日本血液学会総会, 横浜, 2016.10.14
5. 井元裕子, 田中康博, 山本 剛, 亀井克彦: 国内発症したHistoplasma感染症の1例. 第59回日本感染症学会中日本地方会, 沖縄, 2016.11.24
6. 白畑 航, 田中康博, 田中 淳, 橋本朗子, 新里偉咲: 皮膚筋炎の経過中に発症した慢性骨髄性白血病の1例. 第215回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2017.3.25

Ⅶ. 3. 8 緩和ケア内科

1. 安藤俊弘：婦人科開腹手術の術後疼痛と術後嘔気嘔吐における腹横筋膜面ブロックと腰方形筋ブロックの影響の違いの検討. 第63回日本麻酔科学会, 博多, 2016. 5. 26-28
2. 安藤俊弘：帯状疱疹後神経痛に対する胸部傍脊椎ブロック後に異常高血圧をきたした一症例. 第50回日本ペインクリニック学会, 横浜, 2016. 7. 7-9
3. 安藤俊弘：Failed back surgery syndromeとして治療されていた右下腿外側部痛の一因がBaker嚢腫であった一例. 第36回日本臨床麻酔学会, 高知, 2016.11. 3-5

Ⅶ. 3. 9 精神・神経科

1. 川添文子, 高宮静男, 石川慎一, 河村麻美子, 上月 遙, 唐木美喜子, 加地啓子, 大波由美恵, 細川愛美, 中里道子：小児期発症摂食障害の早期発見・早期支援の体制作りに向けての検討. 第57回日本児童青年精神医学会総会, 岡山, 2016.10.27

Ⅶ. 3. 10 小児科

1. 岩田あや, 永井貞之, 田坂佳資, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 仁紙宏之, 松原康策：当院における最近5年間の虐待症例の経験と対応の実状. 神戸市小児科医会学術講演会, 神戸, 2016. 4. 23
2. 田坂佳資, 松原康策, 仁紙宏之, 岩田あや, 堀 雅之, 磯目賢一, 川崎 悠, 永井貞之, 深谷 隆：Campylobacter jejuni/coli 菌血症 - 健常児3症例の報告 -. 第119回日本小児科学会学術集会, 札幌, 2016. 5. 13-15
3. 永井貞之, 田坂佳資, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆：ITP母体からの出生児における血小板低下の予測因子. 第119回日本小児科学会学術集会, 札幌, 2016. 5. 13-15
4. 小河孝輔, 磯目賢一, 田坂佳資, 永井貞之, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策：MSSAによる化膿性筋炎の1例. 第268回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2016. 5. 28
5. 岩田あや, 仁紙宏之：小児てんかんに対するスルチアム (STM) の効果. 第58回日本小児神経学会, 東京, 2016. 6. 3-5
6. 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 濱田健輔, 井上貴裕, 井関隼也, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林幹人, 井谷智尚, 三村 純, 川崎 悠, 松原康策, 石原美佐, 橋本公夫：アザチオプリンが奏功した小児発症腸管ペーチェット病の一例. 第96回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2016. 6. 11
7. 磯目賢一, 田坂佳資, 永井貞之, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策：2012年以降の当院からの救急搬送症例について. 神戸市小児科医会学術講演会, 神戸, 2016. 7. 9
8. 松原康策：2011-2015年侵襲性GBS感染症全国調査. 第9回京都NICU懇話会, 京都, 2016. 7. 9
9. 松原康策, 堀 雅之：食物アレルギー-食事の注意点とアレルギー症状出現時の対応-. 第1回神戸西地域小児アレルギー研修会, 神戸, 2016. 8. 27
10. 堀 雅之, 永井貞之, 田坂佳資, 川崎 悠, 磯目賢一, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策：喘息入院患児を対象にした, JPACを用いた実態調査とチーム医療~Undertreatment患児への喘息指導~. 第22回兵庫小児喘息・アレルギーカンファレンス, 神戸, 2016. 9. 10
11. 岩田あや, 永井貞之, 田坂佳資, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 仁紙宏之, 松原康策：自然解熱後にHLH様の病態が遷延したHPeV-3感染症新生児例. 第269回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2016. 9. 17
12. 登尾 薫, 上月愛瑠, 松原康策, 久下加奈栄, 戸田進也, 大石悠香, 山野愛美, 登尾里紀, 佐藤信浩, 川井順一：出生直後から肥大型心筋症を合併したヌーナン症候群の1例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
13. 堀 雅之, 永井貞之, 田坂佳資, 川崎 悠, 磯目賢一, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策：ビタミンK欠乏による頭蓋内出血を来した胆道閉鎖症の1例. 第3回神戸西地域小児疾患研究会, 神戸, 2016.10.29
14. 仁紙宏之, 永井貞之, 田坂佳資, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 松原康策：2013年から2016年の虫垂炎入院症例の検討. 第3回神戸西地域小児疾患研究会, 神戸, 2016.10.29
15. 松原康策, 保科 清, 近藤昌敏, 宮入 烈, 雪竹義也, 伊藤雄介, 南 希成, 源川隆一：早発型, 遅発型, 超遅発型GBS感染症-第6次全国調査2011-2015-. 第48回小児感染症学会, 岡山, 2016.11.19-20

16. 田坂佳資, 永井貞之, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策: 皮疹が髄膜刺激症状に遅れて出現した, 水痘帯状疱疹ウイルス再活性化による髄膜炎の健常小児2例. 第48回小児感染症学会, 岡山, 2016.11.19-20
17. 松原康策: 新生児におけるB群レンサ球菌 (GBS) 侵襲性感染症の近年の特徴. ラジオNIKKEI/インターネットライブ, 2017. 1.18
18. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 川崎 悠, 永井貞之, 堀 雅之, 松原康策, 正木太郎: 外陰部紅斑を呈したランゲルハンス細胞組織球症の1例. 第80回日本皮膚科学会東京支部学術集会, 横浜, 2017. 2.11-12
19. 堀 雅之, 川崎 悠, 岸本健治, 田坂佳資, 永井貞之, 磯目賢一, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策, 横井健人, 小阪嘉之: ランゲルハンス細胞組織球症にEBV-HLHを合併した女児例. 第270回日本小児科学会兵庫県地方会, 尼崎, 2017. 2.18
20. 松原康策: B群レンサ球菌感染症の現状と残されている課題. 第1回神戸小児感染症セミナー, 神戸, 2017. 2.25-26
21. 川崎 悠, 松原康策, 永井貞之, 仁紙宏之, 山本 剛: 臨床と検査室を繋ぐ症例検討会-4歳女児 高熱, 皮疹と意識障害-. 第1回神戸小児感染症セミナー, 神戸, 2017. 2.25-26
22. 田坂佳資, 松原康策, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 磯目賢一, 川崎 悠, 永井貞之: 熱性けいれんに合併した神経原性肺水腫の2例. 第30回近畿小児科学会, 大阪, 2017. 3.12
23. 永井貞之, 堀 雅之, 田坂佳資, 川崎 悠, 磯目賢一, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策: 遷延するAPTT延長を契機に判明した一過性ループスアンチコアグラント陽性の一例. 第30回近畿小児科学会, 大阪, 2017. 3.12
24. 堀 雅之, 永井貞之, 田坂佳資, 川崎 悠, 磯目賢一, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策: 生後二か月の頭蓋内出血~見落としがちな原因は?~. 第4回小児救急ケースカンファレンス, 神戸, 2017. 3.16

VII. 3. 11 皮膚科

1. 藤井翔太郎, 川上由香里, 正木太朗, 堀川達弥: インフルエンザ予防接種を契機に発症したと考えられた皮膚型結節性多発動脈炎. 第115回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016. 6. 3
2. 正木太朗, 藤井翔太郎, 川上由香里, 小猿恒志, 一角直行, 堀川達弥, 井手口周平, 中野貴之, 清水洋裕, 伊藤哲之: 肺病変と両精索腫脹を伴ったSweet症候群. 第115回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016. 6. 5
3. 藤井翔太郎, 川上由香里, 鷺尾 健, 堀川達弥, 正木太朗: メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の一例. 第109回近畿皮膚科集談会, 大阪, 2016. 7. 10
4. 藤井翔太郎, 川上由香里, 鷺尾 健, 堀川達弥, 正木太朗: 男性に生じたadenoma of nippleの1例. 第67回日本皮膚科学会中部支部学会, 大阪, 2016.10.25
5. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 一角直行, 堀川達弥, 正木太朗: 造影剤による多発性固定薬疹よりSJSに至った1例. 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 東京, 2016.11. 5
6. 藤井翔太郎, 鷺尾 健, 正木太朗: 前頸部に生じた顆粒細胞腫の1例. 第459回大阪地方会, 大阪, 2017. 2. 4
7. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 川崎 悠, 永井貞之, 松原康策, 正木太朗: 皮膚所見から発見したランゲルハンス細胞組織球症の1例. 第80回東京支部学会, 横浜, 2017. 2.11
8. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 正木太朗, 山本 剛: バラのトゲ刺創後に横紋筋融解症を伴う敗血症を来した1例. 第460回大阪地方会, 大阪, 2017. 3.11

VII. 3. 12 外科・消化器外科

1. 長田駿一, 伊丹 淳, 小寺澤康文, 堀江和正, 牧野健太, 吉田真也, 松浦正徒, 長井和之, 石井隆道, 姜貴嗣, 京極高久: Free airを認めた腸管気腫症の2例. 第199回近畿外科学会, 大阪, 2016. 5.14
2. 三村裕美, 伊丹 淳, 小寺澤康文, 堀江和正, 牧野健太, 吉田真也, 松浦正徒, 長井和之, 石井隆道, 姜貴嗣, 京極高久: 子宮全摘後の膈断端より小腸が脱出し絞扼性イレウスをきたした一例. 第199回近畿外科学会, 大阪, 2016. 5.14
3. 長井和之, 堀江和正, 牧野健太, 小寺澤康文, 吉田真也, 松浦正徒, 石井隆道, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 肝門部胆管狭窄を伴った黄色肉芽腫性胆囊炎の一例. 第28回日本肝胆膵外科学会, 大阪, 2016. 6. 4
4. 伊丹 淳: 当科での胸腔鏡下食道切除術を振り返って. 第70回日本食道学会, 東京, 2016. 7. 6

5. 長井和之, 堀江和正, 牧野健太, 小寺澤康文, 吉田真也, 松浦正徒, 石井隆道, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 高齢者に対する臍頭十二指腸切除術: 術後短期成績の検討. 第71回日本消化器外科学会総会, 徳島, 2016. 7. 15
6. 小寺澤康文, 吉田真也, 松浦正徒, 長井和之, 石井隆道, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: コレステロール結晶塞栓症による多発小腸穿孔の1例. 第71回日本消化器外科学会総会, 徳島, 2016. 7. 16
7. 宮田智弘, 伊丹 淳, 松浦正徒, 堀江和正, 牧野健太, 吉村弥緒, 長井和之, 姜 貴嗣, 京極高久, 石原美佐, 橋本公夫: 心窩部痛を契機に発見された胃原発滑膜肉腫の一例. 第105回消化器病学会近畿地方会, 大阪, 2016. 9. 17
8. 堀江和正: 専攻医2年目による腹腔鏡下S状結腸切除術. 第9回阪神外科3Kの会, 大阪, 2016. 10. 15
9. 松浦正徒, 牧野健太, 堀江和正, 吉村弥緒, 長井和之, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: pseudo-Meigs症候群を来した大腸癌同時性巨大卵巣転移の1例. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016. 10. 21
10. 松浦正徒, 牧野健太, 堀江和正, 吉村弥緒, 長井和之, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: ブリッジ型の約11cmの巨大有鉤性義歯誤飲による食道穿孔の1例. 第78回日本臨床外科学会, 東京, 2016. 11. 24
11. 堀江和正, 長井和之, 牧野健太, 吉村弥緒, 松浦正徒, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 胆嚢空腸吻合部に発生した小腸癌の1例. 第78回日本臨床外科学会, 東京, 2016. 11. 24
12. 牧野健太, 京極高久, 堀江和正, 吉村弥緒, 松浦正徒, 長井和之, 姜 貴嗣, 伊丹 淳: 腹腔鏡下大腸切除後の門脈・上腸間膜静脈血栓症に対し, 経カテーテル的血栓溶解療法が有効であった一例. 第78回日本臨床外科学会, 東京, 2016. 11. 25
13. 伊丹 淳, 堀江和正, 牧野健太, 吉村弥緒, 松浦正徒, 長井和之, 姜 貴嗣, 京極高久: 化学療法後の外科手術症例に学ぶ, 外科医が関わるべき化学療法. 第78回日本臨床外科学会, 東京, 2016. 11. 26
14. 長田駿一, 牧野健太, 堀江和正, 吉村弥緒, 松浦正徒, 長井和之, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 術前に診断しえたMeckel憩室茎捻転の1切除例. 第78回日本臨床外科学会, 東京, 2016. 11. 26
15. 伊丹 淳, 堀江和正, 牧野健太, 松浦正徒, 吉村弥緒, 長井和之, 姜 貴嗣, 京極高久: Articulating tissue sealersを用いた腹臥位胸腔鏡下食道切除術. 第29回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2016. 12. 9
16. 松浦正徒, 牧野健太, 堀江和正, 吉村弥緒, 長井和之, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: ラッププロテクターとE・Zアクセスを用いて施行した腹腔鏡下人工肛門閉鎖術の1例. 第29回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2016. 12. 9

VII. 3. 13 乳腺外科

1. 奥野敏隆: Comprehensive ultrasound diagnosisによる乳癌診療の効率化の試み. 第40回乳癌懇話会, 大阪, 2016. 4. 14
2. 奥野敏隆: 乳がん治療の第一歩-手術と術後放射線治療-. 神戸市立医療センター中央市民病院第9回がん市民フォーラム in KOBE, 神戸, 2016. 5. 21
3. 奥野敏隆, 大石悠香, 山野愛美, 登尾 薫, 内田浩也, 廣瀬圭子: 日常乳腺診療におけるComprehensive ultrasound diagnosisの検討. 日本超音波医学会第89回学術集会, 京都, 2016. 5. 28
4. 奥野敏隆: 乳房超音波カラーDプラ法. 第36回日本乳腺甲状腺超音波医学会, 京都, 2016. 5. 29
5. 堀江和正, 奥野敏隆, 京極高久, ほか: Pertuzumab + trastuzumab併用化学療法が奏効した局所進行HER2陽性乳癌の1例. 第24回日本乳癌学会学術集会, 東京, 2016. 6. 16
6. 奥野敏隆: 乳がんの最新治療. 健康ライフプラザ第507回土曜健康科学セミナー, 神戸, 2016. 6. 25
7. 上野由香里, 堀江和正, 奥野敏隆, ほか: 検診発見乳がんの臨床・病理学的検討. 第47回兵庫乳腺疾患研究会, 神戸, 2016. 7. 9
8. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 廣瀬圭子, 大石悠香, 真鍋美香, 登尾 薫, 内田浩也, 橋本公夫: 骨・軟骨化生を伴う乳癌の一例. 日本超音波医学会第43回関西地方学術集会, 大阪, 2016. 10. 29
9. 奥野敏隆: 乳房超音波の基本から最新技術まで-ガイドラインも含めて-. 日本超音波医学会第20回関西地方学術集会, 大阪, 2016. 10. 29
10. 奥野敏隆: 乳房画像診断におけるマルチモダリティ活用法. 日立製作所ヘルスケア ユーザーセミナー, 大阪, 2016. 11. 13
11. 森 彩, 奥野敏隆, 堀江和正, ほか: 副乳に発生したアポクリン癌の1切除例. 日本乳癌学会近畿地方会第14回学術集会, 大阪, 2016. 12. 4

Ⅶ. 3. 14 呼吸器外科

1. Fujimoto R, Omasa M, Miyata R, Ishikawa H, Aoki M: Chest wall deformity and tracheal deviation after pneumonectomy. 24th Asian Society for Cardiovascular and thoracic surgery, Taipei, 2016. 4 . 8
2. 宮田 亮, 大政 貢, 橋本公夫, 藤本 遼, 石川浩之, 青木 稔: 病理形態学的に間質性肺炎を背景に発生したと考えられる非小細胞肺癌症例の臨床学的・病理学的特徴の検討. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016. 5 .12
3. 藤本 遼, 大政 貢, 宮田 亮, 石川浩之, 青木 稔: 肺全摘後の経時的胸郭変形, 気管偏位の検討. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016. 5 .12
4. 石川浩之, 大政 貢, 藤本 遼, 宮田 亮, 青木 稔: 非小細胞肺癌手術症例における術前末梢血の好中球/リンパ球比と予後の検討. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016. 5 .12
5. 藤本 遼, 大政 貢, 宮田 亮, 石川浩之, 青木 稔: 肺葉切除術を施行した緊張性ノカルジア膿気胸の一例. 第59回関西胸部外科学会, 津, 2016. 6 .16
6. 藤本 遼, 大政 貢, 宮田 亮, 石川浩之, 青木 稔: 胸腔鏡補助下有茎筋弁縫着が有効であった間質性肺炎合併難治性気胸の一例. 第39回呼吸器内視鏡学会総会, 名古屋, 2016. 6 .23
7. 宮田 亮, 大政 貢, 藤本 遼, 石川浩之, 青木 稔: 再生酸化セルロースを用いた胸膜被覆術後に再発した嚢胞性肺疾患症例の検討. 第69回日本胸部外科学会総会, 名古屋, 2016. 6 .23
8. 石川浩之, 大政 貢, 藤本 遼, 青木 稔: 非小細胞肺癌手術例と末梢血好中球/リンパ球比との継時的変化の関連の検討. 京都大学呼吸器外科夏の研究会, 箱根, 2016. 7 .23
9. 宮田 亮, 大政 貢, 藤本 遼, 石川浩之, 青木 稔: ラメルテオンは術後譫妄の発症予防に忍容性がある. 第69回日本胸部外科学会総会, 岡山, 2016. 9 .28
10. Miyata R, Omasa M, Fujimoto R, Ishikawa H, Aoki M: Recurrences following staple line coverage after bullectomy for idiopathic spontaneous pneumothorax: the role of the role of oxidized regenerated cellulose sheet. 30th European Association for Cardio-Thoracic Surgery, Barcelona, 2016.10. 1
11. 藤本 遼, 大政 貢, 石川浩之, 青木 稔, 立岡 悠: 胸腔鏡下に摘出した腫瘍随伴症状を呈した中縦隔発生大細胞神経内分泌肺癌の1例. 第100回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 大阪, 2016.11.26
12. 藤本 遼, 大政 貢, 石川浩之, 青木 稔: 肺クリプトコッカス症に対する外科切除例の検討. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
13. 長田駿一, 藤本 遼, 石川浩之, 大政 貢, 青木 稔: 肺癌との鑑別を要した特発性および続発性肺内血腫の2例. 第57回日本肺癌学会総会, 福岡, 2016.12.18
14. 石川浩之, 大政 貢, 藤本 遼, 青木 稔: 非小細胞肺癌手術例と末梢血好中球/リンパ球比との継時的変化の関連の検討. 第57回日本肺癌学会総会, 福岡, 2016.12.18

Ⅶ. 3. 15 脳神経外科

1. 西原賢在, 宮田智弘, 山西俊介, 木戸口慶司, 太田耕平, 武田直也: 補助療法にベバシズマブを併用した膠芽腫再増大症例の手術経験. 第46回兵庫県脳神経外科医懇話会, 神戸, 2016. 7 .16
2. 山西俊介, 西原賢在, 木戸口慶司, 太田耕平, 武田直也, 橋本公夫: 脳室腹腔短絡術後に脳室周囲カテーテルに沿って頭部CTで低吸収域を認めた3例. 第72回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 豊中, 2016. 9 . 3
3. 西原賢在, 武田直也, 山西俊介, 木戸口慶司, 太田耕平, 水川 克, 田中一寛, 篠山隆司, 甲村英二: 前大脳動脈あるいは中大脳動脈に癒着がある悪性神経膠腫の手術テクニック. 一般社団法人日本脳神経外科学会第75回学術総会, 福岡, 2016. 9 .29
4. 篠山隆司, 長嶋宏明, 坂田純一, 前山昌博, 佐藤直子, 田中一寛, 西原賢在, 水川 克, 甲村英二: 髄液中CXCL13, IL-10による中枢神経原発悪性リンパ腫診断法－生検 困難症例での有用性－. 一般社団法人日本脳神経外科学会第75回学術総会, 福岡, 2016. 9 .30
5. 当院におけるアバスタチンの使用経験. 悪性神経膠腫カンファレンス, 神戸, 2016.12.15

Ⅶ. 3. 16 整形外科

1. 吉田圭二, 小林雅典, 小谷友弥, 朴 憲之, 関本善啓, 高矢憲一, 柴田弘太郎ロバーツ, 中井一成, 藤原正利, 松田秀一: 人工膝関節の緩みを放置した結果, 大腿骨コンポーネントが大きく陥入した症例. 第53回兵庫県膝関節研究会, 神戸, 2016. 9. 3
2. 柴田弘太郎ロバーツ: Arthroscopic Hip Surgery in the Elite Athlete: Comparison of female and Male Competitive Athletes. 第12回日本股関節鏡研究会, 浜松, 2016. 9. 3
3. Shibata K.R, Matsuda S, Safran MR: Arthroscopic Hip Surgery in the Elite Athlete: Comparison of female and Male Competitive Athletes. International Society for Hip Arthroscopy. Annual scientific meeting, San Francisco, 2016. 9. 15
4. 高矢憲一, 藤原正利, 吉田圭二, 関本善啓, 朴 憲之: 上腕骨近位端脱臼骨折(AO分類11-C3)に対して骨接合術を施行した2症例. 第127回中部整形外科災害外科学会, 松本, 2016.10. 1
5. 藤原正利, 吉田圭二, 柴田弘太郎ロバーツ, 関本善啓, 朴 憲之, 小林雅典, 小谷友弥: 骨盤輪, 寛骨臼骨折治療時の仮性動脈瘤についての考察. 第21回兵庫県股関節研究会, 神戸, 2017. 3. 11

Ⅶ. 3. 17 形成外科

1. 岡本貴子, 高須啓之, 木村倫子, 吉岡 剛, 野村 正, 橋川和信, 寺師浩人: 仙骨部慢性放射線性潰瘍の治療経験. 第59回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2016. 4. 13
2. 村井信幸, 小熊 孝, 西尾祐美, 新保慶輔, 野々村秀明: 二世代にわたる色素失調症(Bloch-Sulzberger症候群)の色素斑に対するレーザー治療. 第59回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2016. 4. 14
3. 村井信幸, 西尾優志, 小熊 孝: 釘打ち機(nail-gun)による下肢損傷の2例. 第113回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2016. 7. 10
4. 岡本貴子, 小熊 孝: 臍部に生じた異所性子宮内膜症の治療経験. 第114回関西形成外科学会学術集会, 高槻, 2016.11.26
5. 岡本貴子, 小熊 孝: 巨大インスリンボールの摘出例. 第115回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2017. 3. 6

Ⅶ. 3. 18 産婦人科

1. 荻野美智, 酒井理恵, 勝部美咲, 山下暢子, 登村信之, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人: 異所性妊娠を疑い, 組織学的に絨毛癌と判明した一例. 第68回日本産科婦人科学会総会, 東京, 2016. 4. 21-23
2. 山下暢子, 佐原裕美子, 勝部美咲, 荻野美智, 登村信之, 酒井理恵, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 帝王切開における産褥熱のリスク因子. 第68回日本産科婦人科学会総会, 東京, 2016. 4. 21-23
3. 登村信之, 佐原裕美子, 勝部美咲, 山下暢子, 荻野美智, 酒井理恵, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 術前検査にて診断し得なかった卵巣境界悪性腫瘍の3例. 第68回日本産科婦人科学会総会, 東京, 2016. 4. 21-23
4. 勝部美咲, 川北かおり, 山下暢子, 荻野美智, 登村信之, 酒井理恵, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人: ハイリスク帝王切開後の大量出血に対して遺伝子組み換え活性型第7因子を使用した1例. 第134回近畿産科婦人科学会総会, 京都, 2016. 6. 4-5
5. 勝部美咲, 村上暢子, 荻野美智, 登村信之, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人, 岩城 太, 長野紀也: 当院における, 周術期口腔機能管理の取り組み. 第90回兵庫県産科婦人科学会総会, 神戸, 2016. 7. 3
6. 登村信之, 佐原裕美子, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 卵管切除後に同側卵管間質部に妊娠した2例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 長崎, 2016. 9. 1-3
7. 登村信之, 勝部美咲, 村上暢子, 荻野美智, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人: 卵管切除後に同側卵管間質部に妊娠した2例. 明石&西神 Gynecology Conference, 神戸, 2016. 9. 16
8. 村上暢子, 近田恵里, 勝部美咲, 荻野美智, 登村信之, 奥杉ひとみ, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人: 子宮体癌の経過中に播種性骨髄腫瘍症を発症した1例. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016.10.20-22

9. 荻野美智, 川北かおり, 橋本公夫, 勝部美咲, 村上暢子, 登村信之, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人: DNA多型解析により, 非妊娠性卵巣絨毛癌と判明した1例. 第31回日本生殖免疫学会総会, 神戸, 2016.12.2-3

VII. 3. 19 泌尿器科

1. 金丸聰淳, 土橋一成, 江村正博, 清水洋祐, 伊藤哲之: 後腹膜鏡補助下尿管皮膚瘻造設術の経験. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016.4.23
2. 伊藤哲之, 土橋一成, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳: 去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)に対するDocetaxelの4週毎及び2週毎投与におけるTWiST評価研究【中間報告】. 日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016.4.24
3. 清水洋祐, 土橋一成, 江村正博, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 前立腺全摘除術における前立腺周囲脂肪組織内リンパ節転移の検討. 日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016.4.25
4. 伊藤哲之: 腎癌薬物療法の変遷. 平成28年度第一回がん教室, 神戸, 2016.5.23
5. 清水洋祐: HOLEP後に前立腺癌を発症した1例. 西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2016.6.16
6. 金丸聰淳: 片側水腎で発症し, 尿閉による腎後性腎不全に至ったBPHの1例. 第17回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2016.6.16
7. 木田和貴: 宮崎県における前立腺癌地域連携バスの状況. 西神戸オープンカンファレンス, 2016.6.16
8. 清水洋祐, 土橋一成, 江村正博, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 当院でのRARPの手技@西神戸医療センター. 第27回Clinical Urology, 神戸, 2016.6.18
9. 伊藤哲之: 膀胱がん 低侵襲治療, 尿路変向から再発予防まで. がんをよく知るための講座, 神戸, 2016.7.1
10. 木田和貴, 土橋一成, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 前立腺肥大症患者におけるアボルブからザルティアへの切り替え症例の検討. 明石・西神戸泌尿器科懇話会, 2016.10.12
11. 木田和貴, 土橋一成, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 当施設における腹腔鏡下尿管膀胱新吻合術(extravesical)の初期経験. 第30回日本泌尿器内視鏡学会総会, 大阪, 2016.11.17
12. 清水洋祐, 土橋一成, 江村正博, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 腹腔鏡下手術中に横隔膜損傷を認めた2症例の検討. 日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016.11.18
13. 伊藤哲之, 土橋一成, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳: ロボット支援前立腺全摘除術における屈曲可能な組織シーリング装置の効用. 泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016.11.19
14. 金丸聰淳, 土橋一成, 木田和貴, 清水洋祐, 伊藤哲之: 馬蹄腎に伴う巨大な腎結石に対する腹腔鏡下腎盂切石術の経験. 第68回西日本泌尿器科学会総会, 下関, 2016.11.25
15. 木田和貴, 土橋一成, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: HoLEP術後に発症し急速に進行した前立腺癌の1例. 新RCC研究会, 神戸, 2016.12.3
16. 伊藤哲之: 前立腺がんの診断と治療について. 第158回神戸西ブロック薬学研修会, 神戸, 2016.12.17
17. 木田和貴, 土橋一成, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 当施設における腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験. 第88回日本泌尿器科学会宮崎地方会, 宮崎, 2017.1.21
18. 清水洋祐: 当院でのロボット支援前立腺全摘除術. 西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2017.2.9
19. 金丸聰淳: 馬蹄腎に伴う巨大な腎結石に対する腹腔鏡下腎盂切石術の経験. 第18回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2017.2.9
20. 木田和貴: 転移性腎細胞癌に対するニボルマブの使用経験. 西神戸オープンカンファレンス, 神戸, 2017.2.9
21. 伊藤哲之, 土橋一成, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳: RAPNの初期経験. クリニカルウロロジー研究会, 神戸, 2017.3.11
22. 伊藤哲之: 腎癌多施設共同研究. 宮崎県泌尿器科医会, 2017.3.17

VII. 3. 20 眼科

1. 佐久間真里: 拡大鏡(ルーペ)の選び方. 第5回近畿眼科検査オープンカンファ, 2016.5.28
2. 佐久間真里: 動的視野測定の基本と実践. 第1回大阪眼科フォーラム, 大阪, 2016.6.11
3. 黒田佳陽, 吉田章子, 三河章子: トラベクレクトミー既往眼にトラベクトームを施行した2例. 第67京大眼科同窓会学会, 京都, 2016.10.30

4. 黒田佳陽, 吉田章子, 三河章子: トラバクレクトミー既往眼にトラバクトームを施行した2例. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016.11.4
5. 黒田佳陽, 吉田章子, 三河章子: トラバクレクトミー既往眼にトラバクトームを施行した2例. 第19回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2017.2.16
6. 黒田佳陽, 吉田章子, 三河章子: トラバクレクトミー既往眼にトラバクトームを施行した2例. 第36回神戸市立医療センター中央市民病院オープンカンファレンス, 神戸, 2017.3.11

VII. 3. 21 耳鼻いんこう科

1. 小嶋康隆, 雲井一夫, 井之口豪, 小松弘和, 藤田 岳, 澤田直樹, 甲藤麻衣, 橋本公夫: 耳下腺上皮筋上皮癌の2例. 第117回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 名古屋, 2016.5.18-21
2. 析谷奈央, 甲藤麻衣, 小嶋康隆, 雲井一夫: 当科における深頸部膿瘍17症例の検討. 第117回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 名古屋, 2016.5.18-21
3. 四宮 瞳, 伊藤洋平, 久保美恵, 米澤宏一郎, 大月直樹, 岩江信法, 稲垣 宏, 丹生健一: 粘表皮癌における*CRTC1-MAML2*キメラ遺伝子とアンフィレグリンの関連について. 第40回日本頭頸部癌学会, 埼玉, 2016.6.9-10
4. 山村悠汰, 小嶋康隆, 甲藤麻衣, 雲井一夫: 下垂体腫瘍術後の鼻性髄液漏に対して有茎鼻中隔粘膜弁による閉鎖が有効であった一例. 第183回耳鼻兵庫県地方部会・学術講演会, 神戸, 2016.7.9
5. 甲藤麻衣, 山村悠汰, 小嶋康隆, 雲井一夫: 舌生検で診断し得たヒストプラズマ性の1例. 第183回耳鼻兵庫県地方部会・学術講演会, 神戸, 2016.7.9
6. Shinomiya H, Ito Y, Kubo M, Otsuki N, Inagaki H, Nibu K: Amphiregulin in mucoepidermoid carcinoma of the major salivary gland. AHNS 9th International conference on head and neck cancer, Seattle, WA, 2016.7.16-20
7. 甲藤麻衣, 雲井一夫: 当科における急性喉頭蓋炎97例の検討. 第68回気管食道学会・学術講演会, 東京, 2016.11.16-17
8. 四宮 瞳, 伊藤洋平, 久保美恵, 大月直樹, 丹生健一, 稲垣 宏: 粘表皮癌における*CRTC1/3-MAML2*キメラ遺伝子とAmphiregulinの発現について. Expression of *CRTC1/3-MAML2* transcripts and amphiregulin in mucoepidermoid carcinoma. 第61回日本唾液腺学会, 東京, 2016.12.3
9. 雲井一夫: 耳鼻咽喉科領域における感染症. 垂水区医師会学術講演会, 垂水, 2017.1.12
10. 山村悠大: トルコ鞍部腫瘍術後の鼻性髄液漏に対して有茎鼻中隔粘膜弁による閉鎖が有効であった一例. 第17回(平成28年度)西神戸耳鼻いんこう科合同カンファレンス, 神戸, 2017.3.16
11. 甲藤麻衣: 舌生検で診断しえたヒストプラズマ症の1例. 第17回(平成28年度)西神戸耳鼻いんこう科合同カンファレンス, 神戸, 2017.3.16
12. 小嶋康隆: 小児先天性真珠腫. 第17回(平成28年度)西神戸耳鼻いんこう科合同カンファレンス, 神戸, 2017.3.16
13. 雲井一夫: ANCA関連血管炎性中耳炎について. 第17回(平成28年度)西神戸耳鼻いんこう科合同カンファレンス, 神戸, 2017.3.16
14. 白井裕美子, 前川圭子, 末廣 篤, 土師知行, 雲井一夫: 当科における小児声帯結節に対する音声治療. 第185回耳鼻兵庫県地方部会, 姫路, 2017.3.26
15. 原真貴子, 小嶋康隆, 雲井一夫, 甲藤麻衣, 山村悠大: 大腸癌肝転移を伴った上咽頭小細胞癌の治療経験. 第185回耳鼻兵庫県地方部会, 姫路, 2017.3.26

VII. 3. 22 麻酔科

1. 神岡 翼, 山川直子, 石川麻美子, 石川麻子: 重症筋無力症におけるデクスメトミジンの可能性: 頸椎後方固定術を含む3回の手術を受けた同一患者での使用経験. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016.9.3
2. 伊藤綾子, 田中 修, 伊地智和子, 飯島克博, 川瀬太助, 辰巳仁美: 周術期管理に難渋した周産期心筋症の1例. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016.9.3
3. 杉野太亮, 田中 修, 伊地智和子, 飯島克博, 樋口恭子, 廣瀬徹也: 難治性喘息として治療されていた再発性多発軟骨炎の一例. 日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会, 大阪, 2016.9.3

Ⅶ. 3. 23 歯科口腔外科

1. 勝部美咲, 竹内康人, 川北かおり, 佐原由美子, 近田恵理, 奥杉ひとみ, 登村信之, 荻野美智, 村上暢子, 岩城 太: 当院における, がん患者に対する周術期口腔機能管理の取り組みについて. 第90回兵庫県産婦人科学会, 神戸, 2016. 7. 3
2. Iwaki F, Amano H, Ohura K: Nicorandil inhibits osteoclast differentiation *in vitro*. 第58回歯科基礎医学会・学術大会, 札幌, 2016. 8. 26
3. 岩城 太, 片山麻梨子, 長野紀也: 薬剤関連性顎骨壊死 (MRONJ) 症例についての臨床的検討 - 治癒例と非治癒例との比較 -. 第25回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 神戸, 2016.10.15
4. 天野 均, 岩城 太, 犬伏正和, 大浦 清: ニコランジルの骨代謝における影響に関する研究. 第23回日本歯科医学会 総会, 福岡, 2016.10.21
5. 岩城 太: Nicorandil inhibits osteoclast differentiation *in vitro*. 大阪歯科大学学位調査会, 枚方, 2016.12. 8
6. 岩城 太: 周術期口腔機能管理の概要と実際 - 医科・歯科医療連携を目指して -. 須磨区医科歯科連携推進研修会, 神戸, 2017. 3. 2
7. 犬伏正和, 岩城 太, 天野 均, 大庭伸介, 大浦 清: ヘリオキサンチン誘導体の破骨細胞分化過程に及ぼす抑制効果. 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成事業 平成26年度シンポジウム, 東京, 2017. 3. 5

Ⅶ. 3. 24 放射線科

1. Hirabayashi S, Takenaka D, Sakuma T, Yairi T, Nakabayashi M, Hashimoto T, Nogami M, Maeda H, Yoshimura M, Adachi S: New WHO Classification: Thin-section CT Features of pT1 Invasive Adenocarcinomas of Lung. 第75回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2016. 4. 15
2. 矢部慎二, 吉川俊紀, 北村ゆり, 桑田陽一郎, 今中一文: 感染を合併した肺葉内肺分画症の1例. 第35回播淡画像診断研究会, 明石, 2016. 7. 14
3. 矢部慎二, 吉川俊紀, 北村ゆり, 桑田陽一郎, 今中一文, 伊藤哲之, 石原美佐, 橋本公夫: 上腕留置CVポートの皮下トンネル部に広範な石灰化をきたし, 抜去に苦労した一例. 第41回リザーバー研究会, 岡山, 2016. 8. 6
4. 矢部慎二, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 今中一文: リポイド肺炎の1例. 第36回播淡画像診断研究会, 明石, 2017. 2. 2

Ⅶ. 3. 25 薬剤部

1. 奥野昌宏, 久保嘉靖, 三浦恵理, 高柳信子, 中田 学: 当院における薬剤師専用診察室での薬剤師外来の運用とその評価~運用開始後1年間を通して~. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17-19
2. 高柳信子, 奥野昌宏, 中田 学: 薬剤師から医師への「処方提案方法」の変化に関する報告~当院における病棟薬剤師の配置前後3年間を通して~. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17-19
3. 久保嘉靖, 奥野昌宏, 三浦恵理, 高柳信子, 中田 学: 薬剤師外来における医師との緊密な連携にて分子標的薬が継続投与出来た1症例. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016. 9. 17-19
4. 井関隼也, 瀧本郁久, 濱田健輔, 尾鼻俊弥, 倉藤明子, 鷲尾麻紀子, 大音和重, 井谷智尚: 当院における経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) に伴う出血の検討. 第32回日本静脈経腸栄養学会, 岡山, 2017. 2. 23-24
5. 高柳信子, 久保嘉靖, 奥野昌宏, 中田 学: 癌関連の対話に焦点をあてた病棟薬剤師からの処方提案に関する報告~病棟薬剤師の配置前後3年間を通して~. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017, 新潟, 2017. 3. 18-19
6. 奥野昌宏, 高柳信子, 久保嘉靖, 中田 学: 病棟配置前・後における医薬品情報室からの癌関連情報提供の変化~約19年間, 定期発刊 (1029件) してきた医薬品情報室新聞を通して~. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017, 新潟, 2017. 3. 18-19

Ⅶ. 3. 26 臨床検査技術部

1. 登尾 薫, 相田健次, 酒井理恵, 吉川俊紀, 大石悠香, 山野愛美, 佐藤信浩, 川井順一, 吉開友羽子, 山根啓一郎, 吉野直樹, 木下美菜子, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志: 子宮動脈塞栓術中に発症した急性肺塞栓

- 症の一例. 日本心エコー図学会 第27回学術集会, 大阪, 2016. 4 .23
2. 池町真実, 山本 剛, 前田義久: *Roseomonas mucosa*によるカテーテル関連菌血症および化膿性脊椎炎の1症例. 第58回日本臨床検査医学学会近畿支部総会, 和歌山, 2016. 5 .14
 3. 山本 剛: 微生物検査の効率化と適正化を目指して～見逃してはいけない病原菌・省略できる微生物とその検査～塗抹検査. 第58回日本臨床検査医学学会近畿支部総会, 和歌山, 2016. 5 .14
 4. 池町真実, 国寶香織, 山本 剛: PCR法を用いた血液培養ボトルからの*mecA*遺伝子の検出. 第28回臨床微生物迅速診断研究会, 福岡, 2016. 7 . 2
 5. 山本 剛: 行列ができるスキルアップセミナー「微生物検査報告書の作成～より良い報告をするために～」塗抹検査. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016. 9 . 3
 6. 池町真実, 国寶香織, 山本 剛, 前田義久: イムノクロマト法による尿中レジオネラ抗原検出用試薬の検討. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016. 9 . 4
 7. 登尾 薫, 松原康策, 上月愛琉, 大石悠香, 山野愛美, 登尾里紀, 佐藤信浩, 川井順一: 出生直後より肥大型心筋症を合併したヌーナン症候群の一例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
 8. 内田浩也, 島田友香里, 戸田進也, 大石悠香, 真鍋美香, 広瀬圭子, 登尾 薫, 佐藤信浩, 東 貞之, 井谷智尚: 保存的治療を行った小腸アニサキス症の3例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
 9. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 廣瀬圭子, 大石悠香, 真鍋美香, 登尾 薫, 内田浩也, 橋本公夫: 骨・軟骨化生を伴う乳癌の1例. 日本超音波医学会 第43回関西地方会学術集会, 大阪, 2016.10.29
 10. 西田 稔, 清水理絵, 井上友佳里, 船越真依, 栗田千絵, 毛利衣子, 内田 瞳, 石原美佐, 橋本公夫: 長期経過を辿り再燃した腹膜高分化乳頭状中皮腫の1例. 第55回日本臨床細胞学会 秋期大会, 大分, 2016.11.19
 11. 山本 剛: ASPを成功させるために必要な微生物検査の使い道. 第59回日本感染症学会中日本学術集会, 沖縄, 2016.11.25
 12. 山本 剛: 古くて新しい感染症検査－Gram 染色でここまでできる－. 平成28年度日臨技中四国支部学会, 高知, 2016.11.26
 13. 池町真実, 坂口瑞季, 国寶香織, 山本 剛: PCR法を用いた血液培養ボトルからの*mecA*遺伝子の検出. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 長崎, 2017. 1 . 21
 14. 山本 剛, 池町真実, 坂口瑞季: 薬剤感受性による CPEのスクリーニングを考える. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 長崎, 2017. 1 . 21
 15. 坂口瑞季, 池町真実, 山本 剛: 肺炎球菌血清型12Fの地域内集団感染を疑う事例についての検討. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 長崎, 2017. 1 . 22
 16. 井上友佳里, 西田 稔, 内田 瞳, 清水理絵, 船越真依, 毛利衣子, 石原美佐, 橋本公夫: 気管支鏡検査を契機に発見された外因性リポイド肺炎の1例. 兵庫臨床細胞学会第33回総会, 神戸, 2017. 3 . 4
 17. 山本 剛, 池町真実, 坂口瑞季: パネルディスプレイ深在性真菌症の検査と診断 適応と限界「薬剤感受性試験の適応と限界」. 第4回日本医真菌学会関西支部「深在性真菌症研究会」, 神戸, 2017. 3 . 5

VII. 3. 27 放射線技術部

1. 中島正量, 吉原宣幸, 鈴木順一, 三浦雅夫: 当院におけるボリュームスキャンを用いた頭部外傷用CTプロトコルの検討. 第32回日本放射線技師会学術大会, 岐阜, 2016. 9 .16
2. 高橋朋子, 原田朋子, 三浦雅夫: トモシンセシス撮影時における平均乳腺線量 (AGD) 表示精度の検討. 第32回日本放射線技師会学術大会, 岐阜, 2016. 9 .18
3. 橋本強志, 吉田拓也, 森方大智, 林 亮太, 竹本幸志, 三浦雅夫: BodyArrayCoilを転用したチルト可能な頭部検査用コイルの性能評価. 第32回日本放射線技師会学術大会, 岐阜, 2016. 9 .18
4. 大政 亘, 遠矢瑠星, 横尾宏之, 井上修一, 三浦雅夫: 手根骨に対するvolume scanの基礎的検討. 平成28年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2016.11.12
5. 遠矢瑠星, 横尾宏之, 大政 亘, 井上修一, 三浦雅夫: 手根骨に対するvolume scanの臨床応用の検討. 平成28年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2016.11.12

Ⅶ. 3. 28 リハビリテーション技術部

1. 笥 哲也, 井上達朗, 秋武浩太, 荒井悠子, 永石真希, 川畑有紀, 西原賢在: 当院がんリハビリテーションチームによる多職種への啓蒙活動について. 第51回日本理学療法学会大会, 札幌, 2016. 5. 27
2. 井上達朗, 田中利明: 大腿骨近位部骨折患者の術後食事摂取量が入院中のADL改善に与える影響 - 神戸市内急性期病院による多施設共同研究 -. 第51回日本理学療法学会大会, 札幌, 2016. 5. 27
3. 垣内優芳: 自己排痰可能群と不可能群の最長発声持続時間比較. 第2回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会, 神戸, 2016. 6. 4
4. 井上達朗, 笥 哲也, 三坂 恵, 田中利明: リハビリテーションアウトカム改善に向けた神戸西地域における地域連携の改革. 第53回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2016. 6. 9
5. 田中利明, 井上達朗, 柳原千枝, 井谷智尚, 京極高久: 当院栄養サポートチーム回診の活動について - サルコペニアスクリーニングシステムの構築 -. 第8回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会, 神戸, 2016. 7. 2
6. 井上達朗, 田中利明, 島村康弘: 大腿骨近位部骨折患者の簡易式を用いて算出した骨格筋量指標が術後せん妄発症に与える影響. 第8回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会, 神戸, 2016. 7. 2
7. Inoue T, Tanaka T, Itani T: Insufficient Postoperative Dietary Intake for Total Energy Expenditure affects Worse Functional Recovery during Acute Phase with Hip Fracture - A multicenter prospective cohort study -. The European Society for Parenteral and Enteral Nutrition congress, Copenhagen, Denmark, 2016. 9. 17-21
8. 白井裕美子, 山本真子, 雲井一夫: 小児声帯結節症例に対する音声治療. 第61回日本音声言語医学会, 横浜, 2016. 11. 3
9. 山本真子, 白井裕美子, 雲井一夫: 般化に難渋した機能性発声障害症例. 第61回日本音声言語医学会, 横浜, 2016. 11. 3
10. 井上達朗, 島村康弘, 田中利明: 低栄養大腿骨近位部骨折患者における急性期でのADL改善を目的とした多職種での実践的栄養介入の試み. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017. 1. 13
11. 井上達朗, 笥 哲也, 三坂 恵, 垣内優芳, 渡 彩夏, 島村康弘, 田中利明: 大腿骨近位部骨折患者における機能回復を予測する栄養スクリーニングの検討 - MNA-SF, MUST, NRS-2002, GNRIの比較 -. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2. 13
12. 垣内優芳, 井上達朗, 高橋祐一, 児玉哲也, 真島雅代, 秋永美津江: 血糖値改善に難渋した維持期血液透析患者の運動療法経験. 第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, つくば, 2017. 2. 18
13. 白井裕美子, 雲井一夫: 当科における小児声帯結節に対する音声治療. 第185回耳鼻兵庫県地方部会(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 姫路, 2017. 3. 26

Ⅶ. 3. 29 臨床工学室

1. 石橋一馬: アドバンスレクチャー. 第13回呼吸ケアカンファレンス, 大阪, 2016. 4. 10
2. 加藤博史: 講演 卒業研究に対する指導. 大阪ハイテクノロジー専門学校, 大阪, 2016. 4. 13
3. 石橋一馬: 初めてでも安全・安心な人工呼吸療法. 第26回日本臨床工学会, 京都, 2016. 5. 14
4. 石橋一馬: 「未来に向けた臨床工学技士」育成のために今なすべきことはなにか. 第26回日本臨床工学会, 京都, 2016. 5. 14
5. 加藤博史: レクチャーフォーラム医工連携推進における臨床工学技士の未来, 現状と展望: 臨床工学技士の新たな可能性「現実性の高い医療ニーズを抽出し医療機器開発につなげる」. 第26回日本臨床工学会, 京都, 2016. 5. 14
6. 井上宗紀: 赤外線サーモグラフィにおける閉鎖式保育器の温度変化に対する評価. 第26回日本臨床工学会, 京都, 2016. 5. 15
7. 加藤博史: 「発掘未来の臨床工学技士」～認知度向上活動が臨床工学技士の明日を拓く～: CE志望者拡大PJ委員会の活動イントロダクション. 第26回日本臨床工学会, 京都, 2016. 5. 15
8. 加藤博史: みんなで取り組み福利厚生 各都道府県の活動から学ぶ: 兵庫県臨床工学技士会厚生委員会の活動. 第26回日本臨床工学会, 京都, 2016. 5. 15
9. 加藤博史: DPCデータ分析を用いたカテーテル治療の収益性について. 第26回日本臨床工学会, 京都, 2016. 5. 15

10. 中本皓太：地域包括ケアに向けた呼吸サポートチームの取り組みについて. 第26回日本臨床工学会, 京都, 2016. 5 .15
11. 藤井清孝：カテ室探訪～臨床工学技士の立場から～. 第15回播磨インターベンション研究会, 兵庫, 2016. 6 .10
12. 児玉哲也：透析医療における地域包括ケアシステム構築への取り組み. 第61回日本透析医学会, 大阪, 2016. 6 .11
13. 藤井清孝：生体情報モニタに着目した医療機器/電子カルテ連携推進が医療機器管理に与える影響. 第91回日本医療機器学会大会, 大阪, 2016. 6 .24
14. 藤井清孝：リスクマネジメントの実際. 平成28年度医療機器安全基礎講習会, 大阪, 2016. 7 . 3
15. 石橋一馬：NPPVについて最近の話題. 第38回日本呼吸療法医学会, 名古屋, 2016. 7 .16
16. 岸本和昌：Investigation of Integrating a Variety of Medical Devices Data into Medical Information System. 38th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC'16), Orlando, Florida, USA, 2016. 8 .19
17. 石橋一馬：ナースのための人工呼吸器管理～人工呼吸器の「怖い」を「得意」にする！～. エムハンクセミナー, 福岡, 2016. 8 .21
18. 中本皓太：アラーム対応及び電源管理. 在宅人工呼吸管理セミナー, 兵庫, 2016. 9 . 3
19. 加藤博史：病院の空気. ダイキンヘルスケアハッカソン, 大阪, 2016. 9 .16
20. 加藤博史：医療機器の真のニーズと具体化. カワサキテクノロジーサーチ勉強会バイオセンサー開発動向とヘルスケア医療機器開発ニーズ, 大阪, 2017. 9 .16
21. 加藤博史：医療ニーズの審査及び評価. 第1回佐賀県医工連携研究会, 佐賀, 2016. 9 .20
22. 石橋一馬：ナースのための人工呼吸器管理～人工呼吸器の「怖い」を「得意」にする！～. エムハンクセミナー, 大阪, 2016. 9 .22
23. 石橋一馬：肺保護戦略について. 第7回北海道呼吸療法セミナー, 札幌, 2016. 9 .25
24. 加藤博史：現実性の高い医療ニーズを抽出し, 医療機器開発につなげる. 第11回九州臨床工学会, 熊本, 2016.10. 1
25. 加藤博史：医療ニーズの具体化. 医工連携人材育成セミナー, 神戸, 2016.10. 8
26. 藤井清孝：医療機器のusabilityに関する現状調査. 第4回看護理工学会学術集会, 岩手, 2016.10.10
27. 石橋一馬：ナースのための人工呼吸器管理～人工呼吸器の「怖い」を「得意」にする！～. エムハンクセミナー, 名古屋, 2016.10.22
28. 井上宗紀：医療機器のusabilityに関する現状調査. 第45回日本医療福祉設備学会, 東京, 2016.10.26
29. 石橋一馬：人工呼吸器の適応と離脱. 第14回呼吸療法セミナー, 草津, 2016.11. 6
30. 石橋一馬：見やすいスライドの作り方. 生涯教育セミナー, 京都, 2016.11.10
31. 石橋一馬：NPPVの離脱においてハイフローセラピーが従来の高流量型酸素療法と比較して有用であった一例. 第4回ネーザルハイフロー勉強会, 大阪, 2016.11.12
32. 上崎勝生：消化器内視鏡スコープの修理内容の検討. 第23回近畿臨床工学会, 神戸, 2016.11.13
33. 児玉哲也：透析モニタリング機能の変革. 第23回近畿臨床工学会, 神戸, 2016.11.13
34. 岸本和昌：当院における手術支援業務の分析と業務体制の検討. 第23回近畿臨床工学会, 神戸, 2016.11.13
35. 藤井清孝：医療機器の使いやすさに関する現状調査. 第11回医療の質・安全学会学術集会, 千葉, 2016.11.19
36. 石橋一馬：ナースのための人工呼吸器管理～人工呼吸器の「怖い」を「得意」にする！～. エムハンクセミナー, 広島, 2016.11.20
37. 岸本和昌：電子カルテシステムにおける医療機器ログデータの取り扱いに関する検討. 第17回医療情報学会学術大会, 横浜, 2016.11.22
38. 石橋一馬：グラフィックモニタの読み方. 呼吸療法セミナー, 高知, 2016.12. 4
39. 中本皓太：地域包括ケアに向けた呼吸サポートチームの取り組みについて. 兵庫県プライマリ・ケア協議会研究集会, 神戸, 2016.12. 8
40. 石橋一馬：グラフィックモニタの読み方. 第7回呼吸療法セミナー, 大阪, 2016.12.18
41. 石橋一馬：ナースのための人工呼吸器管理～人工呼吸器の「怖い」を「得意」にする！～. エムハンクセミナー, 福岡, 2017. 1 . 8

42. 石橋一馬：人工呼吸器の安全管理. 第14回人工呼吸器安全管理セミナー, 京都, 2017. 1 .15
43. 石橋一馬：0 から始めるNPPV. エムハンクセミナー, 名古屋, 2017. 1 .21
44. 藤井清孝：医療機器におけるEMC (電磁環境両立性). 2016年度半導体EMCセミナー, 東京, 2017. 1 .27
45. 中本皓太：人工呼吸器のアラームと災害時の対処. 在宅人工呼吸管理セミナー, 神戸, 2017. 2 . 4
46. 藤井清孝：無線LANを利用した医療用テレメータにおけるトラブル事例. 平成28年度第4回医療電磁環境研究会, 東京, 2017. 2 .11
47. 石橋一馬：ナースのための人工呼吸器管理～人工呼吸器の「怖い」を「得意」にする！～. エムハンクセミナー, 東京, 2017. 2 .18
48. 加藤博史：DPCを用いた事例. 兵庫県臨床工学技士会厚生委員会オープンカンファレンス, 神戸, 2017. 2 .19
49. 石橋一馬：0 から始めるNPPV. エムハンクセミナー, 大阪, 2017. 2 .25
50. 加藤博史：終末期がん患者におけるNPPVとHFTの医療経済性の比較検討. 日本医療マネジメント学会 第11回兵庫支部学術大会, 明石, 2017. 2 .26
51. 石橋一馬：NPPVのあれこれ. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017. 3 . 9
52. 加藤博史：医療ニーズの発掘と抽出・経営分析・出口戦略としてのDPC分析・HFTとNPPVの医療経済性の比較. アトム本社講演, さいたま, 2017. 3 .16
53. 井上宗紀：大規模な医療機器メーカー変更がインシデント報告に与える影響. 第3回日本医療安全学会, 東京, 2017. 3 .19
54. 加藤博史：医療安全に資する医工連携製品の普及に向けた諸課題「日本臨床工学技士会における取り組み」. 第3回日本医療安全学会学術総会, 東京, 2017. 3 .19

VII. 3. 30 栄養管理室

1. 島村康弘, 石川慎一, 寺園沙矢香, 三浦陽子, 河村麻美子, 上月遥, 大谷恭平, 高宮静男：摂食障害治療における管理栄養士の役割に関する実態調査. 第29回神戸心身医学会, 神戸, 2016. 4 . 9
2. 島村康弘, 尾鼻俊弥, 井谷智尚, 京極高久：当院のICUにおける経腸栄養プロトコール導入について. 第8回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会, 神戸, 2016. 7 . 2
3. 島村康弘, 尾鼻俊弥, 寺園沙矢香, 井谷智尚, 京極高久：胃がん術後早期の体重減少に影響をおよぼす因子の検討. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2 .24
4. 尾鼻俊弥, 島村康弘, 井谷智尚, 京極高久：ICU入室患者における早期経腸栄養開始が長期生存に及ぼす影響. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017. 2 .24

Ⅶ. 4 先端医療センター

Ⅶ. 4. 1 総合腫瘍科

1. 南條成輝, 片上信之, 衣斐寛倫, 竹内伸二, 岡田保典, 矢野聖二: EGFR変異肺癌の髄膜癌腫症モデルでの中枢神経系における新たな耐性機序の克服. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016. 4. 10
2. Yoshida K, Inoue A, Sugawara S, Murakami S, Saka H, Morita S, Hak Kim H, Imamura F, Takeda K, Nakagawa K, Takeda M, Atagi S, Hasegawa Y, Yamamoto N, Katakami N, Yoshioka H, Iwamoto Y, Okamoto I, Seto T, Ohe Y: Overall survival (OS) of EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer (NSCLC) patients: Real-world treatment patterns of 1,660 Japanese patients (pts) . ASCO annual meeting, Chicago, 2016. 6. 3 - 7
3. Harada T, Katakami N, Murata T, Shinozaki K, Tsutsumi M, Yokota T, Arai M, Suzuki Y, Narabayashi M, Boku N: Phase 3 study to evaluate the efficacy and safety of naldemedine for the treatment of opioid-induced constipation (OIC) in cancer patients. ASCO annual meeting, Chicago, 2016. 6. 3 - 7
4. 奥田千幸, 藤田史郎, 南條成輝, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 片上信之: アレクチニブによる治療後に小細胞癌への転化がみられたALK陽性肺癌の1例. 第104回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2016. 7. 16
5. 秦 明登, 南條成輝, 奥田千幸, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之: 既治療非小細胞肺癌におけるT790M遺伝子/PD-L1発現確認目的の組織採取のための再生検. 第104回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2016. 7. 16
6. 黒郷 哲, 奥田千幸, 沖山 努, 片上信之: がんリハビリテーション実施時のECOG Performance Statusと筋力ならびに持久力との関連. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2016. 7. 28-30
7. Uchino J, Katakami N, Yokoyama T, Naito T, Kondo M, Yamada K, Kitajima H, Yoshimori K, Sato K, Takiguchi Y, Takayama K, Eguchi K: NO-7643/anamorelin for the treatment of patients with non-small cell lung cancer and cachexia: results from phase 2 study with Japanese patients. ESMO congress, Copenhagen, 2016.10. 7 - 11
8. Hata A, Katakami N, Nanjo S, et al: (PD-L1) expression and T790M status in EGFR-mutant non-small cell lung cancer (NSCLC) . ESMO congress, Copenhagen, 2016.10. 7 - 11
9. 露木 茂, 仙田典子, 康裕紀子, 山口絢音, 芳林浩史, 木川雄一郎, 片上信之, 加藤大典, 奥野敏隆, 稲本俊: 手術手袋を用いた圧迫療法による, アブラキサン起因性末梢神経障害への予防効果. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.10.20-22
10. 篠崎勝則, 片上信之, 原田敏之, 村田 透, 堤 雅一, 横田隆明, 新井政嗣, 鈴木ゆら, 朴 威和, 奈良林至: オピオイド誘発性の便秘症を有するがん患者を対象としたナルデメジンの第3相臨床試験. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.10.20-22
11. 秦 明登, 片上信之, 南條成輝, 奥田千幸, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎: 既治療非小細胞肺癌におけるT790M遺伝子/PD-L1発現確認目的の組織採取のための再生検. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.10.20-22
12. 秦 明登, 南條成輝, 吉積悠子, 奥田千幸, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 入江 慶, 岡田 裕, 岡田秀明, 片上信之: 癌性髄膜炎合併T790M陽性非小細胞肺癌に対するオシメルチニブのパイロットスタディ. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21
13. 秦 明登, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之: 既治療非小細胞肺癌におけるEGFR遺伝子変異の有無によるPD-L1蛋白発現の検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21
14. 秦 明登, 片上信之, 平田結喜緒: 獲得耐性後のEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるT790M耐性遺伝子とPD-L1蛋白発現の相関. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21
15. 金原正志, 吉岡弘鎮, 安宅信二, 西村尚志, 岩本康男, 金 永学, 富井啓介, 片上信之, 小牟田清, 西川正憲, 弦間昭彦, 山木健市, 河原正明, 興相陽平, 石田 直, 田宮朗裕, 山中竹春, 宮越千智, 三尾直士: 未治療進展型小細胞肺癌に対するアムルピシン/イリノテカン併用療法の無作為化試験 JMTO LC0801. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21
16. 真砂勝泰: KRAS遺伝子変異を有するNSCLC症例におけるmultiplex PCRベースの次世代シーケンサーによる遺伝子解析. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21
17. 秦 明登, 吉積悠子, 奥田千幸, 南條成輝, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之, 高山賢二, 今葎倍敏行: 非小細胞肺癌に対するシスプラチン+ペメトレキセド同時併用の化学放射線療法: 単一施設からの後ろ向き検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21

18. 秦 明登, 片上信之, 吉積悠子, 奥田千幸, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 今井幸弘: 既治療非小細胞肺癌におけるT790M遺伝子/PD-L1発現確認目的の組織採取のための再生検. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21
19. 秦 明登: EGFR変異は変異別に治療を考えるべきか? 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016.12.19-21
20. 秦 明登: 青年の主張.腫瘍内科医の立場から. 第105回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2017. 2 .25
21. 奥田千幸, 吉積悠子, 南條成輝, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之: 当院におけるオシメルニブの使用経験. 第105回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2017. 2 .25
22. 増田義雄, 今道富美子, 有賀典子, 藤富清美, 畠中可奈, 譜久嶺陽子, 真砂勝泰, 奥田千幸, 秦 明登, 加地玲子, 藤田史郎, 片上信之: EGFR-TKI投与時のRashマネジメントチーム事前・事後介入の評価. 第105回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2017. 2 .25
23. 吉積悠子, 奥田千幸, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之: 肺癌脳転移に対する定位放射線治療に伴う放射線脳壊死に抗VEGF抗体が奏功した症例. 第105回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2017. 2 .25

VII. 4. 2 血管再生科

1. 馬場理江, 那須浩二, 川本篤彦: 拡張期成分に着目したドプラ波形分類による下肢動脈病変の評価. 第57回日本脈管学会総会, 奈良, 2016.10.14
2. 川本篤彦: 心血管再生治療の臨床展開 (教育講演). 第37回日本アフェレシス学会学術大会, 横浜, 2016.11.27
3. 川本篤彦: CD34 陽性細胞による心血管・骨・肝臓の再生医療. メディカルジャパン2017企業化促進セミナー, 大阪, 2017. 2 .15
4. Kawamoto A: Clinical Development of GCSF-Mobilized CD34+ Cell Therapy in Patients with Critical Limb Ischemia. 3rd Taiwan-Japan Academic Research Organization Workshop, Fukuoka, 2017. 3 .13
5. Kawamoto A: PAD/CLI: Extent of the Problem, Current Management, Unmet Medical Need, and Novel Approach by CD34+ Cell Therapy. PAD/CLI Research and Emerging Therapies Workshop, Tokyo, 2017. 3 .28

VII. 4. 3 眼科

1. 栗本康夫: 人工多能性幹細胞による網膜色素上皮シート移植術 (シンポジウム). 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016. 4 . 7 -10
2. 栗本康夫: 神戸市立医療センター中央市民病院の指導体制 (専門医制度指導医講習会). 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016. 4 . 7 -10
3. 栗本康夫: 原発閉塞隅角緑内障の手術治療 (サブスペシャリティサンデー). 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016. 4 . 7 -10
4. 吉水 聡, 広瀬文隆, 宇山紘史, 高木誠二, 藤原雅史, 栗本康夫: 急性原発閉塞隅角眼と慢性原発閉塞隅角眼における前眼部構造の比較. 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016. 4 . 7 -10
5. 宮本紀子, 万代道子, 宇山紘史, 高木誠二, 西田明弘, 栗本康夫: 加齢黄斑変性におけるアフリベルセプト早期再発群の維持中のDry maculaに関する検討. 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016. 4 . 7 -10
6. 許沢尚弘, 藤原雅史, 吉水 聡, 宇山紘史, 高木誠二, 広瀬文隆, 栗本康夫: 毛様体扁平部挿入型バルバルト緑内障インプラント手術の術後中期成績. 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016. 4 . 7 -10
7. 高木誠二, 高橋政代, 平見恭彦, 藤原雅史, 富田剛司, 栗本康夫: 視力良好な定型網膜色素変性での網膜血管面積と中心窩無血管領域の評価. 第120回日本眼科学会, 仙台, 2016. 4 . 7 -10
8. 平見恭彦: 網膜変性疾患へのiPS細胞の臨床応用と今後の展開 (講演). 第21回眼科若手研究者の会, 仙台, 2016. 4 . 8
9. 宮本紀子: DME治療のアプローチ. H3DME研究会, 神戸, 2016. 4 .16
10. Kurimoto Y, Hirami Y, Fujihara M, Morinaga C, Yamamoto M, Fujita K, Sugita S, Mandai M, Takahashi M, Fujita K, Sugita S: Transplantation of autologous induced pluripotent stem cell-derived retinal pigment epithelium cell sheets for exudative age related macular degeneration: A pilot clinical study. ARVO 2016, Seattle in U.S.A, 2016. 5 . 1 - 5

11. Yamamoto S, Miyamoto N, Fujihara M, Ishida S, Kurimoto Y: Five-year outcomes of inner segment ellipsoid and external limiting membrane status after pars plana vitrectomy in diabetic macular edema. ARVO 2016, Seattle in U.S.A, 2016. 5. 1 - 5
12. 栗本康夫：原発閉塞隅角症/緑内障の治療戦略（講演）。第16回北海道眼科ワークショップ，札幌，2016. 5. 14
13. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植（特別講演）。第20回奈良県黄斑疾患研究会，奈良，2016. 5. 19
14. 平見恭彦：網膜変性疾患へのiPS細胞による再生医療（講演）。JRPS徳島支部第12回定期総会，徳島，2016. 5. 22
15. 宇山紘史：専門外来報告 神経眼科外来報告。第51回神戸市立医療センター中央市民病院 眼科臨床懇話会，神戸，2016. 6. 2
16. 吉水 聡：抗VEGF薬をswitching backしたPCVの一例。Hyogo Young Macula Club，神戸，2016. 6. 10
17. 山本庄吾：IVR併用PDTが有効だったRAPの一例。AMD治療におけるPDTの再評価，神戸，2016. 6. 11
18. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（招待講演）。第9回NMS EYE CONFERENCE，東京，2016. 6. 15
19. 藤原雅史：視野の基本～緑内障を添えて～（講演）。第4回眼科疾患勉強会，西宮，2016. 6. 15
20. 広瀬文隆：閉塞隅角緑内障を読み解く！（特別講演）。第7回関西Glaucoma Update，大阪，2016. 6. 25
21. 栗本康夫：PACS, PAC, PACG 病期別の白内障手術の適応（特別講演）。Regional Seminar of Cataract Surgery with TECNIS in北九州，北九州，2016. 7. 2
22. 石田和寛：糖尿病網膜症外来報告「DMEに対するアフリベルセプト硝子体注射の中期成績」。第52回神戸市立医療センター中央市民病院 眼科臨床懇話会，神戸，2016. 7. 7
23. 藤原雅史：難治性緑内障に対する毛様体扁平部挿入型バルベルト緑内障インプラントの術後中期成績（講演）。第17回緑内障手術研究会，大阪，2016. 7. 15
24. 平見恭彦：加齢黄斑変性に対するiPS細胞を用いた治療と今後の展望（特別講演）。第91回中央眼科集談会，東京，2016. 7. 15
25. 宮本紀子：AMDの長期管理，どないしてます？第21回兵庫県黄斑疾患研究会，神戸，2016. 7. 16
26. 松崎光博，西田明弘，宇山紘史，高木誠二，宮本紀子，万代道子，栗本康夫：抗VEGF薬で再発を繰り返した網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫への硝子体手術例。第33回日本眼循環学会，福岡，2016. 7. 22-23
27. 平見恭彦：再生医療とロービジョンケア（講演）。平成28年度低視覚者社会適応訓練講習会，大阪，2016. 7. 23
28. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（講演）。関西ニュービジネス協議会 夏のビッグイベント2016 講演会，神戸，2016. 8. 29
29. 平見恭彦：再生医療と視覚リハビリテーション（講演）。平成28年度大阪府北ブロック保健所難病講演会，吹田，2016. 9. 1
30. 広瀬文隆：みんなの閉塞隅角緑内障（特別講演）。滋賀県眼科セミナー，大津，2016. 9. 3
31. 広瀬文隆：閉塞隅角緑内障の診療ポイント（特別講演）。なにわ眼科勉強会，大阪，2016. 9. 6
32. 広瀬文隆：閉塞隅角の科学（シンポジウム）。第27回日本緑内障学会，横浜，2016. 9. 17-19
33. 吉水 聡，広瀬文隆，山本庄吾，宇山紘史，高木誠二，藤原雅史，栗本康夫：急性原発閉塞隅角眼と慢性原発閉塞隅角眼の水晶体再建術後の前眼部構造の比較。第27回日本緑内障学会，横浜，2016. 9. 17-19
34. Kurimoto Y: Surgical Treatment of Primary Angle Closure (Japan-Asia Symposium) . The 27th Meeting of Japan Glaucoma Society, Yokohama, 2016. 9. 17-19
35. Takagi S, Kurimoto Y, Hirami Y, Takahashi M, Tomita G, Fujihara M, Yamamoto S: Fundus autofluorescence and optical coherence tomography in pigmented paravenous retinochoroidal atrophy. XVII International symposium on retinal degeneration RD2016, Kyoto, 2016. 9. 19-24
36. Kurimoto Y: Transplantation of autologous iPS cell-derived RPE cell sheets for exudative AMD: A Pilot clinical study. XXII Biennial meeting of the international society for eye research, Tokyo, 2016. 9. 25-29
37. 平見恭彦：再生医療と視覚リハビリテーション（講演）。平成28年度姫路市難病相談会，姫路，2016. 10. 1
38. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植（特別講演）。第60回眼科フォーラムプログラム，松山，2016. 10. 2

39. 平見恭彦：再生医療と視覚リハビリテーション（講演）．第11回JRPS網脈絡膜変性フォーラム，伊勢，2016.10.2
40. 藤原雅史：はじめての緑内障（講演）．平成28年目の愛護デー，神戸，2016.10.2
41. 広瀬文隆：水晶体摘出術後の閉塞隅角緑内障．第14回兵庫県眼科オープンカンファレンス，神戸，2016.10.8
42. 平見恭彦：加齢黄斑変性に対するiPS細胞を用いた再生医療（講演）．平成28年度近眼連主催眼科スタッフ教育講座，大阪，2016.10.15
43. Yoshimizu S, Miyamoto N, Fujihara M, Ishida K, Kurimoto Y, Yoshimizu S, Miyamoto N, Fujihara M, Ishida K, Kurimoto Y: Association of vessel flow density and inner segment ellipsoid defect with visual acuity in diabetic macular edema. AAO2016, Chicago in U.S.A, 2016.10.15-18
44. 広瀬文隆：閉塞隅角緑内障を解き明かす！（特別講演）．兵庫区眼科懇話会，神戸，2016.10.20
45. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（特別講演）．熊本眼疾患フォーラム，熊本，2016.10.21
46. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（特別講演）．第26回東邦大学医療センター大橋病院と渋谷区・世田谷区・目黒区眼科医会合同勉強会，東京，2016.10.22
47. 栗本康夫，酒井 寛，山本哲也：原発閉塞隅角緑内障の治療戦略－用語の基本から困った症例の対応まで－（インストラクションコース）．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11.3-6
48. 大家義則，奥村直毅，羽藤 晋，平見恭彦：再生医療ナナメヨミ2016（インストラクションコース）．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11.3-6
49. 中村隆宏，稲富 勉，脇舛耕一，平見恭彦，藤原雅史，高木誠二，栗本康夫，外園千恵，木下 茂：虹彩縫合による瞳孔形成術を併用したDSAEKの治療成績．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11.3-6
50. 平見恭彦，荒井優気，高橋政代，栗本康夫：遺伝カウンセリングにより疾患の遺伝性への認識が変化した網膜色素変性の一例．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11.3-6
51. 吉水 聡，宮本紀子，栗本康夫：ポリープ状脈絡膜血管症破裂後著明な出血のため前房の完全消失，眼圧上昇に至った一例．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11.3-6
52. 許沢尚弘，広瀬文隆，栗本康夫：眼球突出と兎眼を伴う外傷性眼内炎に対して眼球内容除去術を施行した1例．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11.3-6
53. 高木誠二，平見恭彦，高橋政代，山本庄吾，藤原雅史，富田剛司，栗本康夫：色素性傍静脈網脈絡膜萎縮のFAFとOCT所見の特徴．第70回日本臨床眼科学会，京都，2016.11.3-6
54. 広瀬文隆：閉塞隅角緑内障を解き明かす！（特別講演）．神戸市眼科医会西区講演会，神戸，2016.11.10
55. 栗本康夫：加齢黄斑変性に対するiPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植（講演）．第19回浜松眼科フォーラム，浜松，2016.11.11
56. Miyamoto N, Mandai M, Oishi A, Nakai S, Honda S, Hirashima T, Oh H, Matsumoto Y, Uenishi M, Kurimoto Y: Long-term results of verteporfin PDT or ranibizumab for PCV in LAPTOP study（優秀演題シンポジウム）．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12.2-4
57. 高木誠二，万代道子，宮本紀子，西田明弘，平見恭彦，宇山紘史，山本 翠，池見 洋，高橋政代，富田剛司，栗本康夫：抗VEGF治療中の加齢黄斑変性において矯正視力が不良となる症例の特徴と背景．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12.2-4
58. 栗本康夫，平見恭彦，藤原雅史，森永千佳子，山本 翠，藤田佳奈子，伊都知子，杉田 直，万代道子，高橋政代：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮シート移植：2年の臨床経過．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12.2-4
59. 西田明弘，宇山紘史，高木誠二，宮本紀子，万代道子，栗本康夫：網膜静脈分枝閉塞症に対するラニビズマブからアフリバルセプトへの切り替え例．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12.2-4
60. 石田和寛，宮本紀子，藤原雅史，宇山紘史，山本庄吾，吉水 聡，松崎光博，許沢尚弘，栗本康夫：糖尿病黄斑浮腫に対するアフリバルセプト硝子体注射の治療成績．第55回日本網膜硝子体学会，東京，2016.12.2-4
61. 西田明弘：前眼部新生血管を伴うCRVOに対する抗VEGF薬とPRPの併用療法．黄斑疾患フォーラムin Kobe，神戸，2016.12.17
62. 平見恭彦：網膜疾患へのiPS細胞の臨床応用（講演）．静岡県中部医学会学術講演会，静岡，2017.1.14
63. 栗本康夫：加齢黄斑変性に対するiPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植（特別講演）．第36回とやま眼科学術講演会，富山，2017.1.21

64. 許沢尚弘, 広瀬文隆, 松崎光博, 宇山紘史, 藤原雅史, 栗本康夫: 硝子体切除で改善しない悪性緑内障に対して周辺虹彩切除と水晶体嚢切除を施行した2例. 第40回日本眼科手術学会, 東京, 2017. 1. 27-29
65. 山本庄吾, 宮本紀子, 許沢尚弘, 中村隆宏, 栗本康夫: 眼球破裂の診断に前眼部光干渉断層計が有用であった一例. 第40回日本眼科手術学会, 東京, 2017. 1. 27-29
66. Kurimoto Y: iPS in the retina (Invited, Symposium). APAO2017, Singapore, 2017. 3. 1-5
67. 栗本康夫, 平見恭彦, 高木誠二, 小田稔彦, 坂口裕和, 岡田 潔, 高須直子, 土肥浩美, 小出直史, 森永千佳子, 北島裕幸, 杉田 直, 万代道子, 西田幸二, 山中伸弥, 高橋政代: 加齢黄斑変性に対する他家人工多能性幹細胞由来網膜色素上皮細胞移植の臨床研究実施計画. 第16回日本再生医療学会総会, 仙台, 2017. 3. 7-9
68. 広瀬文隆: 前眼部OCTでわかる閉塞隅角緑内障 (特別講演). 第279回広島眼科症例検討会, 広島, 2017. 3. 9
69. 中村隆宏, 平見恭彦, 藤原雅史, 高木誠二, 外園千恵, 栗本康夫: 先端医療センター病院眼科におけるDSAEKの治療成績. 第36回神戸市立医療センター中央市民病院眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2017. 3. 11
70. 吉水 聡, 広瀬文隆, 宇山紘史, 高木誠二, 藤原雅史, 栗本康夫: 急性原発閉塞隅角眼と慢性原発閉塞隅角眼における前眼部構造の比較. 第36回神戸市立医療センター中央市民病院眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2017. 3. 11
71. 広瀬文隆: 閉塞隅角緑内障を解き明かす! (特別講演). 宝塚市眼科医会学術講演会, 宝塚, 2017. 3. 25

VII. 4. 4 耳鼻咽喉科

1. 原田博之, 篠原尚吾, 末廣 篤, 岸本逸平, 林 一樹, 内藤 泰: 胸腹部原発癌の頸部リンパ節転移に対する頸部郭清術についての検討. 第28回京都耳鼻咽喉科研究発表会, 京都, 2016. 4. 2
2. 篠原尚吾, 原田博之, 末廣 篤, 岸本逸平, 林 一樹, 内藤 泰: 全身麻酔のリスク (ASA-PS) は甲状腺全摘術後の全生存率に影響するか? 第28回京都耳鼻咽喉科研究発表会, 京都, 2016. 4. 2
3. 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之, 林 一樹, 山本亮介, 桑田文彦, 岸本逸平, 藤原敬三, 内藤 泰: 全身麻酔のリスクは, 甲状腺全摘術後の生命予後に影響するか? 第117回日本耳鼻咽喉科学会, 名古屋, 2016. 5. 18-21
4. 山本亮介, 内藤 泰, 林 一樹, 桑田文彦, 原田博之, 岸本逸平, 末廣 篤, 藤原敬三, 篠原尚吾: 小児両側人工内耳の成績. 第117回日本耳鼻咽喉科学会, 名古屋, 2016. 5. 18-21
5. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 末廣 篤, 岸本逸平, 原田博之, 桑田文彦, 山本亮介: 反復性髄膜炎を内耳窓閉鎖術により制御しえたcommon cavity奇形の1例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23-24
6. 桑田文彦, 篠原尚吾, 山本亮介, 原田博之, 岸本逸平, 末廣 篤, 藤原敬三, 内藤 泰: 上顎洞内に生じたコレステリン肉芽腫症例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23-24
7. 山本亮介, 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之, 桑田文彦, 岸本逸平, 藤原敬三, 内藤 泰: 著明な高Ca血症により術前から拡大切除を計画した副甲状腺癌例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23-24
8. 松永麻美, 大田耕造, 牛呂幸司, 道田哲彦, 脇坂仁美, 中村 一: 当院における鼻副鼻腔乳頭腫の検討: exophytic papillomaに合併したcarcinoma in situ. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23-24
9. 牛呂幸司, 藤本康子, 道田哲彦, 松永麻美, 脇坂仁美, 大田耕造, 中村 一: 甲状腺未分化癌との鑑別に苦慮した滑膜肉腫の1例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 鹿児島, 2016. 6. 23-24
10. 藤原敬三: 先天性難聴の遺伝子検査 (講演). 神戸地区耳鼻咽喉科医会連絡会, 学術講演会・臨床セミナー, 神戸, 2016. 6. 25
11. 内藤 泰: 小児人工内耳-大いなる成功と最近のトピックス (ランチョンセミナー). 第11回日本小児耳鼻咽喉科学会, 徳島, 2016. 6. 30-7. 1
12. 藤井直子, 諸頭三郎, 大西晶子, 岸本逸平, 内藤 泰: 残存聴力活用型人工内耳 (EAS: Electric acoustic stimulation) の小児例5例の術後成績. 第11回日本小児耳鼻咽喉科学会, 徳島, 2016. 6. 30-7. 1
13. 道田哲彦, 内藤 泰, 篠原尚吾, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 林 一樹, 山本亮介, 齊田浩二: 小児両側同時人工内耳埋め込み術の経験. 第183回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2016. 7. 9
14. 齊田浩二, 篠原尚吾, 原田博之, 道田哲彦, 竹林慎治, 林 一樹, 山本亮介, 藤原敬三, 内藤 泰: 急性喉頭蓋炎様の症状を示した副甲状腺腫瘍出血の1例. 第183回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2016. 7. 9

15. 川瀬哲明, 内藤 泰:「耳鳴診療ガイドライン作成にむけて」標準耳鳴検査法－その記載法について－ (パネルディスカッション, パネリスト). 日本聴覚医学会, 第2回耳鳴難聴研究会, 東京, 2016. 7. 9
16. Harada H, Shinohara S, Suehiro A, Fujiwara K, Kishimoto I, Kuwata F, Hayashi K, Yamamoto R, Naito Y: Neck dissection for cervical lymph node metastases from primaries not in the head and neck. AHNS 9th International Conference on Head and Neck Cancer, Seattle, U.S.A, 2016. 7. 16-20
17. Naito Y, Kishimoto I, Moroto S, Sasaki I, Fujiwara K: Electrically evoked brainstem responses of prelingually deafened children who underwent sequential bilateral cochlear implantation. 2016 Annual CORLAS meeting, Bordeaux, France, 2016. 8. 28-31
18. 内藤 泰: 耳科手術から見た側頭骨画像所見読影のポイント (日耳鼻領域講習講演). 富山県呉西地区耳症例研究会, 高岡, 2016. 9. 15
19. Harada H, Shinohara S, Suehiro A, Fujiwara K, Kishimoto I, Hayashi K, Yamamoto R, Naito Y: ND for metastases from primaries that are not in the head and neck. American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Annual Meeting (AAO-HNSF 2016), San Diego, U.S.A, 2016. 9. 18-21
20. 道田哲彦, 内藤 泰, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之: 小児両側同時人工内耳埋め込み術－自験例の検討. 第26回日本耳科学会, 松本, 2016.10. 5-8
21. 内藤 泰, Claude J: 人工内耳における低侵襲手術－術者の視点から (ランチョンセミナー). 第26回日本耳科学会, 松本, 2016.10. 5-8
22. 藤原敬三, 内藤 泰, 竹林慎治, 原田博之, 道田哲彦: 中耳疾患の診療において撮影されたMRI拡散強調画像の検討 (テーマセッション). 第26回日本耳科学会, 松本, 2016.10. 5-8
23. Naito Y: Two cases with novel vestibular aqueduct anomalies who underwent successful cochlear implantation. New trends in hearing implant sciences 2016－Hakuba meeting in OKUSHIGA－, 長野県下高井郡, 2016.10. 8-10
24. 道田哲彦, 藤原敬三, 内藤 泰: 音響性聴器障害の非対称性に関する検討. 第61回日本聴覚医学会, 盛岡, 2016.10.19-21
25. 大西晶子, 諸頭三郎, 前川圭子, 山崎朋子, 玉谷輪子, 藤井直子, 藤原敬三, 内藤 泰: データロギング機能を用いた人工内耳装用小児の装用状況と音環境の検討. 第61回日本聴覚医学会, 盛岡, 2016.10.19-21
26. 藤原敬三, 内藤 泰, 宇佐美真一, 道田哲彦: 当科で施行した先天性難聴の遺伝学的検査に関する検討. 第61回日本聴覚医学会, 盛岡, 2016.10.19-21
27. 竹林慎治, 齊田浩二, 山本亮介, 林 一樹, 道田哲彦, 原田博之, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 左総頸動脈蛇行症を伴った甲状腺手術の1例. 第49回日本甲状腺外科学会, 甲府, 2016.10.27-28
28. 齊田浩二, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 篠原尚吾, 内藤 泰: 中耳腺腫の1例. 第184回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2016.11.27
29. 山本亮介, 篠原尚吾, 齊田浩二, 林 一樹, 道田哲彦, 原田博之, 竹林慎治, 藤原敬三, 内藤 泰: 腫瘍随伴症候群と思われる多関節炎を合併した甲状腺乳頭癌症例. 第184回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2016.11.27
30. 内藤 泰: これからの難聴小児の医療について. 神戸市立総合療育センター難聴児通園施設難聴児クラス保護者勉強会, 神戸, 2016.12. 2
31. 道田哲彦: 小児両側同時人工内耳手術の経験. 第29回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2016.12. 3
32. 内藤 泰: 神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・平成28年の現況. 第13回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2016.12. 8
33. 藤原敬三, 竹林慎治, 末廣 篤, 原田博之, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 齊田浩二: ご紹介頂いた症例呈示, 治療方針, 経過報告, 診療の話題. 第13回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2016.12. 8
34. 藤原敬三: 次世代シーケンス解析によりOTOF遺伝子変異が同定された1例. 第2回次世代シーケンス解析講習会, 松本, 2017. 1. 21-22
35. 内藤 泰: 髄膜炎・内耳奇形 (講演・シンポジウム). 第27回日本頭頸部外科学会総会, 東京, 2017. 2. 2-3
36. 内藤 泰: 言語習得前失聴小児の言語到達における視聴覚統合の脳機能 (講演). 第23回東大・慶大ジョイントカンファレンス, 東京, 2017. 2. 9

37. 道田哲彦, 篠原尚吾, 内藤 泰, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 林 一樹, 山本亮介, 齊田浩二: 膜様部から気管内に進展し喉頭全摘を要した甲状腺乳頭癌の一例. 第4回上方内分泌外科学研究会, 大阪, 2017. 3. 3
38. 内藤 泰: 人工内耳と難聴の医療について (講演). 第17回人工内耳と難聴に関する勉強会 (人工内耳親の会), 神戸, 2017. 3. 4
39. Michida T, Shinohara S, Naito Y, Fujiwara K, Takebayashi S, Harada H, Hayashi K, Yamamoto R, Saida K, Imai Y: Poorly differentiated thyroid carcinoma: a retrospective study. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3. 23-25
40. Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Harada H, Michida T, Yamamoto R, Hayashi K, Saida H, Usami Y, Uehara K, Imai Y: P16 positive/ p53 negative oropharyngeal squamous cell carcinoma - Response to chemotherapy, survival and multiple malignancy incidence. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3. 23-25
41. Shinohara S, Funabiki K, Nakano M, Goto T, Kataoka Y, Takebayashi S, Saida K, Hayashi K, Yamamoto R, Michida T, Harada H, Fujiwara K, Imai Y, Naito Y: Optical biopsy in head and neck cancers using fiber-bundle based micro-endoscope. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3. 23-25
42. Takebayashi S, Shinohara S, Saida K, Hayashi K, Yamamoto R, Michida T, Harada H, Fujiwara K, Naito Y: A retrospective study on adenoid cystic carcinoma in the head and neck. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3. 23-25
43. Hayashi K, Shinohara S, Naito Y, Fujiwara K, Takebayashi S, Harada H, Michida T, Yamamoto R, Saida K: Clynical analysis of cervical metastatic carcinoma of unknown primary. 5th Congress of asian society of head and neck oncology (ASHNO), Bali, 2017. 3. 23-25

VII. 4. 5 放射線治療科

1. 佐藤悠城, 植木一仁, 藤本大智, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 加藤了資, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 小久保雅樹, 富井啓介: 間質性肺炎合併肺癌に対する放射線療法的安全性についての検討. 第56回日本呼吸器学会, 京都, 2016. 4. 8
2. Iizuka Y, Ueki N, Matsuo Y, Ishihara Y, Takayama K, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: 3D and 4D dose calculations for tumour-tracking irradiation of lung/liver tumours using gimbaled linac. 35th European Society for Radiation Oncology, Turin, Italy, 2016. 4. 30
3. Hanazawa H, Matsuo Y, Nakamura M, Tanabe H, Takamiya M, Iizuka Y, Shibuya K, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Correlation and directional stability of principal component of respiratory motion in the lung. 35th European Society for Radiation Oncology, Turin, Italy, 2016. 4. 30
4. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 末廣 篤, 原田博之: 頭頸部原発悪性腫瘍に対する放射線治療の予測困難な中絶. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6. 9
5. 原田博之, 篠原尚吾, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 竹信俊彦, 末廣 篤, 岸本逸平, 林 一樹: 当科における根治照射後の放射線性骨髄炎の検討. 第40回日本頭頸部癌学会, さいたま, 2016. 6. 10
6. 齋藤伴樹, 浜川博司, 伊達直希, 南 和宏, 坂之上朗, 高橋 豊, 小久保雅樹, 小坂恭弘: I期肺腺癌への体幹部定位放射線治療後の再燃例に対し, 胸壁合併右上葉切除を施行した一例. 第104回日本肺癌学会関西支部, 大阪, 2016. 7. 16
7. Yamashita M, Takahashi R, Kokubo M, Takayama K, Tanabe H, Sueoka M, Ishii M, Iwamoto Y, Okuuchi N, Tachibana H: A feasibility study of independent dose verification for Vero4DRT. 58th American Association of Medical Physics, Washington DC, USA, 2016. 7. 30
8. Iizuka Y, Matsuo Y, Ueki N, Takayama K, Mitsuyoshi T, Ueki K, Tanabe H, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Clinical result of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy for liver tumors using a gimbal mounted linac. 58th American Society for Radiation Oncology, Boston, USA, 2016. 9. 26
9. Ueki K, Takayama K, Iizuka Y, Kimino G, Imagumbai T, Suginoshi Y, Tei H, Kosaka Y, Inokuma T, Kokubo M: Correlation between dose-volumetric parameters and late liver dysfunction after dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy for hepatocellular carcinoma. 58th American Society for Radiation Oncology, Boston, USA, 2016. 9. 26

10. 光吉隆真, 松尾幸憲, 高山賢二, 植木奈美, 飯塚裕介, 新谷 堯, 植木一仁, 田邊裕朗, 中村光宏, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛: 肺腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾SBRTの初期治療成績. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.10.22
11. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 高山賢二, 植木奈美, 光吉隆真, 植木一仁, 田邊裕朗, 中村光宏, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛: 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾定位放射線治療の臨床成績. 第54回日本癌治療学会, 横浜, 2016.11.20
12. Yamashita M, Ishi M, Yoshida K, Okamura Y, Kokubo M: The accuracy of TPS calculation algorithm in the inhomogeneity area: a phantom study. The 29th Annual Meeting of the Japanese Society for Radiation Oncology, Kyoto, 2016.11.25
13. Narukami R, Kosaka Y, Kokubo M, Imagunbai T, Ogura K, Ueki K, Hattori T, Shinohara S, Harada H: Concurrent Lenvatinib and Radiation Therapy for Radioiodine Refractory Thyroid Cancer; A Case Report. The 29th Annual Meeting of the Japanese Society for Radiation Oncology, Kyoto, 2016.11.26
14. Ueki K, Takayama K, Iizuka Y, Kimino G, Kosaka Y, Imagumbai T, Kokubo M: Relationship between dosimetric parameters and late liver dysfunction after SBRT for HCC. The 29th Annual Meeting of the Japanese Society for Radiation Oncology, Kyoto, 2016.11.26
15. Mitsuyoshi T, Matsuo Y, Takayama K, Ueki N, Iizuka Y, Shintani T, Ueki K, Tanabe H, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: The First Report to Evaluate Clinical Outcome of Dynamic Tumor-Tracking Stereotactic Body Radiotherapy for Early Stage Lung Cancer and Oligometastatic Lung Tumors using a Gimbal-Mounted Linear Accelerator. 102nd Radiological Society of North America, Chicago, USA, 2016.11.27
16. Matsuo Y, Nagata Y, Wakabayashi M, Eba J, Ishikura S, Onishi H, Kokubo M, Karasawa K, Shioyama Y, Onimaru R, Hiraoka M: Impact of Inflammation and Sarcopenia on Outcomes after Stereotactic Body Radiotherapy for T1N0M0 Non-Small Cell Lung Cancer. 17th World Conference of Lung Cancer, Vienna, Austria, 2016.12.6
17. Sawada A, Itoh N, Imataki Y, Shintani M, Sueoka M, Taniuchi S, Kokubo M: Fabrication of 3D-Printed Shielding Block with High Accuracy for Total Body Irradiation. International Conference on Medical Physics 2016, Bangkok, Thailand, 2016.12.9
18. Nakai T, Sawada A, Tanabe H, Sueoka M, Taniuchi S, Shiinoki T, Ishihara Y, Kokubo M: Investigation of Well-Balanced kV X-Ray Imaging Conditions between Skin Dose and Image Noise. International Conference on Medical Physics 2016, Bangkok, Thailand, 2016.12.9
19. 古郷摩利子, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 佐藤悠城, 寺岡俊介, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 浜川博司, 高橋 豊, 小久保雅樹, 富井啓介: ECMOの一時的な使用により抗癌治療が可能となった肺癌の3例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2016.12.10
20. 藤本大智, 上原慶一郎, 坂之上朗, 佐藤悠城, 伊藤宗弘, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 小坂恭弘, 浜川博司, 今井幸弘, 小久保雅樹, 高橋 豊, 富井啓介: 局所進行非小細胞肺癌における化学放射線治療前後でのPD-L1発現の変化. 第57回日本肺癌学会, 福岡, 2016.12.20
21. 服部貴之, 小坂恭弘, 大塚浩二郎, 奥田千幸, 鳴神 亮, 植木一仁, 小倉健吾, 今輩倍敏行, 片上信之, 富井啓介, 小久保雅樹: 気管支癌に対し外照射と画像誘導線源治療を行った一例. 第43回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2017.2.18
22. 平林亮介, 伊藤次郎, 大塚浩二郎, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 旗智幸政, 今井幸弘, 植木一仁, 小久保雅樹, 富井啓介: Osimertinib投与中に小細胞肺癌への形質転換を認めたT790M陽性肺腺癌の一例. 第105回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2017.2.25
23. 伊藤宗洋, 藤本大智, 河内勇人, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 小倉健吾, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 富井啓介: 脳転移放射線治療後に脳浮腫を伴う症状増悪がみられラムシルマブ(RAM)とドセタキセル(DTX)併用療法を行った肺扁平上皮癌の一例. 第105回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2017.2.25
24. 小倉健吾, 小坂恭弘, 今輩倍敏行, 植木一仁, 鳴神 諒, 服部貴之, 小久保雅樹: 大きな転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療におけるmodified PTV法の定量的評価・意義. 第315回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2017.2.25

VII. 4. 6 臨床検査技術科

1. 馬場理江, 那須浩二, 川本篤彦: 拡張期成分に着目したドブラ波形分類による下肢動脈病変の評価. 第57回日本脈管学会総会, 奈良, 2016.10.14

VII. 4. 7 放射線技術科

1. Akamatsu G, Ohnishi A, Nishida H, Aita K, Sasaki M, Kohara N, Senda M: Quantification of ^{18}F -FDOPA and ^{11}C -Raclopride PET as a biomarker of Parkinson's disease. The 72nd Annual Scientific Congress of the Japanese Society of Radiological Technology, Yokohama, 2016. 4.14-17
2. 赤松 剛, 佐々木雅之, 千田道雄: FDG-PETにおけるSUVの標準化～最新技術に対する考え方と標準化の国際的動向～. 第16回日本核医学会春季大会, 大阪, 2016. 4.23-24
3. 赤松 剛: PET撮像標準プロトコールについて. 第16回日本核医学会春季大会, 大阪, 2016. 4.23-24
4. 赤松 剛: 認知症ファントム試験の判定に対する考え方と理論的背景. 第16回日本核医学会春季大会, 大阪, 2016. 4.23-24
5. 赤松 剛, 井狩彌彦, 大西章仁, 千田道雄: アミロイドPETにおけるPET画像のみを用いる定量評価方法の開発. 第11回日本分子イメージング学会総会・学術大会, 神戸, 2016. 5.28-29
6. 大西章仁, 赤松 剛, 西田広之, 相田一樹, 佐々木將博, 千田道雄: [^{11}C] メチオニンPETが有用であった脳腫瘍の2症例. 第11回日本分子イメージング学会総会・学術集会, 神戸, 2016. 5.28-29
7. Akamatsu G, Ikari Y, Ohnishi A, Nishio T, Nishida H, Yamamoto Y, Sasaki M, Senda M: Automated PET-only quantification of amyloid deposition with adaptive atlas and empirically pre-defined ROI template. 63rd Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, San Diego, 2016. 6.11-15
8. Akamatsu G, Ohnishi A, Nishida H, Ikari Y, Nishio T, Aita K, Sasaki M, Kohara N, Senda M: Effect of reconstruction conditions on quantification of ^{18}F -FDOPA and ^{11}C -Raclopride PET as a biomarker of Parkinson's disease. 63rd Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, San Diego, 2016. 6.11-15
9. Aita K, Ohnishi A, Akamatsu G, Sasaki M, Senda M: Synthesis of high specific activity [^{18}F] FDOPA using a synthesizing device with a user-configurable cassette. 63rd Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, San Diego, 2016. 6.11-15
10. 赤松 剛: 定量的分子イメージングの実現に向けたPETの最新技術. 第17回日本放射線技術学会中国・四国支部夏季学術大会, 広島, 2016. 7. 3
11. 山根祐輝, 栗山 巧, 真砂勝泰: シンチレーション光ファイバー線量計を用いたCTガイド下肺生検時の患者皮膚表面線量の検討. 第44回日本放射線技術学会秋季学術大会, さいたま, 2016.10.13-15
12. 赤松 剛, 大西章仁, 井狩彌彦, 西田広之, 相田一樹, 佐々木將博, 幸原伸夫, 千田道雄: ^{18}F -FDOPAおよび ^{11}C -Racloprideを用いた高分解能PETにおける撮像条件と定量評価方法の確立. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11. 3-5
13. 相田一樹, 木本章吾, 大瀬祐作, 趙 芫, 山岡高章, 大西章仁, 赤松 剛, 佐々木將博, 千田道雄: カセット式PET薬剤自動合成装置を用いた高比放射能 [^{18}F] FDOPAの製造. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11. 3-5
14. 守田圭伸, 竹下利貴, 松延佑将, 前畠 彬, 赤松 剛, 筒井悠治, 氷室和彦, 馬場眞吾, 佐々木雅之: PET画像における不均一性評価にmatrix sizeが及ぼす影響. 第36回日本核医学技術学会総会学術大会, 名古屋, 2016.11. 3-5

編集後記

神戸市立病院紀要第56巻（平成29年度）をお届けします。

今回の紀要の巻頭は、気管挿管に関する最近の文献（実に65編！）のエッセンスを簡潔明瞭に総説したもので、I. 集中管理室における気管挿管の危険性、II. 気管挿管の酸素化、III. ビデオ硬性挿管喉頭鏡（ビデオ喉頭鏡）、IV. 上気道エコー、最後にV. 麻酔中の困難気道管理ガイドラインという内容であり、これを熟読すれば気管挿管をめぐる世界の現状と動向が一目瞭然という読み応えのある内容でした。気道トラブルを最小限にすべく“cannot intubate and cannot oxygenate” (CICO)という最悪のシナリオを想定し、これを回避するために考案された様々な対策、対処法を理解することは、われわれ医療者にとって大変重要なことだと改めて感じ入りました。

医療研究報告では3年間にわたるダナン産婦人科小児科病棟における『体系的な新人教育プログラムの構築』プロジェクト終了2年後の変化を現地調査した内容です。ほとんどの勤務を神戸市内の医療現場で過ごしているわれわれにとって、実際に海外に赴き発展途上の医療機関の現場で医療活動、教育を支援するプロジェクトに携わるということは希有なチャンスであり、その報告は非常に興味深いものです。今回は終了2年後に現地調査したわけですが、これは農地を耕し、種をまいたあと、時を経て苗がどのように成長しているかを観察するという行

為に似て、とてもわくわくするとともにドキドキする作業だと思われます。教育というきわめて高度な人間同士の知的活動は、継承し、変遷を繰り返しつつ熟成、進化させていくことで、社会に進歩と福音をもたらします。遠くはなれたベトナムの医療の現場で、現地の医療人が『教える』姿勢から『育てる』姿勢に変化しつつあることが感じられたという著者の言葉に深い感銘を覚えました。プロジェクトの第一報は紀要54巻に掲載していますのでご参照ください。

投稿いただいた様々な職種の方々、編集会議の開催や各病院の業績集計など編集業務を行っていただいた事務局の皆様には厚く御礼を申し上げますとともに、ご多忙と思いますが、職員の皆様の紀要への更なる活発な投稿をよろしくお願いいたします。

さて、平成29年12月より地方独立行政法人神戸市民病院機構に神戸アイセンター病院が加わり市民病院機構は4病院体制となりました。

紀要がこれまで以上に市民病院群の学術的な交流の場となり、病院間や職種の垣根を超えて日頃の研究成果や課題を共有できることを祈念いたします。

神戸市立医療センター西市民病院
院長代行 中村一郎

神戸市立病院紀要投稿規程

1. 神戸市立病院紀要は、地方独立行政法人神戸市民病院機構及び先端医療センターに勤務する医療従事者の研究論文を掲載し、学会報告、その他の学術活動（前年度における業績）を広く記録し、年1回の発刊とする。
2. 投稿者は、地方独立行政法人神戸市民病院機構、及び先端医療センターに勤務する医療従事者に限る（共著はさしつかえない）。編集委員会で依頼した原稿は、この限りでない。
3. 投稿論文の内容は、他誌に未発表であり、現在投稿中ではないこと。
4. 原稿の採否は、編集委員会が決定する。また、原稿の体裁、長さ、文体などについて著者に変更を求められることがある。
なお、掲載済の原稿は返却しない。

5. 原稿の種類および原稿枚数
 - (1) 論文（総説）…………… 字数制限なし
（原著）…………… 16000字以内
（症例報告）…………… 8000字以内
（医療研究報告）…………… 16000字以内
 - (2) 医学振興事業等研究費補助による業績報告…………… 16000字以内
 - (3) 学会報告・論文発表（業績リスト）…………… 診療科ごとに提出
 - (4) CPC報告…………… 1症例2600字以内
（所定の様式を使用）

6. 執筆要領は、次による。
 - A. 論文（総説、原著、症例報告、医療研究報告）
 - (1) 執筆様式は次の通りとする。

①	論文表題（和文）	
	執筆者所属・氏名（和文）	
②	要 旨（400字以内）（和文）	
	キーワード（5コ以内）	
③	論文表題（英文）文頭のみ大文字の表記とする。	
	執筆者所属・氏名（英文）	
	※英文氏名は、名を先、姓を後（フルネーム）とする。	
④	Abstract（200語以内）（英文）	
	Key words（5コ以内）（小文字）（英文）	
⑤	本 論	
	はじめに（見出し番号は付けない）	
	…………… } 大見出し番号 I II III ~ を用いる。	
	…………… } 中 〃 1 2 3 ~ 〃	
	…………… } 小 〃 (1)(2)(3) ~ 〃	
	おわりに（必ずしも必要ない。見出し番号は付けない）	
⑥	文 献	

- (2) 原稿は、A4判用紙に34字×25行で、上下左右に約3cmの余白をとり、12ポイント以上で印字すること。数字は半角文字を用いること。
英文原稿も用紙はA4判を用い、上下左右に約3cmの余白をとること。字の大きさは12ポイントを原則として、ふさわしいピッチで、行間はダブルスペースとすること。
また、本文についてはプリントアウトしたものと同一原稿のデータを提出すること。データの形式は、本文はWordとする。
原稿中所定の用紙のほか、タイプ用紙、方眼紙、図表は、すべてA4判を使用し、写真は、手札型のものをA4判用紙に添付する。
- (3) 英文抄録は、表題、著者名、所属及び本文で構成する。本文の行間はダブルスペースとする。
- (4) 表現法については、下記の点に留意する。
 - 1) 本文の中で文献を引用する際には、引用番号は本文の引用順とし、「三輪ら¹⁻³⁾」のように右肩に番号をふる。
 - 2) 略語はできるだけ使わない。止むを得ず使う時は、初出時に正式名を記した後に（ ）内に記入する。
- (5) 図、表については、下記の点に留意する。
 - 1) 図は説明文を別紙に書くこととする。
 - 2) 図、表は説明も含め、英語とするのが望ましい。ただし、図、表が日本語の場合は説明も日本語とする。
 - 3) 挿入箇所を本文の欄外に指定する。
 - 4) 写真は白黒を原則とする。カラー写真は、編集委

- 員会の承認したものに限る。提出方法は、Excel、Word等のデータも提出すること。
- 5) 電子顕微鏡写真にはスケールを入れる。
- (6) 専門用語以外は、当用漢字、新かなづかいを用い、横書とする。
- (7) 文献の記載方法は次の書式による。（Index Medicus、医学中央雑誌に従う）

- 1) 雑誌の場合
著者名：表題、雑誌名、巻：初頁-終頁、発行年
- 2) 単行本の場合
著者名：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
- 3) 分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合
著者名：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁-終頁、発行年
- 4) 雑誌名は、その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い、ない場合はIndex Medicusあるいは「日本医学図書館協会編、日本医学雑誌名表」にあるものを用いること。
- 5) 発行年は西暦を用いること。
- 6) ページは通巻ページを用いること。
- 7) 著者名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」を付する。

- 8) 事例
 - 1) Beltramin AU, Hertzog ME: Sleep and bed-time behavior in preschool-aged children. Pediatrics 71: 153-158, 1983
 - 2) 鈴木義之: 細胞生物学からみた遺伝性酵素欠損症の病態. 日児誌 88: 405-408, 1984
 - 3) Cohen MM: The child with multiple birth defects. Raven press, New York, 1982
 - 4) 松永 英: 日本における遺伝性疾患の頻度. 遺伝相談, 日暮 眞 編, 小児科Mook32, 金原出版, 東京, 1-11, 1984
 - 5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al: CDw75. Lymphocyte typing IV:white cell differentiation antigens. In: Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al eds, Oxford University Press, New York, 109-110, 1989
- (8) 執筆者は、原稿を各施設の庶務（総務）係へ提出すること。

- B. 医学振興事業等研究費補助による業績報告
 - (1) 執筆要領は、論文(6. A参照)の執筆要領に準ずる。
 - (2) 別冊は作成しない。
- C. 学会報告・論文発表（業績リスト）
 - (1) 以下の必要記入事項があれば提出様式は自由であるが、Word形式で提出すること。診療科ごとに提出する。
《論文発表》

- ①雑誌の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：表題、雑誌名、巻：初頁-終頁、発行年
- ②単行本（分担執筆）の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁-終頁、発行年
- ③単行本（単独での執筆）の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
- 《学会報告》
発表者全員（筆頭演者から順番に記載）：表題、学会名、開催場所、発表年月日（※西暦で日にちまで記載）
- (2) 学会報告等で発表した学会での研究発表、症例報告、講演などは漏れなく投稿する。

- D. CPC報告
 - (1) 必ず所定の様式を使用する。
（所定の様式は各施設の総務係へ請求する）
 - (2) 図表を含めて2600字以内、原本とデータを提出する。
- E. その他
 - (1) 初校は、著者校正とする。
 - (2) 別冊は、20部まで無料とする。これを超える場合とカラー図版の実費は原則として著者が負担するものとする。

神戸市立病院紀要編集委員

中央市民病院 副 院 長 内 藤 泰 (委員長)

診 療 部 長 川喜田 睦 司

血 液 内 科 部 長 石 川 隆 之

循 環 器 内 科 部 長 古 川 裕

西市民病院 院 長 代 行 中 村 一 郎

診 療 部 長 富 岡 洋 海

西神戸医療センター 小 児 科 部 長 松 原 康 策

呼 吸 器 外 科 部 長 大 政 貢

先端医療振興財団 細胞療法研究開発センター 橋 本 尚 子
副 セ ン タ ー 長

(平成29年12月現在)

神戸市立病院紀要 第56巻

平成30年3月31日発行

編集 神戸市立病院紀要編集委員会

発行 神戸市中央区港島南町2丁目1-11

市民病院前ビル3階

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印刷 地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印刷所 共栄印刷株式会社